

茨城県教育財団文化財調査報告第106集

牛久北部特定土地区画整理事業 地内埋蔵文化財調査報告書(IV)

馬 場 遺 跡
行 人 田 遺 跡

平成8年3月

住宅・都市整備公団つくば開発局
財団法人 茨城県教育財団

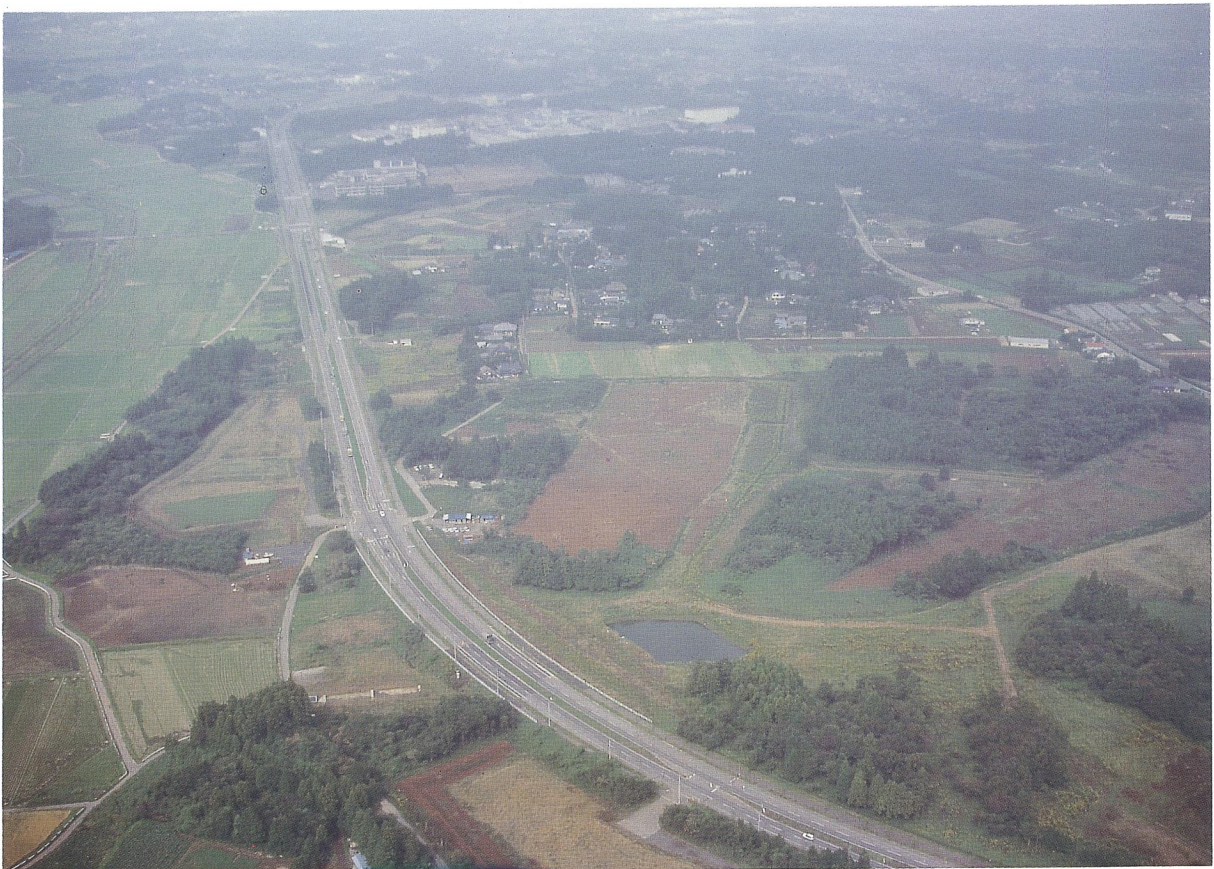
茨城県教育財団文化財調査報告第106集

牛久北部特定土地区画整理事業 地内埋蔵文化財調査報告書(IV)

ば ば 遺 跡
馬 場 遺 跡
ぎょう にん だ
行 人 田 遺 跡

平成8年3月

住宅・都市整備公団つくば開発局
財団法人 茨城県教育財団



遺跡遠景（右から東山・馬場・行人田遺跡）



古墳時代中期末から後期初頭の出土遺物

序

茨城県南部の牛久市周辺地域には、国の首都圏整備計画による「土浦・筑波業務核都市構想」、茨城県による「グレーターつくば構想」等が計画されております。

住宅・都市整備公団では、県南地域における牛久市のもつ地理的条件を勘案し、JR常磐線新駅の設置や首都圏中央連絡道の建設等の広域交通拠点性を生かした整備を行い、新駅を中心とする広域的重要拠点としての業務機能並びに都市機能を備えた新都心の形成と、良好な居住環境を有する住宅、宅地の供給を行うための土地区画整理事業を進めております。その予定地内には馬場遺跡、行人田遺跡をはじめ多くの遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け、平成2年10月から発掘調査を実施してまいりました。その成果は、既に「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）（ヤツノ上遺跡）」、「同（Ⅱ）（中久喜遺跡）」及び「同（Ⅲ）（東山遺跡）」として刊行いたしました。

本書は、平成5年度から平成6年度に調査を実施した馬場遺跡及び行人田遺跡の調査成果を収録したものであり、本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育、文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である住宅・都市整備公団には、多大な御協力をいただきましたことに対し厚くお礼申し上げます。

また、茨城県教育委員会、牛久市教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力を賜りましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成8年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

- 1 本書は、住宅・都市整備公団の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成5年4月1日から平成6年12月31日まで実施した牛久市東端穴町字下山1,165番地の1ほか所在の馬場遺跡及び牛久市東端穴町字志の立576番地所在の行人田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 馬場遺跡、行人田遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	磯 田 勇 夫 橋 本 昌 昌	昭和63年6月～平成7年3月 平成7年4月～
副 理 事 長	角 田 芳 夫 小 林 秀 文 中 島 弘 光	平成3年7月～平成6年3月 平成6年4月～ 平成7年4月～
専 務 理 事	中 島 弘 光	平成5年4月～平成7年3月
常 務 理 事	一 木 邦 彦	平成7年4月～
事 務 局 長	藤 枝 宣 一 齋 藤 紀 彦	平成4年4月～平成7年3月 平成7年4月～
埋 蔵 文 化 財 部 長	安 藏 幸 重	平成5年4月～
埋 蔵 文 化 財 部 長 代 理	河 野 佑 司	平成6年4月～
企 画 管 理 課 主 事	水 飼 敏 夫 根 本 達 夫 川 井 正 一 海老澤 稔 杉 山 秀 一	平成4年4月～ 平成7年4月～(平成6年4月～平成7年3月係長) 平成5年4月～平成6年3月 平成6年4月～ 平成4年4月～平成6年3月
経 理 課 主 事	小 幡 弘 明 鈴 木 三 郎 大 高 春 夫 飯 島 康 司 小 池 孝 作 軍 司 浩 作	平成5年4月～ 平成7年4月～(平成5年4月～平成7年3月課長代理) 平成7年4月～(平成6年4月～平成7年3月係長) 平成4年4月～平成6年3月 平成7年4月～ 平成5年4月～
調 査 課 調 査 員	安 藏 幸 重 根 本 康 弘 川 井 正 一 後 藤 哲 也 中 村 敬 治 荒 井 保 雄 松 浦 敏 土 生 朗 治 白 田 正 子	平成5年4月～ 平成5年4月～平成6年3月 平成6年4月～平成7年3月 平成5年4月～平成6年9月調査 平成5年4月～平成5年9月調査 平成5年10月～平成6年3月調査 平成5年4月～平成6年3月調査 平成6年10月～平成6年12月調査 平成6年4月～平成6年12月調査
整 理 課 副 主 事	山 本 静 男 白 田 正 子	平成7年4月～ 平成7年4月～平成8年3月整理・執筆・編集

- 3 本書で使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、施釉陶器の産地同定については文化庁文化財調査官の齋藤孝正氏、古墳時代の住居の形態については埼玉県上福岡市史編纂室係長の笹森健一氏、古墳時代の集落のあり方については埼玉県寄居町教育委員会の井上尚明氏、古墳時代中期の土器の様相については東京都中野区立歴史民俗資料館学芸員比田井克仁氏、須恵器については愛知県陶磁資料館学芸課長柴垣勇夫氏、石製模造品については栃木県埋蔵文化財センター主任篠原裕一氏に御指導をいただいた。炭化材の同定については、パリノ・サーヴェイ株式会社 に依頼した。
- 5 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。
- 6 遺跡の概略

ふりがな	うしくほくぶとくていとちくかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちようさほうこくしょ						
書名	牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書						
副書名	馬場遺跡・行人田遺跡						
巻次	(IV)						
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第106集						
編著者名	白田 正子						
編集機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029(225)6587						
発行年月日	1996(平成8)年3月31日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
ばばいせき 馬場遺跡	いばらきけんうしくし 茨城県牛久市 ひがしまみあなちようあざしもやま 東端穴町字下山 1,165番地の1 ほか	03364 -0026	36度 28分 30秒	140度 9分 8秒	19930401～ 19941231	26,212m ²	牛久北部特定土地区画整理事業に伴う調査
ぎょうにんだいせき 行人田遺跡	いばらきけんうしくし 茨城県牛久市 ひがしまみあなちようあざ 東端穴町字 したて 志の立576番地	03365 -0027	36度 25分 6秒	140度 9分 10秒		6,270m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
馬場遺跡	集落跡	縄文時代 (前期)	竪穴住居跡 土坑	2軒 1基	縄文土器片		
		古墳時代 (中期～後期)	竪穴住居跡 竪穴遺構 土坑	50軒 11基 95基	土師器, 須恵器 石製品, 鉄製品		石製模造品の原石である滑石が出土した。
		奈良・平安時代	竪穴住居跡	3軒	土師器, 須恵器		
		近世以降	炭焼窯	1基			
行人田遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡	1軒	土師器, 土製品		
		平安時代	竪穴住居跡 土坑	5軒 55基	土師器, 須恵器		粘土採掘をした土坑が確認された。
		近世	溝 水田跡	12条 1か所			水田跡が確認された。

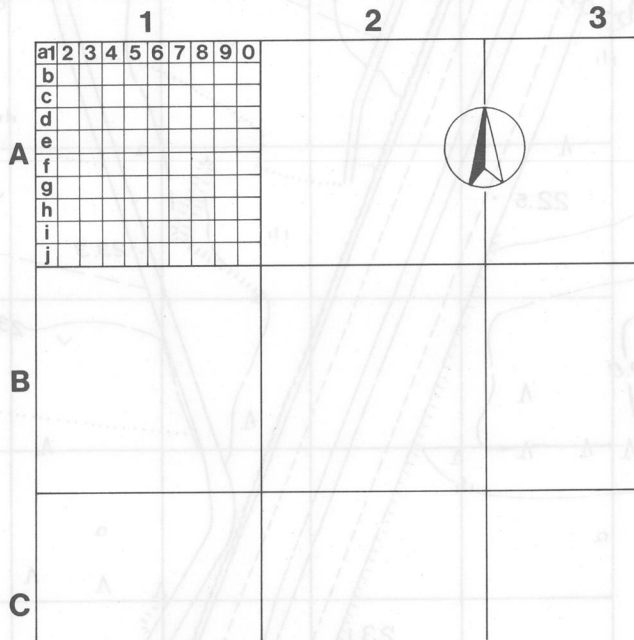
凡 例

1 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系を原点とし、馬場遺跡X = +1,080m, Y = +28,720mの交点を基準点 (A3a1) とし、行人田遺跡X = +800m, Y = +28,560mの交点を基準点 (B4a1) とした。

大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西及び南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C……, 西から東へ1, 2, 3……とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。小調査区も同様に北から南へa, b, c……j, 西から東へ1, 2, 3……0とし、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a1区」、「B2b2区」のように呼称した。

2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。



第1図 調査区呼称方法概念図

- 遺構** 住居跡-S I 竪穴遺構-S X 土坑-S K 堀・溝-SD 炭焼窯跡-S Y 水田跡-S X ピット-P₁~
- 遺物** 土器-P 土製品-D P 石器・石製品-Q 金属製品-M 拓本土器-T P
- 土層** 攪乱-K

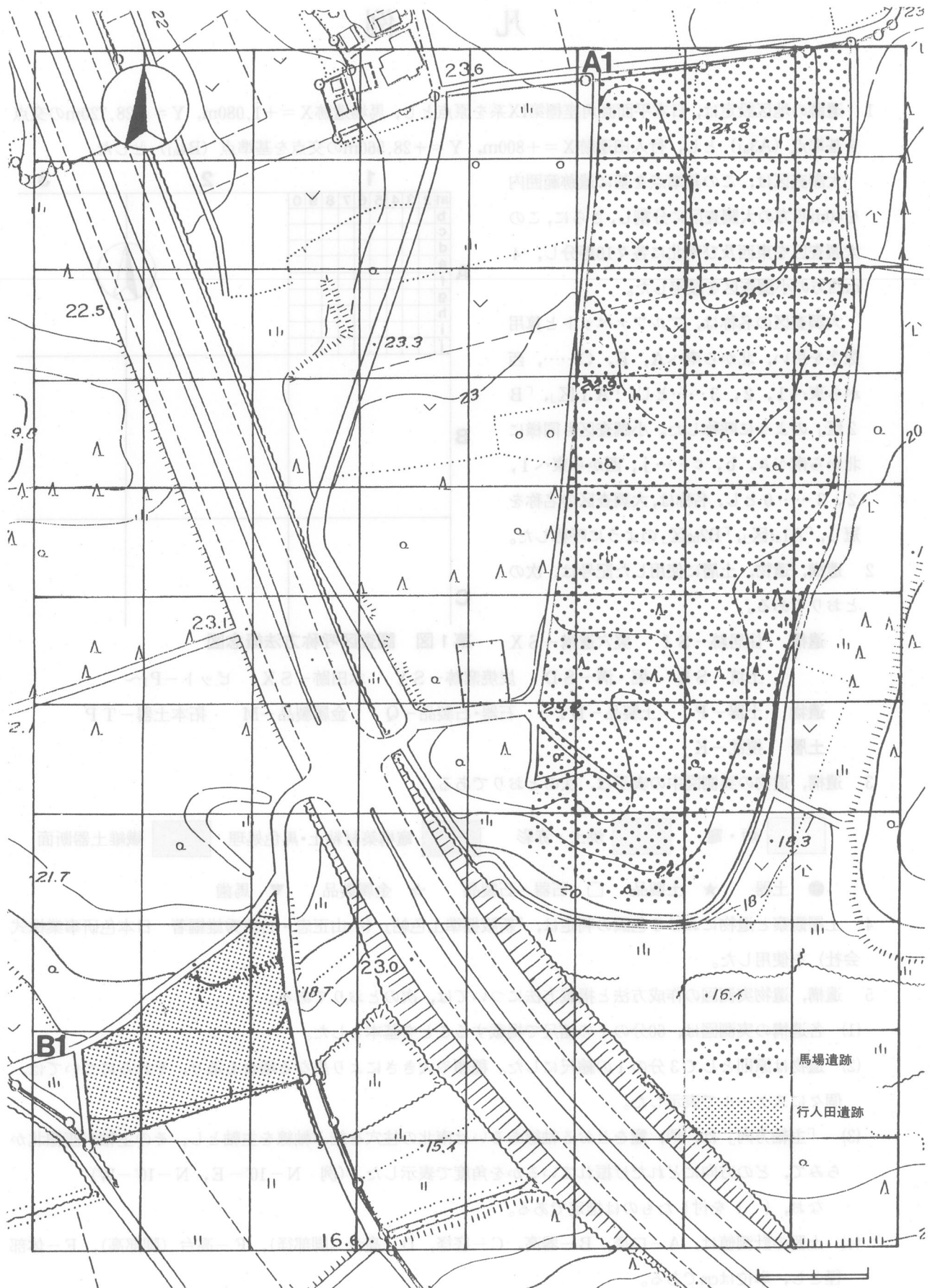
3 遺構、遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。

- 炉・竈
 焼土・赤彩
 竈構築材粘土・黒色処理
 繊維土器断面
- 土器
 ★ 土製品
 □ 石器・石製品
 ☆ 金属製品
 ▼ 馬歯

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

5 遺構、遺物実測図の作成方法と掲載方法については、次のとおりである。

- (1) 各遺構の実測図は、60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にスケールで表示した。
- (3) 「主軸方向」は、炉、竈をとおる軸線あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。(例 N-10°-E, N-10°-W)
なお、〔 〕を付したものは推定である。
- (4) 土器の計測値は、A-口径, B-器高, C-底径, D-高台(脚部径), E-高台(脚部高), F-体部径とし、単位はcmである。
なお、現存値は()で、推定値は〔 〕を付して示した。



第2図 馬場・行人田遺跡地区設定図

目 次

序

例言

凡例

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 馬場遺跡	8
第1節 遺跡の概要	8
第2節 基本層序	8
第3節 遺構と遺物	9
1 竪穴住居跡	9
(1)縄文時代の住居跡	9
(2)古墳時代の住居跡	12
(3)奈良・平安時代の住居跡	153
2 竪穴遺構	165
3 土坑	179
4 炭焼窯跡	200
5 遺構外出土遺物	202
第4節 まとめ	208
第4章 行人田遺跡	215
第1節 遺跡の概要	215
第2節 基本層序	215
第3節 遺構と遺物	217
1 竪穴住居跡	217
(1)古墳時代の住居跡	217
(2)平安時代の住居跡	219
2 土坑	240
3 溝	244
4 水田跡	251
5 遺構外出土遺物	253
第4節 まとめ	260
付章 馬場遺跡・行人田遺跡出土の炭化材・炭化種子同定報告について	261

写真図版

挿 図 目 次

第 1 図 調査区呼称方法概念図	第 36 図 第12号住居跡出土遺物実測図 ……………49
第 2 図 馬場・行人田遺跡地区設定図	第 37 図 第13号住居跡実測図 ……………50
第 3 図 周辺遺跡分布図 …………… 6	第 38 図 第13号住居跡出土遺物実測図 ……………51
第 4 図 馬場遺跡基本土層図 …………… 8	第 39 図 第14号住居跡実測図 ……………53
第 5 図 第65号住居跡実測図 …………… 9	第 40 図 第14号住居跡出土遺物実測図 ……………53
第 6 図 第65号住居跡出土遺物実測図 ……………10	第 41 図 第15号住居跡実測図 ……………55
第 7 図 第66号住居跡実測図 ……………11	第 42 図 第15号住居跡出土遺物実測図(1) ……………56
第 8 図 第66号住居跡出土遺物実測図 ……………11	第 43 図 第15号住居跡出土遺物実測図(2) ……………58
第 9 図 第 1 号住居跡実測図 ……………13	第 44 図 第16号住居跡実測図 ……………60
第 10 図 第 1 号住居跡出土遺物実測図 ……………14	第 45 図 第16号住居跡出土遺物実測図(1) ……………61
第 11 図 第 2 号住居跡実測図 ……………17	第 46 図 第16号住居跡出土遺物実測図(2) ……………62
第 12 図 第 2 号住居跡出土遺物実測図 ……………18	第 47 図 第17号住居跡実測図 ……………64
第 13 図 第 3 号住居跡実測図 ……………20	第 48 図 第17号住居跡出土遺物実測図 ……………65
第 14 図 第 3 号住居跡出土遺物実測図 ……………21	第 49 図 第18号住居跡実測図 ……………66
第 15 図 第 4 号住居跡実測図 ……………23	第 50 図 第18号住居跡出土遺物実測図 ……………66
第 16 図 第 4 号住居跡出土遺物実測図(1) ……………24	第 51 図 第19号住居跡実測図 ……………67
第 17 図 第 4 号住居跡出土遺物実測図(2) ……………25	第 52 図 第19号住居跡出土遺物実測図 ……………68
第 18 図 第 5 号住居跡実測図 ……………26	第 53 図 第20号住居跡実測図 ……………69
第 19 図 第 5 号住居跡出土遺物実測図 ……………27	第 54 図 第20号住居跡出土遺物実測図 ……………70
第 20 図 第 6 号住居跡実測図 ……………28	第 55 図 第21号住居跡実測図 ……………72
第 21 図 第 6 号住居跡出土遺物実測図 ……………29	第 56 図 第21号住居跡出土遺物実測図 ……………73
第 22 図 第 7 号住居跡実測図 ……………30	第 57 図 第22号住居跡実測図 ……………75
第 23 図 第 7 号住居跡出土遺物実測図(1) ……………31	第 58 図 第22号住居跡出土遺物実測図 ……………76
第 24 図 第 7 号住居跡出土遺物実測図(2) ……………32	第 59 図 第25号住居跡実測図 ……………77
第 25 図 第 7 号住居跡出土遺物実測図(3) ……………33	第 60 図 第25号住居跡出土遺物実測図 ……………78
第 26 図 第 8 号住居跡実測図 ……………36	第 61 図 第26・30号住居跡実測図 ……………79
第 27 図 第 8 号住居跡出土遺物実測図(1) ……………37	第 62 図 第26号住居跡出土遺物実測図 ……………81
第 28 図 第 8 号住居跡出土遺物実測図(2) ……………38	第 63 図 第27号住居跡実測図 ……………83
第 29 図 第 9 号住居跡実測図 ……………40	第 64 図 第27号住居跡出土遺物実測図 ……………84
第 30 図 第 9 号住居跡出土遺物実測図 ……………41	第 65 図 第28号住居跡実測図(1) ……………86
第 31 図 第10号住居跡実測図 ……………43	第 66 図 第28号住居跡実測図(2) ……………87
第 32 図 第10号住居跡出土遺物実測図 ……………44	第 67 図 第28号住居跡出土遺物実測図(1) ……………88
第 33 図 第11号住居跡実測図 ……………45	第 68 図 第28号住居跡出土遺物実測図(2) ……………89
第 34 図 第11号住居跡出土遺物実測図 ……………46	第 69 図 第30号住居跡出土遺物実測図 ……………91
第 35 図 第12号住居跡実測図 ……………48	第 70 図 第31号住居跡実測図 ……………91

第 71 图	第31号住居跡出土遺物実測図	92	第109图	第53号住居跡実測図	137
第 72 图	第32号住居跡実測図	92	第110图	第55号住居跡実測図	139
第 73 图	第32号住居跡出土遺物実測図	92	第111图	第55号住居跡出土遺物実測図	140
第 74 图	第34号住居跡実測図	93	第112图	第56号住居跡実測図	142
第 75 图	第34号住居跡出土遺物実測図	93	第113图	第56号住居跡出土遺物実測図(1)	143
第 76 图	第37号住居跡実測図	95	第114图	第56号住居跡出土遺物実測図(2)	144
第 77 图	第37号住居跡出土遺物実測図	96	第115图	第56号住居跡出土遺物実測図(3)	145
第 78 图	第38号住居跡実測図	98	第116图	第58号住居跡出土遺物実測図	147
第 79 图	第38号住居跡出土遺物実測図	98	第117图	第58号住居跡実測図	148
第 80 图	第39号住居跡実測図	100	第118图	第63号住居跡実測図	149
第 81 图	第39号住居跡出土遺物実測図	101	第119图	第63号住居跡出土遺物実測図	150
第 82 图	第40号住居跡実測図	103	第120图	第64号住居跡実測図	151
第 83 图	第40号住居跡出土遺物実測図	104	第121图	第64号住居跡出土遺物実測図(1)	152
第 84 图	第41号住居跡実測図	105	第122图	第64号住居跡出土遺物実測図(2)	153
第 85 图	第41号住居跡出土遺物実測図	106	第123图	第29号住居跡実測図	155
第 86 图	第42号住居跡実測図	107	第124图	第29号住居跡出土遺物実測図	156
第 87 图	第42号住居跡出土遺物実測図	108	第125图	第52号住居跡実測図	157
第 88 图	第43号住居跡実測図	110	第126图	第52号住居跡出土遺物実測図	159
第 89 图	第43号住居跡遺物出土位置図	111	第127图	第59号住居跡実測図	161
第 90 图	第43号住居跡出土遺物実測図(1)	112	第128图	第59号住居跡出土遺物実測図	162
第 91 图	第43号住居跡出土遺物実測図(2)	113	第129图	第62号住居跡実測図	163
第 92 图	第44号住居跡実測図	114	第130图	第62号住居跡出土遺物実測図	164
第 93 图	第44号住居跡出土遺物実測図	115	第131图	第 1 号竪穴遺構実測図	165
第 94 图	第46号住居跡実測図	117	第132图	第 1 号竪穴遺構出土遺物実測図	166
第 95 图	第46号住居跡出土遺物実測図(1)	119	第133图	第 2 号竪穴遺構出土遺物実測図	167
第 96 图	第46号住居跡出土遺物実測図(2)	120	第134图	第 2 号竪穴遺構実測図	167
第 97 图	第47号住居跡実測図	122	第135图	第 3 号竪穴遺構実測図	168
第 98 图	第47号住居跡出土遺物実測図	123	第136图	第 4 号竪穴遺構実測図	168
第 99 图	第48号住居跡実測図	125	第137图	第 5 号竪穴遺構実測図	169
第100图	第48号住居跡出土遺物実測図(1)	126	第138图	第 5 号竪穴遺構出土遺物実測図	169
第101图	第48号住居跡出土遺物実測図(2)	127	第139图	第 6 号竪穴遺構実測図	170
第102图	第49号住居跡実測図	129	第140图	第 6 号竪穴遺構出土遺物実測図	171
第103图	第49号住居跡出土遺物実測図	130	第141图	第 7 号竪穴遺構実測図	171
第104图	第50号住居跡実測図	131	第142图	第 7 号竪穴遺構出土遺物実測図	172
第105图	第50号住居跡出土遺物実測図(1)	133	第143图	第 8 号竪穴遺構実測図	173
第106图	第50号住居跡出土遺物実測図(2)	134	第144图	第 9 号竪穴遺構実測図	174
第107图	第51号住居跡実測図	135	第145图	第 9 号竪穴遺構出土遺物実測図	175
第108图	第51号住居跡出土遺物実測図	136	第146图	第10号竪穴遺構出土遺物実測図	175

第147図	第10号竪穴遺構実測図	176	第177図	第2号住居跡実測図	218
第148図	第11号竪穴遺構実測図	177	第178図	第2号住居跡出土遺物実測図	219
第149図	第3号土坑・出土遺物実測図	179	第179図	第1号住居跡実測図	220
第150図	第5号土坑・出土遺物実測図	180	第180図	第1号住居跡出土遺物実測図	221
第151図	第6号土坑・出土遺物実測図	181	第181図	第3号住居跡実測図	224
第152図	第20号土坑・出土遺物実測図	181	第182図	第3号住居跡出土遺物実測図	225
第153図	第26号土坑・出土遺物実測図	182	第183図	第4号住居跡実測図	227
第154図	第34号土坑・出土遺物実測図	184	第184図	第4号住居跡竈実測図	228
第155図	第39号土坑・出土遺物実測図	184	第185図	第4号住居跡出土遺物実測図	229
第156図	第41号土坑実測図	185	第186図	第5号住居跡実測図	231
第157図	第44号土坑・出土遺物実測図	186	第187図	第5号住居跡竈実測図	232
第158図	第50号土坑・出土遺物実測図	187	第188図	第5号住居跡出土遺物実測図(1)	233
第159図	第76号土坑出土遺物実測図(1)	188	第189図	第5号住居跡出土遺物実測図(2)	234
第160図	第76号土坑・出土遺物実測図(2)	189	第190図	第5号住居跡出土遺物実測図(3)	235
第161図	第78号土坑・出土遺物実測図	190	第191図	第5号住居跡出土遺物実測図(4)	236
第162図	第84号土坑実測図	191	第192図	第6号住居跡実測図	239
第163図	第93号土坑実測図	192	第193図	第6号住居跡出土遺物実測図	239
第164図	第95号土坑・出土遺物実測図	193	第194図	粘土採掘土坑群実測図	241
第165図	土坑出土遺物実測図	193	第195図	土坑実測図(1)	242
第166図	土坑実測図(1)	198	第196図	土坑実測図(2)	243
第167図	土坑実測図(2)	199	第197図	第1～11号溝実測図	245
第168図	土坑実測図(3)	200	第198図	溝土層実測図	248
第169図	第1号炭焼窯跡実測図	200	第199図	第1・2・9号溝出土遺物実測図	249
第170図	第1号炭焼窯跡出土遺物実測図	201	第200図	水田跡実測図	252
第171図	遺構外出土遺物拓影図(1)	203	第201図	水田跡土層実測図	253
第172図	遺構外出土遺物拓影図(2)	204	第202図	遺構外出土遺物拓影図(1)	255
第173図	遺構外出土遺物実測図(1)	205	第203図	遺構外出土遺物拓影図(2)	256
第174図	遺構外出土遺物実測図(2)	206	第204図	遺構外出土遺物実測図(1)	257
第175図	行人田遺跡基本土層図	215	第205図	遺構外出土遺物実測図(2)	258
第176図	行人田遺跡全図	216	第206図	遺構外出土遺物実測図(3)	259

表 目 次

表 1	馬場遺跡・行人田遺跡周辺遺跡一覧表… 7	表 5	行人田遺跡住居跡一覧表 ……240
表 2	馬場遺跡住居跡一覧表 ……177	表 6	行人田遺跡粘土採掘土坑一覧表 ……240
表 3	馬場遺跡堅穴遺構一覧表 ……178	表 7	行人田遺跡土坑一覧表 ……243
表 4	馬場遺跡土坑一覧表 ……195		

写真図版目次

P L 1	馬場遺跡完掘全景, 行人田遺跡完掘全景		37号住居跡遺物出土状況
馬場遺跡		P L 15	第37号住居跡遺物出土状況, 第38号住居跡完掘, 第38号住居跡遺物出土状況
P L 2	遺跡全景, 第1号住居跡完掘, 第2号住居跡完掘	P L 16	第39号住居跡完掘, 第40号住居跡完掘, 第40号住居跡遺物出土状況
P L 3	第3号住居跡完掘, 第4号住居跡完掘, 第4号住居跡遺物出土状況	P L 17	第41号住居跡完掘, 第41号住居跡遺物出土状況, 第42号住居跡遺物出土状況
P L 4	第5号住居跡遺物出土状況, 第6号住居跡遺物出土状況, 第7号住居跡貯蔵穴遺物出土状況	P L 18	第43号住居跡完掘, 第46号住居跡完掘, 第46号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
P L 5	第8号住居跡完掘, 第8号住居跡遺物出土状況, 第9号住居跡完掘	P L 19	第48号住居跡完掘, 第48号住居跡遺物出土状況, 第48号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
P L 6	第9号住居跡遺物出土状況, 第9号住居跡竈完掘, 第10号住居跡完掘	P L 20	第49号住居跡遺物出土状況, 第50号住居跡完掘, 第50号住居跡遺物出土状況
P L 7	第11号住居跡完掘, 第11号住居跡遺物出土状況, 第12号住居跡完掘	P L 21	第50号住居跡遺物出土状況, 第51号住居跡完掘, 第51号住居跡遺物出土状況
P L 8	第13号住居跡完掘, 第13号住居跡竈袖部遺物出土状況, 第13号住居跡竈遺物出土状況	P L 22	第53号住居跡完掘, 第55号住居跡完掘, 第56号住居跡完掘
P L 9	第14号住居跡完掘, 第15号住居跡完掘, 第16号住居跡完掘	P L 23	第56号住居跡遺物出土状況, 第58号住居跡完掘, 第63号住居跡遺物出土状況
P L 10	第16号住居跡焼土・遺物出土状況, 第17号住居跡遺物出土状況 第18号住居跡完掘	P L 24	第64号住居跡完掘, 第64号住居跡遺物出土状況, 第65号住居跡遺物出土状況
P L 11	第19号住居跡遺物出土状況, 第20号住居跡遺物出土状況, 第21号住居跡完掘	P L 25	第29号住居跡完掘, 第29号住居跡竈完掘・遺物出土状況, 第52号住居跡完掘
P L 12	第22号住居跡完掘, 第25号住居跡完掘, 第27号住居跡完掘	P L 26	第52号住居跡竈遺物出土状況, 第59号住居跡完掘, 第59号住居出入口ピットセクション
P L 13	第27号住居跡遺物出土状況, 第28号住居跡完掘, 第31号住居跡遺物出土状況	P L 27	第59号住居跡竈袖截ち割り, 第62号住居跡完掘, 第1号堅穴遺構完掘
P L 14	第32号住居跡完掘, 第37号住居跡完掘, 第37号住居跡遺物出土状況	P L 28	第1号堅穴遺構遺物出土状況, 第7号堅穴

- 遺構遺物出土状況, 第8号竖穴遺構完掘
- P L 29 第9号竖穴遺構完掘, 第10号竖穴遺構遺物出土状況, 第11号竖穴遺構完掘
- P L 30 第5号土坑遺物出土状況, 第26号土坑遺物出土状況, 第78号土坑遺物出土状況
- P L 31 第76号土坑遺物出土状況, 第76号土坑遺物出土状況, 第95号土坑遺物出土状況
- P L 32 第65・1・2号住居跡出土遺物
- P L 33 第2・3・4号住居跡出土遺物
- P L 34 第4・5・6・7号住居跡出土遺物
- P L 35 第7・8・9号住居跡出土遺物
- P L 36 第8・9号住居跡出土遺物
- P L 37 第10・11・12・13号住居跡出土遺物
- P L 38 第11・13・14・15号住居跡出土遺物
- P L 39 第15・16号住居跡出土遺物
- P L 40 第16・17・18号住居跡出土遺物
- P L 41 第19・20・21・22・26号住居跡・第1号竖穴遺構出土遺物
- P L 42 第26・27・28号住居跡出土遺物
- P L 43 第28・31・37・39号住居跡出土遺物
- P L 44 第37・38・39・40・41・42・43号住居跡出土遺物
- P L 45 第43・44・46号住居跡出土遺物
- P L 46 第46・47号住居跡出土遺物
- P L 47 第47・48号住居跡出土遺物
- P L 48 第48・50・51号住居跡出土遺物
- P L 49 第51・55・56号住居跡出土遺物
- P L 50 第58・63・64号住居跡出土遺物
- P L 51 第29・50・52・59・62号住居跡出土遺物
- P L 52 第64号住居跡, 第5・9号竖穴遺構, 第3・5・24・26・28号土坑, 遺構外出土遺物
- P L 53 第26・28・29・34・44・46・71・76・86号土坑, 遺構外出土遺物
- P L 54 第3・21・59号住居跡, 第76・78・95号土坑, 炭烧窯跡, 遺構外出土遺物
- P L 55 第1・10・16・28・43・46・48・56号住居跡, 第1号竖穴遺構出土遺物
- P L 56 第7・8・15・20・22・25・39・56号住居跡, 遺構外出土遺物
- P L 57 第7・12・16・41・56・62・65・66号住居跡, 第8号竖穴遺構, 遺構外出土遺物
- P L 58 遺構外出土遺物
- 行人田遺跡**
- P L 59 第1号住居跡完掘, 第1号住居跡竈遺物出土状況, 第1号住居跡出入口ピット
- P L 60 第1号住居跡竈完掘, 第2号住居跡完掘, 第3号住居跡完掘
- P L 61 第4号住居跡完掘, 第4号住居跡竈遺物出土状況, 第4号住居跡壁柱穴
- P L 62 第5号住居跡完掘, 第5号住居跡竈遺物出土状況, 第6号住居跡完掘
- P L 63 粘土採掘土坑群, 粘土採掘土坑遺物出土状況, 第1号溝完掘
- P L 64 第2号溝完掘, 水田跡
- P L 65 第1・2・3号住居跡出土遺物
- P L 66 第3・4・5号住居跡出土遺物
- P L 67 第5号住居跡出土遺物
- P L 68 第5・6号住居跡, 第1・9号溝出土遺物
- P L 69 第1・4・5号住居跡, 第1号溝, 遺構外出土遺物
- P L 70 遺構外出土遺物
- P L 71 遺構外出土遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

茨城県が進めている「グレーターつくば構想」は、牛久市、土浦市、つくば市の三市を業務核都市として100万田園都市圏の一翼を担うことが期待されており、牛久市の北部地区に「竜ヶ崎・牛久都市計画事業牛久北部特定土地区画整理事業」が計画された。この事業は、業務機能と都市的機能を備えた良好な居住環境を有した市街地の形成を目指すものである。

これにより、昭和63年10月13日、住宅・都市整備公団つくば開発局は、茨城県教育委員会に対し、この事業計画地区である牛久市北部地域における埋蔵文化財の有無の照会をした。これを受け、茨城県教育委員会は、同月26日から牛久市教育委員会と埋蔵文化財の有無の確認とその取り扱いについての協議を行い、平成元年2月7日、表面観察及び試掘調査を実施した結果、馬場遺跡ほかヤツノ上遺跡など数遺跡が存在することを確認し、住宅・都市整備公団あてに回答した。平成4年1月29日から、住宅・都市整備公団と茨城県教育委員会は、埋蔵文化財の取り扱いについて、文化財保護の立場から慎重な協議を重ねた結果発掘調査による記録保存の措置を講ずることにした。そこで、茨城県教育委員会は、住宅・都市整備公団に、埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団から遺跡発掘調査の依頼を受け、平成2年9月29日、牛久北部特定土地区画整理事業地内の埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び、同年10月1日からヤツノ上遺跡の発掘調査を開始した。そして、平成5年4月1日、住宅・都市整備公団と馬場遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び、同年4月から馬場遺跡1区の発掘調査を、翌年4月1日から馬場遺跡2区、行人田遺跡の発掘調査を実施することとなった。

第2節 調査経過

馬場遺跡、行人田遺跡の発掘調査は、東山遺跡1区・3区の調査と併せて、平成5年4月1日から平成6年12月31日までの1年9か月にわたって、馬場遺跡1区 [19,269m²]，馬場遺跡2区 [6,943m²]，行人田遺跡 [6,270m²] (第2図)の順に実施した。以下、調査経過の概要について月ごとに記述する。

平成5年度－馬場遺跡1区の調査

- 4月7日に現地踏査を行い、発掘調査をするための諸準備を行った。9日から作業を開始し、休憩所の設置及び遺跡内の清掃を実施した。12日から畑地部分のグリット試掘調査を開始した。
- 5月7日に畑地部分の試掘調査が終了した。10日から山林部分の業者委託による立木の伐開、焼却作業を開始し、これと並行して19日からは、山林部分のグリット試掘を行った。
- 6月グリット試掘によって、竪穴住居跡、土坑を確認した。28日から、重機による表土除去及び遺構確認作業を開始した。
- 7月引き続き、東山遺跡の遺構調査と並行して、重機による表土除去及び遺構確認作業を行った。
- 8月遺構確認作業の結果、竪穴住居跡35軒、土坑65基を確認した。18日から、方眼杭打ち測量（茨城県技術公社）を実施した。

- 9～10月 東山遺跡の調査を実施するため、当遺跡の調査を一時中断した。
- 11 月 11日に現場倉庫及び休憩所を当遺跡に移設し、12日から遺構調査を再開した。
- 12 月 東山遺跡包含層の調査と並行して当遺跡の遺構調査を進め、竪穴住居跡13軒及び土坑9基の調査を終了した。
- 1 月 引き続き遺構調査を進め、これまでに19軒の竪穴住居跡の調査を終了した。17日～27日までは、馬場遺跡2区の業者委託による立木の伐開、焼却作業を実施した。
- 2 月 3日～8日には、馬場遺跡2区の一部について、遺構確認のためのグリット試掘調査を行い、24日から28日まで重機による表土除去を実施した。1区の遺構調査ではこれまでに竪穴住居跡28軒及び土坑42基の調査を終了した。
- 3 月 3日には馬場遺跡1区の調査も概ね終了し、6日に東山遺跡1区と併せて現地説明会を開催した。8日から補足調査を行いながら、15日には航空写真撮影を実施した。竪穴住居跡35軒、土坑65基及び炭焼窯跡1基の調査を終了し、25日に馬場遺跡1区の調査を完了した。

平成6年度—馬場遺跡2区、行人田遺跡の調査

- 4 月 7日に現地踏査を行い、発掘調査をするための諸準備を行った。11日から東山遺跡と併せて、遺跡内の清掃を行った。18日からは東山遺跡3区の調査を実施するために、当遺跡の調査は一時中断した。
- 5 月 引き続き、東山遺跡3区の調査を実施するため、当遺跡の調査は一時中断した。
- 6 月 1日、2日には、昨年2月に表土除去が終了している馬場遺跡2区の一部について遺構確認調査を行った。6日からは、馬場遺跡2区の残りの部分と行人田遺跡の業者による伐開、焼却作業を開始し、15日に終了した。16日から30日まで馬場遺跡2区の試掘調査を、29日からは行人田遺跡の試掘調査を行った。
- 7 月 行人田遺跡の試掘調査は8日に終了した。4日から12日には馬場遺跡2区の重機による表土除去及び遺構確認作業を行い竪穴住居跡31軒、土坑29基を確認した。東山遺跡の調査終了を待って13日に現場倉庫を馬場遺跡に移設し、15日から馬場遺跡の遺構調査を開始した。28日からは行人田遺跡の重機による表土除去を行った。
- 8 月 11日に行人田遺跡の表土除去を終了し、22日から30日まで遺構確認作業を行い、竪穴住居跡、土坑及び溝を確認した。馬場遺跡の遺構調査では、竪穴住居跡13軒、土坑17基の調査を終了した。
- 9 月 5日に、行人田遺跡の方眼杭打ち測量（茨城県技術公社に委託）を実施した。馬場遺跡は、引き続き遺構調査を実施し、これまでに竪穴住居跡19軒、土坑29基の調査を終了した。
- 10 月 馬場遺跡は13日に発掘終了後の航空写真撮影を実施し、19日にはすべての調査を終了した。行人田遺跡は4日に駐車場碎石敷設、12日に馬場遺跡から現場倉庫やトイレの移設を行い、13日から調査を開始した。14日、17日に方眼杭打ち測量（茨城県技術公社に委託）を実施した。
- 11 月 行人田遺跡の遺構調査を進めた。
- 12 月 行人田遺跡の遺構調査を概ね終了し、8日に発掘終了後の航空写真撮影を実施した。10日に馬場遺跡及び行人田遺跡の現地説明会を開催した。以後、行人田遺跡の補足調査を行いながら撤収準備をし、22日にすべての調査を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

馬場遺跡は牛久市東狹穴町字下山1,165番地の1ほかに、行人田遺跡は牛久市東狹穴町字志の立576番地に所在し、牛久市役所の北北西約4kmのところの位置している。

遺跡のある牛久市は、茨城県南部の中ほどに位置し、東は江戸崎町、西は荃崎町、南は竜ヶ崎市、北は阿見町、土浦市及びつくば市と境を接している。市域は、東西約15km、南北約10km、面積約59.00km²を擁している。市の西側には、国道6号線とJR常磐線が平行してほぼ南北に通じ、中央部には国道408号線が東西に走っている。

牛久市の地形は、標高25～28mの洪積台地である稲敷台地と、小野川や乙戸川、桂川水系の沖積低地とからなっている。稲敷台地には、小野川や乙戸川、桂川とその支流が入り込み、台地は複雑な地形となっている。小野川はつくば市を水源とし、市のほぼ中央部を北西から南東に流れている。市の南東端で小野川に合流する乙戸川は土浦市の乙戸沼を水源とし、阿見町を流れて本市東部に入り桂川を併せている。桂川、乙戸川を併せた小野川は、大きく北東に湾曲し、霞ヶ浦に流入している。市の西端には牛久沼が形成されている。

稲敷台地は、土浦市、竜ヶ崎市、江戸崎町を結ぶ三角地帯の中にその大部分が入り、台地の東端は東村阿波崎付近にある。台地の地層は、第四紀洪積世古東京湾時代に堆積した成田層が基盤層となり下部から成田層下部、成田層上部、竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層の順で堆積している。堆積状況は、水平で単調であり、褶曲や断層はみられない。

馬場遺跡は、小野川左岸から北東側に入り込む小支谷に挟まれた標高20～24mの舌状台地の東部に立地している。遺跡のある台地と小支谷の比高は2～6mであり、調査前の現況は畑及び山林である。行人田遺跡は、小野川の後背湿地が丘陵の奥深く入り込む入口付近に位置する標高16～20mの台地上にあり、馬場遺跡の200m程南西側に位置している。調査前の現況は山林であり、南側の水田面との比高は1～5mである。

注・参考文献

茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 竜ヶ崎』1987年 12月

茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 佐原』1988年 12月

蜂須紀夫 『茨城県 地学のガイド』 1986年 11月

第2節 歴史的環境

馬場遺跡〈1〉及び行人田遺跡〈2〉が所在する地域は、大小の河川、低地、台地と変化に富んだ自然環境の中で昔から人々の生活が営まれており、数多くの遺跡が残っている。特に、牛久沼周辺や小野川、乙戸川水系によって形成された台地上には、旧石器時代から中世までの遺跡が多数分布している。ここでは、当地域の主な遺跡について時代をおって述べることにする。

旧石器時代の遺跡は、中久喜遺跡⁽¹⁾、西ノ原遺跡⁽²⁾があり、ナイフ形石器や尖頭器等が出土している。

縄文時代の遺跡は、牛久市の守子橋遺跡⁽³⁾、ヤツノ上遺跡⁽⁴⁾、東山遺跡⁽⁵⁾、荃崎町の下大井遺跡⁽⁶⁾、大井遺跡⁽⁷⁾、土浦市の沖新田道祖神前遺跡⁽⁸⁾、塚下遺跡⁽⁹⁾等がある。守子橋遺跡、下大井

遺跡、大井遺跡は、小野川沿いの右岸台地縁辺部に、ヤツノ上遺跡、東山遺跡は、小野川左岸から入り込む小支谷の東側の台地上に位置している。ヤツノ上遺跡では、縄文時代後・晩期の竪穴住居跡5軒が確認され、土器片とともに同時期の土偶が出土している。沖新田道祖神前遺跡は乙戸川右岸台地縁辺部に、塚下遺跡は乙戸川左岸台地縁辺部にあり対峙している。牛久市奥原町の小野川と乙戸川とが合流する左岸台地縁辺部には、中期から後期にかけての集落跡である奥原遺跡(出戸地区)⁽⁷⁾があり、竪穴住居跡18軒、土坑42基が確認されている。牛久市桂町の乙戸川支流の桂川左岸台地縁辺部にある赤塚遺跡⁽⁸⁾は、竪穴住居跡20軒、土坑85基が確認されており、この地域の縄文時代中期の代表的な集落跡である。牛久沼から入り込む小支谷を臨む台地上には、中期から晩期の城 中貝塚^{(9) (10)}をはじめとして数多くの遺跡が存在している。

弥生時代の遺跡は、縄文土器片とともに弥生土器片の散布がみられる小野川右岸台地縁辺部に位置する坂本遺跡<12>がある。小野川とその支流乙戸川の合流点左岸に位置する奥原町の天王峯遺跡⁽¹²⁾の二次調査では、併せて21軒の弥生時代後期の竪穴住居跡が確認されている。

古墳時代の遺跡は、今回報告する馬場遺跡のほか、牛久市の中久喜遺跡、ヤツノ上遺跡、東山遺跡、中下根遺跡<13>、梨の木遺跡<14>、琴塚遺跡<15>、宮の台遺跡<16>、奥原遺跡、すかき台遺跡、源臺遺跡、天王峯遺跡、土浦市の向原遺跡、鳥山遺跡、竜ヶ崎市の平台遺跡、長峰遺跡、稲敷郡阿見町の中根遺跡<17>、宮脇遺跡、阿見東遺跡等がある。

これらの遺跡を時期別にみると、古墳時代前期の遺跡は、すかき台遺跡、奥原遺跡、向原遺跡、鳥山遺跡等がある。小野川と乙戸川の合流する左岸台地縁辺部に位置する奥原町のすかき台遺跡⁽¹⁴⁾では、竪穴住居跡9軒、同じく奥原遺跡(姥神地区)⁽⁷⁾では、竪穴住居跡28軒、方形周溝墓3基が確認されている。乙戸川左岸台地上に位置する久野町の源臺遺跡⁽¹⁵⁾からは、5基の方形周溝墓、1基の円形周溝墓が確認されている。花室川の南にある北東から南西に延びる台地上に位置する向原遺跡⁽¹⁶⁾からは、竪穴住居跡61軒が確認されている。鳥山遺跡⁽¹⁷⁾から同時期の竪穴住居跡が16軒確認されており、そのうち11軒の竪穴住居跡内から勾玉、管玉の未製品が大量に出土していることから、玉造工房跡と考えられている。

古墳時代中期の遺跡をみてみると、牛久市中根町付近の小野川、乙戸川水系の小支谷によって開析された台地上には、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡、中下根遺跡、西ノ原遺跡、隼人山遺跡<18>があり、広範囲にわたって古墳時代中期後半の集落跡が形成されている。ヤツノ上遺跡では竪穴住居跡29軒、中久喜遺跡では竪穴住居跡42軒が確認された。当遺跡の谷津を挟んだ東側の台地上にある東山遺跡では、69軒の竪穴住居跡が確認された。西ノ原遺跡では竪穴住居跡15軒、調査中の隼人山遺跡では現在のところ31軒の竪穴住居跡が確認されている。阿見町北西部の清明川によって開析された台地上に位置する宮脇遺跡(第II期)⁽¹⁸⁾からは、同時期の竪穴住居跡23軒が確認されている。宮脇遺跡の東側に位置する阿見東遺跡⁽¹⁹⁾からは、石製模造品が多数出土しており、石製品工房跡と考えられている。竜ヶ崎市の長峰遺跡⁽²⁰⁾、平台遺跡⁽²¹⁾からは、古墳時代中期前半の集落跡が確認されている。

古墳時代後期の遺跡は、西ノ原遺跡、天王峯遺跡、奥原遺跡等がある。西ノ原遺跡では竪穴住居跡5軒、天王峯遺跡では竪穴住居跡2軒が確認されている。

古墳は、集落に付随するように、茎崎町の下大井古墳群<19>、阿見町の内記古墳群<20>、実穀古墳群、牛久市猪子町の道山古墳群<21>、宮坂古墳<22>、愛宕脇古墳<23>がある。なかでも9基からなる道山古墳群は小野川に流れる一支流に面した標高20mの台地上に造営されており、第3・4・5号墳からは、直刀が出土している。これらの古墳は、いずれも6世紀後半から7世紀前半のものである。

奈良・平安時代の遺跡は、今回報告の行人田遺跡のほか、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡、奥原遺跡等がある。こ

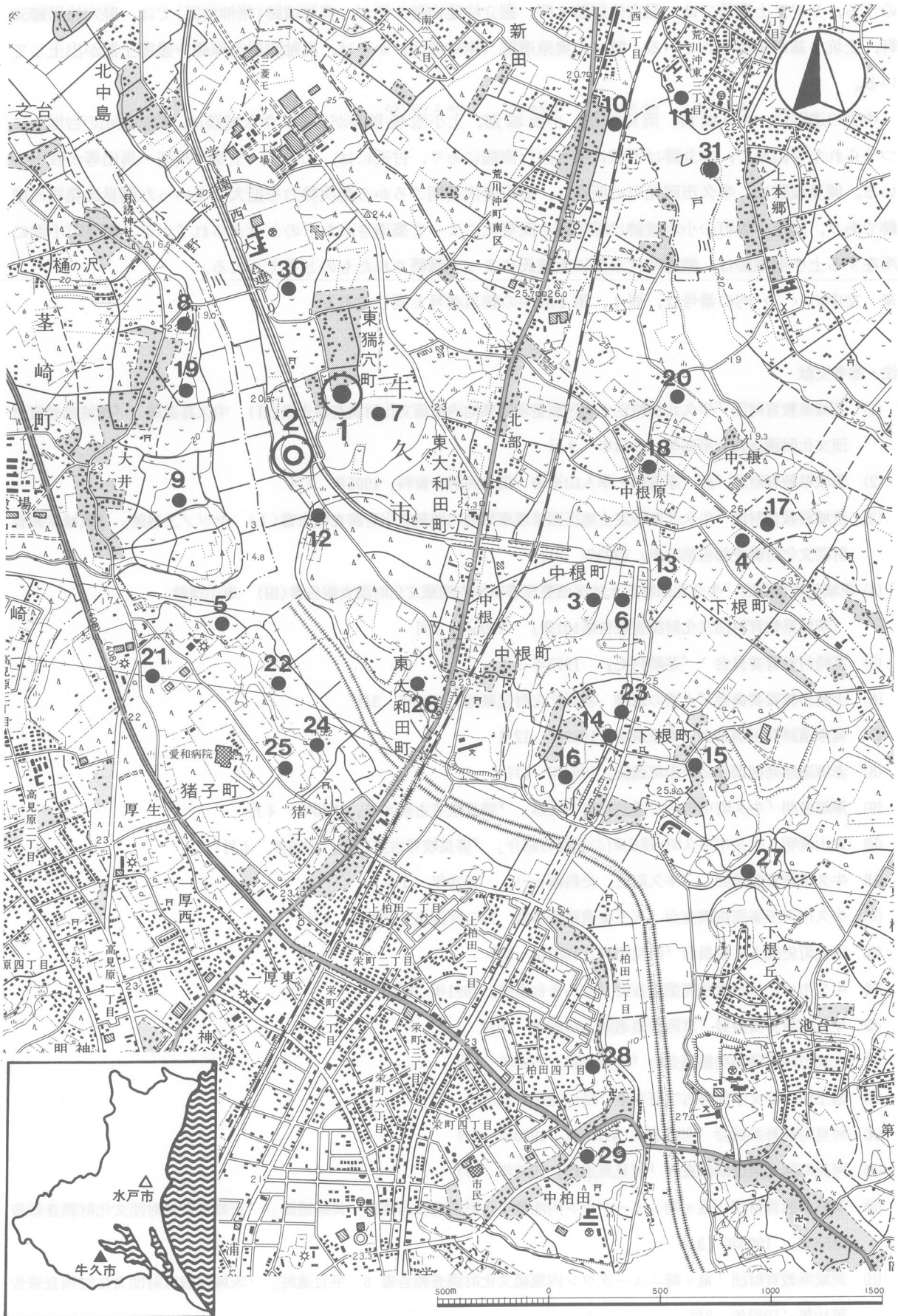
のうち、ヤツノ上遺跡では、竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡2棟が、奥原遺跡(姥神地区)では、竪穴住居跡56軒、土坑2基が確認されている。特に、奥原遺跡(姥神地区)からは、灰釉陶器宝珠硯や墨書土器が出土している。

中世の遺跡は、^{うしくじょう}牛久城跡、^{おかみじょう}岡見城跡、^{おきかじょう}小坂城跡、^{かみこいけじょう}上小池城跡等がある。牛久城跡は、標高20mの台地上につくられた平山城で、本丸跡は舌状に突き出た南端にあり、付近には、二の丸・土塁・柵型・馬出等が残っている。岡見城跡は、牛久市岡見町に所在し、室町時代初期ごろから漸次勢力を拡大していった岡見氏発祥の城跡であり、同市小坂町の小坂城跡は戦国期に岡見氏によって築造されたものと考えられている。阿見町小池に所在する上小池城跡は、戦国時代末期に土岐氏によって構築されたものと考えられる。

※ 文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図中の該当番号と同じである。

注・参考文献

- (1) 茨城県教育財団「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(II) 中久喜遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第86集』1994年 9月
- (2) 茨城県教育財団『西ノ原遺跡・隼人山遺跡 現地説明会資料』1995年 1月
- (3) 茨城県教育財団「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(I) ヤツノ上遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第81集』1993年 3月
- (4) 茨城県教育財団「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(III) 東山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第101集』1995年 9月
- (5) 荃崎村教育委員会『荃崎村史』1973年 3月
- (6) 土浦市教育委員会『土浦の遺跡 埋蔵文化財包蔵地』1984年 3月
- (7) 奥原遺跡発掘調査会『奥原遺跡』1989年 12月
- (8) 赤塚遺跡発掘調査会『赤塚遺跡』1984年 4月
- (9) 澤畑俊明「牛久町中の台C遺跡採集の土器」『婆良岐考古第8号』1986年 4月
- (10) 青山俊明「牛久市牛久町・遠山町の遺跡の紹介」『婆良岐考古第10号』1988年 4月
- (11) 牛久市教育委員会『牛久町史 史料編(一)』1979年 1月
- (12) 牛久市天王峯発掘調査会『天王峯遺跡報告書 第二次調査』1988年 4月
- (13) 阿見町史編さん委員会『阿見町史』1983年 3月
- (14) 牛久市すかき台遺跡発掘調査会『すかき台遺跡』1991年 8月
- (15) 牛久市教育委員会『常陸源臺遺跡』1989年 10月
- (16) 土浦市向原遺跡発掘調査会『向原遺跡』1987年 3月
- (17) 国土館大学文学部考古学研究室『烏山遺跡』1988年 3月
- (18) 阿見町教育委員会『宮脇遺跡(第II期)』1990年 3月
- (19) 阿見町阿見東遺跡調査会『阿見東遺跡』1992年 5月
- (20) 茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書19 長峰遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第58集』1990年 3月
- (21) 茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書 8 平台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第19集』1983年 3月
- (22) 小坂城跡発掘調査会『小坂城跡』1979年 12月



第3図 周辺遺跡分布図

表1 馬場遺跡・行人田遺跡周辺遺跡一覧表

図中 番号	遺 跡 名	県 遺跡 番号	時 代					図中 番号	遺 跡 名	県 遺跡 番号	時 代						
			旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 良 ・ 平 安				近 世	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 良 ・ 平 安	近 世
1	馬 場 遺 跡	(当遺跡)		○		○	○		17	中 根 遺 跡	5703				○		
2	行人田遺跡	(当遺跡)				○	○		18	隼人山遺跡					○	○	
3	中久喜遺跡		○			○	○		19	下大井古墳	5730				○		
4	西ノ原遺跡		○			○			20	内記古墳群	5702				○		
5	守子橋遺跡	2794		○					21	道山古墳群	1706				○		
6	ヤツノ上遺跡			○		○	○		22	宮坂古墳	3368				○		
7	東山遺跡			○		○	○		23	愛宕脇古墳	3372				○		
8	下大井遺跡	2811		○					24	中宿遺跡	3369				○		
9	大井遺跡	2808		○					25	古屋敷遺跡	3375				○		
10	沖新田道祖神前遺跡	5241		○		○			26	根柄遺跡	3371				○		
11	塚下遺跡	5240		○		○			27	水落下遺跡	3378				○		
12	坂本遺跡	3366		○	○				28	権現山上池遺跡	3380		○		○		
13	中下根遺跡					○	○		29	出し山遺跡	3381		○		○		
14	梨の木遺跡	3373				○			30	大久保遺跡	3363				○		
15	琴塚遺跡	3377				○			31	於山遺跡	5701		○		○		
16	宮の台遺跡	3376				○											

第3章 馬場遺跡

第1節 遺跡の概要

馬場遺跡は、牛久市北西部、小野川左岸から北東方向に入り込む支谷によって挟まれた標高20～24mの舌状台地上にあり、古墳時代を中心に、縄文時代、奈良・平安時代の複合遺跡である。現状は、畑と山林であり、面積は、26,212㎡である。当遺跡の谷津を挟んだ東側には東山遺跡、200m程南西には行人田遺跡がある。

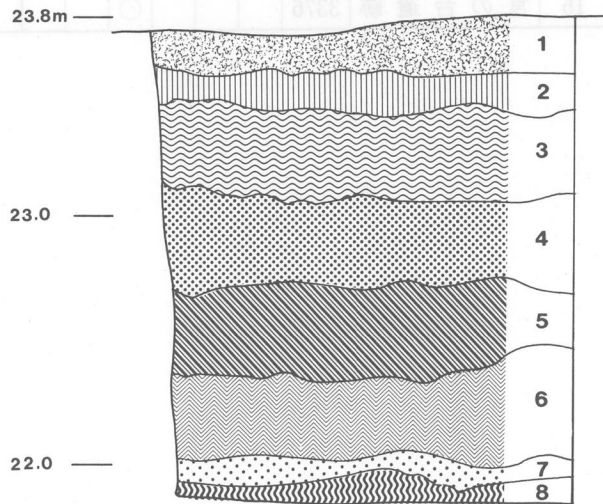
今回の調査によって縄文時代の竪穴住居跡2軒、古墳時代中期の竪穴住居跡49軒、竪穴遺構11基、奈良・平安時代の竪穴住居跡4軒が確認された。その他に土坑93基、炭焼窯跡1基が確認されている。

遺物は、遺物収納箱（60×40×20cm）に146箱出土している。縄文時代の出土遺物は、早期から前期の縄文土器片、石鏃及び土製塊状耳飾りである。古墳時代の出土遺物は、土師器の坏、埴類、高坏、壺、甗、埴、鉢及び須恵器の坏、坏蓋、高坏、甗並びに石製品の石製模造品、砥石そして鉄製品の鉄鏃、刀子である。奈良・平安時代の出土遺物は、須恵器の坏、坏蓋、甗、甗及び土師器の甗である。

第2節 基本層序

調査区域北側台地平坦部（Z4a1区）にテストピットを設定した。深さ2.0mまで掘り下げ、第4図に示すような土層の堆積状況を確認した。

- 第1層 厚さ20cmの暗褐色の耕作土である。
- 第2層 厚さ15cmの褐色のソフトローム層への漸移層である。
- 第3層 厚さ35cmの褐色のソフトローム層である。粘性がややある。
- 第4層 厚さ40cmの褐色のハードローム層である。
- 第5層 厚さ40cmの明褐色のハードローム層である。黒色粒子を少量含んでいる。
- 第6層 厚さ30cmの褐色のハードローム最下層である。第5層よりも硬質であり粘性も強い。赤色パミス、黒色粒子を少量含んでいる。
- 第7層 厚さ10cmの明褐色土で、粘土層への漸移層である。粘性、締まり共に強い。
- 第8層 厚さ10cmの黄褐色の粘土層で、極めて粘性、締まりが強い。



第4図 馬場遺跡基本土層図

遺構は、第1層下面及び第2層上面でプランが確認され、第2層から第3層にかけて掘り込んでいる。

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡2軒、古墳時代の竪穴住居跡49軒、奈良・平安時代の竪穴住居跡4軒を確認した。以下、確認した55軒の竪穴住居跡と出土した遺物について記載する。

(1) 縄文時代の住居跡

第65号住居跡 (第5図)

位置 調査区の南部, F2j9区。

規模と平面形 長軸3.46m, 短軸3.33mの方形である。

主軸方向 N-70°-W

壁 壁高は10~18cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, よく踏み固められている。南西側の一部は木根による攪乱を受けている。

ピット 確認されなかった。

炉 ほぼ中央部に位置し, 長径60cm, 短径50cmの楕円形で, 床を5cm掘り込んだ地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

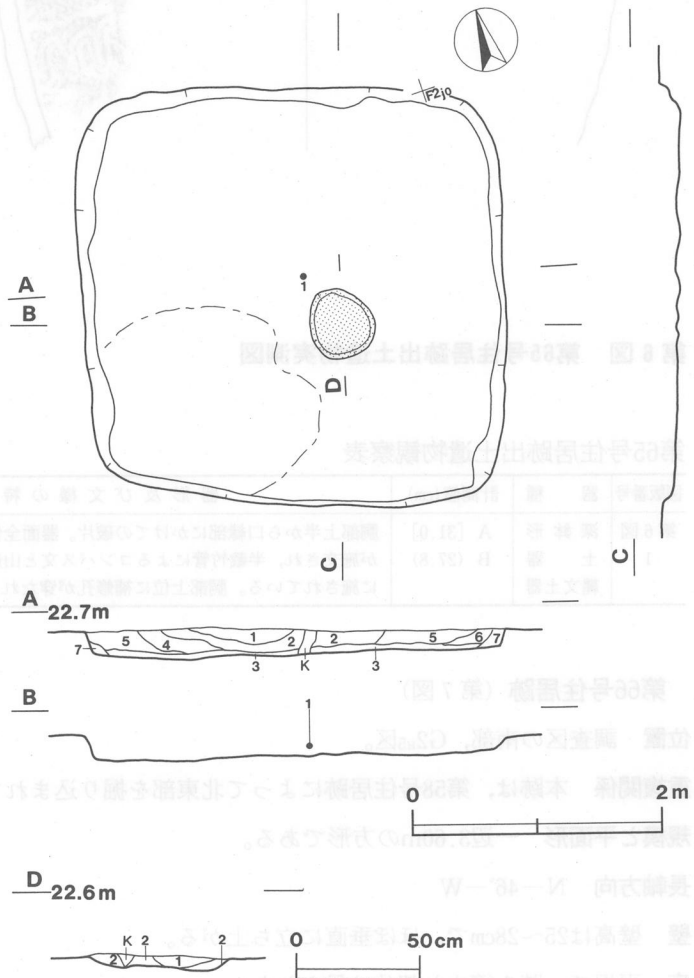
- 1 赤褐色 焼土小ブロック少量
- 2 橙褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量

覆土 7層からなる。床面上にはローム中ブロックを多量に含む褐色土が覆い, 壁際から土層5・4・2の順に堆積している。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム中ブロック多量
- 4 明褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量
- 5 明褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック少量
- 7 にぶい褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文時代早期中葉から前期後葉の土器片191点が出土しているが, ほとんど覆土上層からの出土である。第6図1の深鉢形土器は中央部の土層2から出土している。第6図拓影図2は口縁部片で捺糸文を施しており, 早期前葉(夏島式)の時期である。3は胴部片で沈線文を施しており, 早期中葉(田戸下層式)の時期である。4・5は羽状縄文, 6はループ文と羽状縄文, 7は組紐文, 8は口縁部に単節LRの縄文を施し, 前期前半



第5図 第65号住居跡実測図

(関山・黒浜式)の時期である。9は口縁部片で口縁部直下には刻み目、10は貝殻波状紋を施しており、前期後半(浮島式)の時期である。

所見 本跡は、遺物が縄文時代早期から前期に限られており、しかも大部分の土器片が前期前半であることから、縄文時代前期のものと思われる。



第6図 第65号住居跡出土遺物実測図

第65号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第6図 1	深鉢形 土器 縄文土器	A [31.0] B (27.8)	胴部上半から口縁部にかけての破片。器面全体に横回転の多条縄文が施文され、半截竹管によるコンパス文と山形文が口縁部から交互に施されている。胴部上位に補修孔が穿たれる。	石英・繊維 におい褐色 普通	P425 20% PL32 覆土中層

第66号住居跡 (第7図)

位置 調査区の南部, G2a5区。

重複関係 本跡は、第58号住居跡によって北東部を掘り込まれており、本跡の方が古い。

規模と平面形 一辺3.60mの方形である。

長軸方向 N-46°-W

壁 壁高は25~28cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

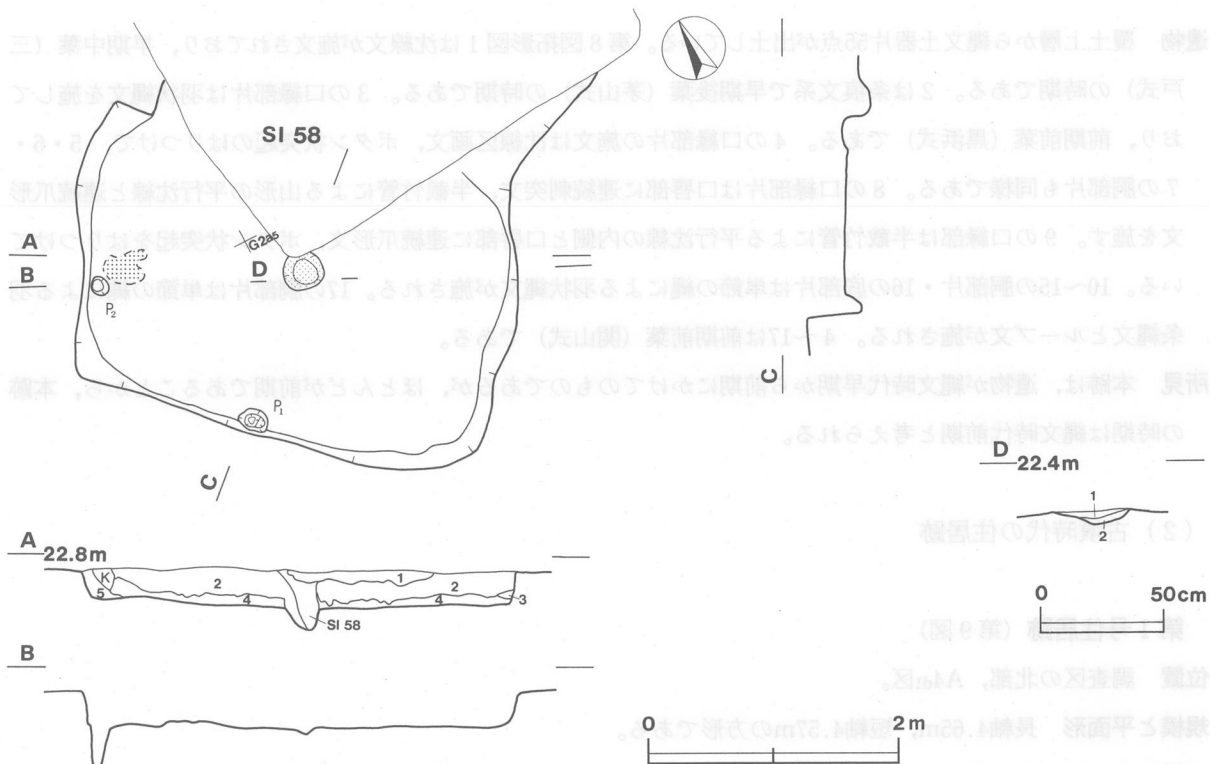
床 平坦で、踏み締めた部分は見られない。

ピット 2か所。P₁は径14cm、深さ10cm、P₂は径20cm、深さ30cmのいずれも円形で、性格は不明である。

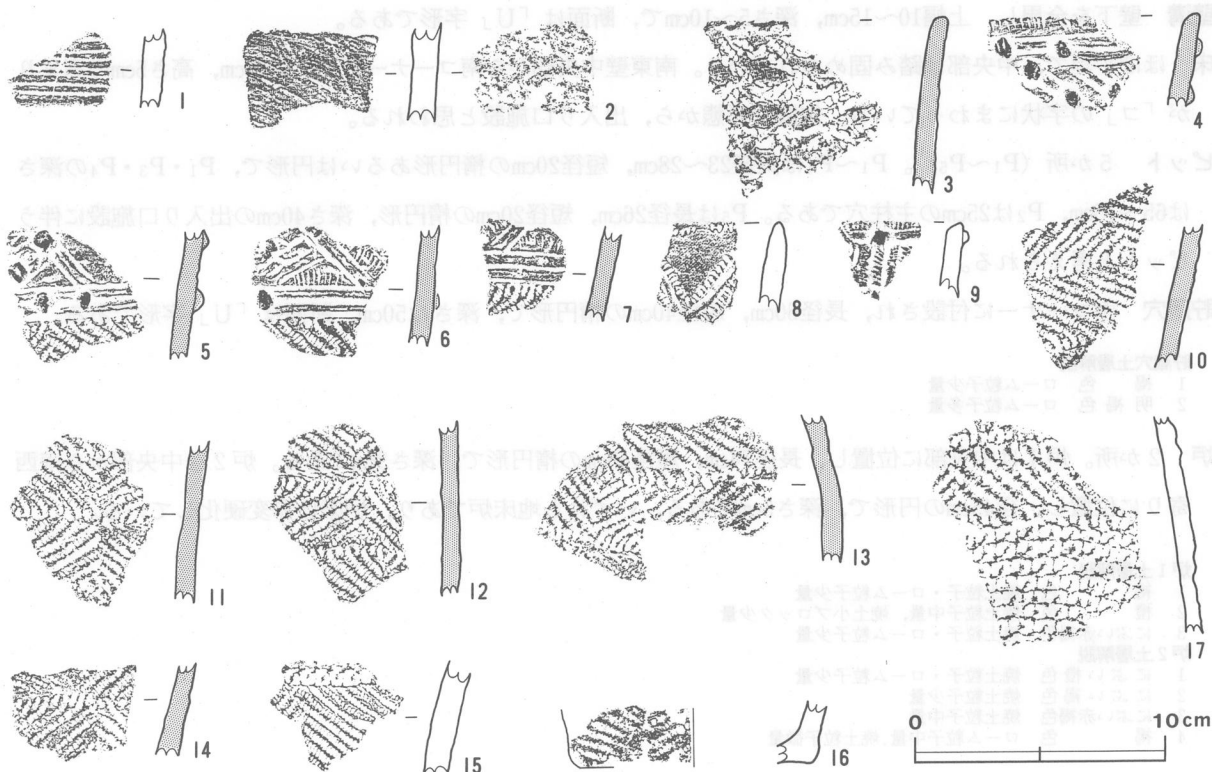
炉 ほぼ中央部に位置し、径30cm程の円形で、床を12cmほど掘り込んだ地床炉である。

炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量，炭化物少量



第7図 第66号住居跡実測図



第8図 第66号住居跡出土遺物実測図

覆土 5層からなる。

土層解説

- | | | | |
|------|--------------------------|-------|------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子多量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量 | 5 褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック少量 | | |

遺物 覆土上層から縄文土器片55点が出土している。第8図拓影図1は沈線文が施文されており、早期中葉（三戸式）の時期である。2は条痕文系で早期後葉（茅山式）の時期である。3の口縁部片は羽状縄文を施しており、前期前葉（黒浜式）である。4の口縁部片の施文は沈線区画文、ボタン状突起のはりつけて、5・6・7の胴部片も同様である。8の口縁部片は口唇部に連続刺突文、半截竹管による山形の平行沈線と連続爪形文を施す。9の口縁部は半截竹管による平行沈線の内側と口唇部に連続爪形文、ボタン状突起をはりつけている。10～15の胴部片・16の底部片は単節の縄による羽状縄文が施される。17の胴部片は単節の縄による羽条縄文とループ文が施される。4～17は前期前葉（関山式）である。

所見 本跡は、遺物が縄文時代早期から前期にかけてのものであるが、ほとんどが前期であることから、本跡の時期は縄文時代前期と考えられる。

(2) 古墳時代の住居跡

第1号住居跡（第9図）

位置 調査区の北部、A4d1区。

規模と平面形 長軸4.65m、短軸4.57mの方形である。

主軸方向 N-31°-W

壁 壁高45～57cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅10～15cm、深さ5～10cmで、断面は「U」字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部は踏み固められている。南東壁中央部から南コーナー寄りに幅10cm、高さ5cmの高まりが「コ」の字状にまわっている。位置や形態から、出入口施設と思われる。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は長径23～28cm、短径20cmの楕円形あるいは円形で、P₁・P₃・P₄の深さは65～75cm、P₂は25cmの支柱穴である。P₅は長径26cm、短径20cmの楕円形、深さ40cmの出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナーに付設され、長径60cm、短径40cmの楕円形で、深さは50cm、断面は「U」字形である。

貯蔵穴土層解説

- | | |
|-------|---------|
| 1 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 明褐色 | ローム粒子多量 |

炉 2か所。炉1は中央部に位置し、長径74cm、短径45cmの楕円形で、深さ3cmである。炉2は中央部から南西寄りに位置し、径45cmの円形で、深さ5cmである。いずれも地床炉であり、炉床は赤変硬化している。

炉1土層解説

- | | |
|----------|-------------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 2 橙色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量 |

炉2土層解説

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 にぶい橙色 | 焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 2 にぶい褐色 | 焼土粒子少量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 焼土粒子中量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |

覆土 9層からなる。耕作によるトレンチャーの攪乱をうけている。各層にロームブロック・ローム粒子を含

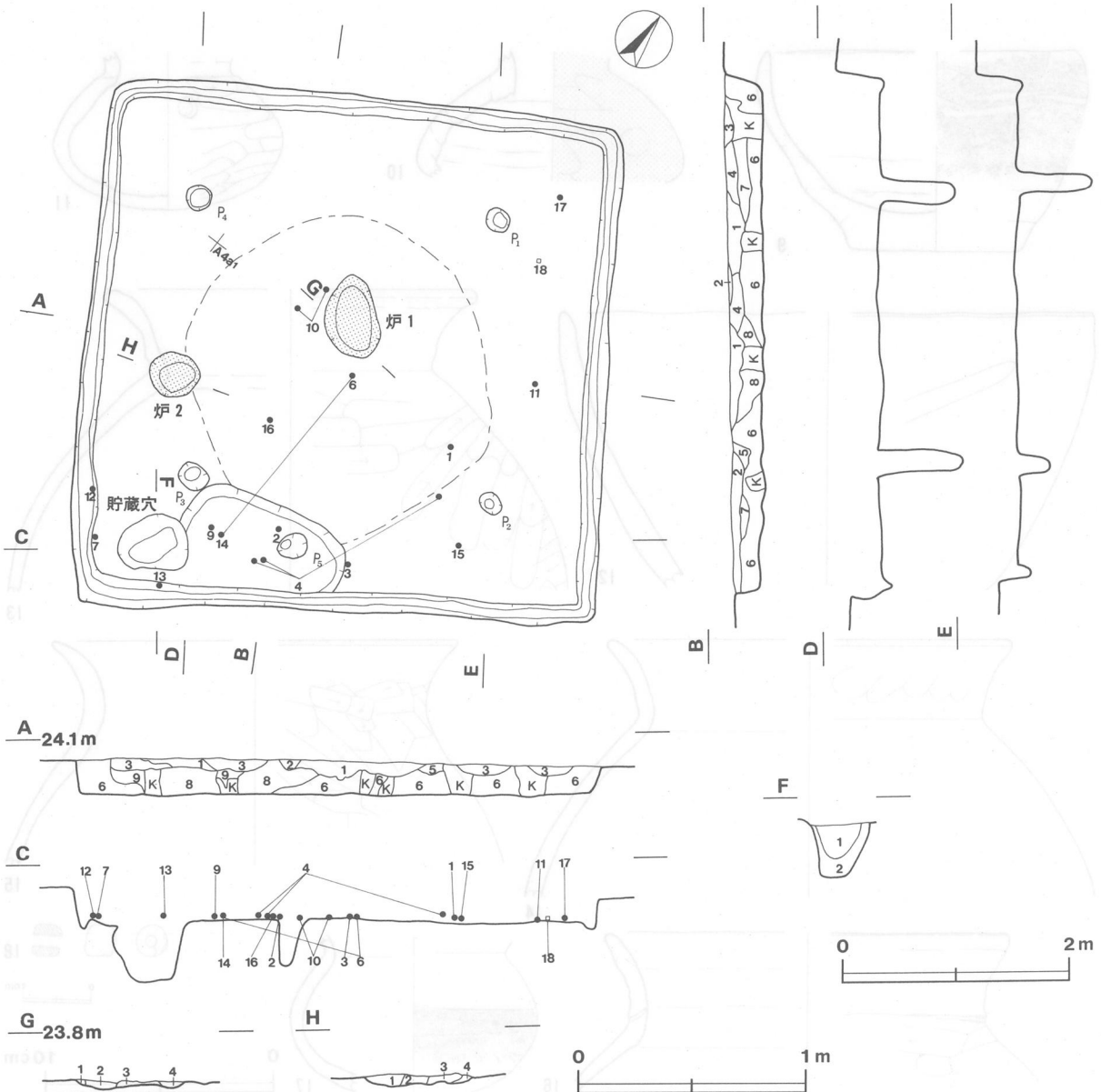
んでおり、人為堆積と思われる。

覆土土層解説

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 |
| 8 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック微量 |
| 9 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

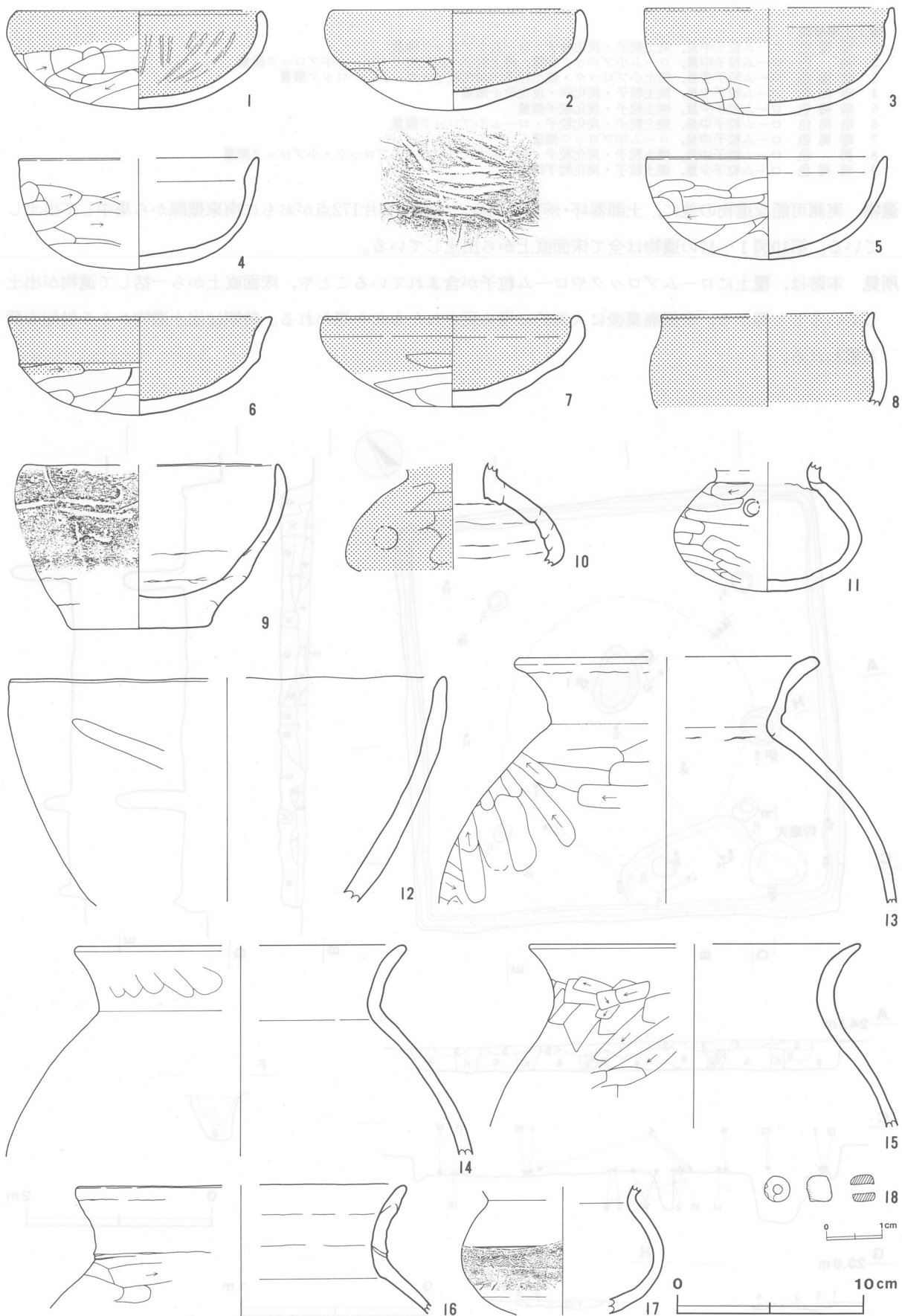
遺物 実測可能な遺物の他に、土師器坏・埴類片54点、土師器甕片172点がおもに南東壁際から集中して出土している。第10図1~17の遺物は全て床面直上から出土している。

所見 本跡は、覆土にロームブロックやローム粒子が含まれていることや、床面直上から一括して遺物が出土していること等から、家屋廃棄後に人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。



第9図 第1号住居跡実測図

図面資料館出土品番号1編 図01葉



第10图 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴					手法の特徴		胎土・色調・焼成	備考	
			長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)	石質	出土地点		備考	
第10図 1	坏 土師器	A 13.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。					口縁部内・外面横ナデ。体部・底部へら削り後ナデ。体部内面へら磨き。内面及び口縁部外面赤彩。		砂粒・長石・石英 雲母 赤色 普通	P3 60% P L32 床面	
		B 5.3										
2	坏 土師器	A 13.5	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。					口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り後ナデ。口縁部外面から内面全体赤彩。		砂粒・スコリア 石英・雲母 橙色 普通	P2 70% P L32 床面 体部外面磁石転用	
		B 5.5										
3	坏 土師器	A 13.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に稜をもつ。					口縁部内・外面横ナデ。体部下端、底部外面へら削り。体部内面粗いハケ状工具による横ナデ。内面及び口縁部外面赤彩。		砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P6 70% P L32 床面	
		B 5.0										
4	坏 土師器	A 12.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に稜をもつ。					口縁部内・外面横ナデ。体部外面横方向のへら削り。底部外面不定方向のへら削り。		砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P7 70% P L32 床面	
		B 5.8										
5	坏 土師器	A 13.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に稜をもつ。					口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。		砂粒・雲母・長石 浅黄橙色 普通	P8 60% P L32 床面	
		B 5.8										
6	坏 土師器	A 14.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。					口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面及び口縁部外面赤彩。		長石 橙色 普通	P4 60% P L32 床面	
		B 5.4										
7	坏 土師器	A 14.0	平らな底部から外傾して立ち上がり、口縁部で直立する。口唇部は平坦である。					口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部外面上半から内面赤彩。		石英・雲母 にぶい橙色 普通	P1 90% P L32 床面	
		B 4.9										
		C 4.5										
8	碗 土師器	A [11.6]	口縁部破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。					口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。		砂粒 橙色 普通	P9 10% 覆土 外面煤付着	
		B (5.0)										
9	碗 土師器	A 13.5	口縁部一部欠損。突出した平底から内彎して立ち上がり、口縁部は内傾し、端部は尖る。					口縁部外面横ナデ。体部外面へら削り。輪積み痕を残す。磨滅が激しい。		砂粒・小礫多量 浅黄橙色 不良	P10 95% P L32 床面	
		B 8.9										
		C 8.0										
10	甗 土師器	B 5.4	体部上半の破片。体部上半に径1.2cmの円孔を穿つ。					体部外面へら削り後ナデ。内面輪積み痕を明瞭に残し、粗い作り。外面赤彩。		長石・石英 赤色、橙色 普通	P11 30% P L32 床面	
			底部から頸部にかけての破片。丸底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。体部上半に径1.0cmの円孔を穿つ。					体部外面横方向のへら削り。				砂粒・長石 明黄褐色 普通
12	鉢 土師器	A [24.4]	体部から口縁部の破片。体部は外傾して立ち上がる。					口縁部内・外面横ナデ。		砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P13 10% 床面 外面煤付着	
		B (10.5)										
13	甗 土師器	A [15.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は強く外反する。					口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。体部内面ナデ。		砂粒・長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P14 10% 床面	
		B (13.3)										
14	甗 土師器	A [17.6]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾し、口唇部は外反する。					口縁部内・外面横ナデ。頸部には指頭痕が残る。		長石 にぶい橙色 普通	P15 20% 床面	
		B (11.4)										
15	甗 土師器	A [17.8]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は強く外反する。					口縁部内・外面横ナデ。頸部から体部外面へら削り。		砂粒 にぶい橙色 普通	P16 5% 床面 外面煤付着	
		B (10.0)										
16	甗 土師器	A [17.4]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾し、口唇部は外反する。					口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。		砂粒 にぶい黄橙色 普通	P17 5% 床面	
		B (7.1)										
17	甗 須恵器	B (6.9)	体部下端から頸部の破片。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。					体部内面横ナデ。体部外面中位に1条の細い凹線、その下に6本1条の櫛歯状工具による波状文。		砂粒・小礫 灰色 良好	P18 30% P L32 床面,自然釉付着	
第10図18	白 玉	計測値					石質	出土地点	備考			
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)						
第10図18	白 玉	0.5	0.5	0.5	0.2	0.1	滑石	南東側床面	Q1 P L55			

第2号住居跡 (第11図)

位置 調査区の北部, A4d2区。

規模と平面形 長軸3.49m, 短軸2.77mの長方形である。

主軸方向 N-21°-W

壁 壁高22~40cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北・東・南壁下を巡っており, 幅7~15cm, 深さ4~8cmで, 断面は「U」字形である。西壁下は攪乱のため確認できない。

床 ほぼ平坦である。南壁寄りの中央部には, 出入り口施設と思われる幅13~20cm, 高さ6cmの半円状の高まりがみられたが, 耕作による攪乱のため遺存状況は良くない。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁・P₂は径約45cmの円形で, 深さ48及び58cmの主柱穴と思われる。半円状の高まりの中央にあるP₃は径35cmの円形で, 深さ16cmであり, 位置から出入り口施設に伴うピットと思われる。P₄は長径70cm, 短径60cm, 深さ33cmの不定形で, 性格は不明である。

貯蔵穴 南西コーナーに付設され, 長径70cm, 短径55cmの楕円形で, 深さ38cm, 断面は筒形である。

貯蔵穴覆土

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量

炉 2か所。炉1は中央部に位置し, 長径100cm, 短径53cmの楕円形である。炉2は中央部の北東寄りに位置し, 径43cmの円形である。いずれも地床炉である。炉1の炉床は火熱を良く受け赤変硬化している。炉2の炉床は火熱を受け赤変はしているが柔らかい。

炉1土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量
- 5 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 6 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

覆土 4層からなる。耕作によるトレンチャーの攪乱を受けているが, 自然堆積と思われる。

土層解説

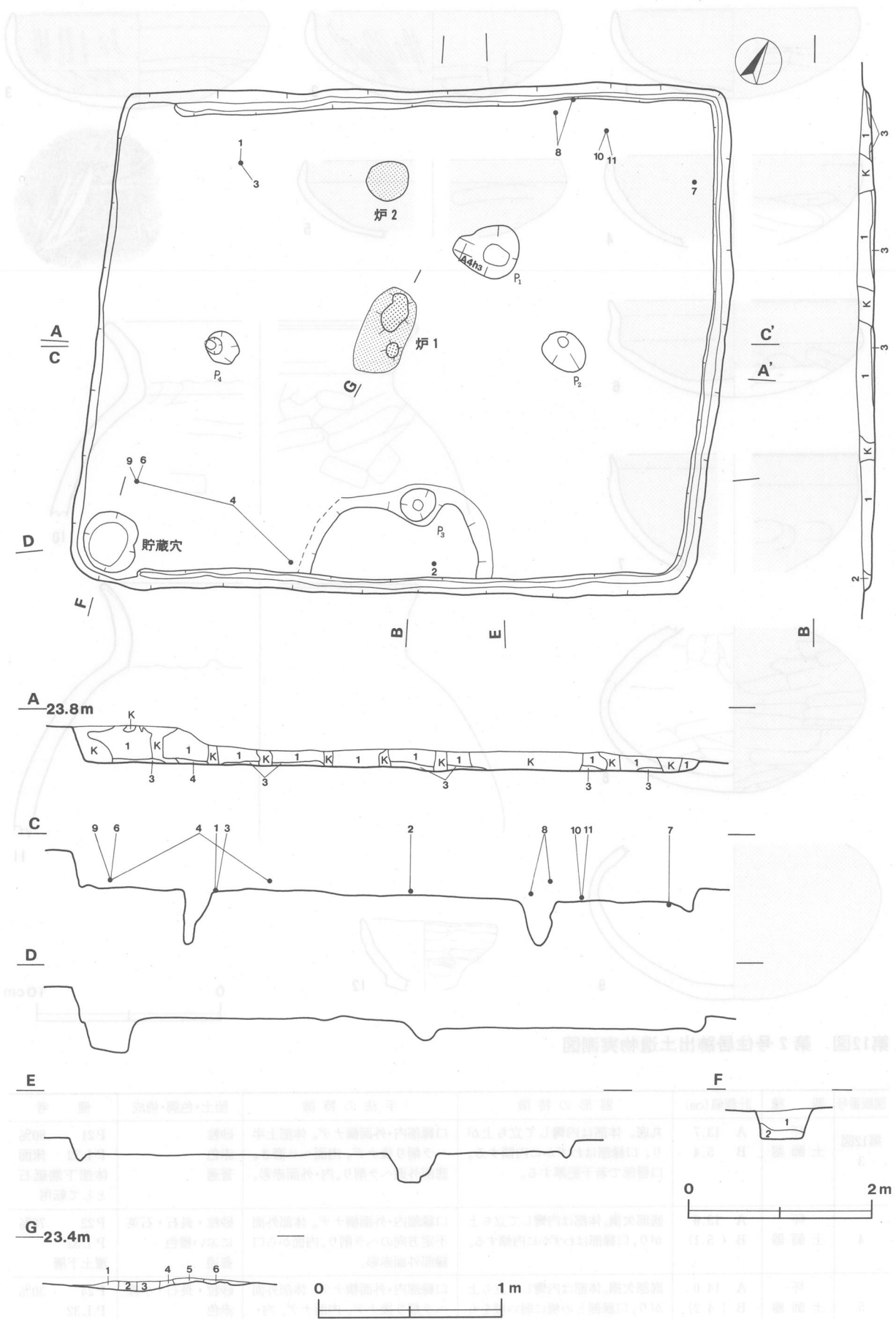
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子極少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 本跡からは図示したもの他に, 土師器の坏・埴類片83点, 埴片3点, 甕片84点が出土している。第12図3・7の坏は床面から出土している。1は北西コーナーの覆土から, 8・9の埴はそれぞれ北壁際, 西壁際の覆土上層から出土している。

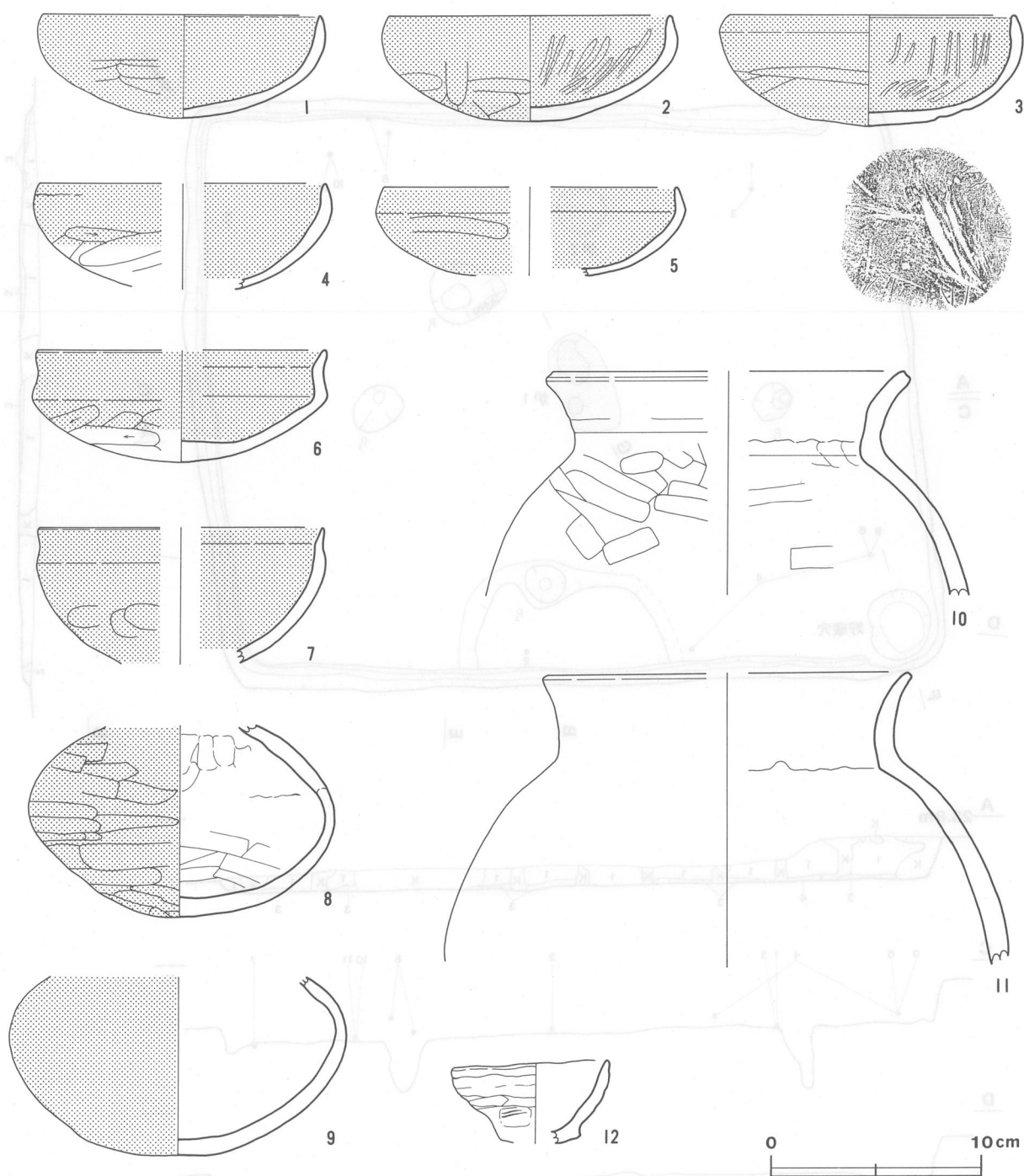
所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。住居跡形態は2本柱の長方形で, 遺物もミニチュア土器が出土しており, 他の住居跡とは異なった様相を呈している。

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 1	坏 土師器	A 13.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内・外面赤彩。内・外面の剝離が著しい。	砂粒・長石・小礫 赤色 普通	P19 100% PL32 北西コーナー覆土
		B 5.0				
2	坏 土師器	A 13.6	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり, 口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り後ナデ。内面へラ磨き後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・石英・雲母 赤色 普通	P20 90% PL32 覆土下層
		B 5.0				



第11图 第2号住居跡実測图



第12図 第2号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 3	坏 土師器	A 13.7 B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。口唇部で若干肥厚する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上半へラ削り後ナデ。内面へラ磨き。底部外面へラ削り。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P21 80% P L32 床面 体部下端砥石 として転用
4	坏 土師器	A 13.6 B (5.1)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面不定方向のへラ削り。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒・長石・石英 におい橙色 普通	P22 70% P L32 覆土下層
5	坏 土師器	A 14.0 B (4.2)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・小礫 赤色 普通	P24 30% P L32 覆土上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 6	坏 土師器	A [13.6] B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面から体部外面上半赤彩。	砂粒・長石 橙色 普通	P23 50% P L32 覆土上層
7	坏 土師器	A [13.8] B (6.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部はうちそぎ状である。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	石英・雲母 赤色 普通	P25 5% 床面
8	埴 土師器	B (9.9)	口縁部欠損。丸底の底部から内彎して立ち上がり、体部中位に最大径をもつぶれた球形形状である。	体部外面上半ナデ。体部内面上部指頭痕。体部外面下半から底部へラ削り。体部内面ナデ。外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色 普通	P27 70% P L33 覆土上層
9	埴 土師器	B (8.5)	底部から体部の破片。丸底の底部から内彎して立ち上がり、体部中位に最大径をもつ。	体部外面ナデ。外面赤彩。	砂粒・石英 外面赤色 内面橙色 普通	P26 65% P L32 覆土上層
10	甕 土師器	A [17.4] B (10.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P28 10% 覆土下層 外面煤付着
11	甕 土師器	A [17.6] B (13.6)	体部から口縁部の破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・長石 明黄褐色 普通	P29 5% 覆土下層 外面煤付着
12	手捏土器 土師器	A 7.5 B (4.1) C [3.4]	底部から口縁部の破片。突出した底部から内彎気味に立ち上がる。	外面ナデ。内面不定方向の粗いハケナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P30 5% P L32 覆土上層

第3号住居跡 (第13図)

位置 調査区の北部, B3b8区。

規模と平面形 一辺が8.00mの方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高16~49cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南東壁下の一部を除き壁下を巡っている。上幅10~20cm、深さ4~10cmで、断面は「U」字形である。

床 ほぼ平坦である。南東壁寄り中央部には、長径2.45m、短径1.40mの馬の背状の僅かな高まりがみられ、出入口施設に伴うものと思われる。踏み締めた部分は見られない。

間仕切溝 4条(a~d)。P₂・P₃・P₄に向かって北東壁から1条(a)、西壁から2条(b・c)及び北西壁から1条(d)、それぞれ中央に向かって延びている。上幅16~30cm、深さ10~30cmで、断面は「U」字形である。

ピット 6か所(P₁~P₆)。P₁~P₄は径31~46cm、深さ81~87cmで、規模や配列から支柱穴と考えられる。P₅は深さ20cmと浅く、補助柱穴と思われる。P₆は性格不明である。

貯蔵穴 南東壁寄り中央部の馬の背状の高まりの内側に位置する。一辺65cmの方形で、深さ45cm、断面は「U」字形である。

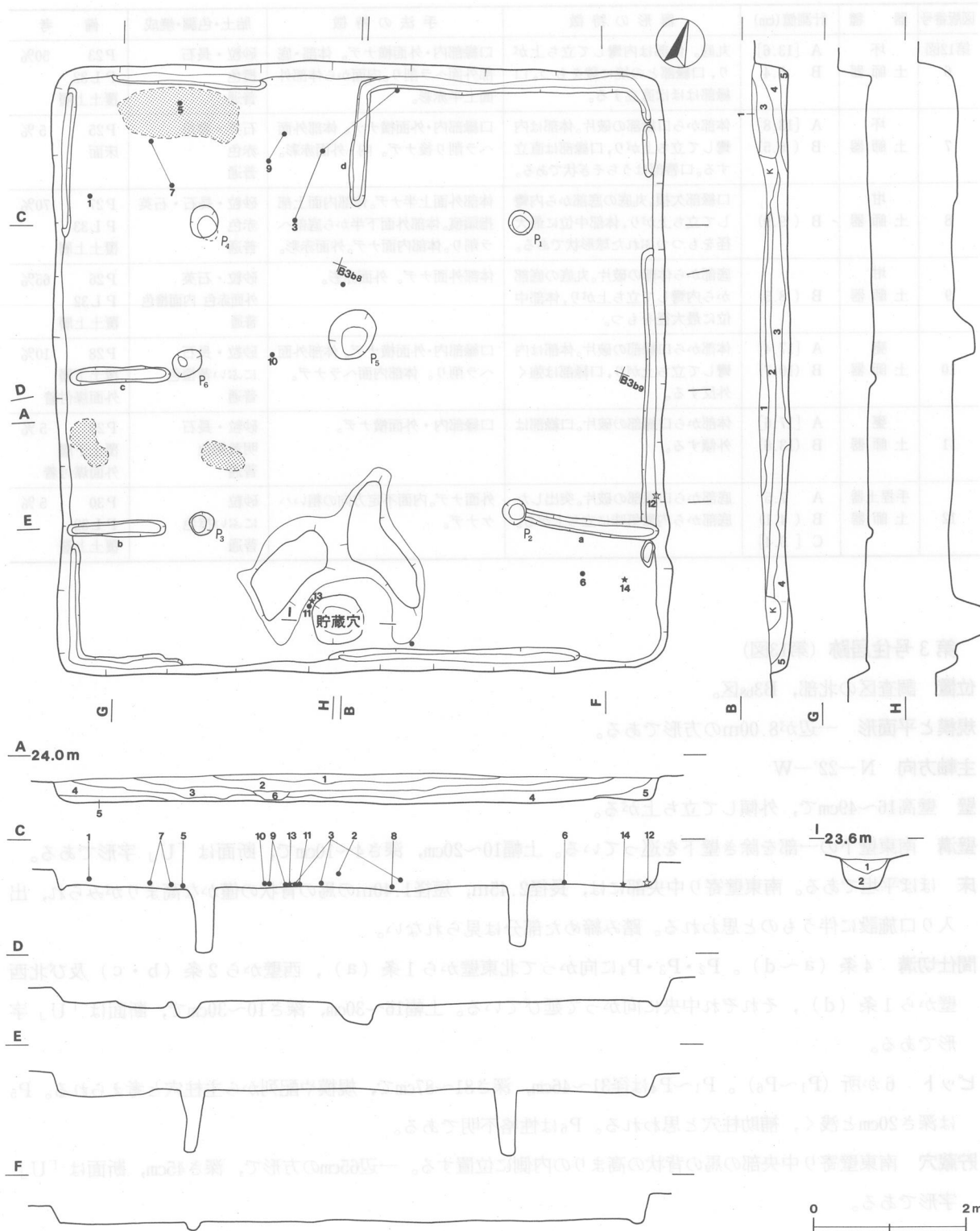
貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 6層からなる。自然堆積土層で、壁際の床面上には焼土塊が見られる。

土層解説

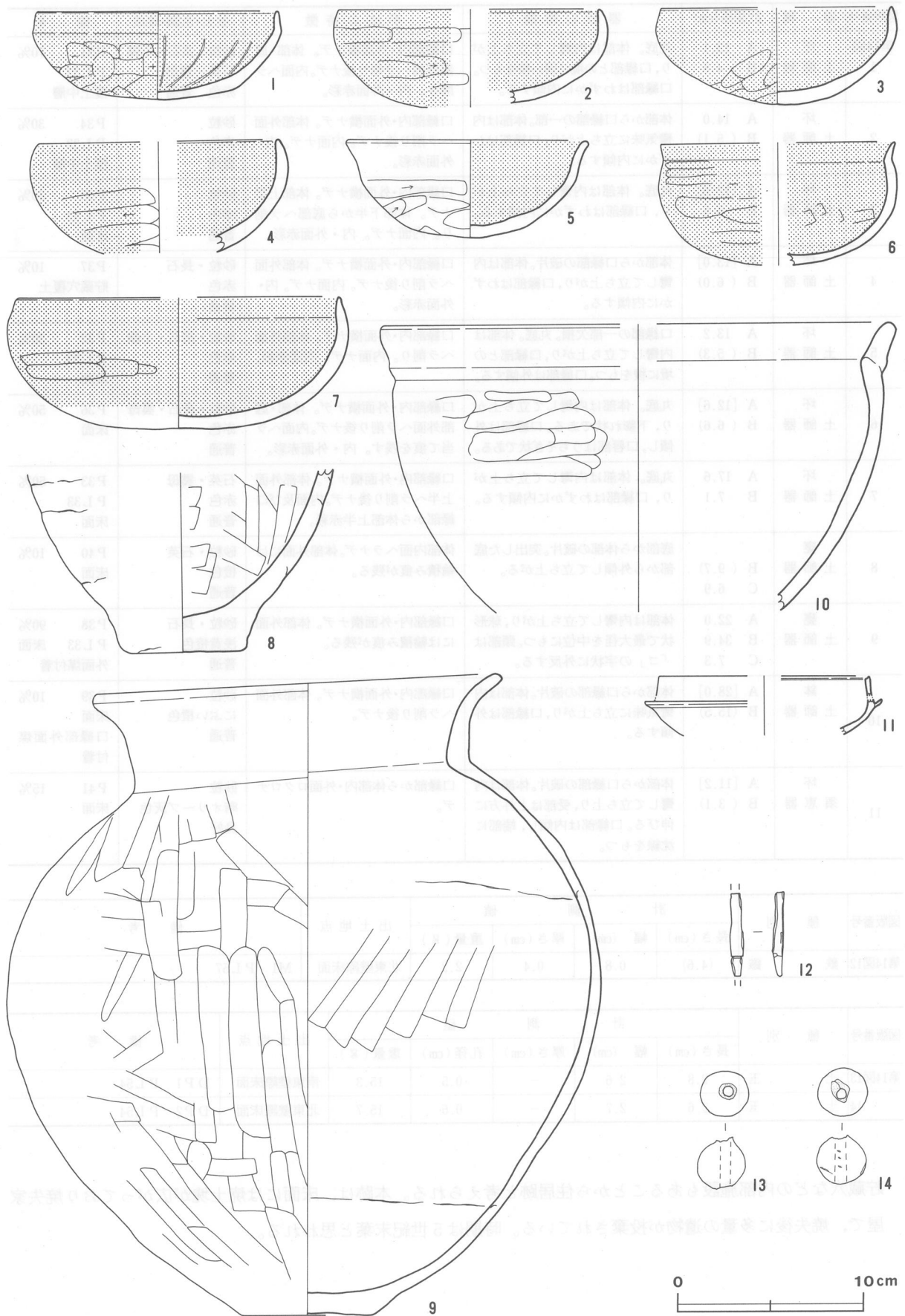
- 1 黒暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量



第13図 第3号住居跡実測図

遺物 遺物は全体的に北西コーナーの周辺から多く出土している。第14図3・5～7の土師器杯, 8～10の土師器甕・鉢, 11の須恵器杯は床面からの出土である。11の須恵器杯のすぐ隣からは13の土玉が, 北東壁際からは12の鉄鏃, 14の土玉が出土している。図示したもの他に土師器坏片56点, 土師器甕片407点, 須恵器坏片6点が出土している。

所見 炉は確認することはできなかったが, 通常の住居跡と同様に一定の掘り込みがあり, 間仕切溝, 柱穴,



第14図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表

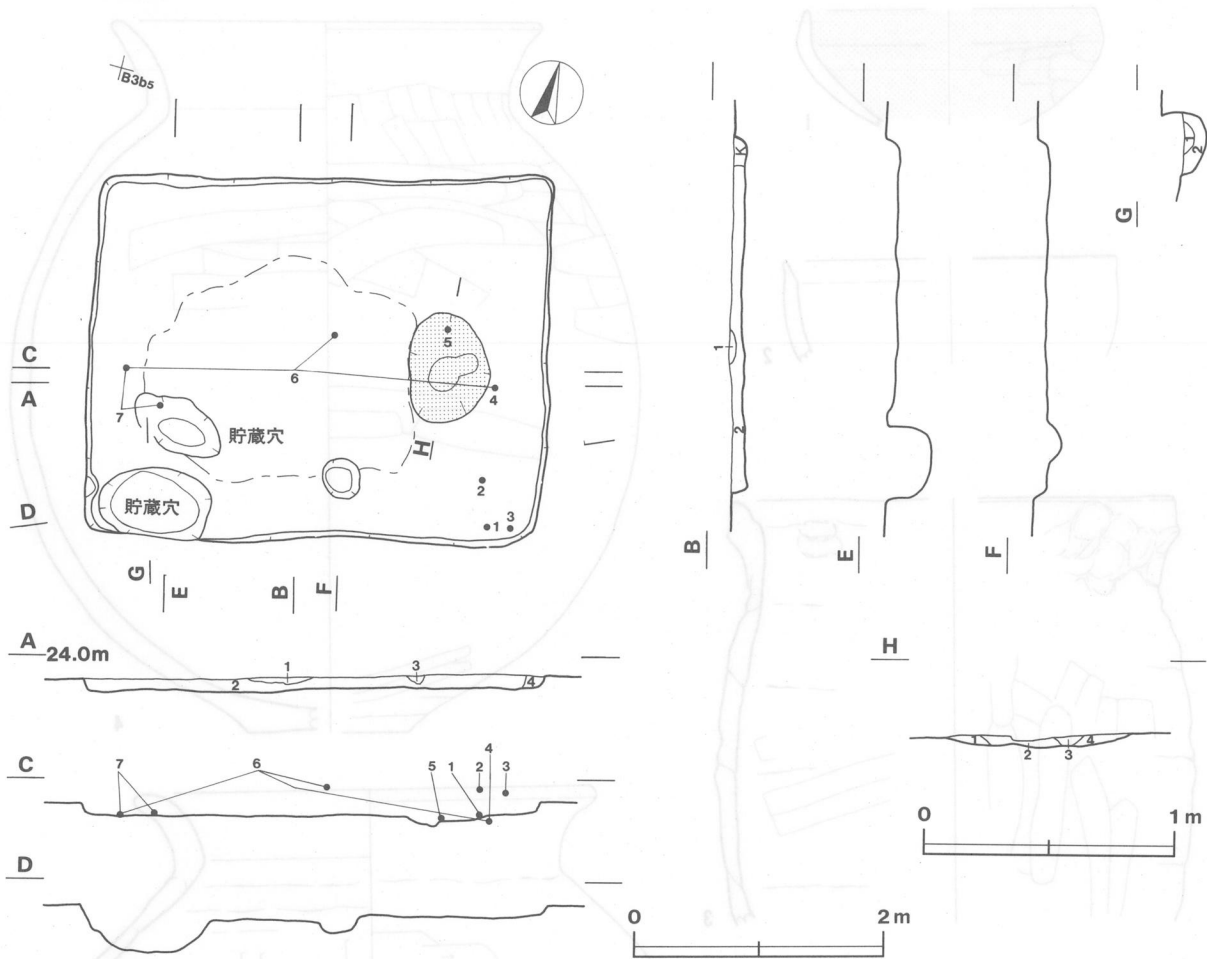
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14図 1	坏 土師器	A 13.1 B 4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り後ナデ。内面へら磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石・小礫 石英・雲母 赤色 普通	P31 70% P L33 覆土中層
2	坏 土師器	A 14.0 B (5.1)	体部から口縁部の一部。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P34 30% P L33 覆土中層
3	坏 土師器	A [12.6] B 5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上半ナデ。体部下半から底部へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P35 30% P L33 床面
4	坏 土師器	A [13.0] B (6.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石 赤色 普通	P37 10% 貯蔵穴覆土
5	坏 土師器	A 13.2 B (5.3)	口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内面赤彩。	砂粒・長石・小礫 赤色 普通	P32 30% P L33 床面
6	坏 土師器	A [12.6] B (6.6)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、下膨れ状である。口縁部は外傾し、口唇部はうちそぎ状である。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り後ナデ。内面へら当て痕を残す。内・外面赤彩。	砂粒・長石・雲母 赤色 普通	P36 50% 床面
7	坏 土師器	A 17.6 B 7.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半へら削り後ナデ。内面及び口縁部から体部上半赤彩。	石英・雲母 赤色 普通	P33 50% P L33 床面
8	甕 土師器	B (9.7) C 6.9	底部から体部の破片。突出した底部から外傾して立ち上がる。	体部内面へらナデ。体部外面には輪積み痕が残る。	砂粒・石英 橙色 普通	P40 10% 床面
9	甕 土師器	A 22.0 B 34.9 C 7.3	体部は内彎して立ち上がり、球形状で最大径を中位にもつ。頸部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面には輪積み痕が残る。	砂粒・長石 浅黄橙色 普通	P38 90% P L33 床面 外面煤付着
10	鉢 土師器	A [28.0] B (15.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P39 10% 床面 口縁部外面煤付着
11	坏 須恵器	A [11.2] B (3.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上り、受部は上外方に伸びる。口縁部は内傾し、端部に沈線をもつ。	口縁部から体部内・外面クロロナデ。	砂粒 暗オリープ灰色 良好	P41 15% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第14図12	鉄 鏃	(4.6)	0.8	0.4	2.2	北東壁際床面	M1 P L57

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第14図13	土 玉	2.8	2.6	—	0.5	15.3	南東壁際床面	DP1 P L54
14	土 玉	2.6	2.7	—	0.6	15.7	北東壁際床面	DP2 P L54

貯蔵穴などの内部施設もあることから住居跡と考えられる。本跡は、床面には焼土塊が広がっており焼失家屋で、焼失後に多量の遺物が投棄されている。時期は5世紀末葉と思われる。

第4号住居跡 (第15図)



第15図 第4号住居跡実測図

位置 調査区の北部, B3b5区。

規模と平面形 長軸3.67m, 短軸2.88mの長方形である。

主軸方向 N-77°-E

壁 壁高11~22cmで, 外傾して立ち上がる。

床 ほぼ平坦で, 中央部がよく踏み固められている。南西部には長径80cm, 短径43cm, 高さ5cmの楕円形の高まりがみられる。かなり硬化しているが, 性格は不明である。

ピット 1か所。径30cmの円形, 深さ10cmで, 位置と形状から出入り口施設のピットと思われる。

貯蔵穴 北西コーナーに付設され, 長径90cm, 短径60cmの楕円形で, 深さ35cm, 断面は楕円形である。

貯蔵穴土層解説

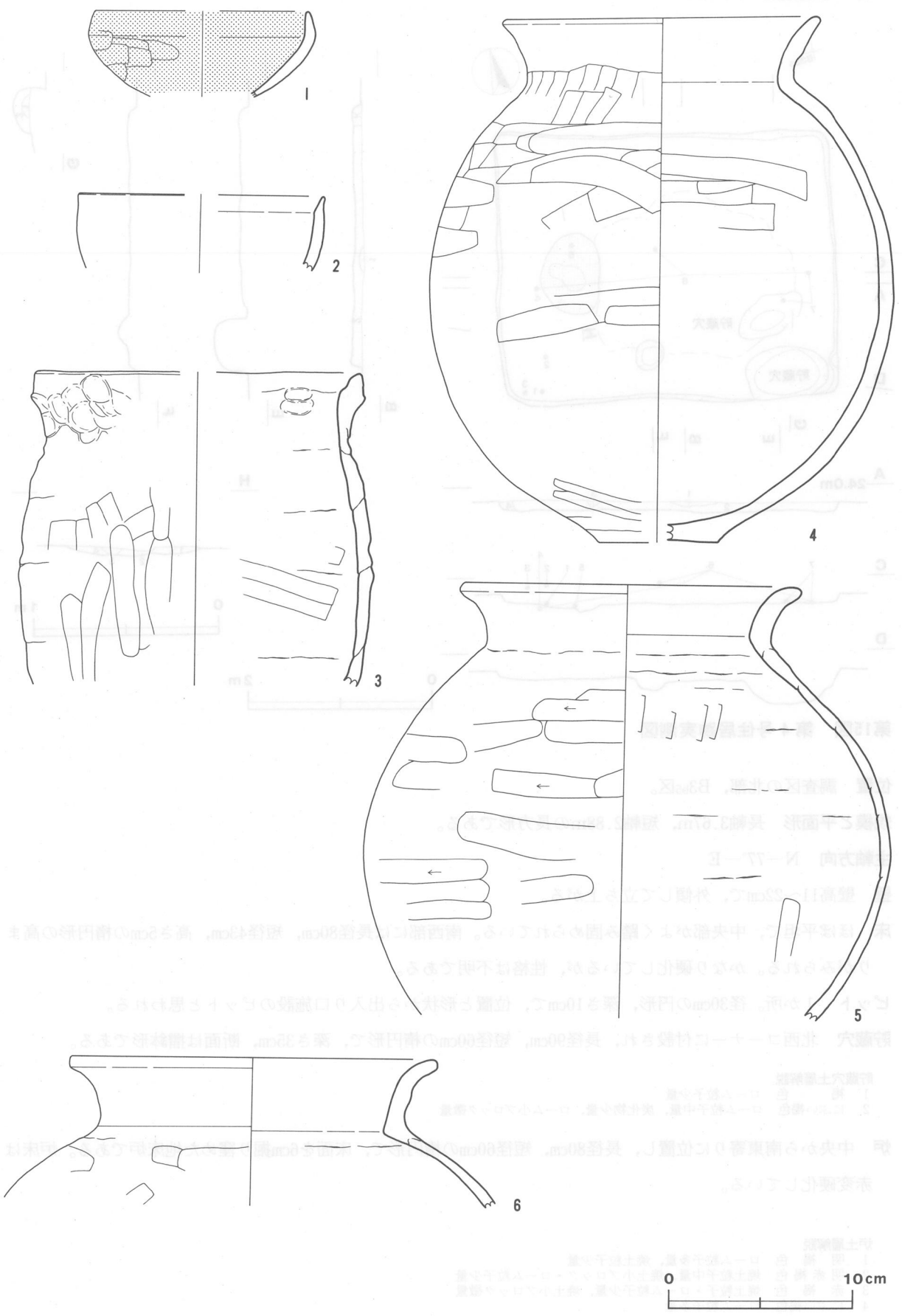
- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 にぶい褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, ローム小ブロック微量

炉 中央から南東寄りに位置し, 長径80cm, 短径60cmの楕円形で, 床面を6cm掘り窪めた地床炉である。炉床は赤変硬化している。

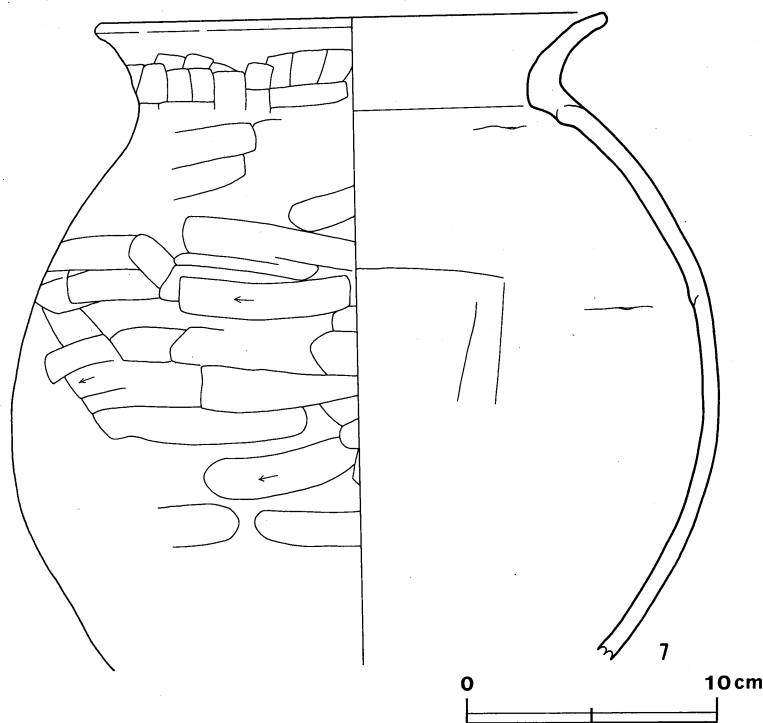
炉土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量
- 2 明赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量
- 3 赤褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子多量

11 図紙実測数土出機部封号 1 第 図紙実



第16図 第4号住居跡出土遺物実測図(1)



第17図 第4号住居跡出土遺物実測図(2)

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第16図 1	坏 土師器	A [13.1] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・石英・雲母 赤色 普通	P42 5% 床面
2	坏 土師器	A [13.4] B (4.1)	口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立し、うちそぎ状である。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。	砂粒 赤色 普通	P43 10% 覆土中層
3	甕 土師器	A [17.8] B (17.1)	体部から口縁部の一部。体部はほぼ直立し、口縁部でわずかに外傾する。	口縁部内・外面指頭押圧。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒 橙色 普通	P44 30% 床面
4	甕 土師器	A 17.5 B 28.7 C [6.6]	平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラ削り。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・長石 明褐色 普通	P45 60% P L33 床面
5	甕 土師器	A 18.8 B (23.5)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面横方向のへラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	P46 60% P L33 床面
6	甕 土師器	A 19.9 B (8.1)	体部から口縁部の破片。頸部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。	砂粒・長石 にぶい橙色 普通	P48 10% P L33 床面
第17図 7	甕 土師器	A 20.6 B (26.0)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒・長石・石英 橙色 普通	P47 40% P L34 床面

覆土 4層からなり、土層2の褐色土が主体となる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量

遺物 本跡からは、図示した遺物の他に土師器杯の口縁部片 8 点、体部片 3 点、土師器鉢の口縁部片 8 点、体部片 5 点、土師器甕の口縁部片 7 点、体部片 616 点、底部片 5 点が出土しており、特に甕の割合が多い。第 16・17 図 1 の土師器杯、4・5・6・7 の土師器甕は床面直上からの出土である。

所見 本跡の時期は出土遺物から 5 世紀後葉と考えられる。

第 5 号住居跡 (第 18 図)



第 18 図 第 5 号住居跡実測図

位置 調査区の北部，B3e5区。

規模と平面形 長軸7.38m，短軸7.24mの方形である。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高4~15cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北西壁下の一部を除いてほぼ全周している。上幅7~10cm，深さ3~5cmで，断面は「U」字形である。

床 平坦である。北東壁・南西壁際の床面はよく残っているが，中心部の遺存状況は悪い。

間仕切溝 P₃に向かって南西壁から1条(a)延びている。上幅17cm，深さ12cm，断面は「U」字形である。

ピット 6か所。(P₁~P₆)。P₁~P₄は径22~32cm，深さ55~105cmで，規模や配列からみて支柱穴と考えられる。P₅・P₆は性格不明である。

貯蔵穴 南西コーナー寄りに位置し，長径96cm，短径82cmの楕円形で，深さ54cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり，断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子少量，焼土粒子微量

炉 2か所。炉1は中央部北西寄りに位置し，径約65cmの円形である。炉2は中央部に位置し，長径65cm，短径47cmの楕円形である。いずれも地床炉で，炉床は赤変している程度である。

炉1土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量，炭化粒子・ローム粒子微量

炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック多量，焼土粒子中量
- 2 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量，焼土小ブロック微量

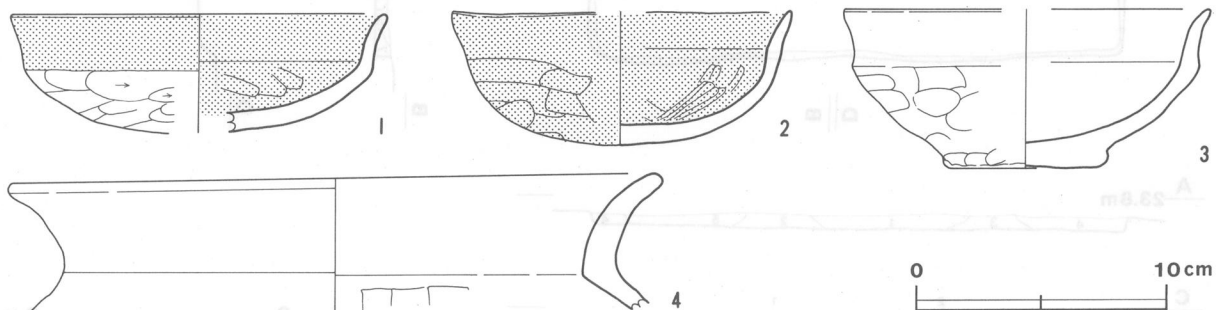
覆土 9層からなる。土層4が覆土の主体となっており，ローム粒子を多量に含む人為堆積土層である。

土層解説

- 1 褐色 炭化粒子多量，ローム粒子中量，焼土粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子多量
- 5 明褐色 ローム粒子多量，焼土粒子少量
- 6 にぶい褐色 ローム粒子中量
- 7 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 8 明褐色 ローム粒子多量，焼土粒子中量，炭化物少量，ローム小ブロック微量
- 9 にぶい褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 本跡からの出土遺物は少なく，土師器坏・埴類の口縁部片19点，体部片41点，甕の体部片18点，底部片1点である。第19図1・2の土師器坏は西コーナーの覆土から，3の土師器坏は南コーナー南西壁際の床面から，4の土師器甕は貯蔵穴の覆土上層と底面近くからそれぞれ出土している。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀末葉と考えられる。



第19図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図 1	坏 土師器	A 15.1 B 4.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色 普通	P49 85% P L34 床面
2	坏 土師器	A [13.6] B 5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で外傾する。口唇部はうちそぎ状で、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へら磨き。内面から体部外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色、底部橙色 普通	P50 70% 覆土中層
3	坏 土師器	A [14.8] B 6.4 C 6.6	平底で突出した底部。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面指頭押圧。	砂粒 にぶい橙色 普通	P51 70% P L34 床面
4	甕 土師器	A 26.4 B (5.5)	口縁部のみが残存。頸部は外傾し、口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へら削り。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P52 10% 床面

第6号住居跡 (第20図)

位置 調査区の北部，B3b2区。

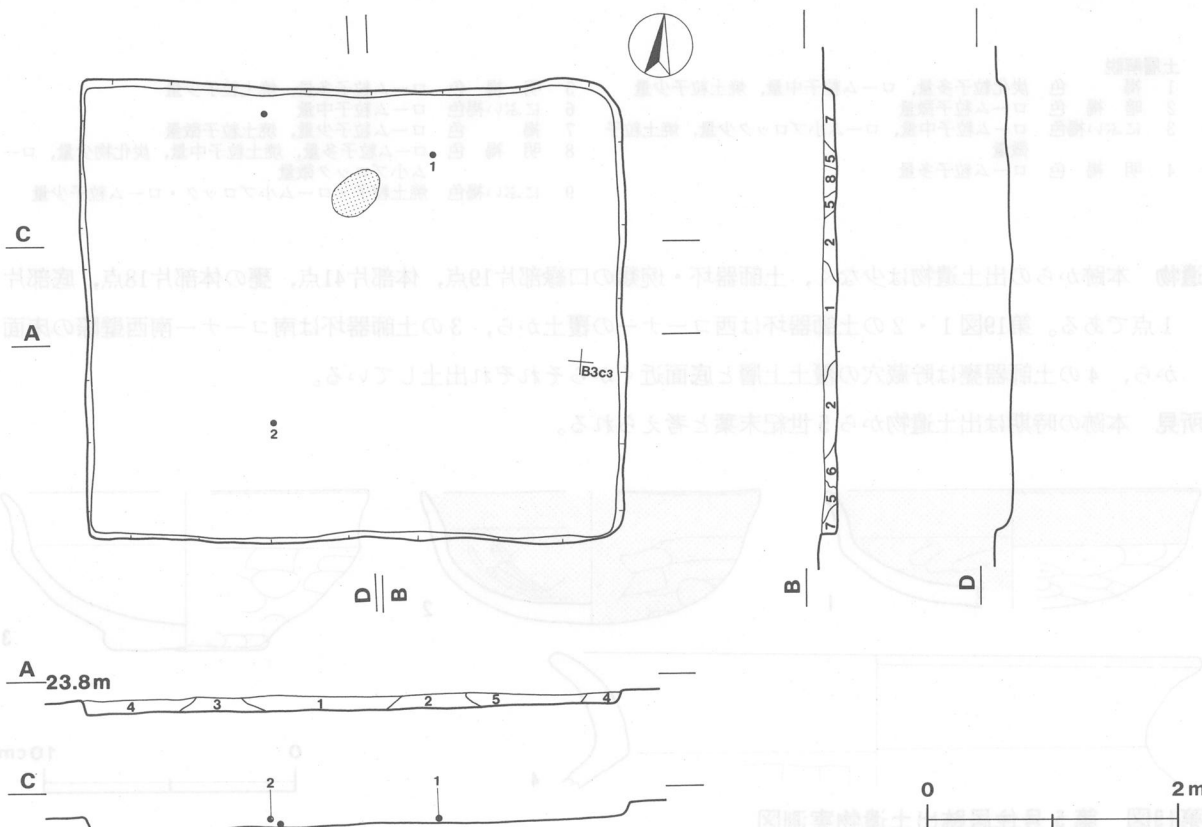
規模と平面形 長軸4.30m，短軸3.55mの長方形である。

主軸方向 N-8°-W

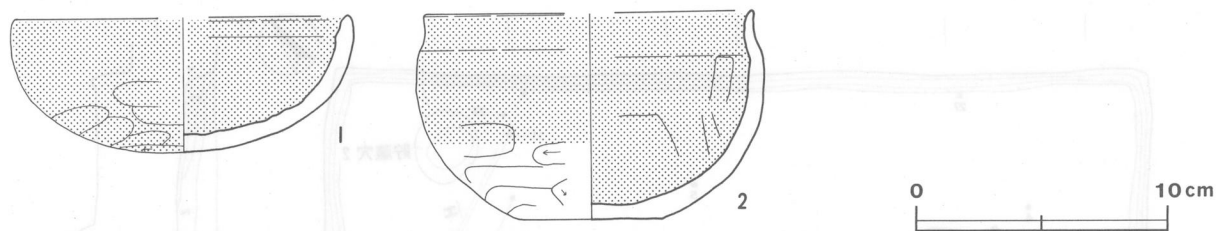
壁 壁高6~10cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

床 木根による攪乱のため遺存状態が悪い。

炉 中央部の北壁寄りに見られる。長径45cm，短径25cmの楕円形の地床炉であるが，攪乱のため一部分を掘り込まれている。



第20図 第6号住居跡実測図



第21図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第21図 1	坏 土師器	A [13.4] B 5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口縁部はほぼ直立し、口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内・外面赤彩。内面剝離。	砂粒・長石 赤色 普通	P53 P L34 覆土 85%
2	碗 土師器	A [13.1] B 8.3 C 5.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半へラ削り後ナデ、下半へラ削り。内面へラナデ。底部外面へラ削り。内面から体部外面中位赤彩。	砂粒・石英 赤色、体部下半橙色 普通	P54 P L34 覆土 70%

覆土 8層からなる。暗褐色土と褐色土を主体とする人為堆積土層である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
3 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量	7 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量	8 暗褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 本跡からの出土遺物は少なく、土師器坏・碗類の口縁部片4点、体部片26点、甕の口縁部片1点である。すべて覆土中からの出土で、図示できたのは第21図1・2の土師器坏・碗である。1は北壁寄り、2は中央部から出土している。

所見 床の遺存状態が悪かったこともあり、柱穴は確認されなかったが、通常の住居跡と同様に一定の掘り込みのある方形の竪穴であり、住居跡と考えられる。時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。

第7号住居跡 (第22図)

位置 調査区中央部, C3a5区。

規模と平面形 一辺が8.75mの方形である。

主軸方向 N-52°-E

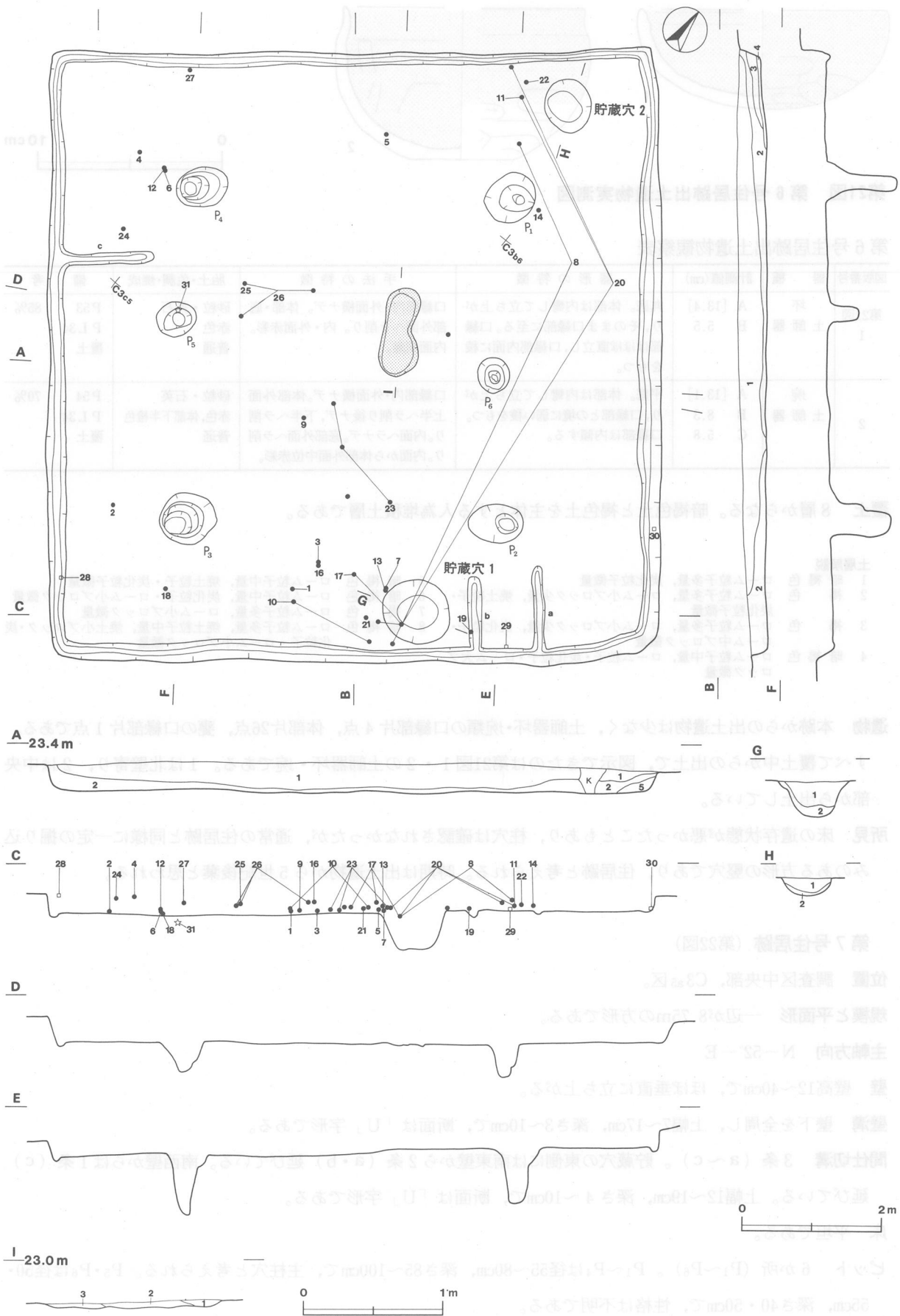
壁 壁高12~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅7~17cm、深さ3~10cmで、断面は「U」字形である。

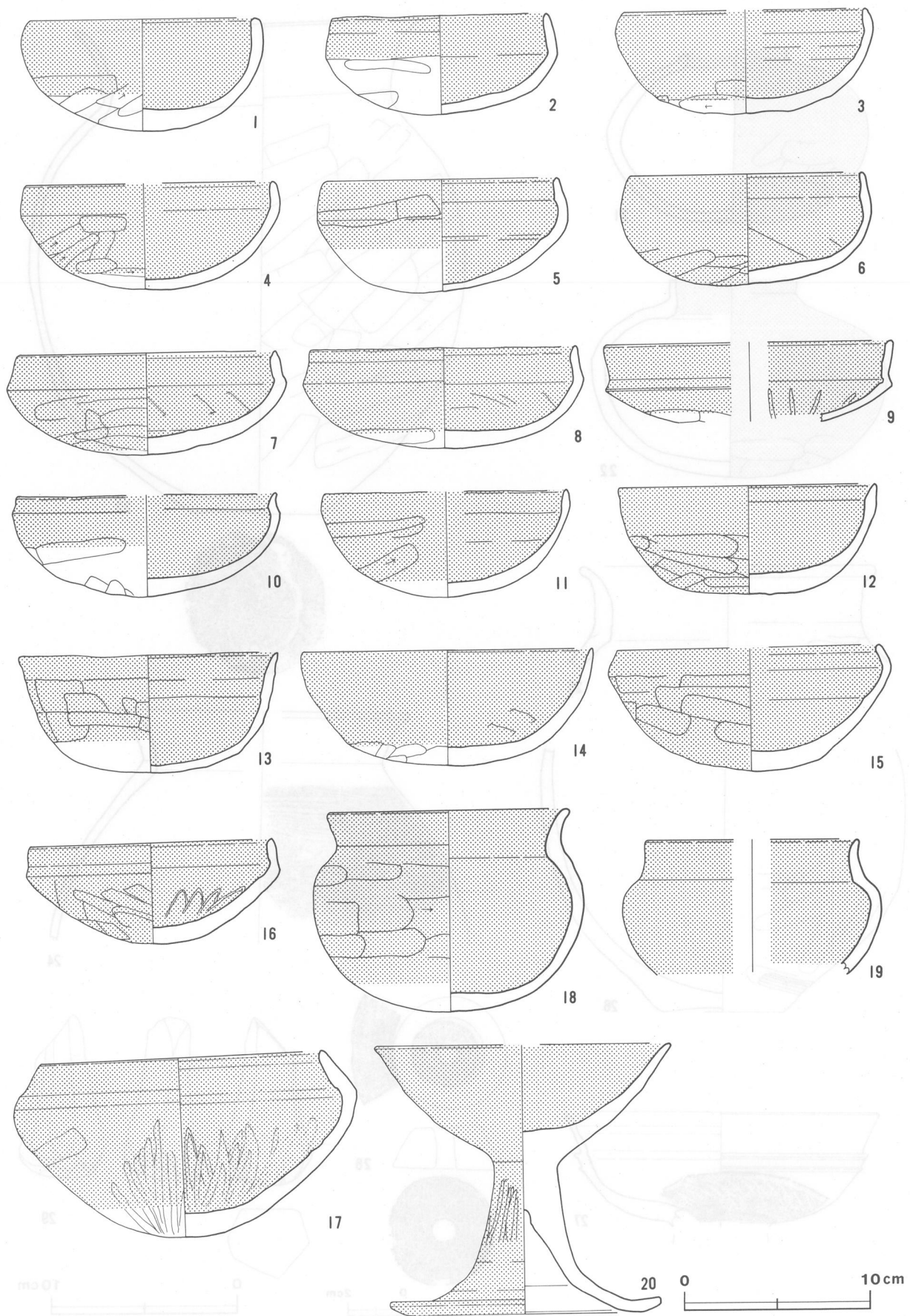
間仕切溝 3条(a~c)。貯蔵穴の東側には南東壁から2条(a・b)延びている。南西壁からは1条(c)延びている。上幅12~19cm、深さ4~10cmで、断面は「U」字形である。

床 平坦である。

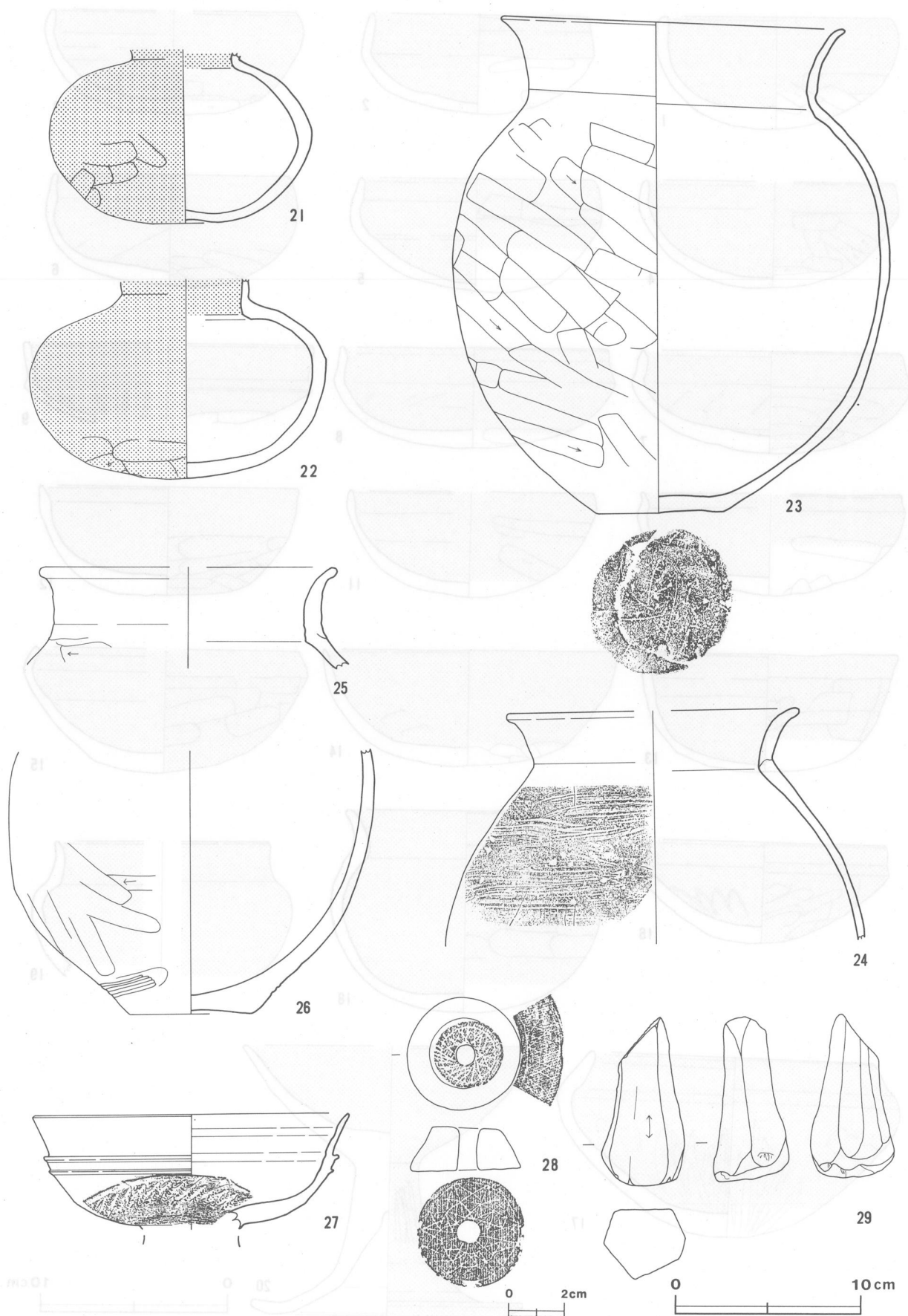
ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は径55~80cm、深さ85~100cmで、支柱穴と考えられる。P5・P6は径50・55cm、深さ40・50cmで、性格は不明である。



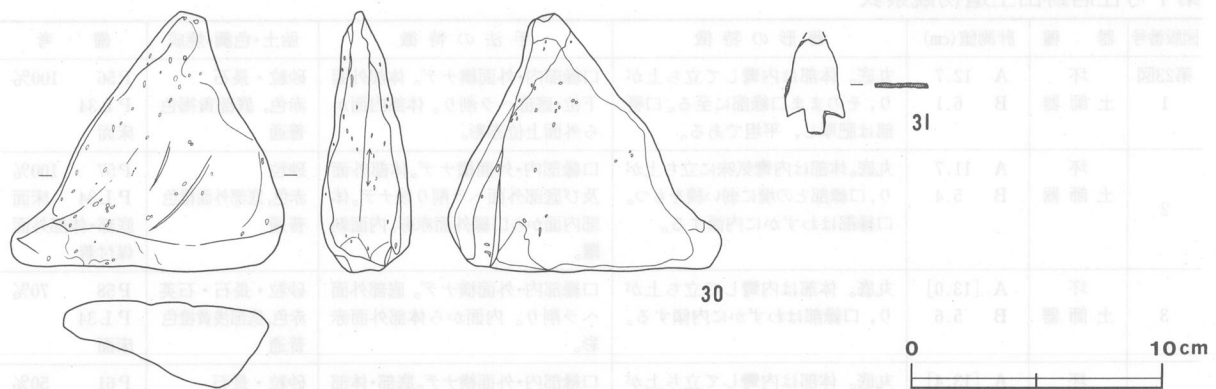
第22図 第7号住居跡実測図



第23图 第7号住居跡出土遺物実測図(1)



第24图 第7号住居跡出土遺物実測図(2)



第25図 第7号住居跡出土遺物実測図(3)

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南東壁の中央部から東寄りに間仕切溝と並ぶように位置し、径94cmの円形で、深さ53cmである。断面は逆台形で、平坦な底面から外傾して立ち上がる。貯蔵穴2は北西壁の北コーナー寄りに位置し、径70cmの円形で、挿鉢形に掘り込まれている。

貯蔵穴1土層解説

1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 炭化粒子・ローム粒子微量

貯蔵穴2土層解説

1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
2 褐色 ローム粒子多量

炉 中央から東寄りにあり、貯蔵穴1と同一線上にある。長径145cm、短径45cmの長楕円形で、床面を10cm掘り窪めた地床炉である。形状は瓢箪形をしており、2か所であった可能性もある。炉床は火熱を良く受けており、赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量
2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
3 褐色 焼土粒子・ローム粒子微量

覆土 5層からなる。レンズ状に堆積する暗褐色土の下に多量の土器を含む褐色土が広く覆う。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
4 褐色 ローム粒子多量
5 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 出土状況を見ると、南東壁際の床面から覆土上層にかけて多く出土している。第23図8・20、7・13のように重なって出土している状況から投棄された遺物がほとんどである。床面直上の遺物は、第23図1・2・3・5・6・7の土師器坏、18の埴である。第23・24図8の土師器坏、20の土師器高坏、22の土師器埴は貯蔵穴から斜位の状態で出土している。27の須恵器無蓋高坏は西コーナー付近の南西壁際から、28の紡錘車は南コーナー付近の南西壁際から、29・30の砥石は南東壁際からそれぞれ出土している。P₅からは鉄鏃が出土している。図示したものの他に、土師器坏・埴類の口縁部片92点、体部片316点、底部片5点、土師器甕の口縁部片9点、体部片330点、底部片9点、土師器鉢の口縁部片2点が出土している。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀末葉と考えられる。

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 1	坏 土師器	A 12.7 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口唇部は肥厚し、平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位・底部ヘラ削り。体部内面から外面上位赤彩。	砂粒・長石 赤色、底部黄褐色 普通	P56 100% P L34 床面
2	坏 土師器	A 11.7 B 5.4	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面から口縁外面赤彩。内面剝離。	砂粒 赤色、底部外面橙色 普通	P57 100% P L34 床面 底部・体部外面 煤付着
3	坏 土師器	A [13.0] B 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。底部外面ヘラ削り。内面から体部外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色、底部浅黄褐色 普通	P58 70% P L34 床面
4	坏 土師器	A [13.4] B 5.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。底部・体部外面ヘラ削り。体部上半はヘラ削り後ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒・長石 赤色、底部明褐色 普通	P61 50% P L34 覆土上層
5	坏 土師器	A 12.6 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部上位ヘラ削り後ナデ。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色、外面黄褐色 普通	P65 80% P L34 床面
6	坏 土師器	A 12.8 B 6.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底部外面ヘラ削り。内面から体部外面赤彩。	砂粒・長石 赤色、底部橙色 普通	P66 80% P L34 床面
7	坏 土師器	A 14.2 B 5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。底部外面ヘラ削り。内面にヘラあて痕を残す。内面から体部外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色、底部褐色 普通	P60 95% P L34 床面
8	坏 土師器	A 14.4 B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。底部外面ヘラ削り。内面ヘラあて痕を残す。内面から体部外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色、にぶい褐色 普通	P62 70% P L34 煤付着 貯蔵穴覆土
9	坏 土師器	A [15.6] B (4.3)	口縁部から体部上半の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で直立し、強い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面から体部外面赤彩。	長石 赤色 良好	P64 20% 覆土下層 煤付着
10	坏 土師器	A [14.1] B 5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部はうちそぎ状で、内面に稜をもつ。	底部から体部外面ヘラ削り後ナデ。内面及び口縁部外面赤彩。赤彩の剝離顕著。	長石・スコリア 内面赤色、外面橙色 普通	P63 50% P L34 覆土下層
11	坏 土師器	A 13.0 B 5.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、丸みをもっている。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面から底部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	砂粒・長石 赤色 普通	P59 80% P L34 覆土下層 外面煤付着
12	坏 土師器	A 14.1 B 5.8	平底気味の底部から内彎して立ち上がり、体部は丸みをもっている。口唇部はうちそぎ状で、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部下位・底部外面ヘラ削り。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒・長石 赤色、底部橙色 普通	P67 100% P L34 柱穴覆土
13	坏 土師器	A 14.0 B 6.5	平底気味の底部から外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。器壁は薄い。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色、底部外面橙色 普通	P68 60% P L34 覆土下層
14	坏 土師器	A 15.8 B 6.3	平底気味の底部から内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。底部は肥厚している。	口縁部内・外面横ナデ。底部ヘラ削り。内面ヘラあて痕が残る。内面から体部外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色、底部外面褐色 普通	P71 95% P L35 覆土下層
15	坏 土師器	A [14.2] B 6.7	丸底。底部はやや厚く、体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 にぶい橙色 普通	P69 70% P L34 覆土下層
16	坏 土師器	A 13.2 B 5.5	尖り気味の底部から体部は外傾して立ち上がる。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石 明褐色 良好	P70 100% P L34 覆土上層 外面煤付着
17	碗 土師器	A 15.4 B 9.7	尖り気味の底部から体部は外傾して立ち上がり、口縁部で内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい橙色 良好	P72 80% P L35 煤付着 覆土中・上層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第23図 18	碗 土師器	A 13.1 B 10.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石 赤色 良好	P73 95% P L35 床面 外面煤付着
19	碗 土師器	A 11.3 B (7.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩	砂粒 赤色 普通	P74 10% 覆土下層
20	高坏 土師器	A [15.9] B 14.5 C 14.8 E 8.1	坏部の一部欠損。脚部は下位で「ハ」の字状に大きく開き、端部は反る。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ナデ。脚部上位外面へら磨き、下位へらナデ、端部及び内面横ナデ。脚部内面を除き赤彩。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P75 70% P L35 貯蔵穴覆土
第24図 21	埴 土師器	B (9.4)	口縁部欠損。丸底の底部から内彎して立ち上がり、体部中位に最大径をもつぶれた球形状である。	体部外面上半ナデ。体部外面下半へら削り。口縁部内・体部外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P76 85% P L35 覆土中層
22	埴 土師器	B (10.8)	口縁部欠損。丸底の底部から内彎して立ち上がり、体部上位に最大径をもつ。	体部下端外面へら削り。口縁部内・体部外面赤彩。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P77 85% P L35 覆土中層
23	甕 土師器	A 18.7 B 27.0 C 7.0	平底。体部は卵形で、口縁部はほぼ直立し、口唇部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面斜位方向のへら削り。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P78 70% P L35 覆土上層
24	甕 土師器	A [15.8] B (12.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反し、「く」の字状をしている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面強いナデ。	砂粒・長石 浅黄橙色 普通	P79 20% 覆土上層 外面煤付着
25	甕 土師器	A [16.0] B (5.5)	口縁部の破片。口縁部はほぼ直立し口唇部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	P80 10% 覆土中層 外面煤付着
26	甕 土師器	B (14.2) C 6.6	底部から体部の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へら削り後ナデ。体部下端及び底部外面へら磨き。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	P81 25% 覆土中層
27	無蓋高坏 須恵器	A 17.0 B (6.2)	脚部欠損。脚部三方透かし。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に2本の凹線をもつ。口縁部は外反する。	2本の凹線の真下に6本1条の櫛描波状文を施す。	砂粒・長石 暗灰色 良好	P82 35% P L35 覆土中層 内面自然釉

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第24図28	紡錘車	4.1	4.1	1.6	0.8	35.0	滑石	南コーナー覆土	Q3 P L56
29	砥石	9.1	4.5	4.1	—	162.8	凝灰岩	東コーナー床面	Q4 P L56
第25図30	砥石	10.4	11.1	3.6	—	309.2	雲母片岩	南東壁際床面	Q5 P L56

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第25図31	鉄鍬	3.1	2.3	0.2	3.0	P ₂ 覆土	M2 P L57

第8号住居跡(第26図)

位置 調査区中央部、C3a1区。

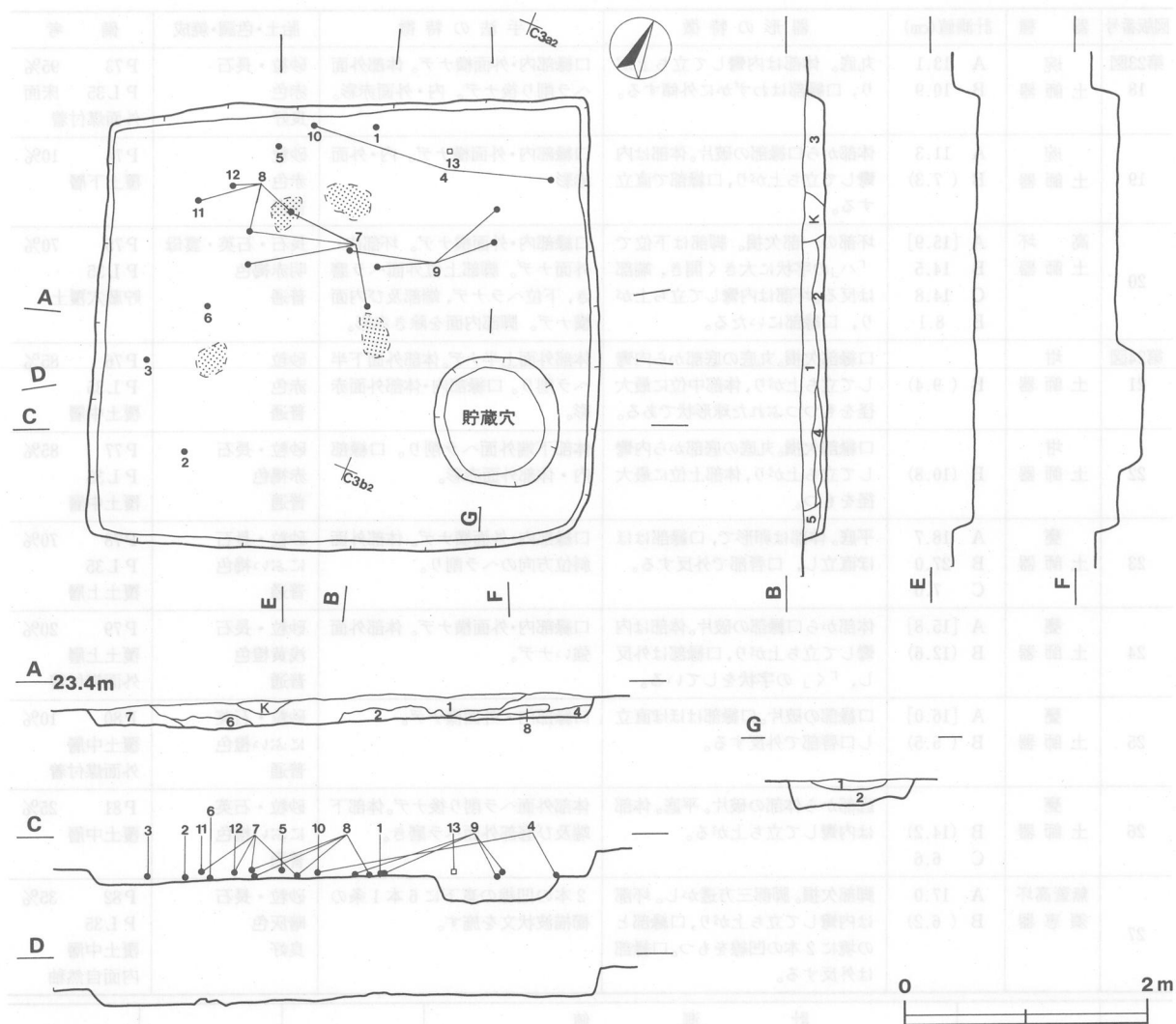
規模と平面形 長軸2.09m、短軸1.85mのほぼ方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高13~22cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦ではあるが、踏み締めた部分は見られない。

貯蔵穴 南東部に位置する。長軸112cm、短軸103cmのほぼ方形で、深さ20cmである。平坦な底面から僅かに外傾して立ち上がる。床面積の割合からするとかなり大型の貯蔵穴である。



第26図 第8号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|------|------------------|-------|---------------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 2 明褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |
|------|------------------|-------|---------------------------------|

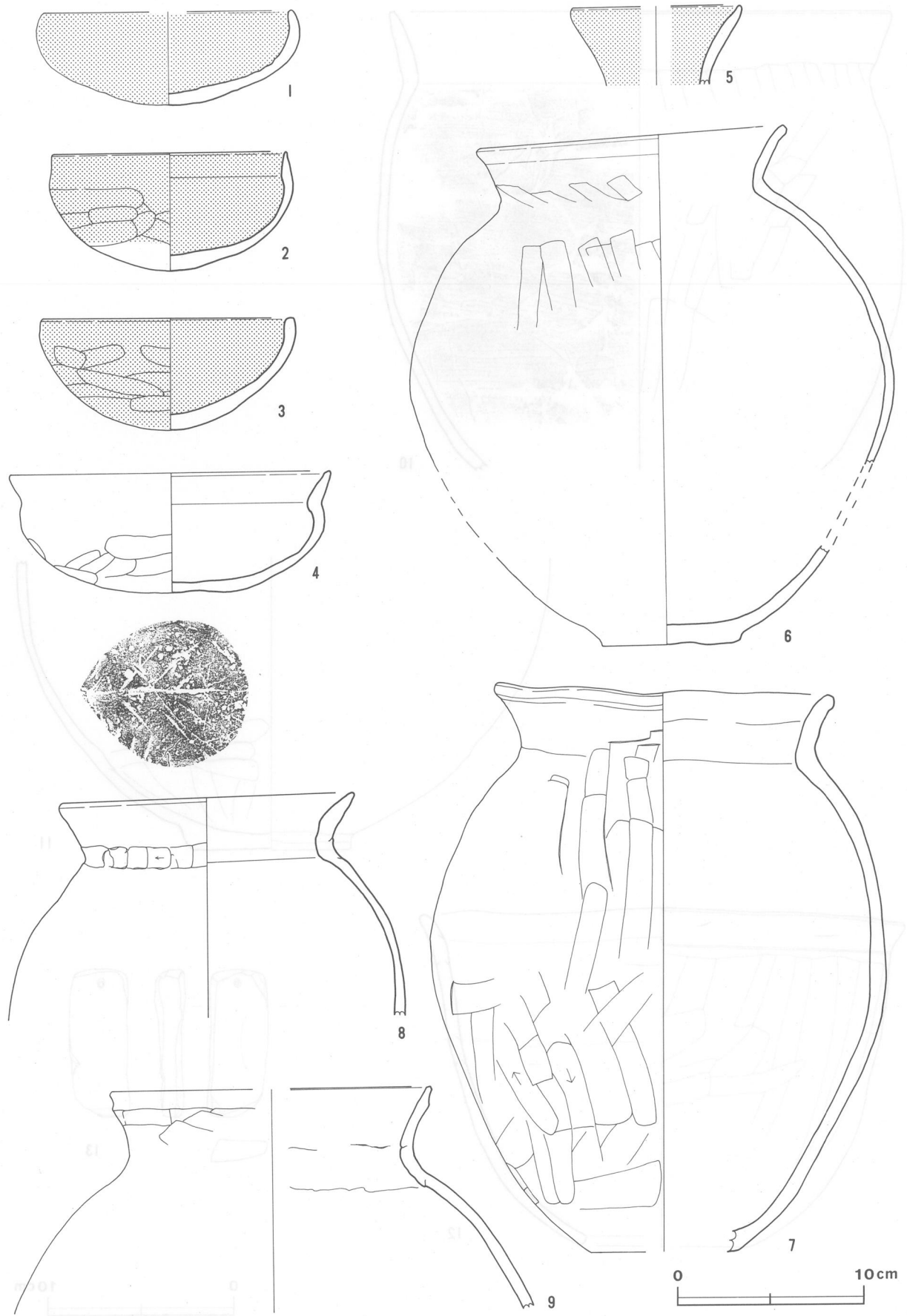
覆土 8層からなる。ロームブロック, 焼土, 炭化物を含む褐色土を主体とする人為堆積土層である。

土層解説

- | | | | |
|------|---------------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 褐色 | 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 6 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 | 7 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

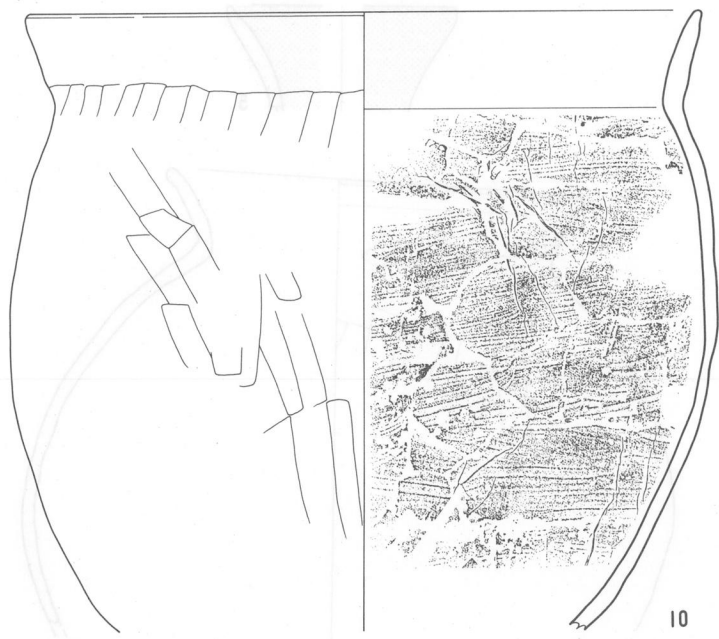
遺物 南西部及び北西部の床面に近い覆土最下層から遺物が出土しており, 図示した遺物の他に, 土師器環の口縁部片25点, 体部片128点, 甕の口縁部片20点, 体部片470点, 底部片5点と甕が特に多い。ほとんどが埋没過程で投棄された遺物であると思われる。

所見 本跡は, 床面積が狭いのに対し貯蔵穴が大型であり, 床面が踏み締められた様子もなく, 炉も持たない遺構であることから住居というよりは, 倉庫の役割の建物であった可能性も考えられる。覆土の堆積状態を見ると, ローム小ブロック・ローム粒子を含む層が堆積しており, 床面直上には焼土塊が見られることから, 焼失後人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は出土遺物などから6世紀初頭から前葉と思われる。

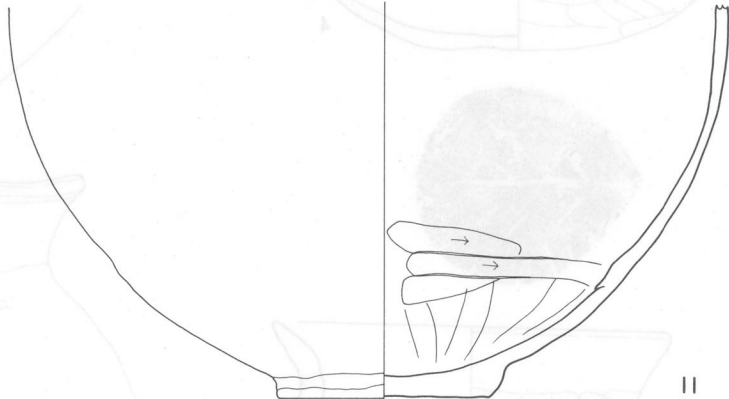


第27图 第8号住居跡出土遺物実測図(1)

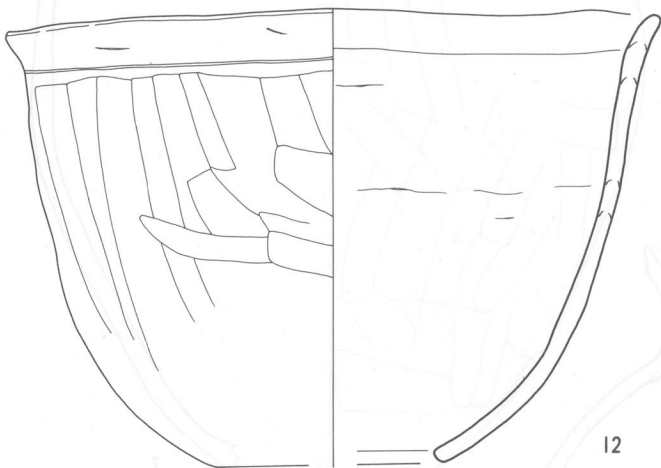
15 図版実物出土物番号1 表 図15表



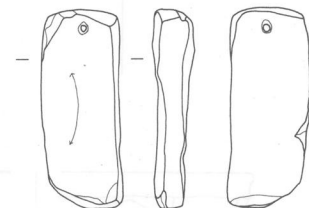
10



11



12



13



第28图 第8号住居跡出土遺物実測図(2)

第28图 第8号住居跡出土遺物実測図(2)

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考			
第27図 1	坏 土師器	A [13.4] B 5.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石 赤褐色 普通	P85 40% P L35 覆土下層			
2	坏 土師器	A 12.8 B 6.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面から体部外面赤彩。内・外面剝離。	砂粒・長石 暗赤褐色 普通	P84 90% P L35 覆土下層			
3	坏 土師器	A 13.8 B 6.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で直立する。口唇部は肥厚し、端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色、浅黄褐色 普通	P83 95% P L35 覆土下層			
4	坏 土師器	A 17.4 B 6.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。底部外面に木葉痕。	砂粒・石英 橙色 普通	P86 80% P L35 覆土下層			
5	埴 土師器	A 9.0 B (4.3)	口縁部のみが残存。口縁部は外傾して開く。	口縁部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P88 30% P L35 覆土上層			
6	甕 土師器	A 16.8 B [28.0] C 7.5	平底。体部は球形で、体部中位に最大径がある。頸部は「く」の字状で口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部から体部外面へラ削り。	砂粒 橙色 普通	P90 50% P L36 覆土上層			
7	甕 土師器	A 18.4 B 30.8 C [7.9]	底部欠損。体部は卵形で、体部中位に最大径がある。頸部は「く」の字状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部から体部外面へラ削り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P89 80% P L35 床面			
8	甕 土師器	A 16.0 B (12.1)	体部上半から口縁部の破片。内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部に粘土を貼り付けた後へラ削り。	砂粒 にぶい橙色 良好	P93 10% P L36 床面			
9	甕 土師器	A [17.4] B (12.1)	体部上半から口縁部の破片。内彎して立ち上がり口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部へラナデ。	砂粒・長石 橙色、普通	P94 15% 覆土下層			
第28図 10	甕 土師器	A 27.2 B (24.8)	底部から体部下端欠損。体部は卵形で、体部中位に最大径がある。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部から体部外面へラ削り。体部内面強いナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	P91 15% P L36 覆土下層			
11	甕 土師器	B (15.9) C 8.4	平底で、底部は突出する。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面下端へラナデ。内・外面剝離。	長石・石英 赤褐色 普通	P95 40% P L36 覆土上層			
12	甗 土師器	A 26.3 B 17.9 C 9.2	単孔式。体部は外傾して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・長石 橙色 普通	P96 30% P L36 覆土中層 口縁部煤付着			
図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第28図13	砥石	8.0	3.3	1.4	—	44.4	凝灰岩	北東コーナー床面	Q6 P L56

第9号住居跡 (第29図)

位置 調査区中央部、C2a5区。

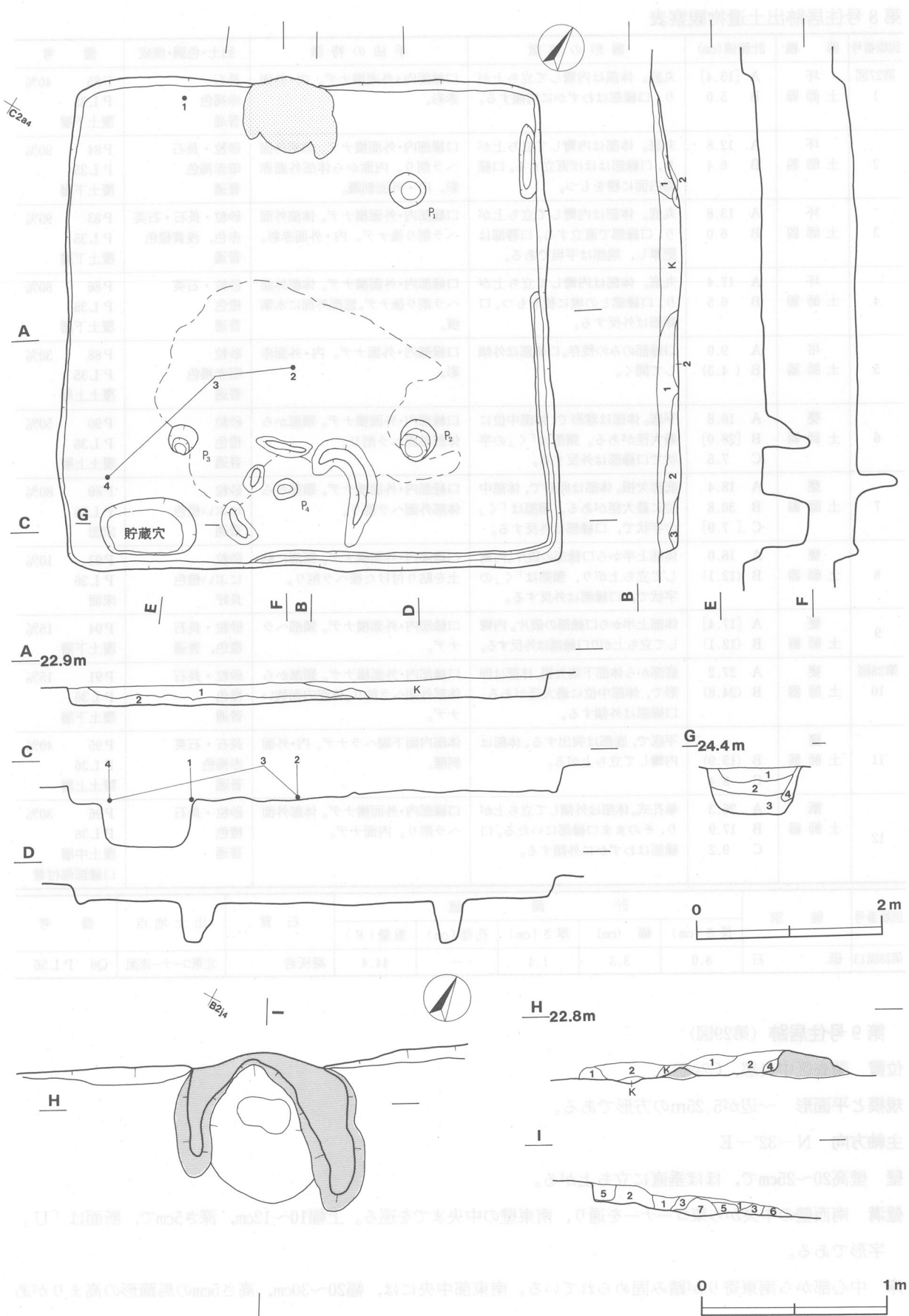
規模と平面形 一辺が5.25mの方形である。

主軸方向 N-32°-E

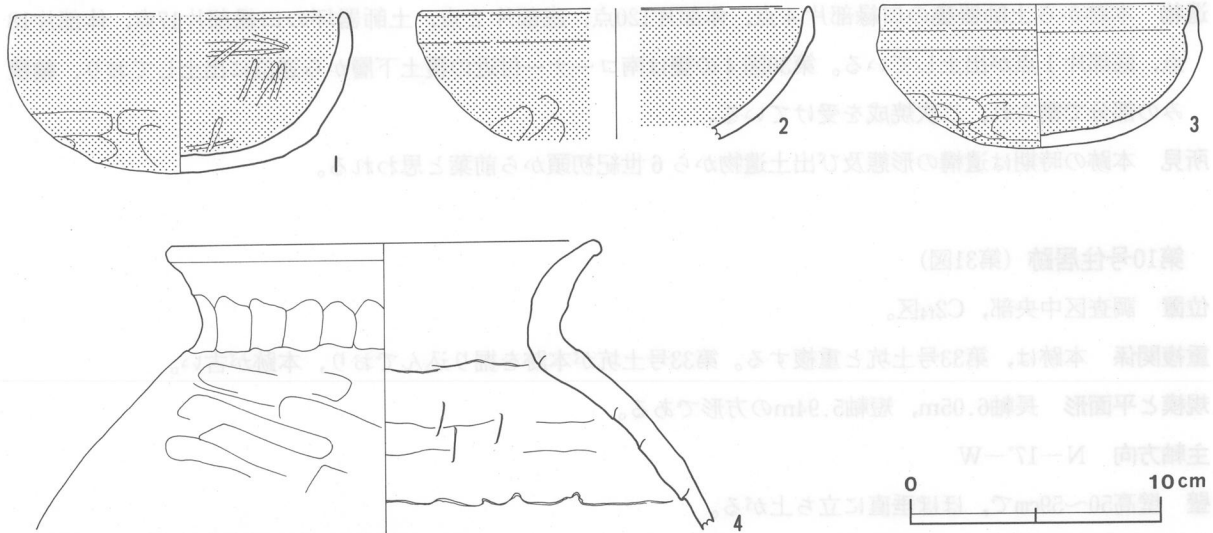
壁 壁高20~25cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南西壁の中央から東コーナーを通り、南東壁の中央までを巡る。上幅10~12cm、深さ5cmで、断面は「U」字形である。

床 中心部から南東寄りが踏み固められている。南東部中央には、幅20~30cm、高さ5cmの馬蹄形の高まりがあり、出入口施設に伴うものと思われる。



第29図 第9号住居跡実測図



第30図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第30図 1	坏 土師器	A [13.3] B 6.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。器壁は厚い。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。体部内面へら磨き。内・外面赤彩。	長石 赤褐色 普通	P97 80% P L35 床面
2	坏 土師器	A [15.9] B (5.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P99 20% P L36 床面
3	坏 土師器	A 12.5 B 5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色、浅黄橙色 普通	P98 60% P L36 覆土下層
4	壺 土師器	A 17.4 B (11.7)	体部上位から口縁部破片。頸部は「く」の字状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部から体部外面へら削り。	砂粒・長石 橙色 普通	P100 40% P L36 覆土下層

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₃は径32~40cm、深さ40~50cmで、支柱穴と考えられる。P₄は径25cm、深さ42cmで、馬蹄形の高まりの内側に位置し、出入口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南コーナーに位置する。長軸104cm、短軸60cmの長方形で、深さ45cmである。断面は箱形である。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 | 3 褐色 | ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 |

竈 北東壁中央部に砂まじりの白色粘土で構築している。幅98cm、奥行き93cmで、左袖部は耕作の攪乱により一部壊されている。両袖最大幅50cmで、壁外への掘り込みはなく、直線的に立ち上がり煙道部にいたる。

燃焼部は平坦で、床面とは、ほぼ同一レベルを示す。火床部及び内壁は赤変硬化している。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・白色粘土少量、焼土小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・白色粘土微量
- 3 にぶい赤褐色 白色粘土中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 4 褐色 白色粘土中量、焼土粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 焼土粒子・ローム粒子・白色粘土少量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子多量、白色粘土中量、焼土小ブロック少量

覆土 3層からなる。褐色土を主体とし、南西壁際には竈を構築していたと思われる白色粘土が堆積している。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック、ローム粒子少量 | 2 明褐色 | ローム粒子多量 |
| | | 3 灰黄色 | 白色粘土多量、炭化粒子ローム粒子少量 |

遺物 本跡から土師器甕の口縁部片4点、体部片120点、底部片2点、土師器坏の口縁部片17点、体部片18点、底部片1点が出土している。第30図4の甕は南コーナー付近の覆土下層から逆位に出土しており、輪積みの部分で割られ、二次焼成を受けている。

所見 本跡の時期は遺構の形態及び出土遺物から6世紀初頭から前葉と思われる。

第10号住居跡（第31図）

位置 調査区中央部，C24区。

重複関係 本跡は，第33号土坑と重複する。第33号土坑が本跡を掘り込んでおり，本跡が古い。

規模と平面形 長軸6.05m，短軸5.94mの方形である。

主軸方向 N-17°-W

壁 壁高50～59cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁中央の高まりの部分を除いて，全壁下を巡っている。上幅10～15cm，深さ3～7cmで，断面は「U」字形である。

間仕切溝 2条（a，b）。南壁寄り中央部の馬蹄形の高まりの西側から1条（a），西壁から1条（b）が中央に向かって延びている。上幅15～20cm，深さ5～20cmで，断面は「U」字形である。

床 平坦で，中心部が踏み固められている。南壁寄り中央部には幅25～50cm，高さ10cmの馬蹄形の高まりがあり，出入口施設と思われる。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は径30～50cm，深さ50～70cmで，支柱穴と考えられる。P5は径25cm，深さ15cmで，出入口施設と思われる馬蹄形の高まりの内側にあり，出入口に伴うピットと考えられる。

炉 中央から北東寄りにある。長径65cm，短径55cmの楕円形の地床炉であり，遺存状況は良くない。

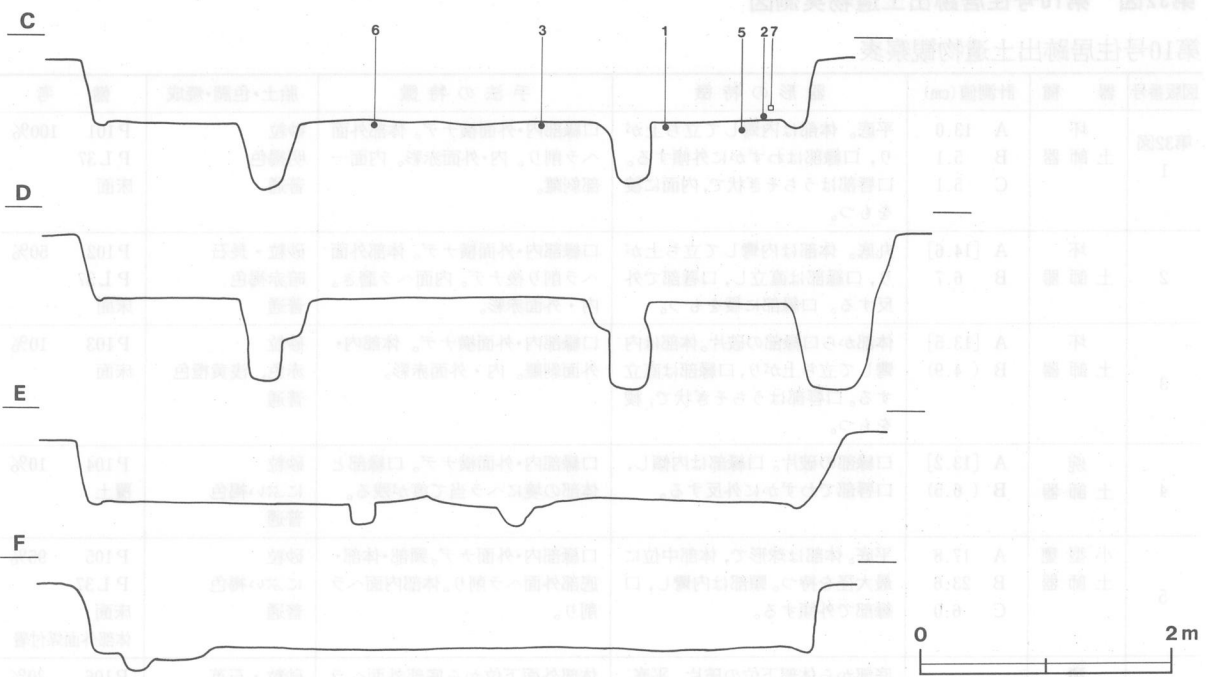
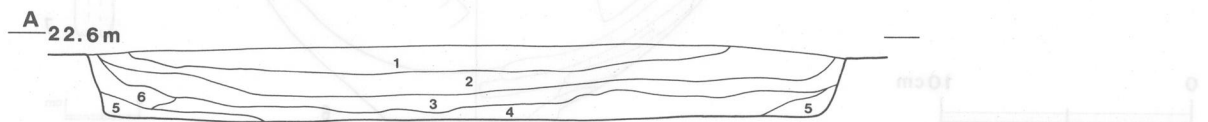
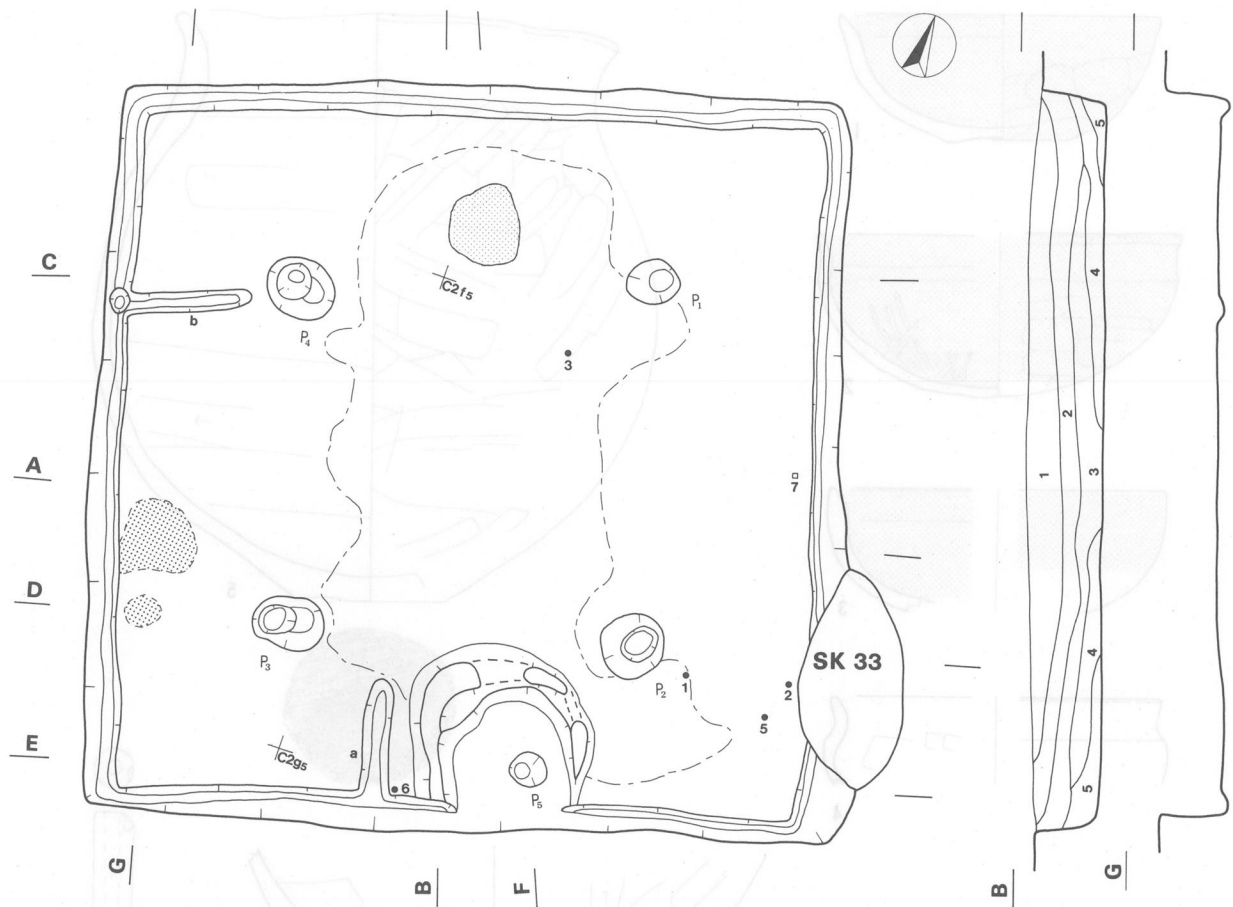
覆土 6層からなる自然堆積土層である。壁際と床面上に焼土塊と炭化材がみられる。

土層解説

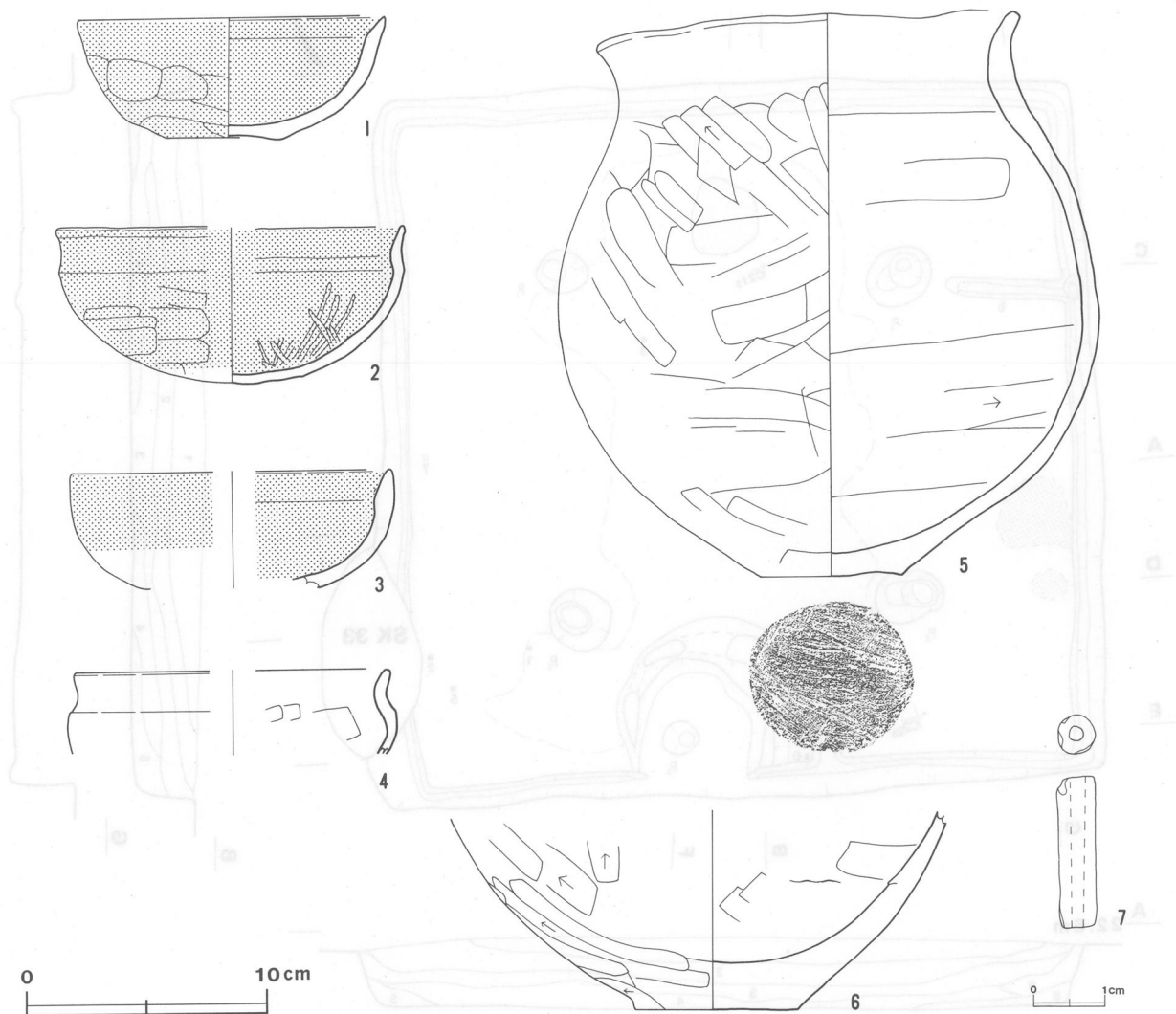
1 暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	4 褐色	ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量	5 褐色	ローム粒子多量，炭化物・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 本跡からは図示した遺物の他に，土師器坏の口縁部片10点，体部片82点，底部片1点，土師器甕の口縁部片13点，体部片143点，底部片2点が出土している。第32図1・2の坏，5の小型甕は南東コーナー部の床面，7の管玉は東壁際の覆土下層から出土している。

所見 覆土の堆積状態をみると，床面上には焼土塊や炭化材がみられ，床面直上から遺物の出土が少ないことから，住居が廃棄された後に焼失し，その後自然堆積したものと思われる。時期は出土遺物等から5世紀後葉と思われる。



第31图 第10号住居跡実測图



第32図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第32図 1	坏 土師器	A 13.0 B 5.1 C 5.1	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。口唇部はうちそぎ状で、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内・外面赤彩。内面一部剥離。	砂粒 明褐色 普通	P101 100% P L37 床面
2	坏 土師器	A [14.6] B 6.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立し、口唇部で外反する。口縁部に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面へら磨き。内・外面赤彩。	砂粒・長石 暗赤褐色 普通	P102 50% P L37 床面
3	坏 土師器	A [13.5] B (4.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部はうちそぎ状で、稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面剥離。内・外面赤彩。	砂粒 赤色、浅黄橙色 普通	P103 10% 床面
4	碗 土師器	A [13.2] B (6.5)	口縁部の破片。口縁部は内傾し、口唇部でわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部と体部の境にへら当て痕が残る。	砂粒 にぶい褐色 普通	P104 10% 覆土
5	小型甕 土師器	A 17.8 B 23.6 C 6.0	平底。体部は球形で、体部中位に最大径を持つ。頸部は内彎し、口縁部で外傾する。	口縁部内・外面ナデ。頸部・体部・底部外面へら削り。体部内面へら削り。	砂粒 にぶい褐色 普通	P105 95% P L37 床面 体部外面煤付着
6	甕 土師器	B (8.3) C 6.9	底部から体部下位の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位から底部外面へら削り。体部内面へらナデ。	砂粒・石英 赤褐色 普通	P106 30% 床面 体部煤付着

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第32図7	管玉	2.1	0.5	—	0.2	1.2	グリーンタフ	東壁際覆土下層	Q7 P L55

第11号住居跡 (第33図)

位置 調査区西端中央部, C2h2区。

規模と平面形 長軸5.45m, 短軸4.98mの長方形である。

長軸方向 N-54°-E

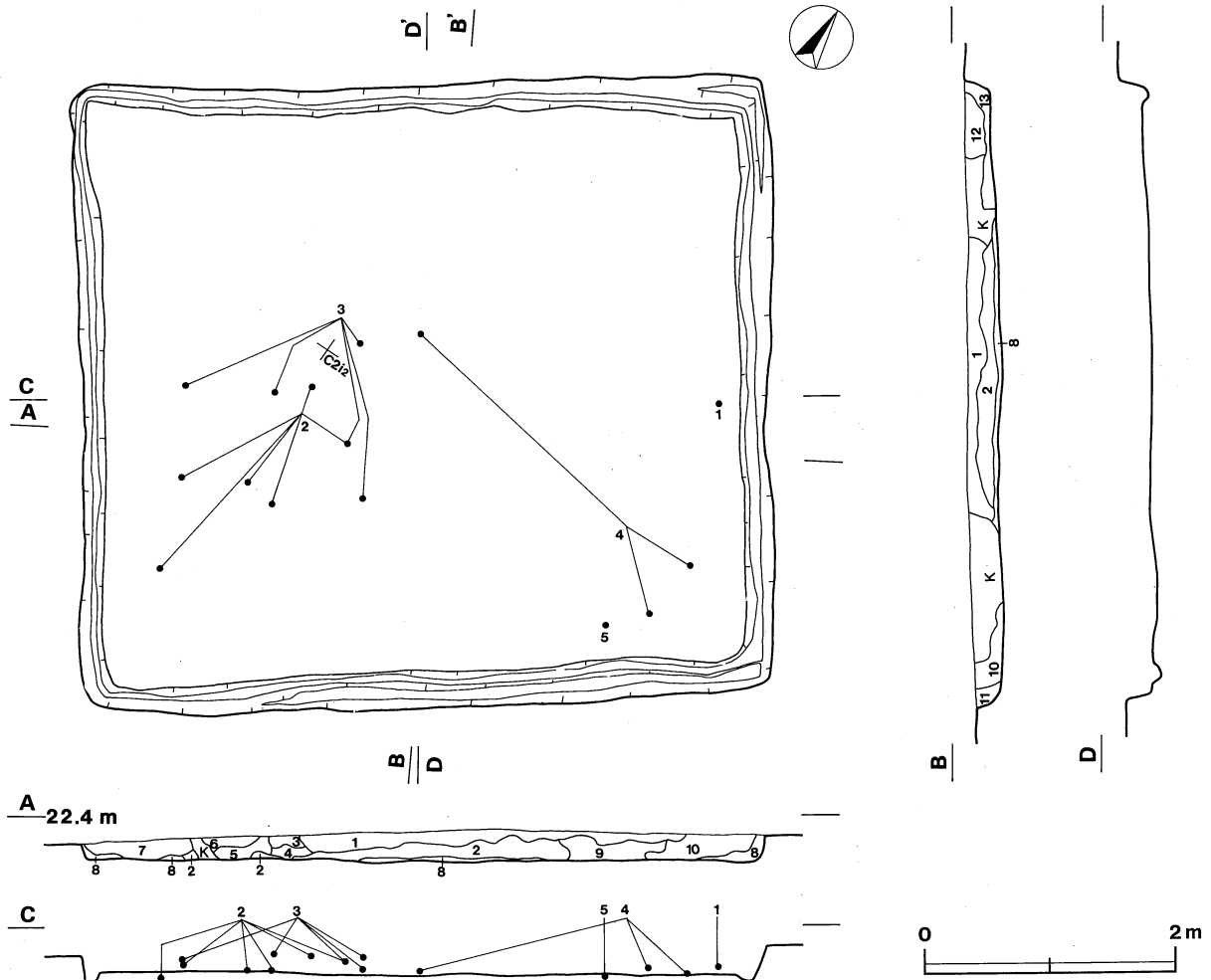
壁 壁高10~22cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し, 上幅9~13cm, 深さ5~10cmで, 断面は「U」字形や逆台形である。

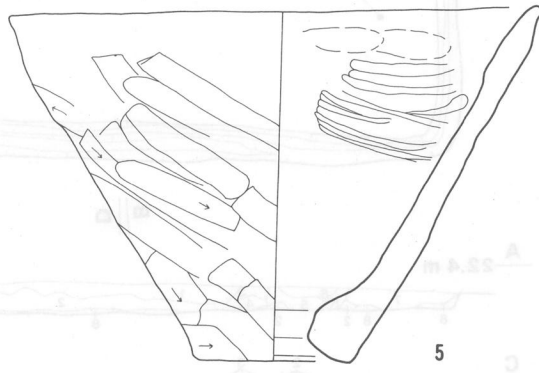
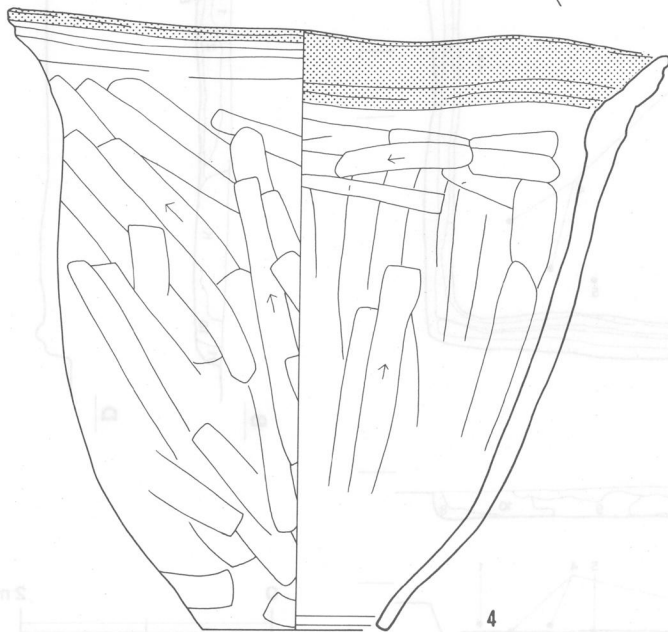
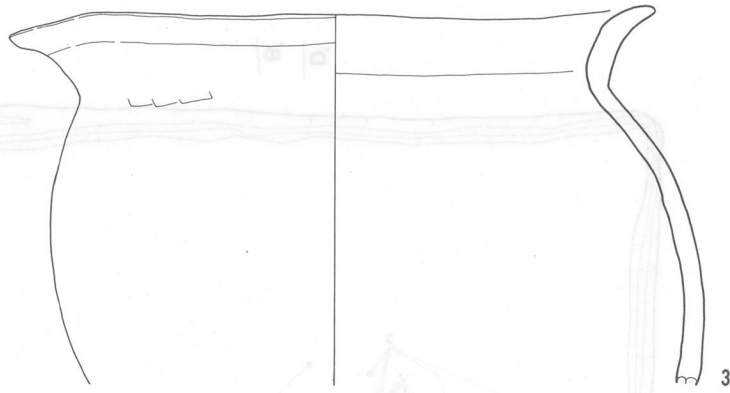
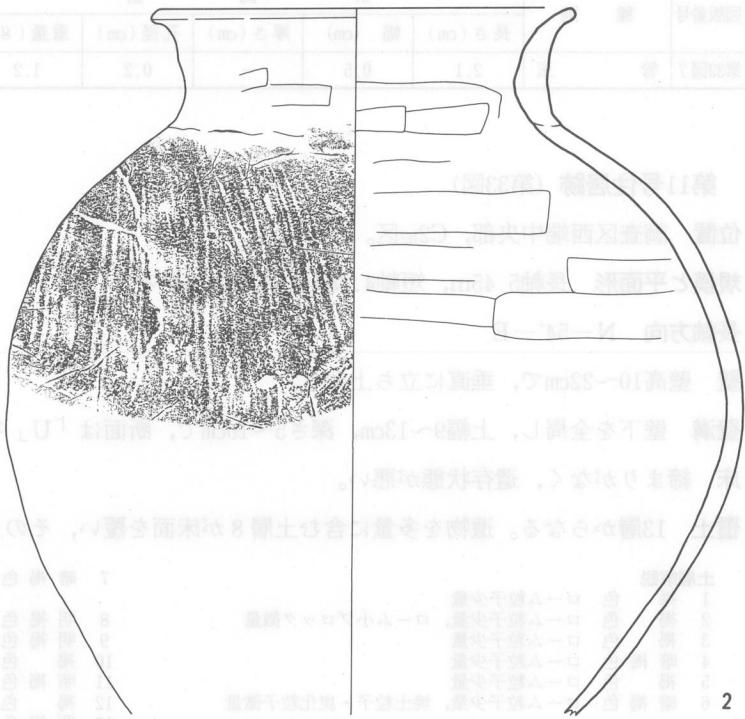
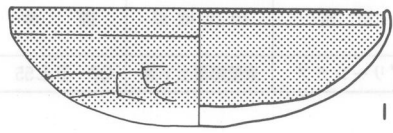
床 締まりがなく, 遺存状態が悪い。

覆土 13層からなる。遺物を多量に含む土層8が床面を覆い, その上に褐色土が主体となって堆積している。

- | 土層解説 | | | |
|------|-----|----------------------|--------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子少量 | 7 暗褐色 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 8 明褐色 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子少量 | 9 明褐色 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量 | 10 褐色 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子少量 | 11 明褐色 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 12 褐色 |
| | | | 13 明褐色 |



第33図 第11号住居跡実測図



第34図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第34図 1	坏 土師器	A [15.3] B 4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P107 95% P L37 床面
2	甕 土師器	A [17.3] B (28.4)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部は直立し、口縁部は短く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部板状工具によるナデ。体部上位ハケ状工具によるナデ後へラ削り。体部下位へラ削り。体部内面板状工具によるナデ。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P108 60% P L37 床面
3	甕 土師器	A [25.8] B (15.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部にへラ当て痕を残す。内・外面剝離。	砂粒 浅黄橙色 普通	P109 20% P L37 覆土
4	甗 土師器	A 26.7 B 24.9 C 7.9	単孔式。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面上半へラ削り、下半へラナデ。口縁部内・外面赤彩。	砂粒・長石 橙色 普通	P110 95% P L37 床面、覆土下層 体部外面煤付着
5	甗 土師器	A 21.4 B 14.5 C 6.1	単孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内面ハケナデ後指ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P111 95% P L38 床面

遺物 本跡からは図示した遺物の他に、土師器坏の口縁部片2点、体部片2点、底部1点、土師器甕の口縁部片4点、体部片155点、底部片3点が出土しており、圧倒的に甕が多い。第34図1の坏は北東壁際中央部の床面から、5の甗は東コーナーの床面から、それぞれ伏せた状態で出土している。2の甕は南西壁際床面のものと同中央寄りの覆土上層のものが接合している。4の甗は中央部と東コーナー近くの床面から出土している。

所見 本跡は、床面の遺存状態が悪かったため、炉、貯蔵穴及び柱穴等の内部施設が確認できなかったが、規模は他の住居跡と同程度の大きさで、壁溝も全周していることから住居跡とした。時期は砲弾型の甗が出土していることから6世紀初頭から前葉と考えられる。

第12号住居跡 (第35図)

位置 調査区中央部、C3f3区。

規模と平面形 長軸6.74m、短軸6.61mの長方形である。

主軸方向 N-7°-E

壁 壁高30~45cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 東壁下の一部と南壁下の一部に見られる。上幅13cmで、深さ4cm程掘り窪めている。

間仕切溝 3条(a~c)。東壁から1条(a)、西壁から2条(b・c)、中央に向かって延びている。

上幅15~20cm、深さ6~10cmで、断面は「U」字形である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は径30~35cmの円形で、深さ55~75cmであり、支柱穴と思われる。P5は径25~30cmの楕円形で、深さ7cmである。位置と形状から出入り口施設に伴うピットと思われる。

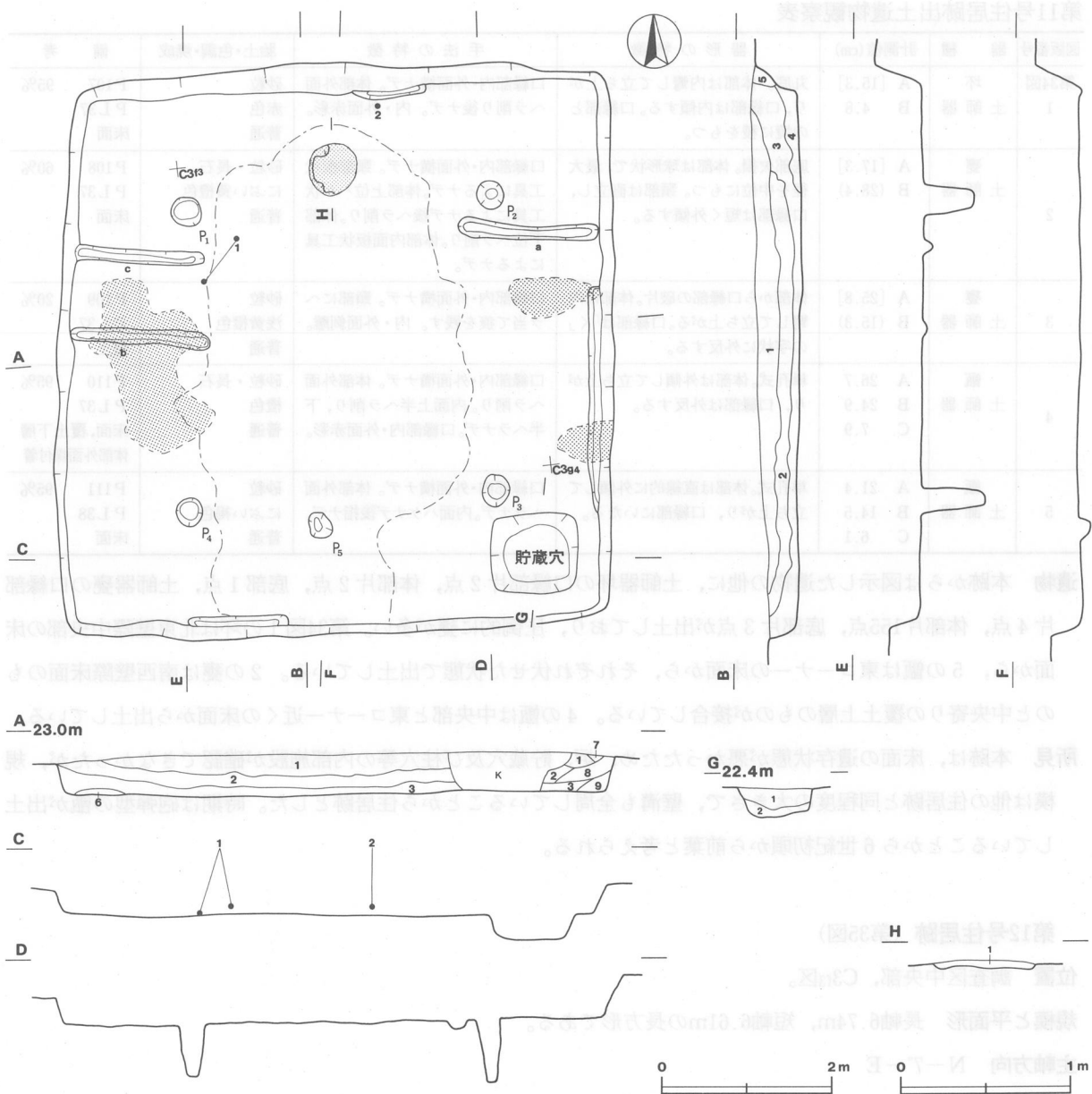
貯蔵穴 南東コーナーに位置し、1辺が100cmの方形で、深さ30cmであり、平坦な底面から外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

炉 北壁寄り中央部に位置し、径60cmの円形の地床炉である。

覆土 9層からなる。焼土粒子、炭化物、ローム小ブロックを含む褐色土、暗褐色土が主体となっている。



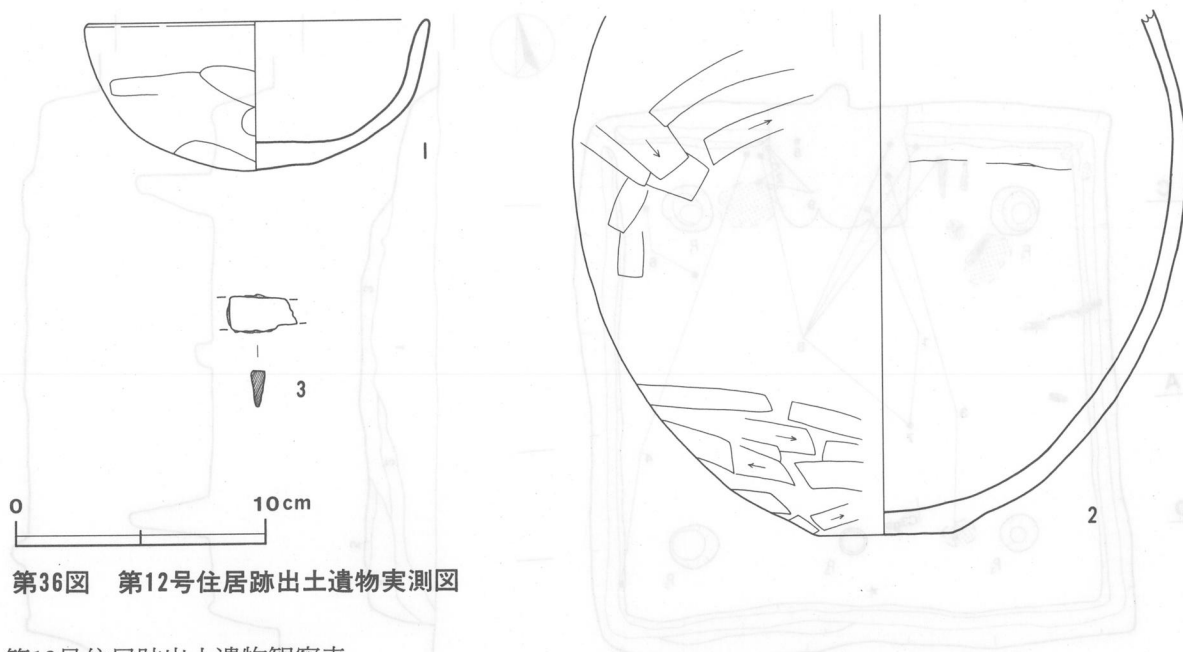
第35図 第12号住居跡実測図

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量	5	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
2	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量	6	赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
3	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・炭化物・ローム小ブロック微量	7	暗褐色	ローム粒子微量
4	にぶい褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量	8	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
			9	明褐色	ローム粒子多量

遺物 覆土下層の暗褐色土中からの出土がほとんどで、土師器杯の口縁部片13点、体部片30点、土師器甕の体部片162点、底部片7点、土師器鉢の口縁部片1点が出土している。第36図1の杯は床面と覆土下層のものが接合している。2の甕は北壁際の覆土下層から出土している。

所見 床面直上には炭化材や焼土、壁際には焼土塊が見られ、床面直上からの遺物の出土が少ないことから、住居が廃棄された後に焼失し、その後自然堆積したものと思われる。時期は出土遺物等から5世紀後葉と思われる。



第36図 第12号住居跡出土遺物実測図

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第36図 1	坏 土師器	A 13.9 B 3.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。底部は肥厚している。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面から底部外面へラ削り。	砂粒 黄橙色 普通	P112 50% 床面, 覆土下層
2	甕 土師器	B (20.9) C 5.9	底部から体部下位の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面から底部外面へラ削り。	砂粒 明黄褐色 普通	P113 30% 覆土下層 煤付着

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第36図3	刀子	(2.9)	1.6	0.5	3.4	覆土	M3 P L57

第13号住居跡 (第37図)

位置 中央部東寄り, C3f9区。

規模と平面形 一辺4.32mの方形である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高48~63cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

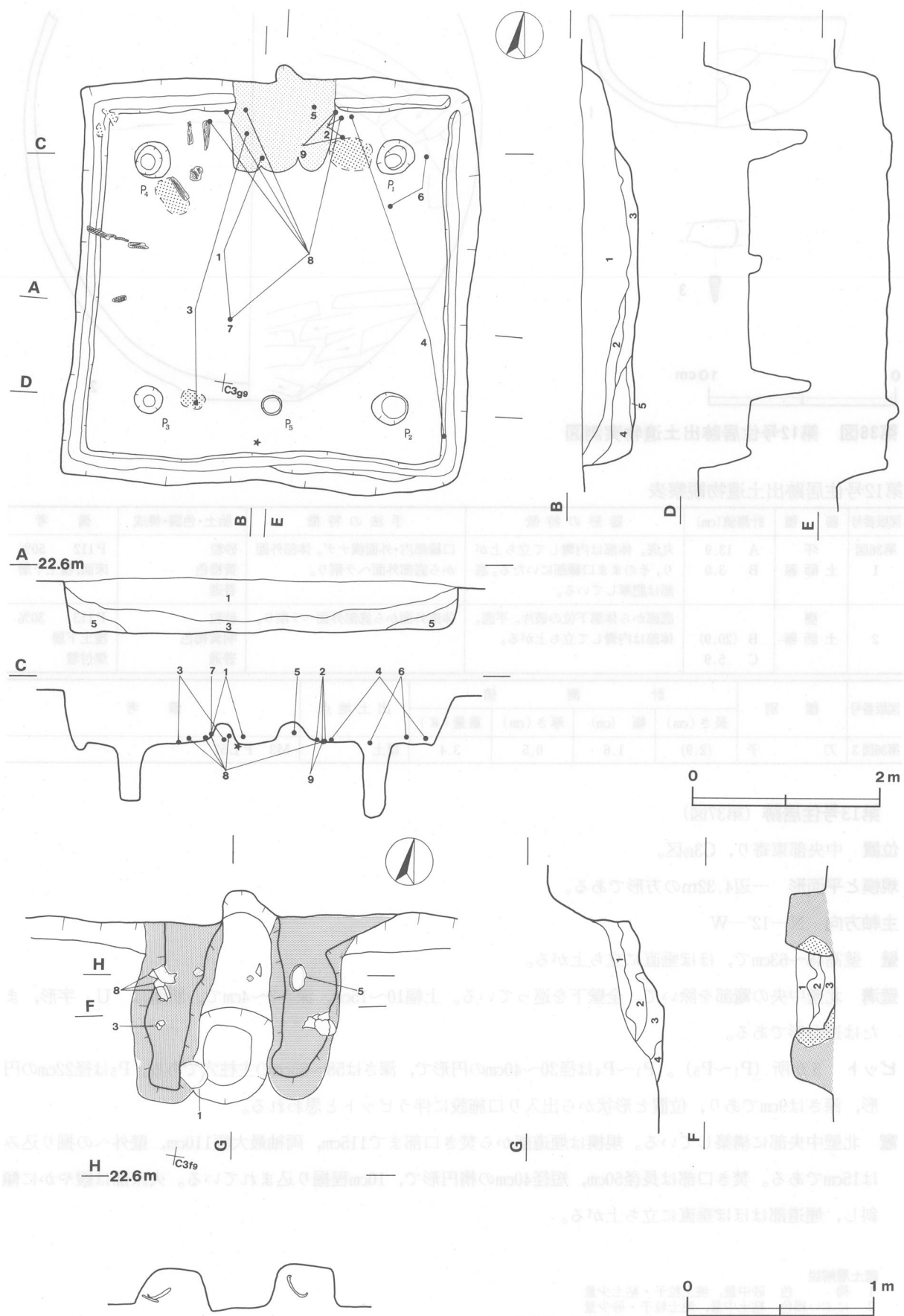
壁溝 北壁中央の竈部を除いて、全壁下を巡っている。上幅10~15cm, 深さ2~4cmで、断面は「U」字形、または逆台形である。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は径30~40cmの円形で、深さは58~80cmの主柱穴である。P5は径22cmの円形、深さは9cmであり、位置と形状から出入り口施設に伴うピットと思われる。

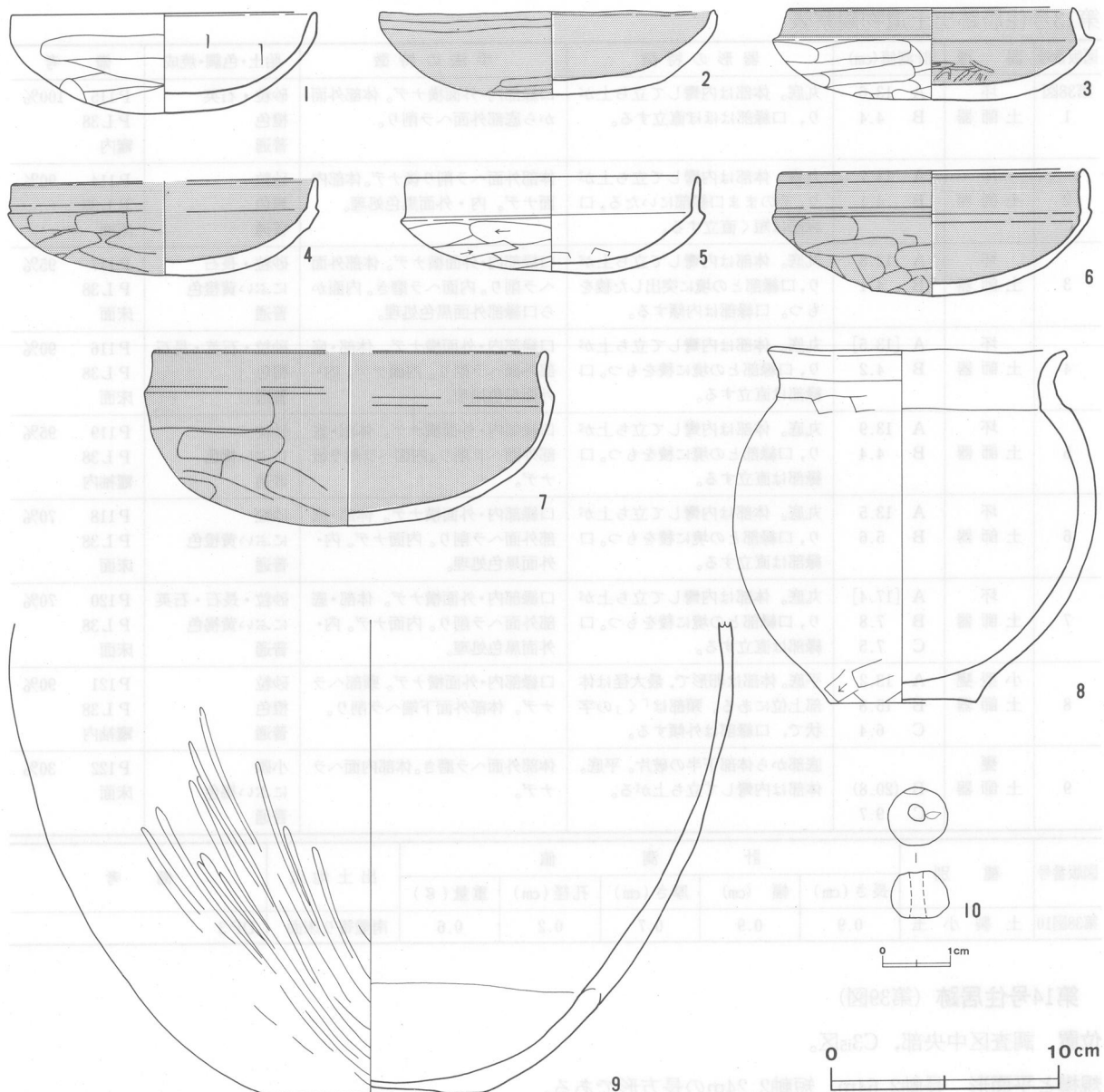
竈 北壁中央部に構築している。規模は煙道部から焚き口部まで115cm, 両袖最大幅110cm, 壁外への掘り込みは15cmである。焚き口部は長径50cm, 短径40cmの楕円形で、10cm程掘り込まれている。火床部は緩やかに傾斜し、煙道部はほぼ垂直に立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐色 砂中量, 焼土粒子・粘土少量
- 2 におい褐色 粘土中量, 焼土粒子・砂少量
- 3 明赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 砂微量
- 4 褐色 焼土粒子少量, 砂微量



第37図 第13号住居跡実測図



第38図 第13号住居跡出土遺物実測図

覆土 5層からなる。焼土粒子、炭化粒子及びローム粒子を含む褐色土、暗褐色土を主体とする自然堆積土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量

遺物 本跡からは図示した他に、土師器環の口縁部片11点、体部片31点、土師器甕の口縁部片1点、体部片29点、支脚片1点が出土している。第38図1の坏は竈内から正位の状態で、2の坏、9の甕は竈の東側から押し潰された状態で出土している。3の坏は南壁寄り出土のものと竈袖部出土の離れた位置のものが接合している。5の坏、8の小型甕はそれぞれ竈袖内から出土している。4・6・7の坏も床面から出土している。大部分の遺物は住居廃絶時のものと思われる。

所見 床面直上には炭化材、焼土塊が多量に出土しており、住居が焼失した後に自然堆積したと思われる。時期は遺構の形態や出土遺物から6世紀後葉と思われる。

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考		
							第38図 1	坏 土師器
2	坏 土師器	A 14.7 B 4.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口縁部は短く直立する。	体部外面へラ削り後ナデ。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 黒色 普通	P114 90% P L37 床面		
3	坏 土師器	A 12.8 B 4.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラ磨き。内面から口縁部外面黒色処理。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P117 95% P L38 床面		
4	坏 土師器	A [13.5] B 4.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・石英・長石 橙色 普通	P116 90% P L38 床面		
5	坏 土師器	A 13.9 B 4.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面へラ削り後ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P119 95% P L38 竈袖内		
6	坏 土師器	A 13.5 B 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P118 70% P L38 床面		
7	坏 土師器	A [17.4] B 7.8 C 7.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面黒色処理。	砂粒・長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P120 70% P L38 床面		
8	小型壺 土師器	A 13.2 B 15.8 C 6.4	平底。体部は卵形で、最大径は体部上位にある。頸部は「く」の字状で、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部へラナデ。体部外面下端へラ削り。	砂粒 橙色 普通	P121 90% P L38 竈袖内		
9	壺 土師器	B (20.8) C 9.7	底部から体部下半の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ磨き。体部内面へラナデ。	小礫 にぶい褐色 普通	P122 30% 床面		
図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第38図10	土製小玉	0.9	0.9	0.7	0.2	0.6	南壁寄り床面	DP3

第14号住居跡 (第39図)

位置 調査区中央部, C3i5区。

規模と平面形 長軸2.64m, 短軸2.24mの長方形である。

主軸方向 N-53°-E

壁 壁高7~13cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 踏み締められて硬化した面は認められない。

炉 中央部から北東寄りに位置し、長径73cm, 短径55cmの楕円形で、3cmほど皿状に掘り込んだ地床炉である。

炉床は火熱を受けている程度である。

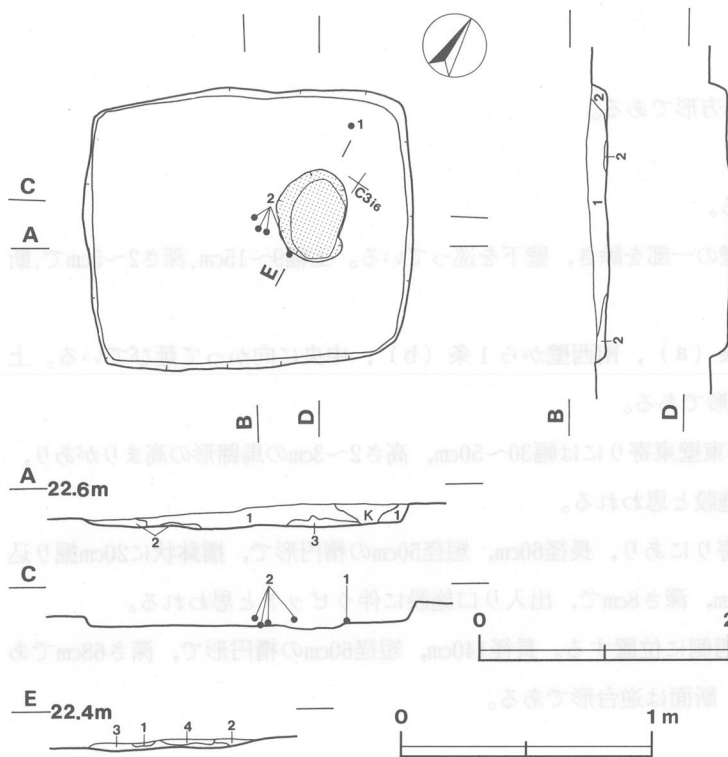
炉土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 赤褐色 焼土粒子中量
- 3 赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 4 明赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子・炭化粒子微量

覆土 3層からなる。土層1の暗褐色土が覆土の主体となる。

土層解説

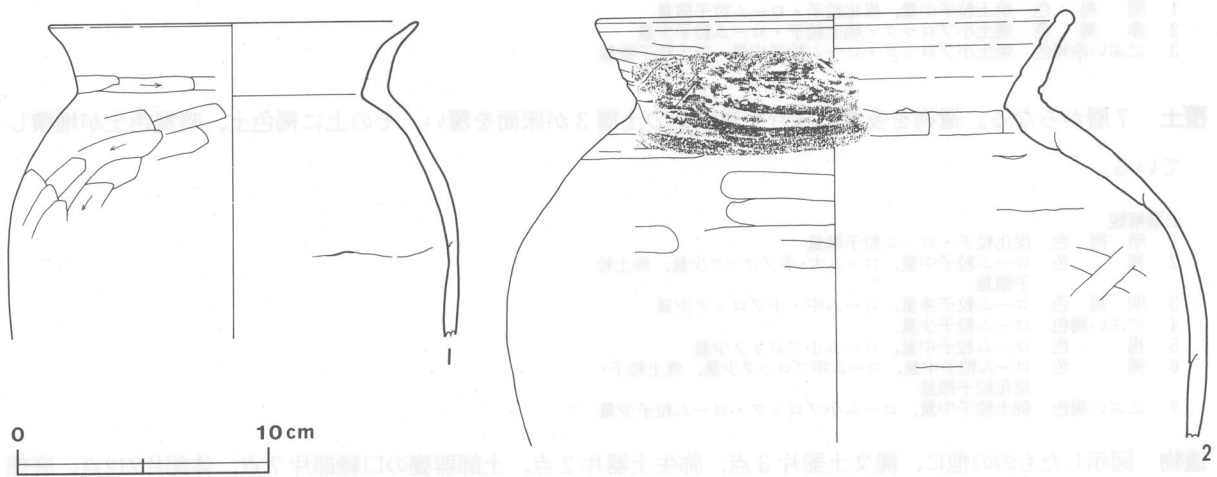
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量



第39図 第14号住居跡実測図

遺物 土師器甕の口縁部片1点、体部片52点、底部片2点、土師器杯の口縁部片2点と遺物の量は少なく、図示できたのは2点である。第40図1の小型甕は床面から、2の甕は覆土からの出土である。

所見 本跡は、炉は付設されてはいるが床の硬化面はみられず、かなり小規模な住居跡である。時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。



第40図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第40図 1	小型甕 土師器	A [14.9] B (12.6)	体部から口縁部の破片。体部は卵形で、頸部は「く」の字状である。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部から体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P123 30% PL38 床面
2	甕 土師器	A 19.1 B (17.2)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、最大径は体部上位にもつ。口縁部は「く」の字状に外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ状工具による強いナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒 明黄褐色 普通	P124 20% 覆土 口縁部煤付着

第15号住居跡 (第41図)

位置 調査区中央部やや東側, C3j8区。

規模と平面形 長軸6.82m, 短軸5.18mの長方形である。

主軸方向 N-33°-W

壁 壁高20~25cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東壁南半分, 北西壁の一部, 南西壁の一部を除き, 壁下を巡っている。上幅9~15cm, 深さ2~5cmで, 断面は「U」字形である。

間仕切溝 2条 (a・b)。北東壁から1条 (a), 南西壁から1条 (b), 中央に向かって延びている。上幅15~20cm, 深さ8cmで, 断面は「U」字形である。

床 平坦で, 全面が踏み締められている。南東壁東寄りには幅30~50cm, 高さ2~3cmの馬蹄形の高まりがあり, 特にこの周囲が硬化しており, 出入り口施設と思われる。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は北壁の西寄りにあり, 長径60cm, 短径50cmの楕円形で, 掘鉢状に20cm掘り込んでいる。性格は不明である。P₂は径17cm, 深さ8cmで, 出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴 南東壁際中央部の出入り口施設の西側に位置する。長径140cm, 短径60cmの楕円形で, 深さ68cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり, 断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 4 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量

炉 中央部北西寄りにあり, 長径70cm, 短径50cmの楕円形で, 5cmほど皿状に掘り込んだ地床炉である。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

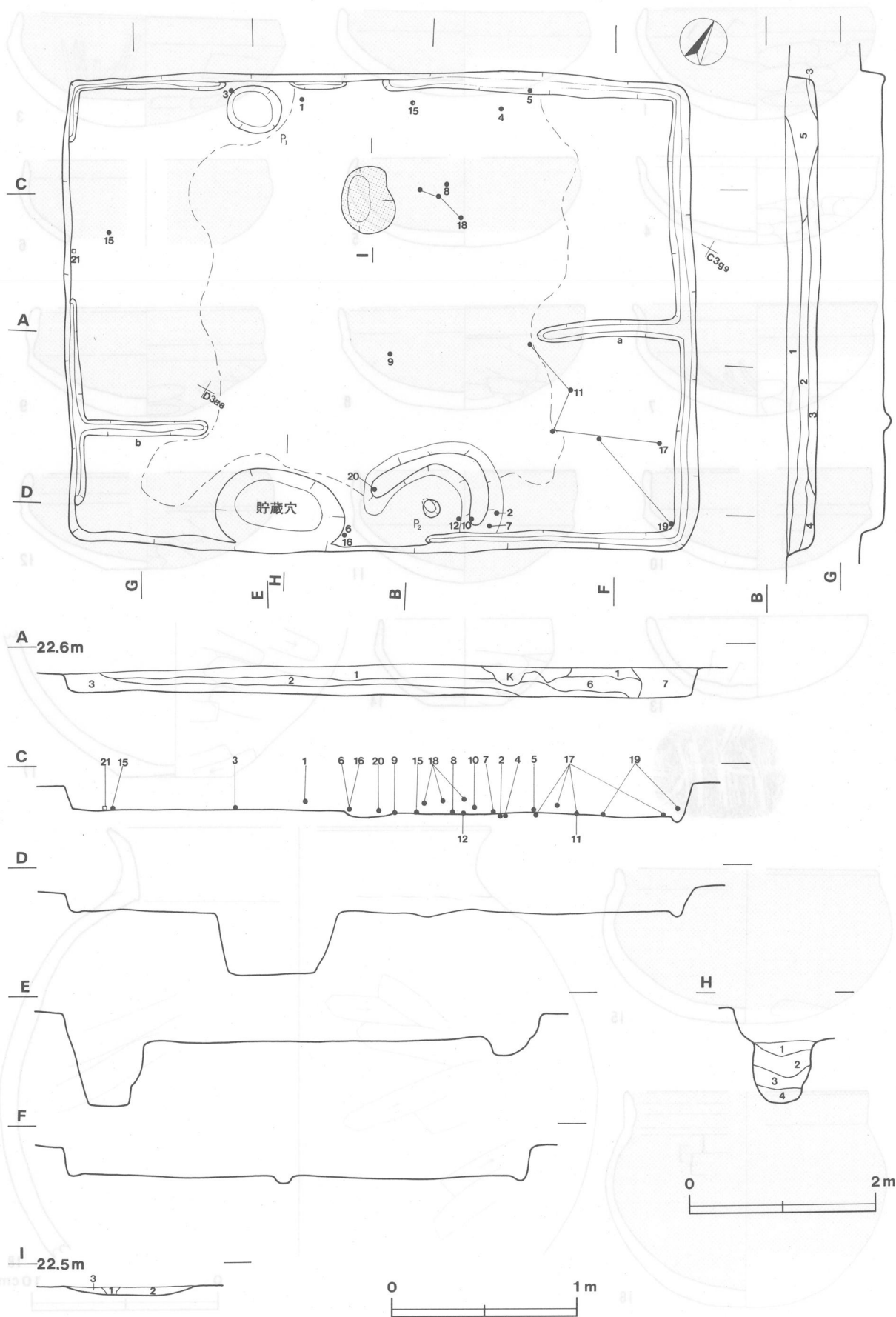
- 1 明褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

覆土 7層からなる。遺物を多量に含む明褐色土の土層3が床面を覆い, その上に褐色土, 暗褐色土が堆積している。

土層解説

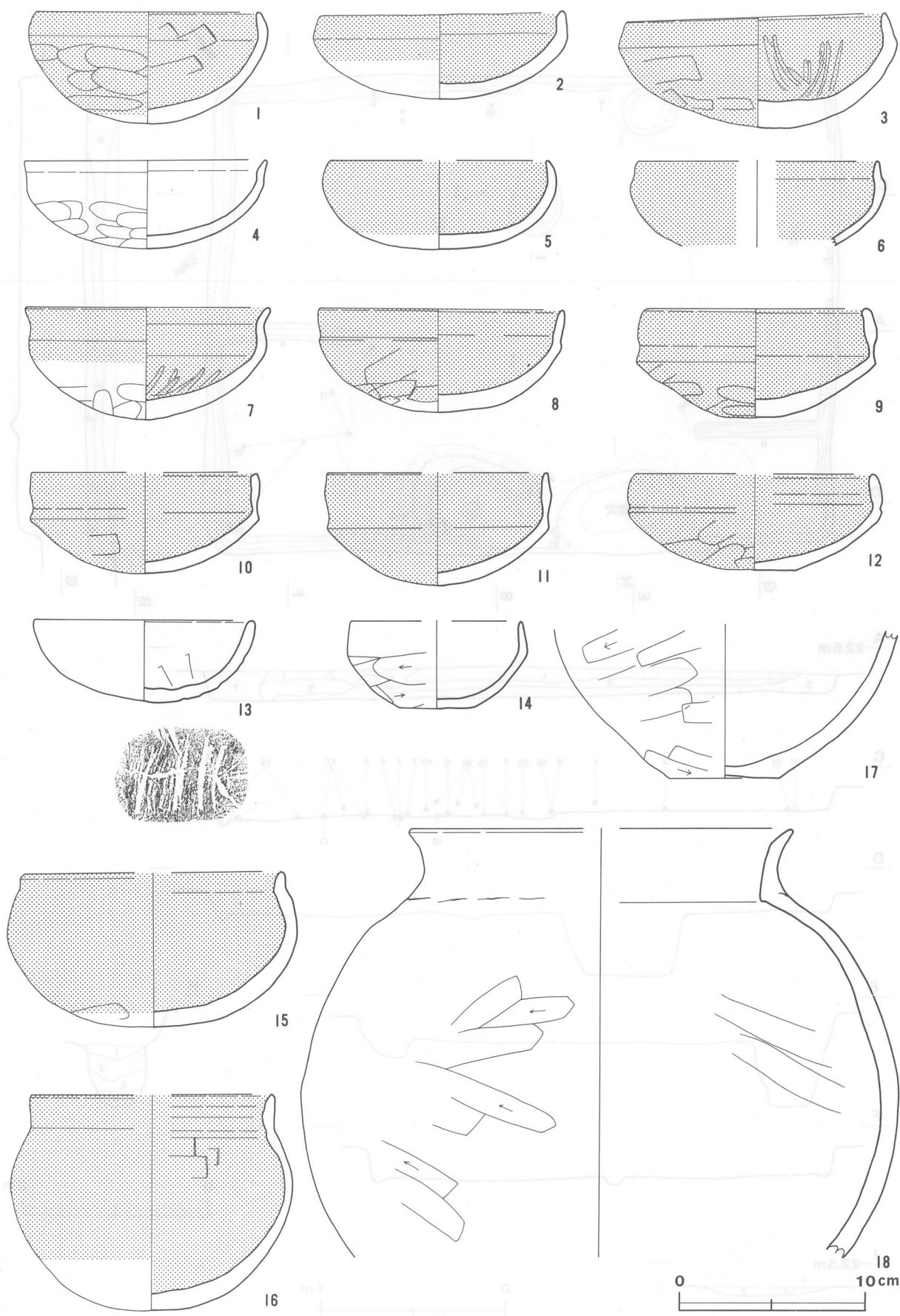
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム大・中ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 にぶい褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 図示したものの他に, 縄文土器片3点, 弥生土器片2点, 土師器甕の口縁部片7点, 体部片212点, 底部片12点, 土師器杯の口縁部片39点, 体部片198点, 底部片2点, 土師器甕の底部片1点が出土している。出土状況は, 覆土最下層の土層3からの出土が最も多い。第42・43図2・6・10・12・14・16の坏・碗は南東壁際の出入り口施設と思われる馬蹄形の高まり周辺の床面から, 1・3・4・5の坏は北西壁際床面から逆位・斜位の状態で出土しており, 投棄されたものと思われる。11の坏, 17・19の甕は東コーナー付近から出土し, 南西壁際からは15の碗と21の砥石が隣接して出土している。



第41図 第15号住居跡実測図

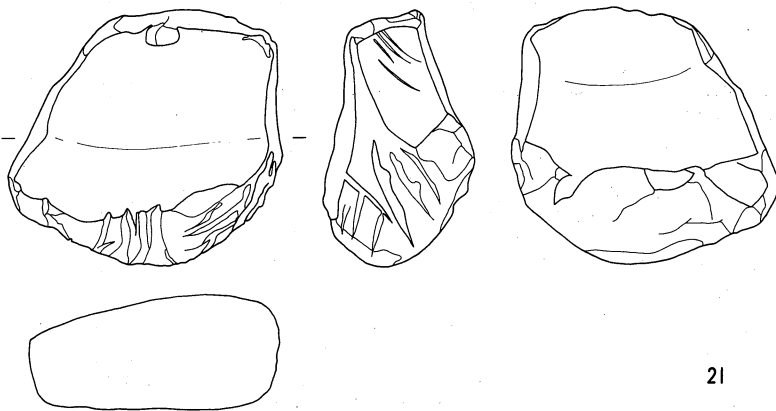
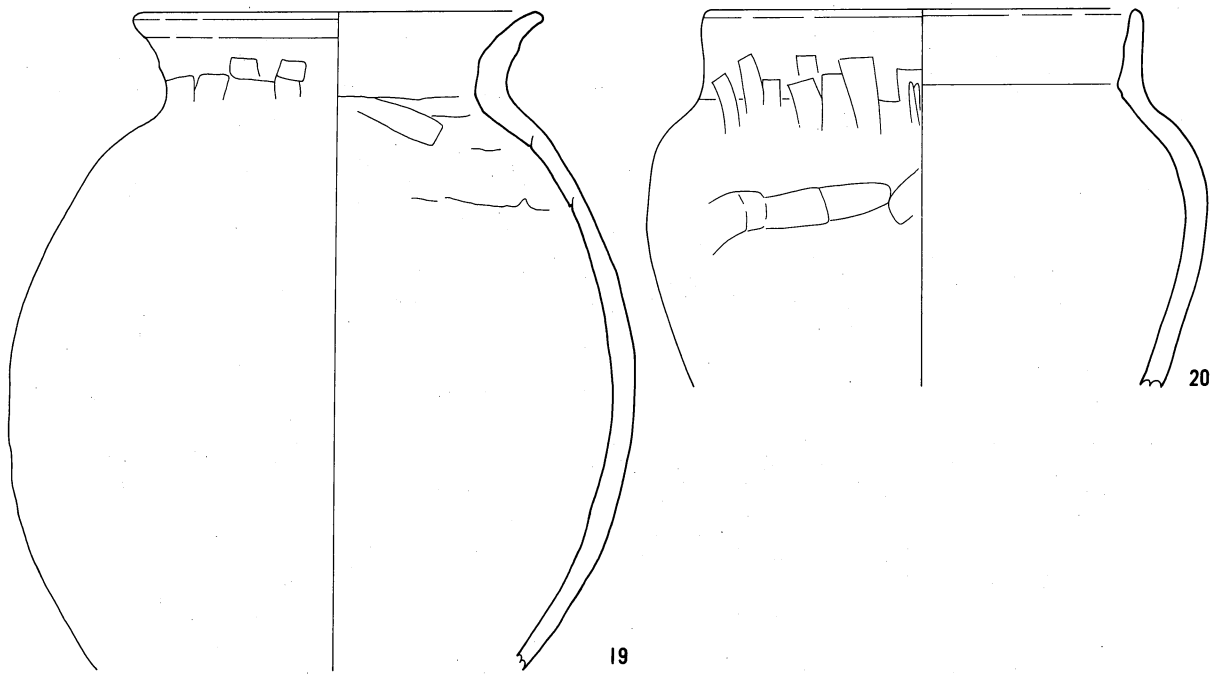
第41号住居跡出土品実測図



第42図 第15号住居跡出土遺物実測図(1)

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第42図 1	坏 土師器	A 12.2 B 6.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。器高は深い。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り後ナデ。体部内面ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤色、底部褐色 普通	P131 85% P L38 床面
2	坏 土師器	A 13.2 B 4.9	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩滅。体部内面剝離。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒・石英 赤褐色、底部褐色 普通	P125 100% P L38 床面
3	坏 土師器	A 13.8 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り後ナデ。体部内面へラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・石英 赤褐色 普通	P127 100% P L38 床面
4	坏 土師器	A 13.2 B 4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面剝離。	砂粒・長石 明赤褐色 普通	P126 100% P L38 床面
5	坏 土師器	A [11.8] B 4.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩滅。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・長石 赤褐色 普通	P128 70% P L38 覆土下層
6	坏 土師器	A [13.1] B (4.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口唇部内面はうちそぎ状である。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P132 10% P L38 床面
7	坏 土師器	A 13.4 B 6.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面へラ磨き。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒・長石 橙色 普通	P129 80% P L38 床面
8	坏 土師器	A 13.3 B 6.5	丸底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面から体部外面上半赤彩。	砂粒・石英 明赤褐色、褐色 普通	P130 90% P L38 床面
9	坏 土師器	A 12.3 B 5.9 C 3.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒 暗赤色、にぶい橙色 不良	P133 75% P L39 床面
10	坏 土師器	A 12.2 B 5.5 C 2.0	口縁部一部欠損。平底気味の底部から外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立し、口唇部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面剝離が顕著。内・外面赤彩。	砂粒 赤色、底部橙色 普通	P134 70% P L38 覆土下層
11	坏 土師器	A [11.8] B 6.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で直立する。口縁部との境に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。内面剝離。	砂粒 赤色 普通	P135 40% P L38 床面
12	坏 土師器	A [13.2] B 5.2 C 3.6	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り後ナデ。内・外面赤彩。内面剝離。	砂粒 暗赤色 普通	P136 60% 床面
13	坏 土師器	A [11.8] B (4.6)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。体部内面にへラ当て痕。	砂粒 にぶい橙色 普通	P139 35% P L39 床面 砥石転用
14	坏 土師器	A [9.4] B 4.8 C 4.0	体部一部欠損。平底気味の底部から内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。外面摩滅。	長石・小礫 橙色 普通	P140 60% P L38 覆土
15	埴 土師器	A [13.9] B 8.4	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内面から体部外面赤彩。内・外面摩滅。	砂粒 にぶい赤色 普通	P137 70% P L39 床面 外面煤付着
16	埴 土師器	A 13.0 B 11.6	体部から口縁部一部欠損。丸底。体部は球形で、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面赤彩。内・外面摩滅。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P138 70% P L39 覆土下層
17	甕 土師器	B (7.8) C 6.0	底部から体部下半の破片。体部は球形で、中位に最大径をもつ。	体部・底部外面へラ削り。内面摩滅。	砂粒 橙色 普通	P144 40% 覆土下層
18	甕 土師器	A [21.0] B (22.3)	体部から口縁部の破片。体部は球形で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	砂粒 橙色 普通	P143 20% P L39 床面



第43図 第15号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考			
第43図 19	甕 土師器	A 16.5 B (26.4)	体部から口縁部の破片。体部中位に最大径をもつ。頸部は「く」の字状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒にふい・橙色普通	P142 50% PL39 覆土中層 外面煤付着			
20	甕 土師器	A 17.4 B (15.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面ヘラ削り。	砂粒・長石 灰色 良好	P141 30% PL39 床面 体部上位自然釉			
図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第43図21	砥石	11.0	10.2	4.6	—	607.8	砂岩	南西壁際床面	Q8 PL56

所見 覆土の堆積状態を見ると、ローム小・中ブロック，ローム粒子を含む層が堆積し，壁際の堆積土層，覆土中・下層には遺物が多く含まれていることから，本跡は廃棄された後，人為的に埋め戻される過程で，遺物の投棄が行われたと思われる。縄文土器，弥生土器は流れ込みである。出土遺物が模倣坏蓋が主流となる

ことから、時期は5世紀末葉と思われる。住居跡形態は、長方形で出入口に高まりをもつタイプで、当遺跡では本跡の他に第2・20～22・50号がこれにあたる。

第16号住居跡 (第44図)

位置 調査区中央部東側, C4₁₁区。

規模と平面形 長軸6.05m, 短軸5.63mの方形である。

主軸方向 N-57°-W

壁 壁高25～40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅8～15cm, 深さ5cmで、断面は「U」字形または逆台形である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南東壁際中央部には幅20～50cm, 高さ7cmの馬蹄形の高まりがあり、出入口施設に伴うものと考えられる。

ピット 4か所 (P₁～P₄)。P₁～P₄は径20～28cm, 深さ55～60cmで、支柱穴と考えられる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は南東壁際中央部の出入口施設内側に位置し、径70cmの円形で、深さは40cmである。貯蔵穴2は東コーナーに位置し、径65cmの円形で、深さは37cmである。両者とも断面は逆台形で、平坦な底面から外傾して立ち上がる。

貯蔵穴1土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量

貯蔵穴2土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

炉 中央部に位置し、貯蔵穴1と同一線上にある。長径105cm, 短径50cmの楕円形で、7cmほど皿状に掘り込んだ地床炉である。

炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 11層からなる。土層6～11はローム粒子・ロームブロックを含み、上屋の焼失にかかわる堆積土層である。床面中央部を除く全体には焼土塊が堆積している。

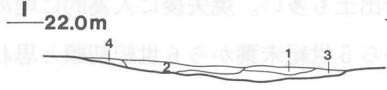
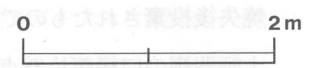
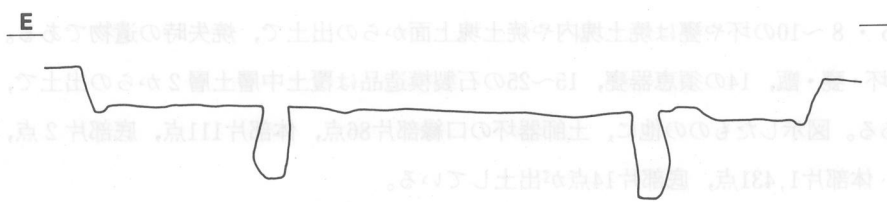
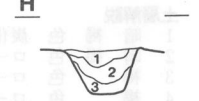
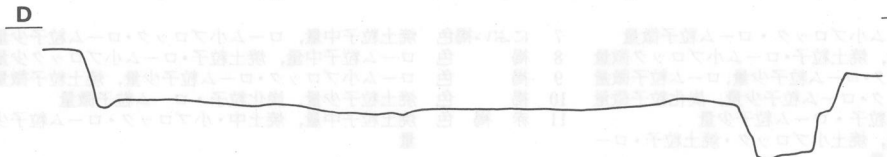
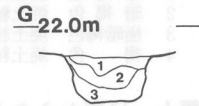
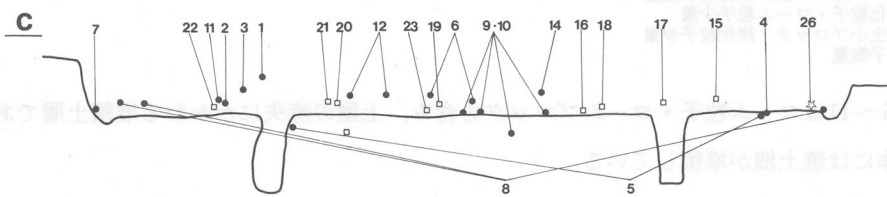
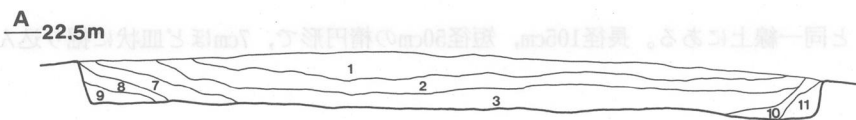
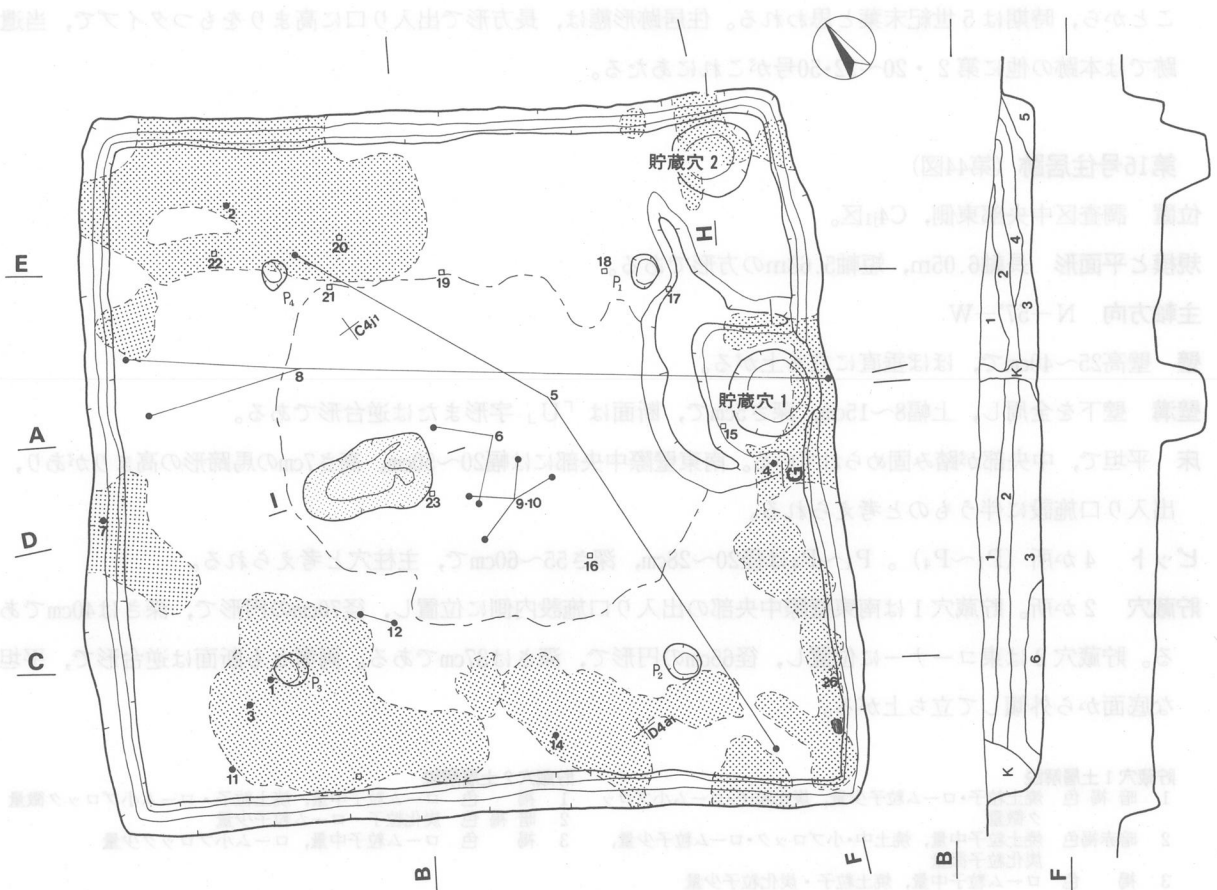
土層解説

- | | |
|--|----------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 7 におい褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 8 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量 |
| 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム粒子微量 | 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 10 褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 5 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 11 赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・ローム粒子少量 |
| 6 明褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量 | |

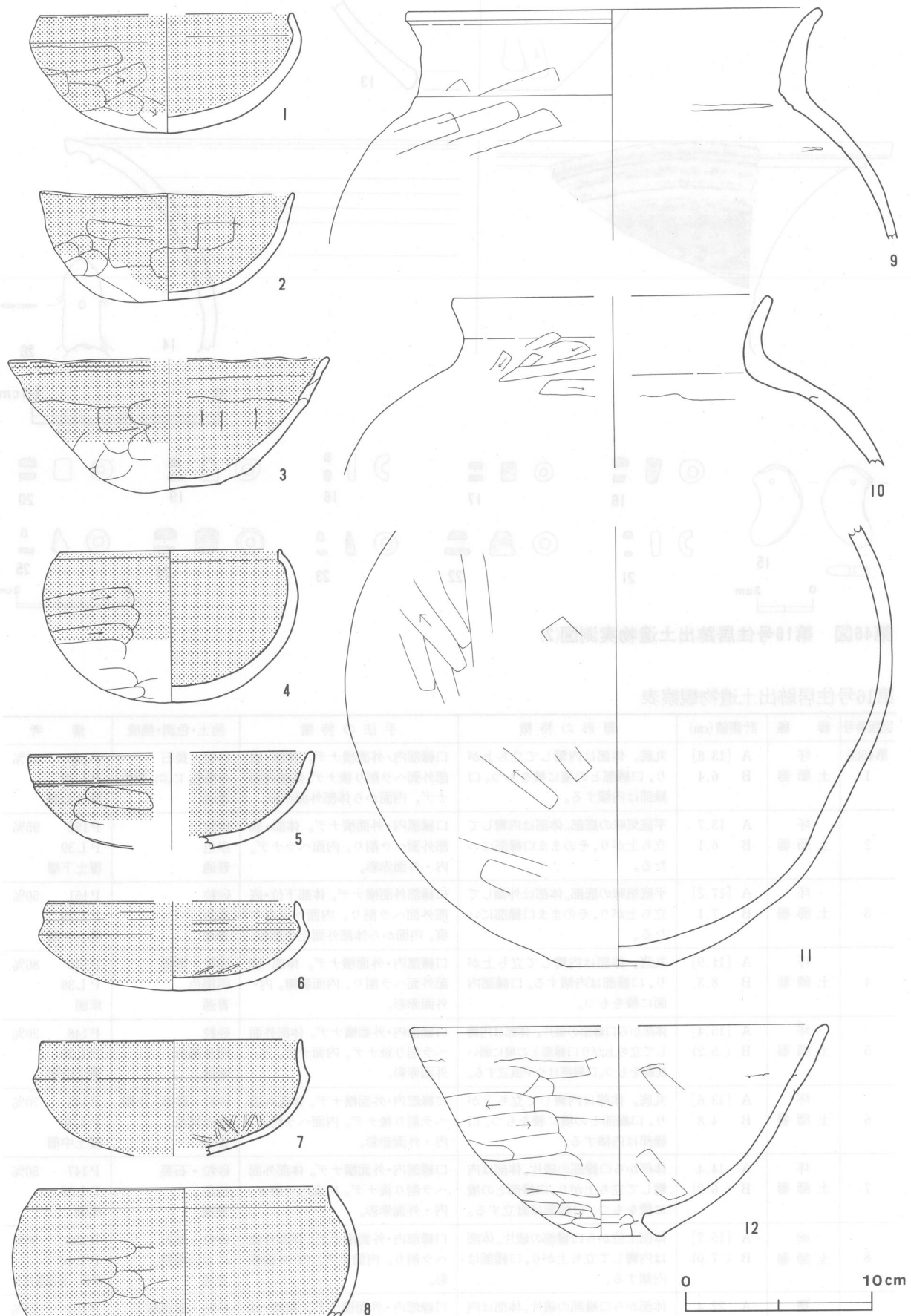
遺物 第45・46図2・4・5・8～10の坏や甕は焼土塊内や焼土塊上面からの出土で、焼失時の遺物である。

1・3・6・7・11～13の坏・甕・甑, 14の須恵器甕, 15～25の石製模造品は覆土中層土層2からの出土で、焼失後投棄されたものである。図示したもの他に、土師器坏の口縁部片86点, 体部片111点, 底部片2点, 土師器甕の口縁部片38点, 体部片1,431点, 底部片14点が出土している。

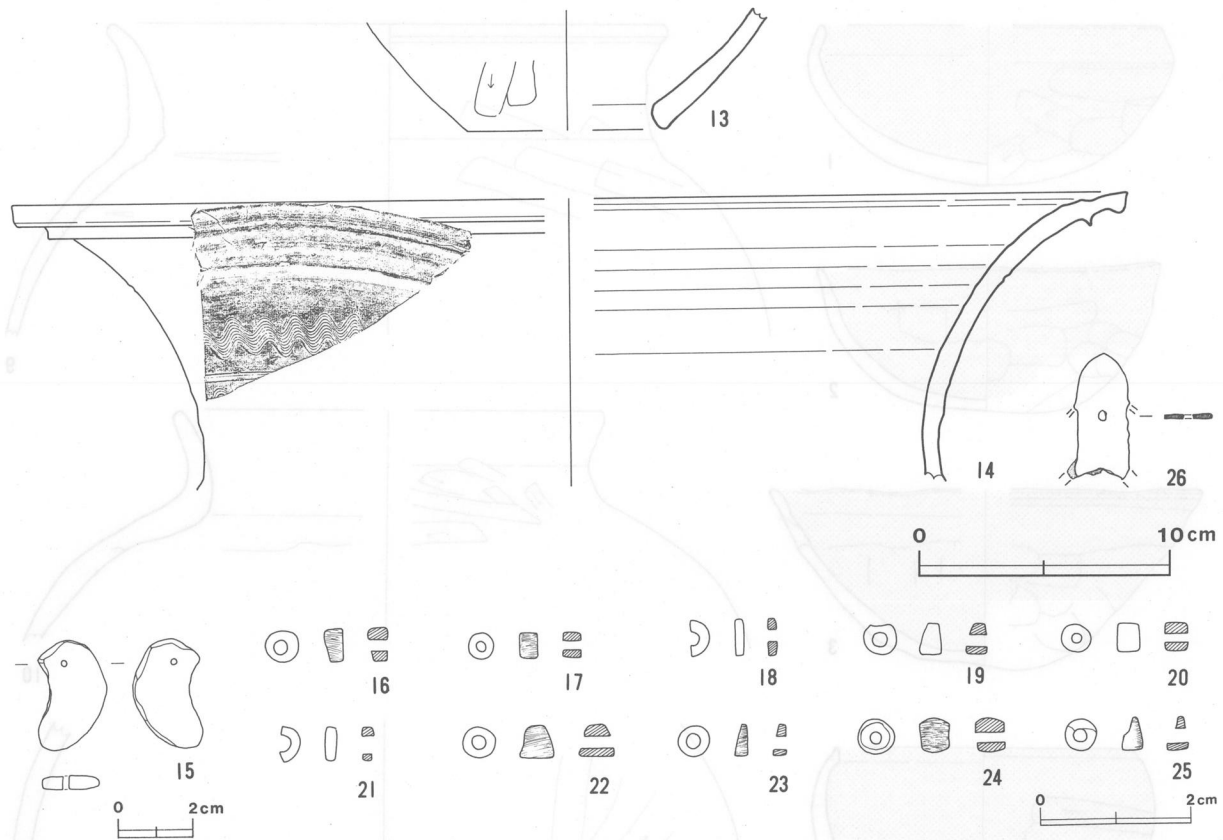
所見 本跡は、床面に多量の焼土塊が広がっており、その中からの遺物の出土も多い。焼失後に人為的に埋戻す過程で土器と共に石製模造品が投棄されている。時期は出土遺物から5世紀末葉から6世紀初頭と思われる。



第44図 第16号住居跡実測図



第45图 第16号住居跡出土遺物実測图(1)



第46図 第16号住居跡出土遺物実測図(2)

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	坏 土師器	A [13.8] B 6.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り後ナデ。体部内面ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒・長石 赤褐色、にぶい褐色 普通	P146 85% P L39 覆土上層
2	坏 土師器	A 13.7 B 6.1	平底気味の底部。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へらナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P152 95% P L39 覆土下層
3	坏 土師器	A [17.2] B 7.1	平底気味の底部。体部は外傾して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。	口縁部外面横ナデ。体部下位・底部外面へら削り。内面へら当て痕。内面から体部外面上半赤彩。	砂粒 赤色 普通	P151 50% P L39 覆土中層
4	坏 土師器	A [11.9] B 8.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面剥離。内・外面赤彩。	砂粒・雲母 明褐色 普通	P149 80% P L39 床面
5	坏 土師器	A [15.4] B (5.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり口縁部との境に弱い沈線をもつ。口縁部はやや直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P148 20% P L39 覆土中層
6	坏 土師器	A [13.6] B 4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面へら磨き。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・小礫 明赤褐色 普通	P145 70% P L40 覆土中層
7	坏 土師器	A 14.4 B (6.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面へら磨き。内・外面赤彩。	砂粒・石英 橙色 普通	P147 50% P L39 床面
8	碗 土師器	A [15.7] B (7.0)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P150 30% P L40 床面 外面煤付着
9	甕 土師器	A 22.4 B (12.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり。頸部は直立し、口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面へら削り。内面ナデ。	砂粒・赤色粒子 にぶい黄褐色 普通	P153 10% P L40 床面 外面煤付着

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第45図 10	甕 土 師 器	A [17.0] B (9.3)	体部上位から口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P154 10% PL40 床面 外面煤付着
11	甕 土 師 器	B (23.6) C 5.6	底部から体部の破片。体部は内彎して立ち上がり、中位に最大径をもつ。	体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P155 40% 覆土中層
12	甕 土 師 器	A [22.6] B 11.4 C 4.6	無底式。体部は外傾して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・小礫 にぶい橙色 普通	P156 30% PL40 覆土中層
第46図 13	甕 土 師 器	B (4.8) C [8.0]	無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	長石・石英多量 にぶい褐色 普通	P157 5% 覆土
14	甕 須 恵 器	A [44.9] B (11.5)	口縁部の破片。口縁部は外反する。口縁端部は断面三角形である。口縁直下に断面三角形の凸帯が1条巡る。	口縁部横ナデ。頸部には1条の凹線を挟んで9本1条の櫛歯状工具による波状文。	砂粒・小礫 灰色 良好	P158 5% PL40 覆土中層 内面自然釉

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第46図15	勾 玉	2.9	1.9	0.4	0.15	3.0	滑石	東寄り覆土	Q9 PL55
16	白 玉	0.3	0.5	0.3	0.15	0.1	滑石	中央部覆土	Q10 PL55
17	白 玉	0.35	0.4	0.25	0.1	0.1	滑石	東コーナー覆土	Q11 PL55
18	白 玉	(0.5)	0.5	0.1	0.15	0.05	滑石	東コーナー覆土	Q12 PL55
19	白 玉	0.5	0.45	0.3	0.2	0.1	滑石	東寄り覆土	Q13 PL55
20	白 玉	0.4	0.4	0.3	0.1	0.1	滑石	北コーナー覆土	Q14 PL55
21	白 玉	(0.45)	0.45	0.15	0.2	0.05	滑石	北コーナー覆土	Q15 PL55
22	白 玉	0.5	0.45	0.5	0.15	0.1	滑石	北コーナー覆土	Q16 PL55
23	白 玉	0.45	0.45	0.2	0.2	0.1	滑石	中央部覆土	Q17 PL55
24	白 玉	0.5	0.5	0.4	0.15	0.2	滑石	中央部床面	Q18 PL55
25	白 玉	0.4	0.45	0.3	0.2	0.1	滑石	中央部床面	Q19 PL55

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第46図26	鉄 鏃	5.1	2.6	0.2	4.7	北東壁際床面	M4 PL57

第17号住居跡 (第47図)

位置 調査区中央部東端, D4a3区。

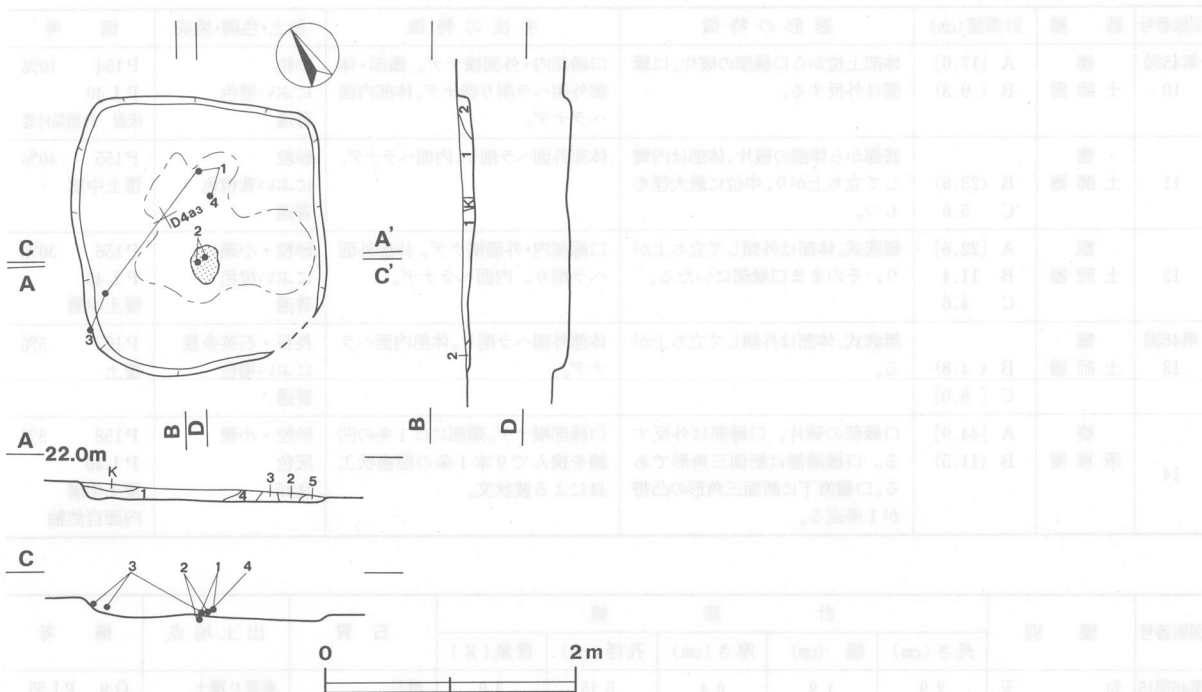
規模と平面形 長軸2.18m, 短軸1.97mのほぼ方形である。

主軸方向 N-27°-W

壁 壁高3~10cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

炉 中央部南西寄りに位置し, 長径33cm, 短径22cmの楕円形の地床炉で, 火熱を受けた程度である。炉床は掘り窪められていない。



第47図 第17号住居跡実測図

覆土 5層からなる。第1層の暗褐色土層が主体となっている。

土層解説

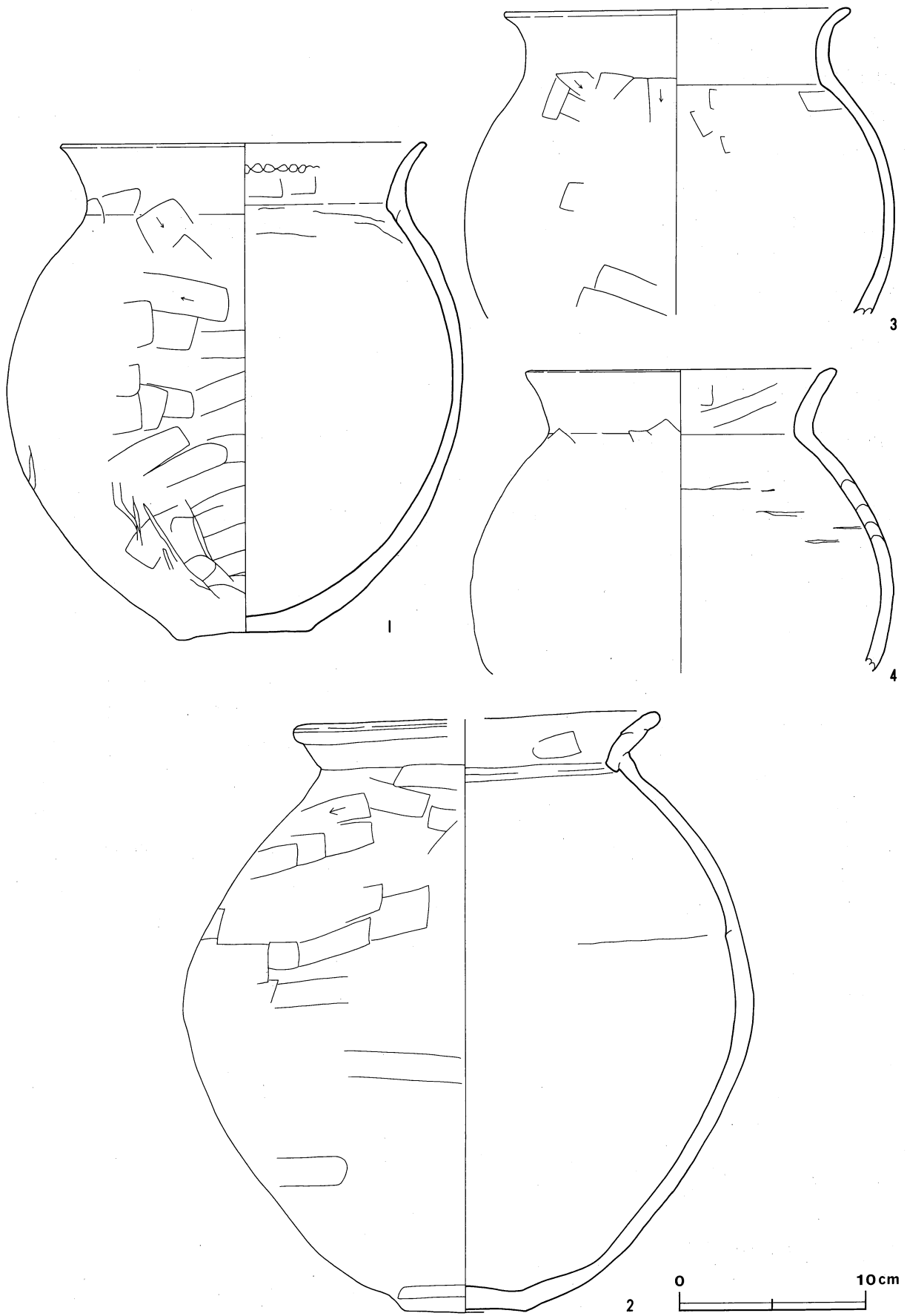
- | | | | |
|-------|-------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量 | 3 暗褐色 | 焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック微量 | 4 極暗褐色 | 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| | | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物 第48図1～4の甕は床面直上から砕いた状態でまとまって出土している。その他の土師器環の口縁部片9点, 体部片29点, 土師器甕の口縁部片8点, 体部片288点, 底部片4点は, 床面から覆土下層にかけて出土している。

所見 本跡は, かなり小規模な住居跡であるが, 遺物の出土量は比較的多く, 特に土師器甕の出土が目立っている。炉は使用頻度は低いようであるが, 甕はどれも煤が付着しており, 煮沸に使用した痕跡がある。時期は出土遺物から5世紀末葉から6世紀初頭と思われる。

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第48図 1	甕 土師器	A 19.6 B 26.5 C 7.1	平底。体部は内彎して立ち上がり, 最大径を中位にもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面へラ削り。内面剝離。	砂粒・長石 橙色 普通	P159 95% P L40 煤付着 床面, 覆土下層
2	甕 土師器	A [19.9] B 32.4 C 6.6	平底。体部は球形状で, 最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状で, 口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。頸部内面へラナデ。	砂粒・長石 にぶい黄橙色 普通	P160 70% P L40 床面 煤付着
3	甕 土師器	A 18.8 B (16.6)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。頸部は直立し, 口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P161 25% 床面
4	甕 土師器	A 16.8 B (16.4)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 最大径を中位にもつ。頸部は「く」の字状で, 口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部へラ削り。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P162 30% 覆土下層



第48图 第17号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡 (第49図)

位置 調査区中央部東側, D3a9区。

規模と平面形 長軸2.16m, 短軸2.02mの方形である。

主軸方向 N-53°-E

壁 壁高2~6cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 踏み締めた部分は見られない。

炉 中央部南西寄りに位置し, 長径55cm, 短径30cmの不定形の地床炉であるが, 火熱を受けた程度で, 使用頻度は低い。炉床は掘り窪められてはいない。

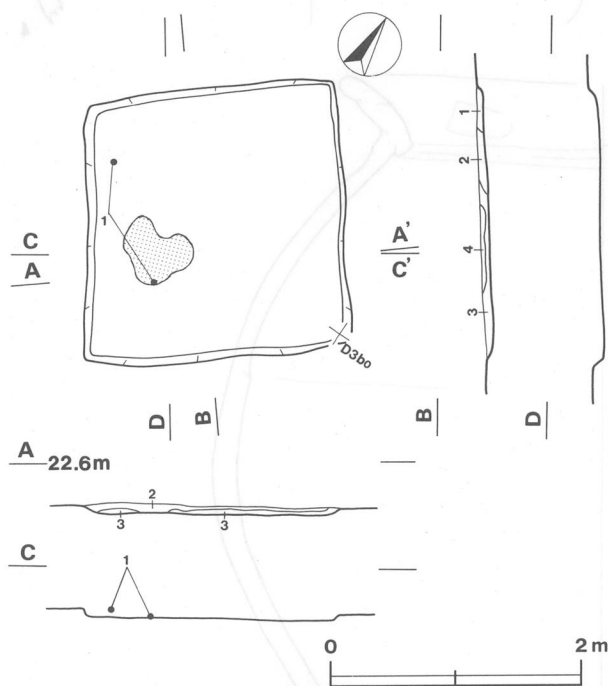
覆土 薄く4層が堆積している。

土層解説

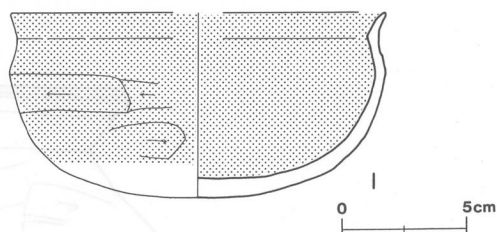
- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 遺物は少なく, 実測できたのは第50図1の埴1点のみで, 南西壁寄りの床面から出土している。この他に, 土師器甕の体部片37点, 土師器坏の口縁部片2点が出土している。

所見 本跡は, かなり小規模であり, 柱穴・貯蔵穴等がなく, 炉は付設されているが, 火熱を受けた程度で使用頻度は低く, 床の硬化面もみられない。しかし, 土師器甕の破片をみると煤が付着しており, 煮沸に使用したことは明らかである。時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



第49図 第18号住居跡実測図



第50図 第18号住居跡出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	埴 土師器	A [15.0] B 7.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面剝離。内・外面赤彩。	砂粒・小礫・雲母 に おい 橙色 普通	P163 60% P L40 床面

第19号住居跡 (第51図)

位置 調査区中央部東側, D3b8区。

規模と平面形 長軸4.13m, 短軸3.41mの長方形である。

長軸方向 N-44°-E

壁 壁高2~12cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 全体的に踏み固められて硬化している。

炉 中央部南西寄りに位置し, 長径60cm, 短径55cmの不定形の地床炉である。炉床は掘り窪められてはいない。

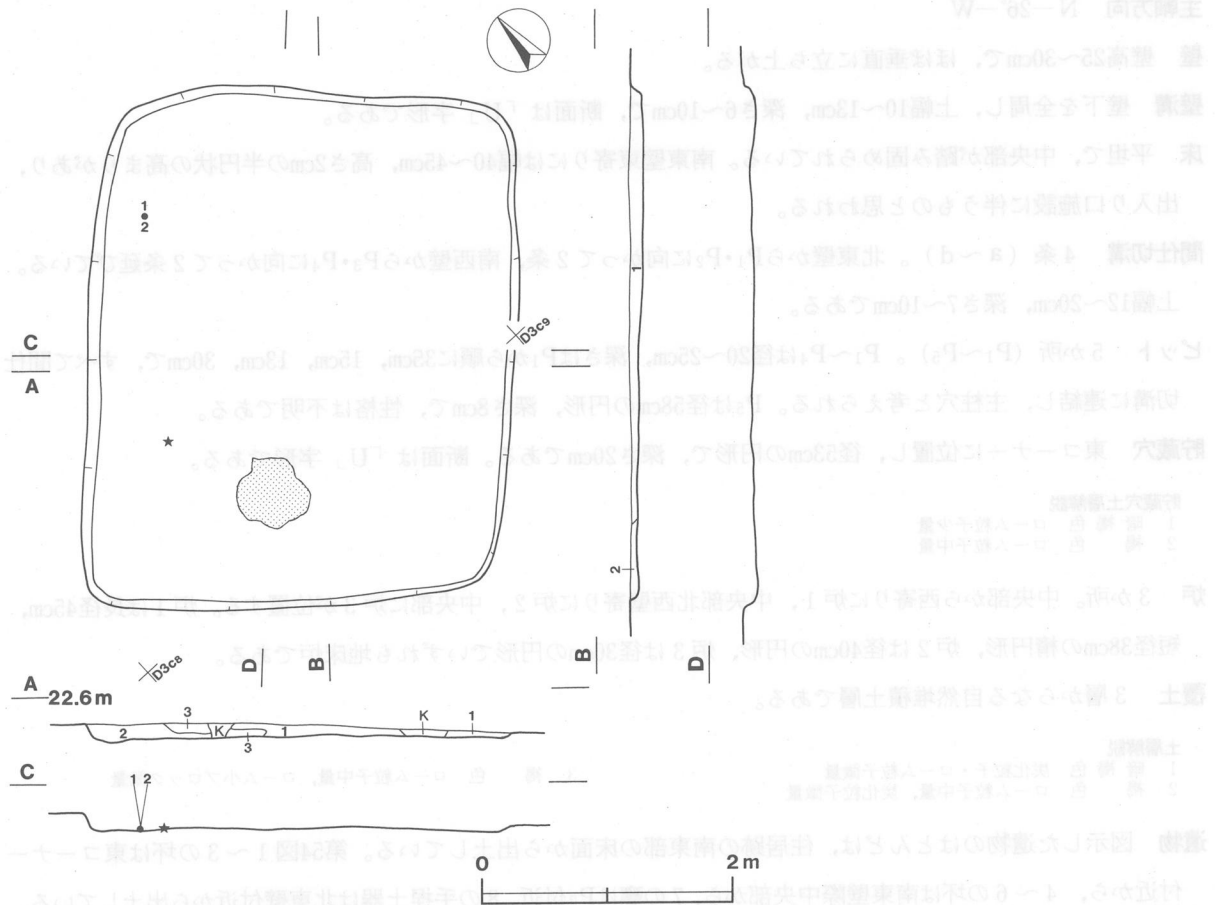
覆土 3層からなる。土層1の褐色土が主体となる。

土層解説

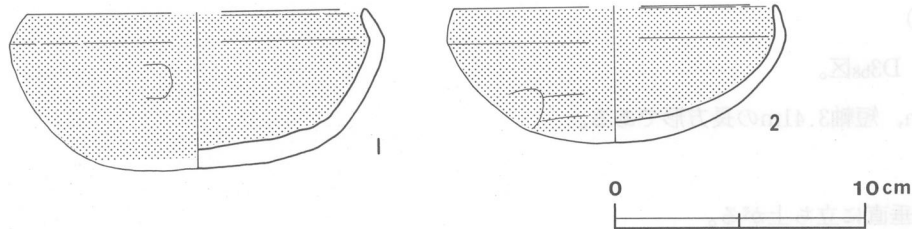
1	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量	2	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
			3	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 第52図1・2の坏は北コーナー近くの床面から山桃の種8点と共に出土している。南コーナーからも坏の破片と共に6点の山桃の種が出土している。図示した遺物の他に, 土師器甕の口縁部片8点, 体部片81点, 底部片2点, 土師器坏の口縁部片7点, 体部片49点が出土している。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



第51図 第19号住居跡実測図



第52図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 1	坏 土師器	A [13.6] B 6.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P164 40% P L41 床面
2	坏 土師器	A [13.0] B 5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面ナデ。底部へら削り。内・外面赤彩。	砂粒・長石 赤色、底部橙色 普通	P165 30% P L41 床面

第20号住居跡 (第53図)

位置 調査区中央部、D2c7区。

規模と平面形 長軸5.96m、短軸4.47mの長方形である。

主軸方向 N-26°-W

壁 壁高25~30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅10~13cm、深さ6~10cmで、断面は「U」字形である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南東壁東寄りには幅40~45cm、高さ2cmの半円状の高まりがあり、出入り口施設に伴うものと思われる。

間仕切溝 4条(a~d)。北東壁からP₁・P₂に向かって2条、南西壁からP₃・P₄に向かって2条延びている。上幅12~20cm、深さ7~10cmである。

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は径20~25cm、深さはP₁から順に35cm、15cm、13cm、30cmで、すべて間仕切溝に連結し、支柱穴と考えられる。P₅は径58cmの円形、深さ8cmで、性格は不明である。

貯蔵穴 東コーナーに位置し、径53cmの円形で、深さ20cmである。断面は「U」字形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量

炉 3か所。中央部から西寄りに炉1、中央部北西壁寄りに炉2、中央部に炉3が位置する。炉1は長径45cm、短径38cmの楕円形、炉2は径40cmの円形、炉3は径30cmの円形でいずれも地床炉である。

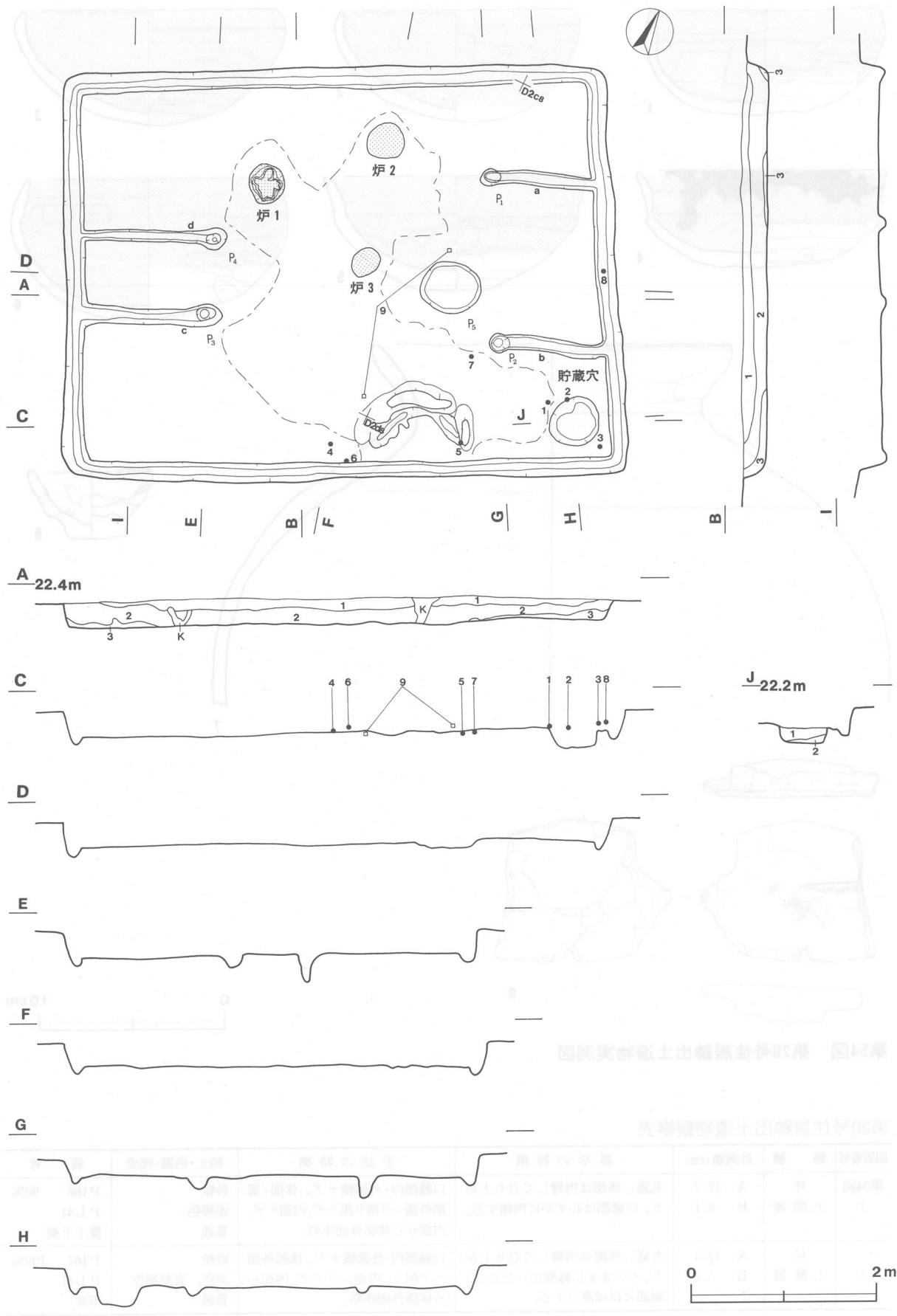
覆土 3層からなる自然堆積土層である。

土層解説

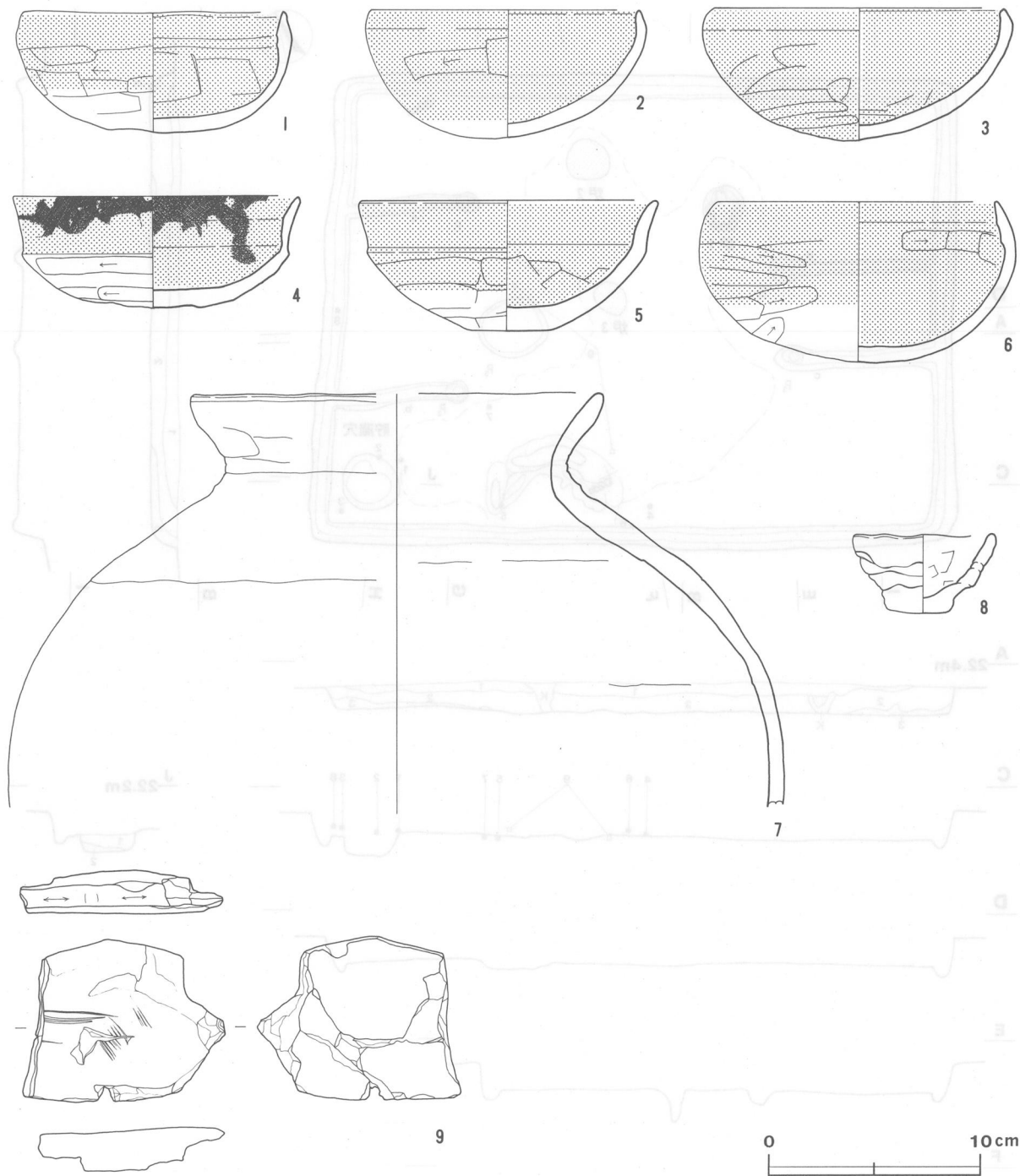
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量

遺物 図示した遺物のはほとんどは、住居跡の南東部の床面から出土している。第54図1~3の坏は東コーナー付近から、4~6の坏は南東壁際中央部から、7の甕はP₂付近、8の手捏土器は北東壁付近から出土している。坏類は完存率が高い。9の砥石はP₅付近床面から出土している。図示した遺物の他に、縄文土器片2点、土師器甕の口縁部片10点、体部片80点、坏の口縁部片6点、体部片7点、雲母片岩1点が出土している。

所見 本跡の間仕切溝はすべて支柱穴に連結するという新しい様相をもっている。遺物も模倣坏蓋が見られるようになることから、時期は5世紀末葉と考えられる。



第53图 第20号住居跡実測图



第54図 第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 1	坏 土師器	A 12.7 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り後ナデ。内面ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P166 90% P L41 覆土下層
2	坏 土師器	A 12.4 B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤色、底部褐色 普通	P167 100% P L41 床面

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第54図 3	坏 土 師 器	A 13.8 B 6.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面へラナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい赤褐色 普通	P168 90% PL41 覆土下層
4	坏 土 師 器	A 13.5 B 5.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒・石英 橙色 普通	P169 100% PL41 床面 口縁部油煙付着
5	坏 土 師 器	A 14.2 B 6.3 C 4.1	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面へラ削り後ナデ。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒・石英 にぶい褐色 普通	P170 80% PL41 床面
6	坏 土 師 器	A 13.3 B 7.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・石英・長石 にぶい黄褐色 普通	P171 100% PL41 床面 体部外面煤付着
7	甕 土 師 器	A [19.6] B (19.9)	体部上半から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、頸部は「く」の字状で、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面剝離。	砂粒・長石 にぶい黄褐色 普通	P172 20% PL41 床面
8	手捏土器 土 師 器	A 6.8 B 3.7 C 3.0	平底。体部は外傾して立ち上がる。	輪積み痕を残す。内・外面へラナデ。	砂粒 橙色 普通	P173 70% PL41 覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第54図9	砥 石	7.7	9.8	2.0	—	165.6	凝灰岩	P ₅ 付近床面	Q22 PL56

第21号住居跡 (第55図)

位置 調査区中央部, D3e1区。

規模と平面形 長軸5.99m, 短軸4.31mの長方形である。

主軸方向 N-72°-W

壁 壁高35~40cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東コーナーから北西コーナーを通り南西コーナーまでと、東壁の南半分の壁下を巡る。上幅10~18cm, 深さ3~7cmで、断面は「U」字形である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。東壁中央には幅30~45cm, 高さ10cmの馬の背状の高まりがあり硬化している。この高まりはP₄で一時途切れ、さらに貯蔵穴を区切るようにして長形状に巡り、出入り口施設に伴うものと思われる。

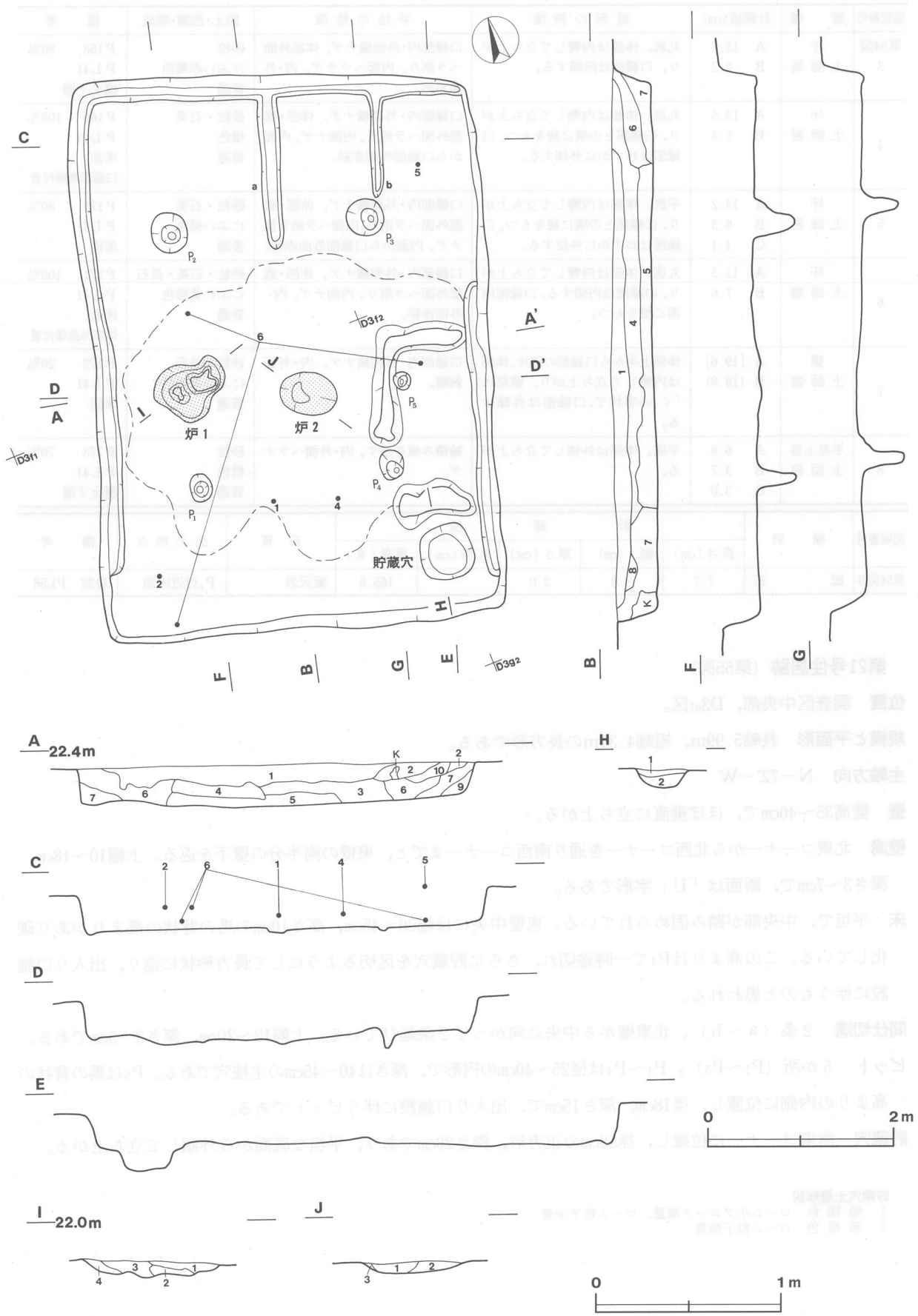
間仕切溝 2条 (a~b)。北東壁から中央に向かって2条延びている。上幅12~20cm, 深さ3~5cmである。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径25~40cmの円形で、深さは40~45cmの主柱穴である。P₅は馬の背状の高まりの内側に位置し、径18cm, 深さ15cmで、出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 南東コーナーに位置し、径58cmの正方形, 深さ20cmであり、平坦な底面から外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量



第55図 第21号住居跡実測図

炉 2か所。炉1は中央部から北寄りに位置し、長径70cm、短径40cmの不整形で、深さ5cmである。炉2は中央部に位置し、長径60cm、短径45cmの楕円形で、深さ8cmである。いずれも地床炉である。

炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 2 赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化物微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量

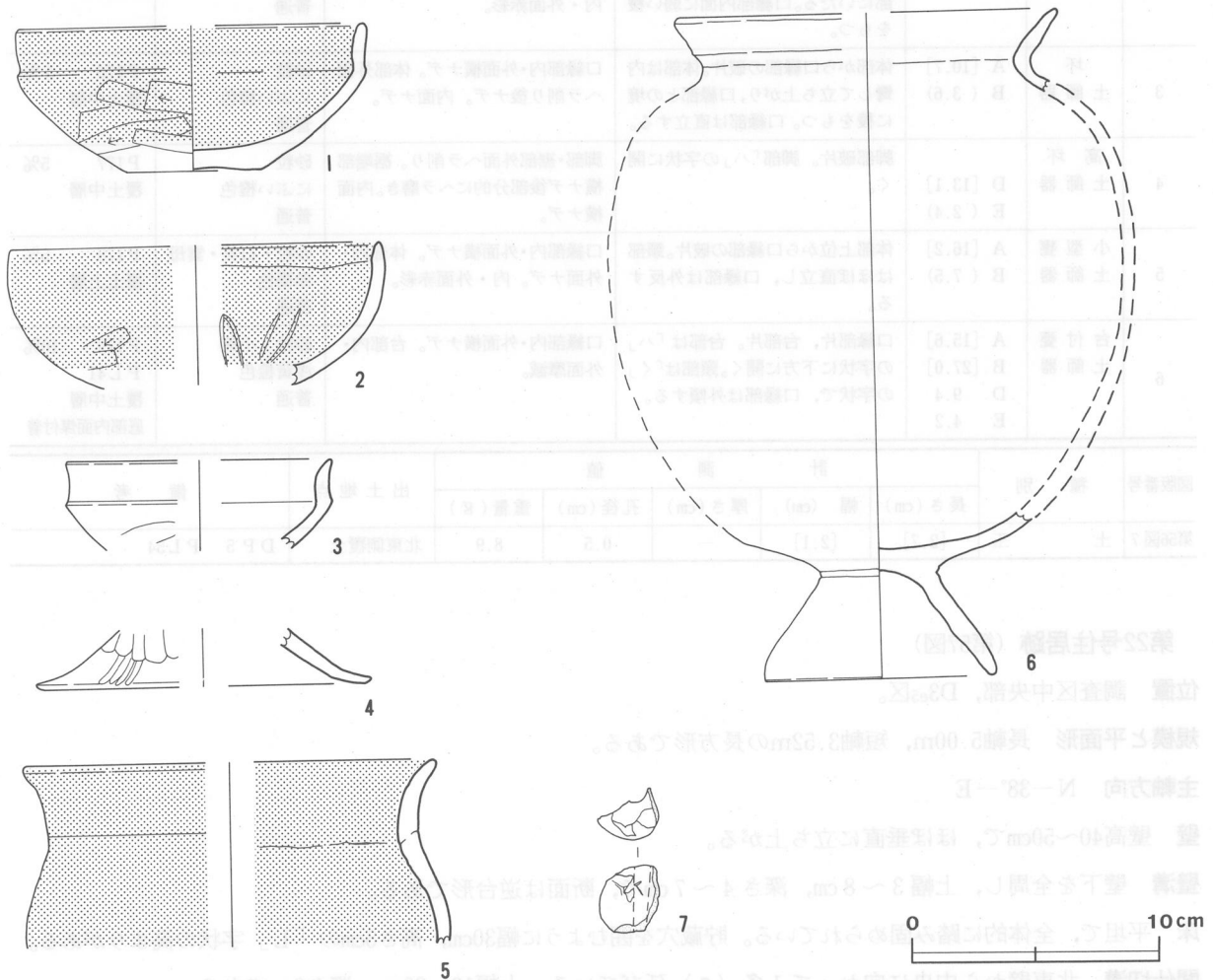
炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量、ローム粒子微量

覆土 10層からなる。ロームブロック、黒色土ブロックを含む人為堆積土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック・小ブロック微量
- 6 暗褐色 黒色土ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 8 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 9 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・小ブロック微量
- 10 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量



第56図 第21号住居跡出土遺物実測図

遺物 図示した遺物は、すべて覆土上・中層から出土したものである。第56図4の高坏脚部、6の台付甕は古墳時代中期の遺物であり、住居跡南半分の覆土中から出土している。1・2・3の坏、5の小型甕が住居廃

絶時期の前後を示す遺物である。図示した遺物の他に、土師器甕の口縁部片5点、体部片193点、底部片6点、土師器環の口縁部片43点、体部片106点、底部片1点、土師器甕の底部片1点が出土している。

所見 本跡は、床面には少量ではあるが焼土塊が見られることから焼失家屋と思われる。覆土にはロームブロックが含まれており、焼失後人為的に埋め戻され、その際遺物投棄が行われたと思われる。遺物のなかには第132図6の第1号竪穴遺構出土の須恵器環蓋と接合するものがある。本跡も第1号竪穴遺構と同時期の5世紀末葉と思われる。

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第56図 1	坏 土師器	A [14.0]	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面剝離。内面から体部外面上位赤彩。	砂粒 赤褐色、底部褐色 普通	P174 40% P L41 覆土中層
		B 5.9				
		C 5.4				
2	坏 土師器	A [15.0]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口縁部内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面へら磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P175 10% 覆土中層
		B (5.7)				
3	坏 土師器	A [10.7]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P176 5% 覆土中層
		B (3.6)				
4	高坏 土師器	D [13.1]	脚部破片。脚部「ハ」の字状に開く。	脚部・裾部外面へら削り。裾端部横ナデ後部分的にへら磨き。内面横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P177 5% 覆土中層
		E (2.4)				
5	小型甕 土師器	A [16.2]	体部上位から口縁部の破片。頸部はほぼ直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・石英・雲母 赤褐色 普通	P178 5% 覆土上層
		B (7.5)				
6	台付甕 土師器	A [15.6]	口縁部片、台部片。台部は「ハ」の字状に下方に開く。頸部は「く」の字状で、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。台部内・外面摩滅。	砂粒・小礫 浅黄橙色 普通	P179 10% P L41 覆土中層 底部内面煤付着
		B [27.0]				
		D 9.4				
		E 4.2				

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第56図7	土玉	[2.7]	[2.1]	—	0.5	8.9	北東側覆土	DP5 P L54

第22号住居跡 (第57図)

位置 調査区中央部、D3e5区。

規模と平面形 長軸5.00m、短軸3.52mの長方形である。

主軸方向 N-38°-E

壁 壁高40~50cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅3~8cm、深さ4~7cmで、断面は逆台形である。

床 平坦で、全体的に踏み固められている。貯蔵穴を囲むように幅30cm、高さ5cmの「L」字状の高まりがある。

間仕切溝 北東壁から中央に向かって1条(a)延びている。上幅10~20cm、深さ9cmである。

ピット 南東壁中央部の壁際から43cm北西寄りに位置し、径23cmの円形、深さ13cmであり、出入口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴 南コーナーに位置し、長径65cm、短径60cmの長方形、深さは25cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり、断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

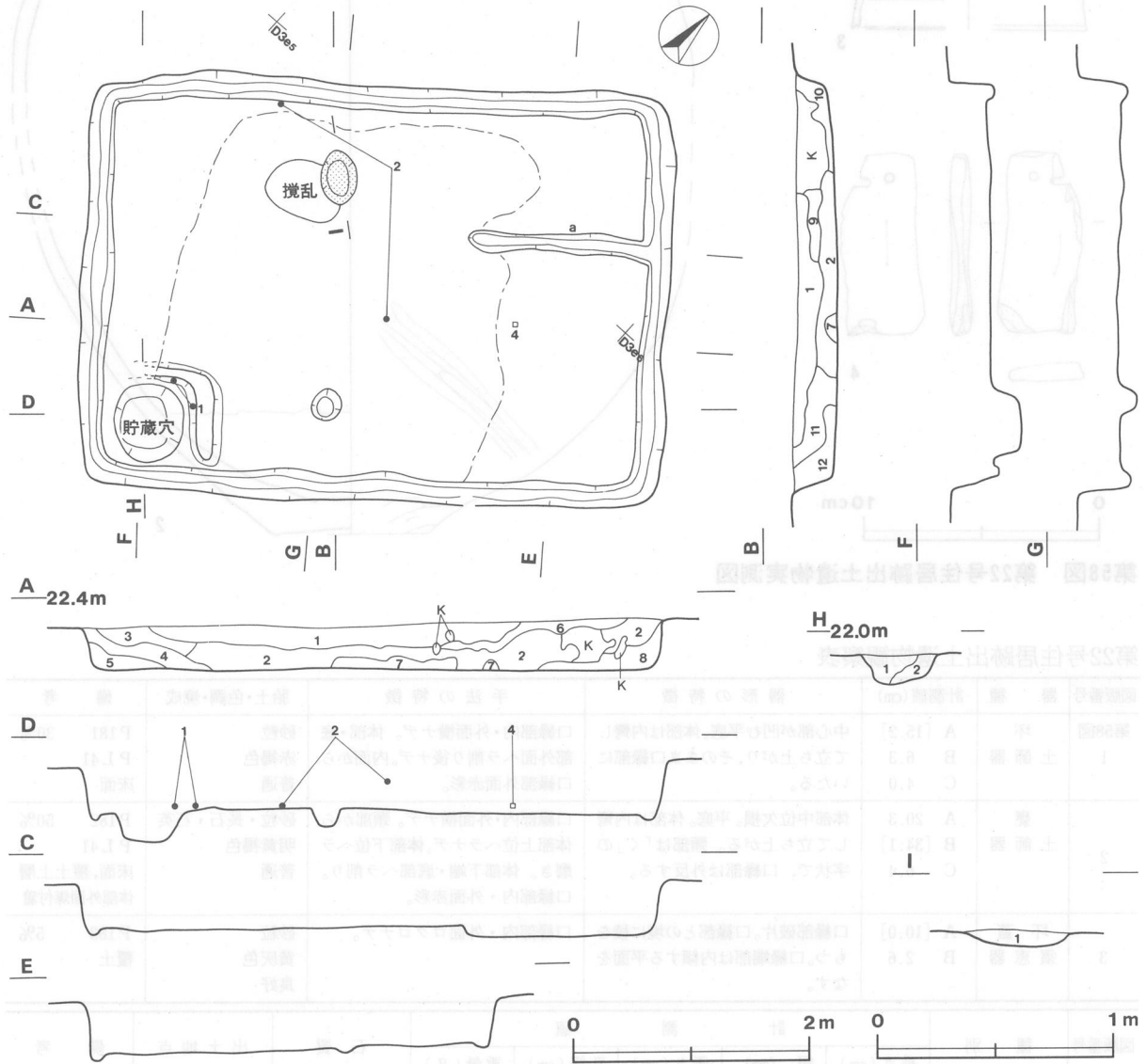
炉 中央部から北西寄りに位置し, 出入り口ピットと同一線上にある。長径45cm, 短径30cmの楕円形, 深さ8cm

の地床炉である。覆土は, 焼土小ブロック, 炭化物及びローム粒子を含む褐色土である。

覆土 12層からなる。ローム小ブロック, ローム粒子を含む人為堆積土層である。

土層解説

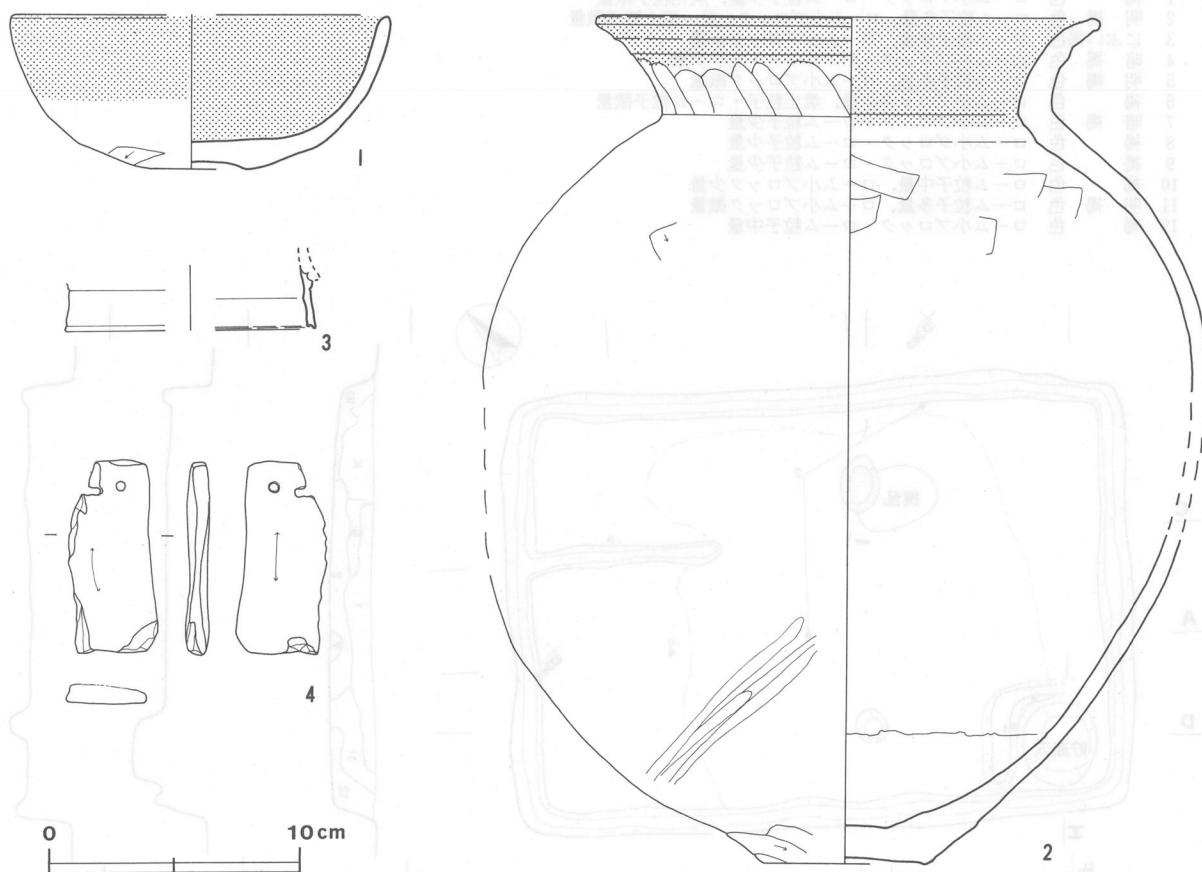
- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
- 5 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
- 6 褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 11 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
- 12 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量



第57図 第22号住居跡実測図

遺物 遺物量は少なく、図示できたのは、第58図1～4の土師器坏、甕、須恵器坏蓋、砥石の4点である。1は南コーナー、2は炉周辺北西壁際、4の砥石は住居跡東側から出土している。この他に土師器甕の口縁部片2点、体部片48点、土師器坏の口縁部片9点、体部片9点の細片が出土している。

所見 本跡は第20・21号住居跡と同様に長方形で、コーナーに貯蔵穴、出入口に高まりをもっており、共通性が窺える。時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。



第58図 第22号住居跡出土遺物実測図

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 1	坏 土師器	A [15.2] B 6.3 C 4.0	中心部が凹む平底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り後ナデ。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P181 30% P L41 床面
2	甕 土師器	A 20.3 B [34.1] C 6.4	体部中位欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。頸部は「く」の字状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部から体部上位へラナデ。体部下位へラ磨き。体部下端・底部へラ削り。口縁部内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 明黄褐色 普通	P182 50% P L41 床面、覆土上層 体部外面煤附着
3	坏蓋 須恵器	A [10.0] B 2.6	口縁部破片。口縁部との境に稜をもつ。口縁端部は内傾する平面をなす。	口縁部内・外面クロナデ。	砂粒 黄灰色 良好	P183 5% 覆土

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第58図4	砥石	7.7	3.6	0.9	0.4	37.0	凝灰岩	南東部覆土	Q25 P L56

第25号住居跡 (第59図)

位置 調査区中央部, D3i6区。

規模と平面形 長軸3.33m, 短軸3.12mの方形である。

長軸方向 N-28°-W

壁 耕作による攪乱を受けているため, 壁はほとんど残存していない。

床 中央部のわずかな部分が踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁~P₂)。P₁は径65cmの円形で, 深さ33cm, 断面は「U」字形である。P₂は径60cmの円形で, 深さ18cm, 断面は平底で階段状の掘り込みをしている。

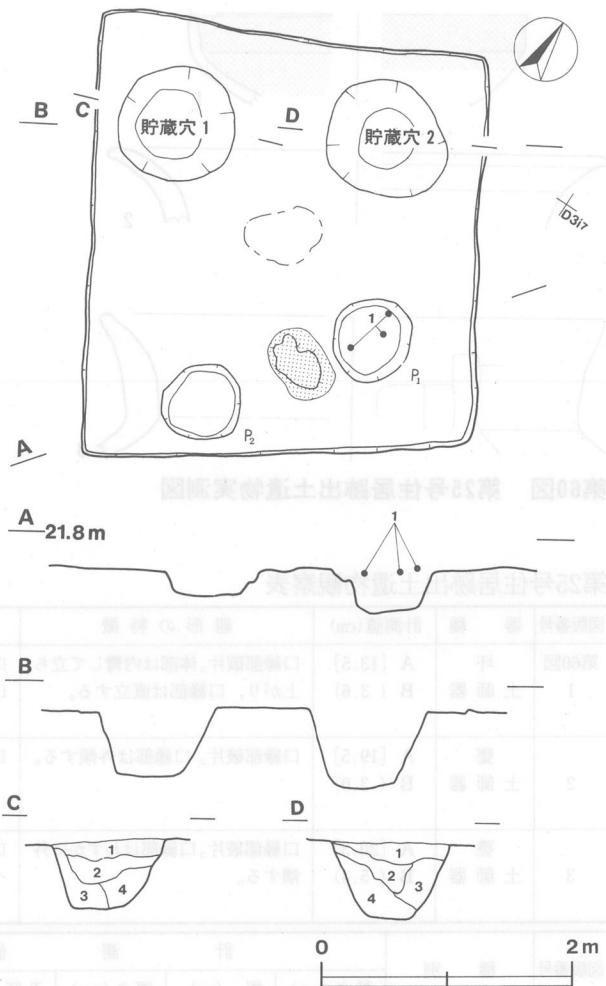
貯蔵穴 2か所。北西部に貯蔵穴1が, 北東部に貯蔵穴2が位置し, いずれも径90cmの円形で, 深さ50・60cmである。両者とも平坦な底面から大きく外傾して立ち上がり, 断面は逆台形である。覆土は人為堆積土層である。

貯蔵穴1土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 | 明褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |

貯蔵穴2土層解説

- | | | |
|---|------|-------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 | 極暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 |



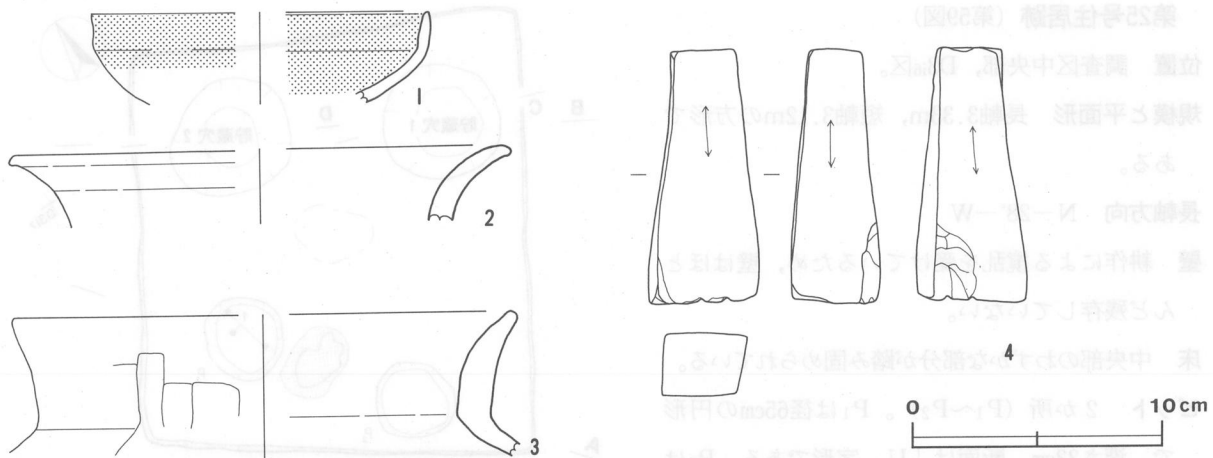
第59図 第25号住居跡実測図

炉 中央部から南東寄りに位置し, 長径60cm, 短径40cmの楕円形の地床炉である。

覆土 残っていた覆土が薄く確認できなかった。

遺物 土師器甕の口縁部片9点, 体部片120点, 底部片1点, 土師器坏の口縁部片3点, 体部片2点が出土しており, 土師器甕の割合が高い。第60図1の土師器坏は住居跡東側の覆土, 2・3の土師器甕, 4の砥石は住居跡南東部の覆土から出土している。

所見 本跡は, 狭い床面積の割合に対して, 複数の面積の広い貯蔵穴をもつ遺構である。炉は付設しているものの, 居住を目的としたとは考えにくく, 倉庫的な用途の建物跡の可能性も考えられる。時期は出土遺物から5世紀末葉から6世紀初頭と思われる。



第60図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第60図 1	坏 土師器	A [13.5] B (3.6)	口縁部破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P191 5% 覆土
2	甕 土師器	A [19.5] B (3.0)	口縁部破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P481 5% 覆土下層
3	甕 土師器	A [20.3] B (5.4)	口縁部破片。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラ削り。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P482 5% 覆土下層

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第60図4	砥石	10.2	4.5	3.5	—	179.7	凝灰岩	南東部覆土	Q27 PL56

第26号住居跡 (第61図)

位置 調査区中央部, D3j5区。

重複関係 本跡が第30号住居跡の南西部を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 耕作による攪乱を受けているため明確な壁はとらえられなかったが、長軸3.98m、短軸3.64mの方形と推定される。

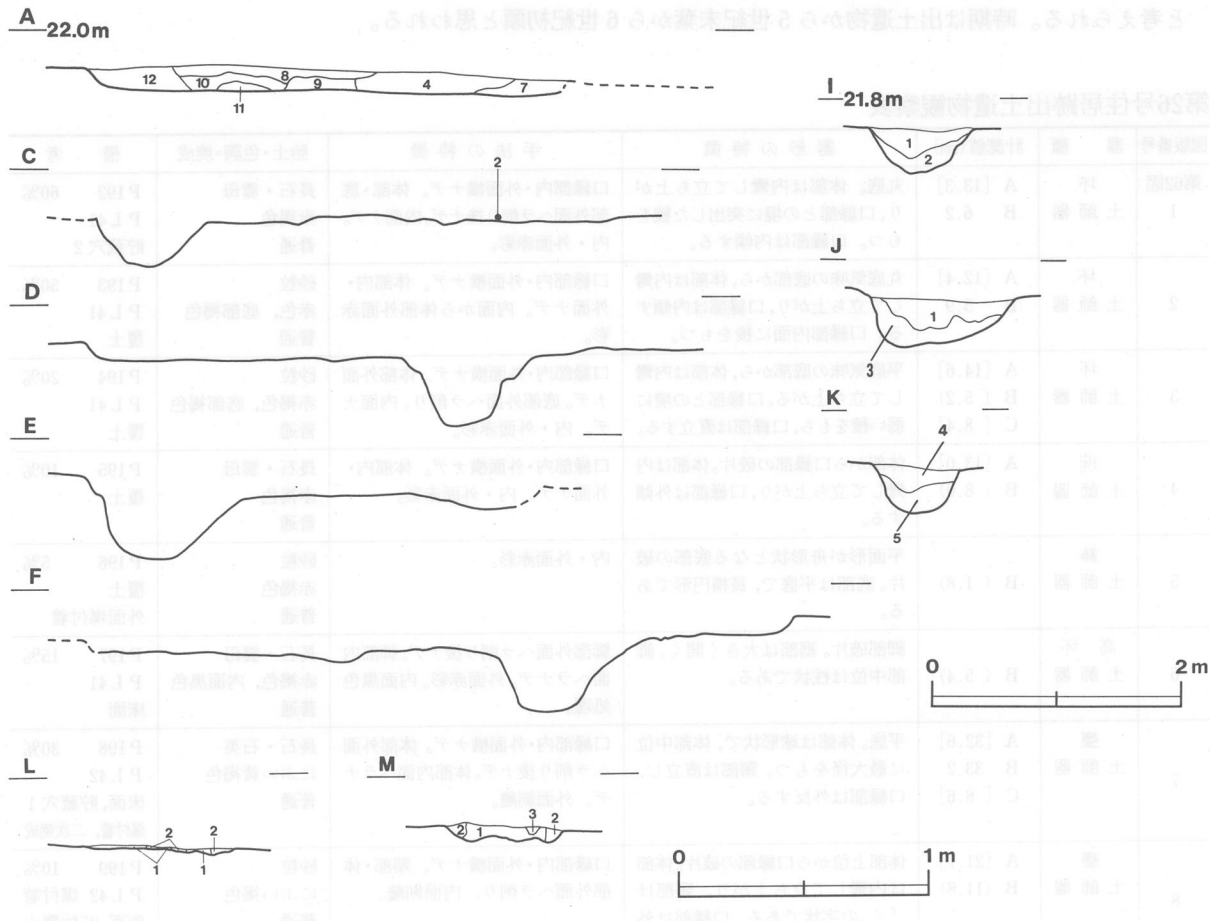
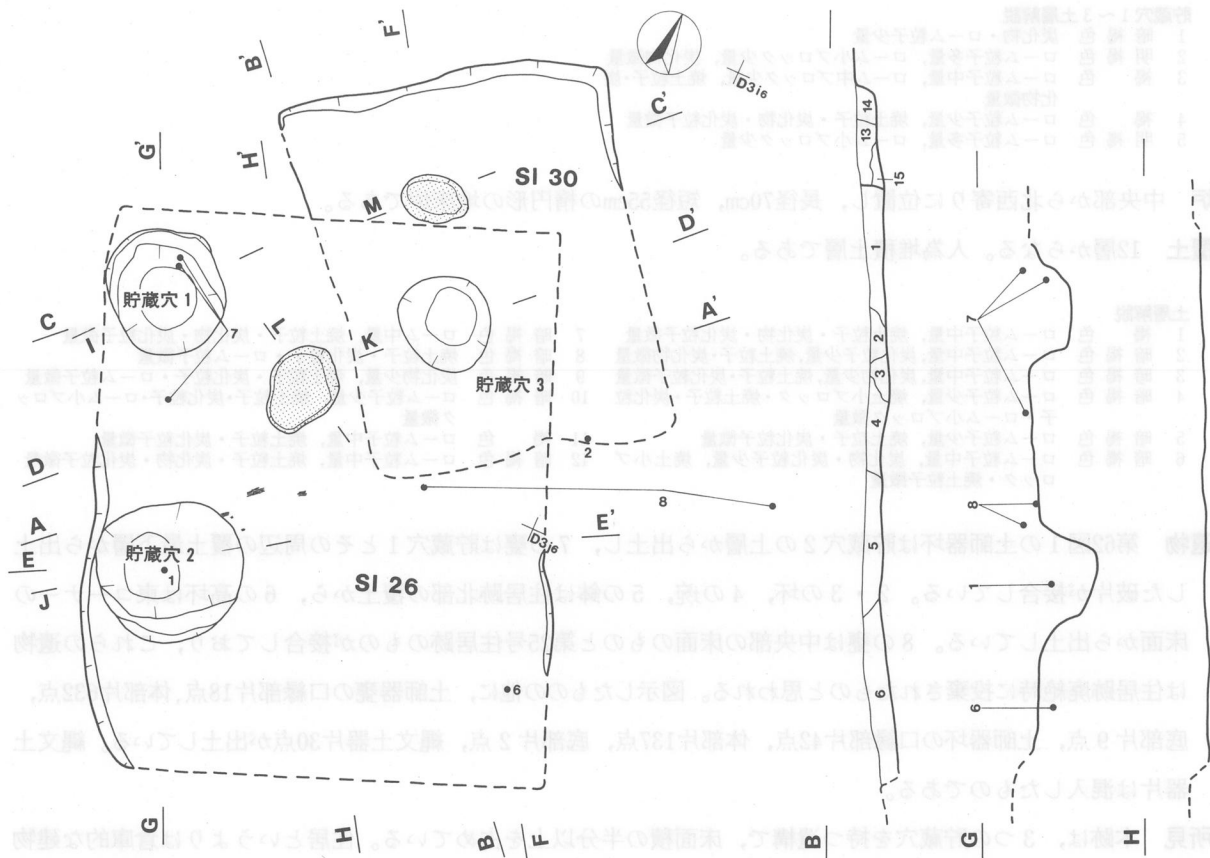
長軸方向 N-20°-W

壁 南西壁の一部が残っており、壁高は13cmで、外傾して立ち上がる。

床 踏み締められている面は見られない。

貯蔵穴 3か所。西コーナーに貯蔵穴1が、南西壁南寄りに貯蔵穴2が、北コーナーに貯蔵穴3が位置する。

貯蔵穴1は長径101cm、短径95cmの円形で、深さ35cm、断面は挿鉢状である。貯蔵穴2は径113cmの円形で、深さ45cm、断面は挿鉢状である。貯蔵穴3は長径80cm、短径70cmの楕円形で、深さ30cm、断面は「U」字形である。



第61図 第26・30号住居跡実測図

貯蔵穴1～3土層解説

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 5 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

炉 中央部から北西寄りに位置し, 長径70cm, 短径55cmの楕円形の地床炉である。

覆土 12層からなる。人為堆積土層である。

土層解説

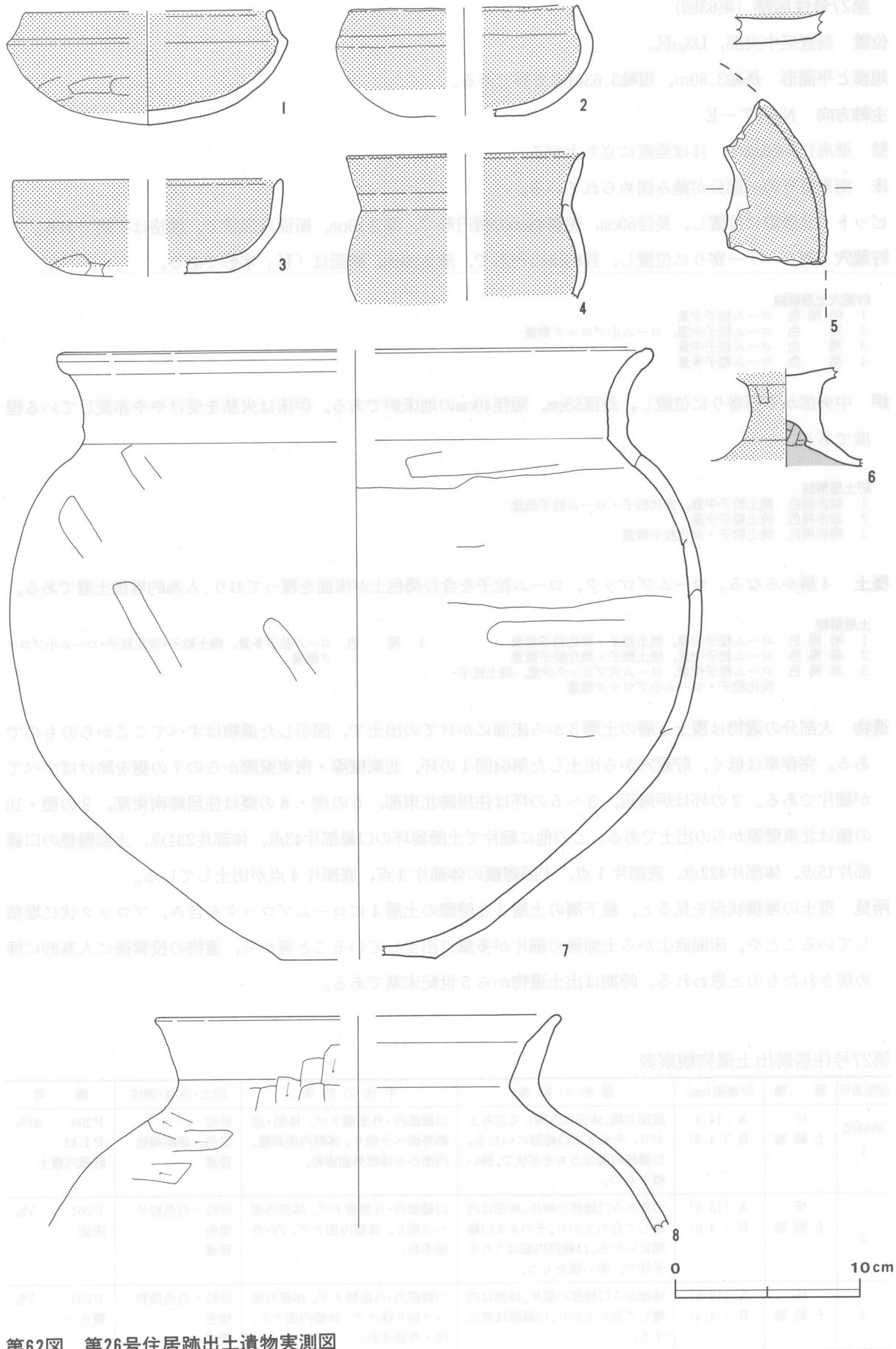
- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 7 暗褐色 ローム中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 9 暗褐色 炭化物少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 11 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 12 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物 第62図1の土師器坏は貯蔵穴2の上層から出土し, 7の甕は貯蔵穴1とその周辺の覆土最下層から出土した破片が接合している。2・3の坏, 4の碗, 5の鉢は住居跡北部の覆土から, 6の高坏は東コーナーの床面から出土している。8の甕は中央部の床面のものと第25号住居跡のものが接合しており, これらの遺物は住居跡廃絶時に投棄されたものと思われる。図示したものの他に, 土師器甕の口縁部片18点, 体部片632点, 底部片9点, 土師器坏の口縁部片42点, 体部片137点, 底部片2点, 縄文土器片30点が出土している。縄文土器片は混入したものである。

所見 本跡は, 3つの貯蔵穴を持つ遺構で, 床面積の半分以上を占めている。住居というよりは倉庫的な建物と考えられる。時期は出土遺物から5世紀末葉から6世紀初頭と思われる。

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第62図 1	坏 土師器	A [13.3] B 6.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母 赤褐色 普通	P192 60% P L41 貯蔵穴2
2	坏 土師器	A [12.4] B 5.9	丸底気味の底部から, 体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は内傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤色, 底部褐色 普通	P193 50% P L41 覆土
3	坏 土師器	A [14.6] B (5.2) C [8.4]	平底気味の底部から, 体部は内彎して立ち上がる。口縁部との境に弱い稜をもち, 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。底部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色, 底部褐色 普通	P194 20% P L41 覆土
4	碗 土師器	A [13.0] B (8.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・雲母 赤褐色 普通	P195 10% 覆土
5	鉢 土師器	B (1.8)	平面形が舟形状となる底部の破片。底部は平底で, 長楕円形である。	内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P196 5% 覆土 外面煤付着
6	高坏 土師器	B (5.4)	脚部破片。裾部は大きく開く。脚部中位は柱状である。	脚部外面へラ削り後ナデ。脚部内面へラナデ。外面赤彩。内面黒色処理。	長石・雲母 赤褐色, 内面黒色 普通	P197 15% P L41 床面
7	甕 土師器	A [32.6] B 33.2 C [8.6]	平底。体部は球形状で, 体部中位に最大径をもつ。頸部は直立し, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。体部内面へラナデ。外面剝離。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P198 30% P L42 床面, 貯蔵穴1 煤付着, 二次焼成
8	甕 土師器	A [21.7] B (11.8)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 頸部は「く」の字状である。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面へラ削り。内面剝離。	砂粒 にぶい褐色 普通	P199 10% P L42 煤付着 床面, 25住覆土



第62図 第26号住居跡出土遺物実測図

第27号住居跡 (第63図)

位置 調査区中央部, D3g3区。

規模と平面形 長軸3.80m, 短軸3.63mの方形である。

主軸方向 N-67°-E

壁 壁高15~20cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 南東寄りの一部分が踏み固められている。

ピット 北壁際に位置し, 長径60cm, 短径45cmの楕円形で, 深さ10cm, 断面は皿状で, 性格は不明である。

貯蔵穴 南コーナー寄りに位置し, 径63cmの円形で, 深さ30cm, 断面は「U」字形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

炉 中央部から西寄りに位置し, 長径55cm, 短径40cmの地床炉である。炉床は火熱を受けやや赤変している程度である。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 4層からなる。ロームブロック, ローム粒子を含む褐色土が床面を覆っており, 人為的堆積土層である。

土層解説

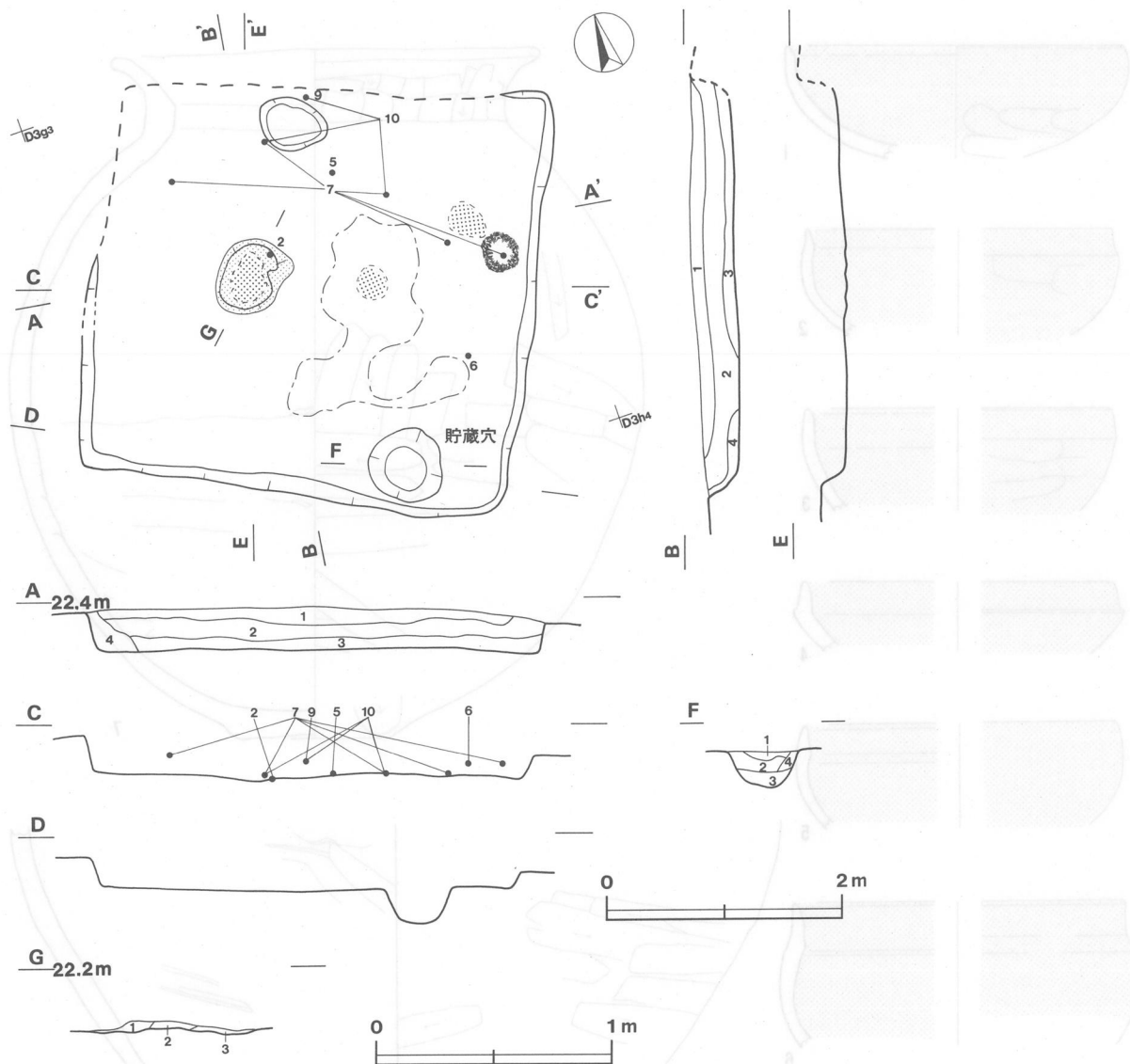
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム大ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 大部分の遺物は覆土下層の土層3から床面にかけての出土で, 図示した遺物はすべてここからのものである。完存率は低く, 貯蔵穴から出土した第64図1の坏, 北東壁際・南東壁際からの7の甕を除けばすべてが細片である。2の坏は炉周辺, 3~5の坏は住居跡北東部, 6の碗・8の甕は住居跡南東部, 9の甕・10の甗は北東壁際からの出土である。この他に細片で土師器坏の口縁部片43点, 体部片231点, 土師器甕の口縁部片15点, 体部片422点, 底部片1点, 土師器甗の体部片3点, 底部片4点が出土している。

所見 覆土の堆積状況を見ると, 最下層の土層3と壁際の土層4にロームブロックを含み, ブロック状に堆積していることや, 床面直上から土師器の細片が多量に出土していること等から, 遺物の投棄後に人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は出土遺物から5世紀末葉である。

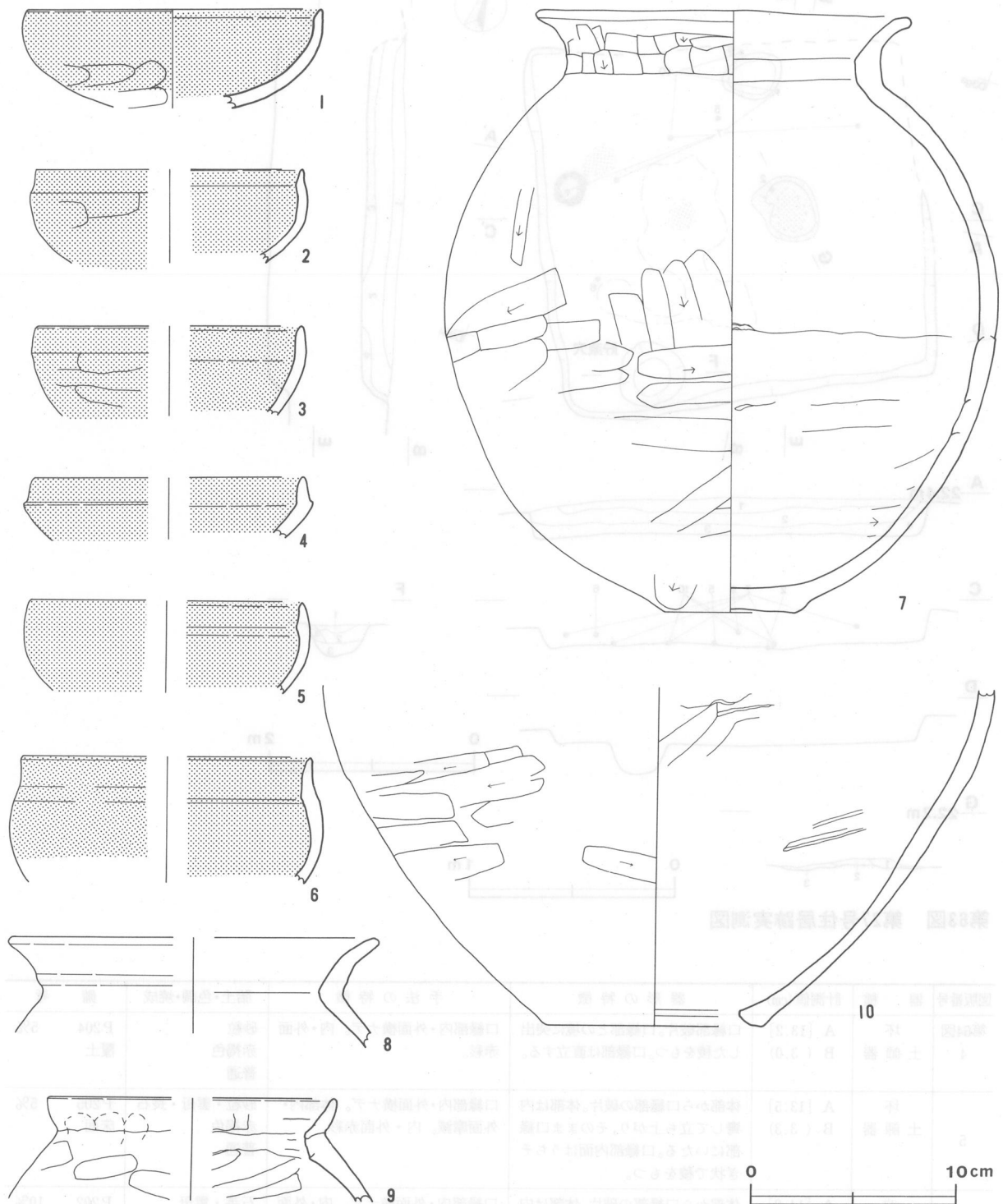
第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 1	坏 土師器	A 14.4 B (4.9)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり, そのまま口縁部にいたる。口縁部内面はうちそぎ状で, 弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。体部内面剝離。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤色, 底部褐色 普通	P200 80% PL42 貯蔵穴覆土
2	坏 土師器	A [13.0] B (4.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, そのまま口縁部にいたる。口縁部内面はうちそぎ状で, 弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・白色粒子 橙色 普通	P201 5% 床面
3	坏 土師器	A [13.0] B (4.4)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。体部内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・白色微粒 橙色 普通	P203 5% 覆土



第63図 第27号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 4	坏 土師器	A [13.2] B (3.0)	口縁部破片。口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P204 5% 覆土
5	坏 土師器	A [13.5] B (3.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口縁部内面はうちそぎ状で稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩滅。内・外面赤彩。	砂粒・雲母・長石 赤褐色 普通	P205 5% 床面
6	碗 土師器	A [14.2] B (6.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	石英・雲母 赤褐色 普通	P202 10% 床面
7	甕 土師器	A 18.3 B 29.3 C 6.3	平底。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。頸部は短く直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒 橙色 普通	P206 60% PL42 煤付着 覆土下層
8	甕 土師器	A [18.0] B (5.4)	口縁部破片。頸部は「く」の字状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石 にぶい黄橙色 普通	P207 5% 覆土



第64図 第27号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第64図 9	小型甕 土師器	A [14.0] B (5.0)	口縁部破片。頸部は「く」の字状で、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面へラ削り。内面へラナデ。	砂粒 橙色 普通	P208 5% 覆土中層
10	甕 土師器	B (16.5) C [10.6]	体部から体部下半の破片。無底式。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り。内面へラナデ。内面剝離が著しい。	砂粒 にぶい橙色 普通	P209 20% 覆土下層

第28号住居跡 (第65・66図)

位置 調査区中央部, D3j1区。

規模と平面形 一辺が9.25mの方形である。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高45~80cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周し、上幅14~24cm、深さ5~7cmで、断面は「U」字形である。

間仕切溝 13条 (a~m)。北東壁から4条 (a~d)、南西壁から4条 (e~h)、北西壁から5条 (i~m)、それぞれ中央にむかって延びている。a~g, i, j, l, mは上幅20~40cm、深さ6~12cm、断面は「U」字形である。h・kは他の間仕切溝よりも幅広く、上幅48~55cm、深さ10~18cm、断面は逆台形である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南東壁中央部には、幅10~20cm、高さ8cmの半円状の高まりがある。位置や形態から、出入り口施設と思われる。

ピット 8か所 (P1~P8)。P1~P7は径40~80cmの円形、深さ30~65cmで、いずれも支柱穴と考えられる。P8は長径63cm、短径55cmの楕円形、深さ35cmで、出入り口施設に伴うピットと思われる。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は東コーナーに位置し、径80cmの円形で、深さ60cmである。貯蔵穴2は出入り口施設の内側に位置し、長径97cm、短径85cmの楕円形で、深さ35cmである。いずれも平坦な底面から外傾して立ち上がり、断面は逆台形である。

貯蔵穴1・2土層解説

1 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子量
2 褐色	ローム粒子中量, ローム大ブロック・中ブロック・小ブロック少量	5 暗褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 炭化物微量
3 暗褐色	ローム粒子少中量, 炭化粒子少量	6 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

炉 2か所。炉1は中央部北東寄りに位置し、長径156cm、短径80cmの不整楕円形で、7cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉2は炉1の南部に接し、長径100cm、短径80cmの不整楕円形で、4cmほど掘りくぼめた地床炉である。

炉1・2土層解説

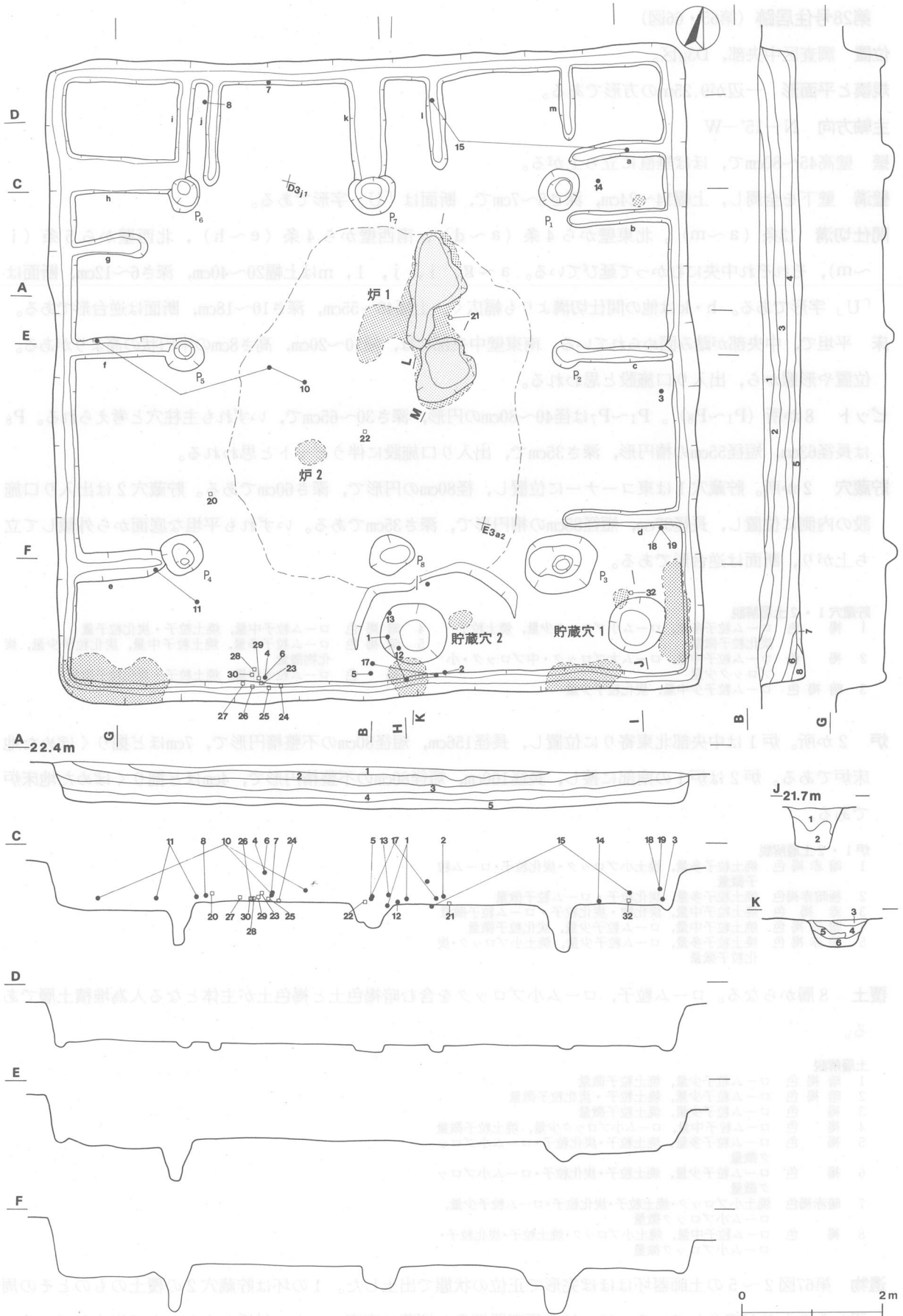
1 暗赤褐色	焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
2 極暗赤褐色	焼土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子微量
3 赤褐色	焼土粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム粒子微量
4 暗赤褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
5 暗赤褐色	焼土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量

覆土 8層からなる。ローム粒子、ローム小ブロックを含む暗褐色土と褐色土が主体となる人為堆積土層である。

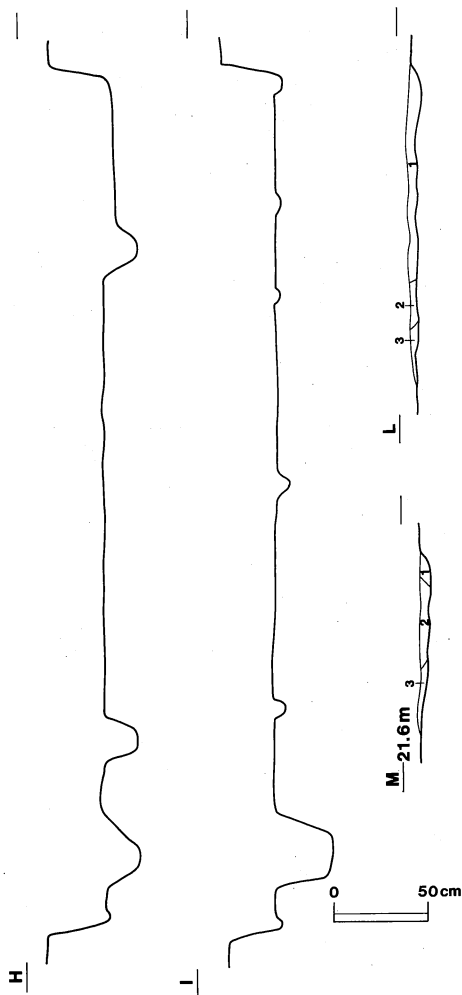
土層解説

1 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
4 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
5 褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
6 褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
7 暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
8 褐色	ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 第67図2~5の土師器坏はほぼ完形で正位の状態出土した。1の坏は貯蔵穴2の覆土のものとその周辺からのものが接合している。18・19の須恵器坏身と坏蓋は南東コーナー付近からセットで出土している。33の滑石原石は南東コーナー付近の床面から、21の扁平石製品は中央部の覆土下層から、22~32の白玉のう



第65図 第28号住居跡実測図(1)



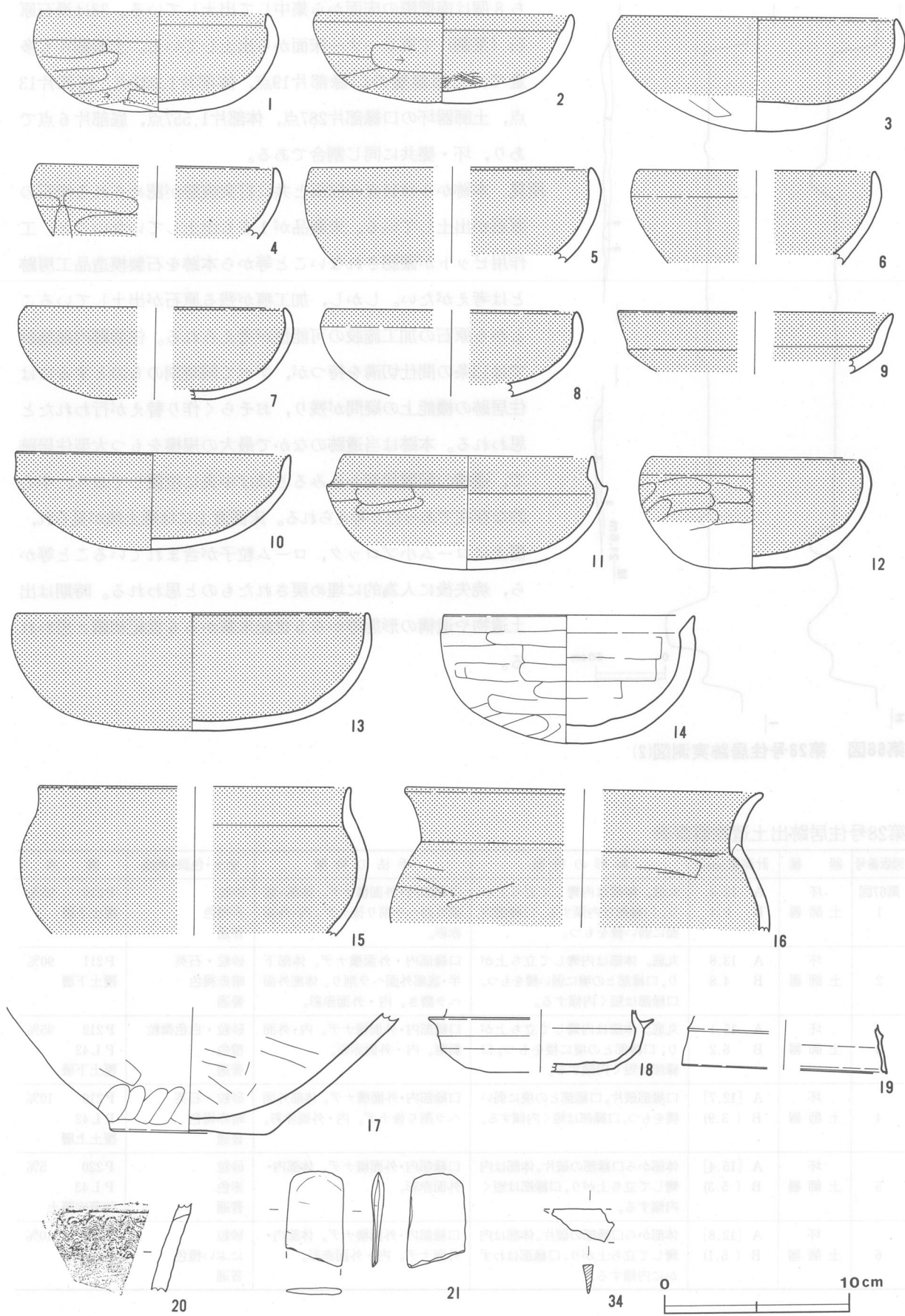
第66図 第28号住居跡実測図(2)

ち8個は南壁際の床面から集中して出土している。33は滑石原石(荒割)で東コーナー床面から出土している。土器細片も多量で、土師器甕の口縁部片19点、体部片1,031点、底部片13点、土師器坏の口縁部片287点、体部片1,557点、底部片6点であり、坏・甕共に同じ割合である。

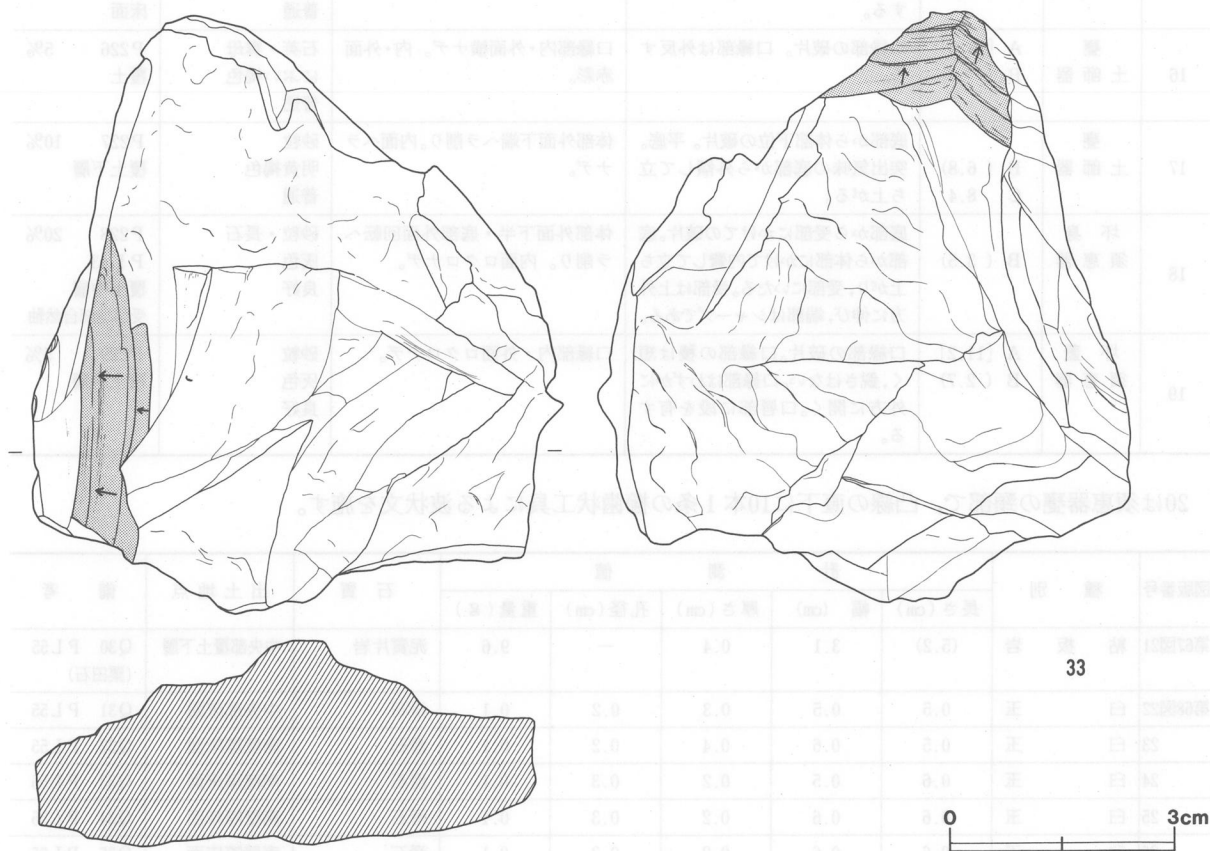
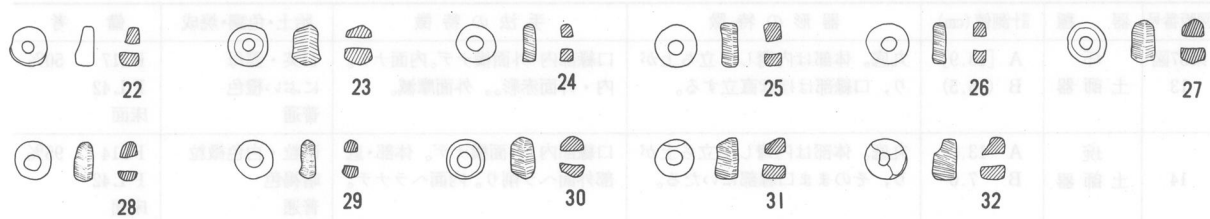
所見 本跡からは11点の白玉と共に打突痕跡が認められる滑石の原石が出土している。未製品が1点も出土していないこと、工作用ピットが確認されないこと等から本跡を石製模造品工房跡とは考えがたい。しかし、加工痕が残る原石が出土していることから原石の加工施設の可能性が考えられる。住居跡内部施設では13条の間仕切溝を持つが、すべて同時期のものとするには住居跡の機能上の疑問が残り、おそらく作り替えが行われたと思われる。本跡は当遺跡のなかで最大の規模をもつ大型住居跡で、遺構の配置状況からみるとほぼ中央に位置しており、中心的な存在であったと考えられる。床面直上には焼土塊が見られ、覆土にローム小ブロック、ローム粒子が含まれていること等から、焼失後に人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は出土遺物や遺構の形態等から5世紀末葉から6世紀初頭と思われる。

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第67図 1	坏 土師器	A 12.4 B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P210 95% 覆土下層
2	坏 土師器	A 13.8 B 4.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下 半・底部外面へラ削り。体部外面 へラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒・石英 暗赤褐色 普通	P211 90% 覆土下層
3	坏 土師器	A 15.1 B 6.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面 剝離。内・外面赤彩。	砂粒・白色微粒 橙色 普通	P212 95% P L42 覆土下層
4	坏 土師器	A [12.7] B (3.9)	口縁部破片。口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・石英 暗赤褐色 普通	P219 10% P L42 覆土上層
5	坏 土師器	A [15.4] B (5.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P220 5% P L43 貯蔵穴覆土
6	坏 土師器	A [12.8] B (5.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・ 外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい橙色 普通	P222 10% 覆土上層



第67図 第28号住居跡出土遺物実測図(1)



第68図 第28号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第67図 7	坏 土師器	A [14.0] B (5.1)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。外面摩滅。	砂粒・石英・雲母 赤褐色 普通	P223 10% 覆土下層
8	坏 土師器	A [13.6] B (4.7)	口縁部破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。内面摩滅。	砂粒 明褐色 普通	P224 15% 覆土下層
9	坏 土師器	A [15.0] B (3.3)	口縁部破片。口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 橙色 普通	P225 5% 覆土
10	坏 土師器	A 14.9 B 5.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内面上位・外面赤彩。	石英・雲母 赤色 普通	P215 60% P L42 覆土下層
11	坏 土師器	A 12.4 B 6.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜線をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面から体部外面上位赤彩。内面剝離。	砂粒 赤褐色、底部黄褐色 普通	P213 100% P L42 覆土下層
12	坏 土師器	A 13.6 B 6.2	平底気味。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラ削り後ナデ。内面ナデ。内面から体部外面上位赤彩。	石英・長石・雲母 赤褐色、底部褐色 普通	P216 60% P L42 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第67図 13	坏 土師器	A [18.9] B (6.5)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。。外面摩滅。	石英・雲母にぶい橙色 普通	P217 50% P L42 床面
14	碗 土師器	A 13.8 B 7.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒・白色微粒 暗褐色 普通	P214 95% P L42 床面
15	碗 土師器	A [17.0] B (8.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内面ナデ。外面摩滅。内・外面赤彩。	砂粒・石英 明褐色 普通	P218 25% P L42 床面
16	甕 土師器	A [19.5] B (7.4)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	石英・雲母にぶい褐色 普通	P226 5% 覆土
17	甕 土師器	B (6.8) C 8.4	底部から体部下位の破片。平底。突出気味の底部から外傾して立ち上がる。	体部外面下端ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒 明黄褐色 普通	P227 10% 覆土下層
18	坏身 須恵器	B (3.5)	底部から受部にかけての破片。底部から体部にかけて内彎して立ち上がり、受部にいたる。受部は上外方に伸び、端部はシャープである。	体部外面下半・底部外面回転ヘラ削り。内面ロクロナデ。	砂粒・長石 灰色 良好	P228 20% P L43 覆土中層 受部端部自然釉
19	坏蓋 須恵器	A [11.2] B (2.7)	口縁部の破片。口縁部の稜は短く、鋭さはない。口縁部はわずかに外方に開く。口唇部に段を有する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒 灰色 良好	P229 5% 覆土中層

20は須恵器甕の頸部で、凸線の直下に10本1条の櫛歯状工具による波状文を施す。

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第67図21	粘板岩	(5.2)	3.1	0.4	—	9.6	泥質片岩	中央部覆土下層	Q30 P L55 (栗田石)
第68図22	白玉	0.5	0.5	0.3	0.2	0.1	滑石	中央部床面	Q31 P L55
23	白玉	0.5	0.6	0.4	0.2	0.1	滑石	南壁際床面	Q32 P L55
24	白玉	0.6	0.5	0.2	0.3	0.1	滑石	南壁際床面	Q33 P L55
25	白玉	0.6	0.6	0.2	0.3	0.1	滑石	南壁際床面	Q34 P L55
26	白玉	0.6	0.6	0.2	0.3	0.1	滑石	南壁際床面	Q35 P L55
27	白玉	0.5	0.6	0.3	0.2	0.1	滑石	南壁際床面	Q36 P L55
28	白玉	0.5	0.5	0.3	0.3	0.1	滑石	南壁際床面	Q37 P L55
29	白玉	0.5	0.5	0.2	0.3	0.1	滑石	南壁際床面	Q38 P L55
30	白玉	0.5	0.6	0.3	0.3	0.1	滑石	南壁際床面	Q39 P L55
31	白玉	0.5	0.6	0.3	0.3	0.1	滑石	南東壁際床面	Q40 P L55
32	白玉	0.6	0.6	0.3	0.2	0.1	滑石	南東部覆土	Q41 P L55
33	原石	8.0	7.2	3.1	—	179.0	滑石	東コーナー床面	Q29 P L55

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第67図34	不明鉄製品	(3.9)	(1.9)	0.6	3.7	北東側覆土	M5

35は須恵器甕の頸部で、凸線の直下に櫛状工具による波状文を施す。

第30号住居跡 (第61図)

位置 調査区中央部, D3i5区。

重複関係 本跡が第26号住居跡に南西部を掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.10m, 短軸2.95mの長方形と推測される。

主軸方向 N-36°-W

壁 耕作による攪乱や第26号住居跡の掘り込みのため北西壁のみが残存する。壁高12cmで, 外傾して立ち上がる。

床 踏み締められている面は見られない。

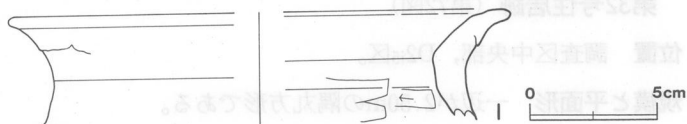
炉 中央部から北西寄りに位置し, 長径55cm, 短径40cmの楕円形の地床炉である。

覆土 3層からなる。土層断面図中, 土層13~15が本跡の覆土で, 人為堆積土層である。

土層解説

- 13 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 14 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 15 褐色 ローム粒子少量

遺物 遺物のほとんどは覆土中からの細片で, 図示できる遺物は第70図1の土師器甕のみである。1は西コーナーの覆土からの出土である。



第69図 第30号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は, かなり小規模な住居跡である。時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第69図 1	甕 土師器	A [19.4] B (4.5)	口縁部の破片。頸部は「く」の字状で, 口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。摩滅が著しい。	砂粒 褐色 不良	P 483 5% 床面

第31号住居跡 (第70図)

位置 調査区北部, B3a3区。

規模と平面形 長軸2.38m, 短軸1.71mの長方形である。

主軸方向 N-6°-W

壁 掘り込みが浅いため, 壁はほとんど残存していない。

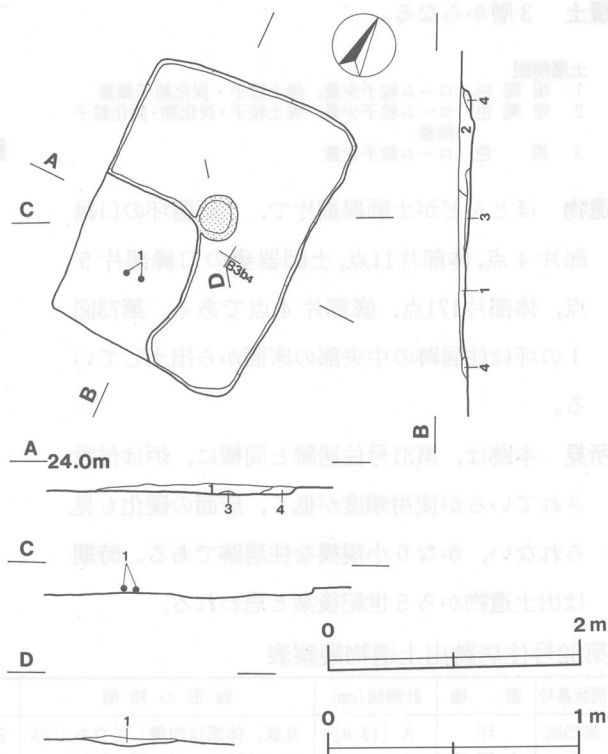
床 踏み締められている面は見られない。

炉 中央部に位置し, 径40cmの円形の地床炉である。熱を受けた痕跡がある程度で硬化していない。

覆土 4層からなり, 土層1・2を主体とする。

土層解説

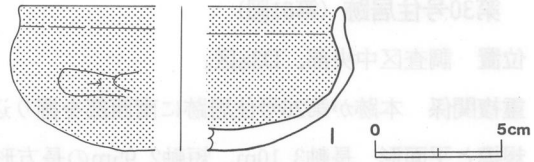
- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量



第70図 第31号住居跡実測図

遺物 ほとんどが細片で、土師器甕の体部片115点、底部片3点、土師器杯の口縁部片5点、体部片13点が出土している。図示できたものは第71図1の杯のみである。

所見 本跡は、炉は付設されてはいるが使用頻度が低く、床面の硬化も見られないかなり小規模な住居跡である。時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



第71図 第31号住居跡出土遺物実測図

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 1	杯 土師器	A [13.0] B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口唇部はうちそぎ状で、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P238 40% P L 43 床面

第32号住居跡 (第72図)

位置 調査区中央部, D2i5区。

規模と平面形 一辺が2.50mの隅丸方形である。

主軸方向 N-33°-W

壁 掘り込みが浅いため、壁はほとんど残存していない。

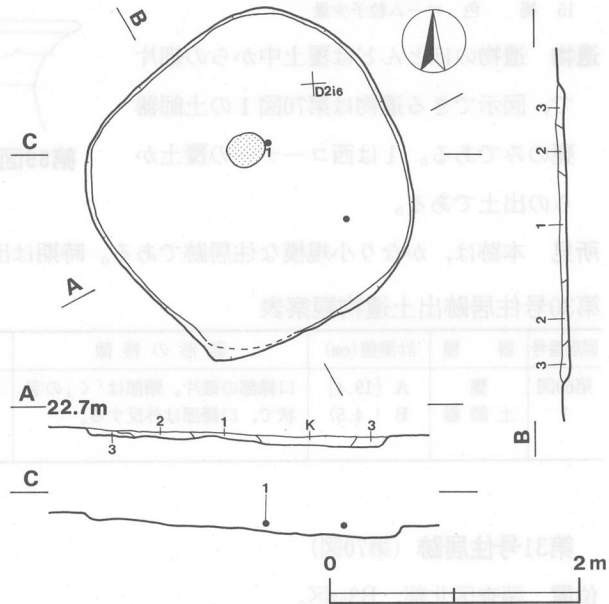
床 踏み締められている面は見られない。

炉 中央部から北西寄りに位置し、径28cmの円形の地床炉である。熱を受けた痕跡がある程度で硬化していない。

覆土 3層からなる。

土層解説

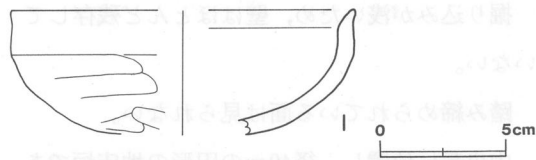
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量



第72図 第32号住居跡実測図

遺物 ほとんどが土師器細片で、土師器杯の口縁部片4点、体部片11点、土師器甕の口縁部片5点、体部片171点、底部片4点である。第73図1の杯は住居跡の中央部の床面から出土している。

所見 本跡は、第31号住居跡と同様に、炉は付設されているが使用頻度が低く、床面の硬化も見られない、かなり小規模な住居跡である。時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



第73図 第32号住居跡出土遺物実測図

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第73図 1	杯 土師器	A [13.8] B (5.0)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。	砂粒 赤褐色 普通	P239 10% 床面

第34号住居跡 (第74図)

位置 調査区中央部東側, E3b7区。

規模と平面形 長軸2.32m, 短軸2.08mの不整形である。

長軸方向 N-83°-E

壁 壁高40~45cmで, 垂直に立ち上がる。

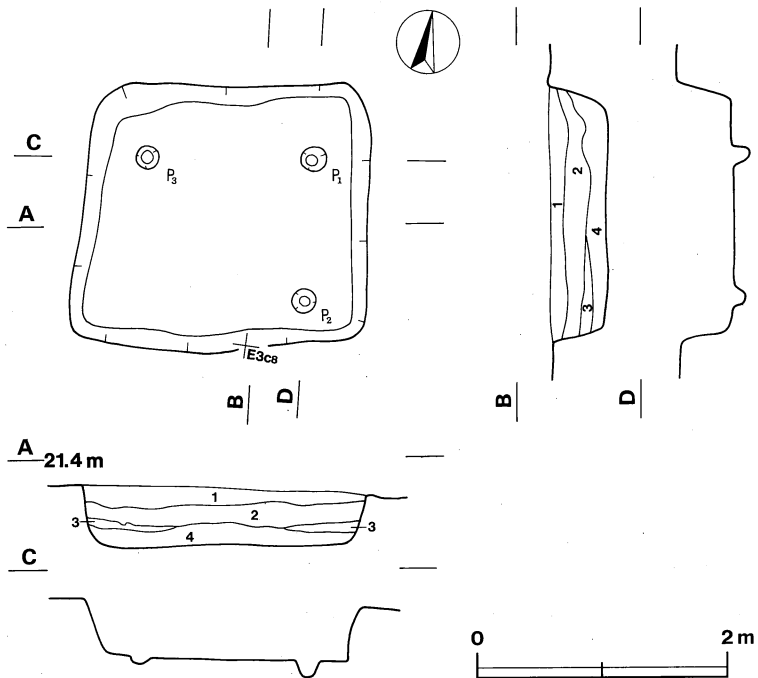
床 踏み締められている面は見られない。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。径19cmの円形, 深さ10~15cmで, いずれも支柱穴と思われる。

覆土 4層からなる。自然堆積土層である。

土層解説

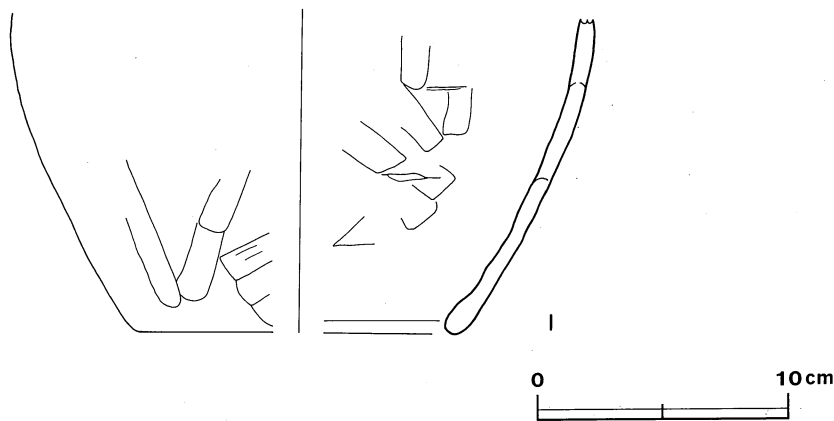
- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量



第74図 第34号住居跡実測図

遺物 第75図1の土師器甑は覆土からの出土である。この他に出土したのは土師器坏の体部片1点, 甑の体部片7点である。

所見 本跡は, 炉は確認できなかったが, 通常の住居跡と同様に一定の掘り込みのある方形の竪穴であり, 柱穴も確認できていることから, 小規模の住居跡とした。時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



第75図 第34号住居跡出土遺物実測図

第34号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第75図 1	甑 土師器	B (12.7) C [12.8]	無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P241 5% 覆土

第37号住居跡 (第76図)

位置 調査区中央部, E2c9区。

規模と平面形 長軸3.42m, 短軸2.51mの長方形である。

主軸方向 N-37°-W

壁 壁高15~28cmで, 垂直に立ち上がる。

床 炉と貯蔵穴の間から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 北西部に位置し, 長径30cm, 短径22cmの楕円形で, 深さ9cmである。性格は不明である。

貯蔵穴 北コーナーに位置し, 長径74cm, 短径60cmの長方形, 深さ44cmで, 断面は「U」字形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐 色 ローム粒子微量
- 2 褐 色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 にぶい褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 5 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 明 褐 色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量

炉 中央部から北西寄りに位置し, 長径63cm, 短径37cmの不定形で, 炉床は掘り込められていない。

覆土 13層からなる。ロームブロックを多量に含む人為堆積土層である。

土層解説

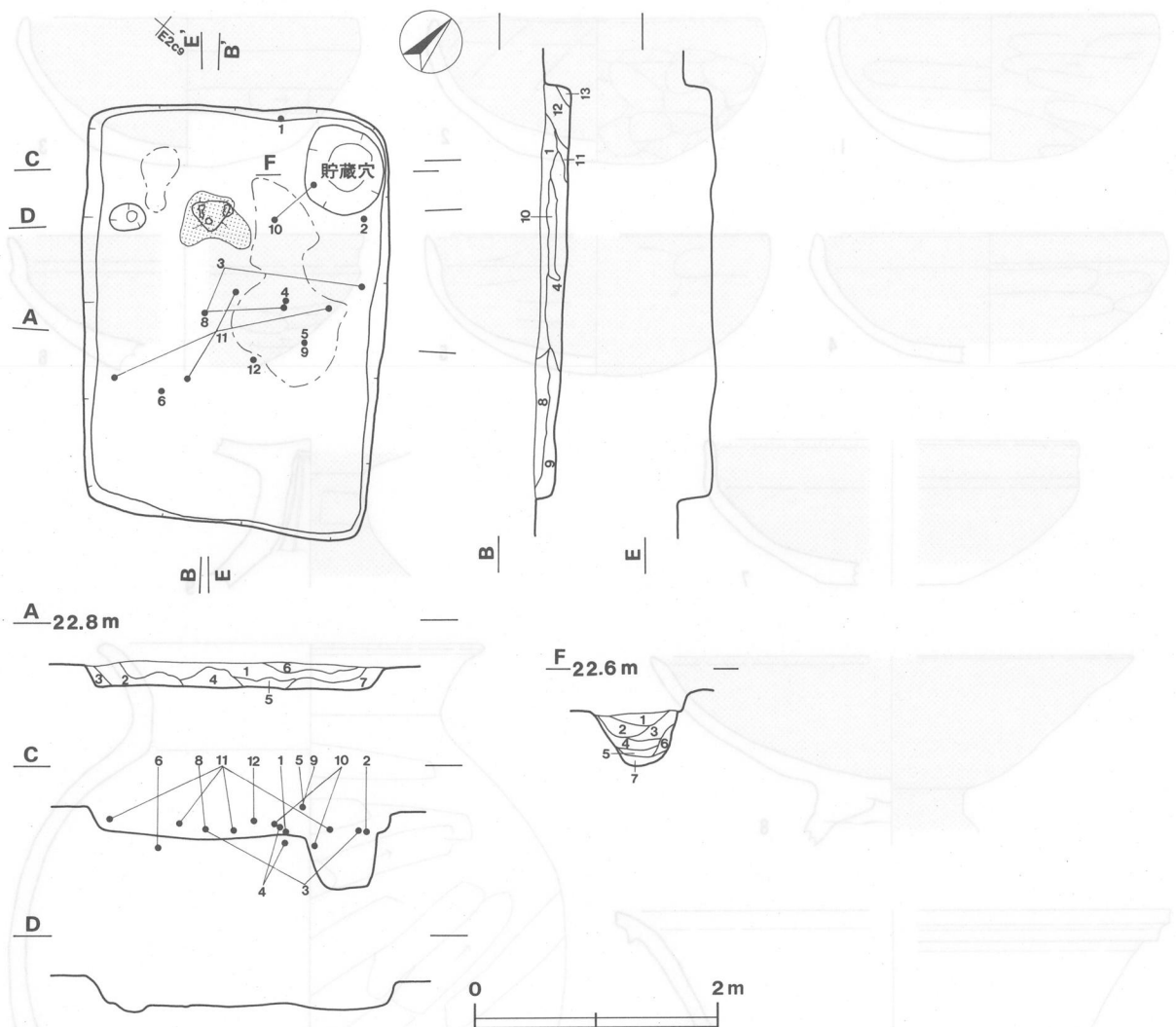
- 1 黄 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, ローム大・小ブロック少量
- 3 褐 色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 明 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 5 褐 色 ローム小ブロック中量, 炭化物少量
- 6 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 7 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 8 黄 褐 色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 褐 色 ローム中ブロック中量
- 10 褐 色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 11 黄 褐 色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 12 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム中ブロック少量
- 13 褐 色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量

遺物 第77図1の坏は北西壁際床面から, 2・3の坏は北東壁際床面から, 4の坏, 9の高坏及び12の須恵器甕は中央部の覆土から出土している。10の甕は貯蔵穴付近からまとめて出土している。11の甕は離れた場所からのものが接合している。これらの他には, 土師器甕の口縁部片6点, 体部片13点, 底部片2点, 土師器坏の口縁部片10点, 体部片45点が出土している。

所見 本跡は, 覆土にロームブロックが含まれていることから, 住居廃絶後人為的に埋め戻され, その際に土器を投棄したものと思われる。時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。

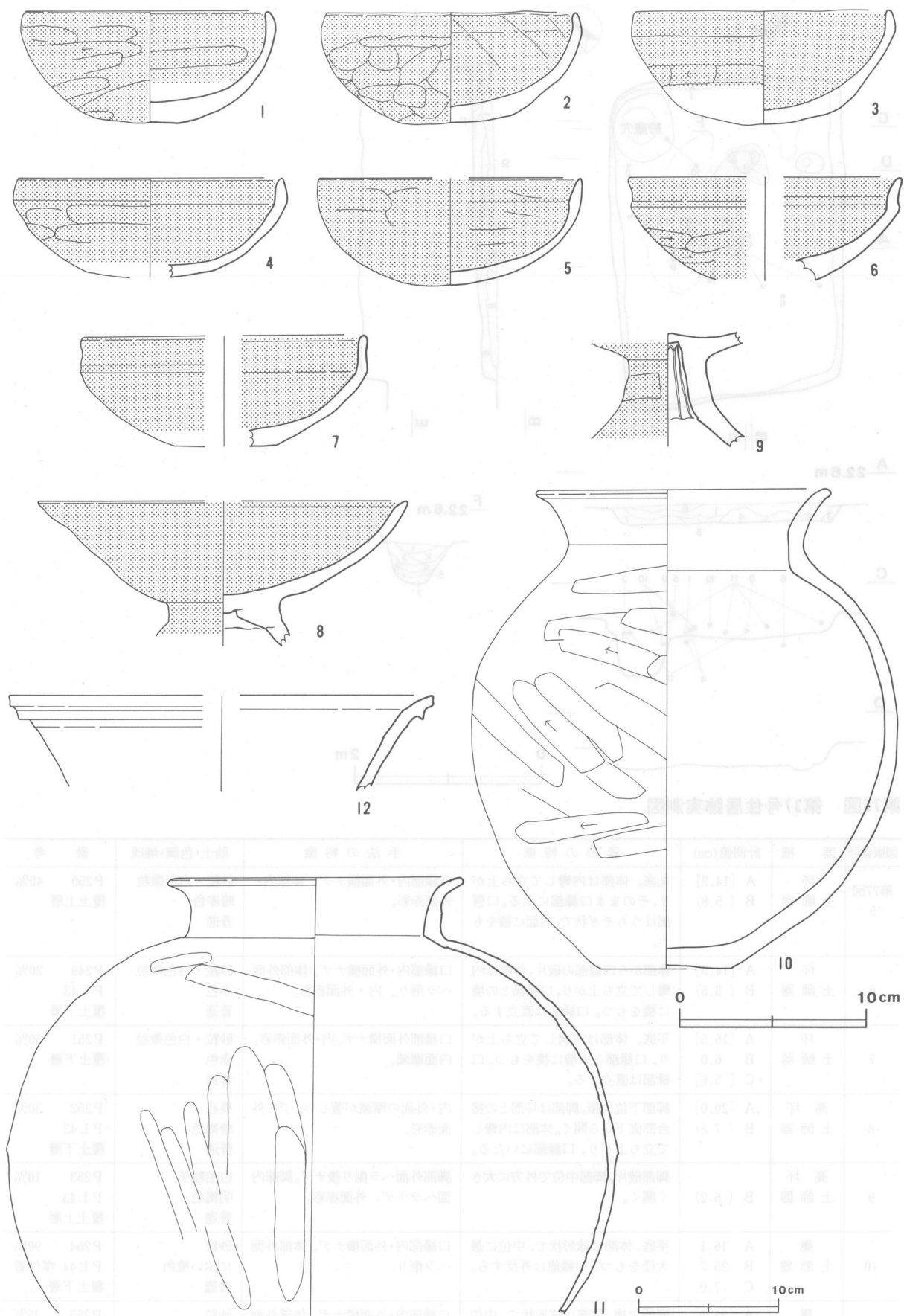
第37号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第77図 1	坏 土 師 器	A 13.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内・外面赤彩。	砂粒・白色微粒 橙色 普通	P245 95% PL43 床面 煤付着
		B 6.0				
2	坏 土 師 器	A 13.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部下 半・底部外面へラ削り後ナデ。内 面へラ当て痕。内・外面赤彩。	砂粒・白色微粒 暗赤褐色 普通	P246 95% PL43 床面 煤付着
		B 6.1				
3	坏 土 師 器	A [13.8]	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。外面へラ 削り。内・外面赤彩。	砂粒・白色微粒 赤色 普通	P247 90% PL43 床面
		B 6.4				
4	坏 土 師 器	A 14.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面 へラ削り。内・外面赤彩。	砂粒 暗赤褐色 普通	P248 70% PL43 覆土下層
		B (5.4)				



第76図 第37号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 5	坏 土師器	A [14.2] B (5.8)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部に至る。口唇部はうちそぎ状で、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面赤彩。	砂粒・白色微粒 暗赤色 普通	P250 40% 覆土上層
6	坏 土師器	A [14.5] B (5.5)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内・外面赤彩。	砂粒・白色微粒 赤色 普通	P249 20% PL43 覆土下層
7	坏 土師器	A [15.5] B 6.0 C [5.6]	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部外面横ナデ。内・外面赤彩。内面摩滅。	砂粒・白色微粒 赤色 普通	P251 30% 覆土下層
8	高坏 土師器	A [20.0] B (7.8)	脚部下位欠損。脚部は坏部との接合部直下から開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。	内・外面の摩滅が著しい。内・外面赤彩。	長石 暗褐色 普通	P252 30% PL43 覆土下層
9	高坏 土師器	B (6.2)	脚部破片。脚部中位で外方に大きく開く。	脚部外面へら削り後ナデ。脚部内面へらナデ。外面赤彩。	白色粒子 明褐色 普通	P253 10% PL43 覆土上層
10	甕 土師器	A 16.1 B 25.7 C 7.0	平底。体部は球形状で、中位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P254 90% PL44 煤付着 覆土下層
11	甕 土師器	A 21.5 B (31.4)	底部欠損。体部は球形状で、中位に最大径をもつ。口縁部は直立し、口唇部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。体部内面剝離。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P255 35% PL43 覆土下層



第77図 第37号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 12	甕 須恵器	A [22.8] B (5.2)	口縁部破片。口縁部は外傾し、口 唇部直下に沈線、凸帯がある。	口縁部内・外面ロクロナデ。	白色粒子 灰色 良好	P256 5% PL43 覆土下層 内面自然釉

第38号住居跡 (第78図)

位置 調査区中央部, E2d8区。

規模と平面形 長軸3.65m, 短軸3.23mの長方形である。

主軸方向 N-57°-W

壁 壁高20~30cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 間仕切溝部と北東壁の一部を除いた壁下を巡る。上幅8~10cm, 深さ3~5cmで, 断面は「U」字形である。

間仕切溝 南東壁から中央に向かって1条(a)。上幅20~25cm, 深さ20cm, 断面は「U」字形である。

床 平坦で, 全体的に踏み固められている。

ピット 6か所(P1~P6)。P1~P4は径18~30cmの円形, 深さ20~30cmで, 支柱穴である。P6は長径25cm, 短径15cmの楕円形, 深さ18cmで出入り口施設に伴うピットである。P5は径26cmの円形, 深さ32cmで性格は不明である。

貯蔵穴 北西壁際の北コーナー寄りに位置し, 長軸55cm, 短軸43cmの長方形, 深さ37cmで, 断面は「U」字形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム中ブロック多量, 焼土粒子・ローム粒子少量
- 4 黄褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量, 焼土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム中ブロック多量, 焼土粒子微量

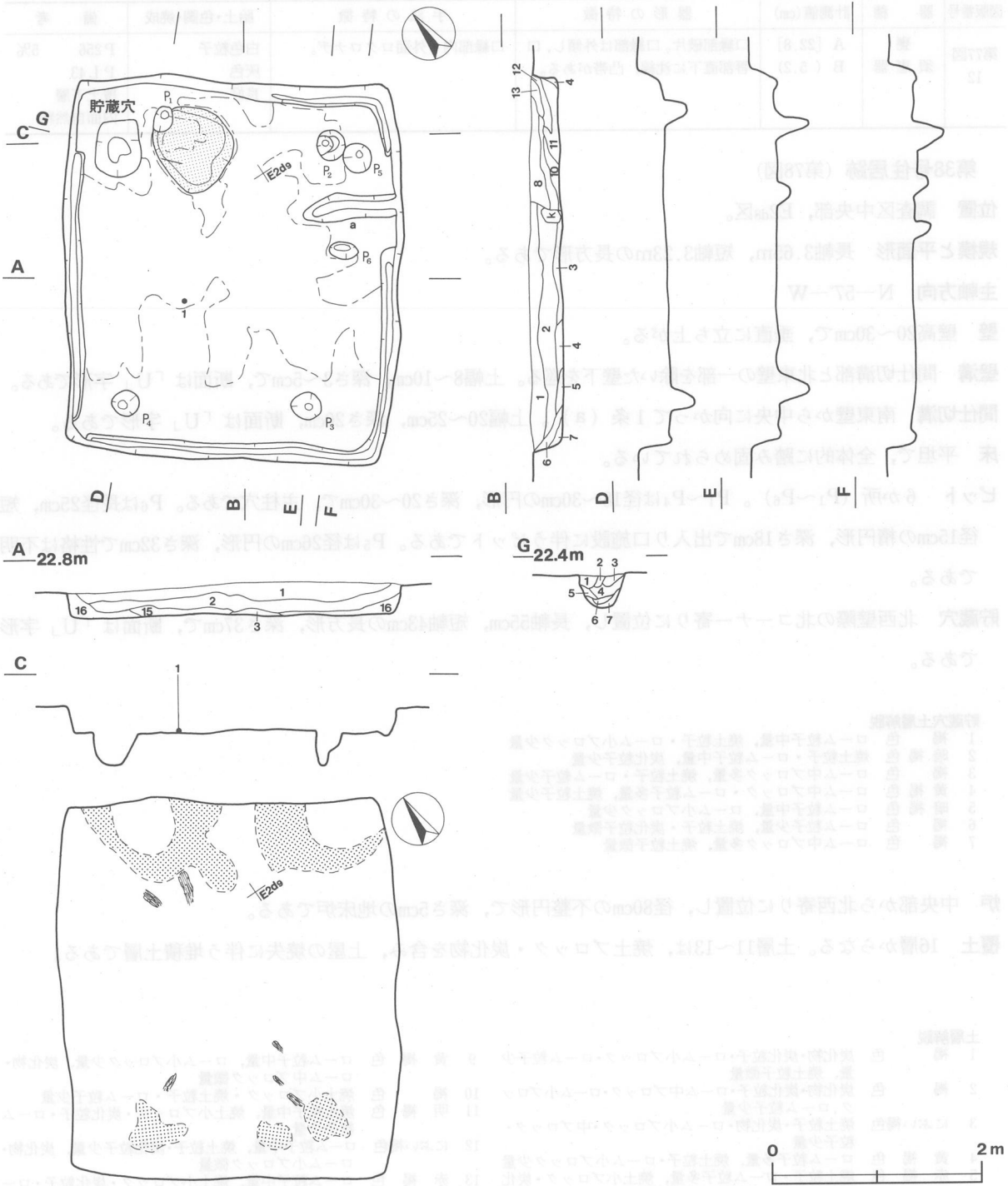
炉 中央部から北西寄りに位置し, 径80cmの不整円形で, 深さ5cmの地床炉である。

覆土 16層からなる。土層11~13は, 焼土ブロック・炭化物を含み, 上屋の焼失に伴う堆積土層である。

土層解説

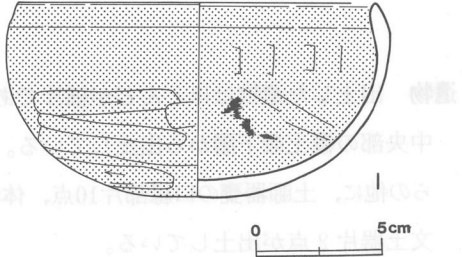
- | | | | |
|---------|---------------------------------------|----------|--------------------------------------|
| 1 褐色 | 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 9 黄褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物・ローム中ブロック微量 |
| 2 褐色 | 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック, ローム粒子少量 | 10 褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 3 にぶい褐色 | 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・中ブロック・粒子少量 | 11 明褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 4 黄褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量 | 12 にぶい褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化物・ローム小ブロック微量 |
| 5 赤褐色 | 焼土粒子・ローム粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック少量 | 13 赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 6 褐色 | ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量 | 14 黄褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量 |
| 7 黄褐色 | ローム粒子多量, 炭化物・ローム小ブロック少量 | 15 にぶい褐色 | 焼土小ブロック・炭化物・ローム中ブロック少量 |
| 8 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 16 黄褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |

遺物 出土した遺物はほとんどが細片であり, 図示できたのは第79図1の土師器碗の1点である。1は住居跡中央部の覆土最下層から出土している。東コーナーの焼土塊の中からは, 山桃の種子が出土している。これらの他に, 土師器甕の口縁部片10点, 体部片320点, 底部片2点, 土師器坏の口縁部片9点, 体部片82点, 縄文土器片2点が出土している。



第78図 第38号住居跡実測図

所見 床面上には炭化材、焼土塊が多量にみられ、特に北東壁際には焼土ブロックや炭化材を含んだ層が厚く堆積していた。覆土にはロームブロック、ローム粒子が含まれており、本跡は住居焼失後埋め戻されたと思われる。時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



第79図 第38号住居跡出土遺物実測図

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第79図 1	碗 土師器	A 14.3 B 7.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面ヘラ当て痕。内・外面赤彩。	砂粒・雲母 赤色 普通	P257 70% PL44 床面 外面煤・ 内面タール付着

第39号住居跡 (第80図)

位置 調査区南部, E2f7区。

規模と平面形 長軸6.90m, 短軸5.90mの長方形である。

主軸方向 N-21°-W

壁 壁高35~40cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周する。上幅9~20cm, 深さ5cmで, 断面は「U」字形である。

間仕切溝 4条 (a~d)。北東壁から2条 (a・b), 南西壁から2条 (c・d), それぞれ中央に向かって延びている。bはP₂に連結する。上幅15~25cm, 深さ7~15cmで, 断面は「U」字形である。

床 平坦で, 全体的に踏み固められている。南東壁際には焼土塊が堆積している。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径45~50cmの円形, 深さ46~54cmで, 支柱穴である。P₅は長径43cm, 短径33cmの楕円形, 深さ43cmで, 性格は不明である。

貯蔵穴 南東壁際中央部に位置し, 長径83cm, 短径65cmの楕円形, 深さ50cmで, 平坦な底面からわずかに外傾して立ち上がる。

炉 中央部から北西寄りに位置し, 長径150cm, 短径70cmの楕円形で, 深さ9cmの地床炉である。炉床は火熱を受け赤変し, ブロック状に硬化している。

炉土層解説

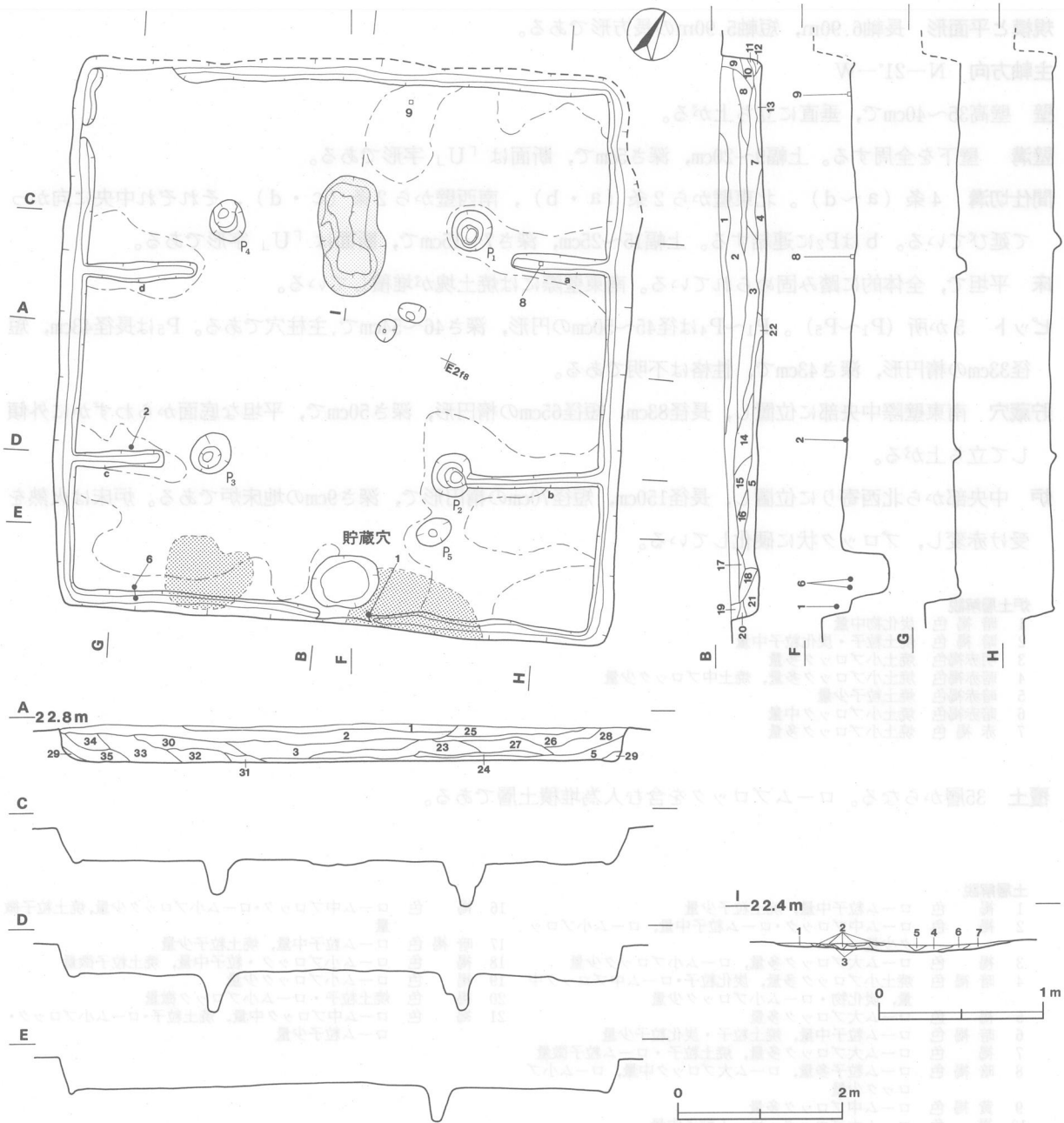
- 1 暗褐色 炭化物中量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量
- 3 明赤褐色 焼土小ブロック多量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック多量, 焼土中ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック中量
- 7 赤褐色 焼土小ブロック多量

覆土 35層からなる。ロームブロックを含む人為堆積土層である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--|--------|-----------------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 16 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 17 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム大ブロック多量, ローム小ブロック少量 | 18 褐色 | ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土小ブロック多量, 炭化粒子・ローム中ブロック中量, 炭化物・ローム小ブロック少量 | 19 褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム大ブロック多量 | 20 褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 | 21 褐色 | ローム中ブロック中量, 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 7 褐色 | ローム大ブロック多量, 焼土粒子・ローム粒子微量 | | |
| 8 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム大ブロック中量, ローム小ブロック少量 | | |
| 9 黄褐色 | ローム中ブロック多量 | | |
| 10 褐色 | ローム大ブロック・ローム粒子中量 | | |
| 11 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | | |
| 12 黄褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 | | |
| 13 褐色 | ローム大ブロック中量, ローム粒子少量 | | |
| 14 黄褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量 | | |
| 15 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | | |

- 22 暗褐色 ローム中ブロック・粒子中量
- 23 褐色 ローム中ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量
- 24 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 25 褐色 ローム中ブロック中量
- 26 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 27 褐色 ローム中ブロック多量
- 28 褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量
- 29 褐色 ローム小ブロック少量
- 30 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子少量
- 31 暗褐色 ローム中ブロック中量
- 32 暗褐色 ローム中ブロック多量
- 33 黄褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック中量
- 34 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 35 黄褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量

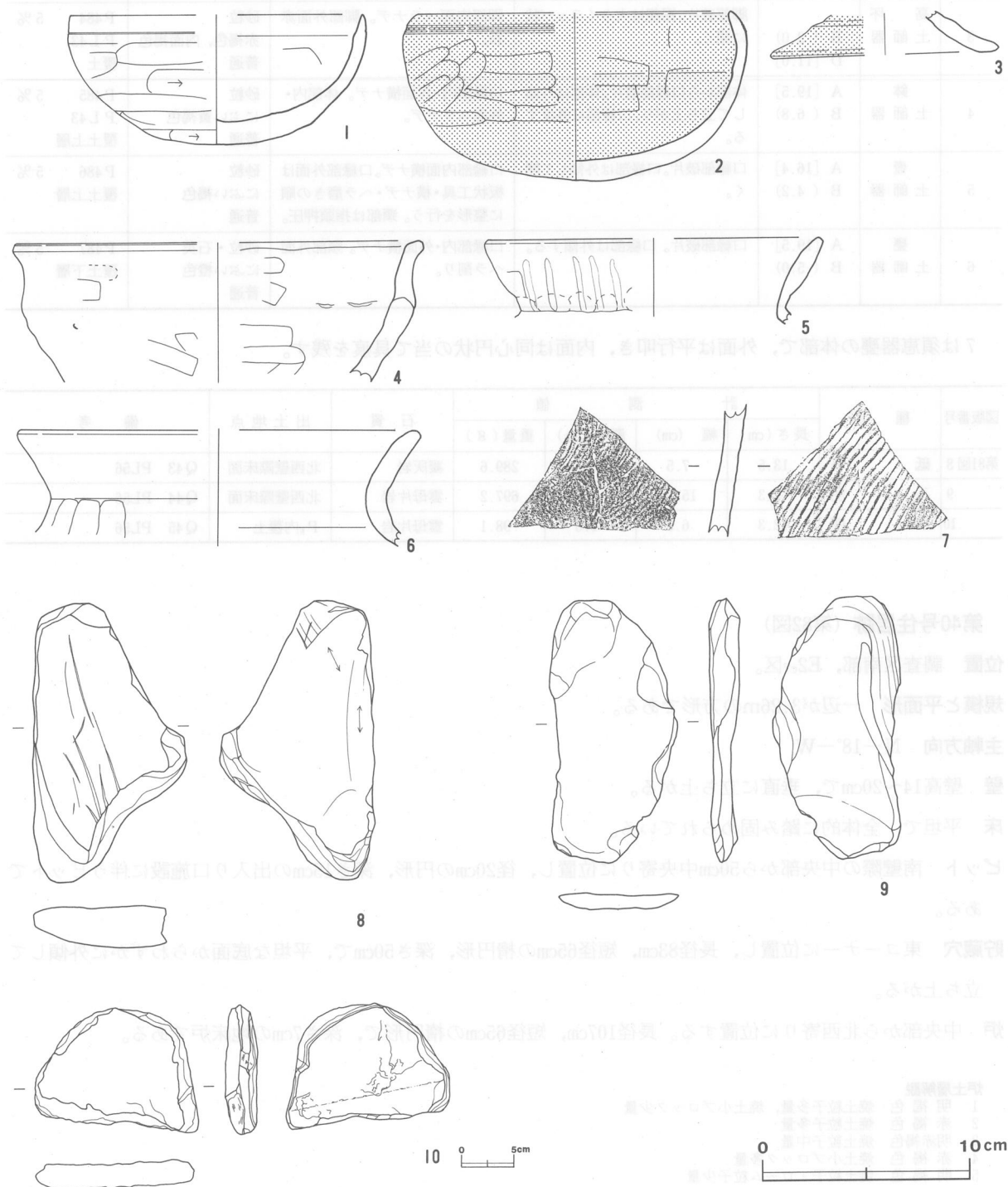


第80図 第39号住居跡実測図

遺物 本跡からは、多量の細片が出土しており、土師器甕の口縁部片32点、体部片532点、底部片18点、土師器
 杯の口縁部片50点、体部片100点、底部片1点、土師器高杯の脚部片2点、須恵器長頸壺の肩部片1点であ

る。第81図1の坏は南東壁際の焼土塊の上から、2の碗は南東壁際から、6の甕は南コーナーからそれぞれ出土している。7の須恵器甕体部片は、第96図13の第46・51号住居跡出土須恵器甕体部片と同一個体と思われる。8の砥石は、間仕切溝a付近から、9・10の雲母片岩は北西壁際から出土している。

所見 本跡は、焼土塊の中から遺物出土していることから、焼失後、遺構の人為的な埋め戻しの際遺物投棄が行われたと思われる。時期は須恵器甕が接合関係にある第46・51号住居跡と同時期で、5世紀末葉と思われる。



第81図 第39号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
図81図 1	坏 土師器	A [14.2] B 6.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口唇部はうちそぎ状で、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・石英 橙色 普通	P258 70% P L43 覆土中層
2	碗 土師器	A [15.2] B 8.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面へラナデ。内・外面赤彩。	長石 橙色 普通	P259 50% P L43 覆土下層
3	高坏 土師器	B (2.0) D [11.0]	脚部破片。裾部は大きくラップ状に開く。	脚部内面へラナデ。脚部外面赤彩。	砂粒 赤褐色、内面褐色 普通	P484 5% P L43 覆土
4	鉢 土師器	A [19.5] B (6.8)	体部から口縁部破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラナデ。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P485 5% P L43 覆土上層
5	壺 土師器	A [16.4] B (4.2)	口縁部破片。口縁部は外傾して開く。	口縁部内面横ナデ。口縁部外面は板状工具・横ナデ・へラ磨きの順に整形を行う。頸部は指頭押圧。	砂粒 にぶい褐色 普通	P486 5% 覆土上層
6	甕 土師器	A [19.5] B (5.0)	口縁部破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラ削り。	砂粒・石英 にぶい橙色 普通	P487 5% 覆土下層

7は須恵器甕の体部で、外面は平行叩き、内面は同心円状の当て具痕を残す。

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第81図8	砥石	13.5	7.5	2.7	289.6	凝灰岩	北西壁際床面	Q43 PL56
9	不明	12.3	15.7	2.8	697.2	雲母片岩	北西壁際床面	Q44 PL56
10	不明	12.3	6.3	1.6	98.1	雲母片岩	P ₉ 内覆土	Q45 PL56

第40号住居跡 (第82図)

位置 調査区南部, E2c7区。

規模と平面形 一辺が3.26mの方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高14~20cmで、垂直に立ち上がる。

床 平坦で、全体的に踏み固められている。

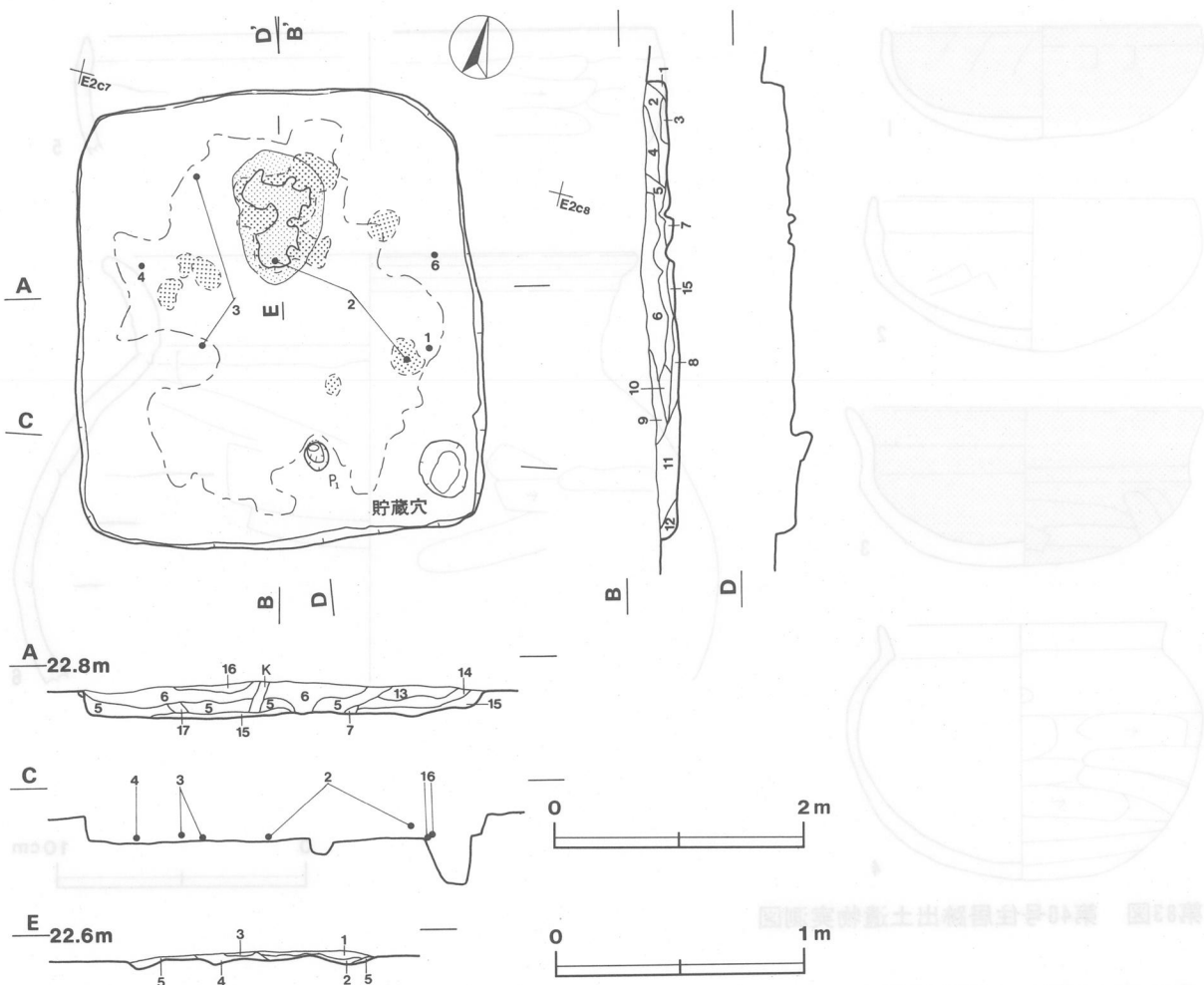
ピット 南壁際の中央部から50cm中央寄りに位置し、径20cmの円形、深さ15cmの出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 東コーナーに位置し、長径83cm、短径65cmの楕円形、深さ50cmで、平坦な底面からわずかに外傾して立ち上がる。

炉 中央部から北西寄りに位置する。長径107cm、短径65cmの楕円形で、深さ7cmの地床炉である。

炉土層解説

- 1 明褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量
- 3 明赤褐色 焼土粒子中量
- 4 赤褐色 焼土小ブロック多量
- 5 明褐色 焼土粒子・ローム粒子少量



第82図 第40号住居跡実測図

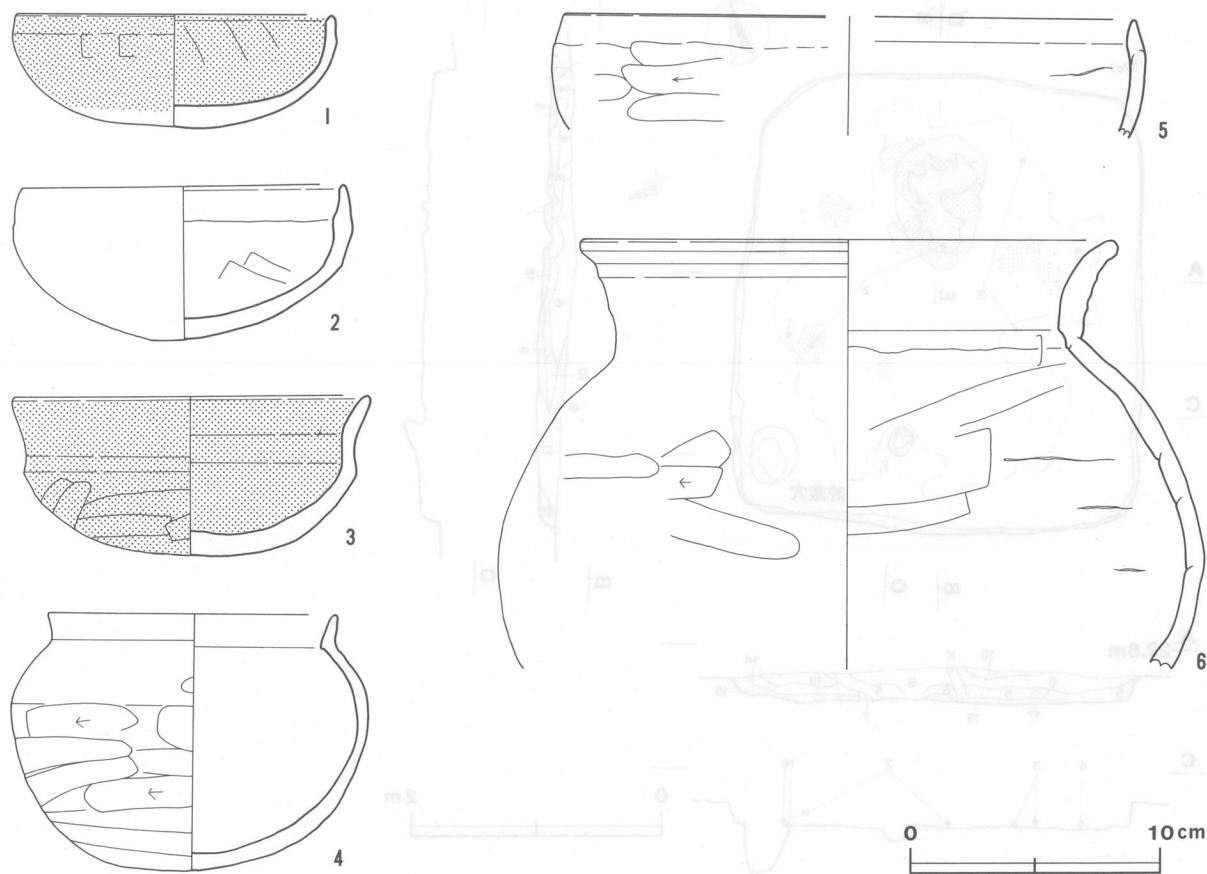
覆土 17層からなる。ロームブロックを含む人為堆積土層である。

土層解説

1	明褐色	ローム粒子多量, 焼土粒子微量	10	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量
2	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量	11	褐色	ローム中ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
3	褐色	ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量	12	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量
4	褐色	焼土粒子・ローム大ブロック・ローム粒子少量	13	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物少量
5	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子少量	14	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック少量
6	暗褐色	焼土粒子・ローム大ブロック・ローム粒子中量	15	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック中量
7	赤褐色	焼土大ブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子少量	16	暗褐色	炭化粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子少量
8	褐色	炭化物中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量	17	褐色	焼土粒子中量, ローム粒子少量
9	明褐色	炭化粒子・ローム小ブロック少量			

遺物 第83図1～3の土師器坏は中央部床面から, 4の甕は西壁際床面から, 6の甕は東壁際に逆位の状態で出土している。そのうち3の坏は焼土塊の中から出土していることから, 床面出土の遺物は住居廃棄時のものと思われる。この他に, 覆土下層から土師器甕の口縁部片10点, 体部片542点, 底部片3点, 土師器坏の口縁部片20点, 体部片96点が出土している。

所見 床面には, 炭化材・焼土塊がみられることから焼失家屋と思われる。覆土下層には, 焼土ブロック・ロームブロックを多く含んでいることから, 焼失後人為的に埋め戻され, その際に遺物の投棄が行われたものと思われる。時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。



第83図 第40号住居跡出土遺物実測図

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第83図 1	坏 土師器	A 12.8 B 6.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面にヘラ当て痕が残る。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P261 100% PL44 床面
2	坏 土師器	A 13.1 B 6.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口唇部はうちそぎ状で、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。底部内面ヘラナデ。外面摩滅。	長石 にぶい橙色 普通	P262 100% PL44 床面
3	坏 土師器	A 14.4 B 6.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段をもつ。口縁部は外傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面剝離。内面から体部外面赤彩。	長石・白色粒子 赤色、底部外面橙 普通	P260 100% PL44 床面
4	碗 土師器	A 11.7 B 10.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、球形状を呈する。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒・石英 にぶい黄褐色 普通	P264 100% PL44 床面
5	碗 土師器	A [22.0] B (4.8)	口縁部破片。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P263 5% 覆土
6	甕 土師器	A 21.7 B (17.2)	体部から口縁部破片。体部上位に最大径をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒 淡黄色 普通	P265 30% PL44 床面 外面煤付着

第41号住居跡 (第84図)

位置 調査区南部, E2a6区。

規模と平面形 一辺が3.25mの方形である。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高10~25cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 東壁から南東コーナーを通り、南壁中央の壁下を巡る。上幅6~10cm、深さ3cmで、断面は「U」字形である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径20~25cmの円形、深さ25~27cmの支柱穴である。P₅は径27cmの円形、深さ15cmの出入り口に伴うピットである。

炉 中央部から北寄りに位置し、出入り口施設に伴うピットと同一線上に並ぶ。長径70cm、短径50cmの楕円形で、深さ4cmの地床炉である。

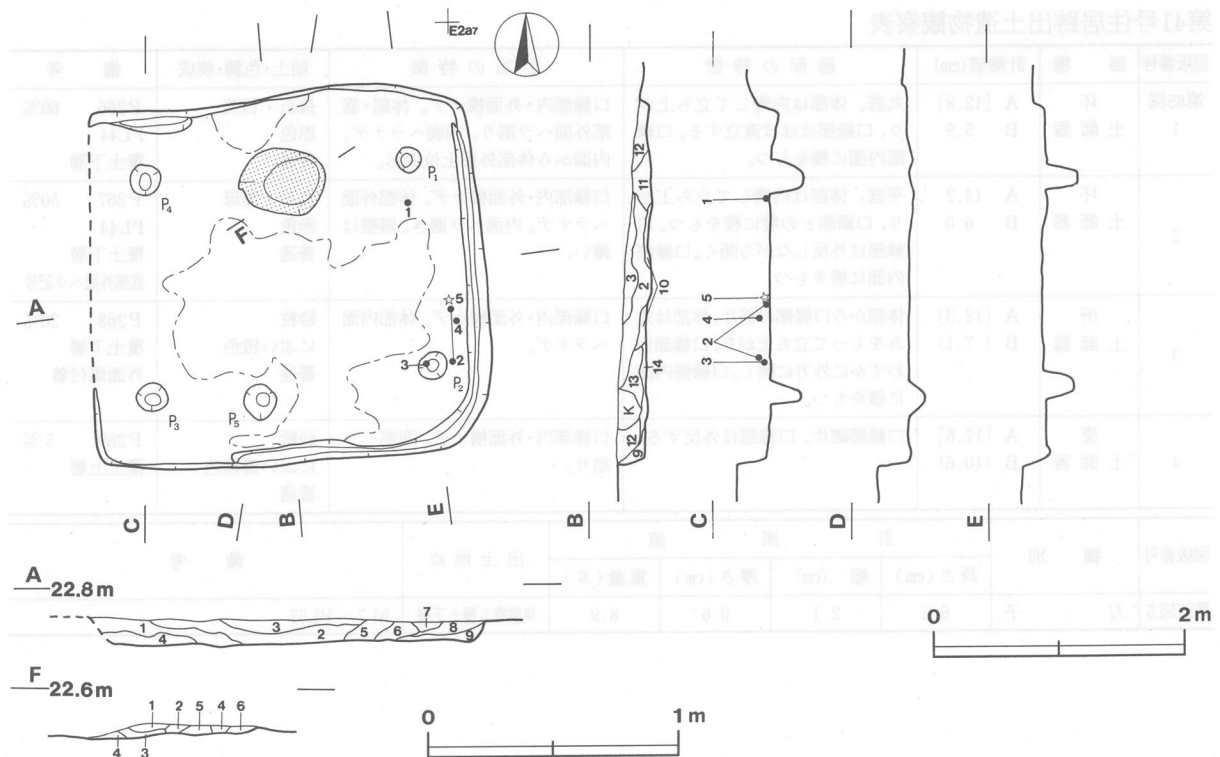
炉土層解説

- | | | |
|---|------|--------------------------------|
| 1 | 赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 2 | 明褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量 |
| 3 | 明赤褐色 | 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 4 | 橙色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量 |
| 5 | 明褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 6 | 橙色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 |

覆土 14層からなる。ロームブロックを含む人為堆積土層である。

土層解説

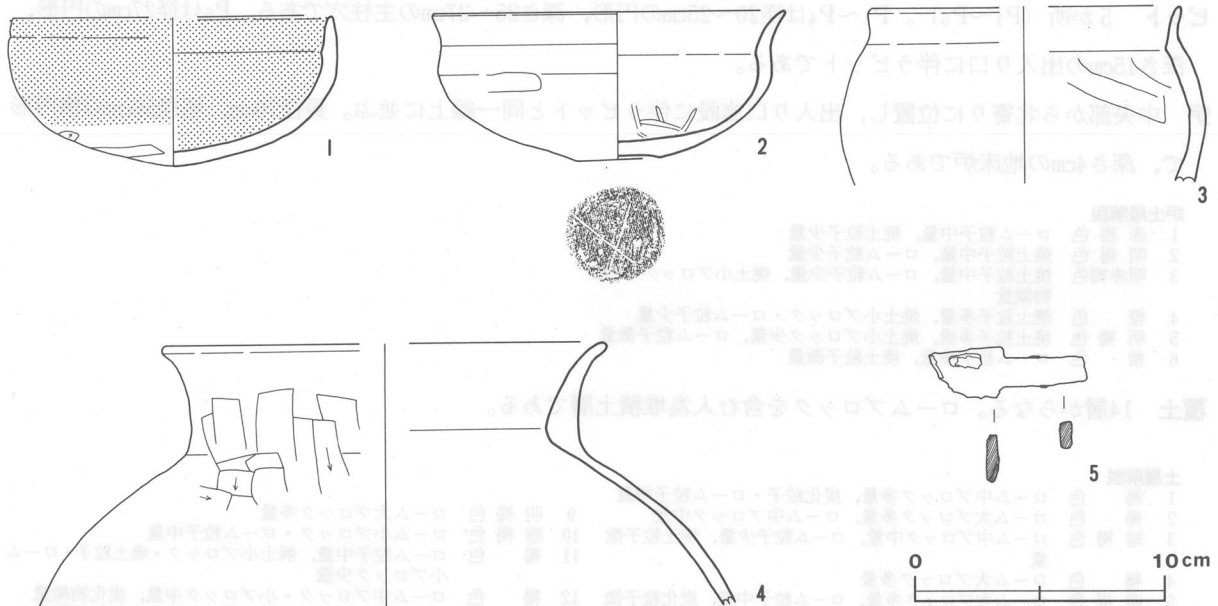
- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------------|----|-----|----------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム中ブロック多量, 炭化粒子・ローム粒子微量 | 9 | 明褐色 | ローム大ブロック多量 |
| 2 | 褐色 | ローム大ブロック多量, ローム中ブロック中量 | 10 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量 |
| 4 | 褐色 | ローム大ブロック多量 | 12 | 褐色 | ローム中ブロック・小ブロック中量, 炭化物微量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム大ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 13 | 褐色 | ローム大ブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量 | 14 | 褐色 | ローム中ブロック多量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム大ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | | | |
| 8 | 褐色 | ローム大ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | | | |



第84図 第41号住居跡実測図

遺物 遺物の大半は、住居跡の東側覆土中から出土している。第85図1～3の土師器坏・碗，4の土師器甕は東壁際付近から，5の刀子は東壁寄り覆土から出土している。この他に土師器甕の口縁部片12点，体部片650点，底部片3点，土師器坏の口縁部片19点，体部片65点が出土している。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



第85図 第41号住居跡出土遺物実測図

第41号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第85図 1	坏 土師器	A [12.8] B 5.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へらナデ。内面から体部外面上位赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P266 60% PL44 覆土下層
2	坏 土師器	A 14.2 B 6.0	平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反しながら開く。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へらナデ。内面へら磨き。器壁は薄い。	長石・雲母 赤色 普通	P267 50% PL44 覆土下層 底部外面へら記号
3	碗 土師器	A [12.3] B (7.1)	体部から口縁部の破片。体部は丸みをもって立ち上がり，口縁部はわずかに外方に開く。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へらナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P268 20% 覆土下層 外面煤付着
4	甕 土師器	A [17.6] B (10.6)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部へら削り。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P269 5% 覆土上層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第85図5	刀子	6.2	2.1	0.6	8.9	東壁寄り覆土下層	M7 PL57

第42号住居跡 (第86図)

位置 調査区南部西側, E2b4区。

重複関係 本跡は第6号竪穴遺構に北半分を掘り込まれ, 本跡の南半分が第41号土坑を掘り込んでいる。本跡は第6号竪穴遺構より古く, 第41号土坑より新しい。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸3.40mの長方形である。

主軸方向 N-7°-W

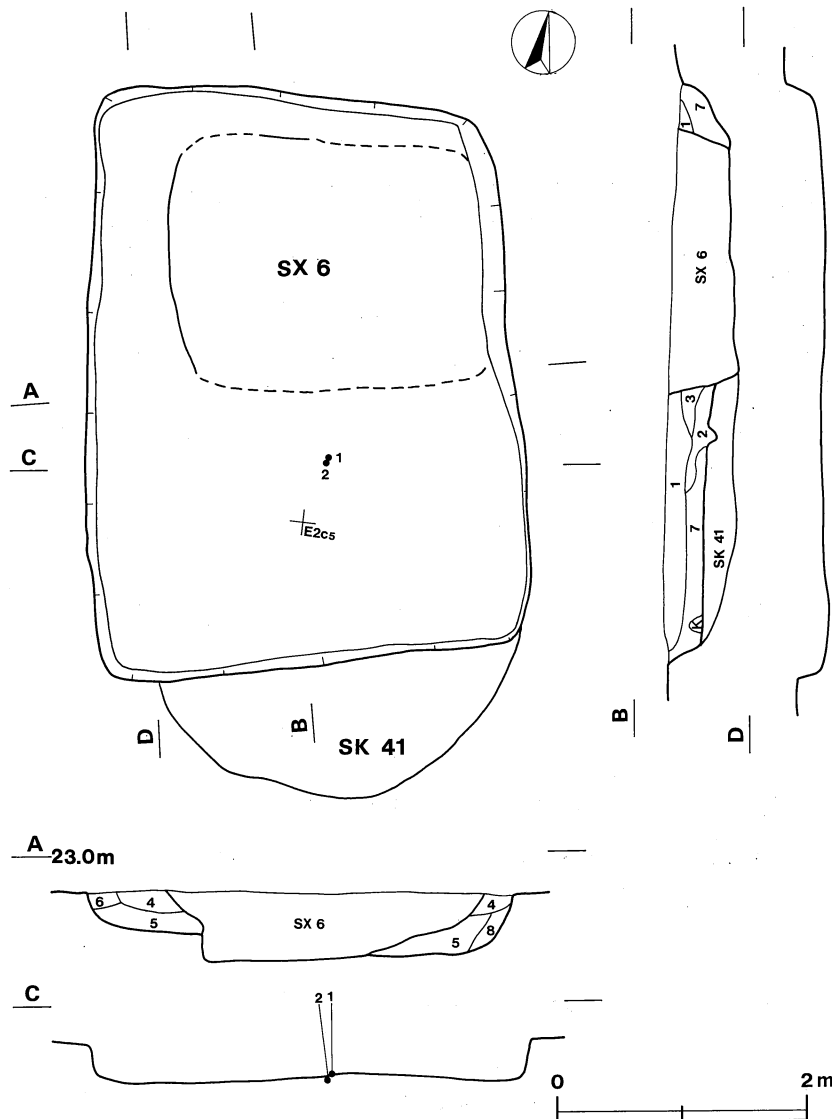
壁 壁高13~25cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 踏み締められている面は見られない。

覆土 8層からなる。人為堆積土層である。

土層解説

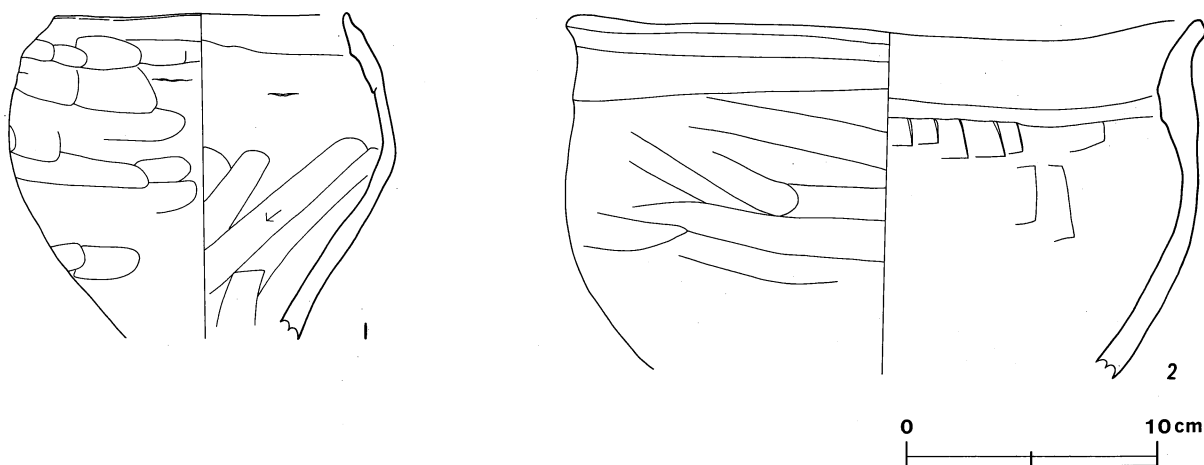
1	褐色	ローム粒子中量, 炭化物少量, ローム小ブロック微量	5	明褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
2	にぶい褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	6	褐色	ローム粒子少量
3	明褐色	ローム小ブロック少量, 炭化物・ローム粒子微量	7	明褐色	ローム粒子多量
4	褐色	ローム粒子中量	8	褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量



第86図 第42号住居跡実測図

遺物 第87図1の土師器鉢, 2の土師器甑は住居跡中央部の床面から逆位の状態で出土している。

所見 本跡を人為的に埋め戻した後に6号竪穴遺構を構築したと考えられる。本跡の時期は出土遺物からみても6号竪穴遺構とあまり時間差がなく, 5世紀末葉から6世紀初頭と思われる。



第87図 第42号住居跡出土遺物実測図

第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 1	鉢 土師器	A 11.8 B (13.1)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は内傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へら削り後へらナデ。	長石・石英 浅黄色 普通	P271 70% PL44 床面
2	甑 土師器	A 25.3 B (14.5)	底部欠損。体部上位に最大径をもつ。口縁部は短く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へらナデ。	白色粒子 にぶい橙色 普通	P272 70% PL44 床面 内面煤付着 外面二次焼成

第43号住居跡 (第88・89図)

位置 調査区南部西側, E2e4区。

規模と平面形 一辺が6.12mの方形で, 南西壁中央部には, 長軸2.70m, 短軸0.70mの長方形の張り出しを持つ。

主軸方向 N-25°-W

壁 壁高40~50cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 張り出し部を除き, 壁下を全周する。上幅10~15cm, 深さ5cmで, 断面は「U」字形である。

間仕切溝 8条(a~h)。北東壁から3条(a~c), 南東壁から3条(d~f), 南西壁から2条(g・h)がそれぞれ中央に向かって延びている。上幅15~27cm, 深さ3~5cmで, 断面は「U」字形である。

床 平坦で, 全体的に踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は径25~32cm, 深さ56~68cmで支柱穴である。P5は径30cm, 深さ40cmの出入り口施設に伴うピットである。

炉 2か所。炉1はP2の北側に位置し, 長径90cm, 短径53cmの楕円形の地床炉である。炉2は中央部から北西寄りに位置し, 長径58cm, 短径40cmの楕円形の地床炉である。いずれも掘り込みはない。

貯蔵穴 東コーナー近くの南東壁際に位置し、径70cmの円形、深さ30cmで、断面は「U」字形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム中ブロック中量, 炭化材少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量, 焼土粒子・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量
- 5 黄褐色 ローム中ブロック多量

覆土 19層からなる。土層5が薄く床面を覆い、ローム中ブロックを含む土層3・4が堆積する人為堆積土層である。

土層解説

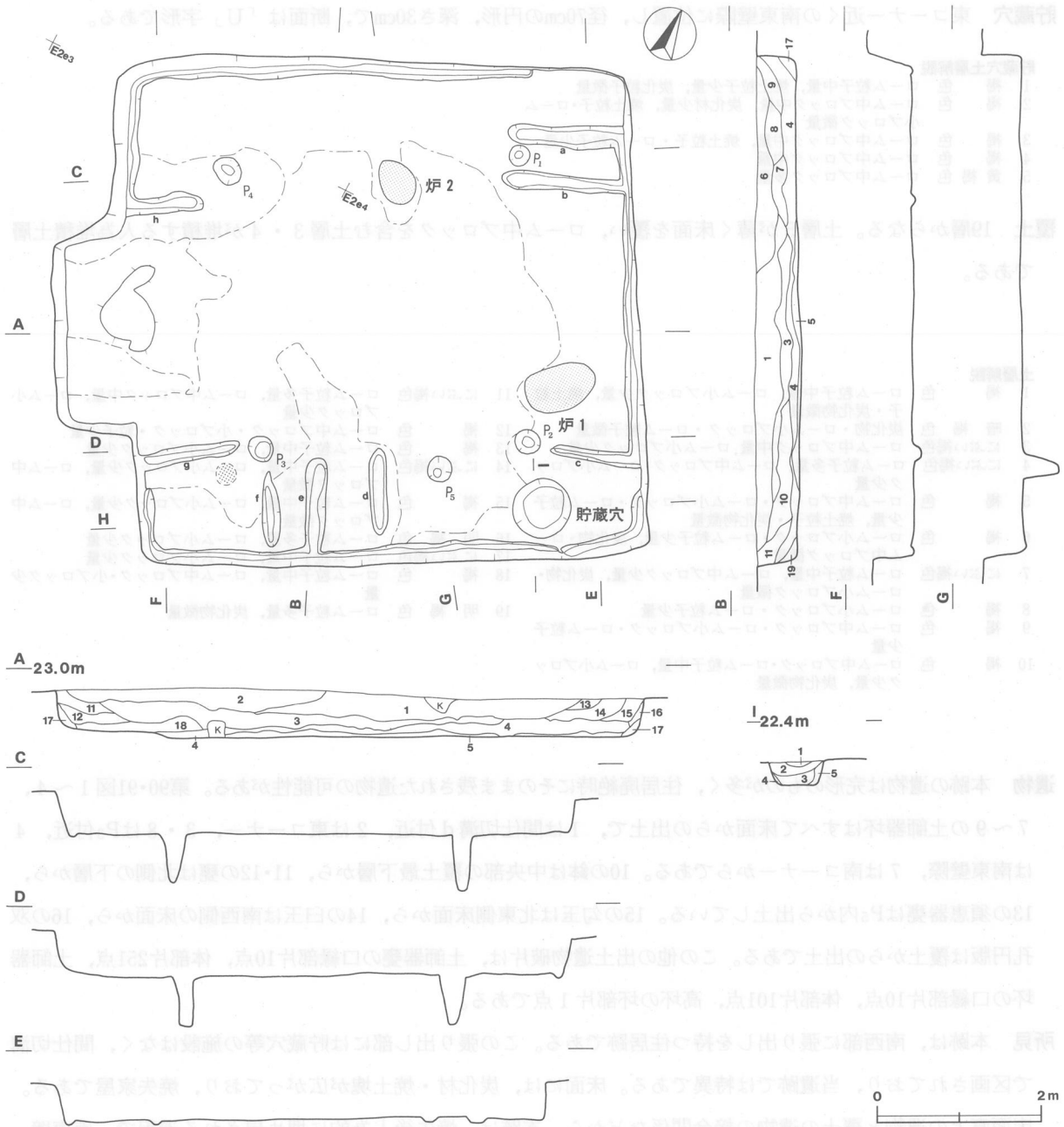
- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 におい褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 4 におい褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・ローム中ブロック微量
- 7 におい褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化物・ローム小ブロック微量
- 8 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 11 におい褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 12 褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量
- 13 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 14 におい褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 15 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 16 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 17 におい褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 18 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・小ブロック少量
- 19 明褐色 ローム粒子多量, 炭化物微量

遺物 本跡の遺物は完形のものが多く、住居廃絶時にそのまま残された遺物の可能性がある。第90・91図1～4、7～9の土師器坏はすべて床面からの出土で、1は間仕切溝d付近、2は東コーナー、3・8はP3付近、4は南東壁際、7は南コーナーからである。10の鉢は中央部の覆土最下層から、11・12の甕は北側の下層から、13の須恵器甕はP5内から出土している。15の勾玉は北東側床面から、14の白玉は南西側の床面から、16の双孔円版は覆土からの出土である。この他の出土遺物破片は、土師器甕の口縁部片10点、体部片251点、土師器坏の口縁部片10点、体部片101点、高坏の坏部片1点である。

所見 本跡は、南西部に張り出しを持つ住居跡である。この張り出し部には貯蔵穴等の施設はなく、間仕切溝で区画されており、当遺跡では特異である。床面には、炭化材・焼土塊が広がっており、焼失家屋である。床面直上の遺物と覆土の遺物の接合関係などから、本跡は、焼失後人為的に埋め戻される過程で、南東壁、北東壁際に一括した遺物の投棄が行われたものと思われる。時期は愛知東山窯の須恵器が出土していることや模倣坏がみられることなどから5世紀末葉と思われる。

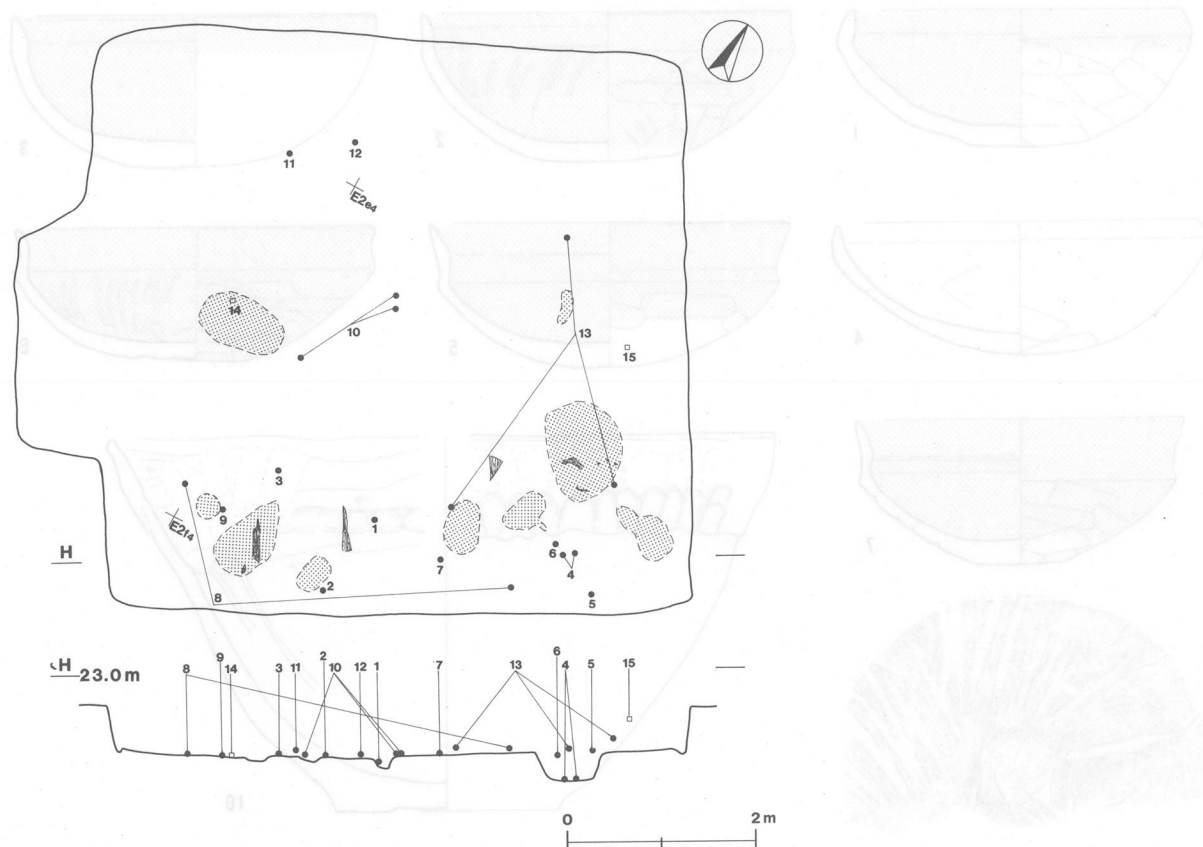
第43号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 1	坏 土師器	A 13.5 B 5.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面ナデ。内面から口縁部外面赤彩。	白色微粒 赤色, 外面褐色 普通	P275 100% PL44 床面
2	坏 土師器	A 14.8 B 6.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り後ナデ。体部内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石・雲母 赤色 普通	P276 100% PL44 床面
3	坏 土師器	A 14.6 B 6.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。内面から口縁部外面赤彩。内・外面摩滅。	砂粒・白色微粒 におい褐色 普通	P280 85% PL45 床面



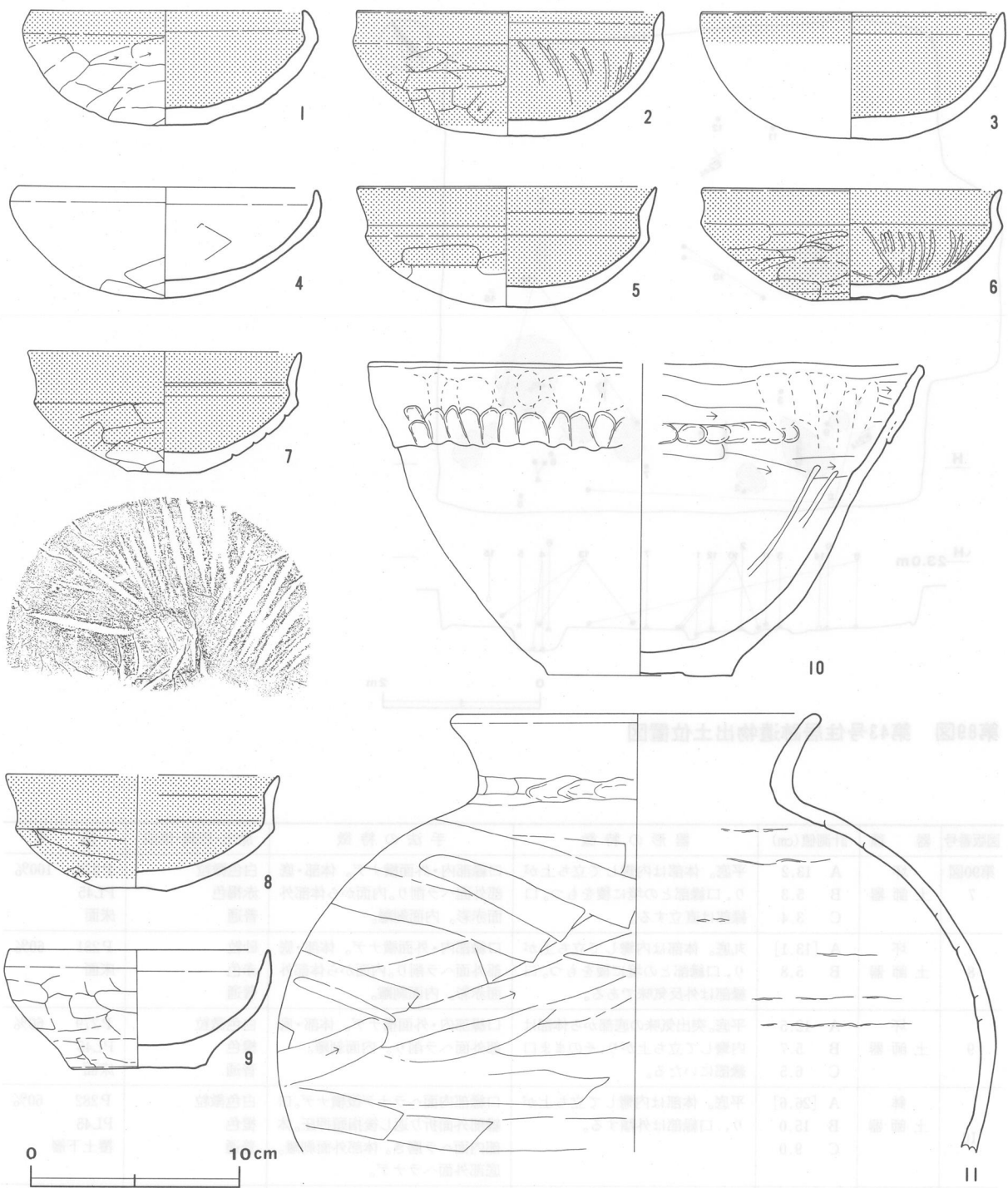
第88図 第43号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 4	坏 土師器	A 14.5 B 5.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へらナデ。	砂粒・白色微粒 橙色 普通	P277 95% PL45 貯蔵穴底面
5	坏 土師器	A 14.5 B 5.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反しながら開く。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面剝離。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤色、底部黄橙色 普通	P274 80% PL45 床面
6	坏 土師器	A 14.4 B 5.4	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反気味である。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。底部へら削り。内面へら磨き。内・外面赤彩。	長石・雲母 赤色 普通	P278 80% PL45 貯蔵穴覆土



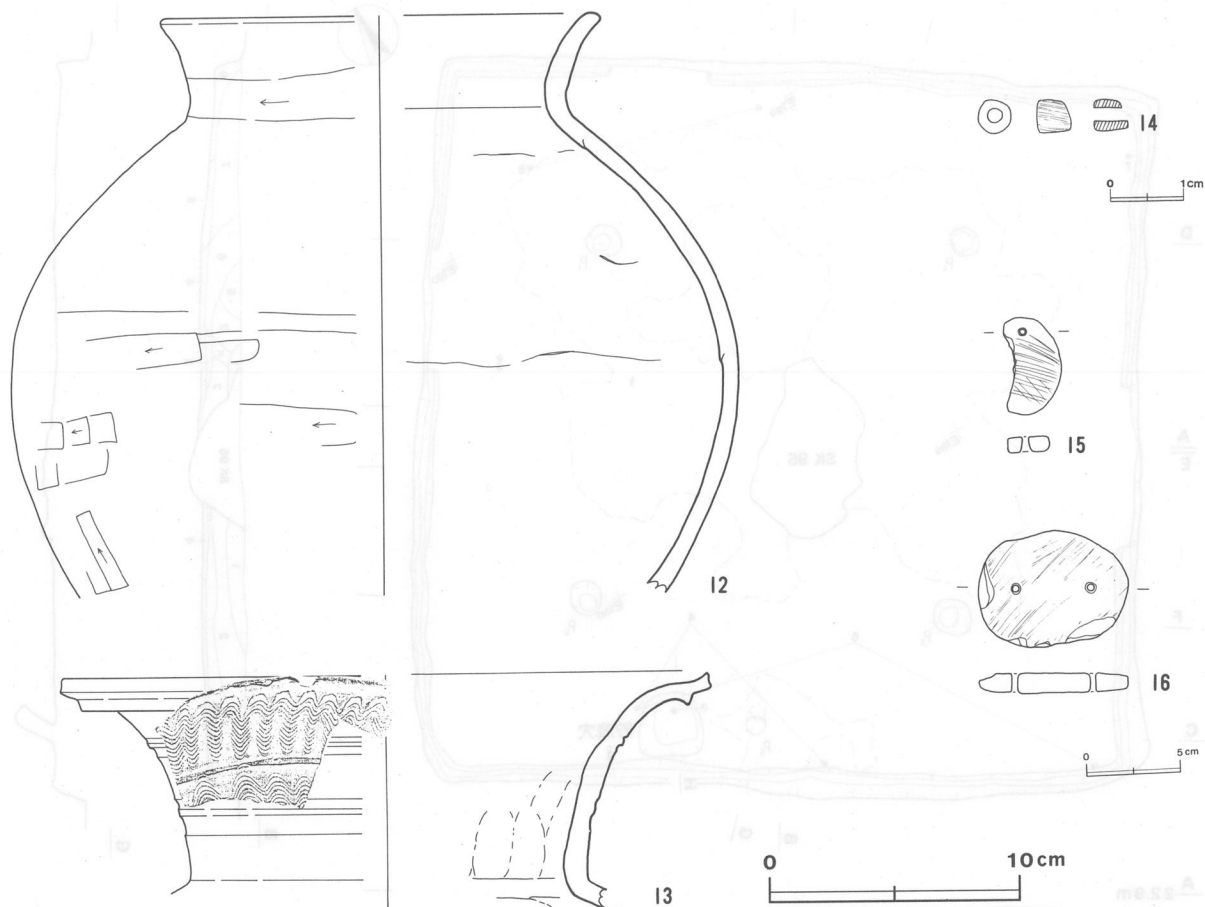
第89図 第43号住居跡遺物出土位置図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第90図 7	坏 土師器	A 13.2 B 5.3 C 3.4	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面から体部外面赤彩。内面剝離。	白色微粒 赤褐色 普通	P273 100% PL45 床面
8	坏 土師器	A [13.1] B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反気味である。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面から体部外面赤彩。内面剝離。	砂粒 赤色 普通	P281 60% 床面
9	坏 土師器	A 12.5 B 5.7 C 6.5	平底。突出気味の底部から体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面剝離。	白色微粒 橙色 普通	P279 60% PL45 床面
10	鉢 土師器	A [26.6] B 15.0 C 9.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内面ヘラナデ後横ナデ。口縁部外面折り返し後指頭押圧。体部内面ヘラ磨き。体部外面剝離。底部外面ヘラナデ。	白色微粒 橙色 普通	P282 60% PL45 覆土下層
11	甕 土師器	A [17.9] B (21.2)	体部から口縁部の破片。体部は球形で、最大径を中位にもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部上半ヘラナデ、下半ヘラ削り。内面剝離。	白色微粒 黄橙色 普通	P283 20% PL45 覆土下層
第91図 12	甕 土師器	A [17.5] B (23.2)	体部から口縁部の破片。体部は球形で、最大径を中位にもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面剝離。	砂粒・白色微粒 橙色 普通	P284 40% PL45 覆土下層
13	甕 須恵器	A [26.0] B (9.3)	頸部から口縁部の破片。口縁部は外反し、口唇部直下に沈線、凸帯がある。	口縁部内・外面クロナデ。凸帯直下5本1条の櫛齒状工具による波状文が2段施される。	砂粒・長石 灰色 良好	P285 20% PL45 覆土中層



第90図 第43号住居跡出土遺物実測図(1)

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第91図14	白玉	0.4	0.4	0.4	0.2	0.1	滑石	南西側床面	Q46 PL55
15	勾玉	2.6	1.3	0.4	—	2.9	滑石	北東側床面	Q47 PL55
16	双孔円板	3.9	3.1	0.6	0.2	10.0	滑石	覆土	Q48 PL55



第91図 第43号住居跡出土遺物実測図(2)

第44号住居跡 (第92図)

位置 調査区南部西端, E1g9区。

重複関係 本跡の中央部を第95号土坑が掘り込んでおり, 本跡の方が古い。

規模と平面形 一辺が7.82mの方形である。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高27~38cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 北東, 南西壁の一部を除いて, 壁下を周回する。上幅10~20cm, 深さ3~5cmで, 断面は「U」字形である。

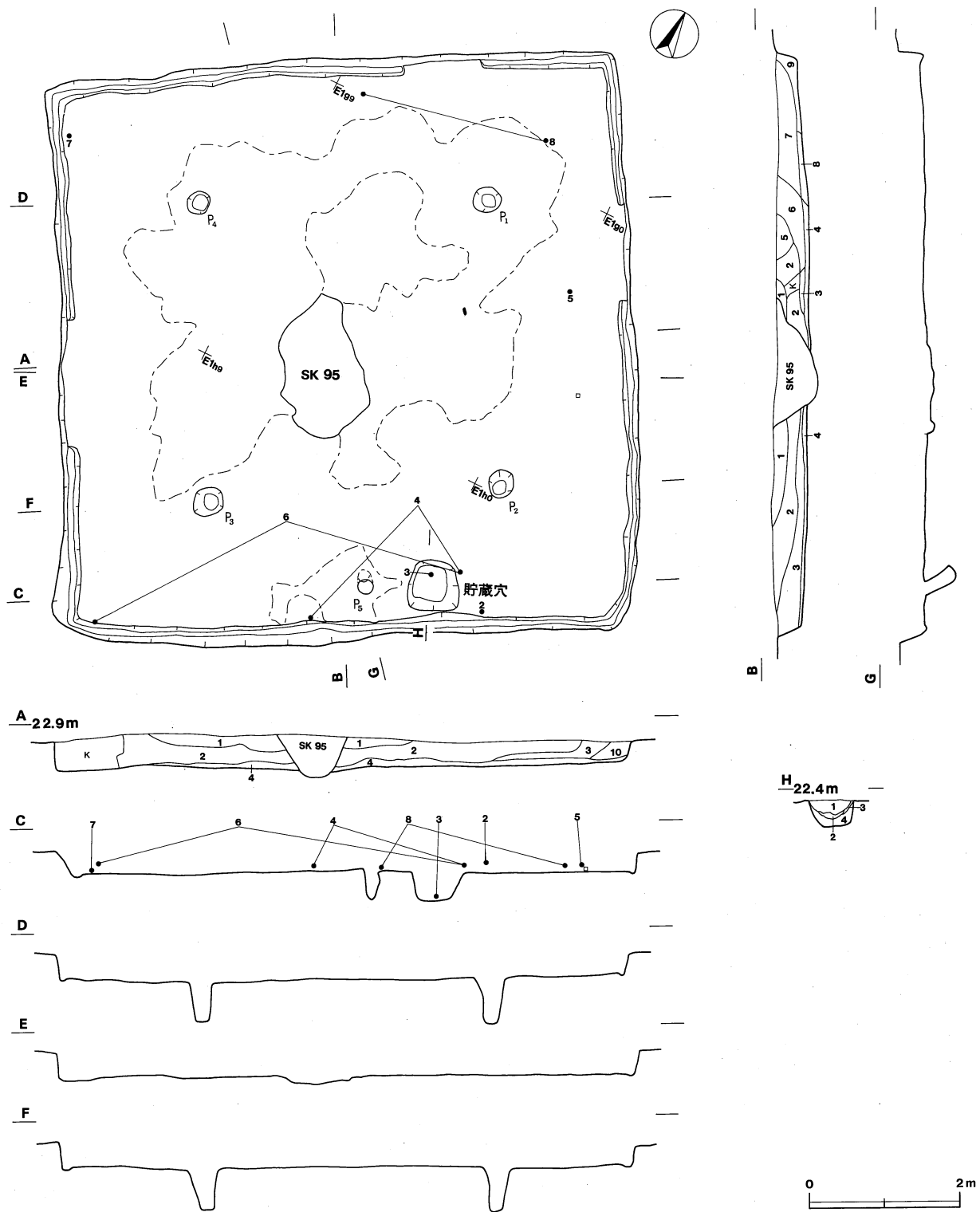
床 平坦で, 中央部と出入りに伴うピットの周囲が踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径31~38cmの円形, 深さ50~55cmで, 支柱穴である。P₅は径20cmの円形, 深さ40cmで, 出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 南東壁際中央部の出入りに伴うピットの東側に位置し, 一辺が68cmの方形で, 深さ35cm, 断面は「U」字形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 にぶい褐色 ローム粒子中量
- 4 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量



第92図 第44号住居跡実測図

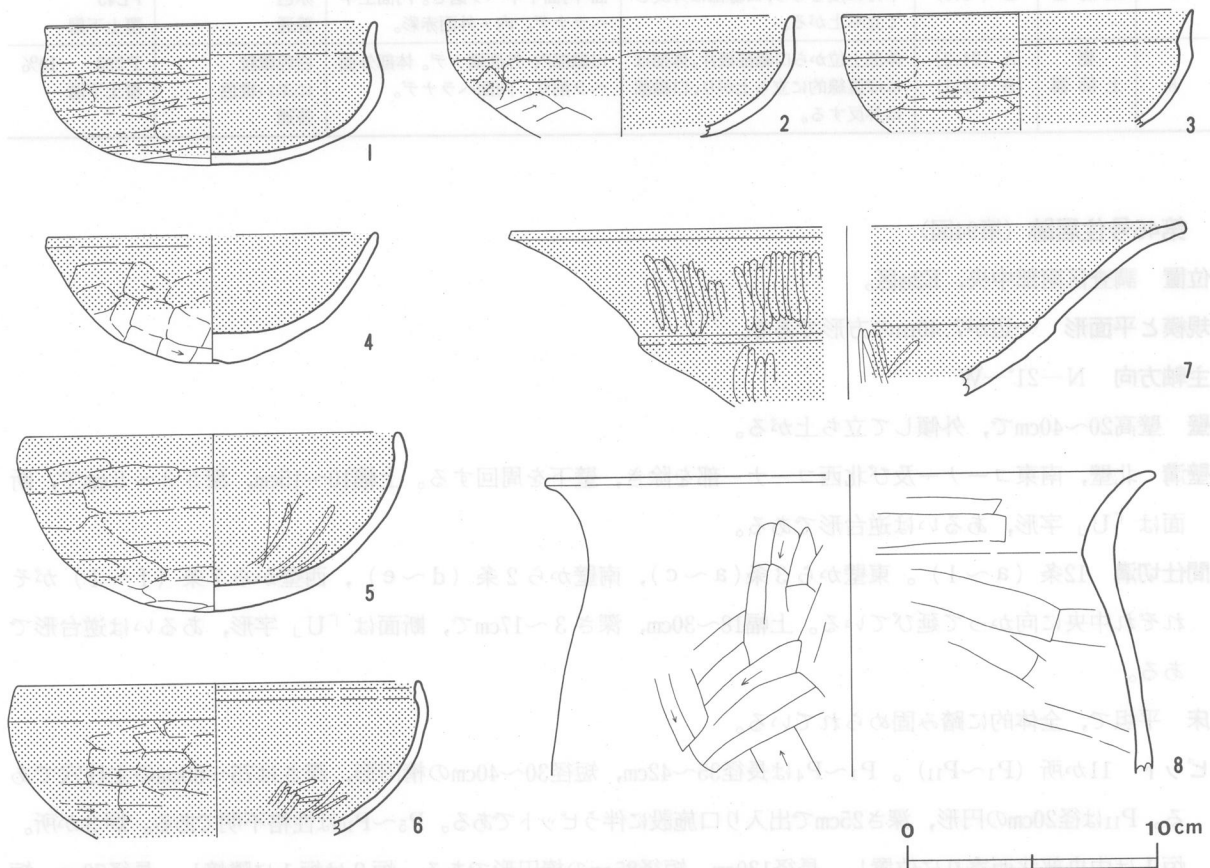
覆土 10層からなる。ロームブロック，粒子を含む土層4が床面を覆う人為堆積土層である。南コーナー付近の下層には焼土塊がみられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	7	褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
2	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	8	赤褐色	焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
3	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	9	明褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・小ブロック少量
4	褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・小ブロック少量, ローム大ブロック微量	10	明褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
5	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量			
6	にぶい褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量			

遺物 第93図1の坏は南東部の覆土上層から, 2の坏は貯蔵穴の東側から, 3の坏は貯蔵穴の底面から, 5のは北東部から, 4の坏は出入り口付近から, 7の高坏は西コーナーから出土している。5の碗は南コーナーのものと貯蔵穴の北側からのものが, 8の甕は北コーナー出土のものと北東壁際出土のものがそれぞれ接合している。2~8はすべて覆土最下層からの出土である。この他に, 土師器甕の口縁部片11点, 体部片142点, 底部片3点, 土師器甑の体部片15点, 底部片1点, 土師器高坏の脚部片1点が出土している。

所見 覆土の堆積状態を見ると, 上層から下層までロームブロック及びローム粒子を含む層が堆積し, 下層から床面上に土師器片が多いことから, 人為的に埋め戻される過程で遺物投棄が行われたと考えられる。時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



第93図 第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第93図 1	坏 土師器	A 13.4 B 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立し、口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	白色微粒 赤色 普通	P286 60% PL45 覆土
2	坏 土師器	A [14.0] B (4.9)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	白色微粒・砂粒 赤色 普通	P287 40% PL45 覆土下層
3	坏 土師器	A [14.0] B (4.8)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもち、口縁部は直立する。口唇部はうちそぎ状で、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・白色微粒 赤色 普通	P288 30% PL45 貯蔵穴底面
4	坏 土師器	A 13.2 B 5.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ハケ状工具によるナデ。内面・外面上半赤彩。	長石・石英 褐色 普通	P291 60% PL45 覆土下層
5	碗 土師器	A 15.8 B 7.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。底部ヘラ削り。内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P289 85% PL45 覆土下層
6	碗 土師器	A 16.2 B (6.1)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。口縁部内面に弱い稜をもつ。器壁は全体に薄い。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り後ヘラナデ。内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒 赤色、底部褐色 普通	P290 70% PL45 覆土下層 外面煤付着
7	高坏 土師器	A 27.0 B (6.9)	大型高坏の坏部破片。坏部は外面下方に段をもち、口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面・内面下半ヘラ磨き。内面上半ヘラナデ。内・外面赤彩。	白色微粒・雲母 赤色 普通	P292 30% PL45 覆土下層
8	甕 土師器	A [24.2] B (12.1)	体部上位から口縁部破片。体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	白色微粒 におい橙色 普通	P293 10% 覆土下層

第46号住居跡 (第94図)

位置 調査区南部中央, E2i9区。

規模と平面形 一辺が7.40mの方形である。

主軸方向 N-21°-W

壁 壁高20~40cmで、外傾して立ち上がる。

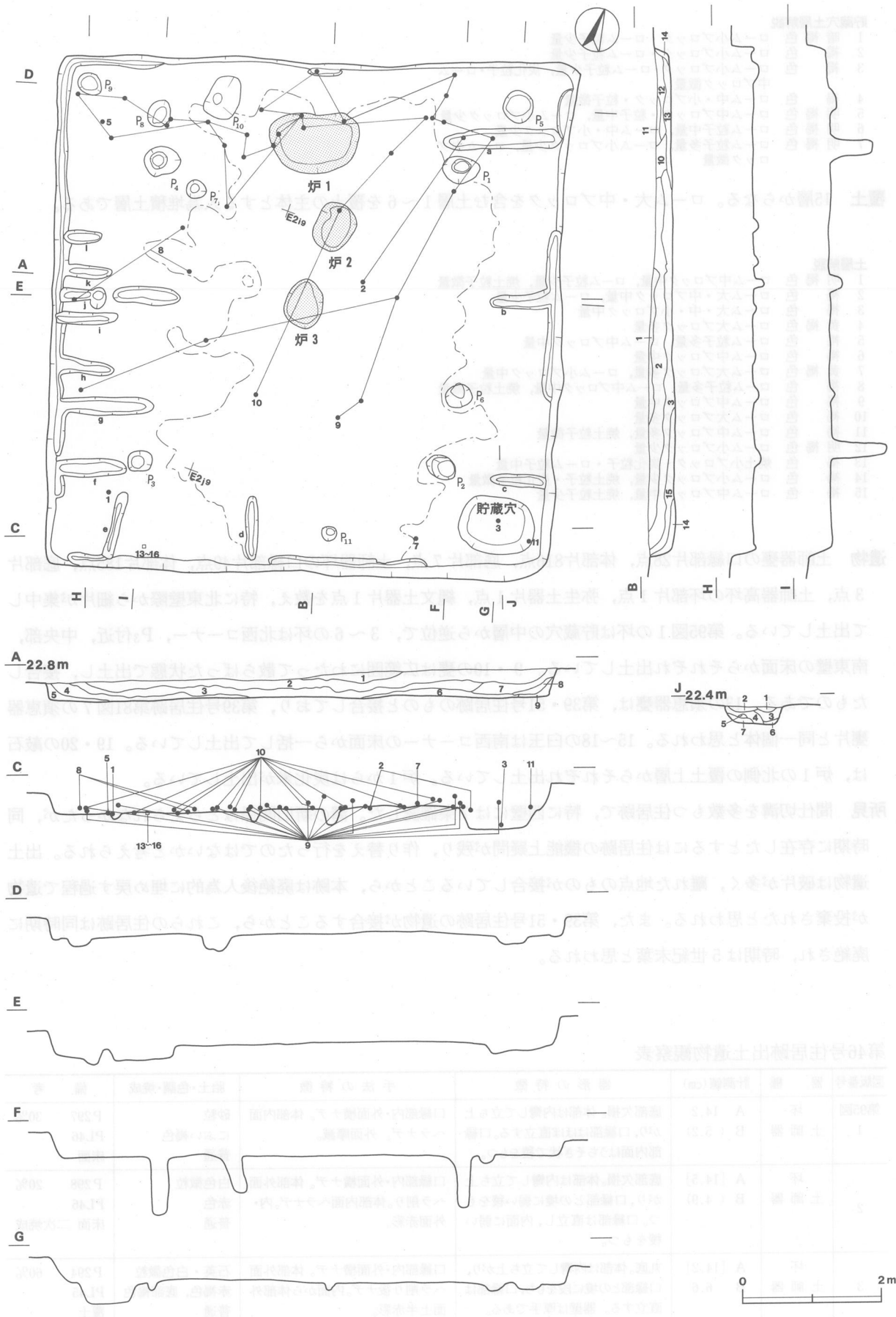
壁溝 北壁, 南東コーナー及び北西コーナー部を除き、壁下を周回する。上幅10~15cm, 深さ3~5cmで、断面は「U」字形, あるいは逆台形である。

間仕切溝 12条(a~l)。東壁から3条(a~c), 南壁から2条(d~e), 西壁から7条(f~l)がそれぞれ中央に向かって延びている。上幅18~30cm, 深さ3~17cmで、断面は「U」字形, あるいは逆台形である。

床 平坦で、全体的に踏み固められている。

ピット 11か所(P₁~P₁₁)。P₁~P₄は長径35~42cm, 短径30~40cmの楕円形, 深さは75~80cmの支柱穴である。P₁₁は径20cmの円形, 深さ25cmで出入り口施設に伴うピットである。P₅~P₁₀は性格不明である。炉3か所。炉1は中央部北西寄りに位置し, 長径130cm, 短径85cmの楕円形である。炉2は炉1に隣接し, 長径70cm, 短径55cmの楕円形である。炉3は中央部に位置し, 長径70cm, 短径55cmの楕円形である。いずれも地床炉であり, 掘り込みは浅く3cm程度である。炉1の炉床は赤変してブロック状に硬化しているが, 炉2・3は火熱を受けやや赤変している程度である。

貯蔵穴 南東コーナーに位置し, 長軸107cm, 短軸85cmの長方形, 深さは30cm, 断面は逆台形である。



第94図 第46号住居跡実測図

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム中・小ブロック・粒子微量
- 5 明褐色 ローム中ブロック・粒子中量, ローム小ブロック少量
- 6 明褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 7 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

覆土 15層からなる。ローム大・中ブロックを含む土層1～6を覆土の主体とする人為堆積土層である。

土層解説

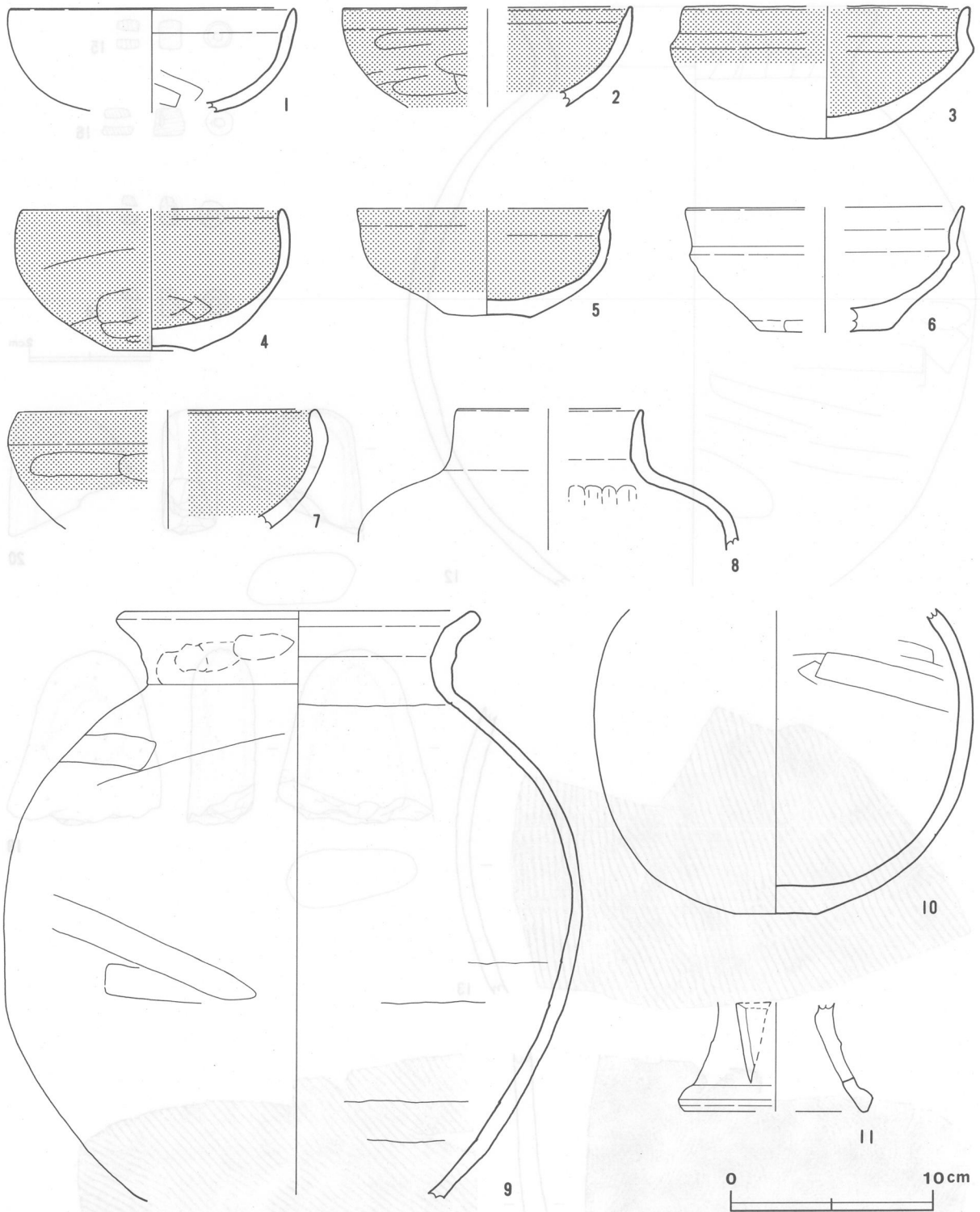
- 1 明褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム大・中ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム大・中・小ブロック中量
- 4 黄褐色 ローム大ブロック多量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 6 褐色 ローム中ブロック中量
- 7 黄褐色 ローム大ブロック多量, ローム小ブロック中量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, 焼土粒子微量
- 9 褐色 ローム中ブロック中量
- 10 褐色 ローム大ブロック多量
- 11 褐色 ローム中ブロック多量, 焼土粒子微量
- 12 明褐色 ローム小ブロック少量
- 13 褐色 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子中量
- 14 褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 15 褐色 ローム中ブロック中量, 焼土粒子少量

遺物 土師器甕の口縁部片28点, 体部片816点, 底部片7点, 土師器坏の口縁部片49点, 体部片185点, 底部片3点, 土師器高坏の坏部片1点, 弥生土器片1点, 縄文土器片1点を数え, 特に北東壁際から細片が集中して出土している。第95図1の坏は貯蔵穴の中層から逆位で, 3～6の坏は北西コーナー, P₃付近, 中央部, 南東壁の床面からそれぞれ出土している。9・10の甕は広範囲にわたって散らばった状態で出土し, 接合したものである。13の須恵器甕は, 第39・51号住居跡のものと接合しており, 第39号住居跡第81図7の須恵器甕片と同一個体と思われる。15～18の白玉は南西コーナーの床面から一括して出土している。19・20の敲石は, 炉1の北側の覆土上層からそれぞれ出土している。炉1からは炭化米が出土している。

所見 間仕切溝を多数もつ住居跡で, 特に西壁には7条確認した。溝の新旧関係はとらえられなかったが, 同時期に存在したとするには住居跡の機能上疑問が残る, 作り替えを行ったのではないかと考えられる。出土遺物は破片が多く, 離れた地点のものが接合していることから, 本跡は廃絶後人為的に埋め戻す過程で遺物が投棄されたと思われる。また, 第39・51号住居跡の遺物が接合することから, これらの住居跡は同時期に廃絶され, 時期は5世紀末葉と思われる。

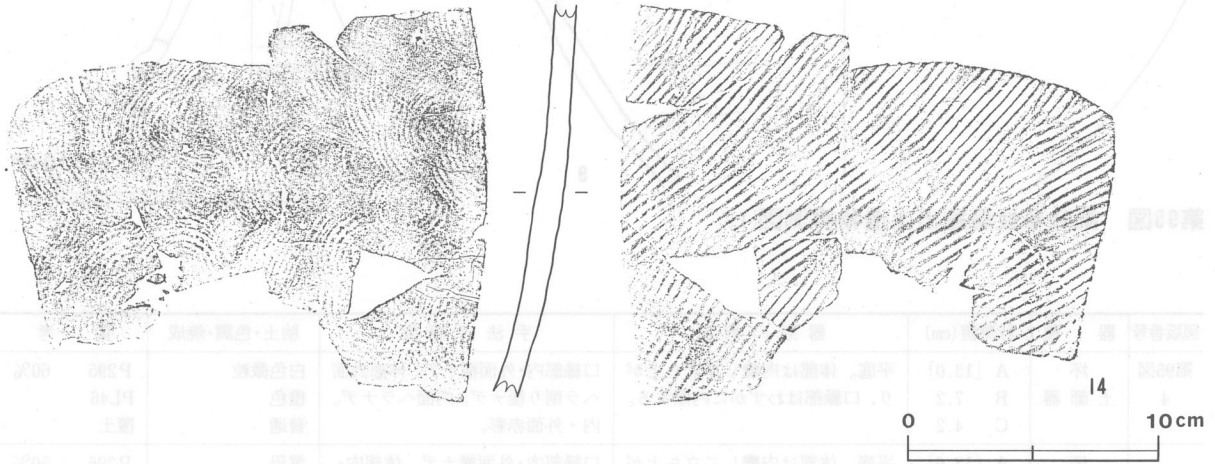
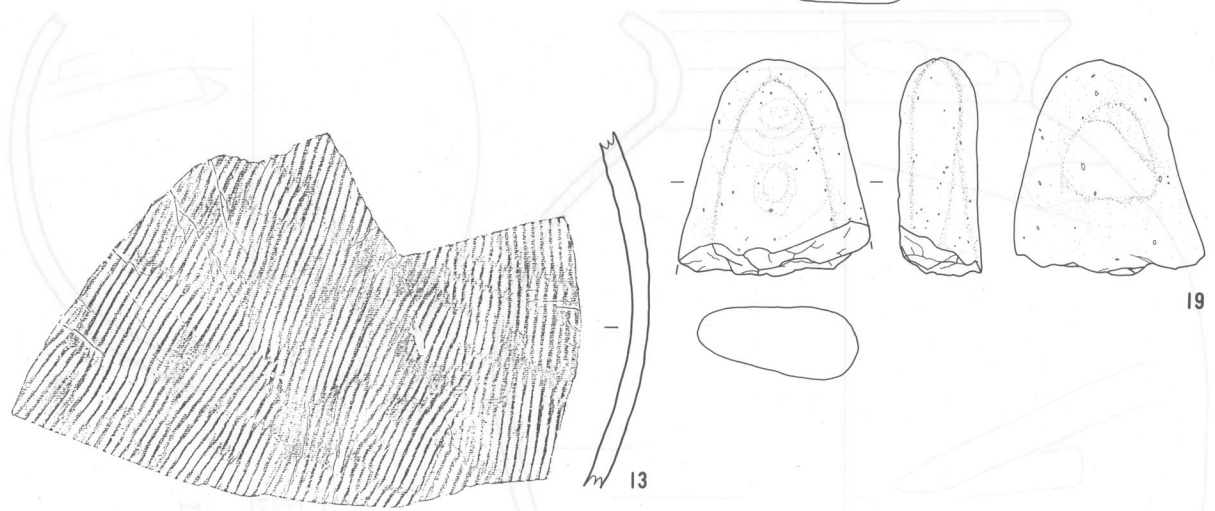
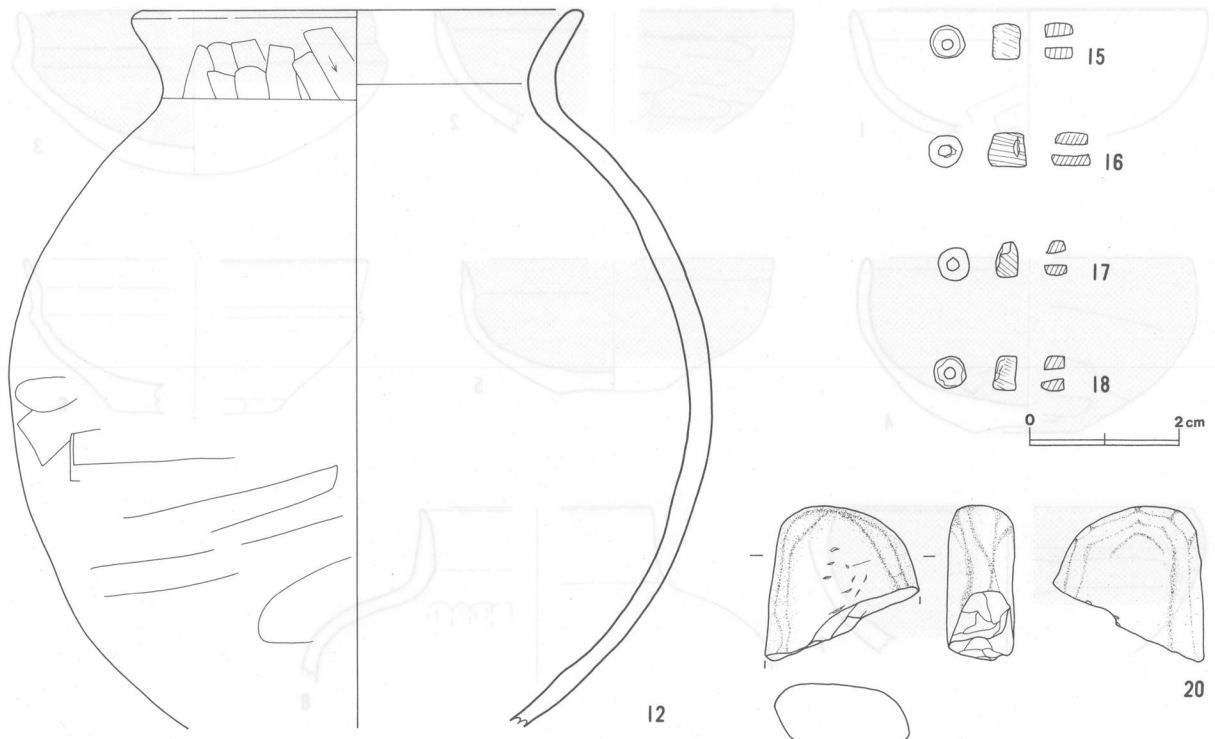
第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 1	坏 土師器	A 14.2 B (5.2)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はほぼ直立する。口縁部内面はうちそぎ状で稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。外面摩滅。	砂粒 にぶい褐色 普通	P297 30% PL46 床面
2	坏 土師器	A [14.5] B (4.9)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立し, 内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	白色微粒 赤色 普通	P298 20% PL46 床面 二次焼成
3	坏 土師器	A [14.2] B 6.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に段をもち, 口縁部は直立する。器壁は厚手である。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面から体部外面上半赤彩。	石英・白色微粒 赤褐色, 底部褐色 普通	P294 60% PL45 覆土



第95図 第46号住居跡出土遺物実測図(1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 4	坏 土師器	A [13.0] B 7.2 C 4.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面へラナデ。内・外面赤彩。	白色微粒 橙色 普通	P295 60% PL46 覆土
5	坏 土師器	A [12.6] B 5.4 C 4.3	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口唇部はうちそぎ状で、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩滅。内面から口縁部外面赤彩。	雲母 赤褐色 普通	P296 50% PL45 床面



第96图 第46号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第95図 6	坏 土師器	A [13.8] B 6.1 C [6.6]	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段をもつ。口縁部は直立する。底部は厚手である。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面剝離。	砂粒 赤褐色 普通	P300 30% PL46 覆土
7	坏 土師器	A [14.8] B (5.9)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ヘラナデ。内・外面赤彩。	白色微粒 赤色 普通	P299 20% PL46 床面 二次焼成
8	小型 短頸壺 土師器	A [9.3] B (7.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、肩が張る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面と口縁部の境には指頭押圧痕を残す。	石英 黄褐色 普通	P301 15% 覆土下層
9	甕 土師器	A 17.4 B (29.2)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部指頭押圧。体部外面ヘラ削り。内面剝離。	白色微粒 にぶい黄褐色 普通	P302 70% PL46 覆土 外面煤付着
10	小型甕 土師器	B (15.1) C 4.3	口縁部欠損。平底。体部は球形状である。	体部外面摩滅。内面ヘラナデ。	長石 浅黄褐色 普通	P304 60% 床面 二次焼成
11	高坏 須恵器	B (5.4) D [9.3]	脚部破片。脚部は外下方にのび、端部でわずかに屈曲する。逆三角形の三方透かしをもつ。	脚部ロクロナデ。	砂粒 灰色 普通	P305 5% 覆土
第96図 12	甕 土師器	A 17.4 B (28.9)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面直下横ナデ。頸部で体部外面ヘラ削り。内面剝離。	白色微粒 にぶい黄褐色 普通	P303 60% PL46 覆土

13・14は須恵器甕の体部片で、13は外面に平行叩き、14は外面に平行叩き・内面に同心円状の当て具痕を残す。

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第96図15	白玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	滑石	南西コーナー床面	Q50 PL55
16	白玉	0.5	0.4	0.5	0.2	0.1	滑石	南西コーナー床面	Q51 PL55
17	白玉	0.4	0.5	0.3	0.2	0.1	滑石	南西コーナー床面	Q52 PL55
18	白玉	0.4	0.4	0.3	0.2	0.1	滑石	南西コーナー床面	Q53 PL55
19	敲石	(8.7)	7.7	3.3	—	285.8	安山岩	炉1北側覆土	Q54 PL55
20	敲石	(6.2)	6.1	2.5	—	131.3	凝灰岩	炉1北側覆土	Q55 PL55

第47号住居跡 (第97図)

位置 調査区南部，F2b9区。

規模と平面形 一辺が3.30mの方形と推測される。

主軸方向 N-22°-W

壁 上面は削平され、壁はほとんど残存していない。

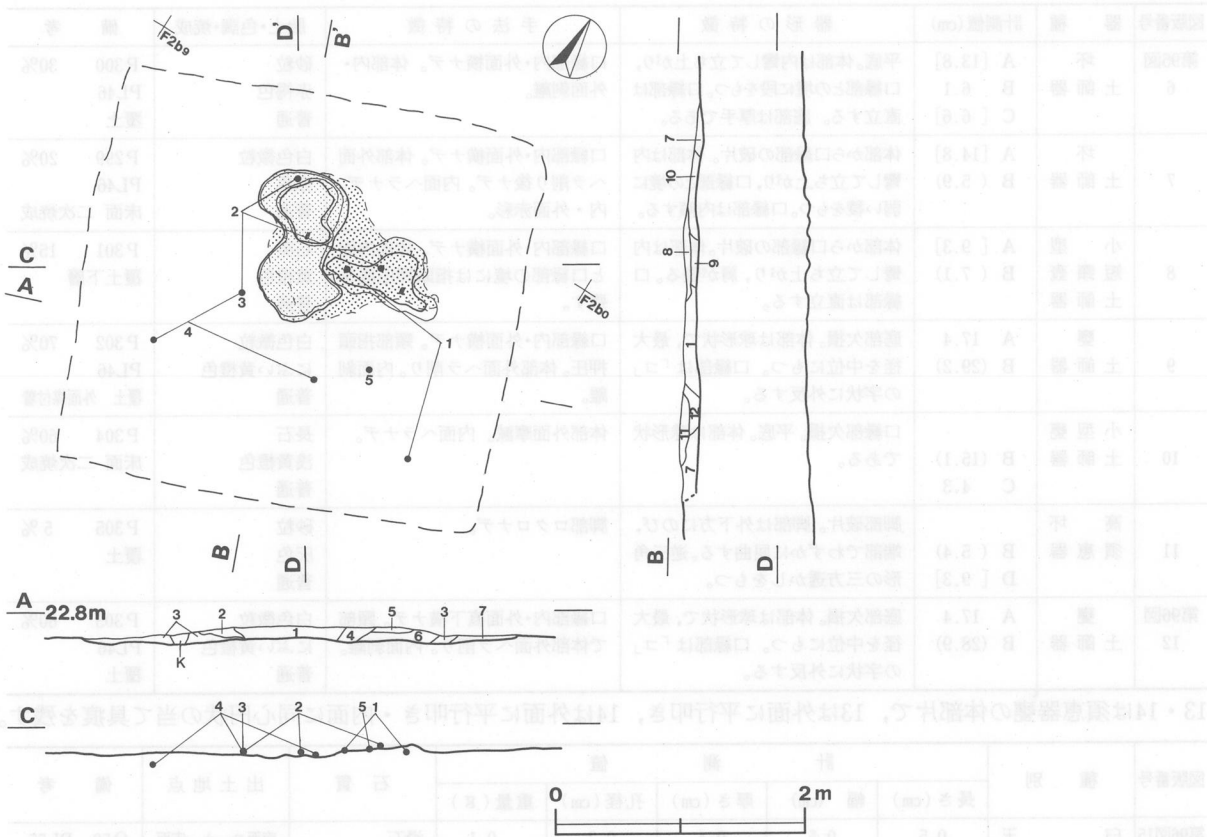
床 中央部が踏み固められている。中央部北東寄りの床面には炭化材、焼土ブロックが見られた。

炉 中央部に位置し、長径121cm、短径37cmの瓢箪型で、深さ5cmの地床炉である。炉床は厚さ10cm程焼けて赤変し、ブロック状に硬化している。

覆土 上面は削平され、覆土はわずかに残るだけである。

土層解説

1 褐色	ローム中ブロック中量，焼土小ブロック微量	8 褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック少量
2 褐色	ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量	9 褐色	焼土小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
3 褐色	ローム中ブロック多量	10 褐色	焼土中ブロック・焼土粒子中量，炭化物少量
4 褐色	ローム小ブロック中量，炭化粒子微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
5 褐色	焼土粒子少量	12 褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
6 褐色	ローム中ブロック中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量		
7 褐色	ローム小ブロック少量		



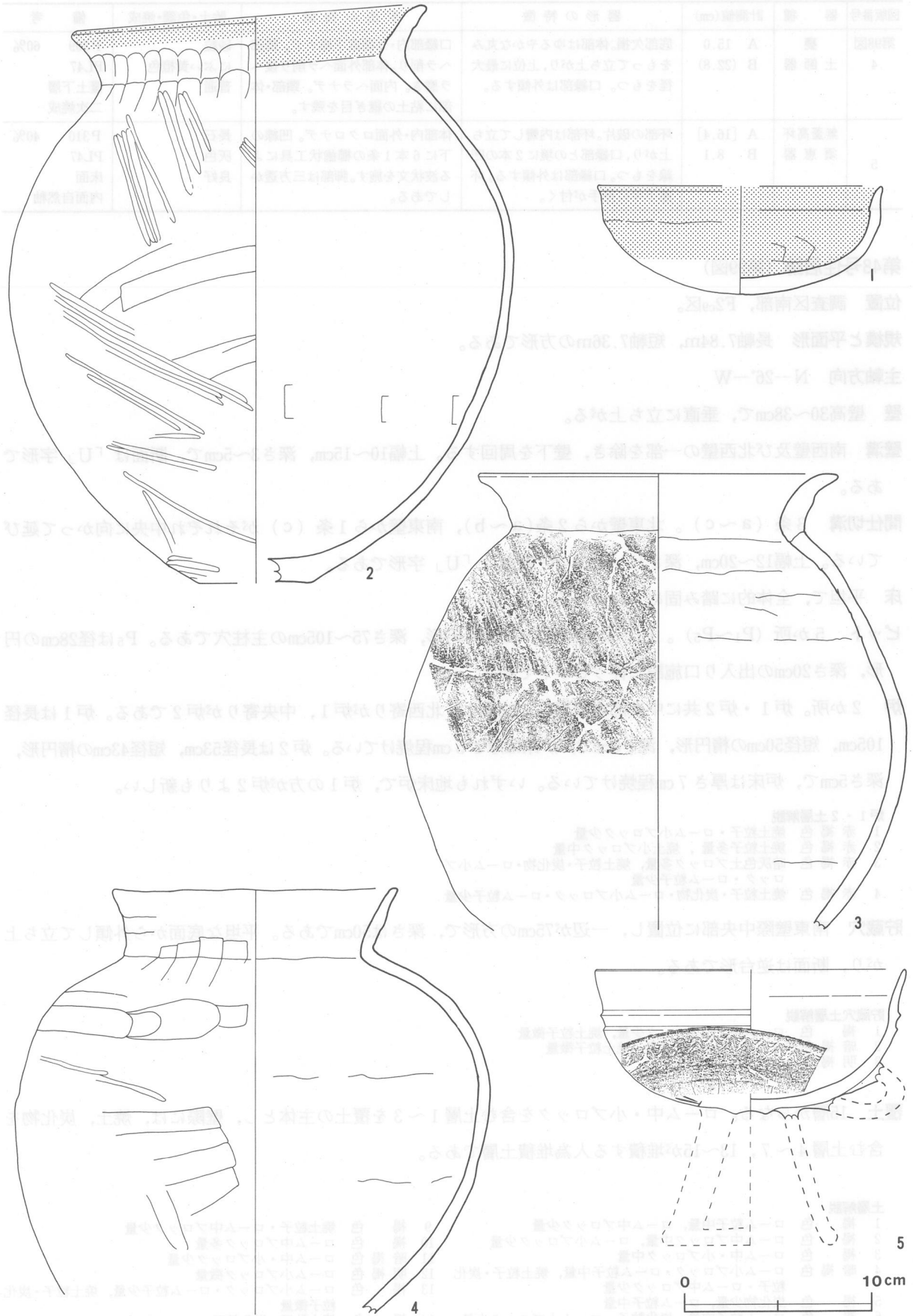
第97図 第47号住居跡実測図

遺物 第98図1の土師器坏は中央部出土のものと南東コーナー出土のものが接合している。2～4の土師器甕は中央部からほぼまとまった状態で出土し、5の須恵器高坏は中央部床面から出土している。3・4の甕は二次焼成を受けており、特に3は底部を意図的に割ったようで、底部が割られた後で火を受けている。この他に出土した細片は、土師器甕の口縁部片13点、体部片191点、底部片5点、土師器坏の口縁部片8点、体部片55点、小型壺口縁部片1点、土師器甕の体部片54点、底部片1点、縄文土器片3点である。縄文土器片は混入である。

所見 本跡は、床面に炭化材や焼土塊が見られる焼失家屋である。時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第98図 1	坏 土師器	A [15.2] B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒 明褐色 普通	P306 70% PL47 床面
2	甕 土師器	A 18.4 B 30.9 C [6.0]	平底。体部はゆるやかな丸みをもって立ち上がり、上位に最大径をもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面直下横ナデ。頸部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。底部外面ヘラ削り。内面剝離。口縁部内・外面赤彩。	長石・白色微粒 明赤褐色 普通	P307 80% PL46 覆土下層 体部煤付着
3	甕 土師器	A 19.3 B (24.5)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面直下横ナデ。頸部ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後粗いハケ状工具によるナデ。内面ヘラナデ。内面に粘土の継ぎ目を残す。	長石・白色微粒 橙色 普通	P308 70% PL46 覆土下層 二次焼成



第98図 第47号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第98図 4	甕 土 師 器	A 15.0 B (22.8)	底部欠損。体部はゆるやかな丸みをもって立ち上がり、上位に最大径をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面直下横ナデ。頸部へラ削り。体部外面へラ削り後へラ磨き。内面へラナデ。頸部・体部に粘土の継ぎ目を残す。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P309 60% PL47 覆土下層 二次焼成
5	無蓋高坏 須 恵 器	A [16.4] B 8.1	坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に2本の凹線をもつ。口縁部は外傾する。坏部下半に把手が付く。	体部内・外面クロコナデ。凹線の下に6本1条の櫛歯状工具による波状文を施す。脚部は三方透かしである。	長石 灰色 良好	P310 40% PL47 床面 内面自然釉

第48号住居跡 (第99図)

位置 調査区南部, F2c9区。

規模と平面形 長軸7.84m, 短軸7.36mの方形である。

主軸方向 N-26°-W

壁 壁高30~38cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 南西壁及び北西壁の一部を除き、壁下を周回する。上幅10~15cm, 深さ3~5cmで、断面は「U」字形である。

間仕切溝 3条(a~c)。北東壁から2条(a~b), 南東壁から1条(c)がそれぞれ中央に向かって伸びている。上幅12~20cm, 深さ11~18cmで、断面は「U」字形である。

床 平坦で、全体的に踏み固められている。

ピット 5か所(P1~P5)。P1~P4は径63~65cmの円形, 深さ75~105cmの主柱穴である。P5は径28cmの円形, 深さ20cmの出入り口施設に伴うピットである。

炉 2か所。炉1・炉2共に中央部北西寄りに位置し、北西寄りが炉1, 中央寄りが炉2である。炉1は長径105cm, 短径50cmの楕円形, 深さ6cmで、炉床は厚さ5cm程焼けている。炉2は長径53cm, 短径43cmの楕円形, 深さ5cmで、炉床は厚さ7cm程焼けている。いずれも地床炉で、炉1の方が炉2よりも新しい。

炉1・2土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量
- 3 赤褐色 暗灰色土ブロック多量, 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 赤褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量

貯蔵穴 南東壁際中央部に位置し、一辺が75cmの方形で、深さは50cmである。平坦な底面から外傾して立ち上がり、断面は逆台形である。

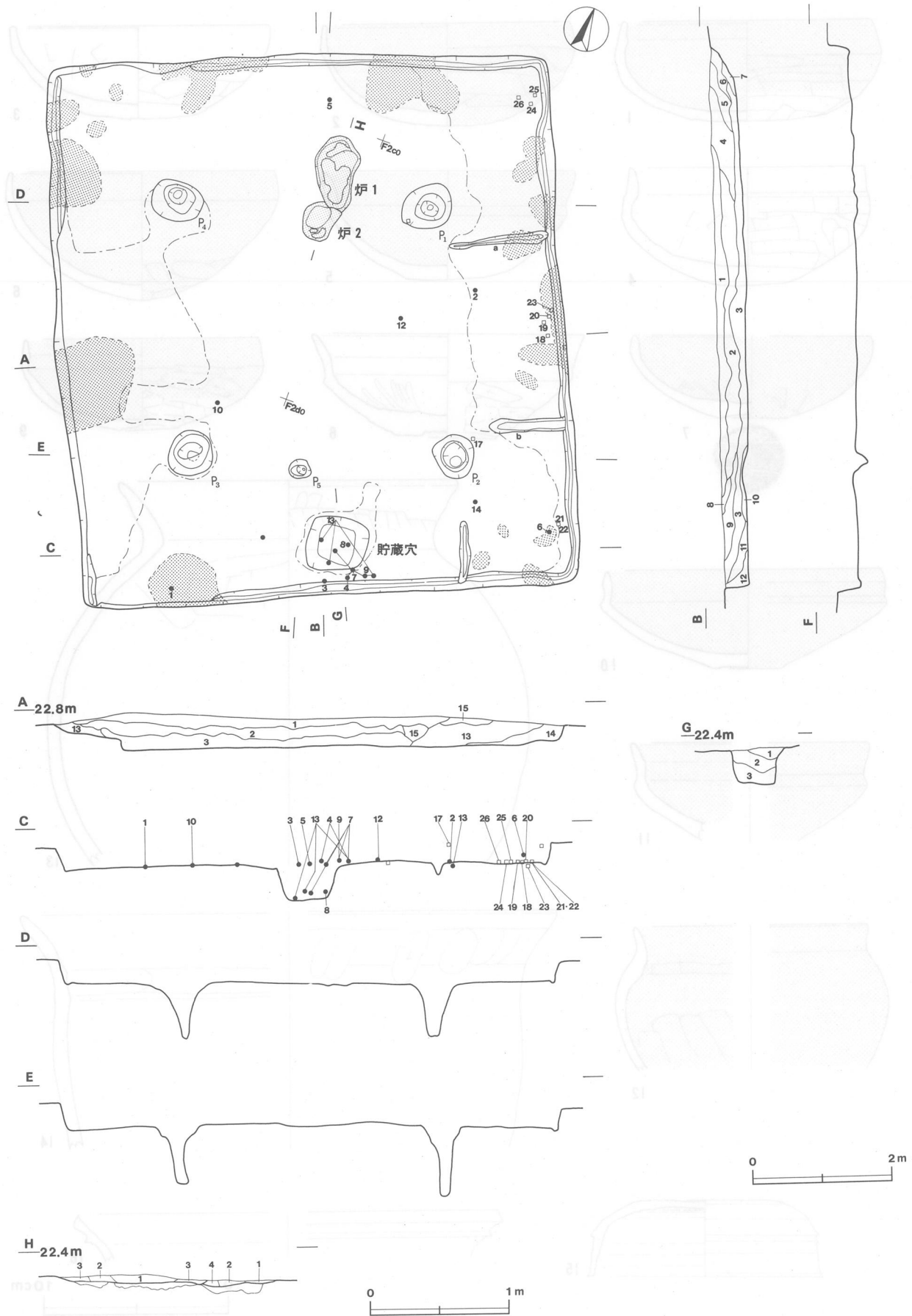
貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム大・小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子少量

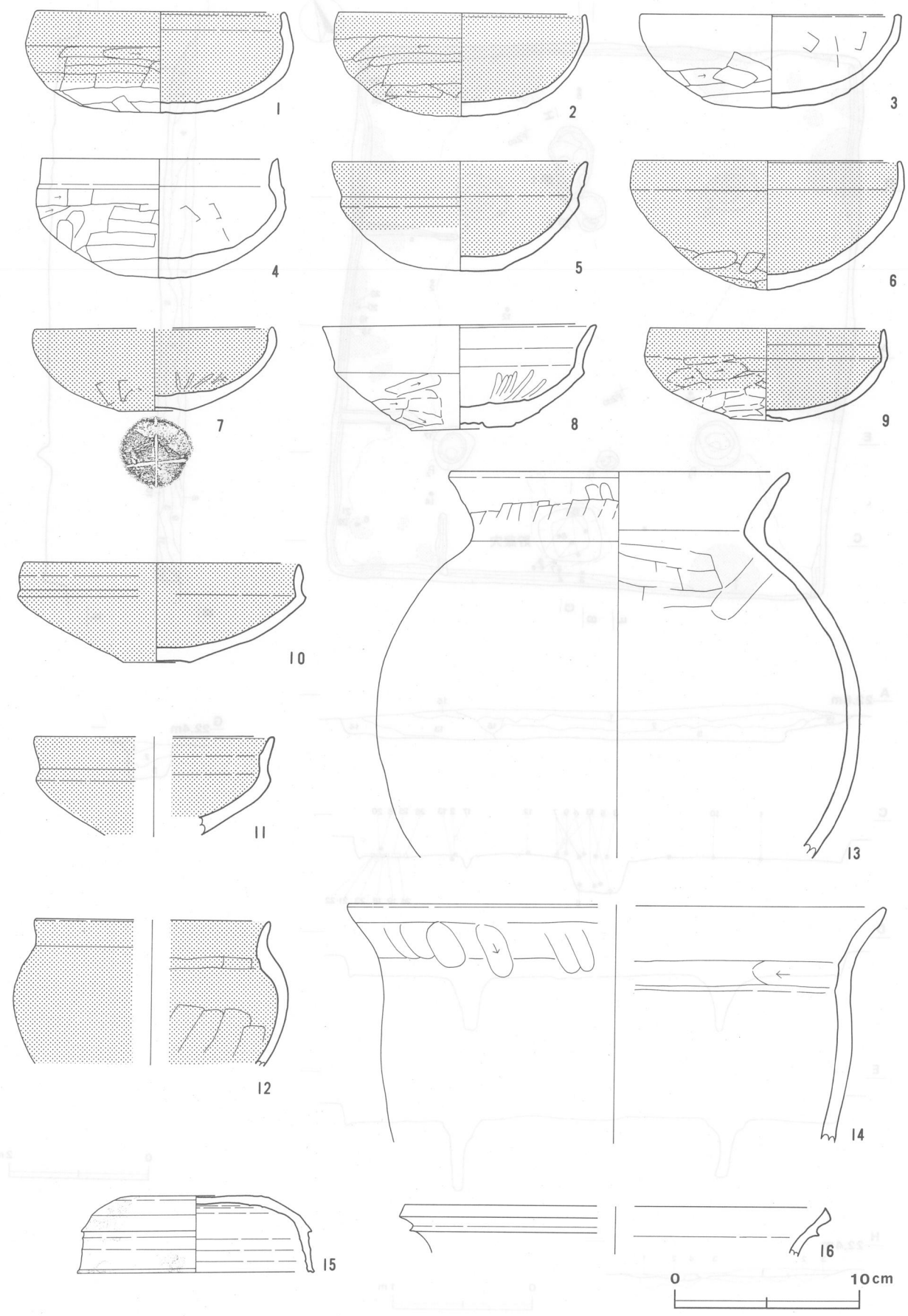
覆土 15層からなる。ローム中・小ブロックを含む土層1~3を覆土の主体とし、壁際には、焼土, 炭化物を含む土層4~7, 13~15が堆積する人為堆積土層である。

土層解説

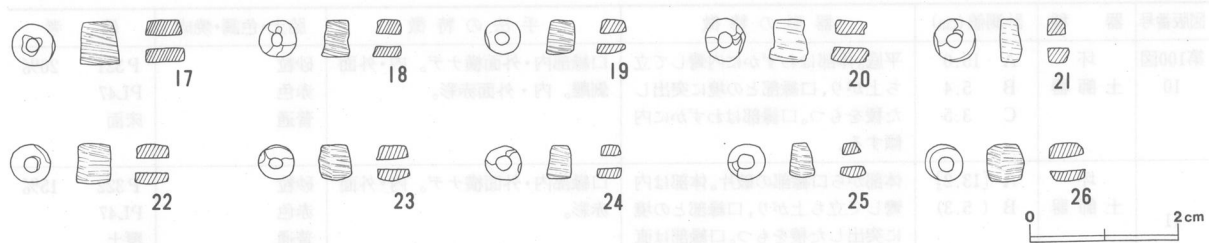
- | | |
|---|---|
| 1 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 | 9 褐色 焼土粒子・ローム中ブロック少量 |
| 2 褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 | 10 褐色 ローム中ブロック多量 |
| 3 褐色 ローム中・小ブロック中量 | 11 暗褐色 ローム中・小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック少量 | 12 明褐色 ローム小ブロック微量 |
| 5 褐色 炭化物少量, ローム粒子中量 | 13 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物粒子微量 |
| 6 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量 | 14 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 7 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量 | 15 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 |
| 8 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量 | |



第99图 第48号住居迹实测图



第100图 第48号住居迹出土遺物実測図(1)



第101図 第48号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物 第100・101図1の坏は南西コーナーの床面から、2の坏はP₁の北側の床面からそれぞれ完形で出土している。6の坏と14の甑は南東コーナーから、3・4・7・9の坏、15の須恵器坏蓋は南壁中央部の床面から、10の坏はP₃の北側の床面から、8の坏、13の甕は貯蔵穴覆土下層から出土している。17~26の白玉はすべて北東側の床面から出土している。15の須恵器坏蓋は第51号住居跡のものと接合している。この他の遺物細片は、土師器甕の口縁部片45点、体部片865点、底部片26点、土師器坏の口縁部片132点、体部片425点、底部片7点、須恵器坏の口縁部片6点、体部片3点、底部片1点、蓋片3点である。

所見 壁際床面に多量の炭化材・焼土塊がみられることや、覆土中にロームブロック、ローム粒子及び焼土ブロックが含まれることから、本跡は焼失後埋め戻されたものと思われる。時期は第51・56号住居跡と同時期で5世紀末葉と思われる。

第48号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第100図 1	坏 土師器	A 13.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面ナデ。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒 赤色、底部外面褐色 普通	P311 100% PL47 床面
		B 5.5				
2	坏 土師器	A 13.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面剝離。口縁部内面から外面赤彩。	白色微粒 赤色 普通	P312 100% PL47 床面 外面煤付着
		B 6.6				
3	坏 土師器	A 14.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに内傾し、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り後へらナデ。内面にへらあて痕。	砂粒・白色微粒 灰黄褐色 普通	P317 80% PL47 床面
		B 5.0				
4	坏 土師器	A 12.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾し、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面へらナデ。	白色微粒 淡褐色 普通	P318 90% PL47 床面
		B 6.5				
5	坏 土師器	A [13.8]	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。器壁は厚い。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面摩滅。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P316 100% PL47 床面
		B 6.0				
6	坏 土師器	A 14.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。器壁は薄い。	口縁部外面横ナデ。底部外面へら削り。体部内面剝離。内・外面赤彩。	長石 赤褐色 普通	P313 70% PL47 覆土中層
		B 5.6				
7	坏 土師器	A [13.0]	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へらナデ。内面へら磨き。底部は上底で、内面も凹む。内・外面赤彩。	雲母 赤色 普通	P319 50% PL47 床面 底部へら記号
		B 4.5				
8	坏 土師器	A 14.8	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へら磨き。	砂粒 淡橙色 普通	P314 70% PL47 貯蔵穴
		B 5.7				
		C 5.6				
9	坏 土師器	A 12.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口縁部内面はうちそぎ状で、稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面ナデ。底部上底。内面から口縁部外面赤彩。	白色微粒・雲母 暗赤褐色 普通	P315 70% PL47 床面 外面煤付着
		B 5.1				
		C 4.2				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第100図 10	坏 土師器	A 15.0 B 5.4 C 3.5	平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面剝離。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P 321 20% PL47 床面
11	坏 土師器	A [13.2] B (5.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P 322 15% PL47 覆土
12	碗 須恵器	A [12.8] B (7.8)	体部から口縁部の破片。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。内面ヘラ削り後ヘラナデ。内・外面赤彩。	白色微粒 暗赤色 普通	P 320 30% PL48 床面
13	甕 土師器	A 18.4 B (21.0)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面直下横ナデ。頸部ヘラ削り。内面ヘラナデ。外面摩滅。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P 323 50% PL47 貯蔵穴
14	甗 土師器	A [29.0] B (12.8)	体部上位から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラナデ。内・外面摩滅。	砂粒・長石・石英 淡橙色 普通	P 324 10% 床面
15	坏 蓋 須恵器	A 12.8 B 4.2	天井部は平坦で、内彎しながら口縁部に至り、口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部はわずかに開き、端部に段をもつ。	天井部左クロ回転ヘラ削り。口縁部・内面クロナデ。酸化焙焼成。	長石 赤灰色 良好	P 326 60% PL47 ^{愛知山産} か 覆土 51号住と接合 外面自然釉
16	甕 須恵器	A [22.8] B (2.6)	口縁部破片。口縁部は外反し、口縁直下に1本の凸線をもつ。	口縁部内・外面クロナデ。	白色微粒 灰オリーブ 良好	P 328 5% PL48 覆土

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第101図17	白 玉	0.6	0.6	0.6	0.2	0.2	滑石	北東側床面	Q57 PL55
18	白 玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	滑石	北東側床面	Q58 PL55
19	白 玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	滑石	北東側床面	Q59 PL55
20	白 玉	0.6	0.6	0.5	0.2	0.2	滑石	北東側床面	Q60 PL55
21	白 玉	0.6	0.6	0.3	0.2	0.1	滑石	北東側床面	Q61 PL55
22	白 玉	0.6	0.5	0.5	0.2	0.2	滑石	北東側床面	Q62 PL55
23	白 玉	0.5	0.5	0.5	0.2	0.1	滑石	北東側床面	Q63 PL55
24	白 玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	滑石	北東側床面	Q64 PL55
25	白 玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	滑石	北東側床面	Q65 PL55
26	白 玉	0.5	0.5	0.6	0.3	0.1	滑石	北東側床面	Q66 PL55

第49号住居跡 (第102図)

位置 調査区南部，F3e2区。

重複関係 本跡は、第60号住居跡に北東壁の東コーナー寄りが掘り込まれており、本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸3.40m，短軸2.40mの長方形である。

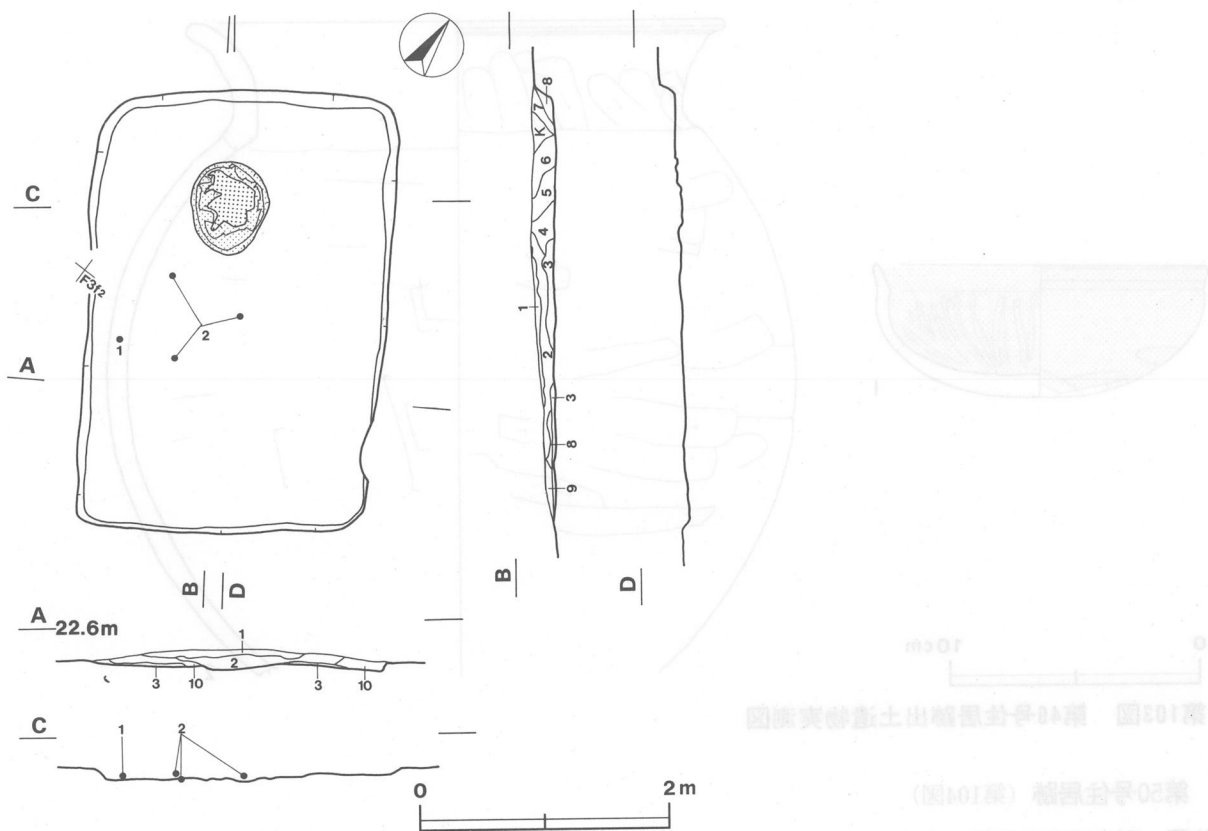
主軸方向 N-34°-W

壁 壁高6~12cmで、外傾して立ち上がる。

床 踏み締められた面は見られない。

炉 中央部北西寄りに位置し、長径75cm，短径60cmの楕円形の地床炉である。炉床は赤変している程度である。

覆土 10層からなる。人為堆積土層である。



第102図 第49号住居跡実測図

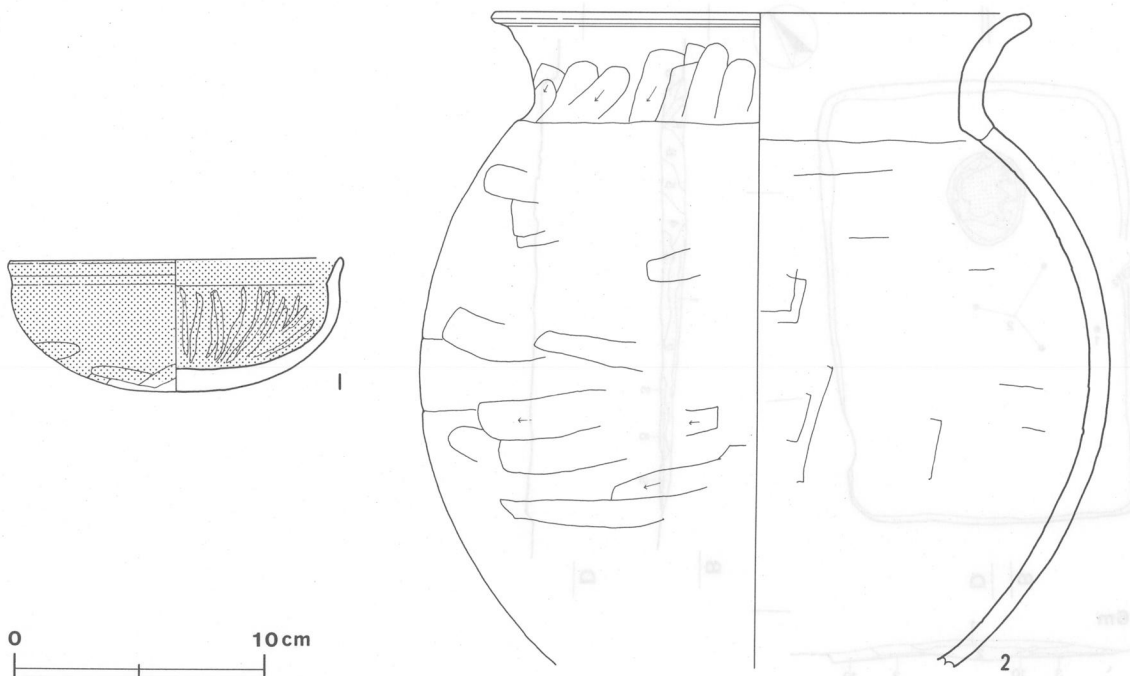
- 土層解説
- | | | | |
|----|-------|---|--------------------------------------|
| 1 | 褐色 | 色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 2 | 褐色 | 色 | ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 | 褐色 | 色 | ローム中・小ブロック中量, 炭化物少量 |
| 4 | 褐色 | 色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 5 | 褐色 | 色 | 焼土小ブロック・ローム小ブロック中量 |
| 6 | 褐色 | 色 | ローム中ブロック多量 |
| 7 | にぶい褐色 | 色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| 8 | 褐色 | 色 | ローム小ブロック中量 |
| 9 | 褐色 | 色 | ローム粒子中量 |
| 10 | 褐色 | 色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量 |

遺物 本跡からの出土遺物は、土師器甕の口縁部片15点、体部片403点、底部片5点、土師器杯の口縁部片28点、体部片21点で、土師器甕の割合が高い。第103図1の杯は南西側覆土下層から、2の甕は中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡は、小規模な住居跡である。時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。

第49号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第103図 1	杯 土師器	A 13.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。口縁部内面はうちそぎ状で稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へら磨き。内・外面赤彩。	石英・雲母 赤色 普通	P 329 90% 覆土下層
		B 5.3				
2	甕 土師器	A 21.8 B (26.2)	体部から口縁部の破片。体部は球形で、口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面直下横ナデ。頸部・体部外面へら削り。内面へらナデ。頸部に粘土の継ぎ目を残す。	砂粒 浅黄色 普通	P 330 40% 覆土下層



第103図 第49号住居跡出土遺物実測図

第50号住居跡 (第104図)

位置 調査区南部西側, F2h₂区。

規模と平面形 長軸6.87m, 短軸5.08mの長方形である。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高15~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁下を巡っている。上幅10cm, 深さ6~7cmで断面は「U」字形である。

間仕切溝 5条 (a~e)。上幅13~25cm, 深さ6~12cmで, 断面は「U」字形である。北東壁から1条 (a) 南東壁から1条 (b), 南西壁から3条 (c~e), 中央に向かって伸びている。c・dは重複しており, dの方が新しく, 作り替えを行っている。

床 平坦である。南壁東寄りには幅30~60cm, 10cmの高さで馬蹄形の高まりがあり, 硬化が著しく, 出入り口施設と思われる。また, 貯蔵穴1を囲むように幅4~7cm, 高さ5cmの高まりがある。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は中央部北東寄りにあり, 長径85cm, 短径60cmの楕円形, 深さ60cmである。P₂は中央部南西寄りにあり, 径20cmの円形, 深さ65cmである。いずれも支柱穴である。P₃は南壁際馬蹄形状の高まりの内側に位置し, 長径40cm, 短径25cmの楕円形, 深さ18cmの出入り口施設に伴うピットである。P₄は間仕切溝eと重複しており, P₄の方が古く, 本住居跡に伴うものとするには疑問が残る。

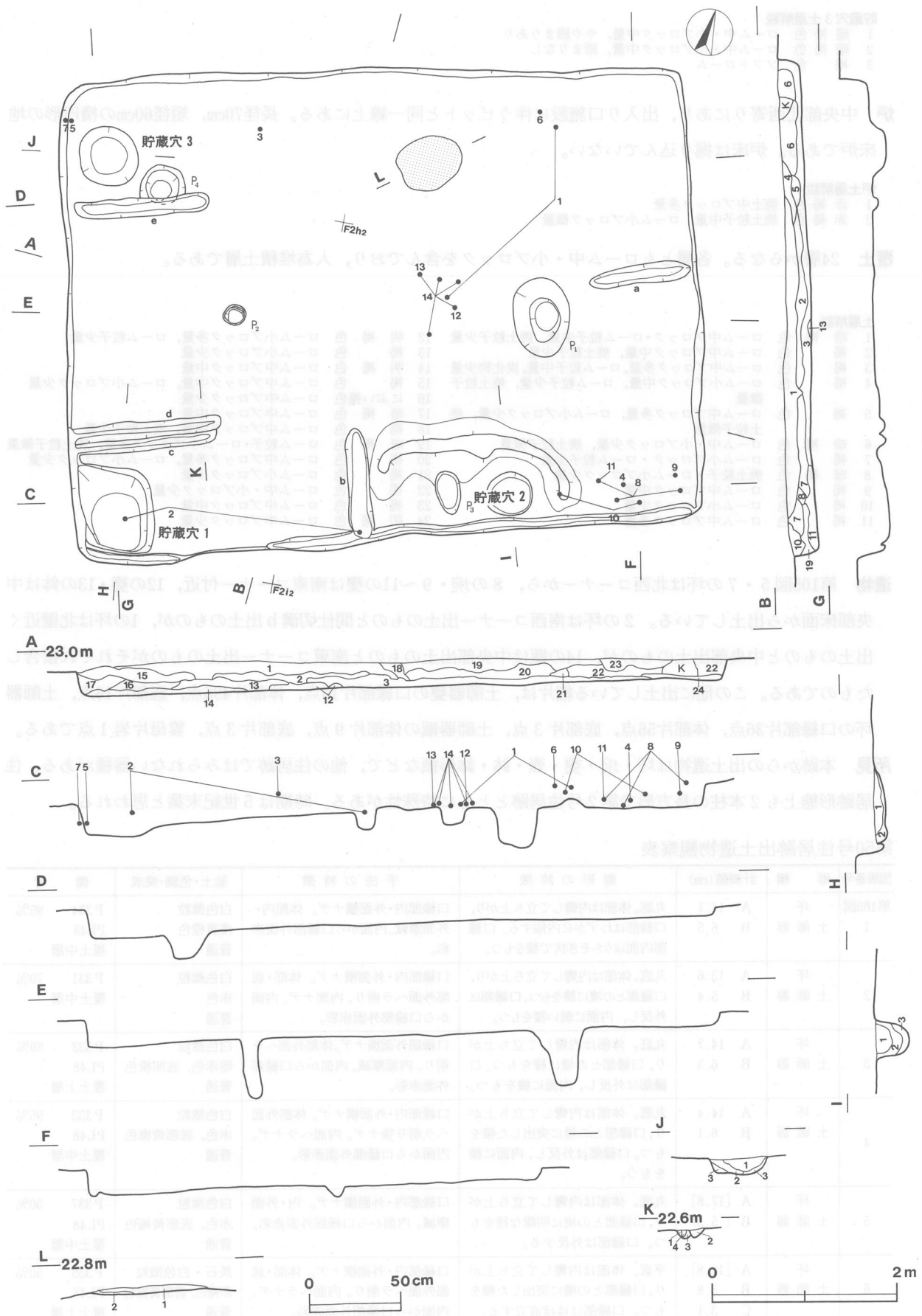
貯蔵穴 3か所。貯蔵穴1は南西コーナーに位置し, 長軸85cm, 短軸60cmの長方形で, 深さは10cmと浅い。幅4~7cm, 高さ5cmの高まりが巡る。貯蔵穴2はP₃ (出入り口に伴うピット) の東側に隣接し, 径50cmの円形で, 深さは40cmで, 平坦な底面から垂直に立ち上がり, 断面は箱形である。貯蔵穴3は西壁の北西コーナー寄りに位置し, 径65cmの円形で, 深さは20cm, 断面は摺鉢形である。

貯蔵穴1土層解説

- 1 褐色 ローム中・小ブロック少量
- 2 褐色 ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量

貯蔵穴2土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック中量
- 3 暗褐色 細かい粒子の緻密な暗褐色土



第104図 第50号住居跡実測図

貯蔵穴3土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック中量, やや締まりあり
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック中量, 締まりなし
- 3 褐色 ソフトローム

炉 中央部北西寄りにあり, 出入口施設に伴うピットと同一線上にある。長径70cm, 短径60cmの楕円形の地床炉である。炉床は掘り込んでいない。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土中ブロック多量
- 2 赤褐色 焼土粒子中量, ローム小ブロック微量

覆土 24層からなる。各層ともローム中・小ブロックを含んでおり, 人為堆積土層である。

土層解説

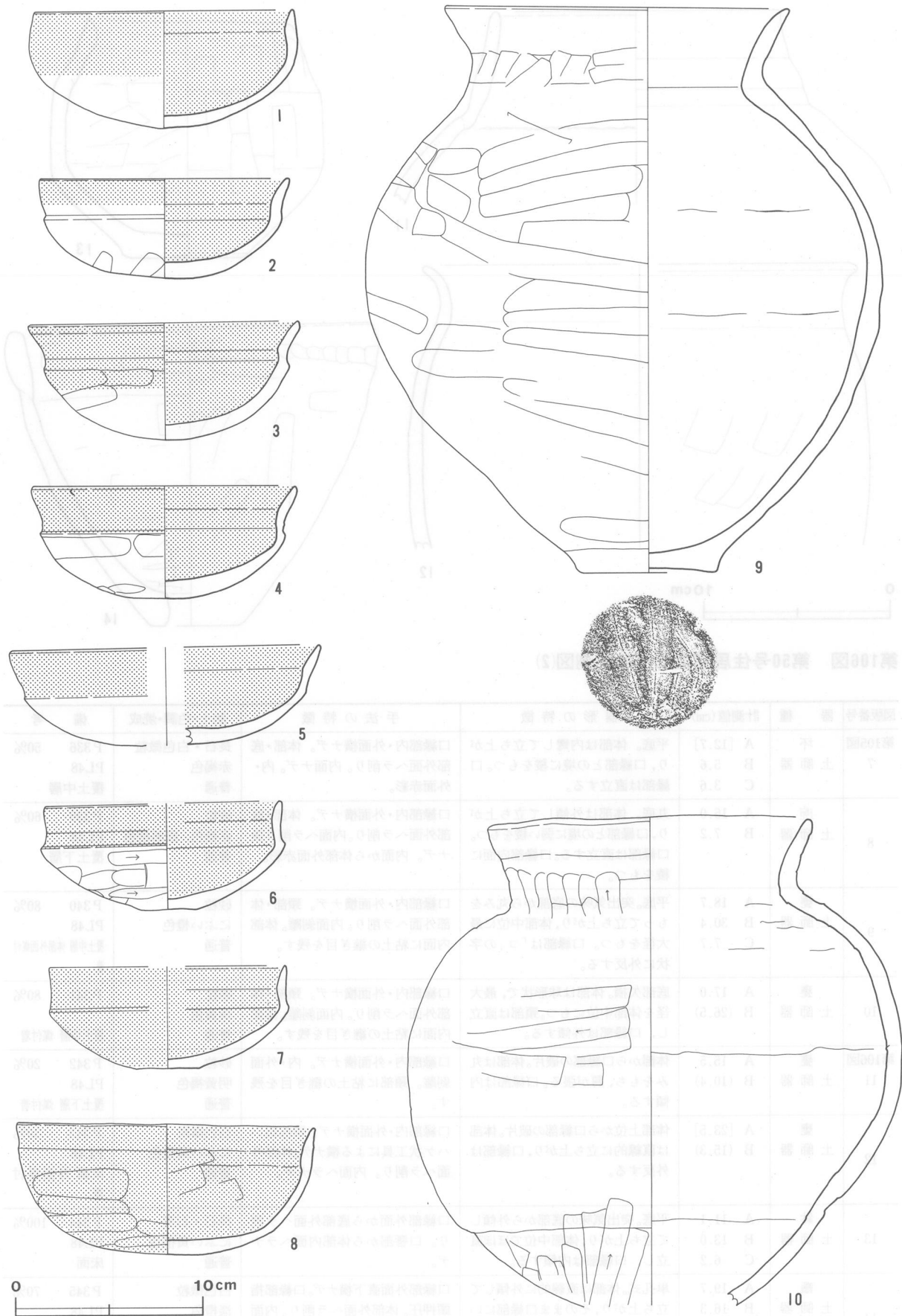
- | | | | |
|-------|--------------------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子少量 | 12 明褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム中ブロック中量, 焼土粒子少量 | 13 褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム中ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化物少量 | 14 明褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 15 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 16 にぶい褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 6 暗褐色 | ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 17 暗褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 18 褐色 | ローム中ブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 8 暗褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック少量 | 19 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量, 焼土粒子微量 |
| 9 褐色 | ローム中ブロック中量 | 20 褐色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック少量 |
| 10 褐色 | ローム小ブロック少量 | 21 褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 11 褐色 | ローム中ブロック多量 | 22 褐色 | ローム中・小ブロック少量 |
| | | 23 褐色 | ローム中ブロック中量 |
| | | 24 明褐色 | ローム中ブロック少量 |

遺物 第105図5・7の坏は北西コーナーから, 8の碗・9~11の甕は南東コーナー付近, 12の甕・13の鉢は中央部床面から出土している。2の坏は南西コーナー出土のものと同仕切溝b出土のものが, 1の坏は北壁近く出土のものと中央部出土のものが, 14の甕は中央部出土のものと南東コーナー出土のものがそれぞれ接合したものである。この他に出土している細片は, 土師器甕の口縁部片16点, 体部片496点, 底部片16点, 土師器坏の口縁部片36点, 体部片56点, 底部片3点, 土師器甕の体部片9点, 底部片3点, 雲母片岩1点である。

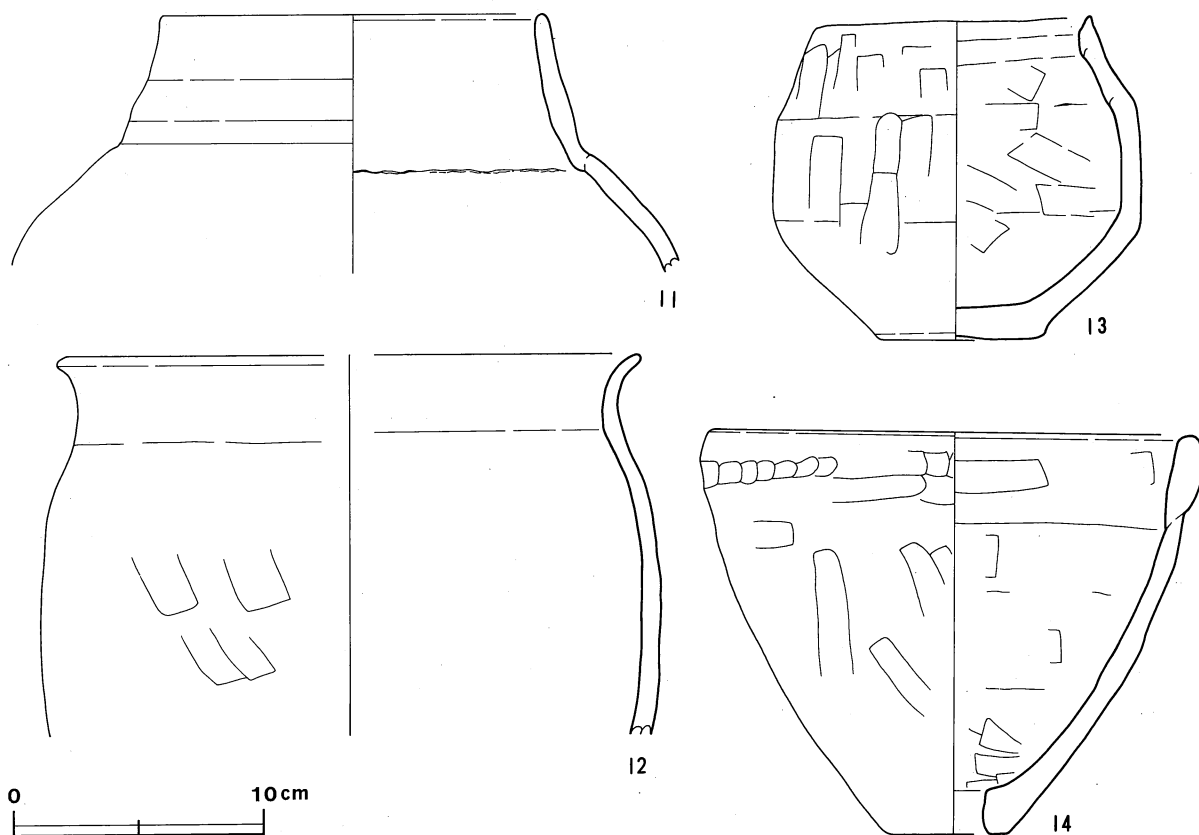
所見 本跡からの出土遺物は坏・碗・甕・壺・鉢・鉢形甕などで, 他の住居跡ではみられない器種がある。住居跡形態上も2本柱の長方形で第2号住居跡とともに特殊性がある。時期は5世紀末葉と思われる。

第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 1	坏 土師器	A 14.1 B 6.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに内傾する。口縁部内面はうちそぎ状で稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面摩滅。内面から口縁部外面赤彩。	白色微粒 浅黄褐色 普通	P 334 95% PL48 覆土中層
2	坏 土師器	A 13.6 B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反し, 内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面ナデ。内面から口縁部外面赤彩。	白色微粒 赤色 普通	P 331 70% 覆土中層
3	坏 土師器	A 14.7 B 6.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外反し, 内面に稜をもつ。	口縁部外面横ナデ。体部外面へら削り。内面摩滅。内面から口縁部外面赤彩。	白色微粒 暗赤色, 底部橙褐色 普通	P 332 80% PL48 覆土上層
4	坏 土師器	A 14.4 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部は外反し, 内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面へらナデ。内面から口縁部外面赤彩。	白色微粒 赤色, 底部黄褐色 普通	P 333 95% PL48 覆土中層
5	坏 土師器	A [17.8] B (5.3)	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面摩滅。内面から口縁部外面赤彩。	白色微粒 赤色, 底部黄褐色 普通	P 337 50% PL48 覆土中層
6	坏 土師器	A [12.8] B 5.8 C 3.1	平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に突出した稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面へらナデ。内面から口縁部外面赤彩。	長石・白色微粒 赤褐色, 底部黄褐色 普通	P 335 50% PL48 覆土上層



第105図 第50号住居跡出土遺物実測図(1)



第106図 第50号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 7	坏 土師器	A [12.7] B 5.6 C 3.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・白色微粒 赤褐色 普通	P 336 50% PL48 覆土中層
8	碗 土師器	A 16.0 B 7.2	丸底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面ヘラ削り後ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤褐色、底部橙色 普通	P 339 60% PL48 覆土下層
9	甕 土師器	A 18.7 B 30.4 C 7.7	平底。突出気味の底部から丸みをもって立ち上がり、体部中位に最大径をもつ。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面ヘラ削り。内面剝離。体部内面に粘土の継ぎ目を残す。	砂粒 にぶい橙色 普通	P 340 80% PL48 覆土中層 体部外面煤付着
10	甕 土師器	A 17.0 B (26.5)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を体部中位にもつ。頸部は直立し、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面ヘラ削り。内面剝離。体部内面に粘土の継ぎ目を残す。	砂粒 淡黄色 普通	P 341 80% 覆土中層 煤付着
第106図 11.	甕 土師器	A 15.5 B (10.4)	体部から口縁部の破片。体部は丸みをもち、肩が張る。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面剝離。頸部に粘土の継ぎ目を残す。	砂粒 明黄褐色 普通	P 342 20% PL48 覆土下層 煤付着
12	甕 土師器	A [23.5] B (15.3)	体部上位から口縁部の破片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部粗いハケ状工具による横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	白色微粒 にぶい黄褐色 普通	P 343 30% PL48 床面 外面煤付着
13	鉢 土師器	A 11.1 B 13.0 C 6.2	平底。突出気味の底部から外傾して立ち上がり、体部中位でほぼ直立し、口縁部は内傾する。	口縁部外面から底部外面ヘラ削り。口唇部から体部内面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P 344 100% PL48 床面
14	甗 土師器	A 19.7 B 16.3 C 4.8	単孔式。体部は直線的に外傾して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口縁部は肥厚、口唇部は平坦である。	口縁部外面直下横ナデ。口縁部指頭押圧。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	白色微粒 淡橙色 普通	P 345 70% PL48 床面

第51号住居跡 (第107図)

位置 調査区南部東側, F3d2区。

規模と平面形 長軸2.80m, 短軸2.56mの長方形である。

長軸方向 N-18°-W

壁 壁高15~20cmで, 垂直に立ち上がる。

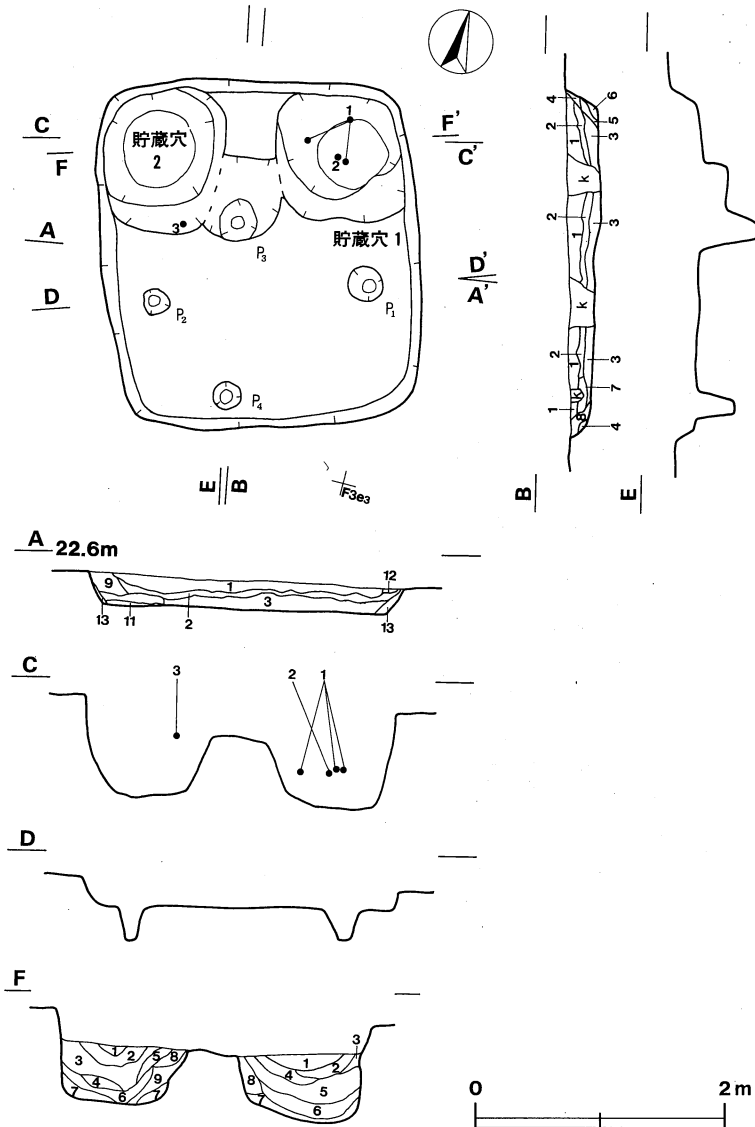
床 踏み締めた面は見られない。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。径25~32cmの円形で, 深さは29~49cmである。性格は不明である。

貯蔵穴 2か所。貯蔵穴1は北東コーナーに位置し, 径100cmの円形で, 深さ78cmである。貯蔵穴2は北西コーナーに位置し, 径105cmの円形で, 深さ79cmである。いずれもかなり大型で, 本跡の北半分を占めている。

貯蔵穴1・2土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 7 暗褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 8 褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック少量 | 9 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子・ローム中・小ブロック少量 | | |



第107図 第51号住居跡実測図

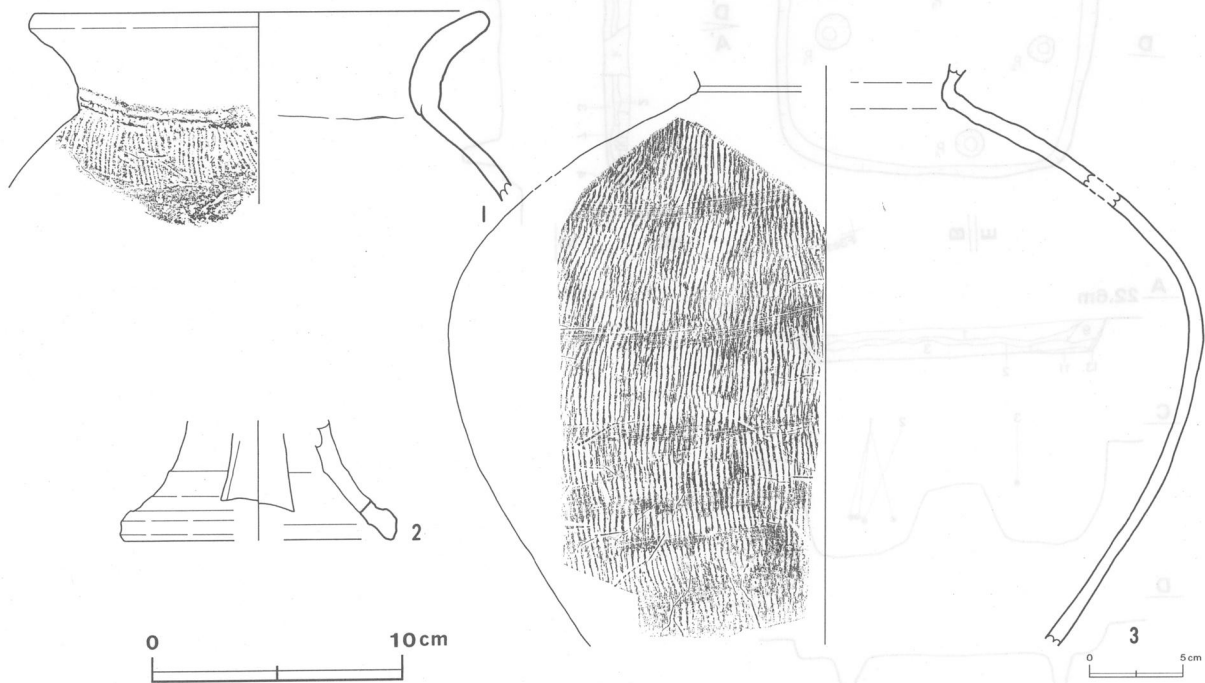
覆土 13層からなる。ロームブロックを含む土層1～3を主体とする人為堆積土層である。

土層解説

- | | | |
|----|-----|------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム中・小ブロック中量 |
| 2 | 褐色 | ローム大ブロック多量，ローム小ブロック中量 |
| 3 | 明褐色 | ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量 |
| 4 | 褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 6 | 褐色 | ローム中ブロック少量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化粒子少量 |
| 8 | 褐色 | ローム中・小ブロック中量，焼土粒子少量 |
| 9 | 褐色 | ローム大・中ブロック中量，ローム粒子少量 |
| 10 | 褐色 | ローム粒子中量 |
| 11 | 暗褐色 | ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 12 | 暗褐色 | ローム中ブロック中量 |
| 13 | 褐色 | ローム中ブロック中量 |

遺物 本跡から出土した遺物量は少なく，土師器甕の体部片22点，底部片1点，土師器杯の口縁部片1点，体部片3点，須恵器甕の体部片10点である。第108図1の土師器甕と2の須恵器高坏は貯蔵穴2から出土している。3の須恵器甕は住居跡の南側から出土しているが，第48号住居跡・第56号住居跡から出土した甕の体部片と接合したものである。

所見 本跡は，小規模であり，床面積のほぼ半分を貯蔵穴が占めている。炉や柱穴もなく居住を目的としているとは考えにくく，倉庫的な用途の建物跡の可能性が考えられる。本跡から出土した遺物と第48号住居跡・第56号住居跡の遺物が接合することから3軒の住居跡は同時期に廃棄され，その際遺物を投棄したものと考えられる。時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。



第108図 第51号住居跡出土遺物実測図

第51号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 1	甕 土師器	A 18.4 B (7.7)	口縁部の破片。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部外面ハケ状工具によるナデ後横ナデ。頸部ハケ状工具によるナデ。内面剝離。	砂粒 浅黄橙色 普通	P346 10% 貯蔵穴2の中層
2	高坏 須恵器	B (4.8) D [10.8]	脚部破片。脚部は外下方にのび、端部でわずかに屈曲する。長方形の三方透かしを持つ。	脚部内・外面クロナデ。	砂粒 灰オリーブ色 良好	P347 5% PL49 貯蔵穴2の中層
3	甕 須恵器	B (30.8)	体部破片。体部は丸みを持って立ち上がり、体部中位に最大径をもつ。	体部外面平行叩きの後、浅い平行沈線を巡らす。内面は同心円当て具痕を残すが、下半は磨り消し。	砂粒 灰色 良好	P348 30% PL48 覆土 外面上位自然軸 48・56号住と接合

第53号住居跡 (第109図)

位置 調査区南部, F3h1区。

規模と平面形 一辺が3.10mの方形である。

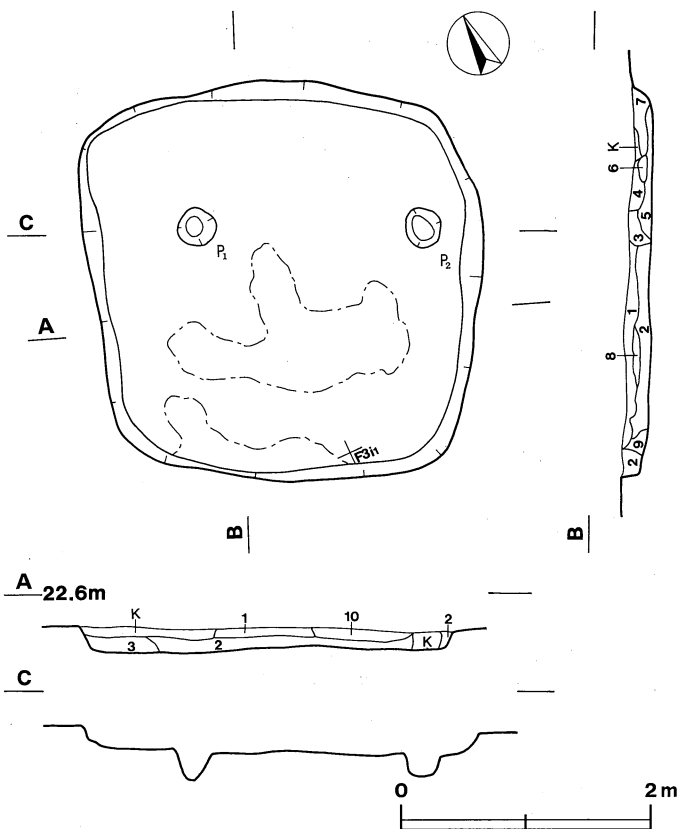
長軸方向 N-25°-E

壁 壁高10~15cmで、外傾して立ち上がる。

床 中央部から南西寄りが踏み締められている。

ピット 2か所 (P₁~P₂)。径28・30cmの円形、深さ20・25cmで柱穴と思われる。

覆土 10層からなる。人為堆積土層である。



第109図 第53号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------|---------|---------------------|
| 1 褐 色 | ローム小ブロック中量 | 6 明 褐 色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 2 黄 褐 色 | ローム小ブロック中量 | 7 暗 褐 色 | ローム小ブロック中量 |
| 3 褐 色 | ローム小ブロック少量 | 8 明 褐 色 | ローム小ブロック少量 |
| 4 褐 色 | ローム大ブロック多量, ローム小ブロック少量 | 9 明 褐 色 | ローム大ブロック中量 |
| 5 明 褐 色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック中量 | 10 褐 色 | ローム小ブロック中量 |

遺物 本跡からの出土遺物の量は少なく、土師器甕の体部片18点、底部片1点のみである。

所見 本跡は、北側寄りに2本の柱穴をもつが炬は付設されておらず、居住を目的とするには疑問が残る遺構である。時期は出土遺物が破片で、時期を決定することは難しいが、5世紀後葉と思われる。

第55号住居跡 (第110図)

位置 調査区南部中央, F2c6区。

規模と平面形 長軸3.55m, 短軸3.35mの方形である。

長軸方向 N-5°-W

壁 壁高16~20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み締められている。

貯蔵穴 3か所。貯蔵穴1は北東コーナーに位置し、径85cmの円形、深さは45cmで、平坦な底面から外傾して立ち上がり、断面は逆台形である。貯蔵穴2は東壁際南東コーナー寄りに位置し、径95cmの円形、深さは65cmで、平坦な底面から垂直に立ち上がり、断面は箱形である。貯蔵穴3は南西コーナーに位置し、長径123cm, 短径95cmの不整楕円形で、深さは40cm, 断面は「U」字形である。いずれもかなり大型である。

貯蔵穴1土層解説

- | | |
|---------|------------------------|
| 1 暗 褐 色 | ローム中ブロック多量 |
| 2 褐 色 | ローム中ブロック多量, 炭化粒子微量 |
| 3 黄 褐 色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック少量 |
| 4 褐 色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量 |
| 5 褐 色 | ローム小ブロック多量 |
| 6 褐 色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量 |
| 7 褐 色 | ローム中ブロック多量 |

貯蔵穴2土層解説

- | | |
|---------|---------------------------------|
| 1 黄 褐 色 | ローム中ブロック中量 |
| 2 暗 褐 色 | ローム粒子中量, ローム大・小ブロック少量 |
| 3 褐 色 | ローム中・小ブロック多量 |
| 4 褐 色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック少量 |
| 5 褐 色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 |
| 6 暗 褐 色 | ローム粒子中量 |
| 7 褐 色 | ローム粒子中量, ローム大・中・小ブロック少量 |

貯蔵穴3土層解説

- | | |
|---------|------------------------|
| 1 褐 色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量 |
| 2 褐 色 | ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量 |
| 3 褐 色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 |
| 4 褐 色 | ローム大・中・小ブロック少量 |
| 5 褐 色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 |
| 6 黄 褐 色 | ローム粒子少量 |
| 7 褐 色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 8 褐 色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 |

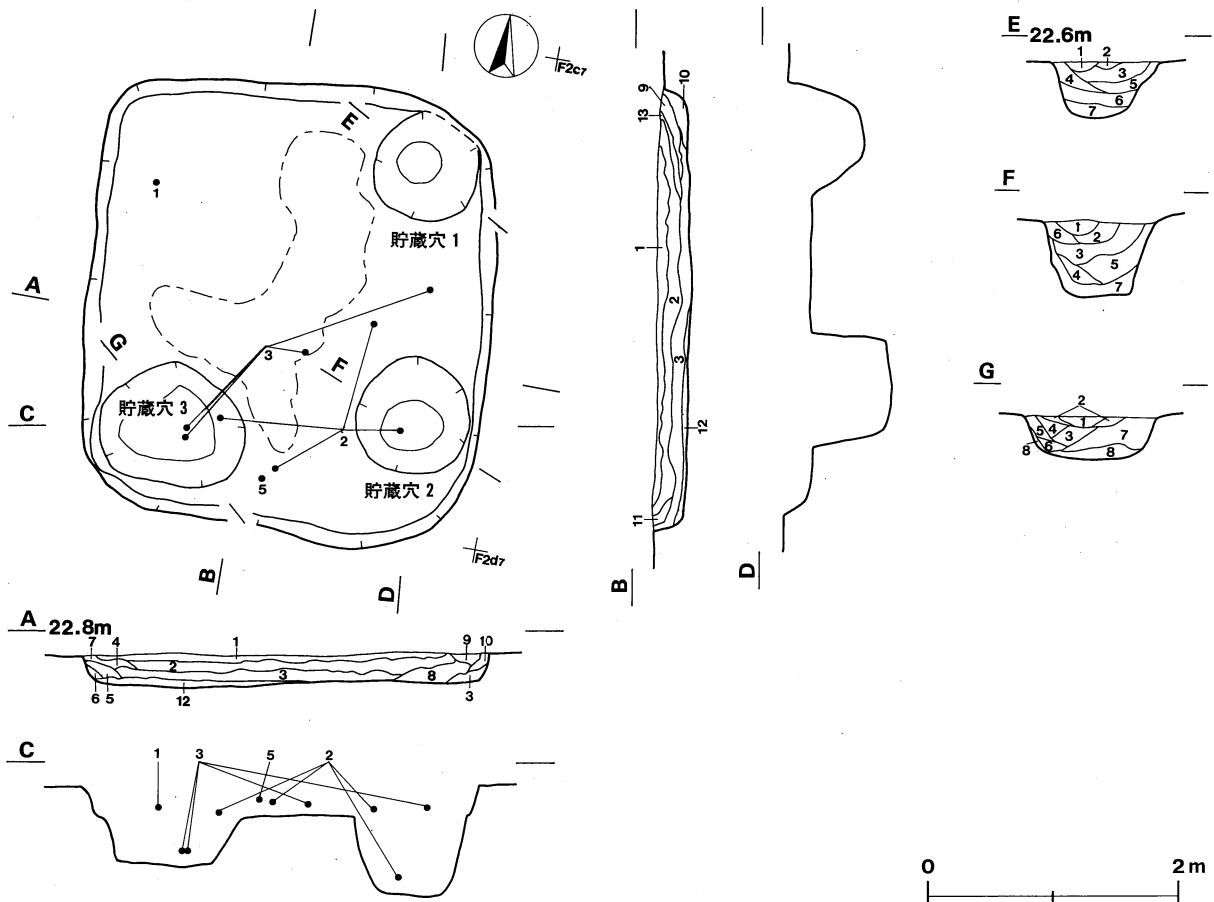
覆土 12層からなる。ローム中ブロックを多量に含む土層1~3を主体とする人為堆積土層である。

土層解説

- | | | | |
|---------|------------------------------|----------|------------------------|
| 1 褐 色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 7 黄 褐 色 | ローム粒子多量 |
| 2 褐 色 | ローム中・小ブロック中量 | 8 暗 褐 色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック中量 |
| 3 褐 色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック中量 | 9 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 4 暗 褐 色 | ローム中ブロック中量, 炭化粒子微量 | 10 暗 褐 色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック中量 |
| 5 褐 色 | ローム小ブロック中量 | 11 褐 色 | 焼土粒子・ローム小ブロック少量 |
| 6 褐 色 | ローム中ブロック多量 | 12 褐 色 | ローム中ブロック多量 |

遺物 遺物の出土量をみると、土師器甕の口縁部片7点、体部片283点、底部片4点、土師器杯の口縁部片3点、体部片9点で、圧倒的に甕が多く、すべて覆土中からの出土である。第111図1の土師器は北東側から、2・5の甕は南側から、3の甕は貯蔵穴から出土している。

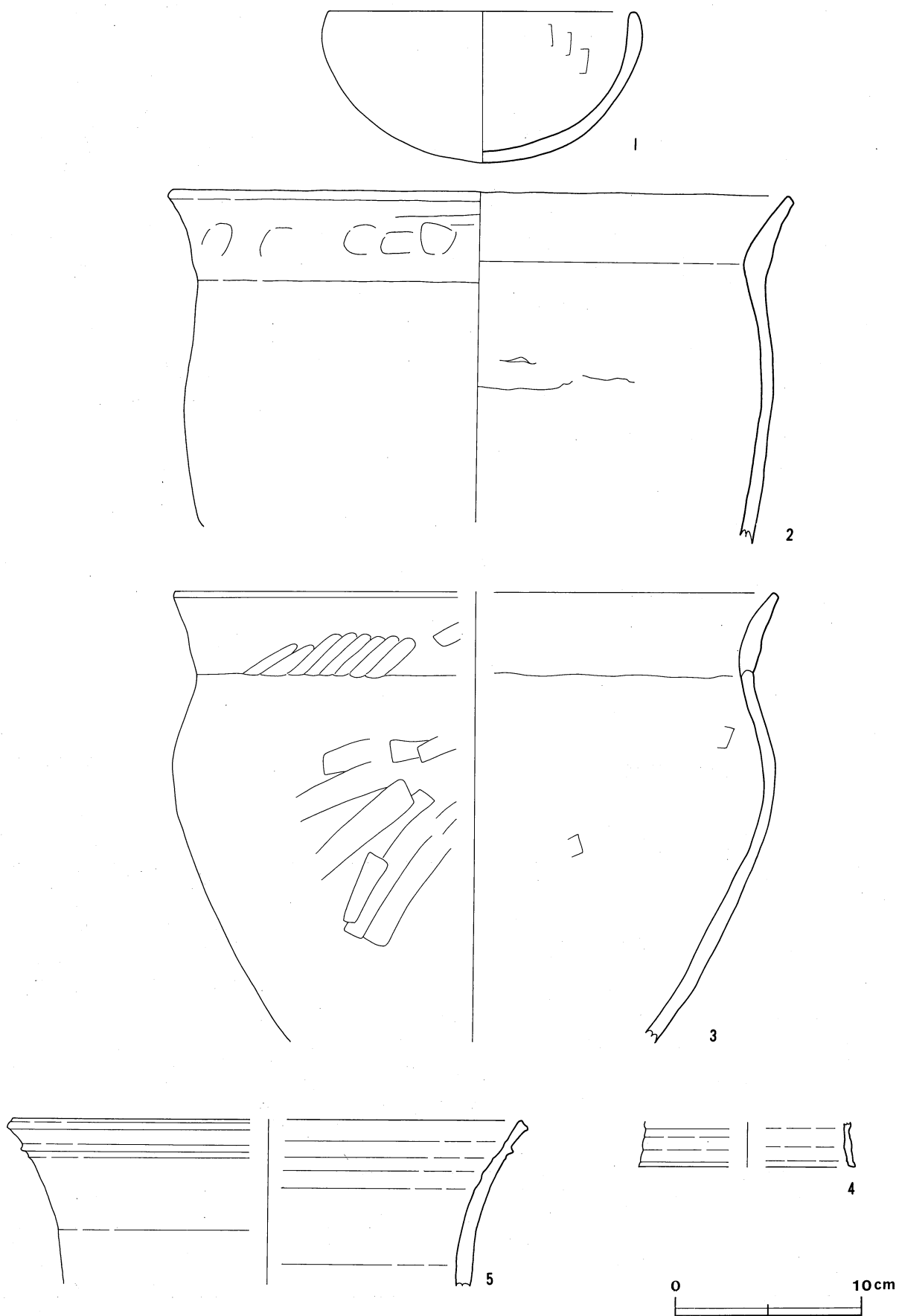
所見 本跡は、複数の面積の広い貯蔵穴を持つ遺構であり、狭い床面積の割合に対して半分を貯蔵穴が占めていることから、倉庫的な用途の建物と思われる。時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。



第110図 第55号住居跡実測図

第55号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第111図 1	碗 土師器	A 16.7 B 8.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。口縁部は肥厚する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面剝離。内面にヘラ当て痕が残る。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 367 80% PL49 覆土下層 外面煤付着
2	甕 土師器	A 33.2 B (18.6)	体部上位から口縁部の破片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面直下横ナデ。口縁部外面に部分的に指頭押圧痕が残る。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P 368 20% PL49 覆土下層
3	甕 土師器	A [32.7] B (24.4)	体部から口縁部の破片。体部は丸みをもって立ち上がり、体部中位に最大径をもつ。口縁部はわずかに外反し、口径と体部最大径はほぼ同じ。	口縁部内・外面横ナデ。頸部にヘラ状工具の押圧痕が残る。体部外面ヘラ削り。体部内面にヘラ当て痕、頸部に粘土の継ぎ目が残る。	長石・砂粒 にぶい黄橙色 普通	P 369 15% PL49 貯蔵穴覆土
4	坏蓋 須恵器	A [11.6] B (2.4)	口縁部破片。口縁部は下方外に下り、端部は内傾する緩い段をもつが平坦に近い。器壁は薄い。	口縁部内・外面ロクロナデ。	白色微粒 灰色 普通	P 370 5% 覆土
5	甕 須恵器	A [17.5] B (8.9)	口縁部の破片。口縁部は外反し、口縁部直下に1条の凸帯が巡る。	体部内・外面ロクロナデ。	長石 灰色 良好	P 371 5% 覆土中層 内面自然釉



第111図 第55号住居跡出土遺物実測図

第56号住居跡 (第112図)

位置 調査区南部中央, F2e4区。

規模と平面形 一辺が6.24mの方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高45~50cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁中央部を除いて壁下を巡っている。上幅8~15cm, 深さ3~5cmで、断面は「U」字形である。

間仕切溝 8条 (a~h)。東壁から2条 (a・b), 南壁から1条 (c), 西壁から3条 (d~f), 北壁から2条 (g・h), それぞれ中央に向かって延びている。上幅12~25cm, 深さ5~7cmで、断面は「U」字形である。間仕切溝bはP₂と連結している。間仕切溝cは間仕切溝gと対面している。

床 平坦で、全体的に踏み締められている。

ピット 7か所 (P₁~P₇)。P₁~P₄は径45~55cmの円形, 深さ60~70cmの主柱穴である。P₅は主柱穴P₁とP₂の間に位置し, 長径40cm, 短径30cmで, 深さは20cmと浅く, 補助柱穴と思われる。P₆は南東壁中央部から80cm北側に位置し, 長径42cm, 短径30cmの楕円形で, 深さ15cmの出入りに伴うピットである。P₇は径30cm, 深さ8cmで性格不明である。

貯蔵穴 南壁際南東コーナー寄りに位置し, 径70cm程の円形, 深さは60cmで平坦な底面から垂直に立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

1	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量	3	褐色	炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2	褐色	焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量	4	褐色	炭化粒子・ローム粒子少量
			5	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量

炉 2か所。炉1・炉2共に中央部北西寄りにあり, 出入り口施設に伴うピットと同一線上にある。炉1は長径150cm, 短径65cmの楕円形で, 深さ3~8cmの地床炉で, 炉床は赤変硬化している。炉2は径45cmの円形の地床炉で, 炉床は掘り込んでいない。

炉1・2土層解説

1	暗赤褐色	焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・ローム中ブロック少量	5	暗赤褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化物微量
2	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム粒子微量	6	褐色	焼土粒子・ローム粒子・ローム小ブロック少量
3	赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量	7	赤褐色	焼土粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック微量
4	暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子少量	8	にぶい赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子少量

覆土 13層からなる。土層1~4・7を主体とする人為堆積土層である。

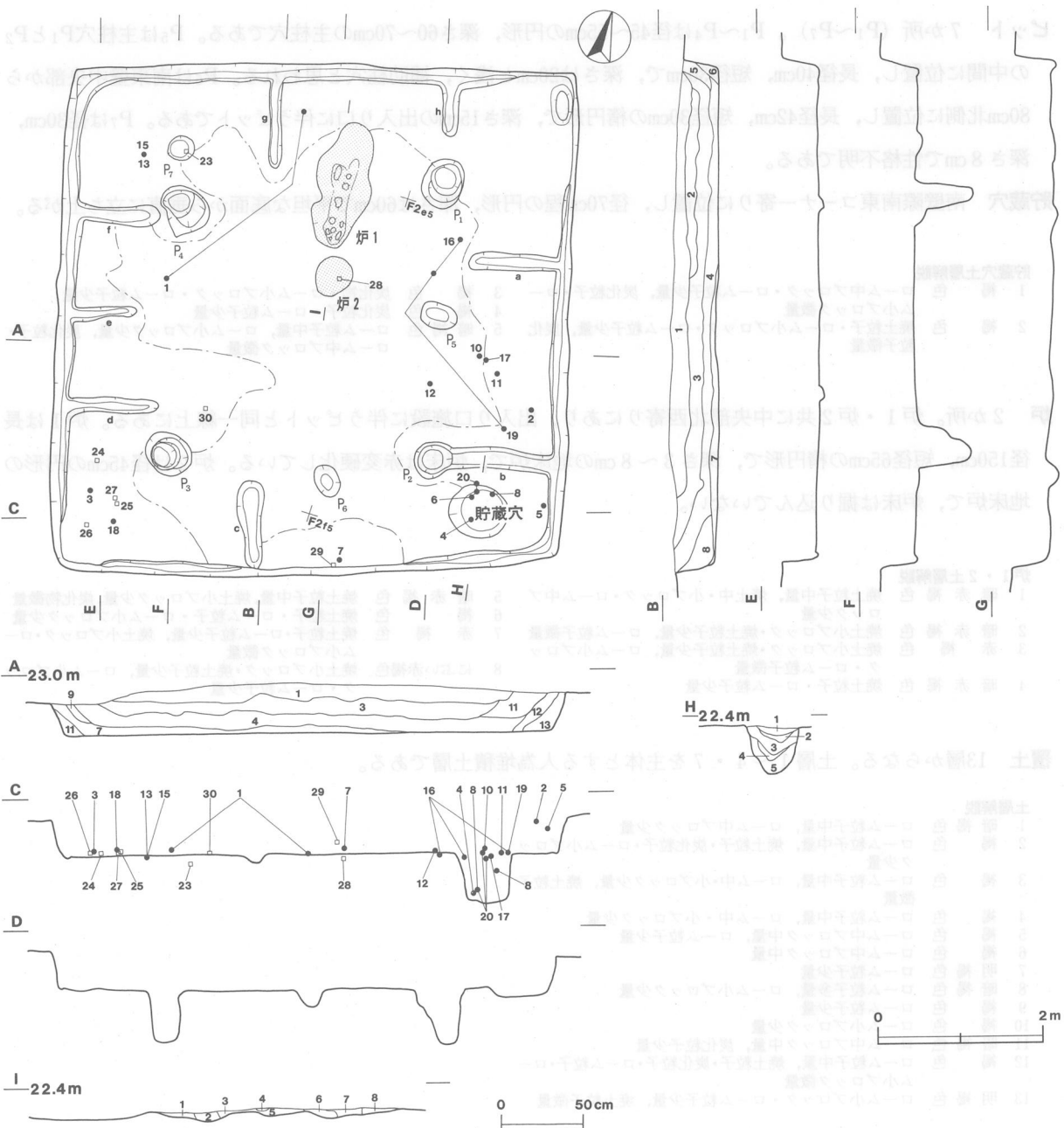
土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
2	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量
3	褐色	ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
5	褐色	ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
6	褐色	ローム中ブロック中量
7	明褐色	ローム粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
9	褐色	ローム粒子少量
10	褐色	ローム小ブロック少量
11	暗褐色	ローム中ブロック中量, 炭化粒子少量
12	褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子・ローム小ブロック微量
13	明褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

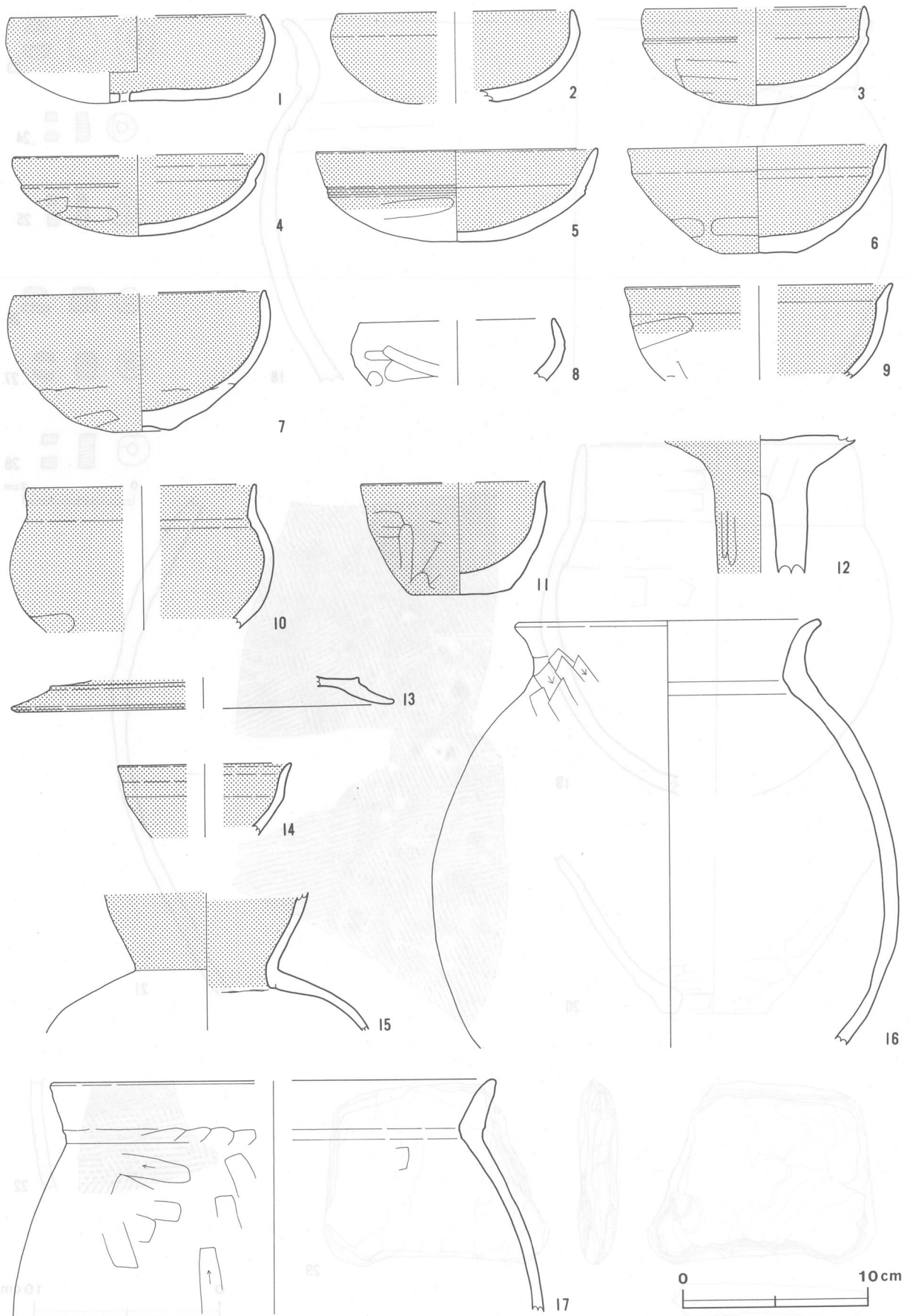
遺物 第113・114・115図13の高坏, 15の埴, 23のガラス小玉は北西コーナー床面から, 3の坏, 17の甕, 24~27の白玉は南西コーナー覆土最下層から, 7の琬, 29の雲母片岩は南壁の中央部覆土最下層から出土している。

10・11の、12の高坏、16・18の甕、19の小型甕は住居跡東側の間仕切溝 a と b の間の床面から出土している。打突具痕跡が認められる30の滑石原石は南西部の床面から出土しており、工具幅は約1cmである。この原石と共に31~36の6点の荒割が出土している。21の須恵器甕片は第51号住居跡の第108図3と同一個体のものである。この他に出土した細片は、土師器甕の口縁部片22点、体部片665点、底部片7点、土師器坏の口縁部片152点、体部片733点、底部片16点、土師器高坏の脚部片1点、須恵器甕の体部片5点である。

所見 本跡から出土した滑石原石には打突具痕がみられること、わずかではあるが荒割が出土していることなどから、本跡あるいは本跡の周辺で工房的機能を果たしていたか、前出の第28号住居跡同様に、原石の加工施設の役割を果たしていた可能性が考えられる。当遺跡出土の白玉と本跡の滑石原石の石質は、同一のものである。本跡の時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。

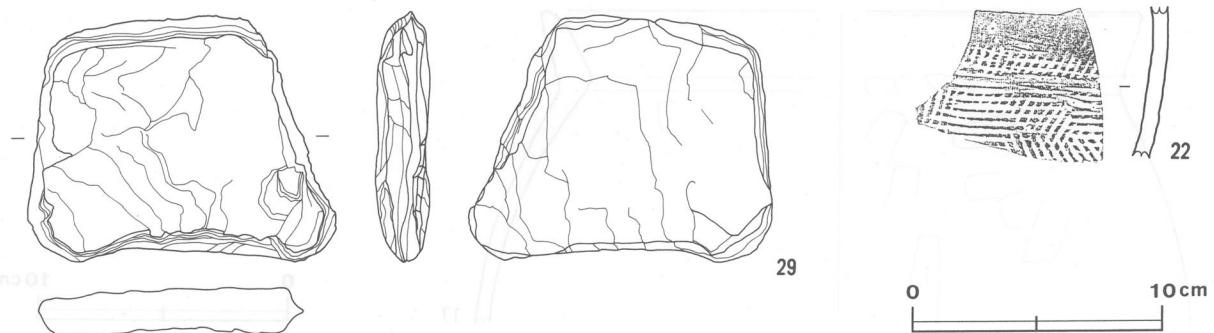
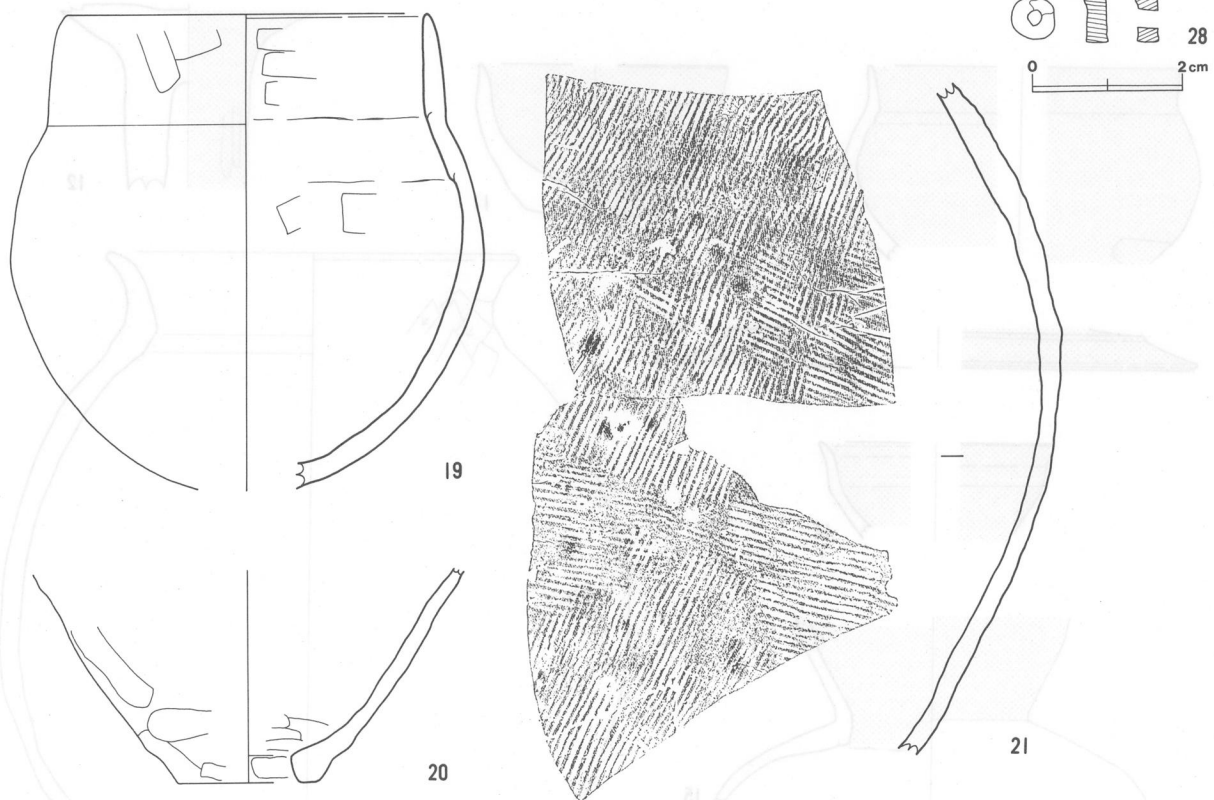
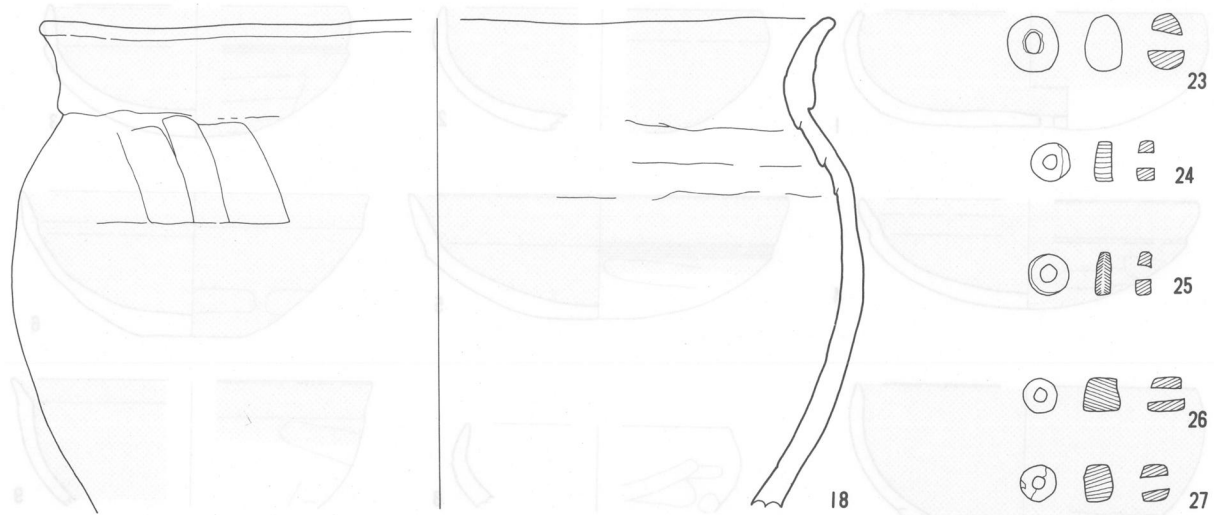


第112図 第56号住居跡実測図

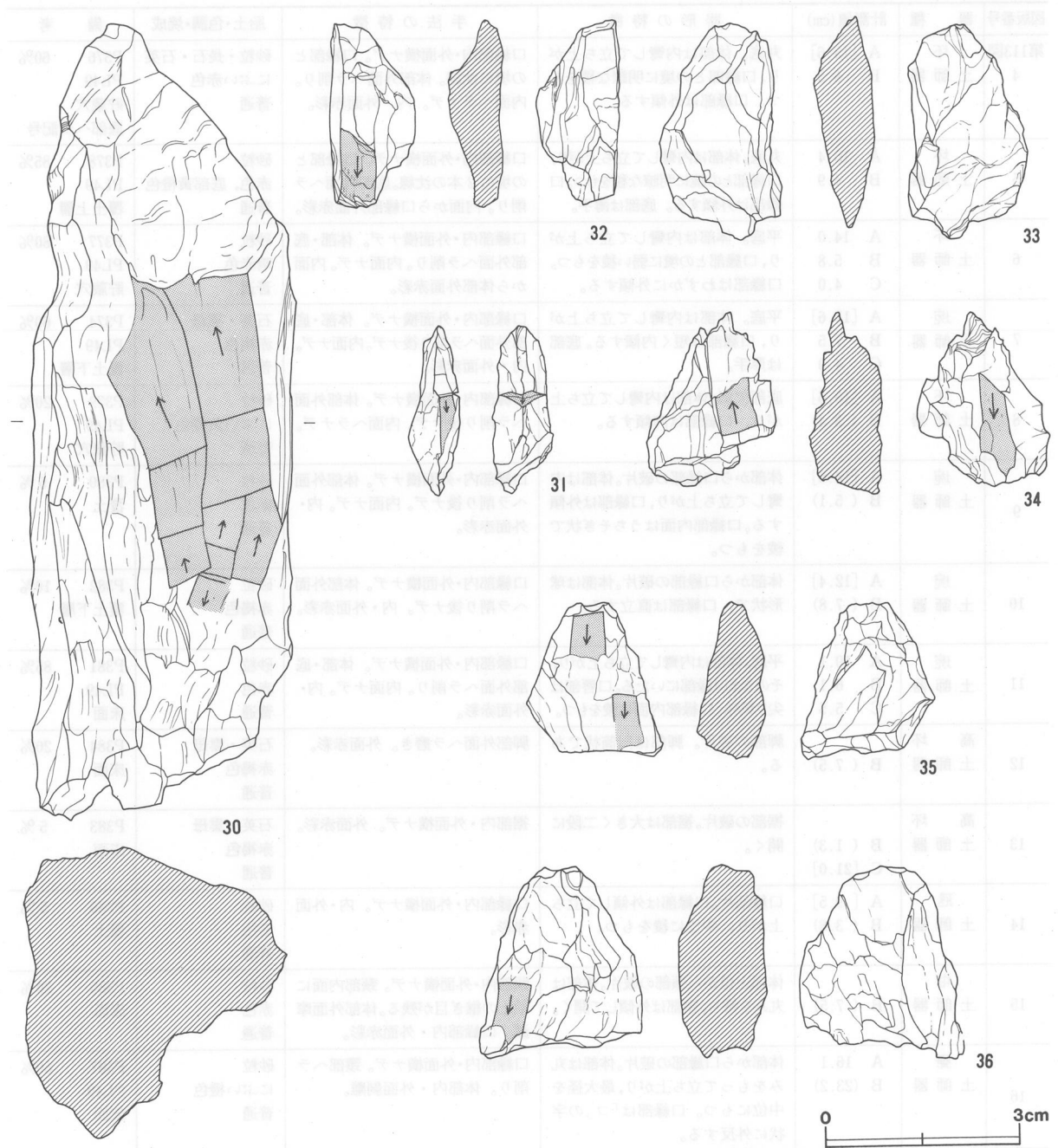


第113图 第56号住居跡出土遺物実測图(1)

图113 第56号住居跡出土遺物実測图(1)



第114图 第56号住居跡出土遺物実測図(2)



第115図 第56号住居跡出土遺物実測図(3)

第56号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第113図 1	坏 土師器	A [13.8] B 4.7	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。全体的に扁平である。	口縁部内・外面横ナデ。底部外面へら削り。内面ナデ。内面から体部外面赤彩。底部に穿孔。	砂粒 赤色、底部黄橙色 普通	P372 50% 覆土下層
2	坏 土師器	A [12.9] B (5.0)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。底部外面へら削り。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P373 40% PL49 覆土
3	坏 土師器	A [12.0] B 5.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部との境に沈線。体部外面へら削り。内面剝離。内・外面赤彩。	砂粒・白色微粒 赤褐色 普通	P375 45% PL49 覆土下層

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第113図 4	坏 土師器	A [13.6] B 6.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部との境に沈線。体部外面へラ削り。内面へラナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 にぶい赤色 普通	P376 60% PL49 貯蔵穴 底部へラ記号
5	坏 土師器	A 15.4 B 4.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜をもつ。口縁部は外傾する。底部は薄手。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部との境に2本の沈線。底部外面へラ削り。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒 赤色、底部黄橙色 普通	P378 85% PL49 覆土上層
6	坏 土師器	A 14.0 B 5.8 C 4.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒 暗赤色 普通	P377 80% PL49 貯蔵穴
7	碗 土師器	A [13.6] B 7.5 C 4.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。底部は厚手。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	石英・雲母 赤褐色 普通	P374 60% PL49 覆土下層
8	坏 土師器	A [10.6] B (3.4)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面へラナデ。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P379 20% PL49 貯蔵穴
9	碗 土師器	A [14.6] B (5.1)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面はうちそぎ状で稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P380 5% 覆土
10	碗 土師器	A [12.4] B (7.8)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P382 10% 覆土下層
11	碗 土師器	A 10.1 B 6.1 C 5.5	平底。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口唇部は尖り気味。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P381 85% PL49 床面
12	高坏 土師器	B (7.5)	脚部の破片。脚部は円筒状である。	脚部外面へラ磨き。外面赤彩。	石英・雲母 赤褐色 普通	P384 20% 床面
13	高坏 土師器	B (1.3) C [21.0]	裾部の破片。裾部は大きく二段に開く。	裾部内・外面横ナデ。外面赤彩。	石英・雲母 赤褐色 普通	P383 5% 床面
14	觥 土師器	A [9.5] B (3.8)	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がり、中位に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P386 5% 覆土
15	埴 土師器	B (7.5)	体部上位から頸部の破片。体部は丸みを持ち、頸部は外傾して開く。	頸部内・外面横ナデ。頸部内面に粘土の継ぎ目が残る。体部外面摩擦。口縁部内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P385 20% 床面
16	甕 土師器	A 16.1 B (23.2)	体部から口縁部の破片。体部は丸みをもって立ち上がり、最大径を中位にもつ。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部へラ削り。体部内・外面剝離。	砂粒 にぶい橙色 普通	P387 60% PL49 床面
17	甕 土師器	A [24.2] B (12.6)	体部から口縁部の破片。体部は丸みをもって立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部指頭圧痕。体部外面へラ削り。内面へラナデ。	長石・白色微粒 にぶい黄褐色 普通	P389 10% 床面
第114図 18	甕 土師器	A [31.4] B (19.7)	体部から口縁部の破片。体部は丸みをもって立ち上がり、最大径を上位にもつ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。頸部・体部に粘土継ぎ目痕が残る。	砂粒・石英 にぶい黄褐色 普通	P388 20% 覆土下層 煤付着
19	小型甕 土師器	A 14.7 B (19.8)	底部欠損。体部は球形状で、最大径を中位にもつ。口縁部は直立する。	口縁部外面へラ削り後ナデ。体部内面へラナデ。体部外面摩擦。内面に粘土の継ぎ目が残る。	砂粒・白色微粒 浅黄色 普通	P390 70% PL49 床面 外面煤付着
20	甗 土師器	B (8.5) C 5.6	無底式。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へラ削り後ナデ。内面へラナデ。	白色微粒 にぶい黄褐色 普通	P391 30% 貯蔵穴 煤付着

21・22は須恵器甕の体部片で、体部外面は平行叩きである。

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第114図23	ガラス小玉	0.7	0.8	0.5	0.3	0.3	ガラス	北西コーナー床面	Q72 PL55
24	白玉	0.6	0.5	0.5	0.2	0.1	滑石	南西コーナー下層	Q73 PL55
25	白玉	0.5	0.6	0.2	0.2	0.1	滑石	南西コーナー下層	Q74 PL55
26	白玉	0.4	0.5	0.5	0.2	0.1	滑石	南西コーナー下層	Q75 PL55
27	白玉	0.5	0.5	0.4	0.2	0.1	滑石	南西コーナー下層	Q76 PL55
28	白玉	0.6	0.6	0.4	0.3	0.1	滑石	中央部下層	Q77 PL55
29	原石	10.0	12.3	1.9	—	360.0	雲母片岩	南壁際覆土下層	Q79 PL56
第115図30	原石	12.2	4.9	3.8	—	288.5	滑石	南西部床面	Q78 PL55
31	荒割	2.6	1.1	0.7	—	1.6	滑石	南西部床面	Q94 PL55
32	荒割	2.9	1.3	1.1	—	2.6	滑石	南西部床面	Q95 PL55
33	荒割	3.4	2.0	1.0	—	4.6	滑石	南西部床面	Q96 PL55
34	荒割	2.7	2.0	0.9	—	4.7	滑石	南西部床面	Q97 PL55
35	荒割	2.4	2.2	0.8	—	4.4	滑石	南西部床面	Q98 PL55
36	荒割	3.0	2.5	1.6	—	10.2	滑石	南西部床面	Q99 PL55

第58号住居跡 (第117図)

位置 調査区南部中央, F2j5区。

規模と平面形 一辺が3.53mの方形である。

長軸方向 N-5°-W

壁 壁高46~60cmで, 垂直に立ち上がる。

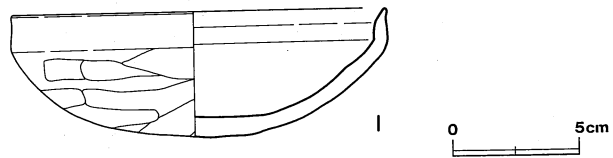
壁溝 壁下を全周し, 上幅11~20cm, 深さ5~8cm

で, 断面は「U」字形である。

床 耕作による攪乱のため, 遺存状態が悪い。

ピット 中央部北東寄りに位置し, 径80cmの不整円形で, 深さ18cm, 断面は楕円状で, 性格は不明である。

覆土 9層からなる。焼土, 炭化物, ロームブロックを含む土層1~5を主体とする人為堆積土層である。



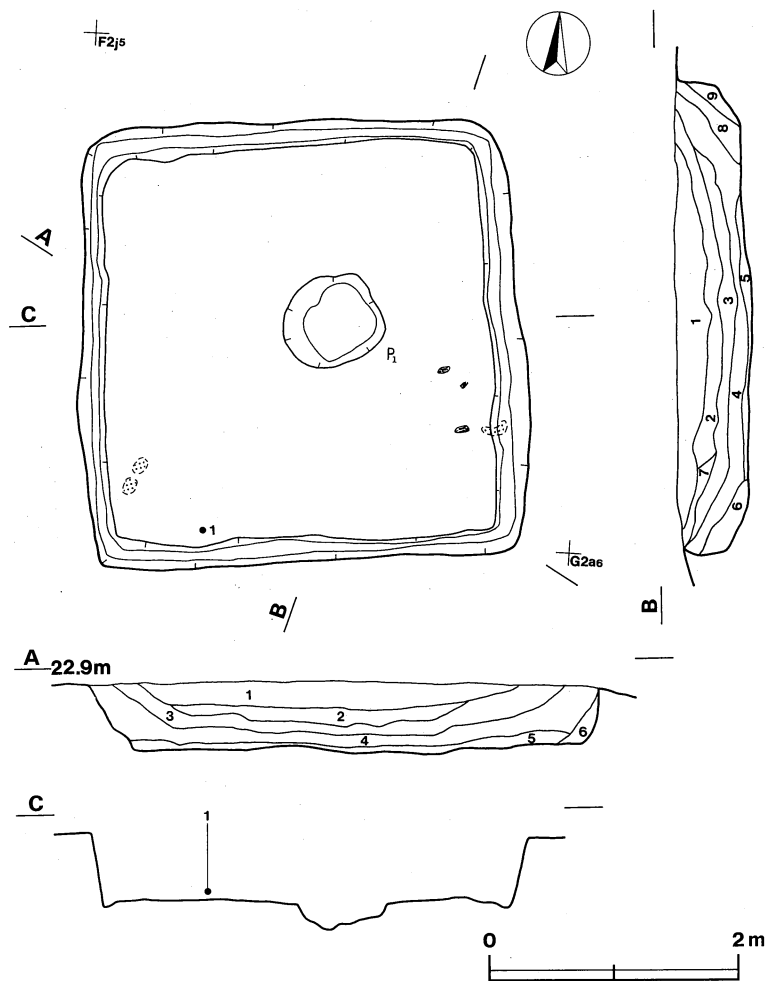
第116図 第58号住居跡出土遺物実測図

土層解説

1 暗褐色	焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ローム粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム小・中ブロック微量
2 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	7 褐色	炭化粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
3 褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	8 褐色	ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
4 暗褐色	焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量	9 明褐色	ローム粒子多量, ローム小・中ブロック少量
5 黄褐色	ローム粒子多量, 炭化物・ローム小・中ブロック少量, 炭化粒子微量		

遺物 出土遺物はすべて覆土中からのもので, 土師器甕の口縁部片9点, 体部片287点, 底部片3点, 土師器杯の口縁部片17点, 体部片88点である。図示できたのは第116図1の杯1点で, 南西コーナーから出土している。

所見 本跡は, 床の遺存状態が悪かったこともあり, 炉や柱穴が確認されなかったが, 通常の住居跡と同様に一定の掘り込みがある方形の竪穴であり, 住居跡と考えられる。床面には炭化材・焼土塊が少量残っており, 焼失家屋である。時期は覆土中の出土遺物から5世紀末葉と思われる。



第117図 第58号住居跡実測図

第58号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第116図 1	坏 土師器	A 15.1 B 5.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。	石英 浅黄橙色 普通	P397 85% PL50 覆土下層

第63号住居跡 (第118図)

位置 調査区南部, F2g3区。

規模と平面形 ほとんどが削平されているため規模は不明であるが、柱穴と考えられるピットの配列から長軸約3.55m, 短軸約2.80mの長方形と推定される。

主軸方向 N-10°-E

壁 壁はほとんど残存していない。

床 柱穴の東側だけが残存しており、踏み締められている。

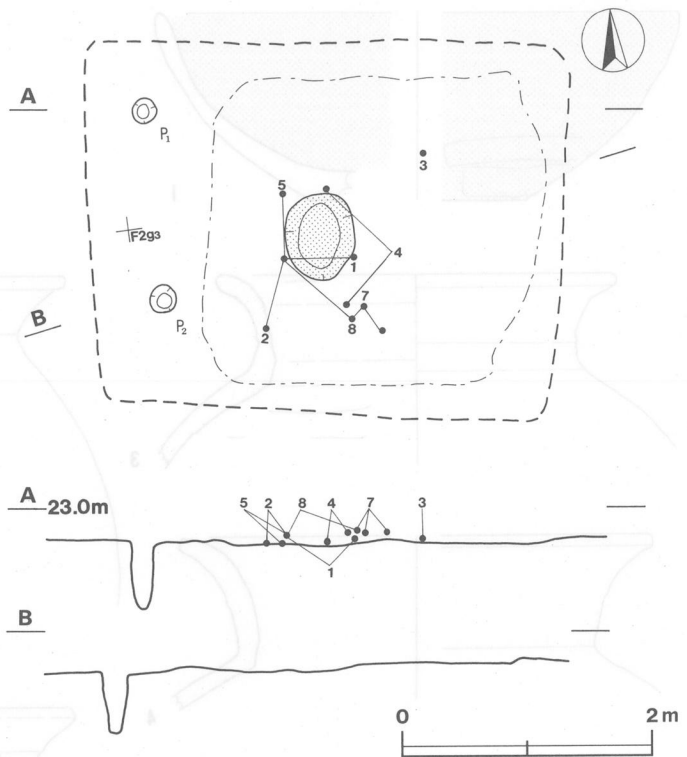
ピット 2か所 (P1・P2)。確認できた硬化面の西側に位置し、いずれも径20cmの円形で、深さ53cmの主柱穴である。

炉 中央部にあり、長径70cm, 短径55cmの楕円形で、深さ5cmの地床炉である。

覆土 残っていた覆土が薄く確認できなかった。

遺物 覆土は薄い、出土した遺物は土師器で、ほとんど床面近くの覆土中から出土したものである。第119図1の甕、3～7の甕は住居跡中央部から、2の甕は南西コーナーから出土している。3の甕は逆位状態で出土しており、口縁部内・外面は二次焼成を受けている。土師器甕の口縁部片20点、体部片663点、底部片7点、土師器杯の口縁部片14点、体部片16点が一括投棄の状態出土している。土師器甕の口縁部には第64号住居跡からのものと接合したものもある。

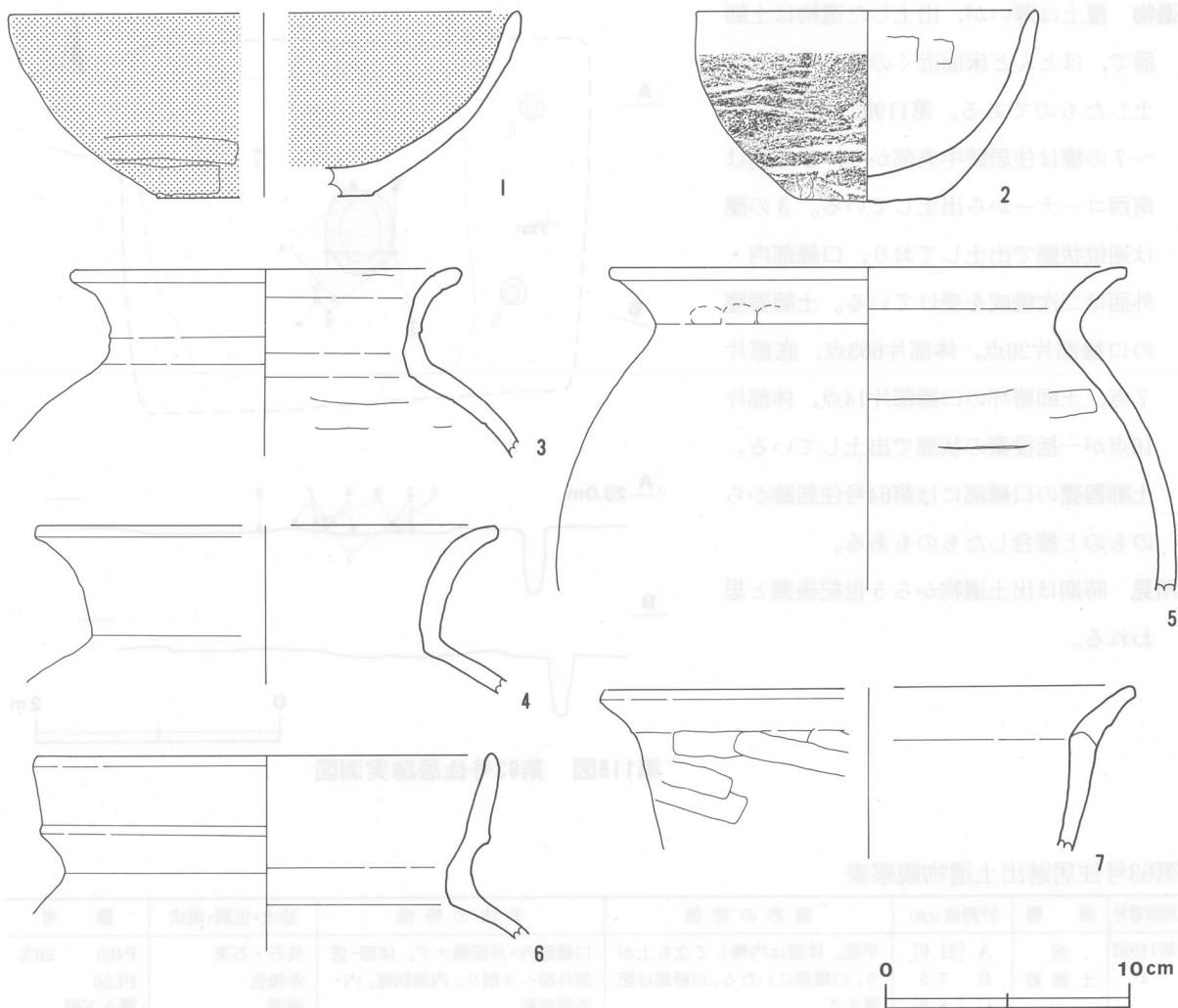
所見 時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



第118図 第63号住居跡実測図

第63号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第119図 1	甕 土師器	A [21.0] B 7.5 C [8.8]	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。口唇部は肥厚する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。内面剝離。内・外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P405 20% PL50 覆土下層 外面煤付着
2	甕 土師器	A 14.0 B 7.8 C 5.5	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩滅。体部内面にヘラ当て痕が残る。	砂粒 にぶい橙色 普通	P406 85% PL50 床面 口縁部に煤付着
3	甕 土師器	A 16.7 B (7.7)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒 橙色 普通	P407 20% PL50 床面 口縁部二次焼成
4	甕 土師器	A [19.0] B (6.9)	口縁部片。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	白色微粒 にぶい黄橙色 普通	P411 5% 床面 煤付着
5	甕 土師器	A 21.2 B (13.2)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部に指頭押圧が残る。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	白色微粒 橙色 普通	P408 10% PL50 床面 外面煤付着
6	甕 土師器	A [21.8] B (7.1)	体部上位から口縁部の破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。	砂粒 白色微粒 にぶい橙色 普通	P412 5% 覆土
7	甕 土師器	A 18.8 B (7.7)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は段をもち外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。	砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通	P409 10% PL50 覆土 口縁部二次焼成



第119図 第63号住居跡出土遺物実測図

第64号住居跡 (第120図)

位置 調査区南部, F2h3区。

規模と平面形 長軸2.70m, 短軸2.10mの長方形と推定される。

長軸方向 N-6°-E

壁 壁はほとんど残存していない。

床 平坦である。

貯蔵穴 北西部に位置し, 径110cmの円形で, 深さ66cmの平坦な底面から外傾して立ち上がり, 断面は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
- 3 明褐色 ローム中ブロック多量
- 4 明褐色 ローム中ブロック多量, ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

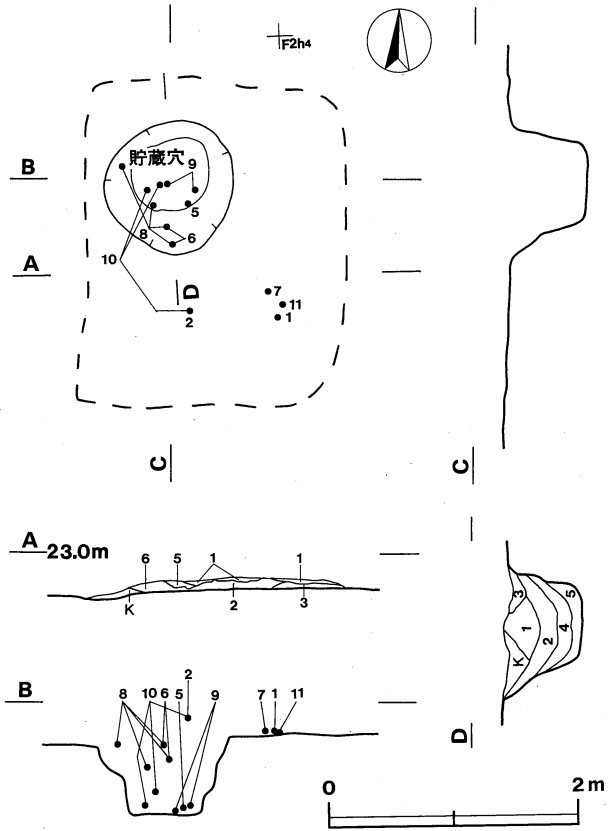
覆土 残っていた覆土が薄かったが, 4層からなる。各層にロームブロックを含むことから人為堆積土層と思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック少量
- 2 明褐色 ローム中ブロック中量, 焼土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム中・小ブロック少量

遺物 第121・122図3・4の土師器坏, 5の土師器, 碗, 6・8の土師器甕, 9の土師器甕, 10の土師器甕は貯蔵穴の覆土から, 1・2の土師器坏, 11の須恵器坏身は住居跡南部から出土している。この他に, 土師器甕の口縁部片13点, 体部片166点, 底部片2点, 土師器坏の口縁部片9点, 体部片14点, 土師器甕の口縁部片4点, 体部片12点, 底部片1点が出土している。

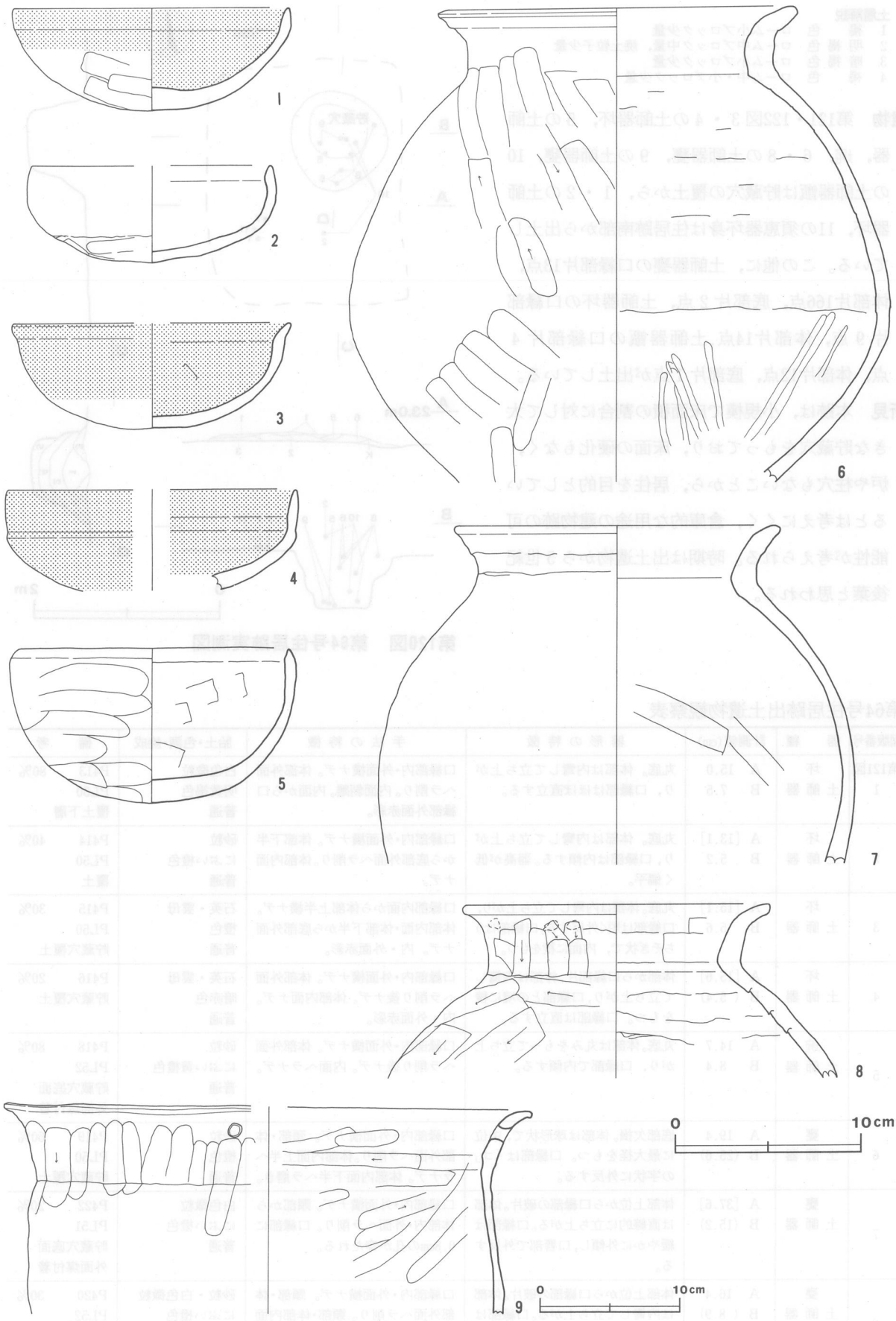
所見 本跡は, 小規模で床面積の割合に対して大きな貯蔵穴をもっており, 床面の硬化もなく, 炉や柱穴もないことから, 居住を目的としているとは考えにくく, 倉庫的な用途の建物跡の可能性が考えられる。時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



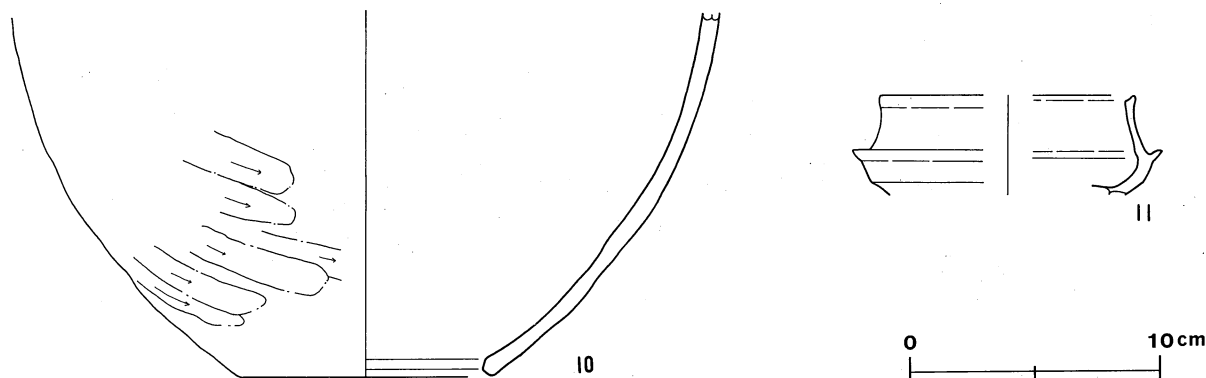
第120図 第64号住居跡実測図

第64号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第121図 1	坏 土師器	A 15.0 B 7.5	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面剝離。内面から口縁部外面赤彩。	白色微粒 明黄褐色 普通	P413 80% PL50 覆土下層
2	坏 土師器	A [13.1] B 5.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は内傾する。器高が低く偏平。	口縁部内・外面横ナデ。体部下半から底部外面へラ削り。体部内面ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P414 40% PL50 覆土
3	坏 土師器	A [15.1] B 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く外反する。口縁部はうちそぎ状で, 内面に稜をもつ。	口縁部内面から体部上半横ナデ。体部内面・体部下半から底部外面ナデ。内・外面赤彩。	石英・雲母 橙色 普通	P415 30% PL50 貯蔵穴覆土
4	坏 土師器	A [15.6] B (5.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。体部内面ナデ。内・外面赤彩。	石英・雲母 暗赤色 普通	P416 20% 貯蔵穴覆土
5	碗 土師器	A 14.7 B 8.4	丸底。体部は丸みをもって立ち上がり, 口縁部で内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面へラナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P418 80% PL52 貯蔵穴底面 外面煤付着
6	甕 土師器	A 19.4 B (25.6)	底部欠損。体部は球形状で, 中位に最大径をもつ。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面へラ削り。体部内面上半へラナデ。体部内面下半へラ磨き。	砂粒 橙色 普通	P419 60% PL50 貯蔵穴覆土
7	甕 土師器	A [37.6] B (15.2)	体部上位から口縁部の破片。体部は直線的に立ち上がる。口縁部は緩やかに外傾し, 口唇部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部から体部内・外面へラ削り。口縁部に0.8cmの孔が穿たれる。	白色微粒 にぶい橙色 普通	P422 20% PL51 貯蔵穴底面 外面煤付着
8	甕 土師器	A 16.4 B (8.9)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面へラ削り。頸部・体部内面へラナデ。体部内面に粘土継ぎ目痕。	砂粒・白色微粒 にぶい橙色 普通	P420 30% PL52 覆土下層



第121図 第64号住居跡出土遺物実測図(1)



第122図 第64号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第121図 9	甕 土師器	A [17.6] B (18.3)	体部から口縁部の破片。体部は球形状で、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ヘラナデ。	砂粒 橙色 普通	P421 50% 床面
第122図 10	甗 土師器	B (14.5) C 11.1	底部から体部の破片。無底式。体部は丸みをもって立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後ナデ。内面剝離。	砂粒 にぶい褐色 普通	P423 20% PL52 煤附着 貯蔵穴覆土
11	坏身 須恵器	A [10.2] B (4.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり受部にいたる。受部は上外方に伸び、端部はシャープである。口縁部は内傾して立ち上がり、端部に1条の沈線が巡る。	内面から口縁部外面ロクロナデ。体部下端回転ヘラ削り。	長石 灰色 良好	P424 20% PL50 床面

(3) 奈良・平安時代の住居跡

第29号住居跡 (第123図)

位置 調査区南部東側, E3f7区。

規模と平面形 一辺が3.00mの方形である。

主軸方向 N-78°-W

壁 壁高37~65cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて全壁下を巡り、上幅12~18cm、深さ5~11cmで、断面は「U」字形である。

床 出入口から竈にかけての中心部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径15~17cmの円形、深さは27~32cmで、支柱穴と思われる。P₅は長径25cm、短径13cmの楕円形、深さは13cmで、位置と形状から出入口施設のピットと思われる。

竈 西壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築している。規模は煙道部から焚き口部まで137cm、両袖最大幅80cm、壁外への掘り込みは40cmである。焚き口部は長径55cm、短径43cmの楕円形で、5cmほど掘り込んでいる。

煙道部は、火床部から20度、上半部では40度の傾きで立ち上がる。天井部は崩落している。

竈土層解説

1	褐色	焼土粒子・粘土粒子微量	8	暗赤褐色	焼土粒子多量, 砂粒を含む白色粘土中量, 炭化粒子微量
2	褐色	焼土粒子・砂粒を含む白色粘土中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量	9	暗赤褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック微量
3	にぶい褐色	砂粒を含む白色粘土中量, 焼土粒子・ローム粒子少量	10	明黄褐色	焼土粒子・砂粒を含む白色粘土中量, 炭化粒子・焼土小ブロック少量
4	にぶい褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子・炭化粒子微量	11	赤褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
5	暗褐色	ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	12	赤褐色	焼土粒子中量, 焼土小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子微量
6	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量	13	褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
7	暗赤褐色	焼土粒子・粘土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量			

覆土 9層からなる。暗褐色土が主体となる自然堆積土層である。

土層解説

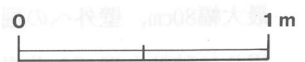
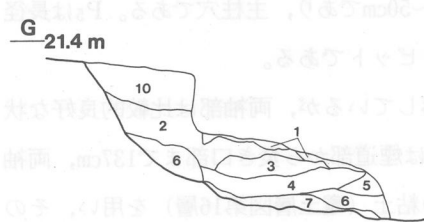
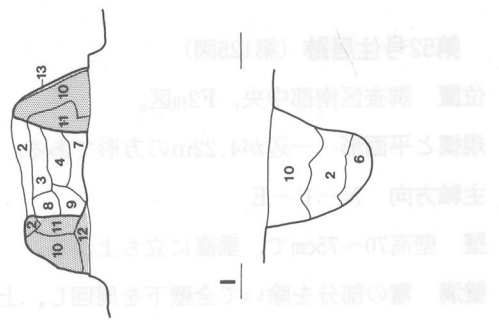
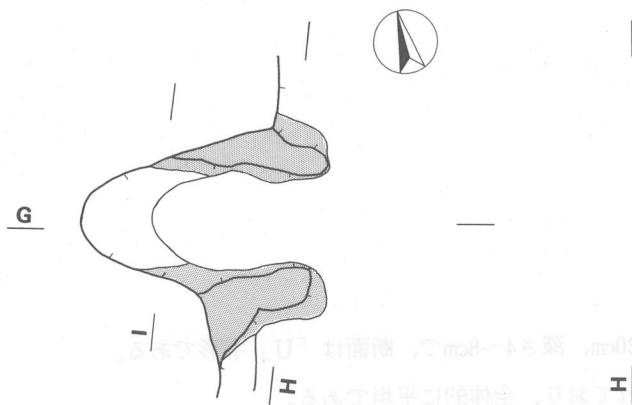
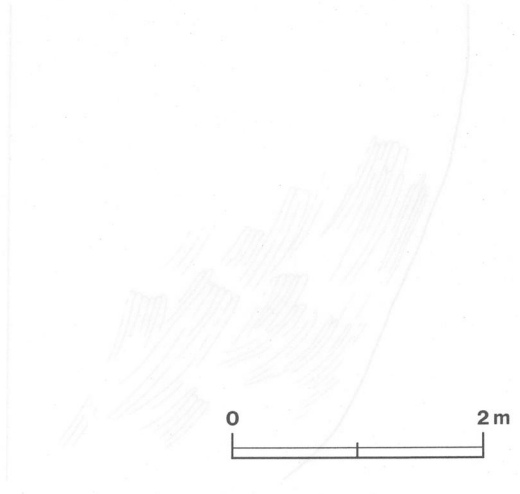
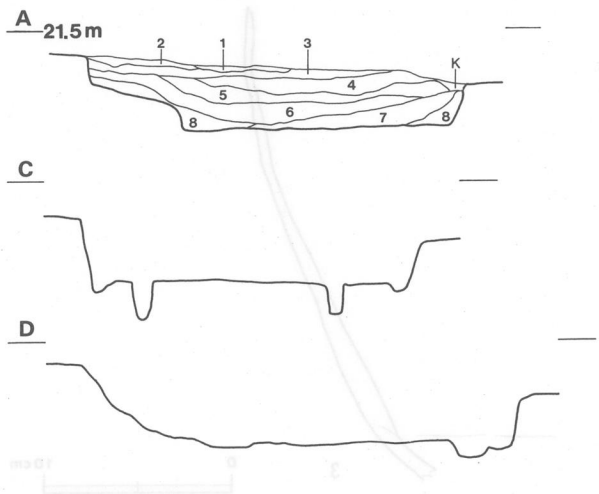
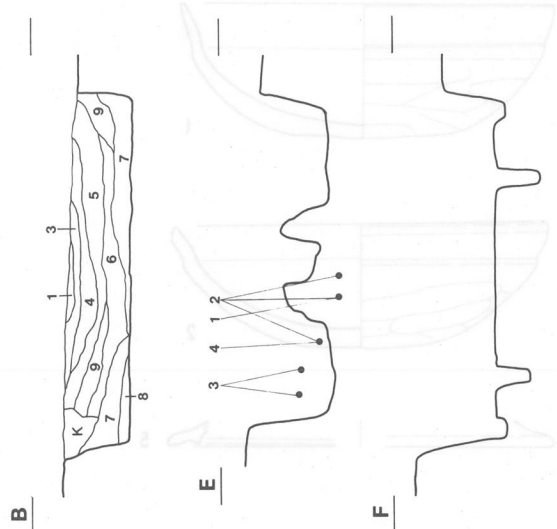
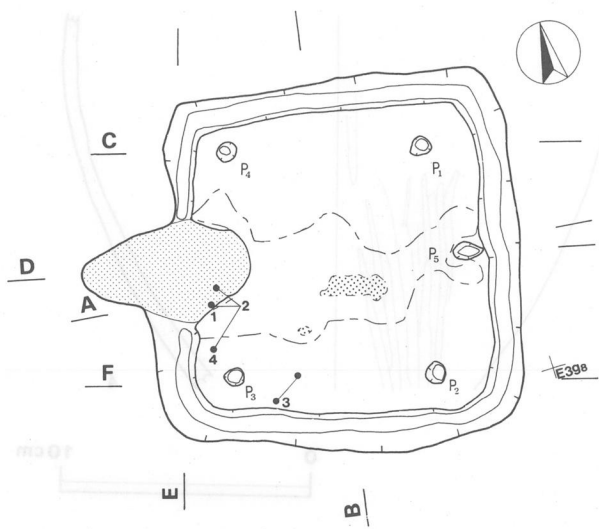
1	黒褐色	炭化物多量, 炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
2	暗褐色	焼土粒子・ローム粒子少量
3	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
4	暗褐色	炭化粒子中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
5	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
7	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量
8	褐色	炭化粒子・ローム粒子中量, 焼土粒子微量
9	褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子少量

遺物 第124図1・2の土師器坏は竈左袖の裾部から置かれたような状態で出土しており、住居跡廃棄時の遺物と思われる。遺物量は少なく、図示した他には、土師器坏の口縁部片1点、体部片8点、土師器甕の口縁部片1点、体部片41点が出土している。

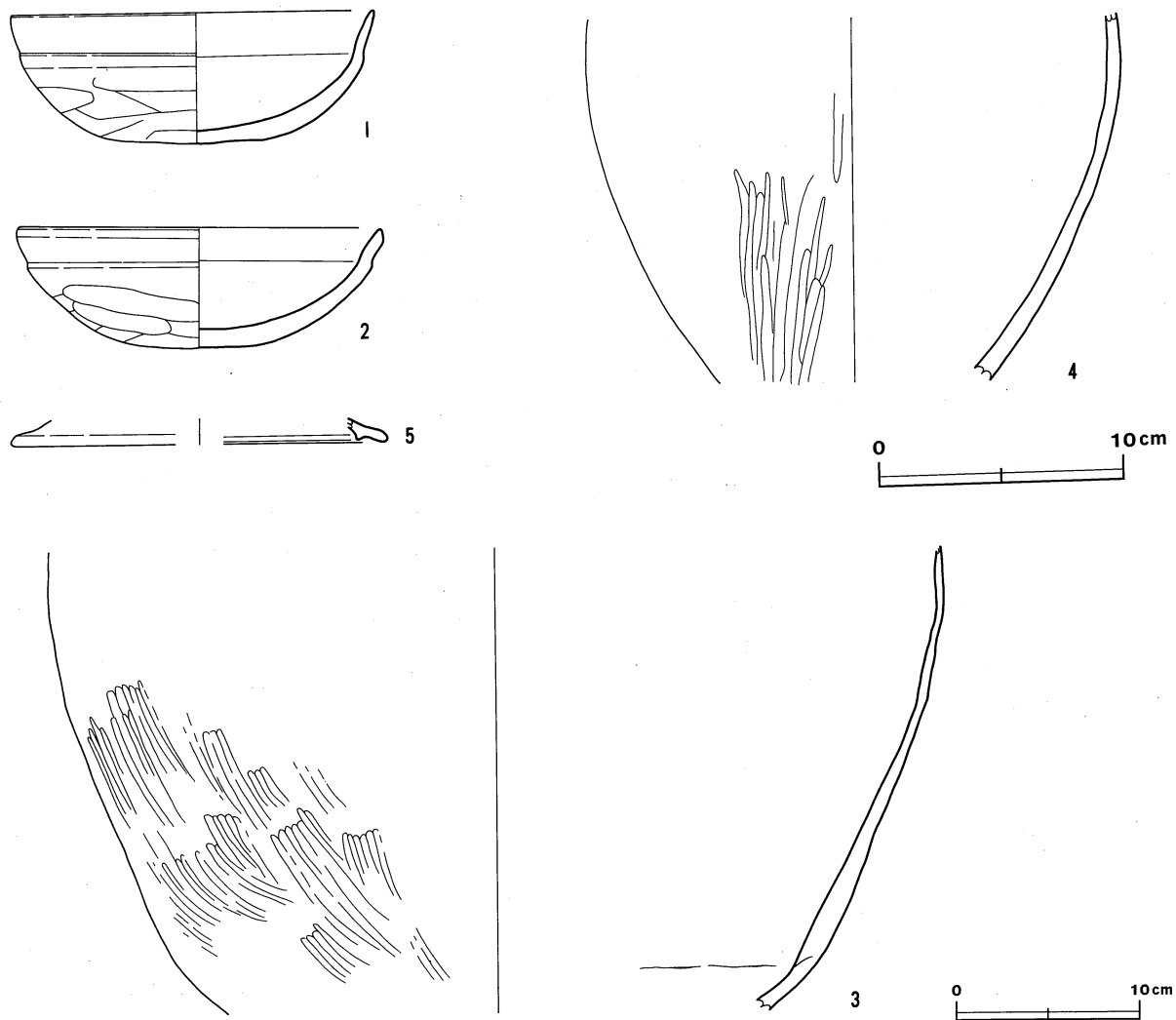
所見 本跡の時期は出土遺物から8世紀初頭と思われる。

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 1	坏 土師器	A 15.1	平底。底部と体部の境は不明瞭で、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。	砂粒・長石・石英にぶい黄褐色 普通	P231 90% PL51 床面 底部内面煤付着
		B 5.5				
		C 7.5				
2	坏 土師器	A 15.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。	砂粒・長石・石英にぶい橙色 普通	P232 90% PL51 床面
		B 5.0				
3	甕 土師器	B (25.4)	体部破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へラ磨き。	長石・石英にぶい黄橙色 普通	P234 15% 覆土下層
4	甕 土師器	B (15.0)	体部破片。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面へラ磨き。	長石・石英にぶい褐色 普通	P235 10% PL51 覆土下層
5	蓋 須恵器	A [14.4]	口縁部の破片。内面にかえりが付く。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母 灰オリーブ色 普通	P236 5% PL51 覆土
		B (1.4)				



第123図 第29号住居跡実測図



第124図 第29号住居跡出土遺物実測図

第52号住居跡 (第125図)

位置 調査区南部中央, F2f9区。

規模と平面形 一辺が4.22mの方形である。

主軸方向 N-1°-E

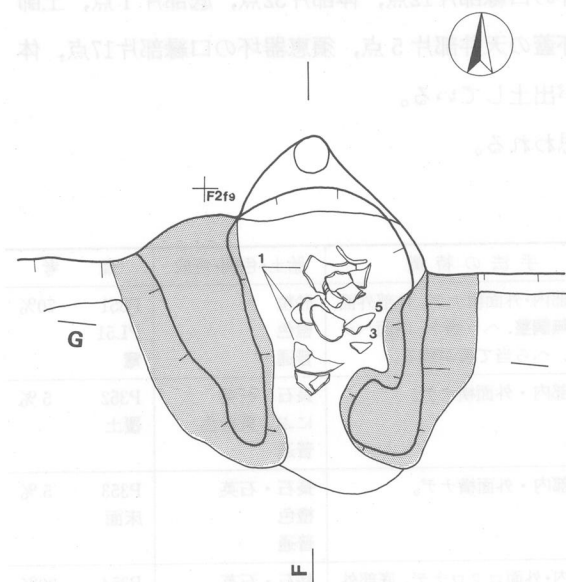
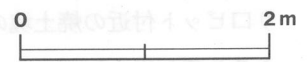
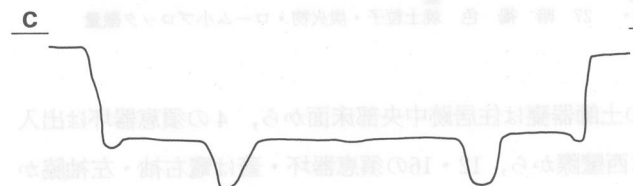
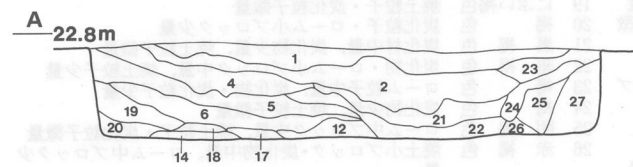
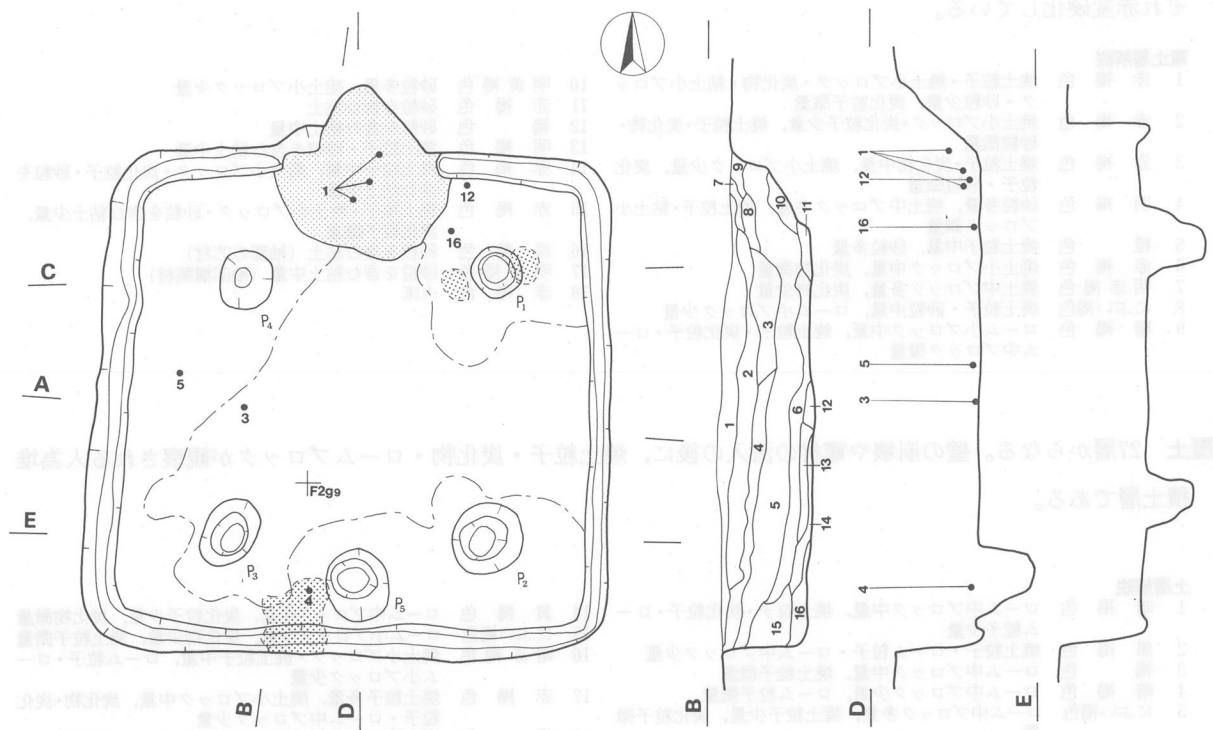
壁 壁高70~75cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 竈の部分を除いて全壁下を周回し, 上幅15~20cm, 深さ4~8cmで, 断面は「U」字形である。

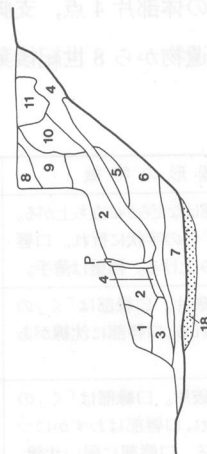
床 出入口から竈にかけての中心部が踏み固められており, 全体的に平坦である。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径40~55cmの円形で, 深さは38~50cmであり, 支柱穴である。P₅は長径60cm, 短径50cmの楕円形で, 深さは44cmであり, 出入口施設に伴うピットである。

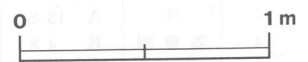
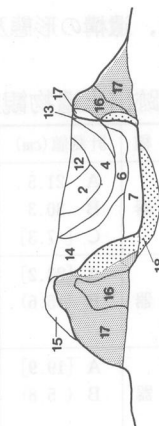
竈 北壁中央部に砂粒まじりの白色粘土で構築している。天井部は崩落しているが, 両袖部は比較的良好な状態で残っており, 砂粒を多く混ぜた白色粘土で構築されている。規模は煙道部から焚き口部まで137cm, 両袖最大幅80cm, 壁外への掘り込みは70cmである。袖は芯材に砂まじりの粘土 (竈土層図第16層) を用い, その周りは砂粒を混ぜた黄褐色土 (竈土層図第17層) を使用して構築している。火床面は床面と一致し, 煙道は45度の傾きで立ち上がる。袖の内壁は焼けて9cmの厚さで, 火床面 (竈土層図第18層) は6cmの厚さでそれ



F—22.7m



G



第125図 第52号住居跡実測図

それぞれ赤変硬化している。

竈土層解説

1	赤褐色	焼土粒子・焼土小ブロック・炭化物・粘土小ブロック・砂粒少量，炭化粒子微量	10	明黄褐色	砂粒多量，焼土小ブロック少量
2	赤褐色	焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化物・砂粒微量	11	赤褐色	砂粒を含む粘土
3	赤褐色	焼土粒子・炭化物中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子・砂粒微量	12	褐色	砂粒を含む粘土中量
4	明褐色	砂粒多量，焼土中ブロック中量，焼土粒子・粘土小ブロック微量	13	明褐色	焼土粒子・砂粒を含む粘土中量
5	橙褐色	焼土粒子中量，砂粒多量	14	赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子・砂粒を含む粘土少量
6	赤褐色	焼土小ブロック中量，炭化物微量	15	赤褐色	焼土粒子・焼土小ブロック・砂粒を含む粘土少量，炭化粒子微量
7	明赤褐色	焼土中ブロック多量，炭化物少量	16	淡黄褐色	砂粒を含む粘土（袖部の芯材）
8	にぶい褐色	焼土粒子・砂粒中量，ローム小ブロック少量	17	明黄褐色	砂粒を含む粘土中量（袖部構築材）
9	暗褐色	ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量	18	赤褐色	火床

覆土 27層からなる。壁の崩壊や竈材の流入の後に、焼土粒子・炭化物・ロームブロックが観察される人為堆積土層である。

土層解説

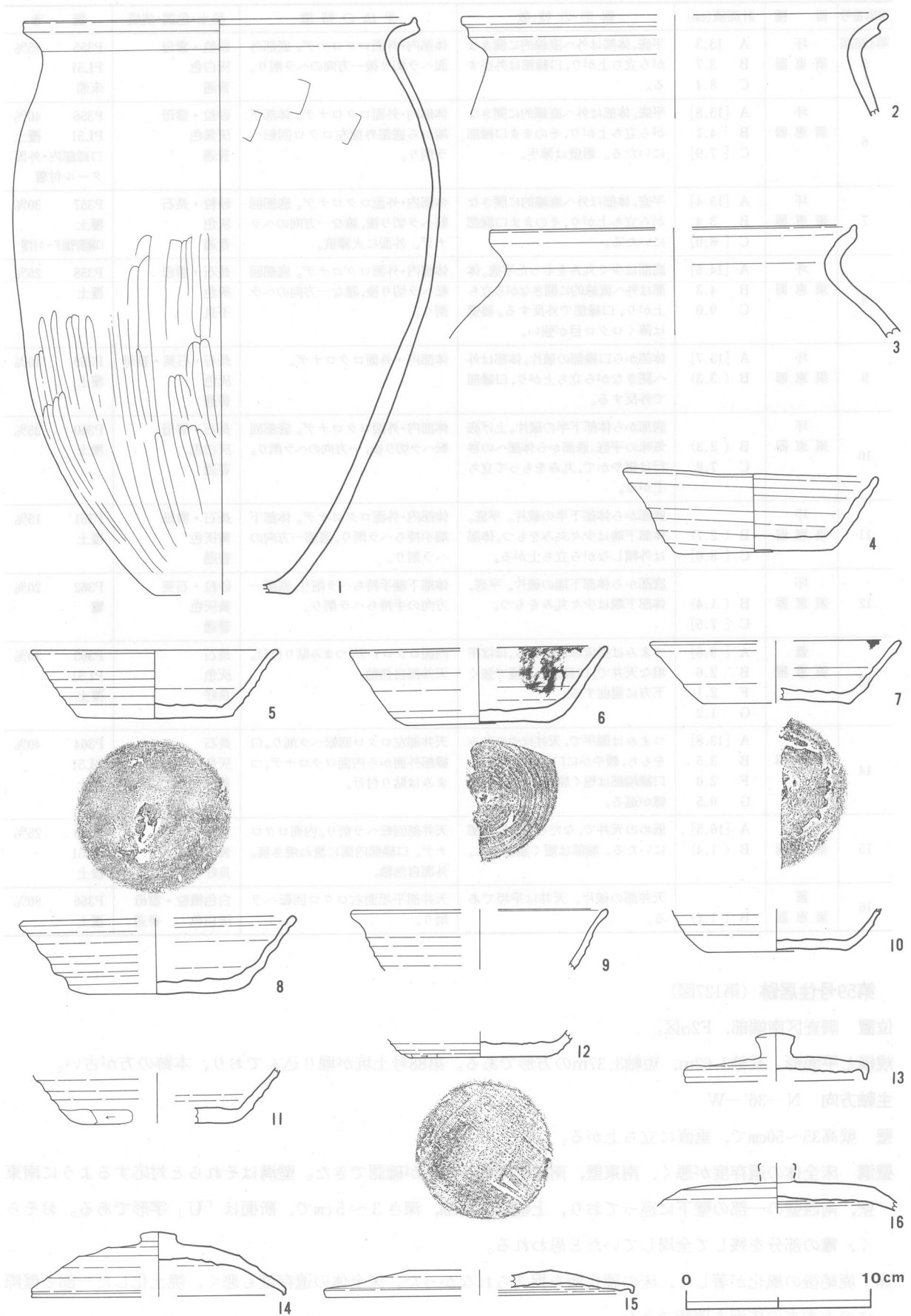
1	暗褐色	ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量	14	黄褐色	ローム中ブロック中量，炭化粒子少量，炭化物微量
2	黒褐色	焼土粒子・ローム粒子・ローム中ブロック少量	15	にぶい褐色	ローム小ブロック中量，炭化物少量，焼土粒子微量
3	褐色	ローム中ブロック中量，焼土粒子微量	16	暗赤褐色	焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム粒子・ローム小ブロック少量
4	暗褐色	ローム中ブロック少量，ローム粒子微量	17	赤褐色	焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック少量
5	にぶい褐色	ローム中ブロック多量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	18	褐色	炭化物・炭化材中量，ローム小ブロック少量
6	褐色	炭化粒子・ローム中ブロック中量，焼土粒子少量	19	にぶい褐色	焼土粒子・炭化粒子微量
7	色色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量	20	褐色	炭化粒子・ローム小ブロック少量
8	明褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子少量	21	黒褐色	炭化材中量，炭化物少量，焼土粒子微量
9	褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量	22	暗褐色	炭化物・ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
10	明褐色	焼土粒子・砂粒中量，炭化粒子少量	23	褐色	ローム粒子中量，炭化物・炭化粒子少量
11	赤褐色	焼土小ブロック多量，炭化粒子・砂粒少量	24	褐色	炭化物少量，焼土粒子微量
12	暗褐色	焼土粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量	25	明褐色	ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
13	赤褐色	焼土小ブロック・ローム小ブロック中量，炭化物・炭化粒子少量	26	赤褐色	焼土小ブロック・炭化物中量，ローム中ブロック少量
			27	暗褐色	焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量

遺物 第126図1の土師器甕は竈内から一括して，3の土師器甕は住居跡中央部床面から，4の須恵器坏は出入りロピット付近の焼土塊の下から，5の須恵器坏は西壁際から，12・16の須恵器坏・蓋は竈右袖・左袖脇からそれぞれ出土している。図示したもの他に，土師器坏の口縁部片12点，体部片32点，底部片1点，土師器甕の口縁部片16点，体部片57点，底部片5点，須恵器坏蓋の天井部片5点，須恵器坏の口縁部片17点，体部片20点，底部片5点，須恵器甕の体部片4点，支脚片が出土している。

所見 本跡は，遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第52号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 1	甕 土師器	A 21.5	平底。体部はなだらかに立ち上がる。口縁部は「く」の字状に折れ，口唇部でつまみ上げる。器壁は薄手。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面上半無調整，ヘラ磨き。内面ヘラナデ，ヘラ当て痕が残る。	砂粒 橙色 普通	P351 70% PL51 竈
		B 30.3				
		C [7.3]				
2	甕 土師器	A [23.2]	口縁部の破片。口縁部は「く」の字状に折れる。口唇部に沈線がある。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P352 5% 覆土
		B (5.6)				
3	甕 土師器	A [19.9]	口縁部の破片。口縁部は「く」の字状に折れ，口唇部はわずかにつまみ上げる。口唇部に弱い沈線。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P353 5% 床面
		B (5.8)				
4	坏 須恵器	A 13.8	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がる。	体部内・外面クロナデ。底部外面一方向のヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P354 90% PL51 床面
		B 4.8				
		C 8.0				



第126図 第52号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 5	坏 須恵器	A 13.3 B 3.7 C 8.4	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部は外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部外面へラ切り後一方向のへら削り。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P355 85% PL51 床面
6	坏 須恵器	A [13.8] B 4.1 C [7.9]	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。器壁は薄手。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端から底部外面左ロクロ回転へら削り。	砂粒・雲母 灰黄色 普通	P356 40% PL51 覆土 口縁部内・外面 タール付着
7	坏 須恵器	A [13.4] B 3.4 C [8.0]	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら切り後、雑な一方向のへらナデ。外面に火禿痕。	砂粒・長石 灰色 普通	P357 30% 覆土 口縁部内面タール付着
8	坏 須恵器	A [14.5] B 4.3 C 9.0	底部は少々丸みをもった平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部で外反する。器壁は薄くロクロ目が強い。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら切り後、雑な一方向のへら削り。	長石・雲母 灰色 不良	P358 25% 覆土
9	坏 須恵器	A [13.7] B (3.3)	体部から口縁部の破片。体部は外へ開きながら立ち上がり、口縁部で外反する。	体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P359 10% 覆土
10	坏 須恵器	B (2.3) C 7.8	底部から体部下半の破片。上げ底気味の平底。底部から体部への移行は緩やかで、丸みをもって立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら切り後、一方向のへら削り。	長石・雲母 灰白色 普通	P360 25% 覆土
11	坏 須恵器	B (2.7) C [8.0]	底部から体部下半の破片。平底。体部下端は少々丸みをもつ。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへら削り。底部一方向のへら削り。	長石・雲母 黄灰色 普通	P361 15% 覆土
12	坏 須恵器	B (1.4) C [7.5]	底部から体部下端の破片。平底。体部下端は少々丸みをもつ。	体部下端手持ちへら削り。底部一方向の手持ちへら削り。	砂粒・石英 黄灰色 普通	P362 20% 竈
13	蓋 須恵器	A [9.8] B 2.6 F 2.1 G 1.2	つまみは擬宝珠形である。ほぼ平坦な天井で、口縁部との境で強く下方に屈曲する。	内面ロクロナデ。つまみ貼り付け。天井部自然釉。	長石 灰色 良好	P363 70% PL51 覆土
14	蓋 須恵器	A [13.8] B 3.5 F 2.0 G 0.5	つまみは扁平で、天井はやや丸みをもち、緩やかに口縁部にいたる。口縁端部は短く屈曲し、1本の沈線が巡る。	天井部左ロクロ回転へら削り。口縁部外面から内面ロクロナデ。つまみは貼り付け。	長石 灰色 普通	P364 40% PL51 覆土
15	蓋 須恵器	A [16.5] B (1.4)	低めの天井で、なだらかに口縁部にいたる。端部は短く屈曲する。	天井部回転へら削り。内面ロクロナデ。口縁部内面に重ね焼き痕。外面自然釉。	石英 黄灰色 良好	P365 25% PL51 覆土
16	蓋 須恵器	B (1.7)	天井部の破片。天井は平坦である。	天井部平坦面右ロクロ回転へら削り。	白色微粒・雲母 灰白色 普通	P366 80% 覆土

第59号住居跡 (第127図)

位置 調査区南端部、F2₃区。

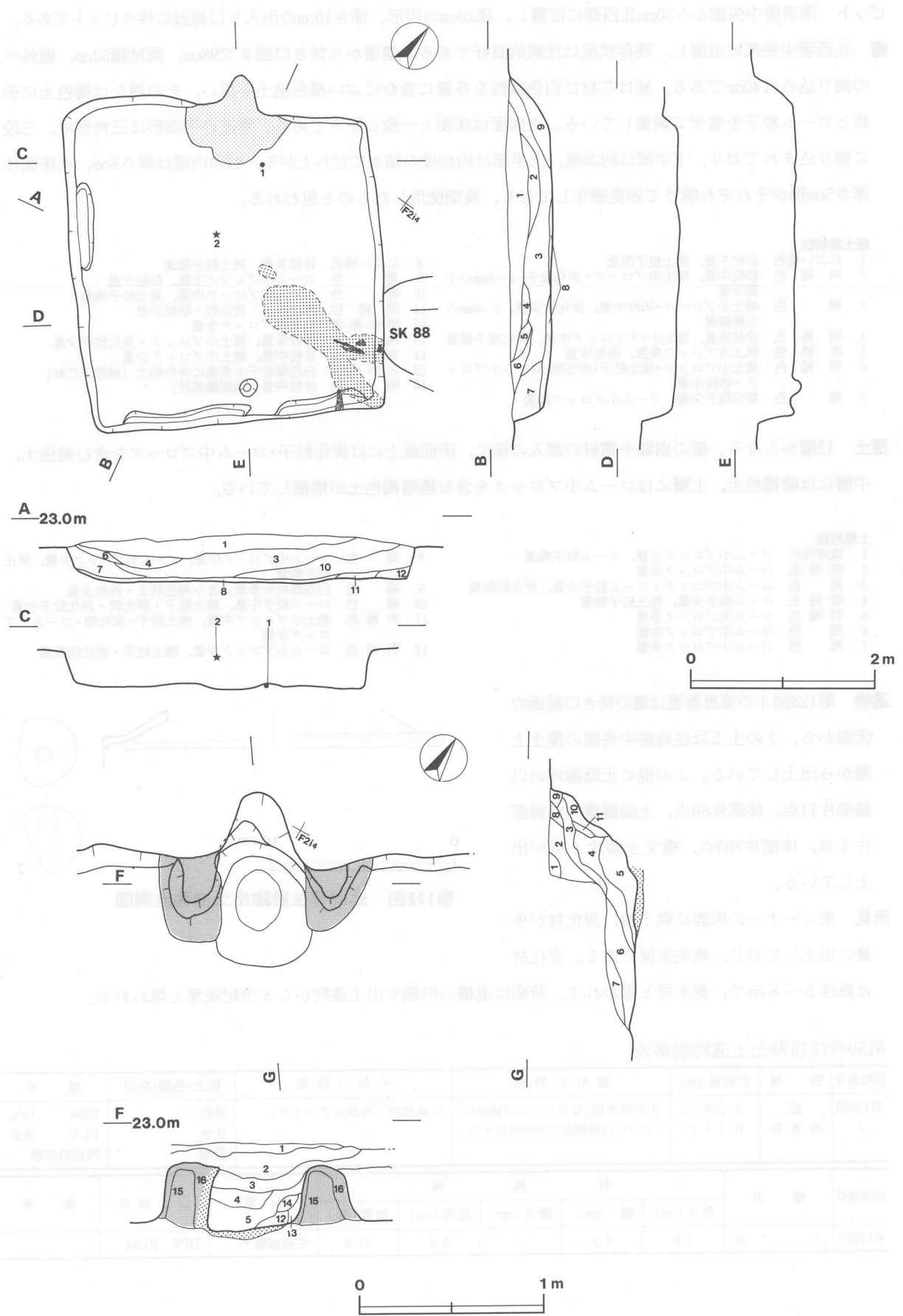
規模と平面形 長軸3.62m、短軸3.37mの方形である。第88号土坑が掘り込んでおり、本跡の方が古い。

主軸方向 N-36°-W

壁 壁高35~50cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 床全体の遺存度が悪く、南東壁、南西壁際のみ床面が確認できた。壁溝はそれらと対応するように南東壁、南西壁の一部の壁下に巡っており、上幅10~18cm、深さ3~5cmで、断面は「U」字形である。おそらく、竈の部分を残して全周していたと思われる。

床 廃絶後の風化が著しく、床の硬化面を捉えられなかった。床全体の遺存度も悪く、焼土化した一部と壁際にのみ本来の床面を確認できた。



第127図 第59号住居跡実測図

ピット 南東壁中央部から30cm北西側に位置し、径20cmの円形、深さ10cmの出入口施設に伴うピットである。

竈 北西壁中央部に位置し、残存状況は比較的良好である。煙道から焚き口部まで98cm、両袖幅52cm、壁外への掘り込みは40cmである。袖は芯材に白色微粒を多量に含む褐色粘土を用い、その周りは褐色土に砂粒とローム粒子を混ぜて構築している。火床面は床面と一致し平らである。煙道の平面形は三角形で、三段に掘り込まれており、下半部は約20度、上半部は約40度の傾きで立ち上がる。袖の内壁は厚さ8cm、火床面は厚さ5cm程がそれぞれ焼けて赤変硬化しており、長期使用したものと思われる。

竈土層解説

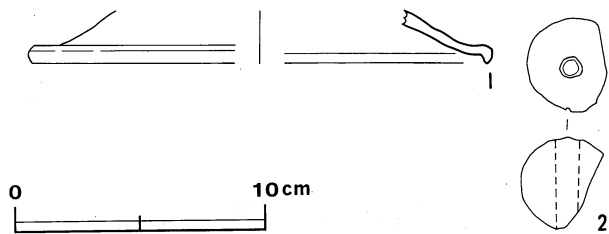
- | | | | | | |
|---|-------|---------------------------------|----|-------|----------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 砂粒少量, 焼土粒子微量 | 8 | にぶい褐色 | 砂粒多量, 焼土粒子微量 |
| 2 | 明褐色 | 砂粒中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・5~6mmの小礫少量 | 9 | 褐色 | ローム小ブロック中量, 砂粒少量 |
| 3 | 褐色 | 焼土小ブロック・砂粒中量, 炭化物少量, 5~6mmの小礫微量 | 10 | 褐色 | ローム中ブロック中量, 炭化粒子微量 |
| 4 | 明褐色 | 砂粒多量, 焼土小・大ブロック中量, 炭化粒子微量 | 11 | 明褐色 | 焼土粒子・炭化物・砂粒少量 |
| 5 | 赤褐色 | 焼土大ブロック多量, 砂粒中量 | 12 | 暗赤褐色 | 焼土大ブロック多量 |
| 6 | 明褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・砂粒中量 | 13 | 褐色 | 砂粒多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 |
| 7 | 褐色 | 炭化粒子少量, ローム小ブロック微量 | 14 | 赤褐色 | 砂粒中量, 焼土小ブロック少量 |
| | | | 15 | にぶい褐色 | 白色微粒子を多量に含む粘土(袖部の芯材) |
| | | | 16 | 明褐色 | 砂粒中量(袖部構築材) |

覆土 12層からなる。壁の崩壊や竈材の流入の後に、床面直上には炭化粒子・ローム中ブロックを含む褐色土、中層には暗褐色土、上層にはローム小ブロックを含む極暗褐色土が堆積している。

土層解説

- | | | | | | |
|---|------|-------------------------|----|-----|--------------------------------|
| 1 | 極暗褐色 | ローム小ブロック少量, ローム粒子微量 | 8 | 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム中ブロック中量 | 9 | 褐色 | 白色微粒を多量に含む褐色粘土・砂粒少量 |
| 3 | 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量 | 10 | 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 11 | 赤褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量 |
| 5 | 明褐色 | ローム大ブロック多量 | 12 | 明褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 6 | 褐色 | ローム中ブロック中量 | | | |
| 7 | 褐色 | ローム小ブロック多量 | | | |

遺物 第128図1の須恵器蓋は竈の焚き口前面の床面から、2の土玉は住居跡中央部の覆土上層から出土している。この他に土師器坏の口縁部片11点、体部片50点、土師器甕の口縁部片1点、体部片203点、縄文土器片1点が出土している。



第128図 第59号住居跡出土遺物実測図

所見 東コーナーの床面に焼土塊、炭化材が多量に出土しており、焼失家屋である。炭化材は直径5~6cmで、垂木材と思われる。時期は遺構の形態や出土遺物から8世紀後葉と思われる。

第59号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考			
第128図1	蓋 須恵器	A [18.1] B (2.1)	天井部欠損。なだらかに口縁部にいたり、口縁端部でやや外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	砂粒 灰色 普通	P398 10% PL51 床面 内面自然釉			
図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第128図2	土玉	3.8	3.2	—	0.9	31.8	中央部覆土	DP8 PL54	

第62号住居跡 (第129図)

位置 調査区南端部, F2a6区。

規模と平面形 一辺が2.98mの方形である。

主軸方向 N-25°-E

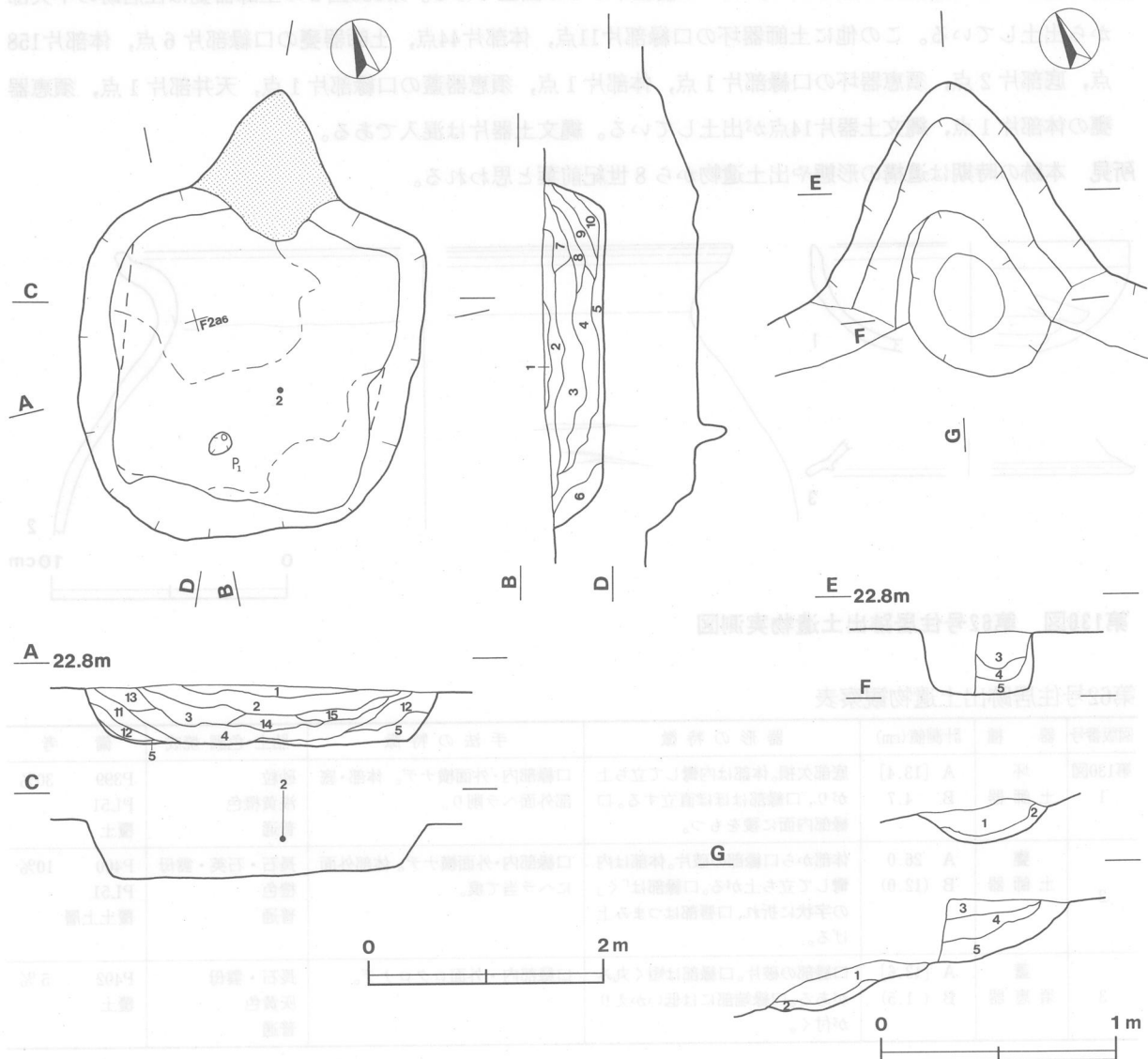
壁 遺存状態が悪く, 南東壁・北東壁の南コーナー寄りに, 壁の下部が一部残存している。

壁溝 床全体の遺存度が悪く確認できなかったが, P₁の南西側の僅かな浅い凹みが, おそらく壁溝であったと思われる。

床 廃絶後の風化が著しく, 床面が捉えられたのは東コーナー付近だけである。

ピット 南西壁中央部から40cm北東側に位置し, 径20cmの円形で, 深さは23cmの出入り口施設に伴うピットである。

竈 北東壁中央部に位置し, 残存状況は悪く, 袖部は残っていない。煙道から焚き口部まで127cm, 壁外への掘り込みは90cmである。火床面には灰・炭化物等が堆積しており, 底面はあまり焼けていない。煙道の平面形は三角形であり, 約20度の傾きで緩やかに立ち上がる。



第129図 第62号住居跡実測図

竈土層解説

- 1 赤褐色 焼土大ブロック多量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・炭化物・灰少量
- 3 褐色 ローム大ブロック少量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 焼土粒子少量
- 5 褐色 焼土粒子少量

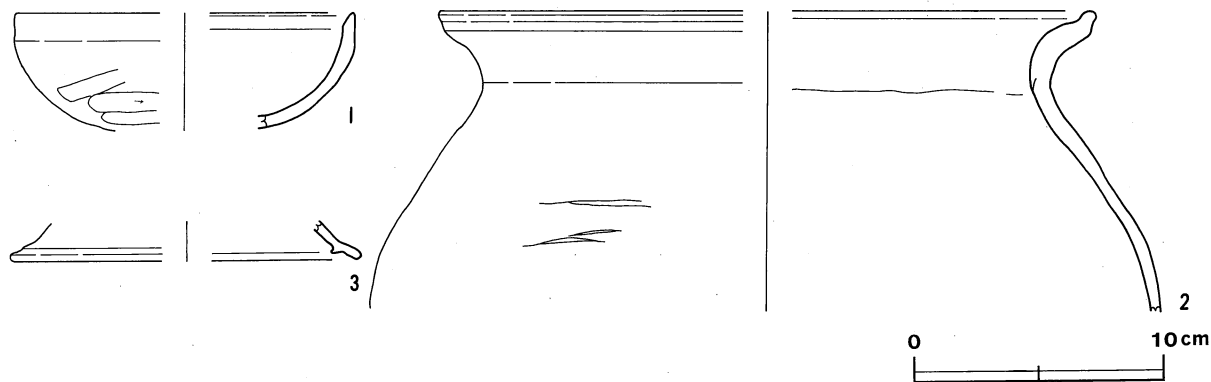
覆土 15層からなる。床面直上には焼土粒子, 炭化物及びローム小ブロックを少量含む明褐色土が薄く堆積し, さらに炭化物を含んだ暗褐色土が堆積している。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 炭化粒子・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 明褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
- 6 明褐色 焼土小ブロック・炭化物中量, ローム小ブロック少量
- 7 明褐色 炭化粒子・ローム中ブロック中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量
- 8 褐色 炭化粒子多量, 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 9 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 10 黄褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 11 褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
- 12 褐色 焼土粒子・炭化粒子微量
- 13 にぶい褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 14 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量, 炭化物少量
- 15 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

遺物 図示できた遺物は3点のみで, すべて覆土中からの出土である。第130図2の土師器甕は住居跡の中央部から出土している。この他に土師器坏の口縁部片11点, 体部片44点, 土師器甕の口縁部片6点, 体部片158点, 底部片2点, 須恵器坏の口縁部片1点, 体部片1点, 須恵器蓋の口縁部片1点, 天井部片1点, 須恵器甕の体部片1点, 縄文土器片14点が出土している。縄文土器片は混入である。

所見 本跡の時期は遺構の形態や出土遺物から8世紀前葉と思われる。



第130図 第62号住居跡出土遺物実測図

第62号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第130図 1	坏 土師器	A [13.4] B 4.7	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り。	砂粒 浅黄橙色 普通	P399 30% PL51 覆土
2	甕 土師器	A 26.0 B (12.0)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は「く」の字状に折れ, 口唇部はつまみ上げる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面にヘラ当て痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P400 10% PL51 覆土上層
3	蓋 須恵器	A [13.6] B (1.5)	口縁部の破片。口縁部は短く丸みがある。口縁端部には低いかえりが付く。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・雲母 灰黄色 普通	P402 5% 覆土

2 竪穴遺構

当初第23・24・33・35・36・42A・45・54・57・60・61号住居跡として調査した各遺構については、床面に踏み締められた硬化面が見られないこと、炉、貯蔵穴及び柱穴等の内部施設がないこと、そして規模が一辺4m以下の小型である等のことから、居住を目的とした竪穴住居跡と区別できる。そのためそれぞれを第1～11号竪穴遺構と改称した。以下、確認した遺構と遺物について記載する。

(1) 古墳時代の竪穴遺構

第1号竪穴遺構 (第131図)

位置 調査区中央部, D3f6区。

規模と平面形 長軸3.42m, 短軸2.51mの長方形である。

主軸方向 N-38°-W

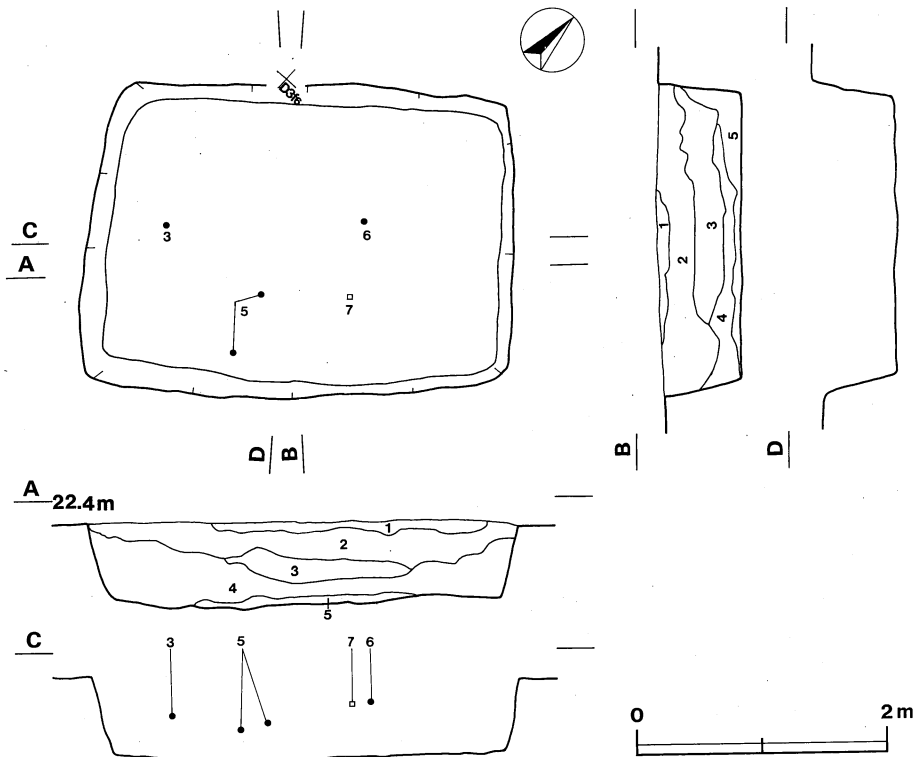
壁 壁高58~65cmで、垂直に立ち上がる。

床 平坦である。踏み締められた面は見られない。

覆土 5層からなる。人為堆積土層である。

土層解説

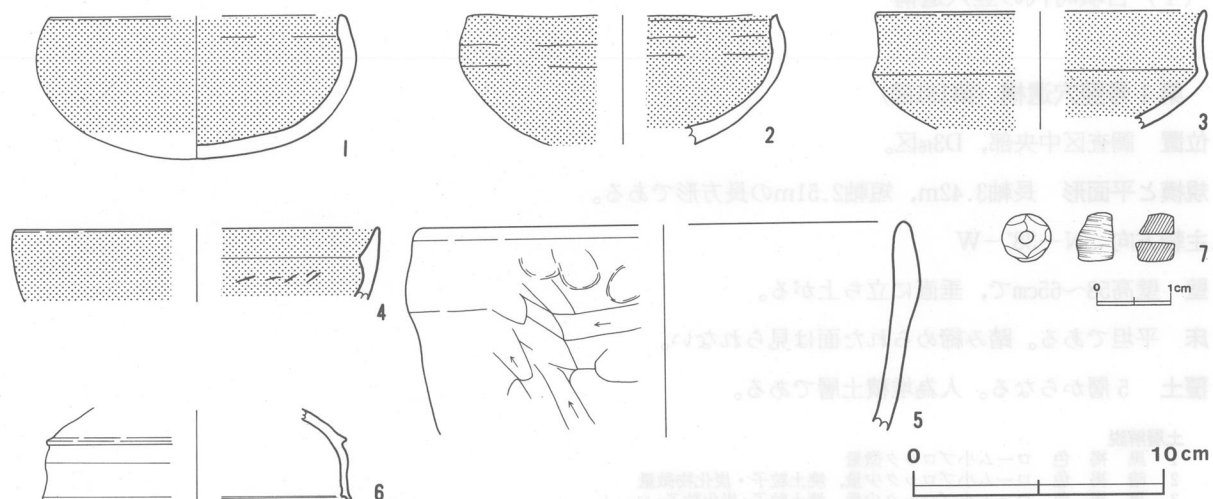
- | | | |
|---|-------|----------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム小ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 5 | にぶい褐色 | ローム粒子多量 |



第131図 第1号竪穴遺構実測図

遺物 遺物は細片が多く、ほとんどが住居跡西側覆土からの出土である。第132図3の土師器坏は住居跡東側から、5の土師器鉢、6の須恵器坏蓋、7の白玉は住居跡西側から出土している。6の須恵器坏蓋と同一個体と思われる蓋の天井部が第21号住居跡の覆土から出土している。図示できた以外の細片は、土師器甕の口縁部片18点、体部片323点、底部片1点、土師器甕の口縁部片2点、体部片6点、底部片1点、土師器坏の口縁部片64点、体部片255点、底部片3点である。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。



第132図 第1号竖穴遺構出土遺物実測図

第1号竖穴遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 1	坏 土師器	A [11.6] B 6.0	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面から底外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。内面及び体部外面赤彩。	石英・雲母 赤褐色、底部褐色 普通	P184 50% 覆土上層
2	坏 土師器	A [12.4] B (5.2)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾し、内面に弱い稜をもつ。	内・外面摩滅。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい橙色 普通	P185 10% 覆土上層
3	坏 土師器	A [13.2] B (4.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P186 5% 覆土中層
4	坏 土師器	A [14.6] B (2.9)	口縁部破片。口縁部内面に稜をもち、うちそぎ状である。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P187 5% 覆土上層
5	鉢 土師器	A [19.4] B (8.4)	口縁部破片。口縁部はほぼ直立し、器壁は肥厚する。	口縁部内・外面横ナデ。部分的に指頭痕を残す。体部外面へラ削り。内面ナデ。	砂粒・石英 にぶい黄橙色 普通	P188 5% 覆土中層
6	坏蓋 須恵器	A [13.2] B (3.8)	天井部から口縁部の破片。天井部は内彎し、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直下し、端部は沈線が入り段をなす。	口縁部内・外面横ナデ。天井部自然釉付着。	砂粒・長石 暗灰黄色 良好	P189 10% PL41 覆土中層

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第132図7	白玉	0.7	0.65	0.5	0.15	0.3	滑石	西側覆土上層	Q26 PL55

第2号竖穴遺構 (第134図)

位置 調査区中央部東寄り, D3g8区。

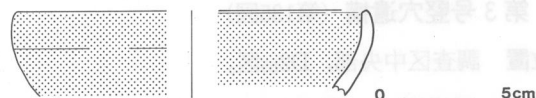
規模と平面形 長軸3.32m, 短軸2.69mの長方形である。

長軸方向 N-60°-E

壁 壁高35~47cmで, 垂直に立ち上がる。

床 平坦である。踏み締められた面は見られない。

覆土 13層からなる。土層3・5はローム小ブロックを含む褐色土で, これに土層4の極暗褐色土が挟まれる人為堆積土層である。特に南西壁側からのロームの堆積が目立つ。



第133図 第2号竖穴遺構出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 9 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 | 10 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 11 褐色 | ローム粒子中量 |
| 5 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 12 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック微量 |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子中量 | 13 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | | |

遺物 遺物量は少ない。土師

器甕の体部片52点, 底部片

2点, 土師器甕の底部片1

点, 土師器杯の口縁部片9

点, 体部片21点, 須恵器杯

蓋天井部片1点が出土して

いるが, 実測可能なもの

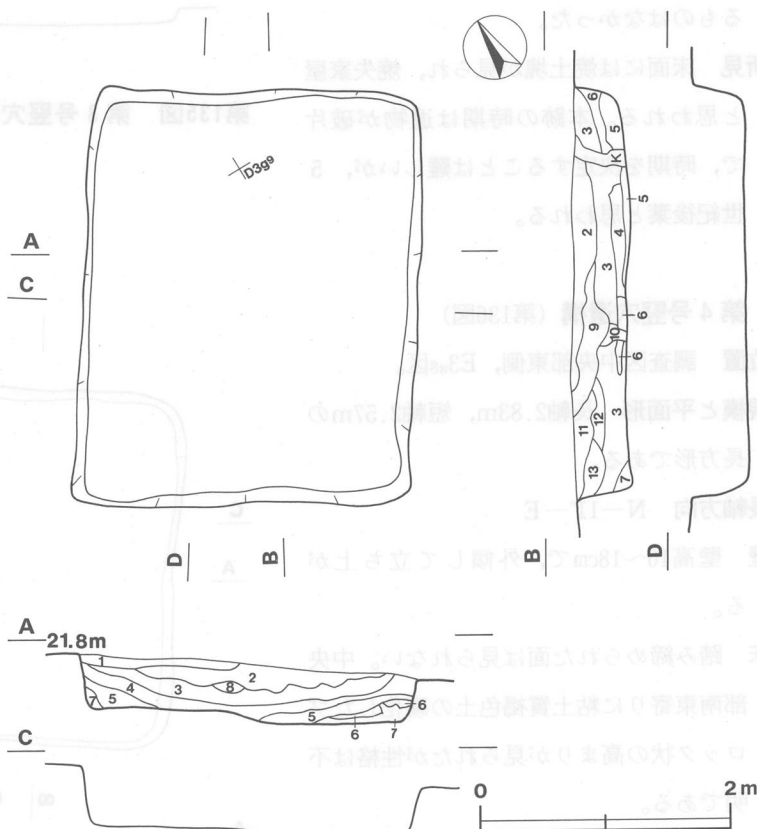
は, 第133図1の土師器杯

のみである。

所見 本跡の時期は出土遺物

から5世紀末葉~6世紀初

頭と思われる。



第134図 第2号竖穴遺構実測図

第2号竖穴遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第133 1	杯 土師器	A [14.0] B (3.4)	口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P190 5% 覆土

第3号竖穴遺構 (第135図)

位置 調査区中央部, D2h5区。

規模と平面形 一辺が2.84mの方形である。

長軸方向 N-50°-W

壁 壁高10~15cmで, 垂直に立ち上がる。

床 踏み締められた面は見られない。

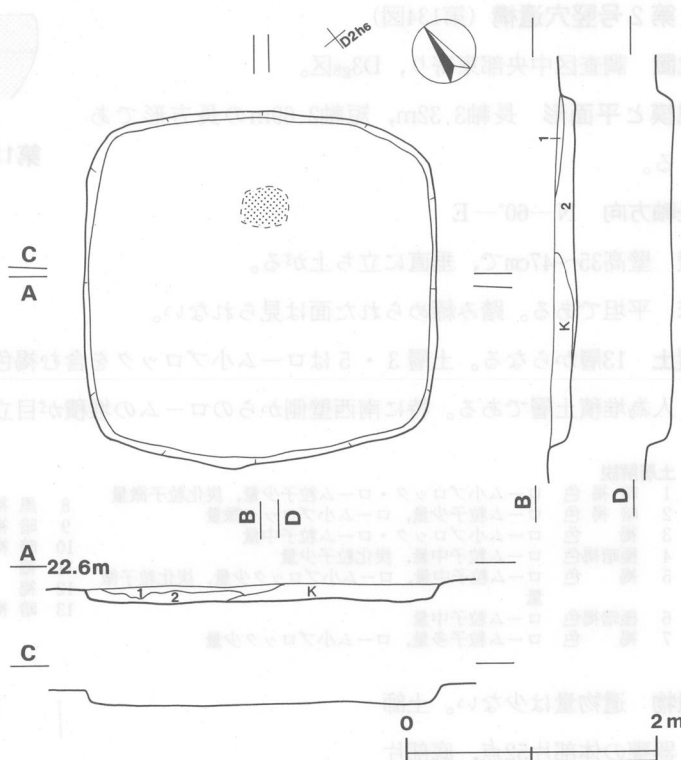
覆土 2層からなる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 焼土中ブロック・炭化物中量

遺物 遺物は極少量で, すべて覆土中からの出土である。土師器甕の口縁部片1点, 体部片19点, 底部片1点, 土師器杯の口縁部片1点で, 細片のため図示できるものはなかった。

所見 床面には焼土塊が見られ, 焼失家屋と思われる。本跡の時期は遺物が破片で, 時期を決定することは難しいが, 5世紀後葉と思われる。



第135図 第3号竖穴遺構実測図

第4号竖穴遺構 (第136図)

位置 調査区中央部東側, E3a8区。

規模と平面形 長軸2.83m, 短軸2.57mの長方形である。

長軸方向 N-11°-E

壁 壁高10~18cmで, 外傾して立ち上がる。

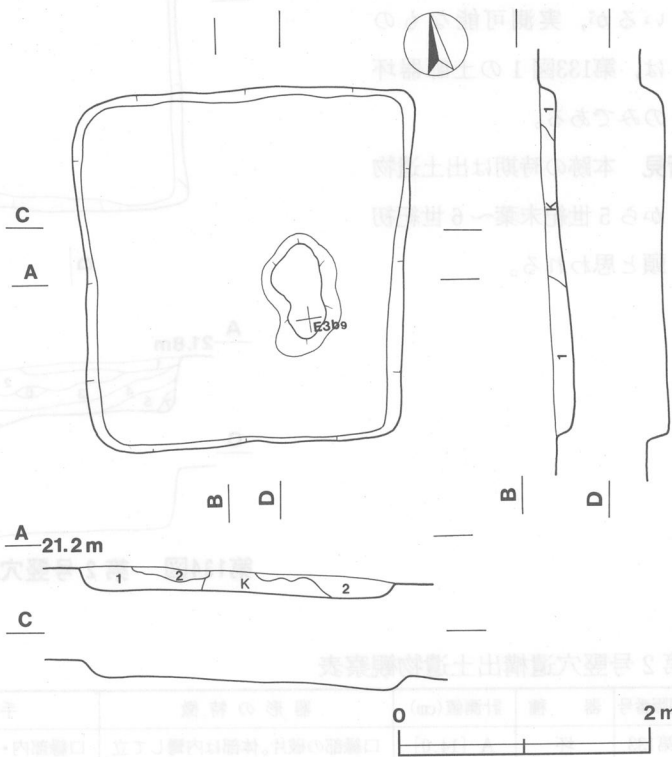
床 踏み締められた面は見られない。中央部南東寄りに粘土質褐色土の硬化したブロック状の高まりが見られたが性格は不明である。

覆土 2層からなる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 覆土中から土師器甕の体部片が4点出土したのみである。



第136図 第4号竖穴遺構実測図

所見 本跡から出土した遺物は極めて少量で時期を決定することは難しいが、他の住居跡や竪穴遺構が遺物と同様であることから、5世紀後葉と思われる。

第5号竪穴遺構 (第137図)

位置 調査区中央部, E3c3区。

規模と平面形 長軸2.38m, 短軸1.40mの長方形である。

主軸方向 N-32°-W

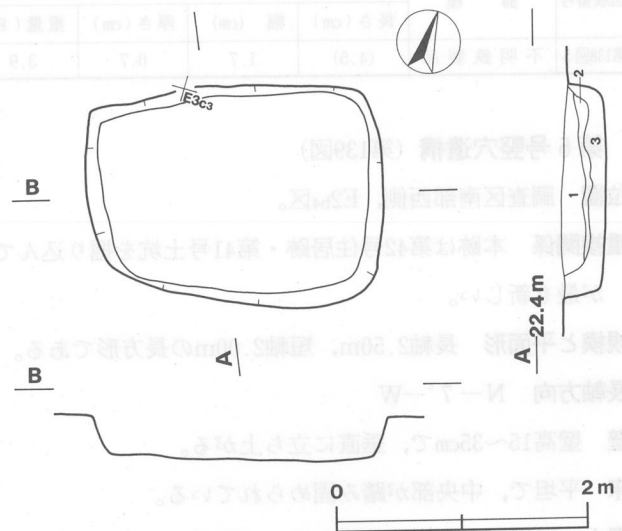
壁 壁高30~33cmで, 外傾して立ち上がる。

床 踏み締められた面は見られない。

覆土 3層からなり, ロームブロックを多量に含む人為堆積土層である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム中ブロック多量
- 3 黄褐色 ローム大ブロック多量



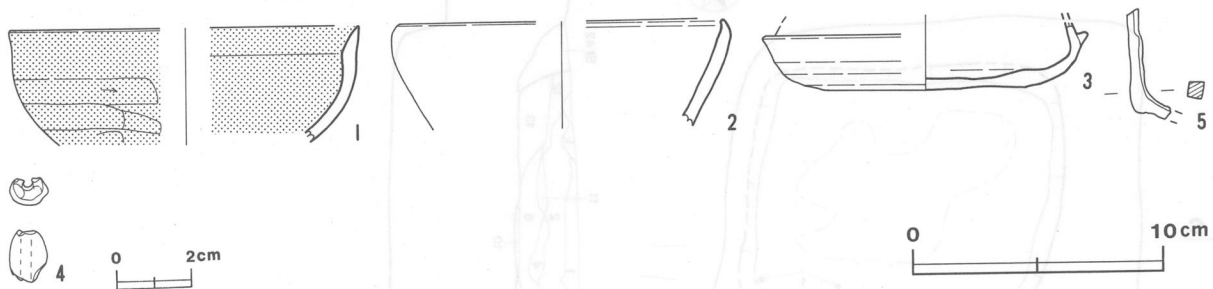
第137図 第5号竪穴遺構実測図

遺物 覆土中からの出土がほとんどで, 第138図

1・2の土師器坏, 琬, 4の琥珀棗玉は住居跡

北西部から, 3の須恵器坏身は覆土上層からの出土である。この他に縄文土器深鉢胴部片2点, 土師器甕の口縁部片1点, 体部片92点, 底部片3点が出土しており, 縄文土器片は混入である。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。



第138図 第5号竪穴遺構出土遺物実測図

第5号竪穴遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第138図 1	坏 土師器	A [14.1] B 5.5	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P242 10% 覆土
2	琬 土師器	A [13.2] B (4.3)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口唇部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩滅。	砂粒 橙色 普通	P243 5% 覆土
3	坏身 須恵器	B (2.6)	底部から体部の破片。底部は平坦に近く, 体部は内彎して立ち上がり, 受部にいたる。	底部外面左クロロ回転ヘラ削り。	長石 灰色 良好	P244 35% PL52 確認面

図版番号	種別	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第138図4	棗玉	1.35	1.0	0.75	0.3	0.5	琥珀	北西部覆土	Q42
図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)				
第138図5	不明鉄製品	(4.5)	1.7	0.7	3.9	南西部覆土	M6		

第6号竪穴遺構 (第139図)

位置 調査区南部西側, E2b4区。

重複関係 本跡は第42号住居跡・第41号土坑を掘り込んでいる。第41号土坑, 第42号住居跡の順に古く, 本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸2.50m, 短軸2.00mの長方形である。

長軸方向 N-7°-W

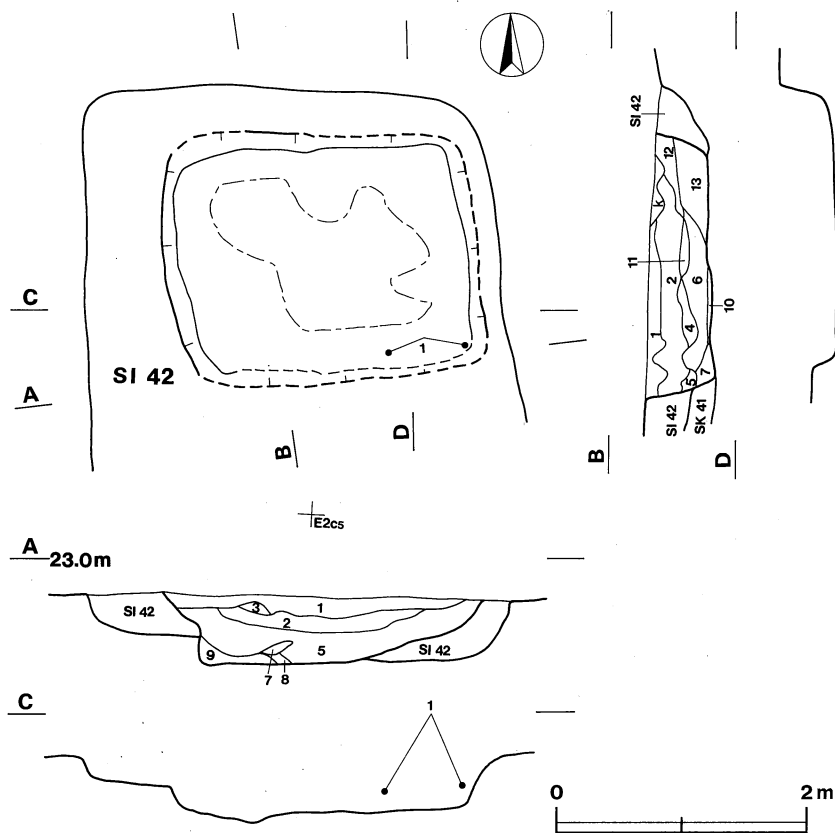
壁 壁高15~35cmで, 垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

覆土 13層からなる。各層にローム粒子・ローム小ブロックを含む人為堆積土層である。

土層解説

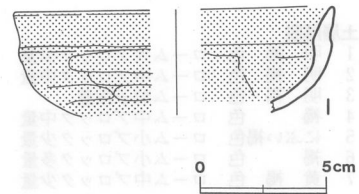
- | | | | |
|--------|----------------------------|---------|-------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物少量, ローム小ブロック微量 | 8 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量 | 9 におい褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 | 10 明褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・ローム小ブロック微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 12 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 | 13 褐色 | ローム粒子少量, 炭化物・ローム小ブロック微量 |
| 7 褐色 | ローム粒子少量 | | |



第139図 第6号竪穴遺構実測図

遺物 土師器の甕や坏の細片が覆土中から出土している。第140図1の土師器坏は南壁際からの出土である。

所見 本跡は、第42号住居跡が人為的に埋め戻された後に構築したと考えられる。時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。



第140図 第6号竖穴遺構出土遺物実測図

第6号竖穴遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第140図 1	坏 土師器	A [12.8] B (4.2)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P270 5% 覆土上層

第7号竖穴遺構 (第141図)

位置 調査区中央部, E3a5区。

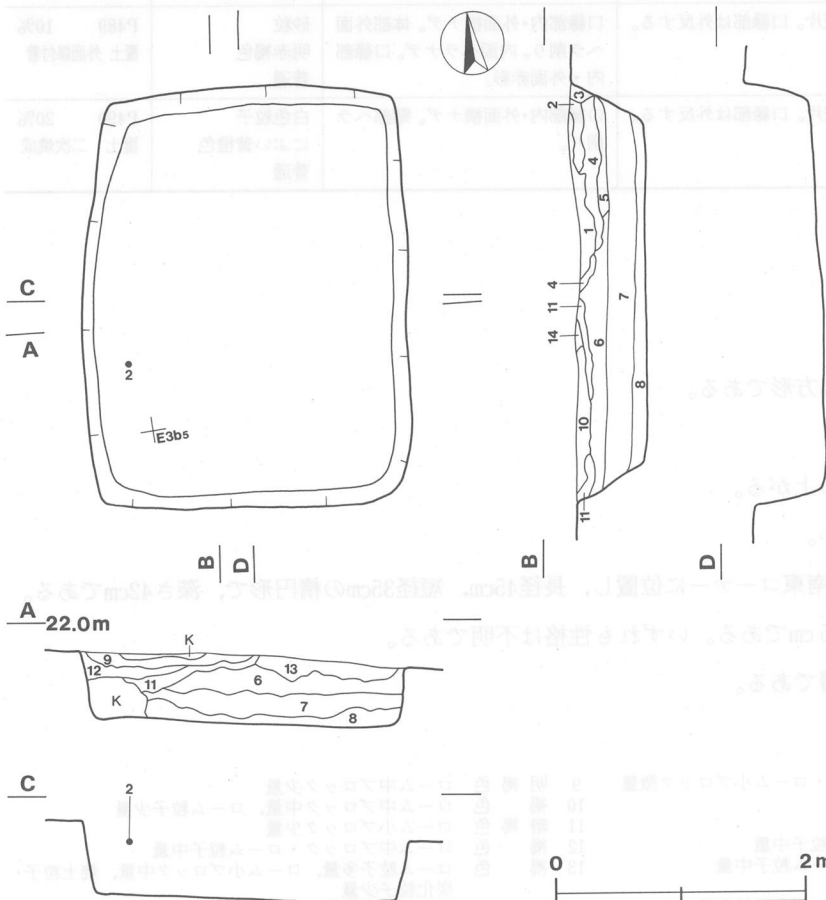
規模と平面形 長軸3.40m, 短軸2.60mの長方形である。

長軸方向 N-10°-E

壁 壁高50~58cmで、垂直に立ち上がる。

床 平坦である。踏み締められた面は見られない。

覆土 13層からなる。ロームブロックを含む人為堆積土層である。



第141図 第7号竖穴遺構実測図

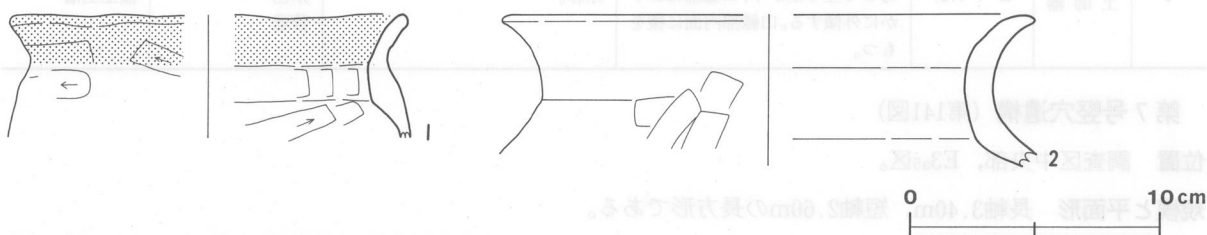
土層解説

- 1 明褐色 ローム大ブロック少量
- 2 明褐色 ローム中ブロック中量
- 3 明褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量
- 5 にぶい褐色 ローム小ブロック少量
- 6 褐色 ローム小ブロック多量
- 7 黄褐色 ローム中ブロック少量

- 8 褐色 ローム粒子微量
- 9 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 11 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 12 暗褐色 ローム小ブロック中量
- 13 褐色 ローム中ブロック中量

遺物 出土遺物はすべて覆土中からのもので、土師器甕の口縁部片3点、体部片49点、底部片1点、土師器杯の口縁部片6点、体部片18点、縄文土器片2点と少ない。このうち図示した1の土師器小型甕は北西部の覆土上層から、2の甕は西壁際中央部の覆土中層から出土している。縄文土器片は混入である。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



第142図 第7号竪穴遺構出土遺物実測図

第7号竪穴遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第142図 1	小型甕 土師器	A [15.6] B (4.9)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り。内面へらナデ。口縁部内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P489 10% 覆土 外面煤付着
2	甕 土師器	A [20.8] B (5.6)	口縁部破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部へら削り。	白色粒子 にぶい黄橙色 普通	P490 20% 覆土 二次焼成

第8号竪穴遺構 (第143図)

位置 調査区南部中央, F2h7区。

規模と平面形 一辺が3.75mの不整形である。

長軸方向 N-19°-W

壁 壁高75~80cmで、外傾して立ち上がる。

床 踏み締められた面は見られない。

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は南東コーナーに位置し、長径45cm, 短径35cmの楕円形で、深さ42cmである。

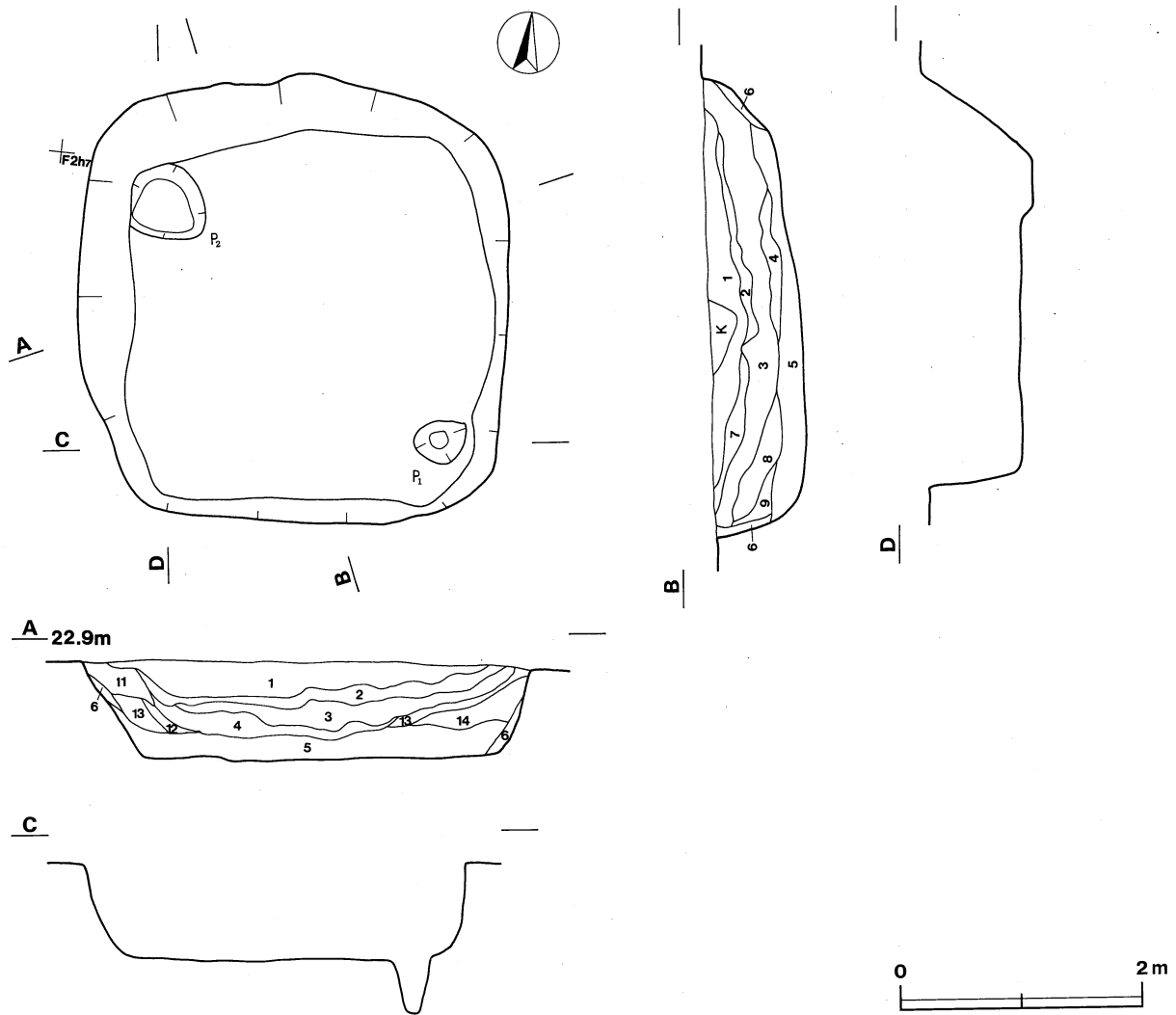
P₂は径63cmの不整形円形で、深さ5cmである。いずれも性格は不明である。

覆土 14層からなる。人為堆積土層である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量
- 6 黄褐色 ローム小ブロック少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 8 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

- 9 明褐色 ローム中ブロック少量
- 10 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 12 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 13 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 14 明褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量



第143図 第8号竪穴遺構実測図

遺物 土師器甕の体部片108点，底部片2点，土師器環の口縁部片3点，体部片32点，石鏃3点，石匙1点，縄文土器片2点，須恵器甕体部片1点が出土している。本跡から出土した須恵器甕片は，第51号住居跡第108図3と第56号住居跡から出土したものと接合する。

所見 本跡の時期は出土遺物から第51・56号住居跡と同時期の5世紀末葉と思われる。

第9号竪穴遺構（第144図）

位置 調査区南部中央，F2h4区。

規模と平面形 長軸3.65m，短軸3.00mの長方形である。

長軸方向 N-20°-W

壁 壁高20~25cmで，垂直に立ち上がる。

床 平坦である。踏み締められた面は見られない。

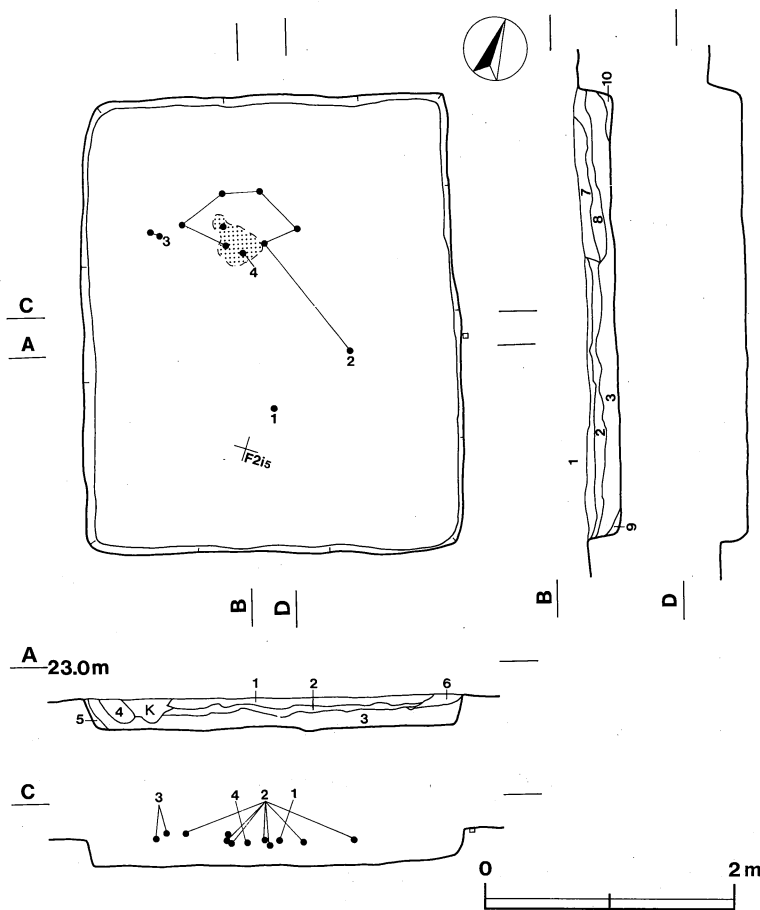
覆土 10層からなる。ロームブロックを含む人為堆積土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黄褐色 | ローム中ブロック多量 | 7 褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量 |
| 3 褐色 | ローム中ブロック多量 | 8 明褐色 | 焼土大・ローム中ブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム中ブロック少量 | 9 黄褐色 | ローム小ブロック多量 |
| 5 褐色 | ローム粒子少量 | 10 褐色 | ローム粒子少量 |

遺物 第145図1の埴は住居跡南部から, 2・3の甕, 4の小型甕は北西部の覆土上層から出土している。本跡の遺物の大半は北西部から出土している。図示した他に, 土師器甕の口縁部片6点, 体部片203点, 土師器坏の口縁部片12点, 体部片16点, 土師器埴の体部片3点, 縄文土器片9点が出土している。縄文土器片は混入である。

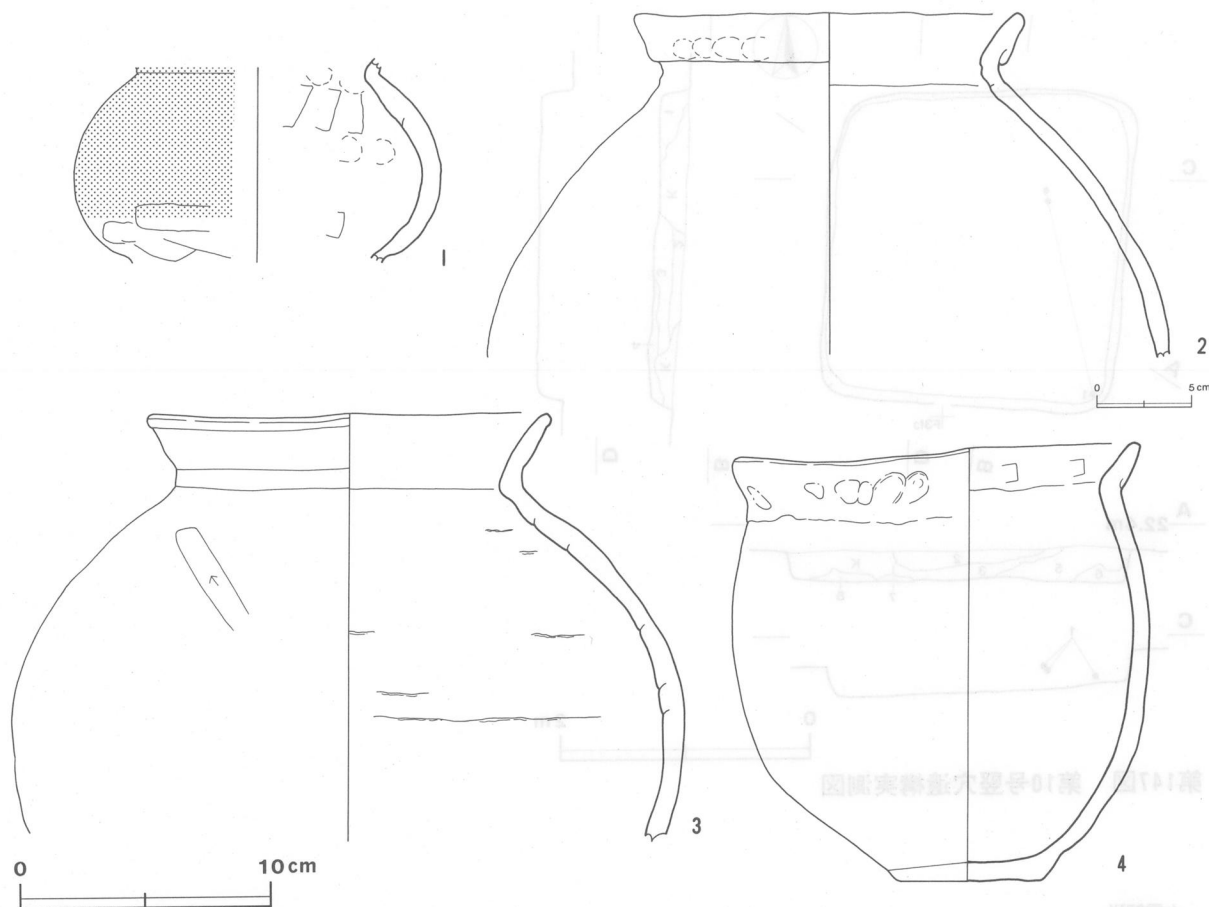
所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後葉と思われる。



第144図 第9号竪穴遺構実測図

第9号竪穴遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第145図 1	埴 土師器	B (8.2)	体部破片。体部はつぶれた球形状で, 体部中位に最大径をもつ。	体部外面上半ナデ, 下半ヘラ削り。内面ヘラナデ。外面赤彩。	長石 外面明褐色 内面にぶい黄橙色 普通	P 393 15% 覆土上層
2	甕 土師器	A 21.0 B (18.4)	体部上位から口縁部の破片。体部中位に最大径をもつ。口縁部は「く」の字状に外反し, 複合口縁である。	口縁部外面指頭押圧後横ナデ。体部内・外面摩滅。	白色微粒 にぶい褐色 普通	P 394 15% PL52 覆土上層



第145図 第9号竪穴遺構出土遺物実測図

第9号竪穴遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第145図 3	甕 土師器	A [16.2] B (17.1)	体部口縁部の破片。体部は球形状で、体部中位に最大径をもつ。口縁部は「く」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。体部内面へらナデ。体部に粘土継ぎ目が残る。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P395 20% PL52 覆土上層
4	小型甕 土師器	A 16.5 B 17.6 C 6.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反し、複合口縁である。	口縁部外面指頭押圧後、内・外面横ナデ。口縁部内面にへら当て痕が残る。	白色微粒 にぶい黄橙色 普通	P396 80% PL52 覆土上層

第10号竪穴遺構 (第147図)

位置 調査区南部, F3e2区。

規模と平面形 一辺が2.50mの方形である。

長軸方向 N-6°-W

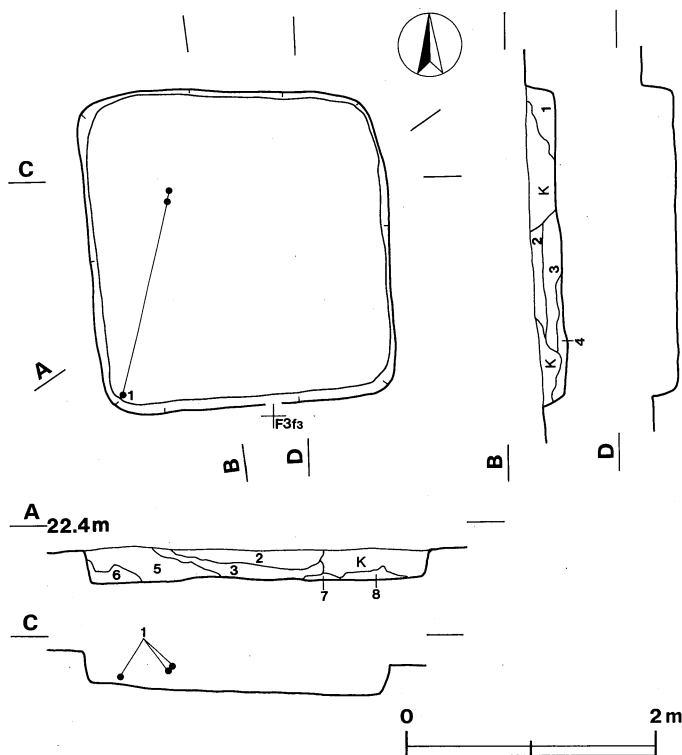
壁 壁高20~25cmで、垂直に立ち上がる。

床 平坦である。踏み締められた面は見られない。

覆土 8層からなる。人為堆積土層である。



第146図 第10号竪穴遺構出土遺物実測図



第147図 第10号竪穴遺構実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック中量 | 6 黄褐色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック少量 |
| 2 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム粒子少量 | 7 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム大ブロック中量 |
| 4 明褐色 | ローム小ブロック多量 | | |
| 5 褐色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック中量 | | |

遺物 出土遺物は極めて少量で、土師器甕の体部片25点、底部片1点、土師器坏の口縁部片4点である。第146

図1の甕は南西コーナーと北西部の床面からそれぞれ出土したものが接合したものである。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀末葉と思われる。

第10号竪穴遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第146図 1	甕 土師器	A 19.8 B (5.1)	口縁部の破片。口縁部は「コ」の字状に外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面指頭押圧痕が残る。頸部内面ヘラナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P491 10% 床面

第11号竪穴遺構 (第148図)

位置 調査区南部, E2i4区。

規模と平面形 一辺が2.05mの隅丸方形である。

長軸方向 N-71°-E

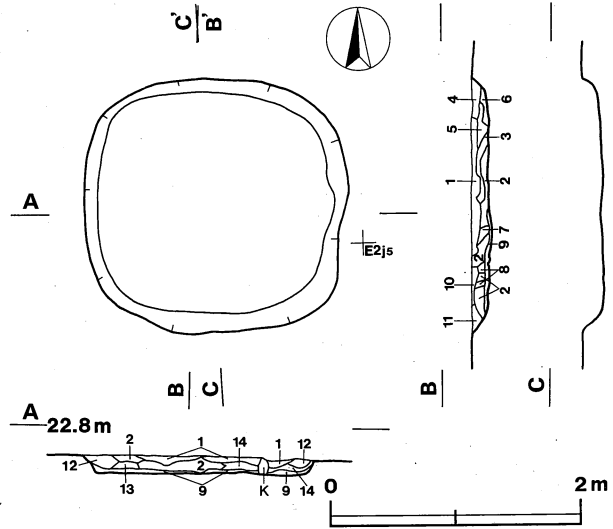
壁 壁高13cmで、垂直に立ち上がる。

床 平坦で、踏み締められた面は見られない。

覆土 14層からなる。人為堆積土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子中量
- 2 褐色 色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 にぶい褐色 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 色 ローム粒子微量
- 8 暗褐色 色 ローム粒子少量
- 9 明褐色 色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 10 褐色 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 12 暗褐色 色 ローム粒子微量
- 13 褐色 色 ローム粒子少量
- 14 褐色 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量



遺物 図示できる遺物はない。土師器甕の体部細片が5点出土しているだけである。

所見 極僅かな遺物であるが、他の住居跡等から出土している遺物と同じ様相であることから、本跡の時期は5世紀末葉と思われる。

第148図 第11号竪穴遺構実測図

表2 馬場遺跡住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向 (長軸方向)	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設							覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	支柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈	間仕切溝			
1	A4a1	N-31°-W	方形	4.65×4.57	45~57	平坦	全周	4	1	-	1	炉2	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末(5世紀末葉) 焼失
2	A4a2	N-21°-W	長方形	3.47×2.77	22~40	平坦	3/4	2	1	1	1	炉2	-	自然	土師器(坏・甕・甗・ミニチュア)	古墳時代中期末(5世紀末葉) 焼失
3	B3b8	N-22°-W	方形	8.00×8.00	16~49	平坦	ほぼ全周	4	1	2	-	-	4	自然	土師器(坏・甕・甗)須恵器(坏・甗)土玉	古墳時代中期末(5世紀末葉)
4	B3b5	N-10°-W	長方形	3.67×2.88	11~22	平坦	-	-	1	-	1	炉1	-	自然	土師器(坏・甕・鉢)	古墳時代中期末(5世紀後葉)
5	B3e5	N-28°-W	方形	7.38×7.24	4~15	平坦	ほぼ全周	4	1	2	-	炉2	1	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末(5世紀末葉)
6	B3b2	N-8°-W	長方形	4.30×3.55	6~10	平坦	-	-	-	-	-	炉1	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末(5世紀後葉)
7	C3a5	N-52°-E	方形	8.75×8.75	12~40	平坦	全周	4	2	2	-	炉1	3	人為	土師器(坏・甕・高坏・甗)須恵器(甗・高坏) 粘土器 鉄製 磁石	古墳時代中期末(5世紀末葉)
8	C3a1	N-66°-E	方形	2.09×1.85	13~22	平坦	-	-	1	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代後期初頭(6世紀初~前) 焼失
9	C2a5	N-32°-E	方形	5.25×5.25	20~25	平坦	ほぼ全周	3	1	-	1	竈1	-	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代後期(6世紀初~前)
10	C2r4	N-17°-W	方形	6.05×5.94	50~59	平坦	全周	4	-	-	1	炉1	2	自然	土師器(坏・甕)管玉	古墳時代中期末(5世紀後葉) 本跡→33号土坑 焼失
11	C2n2	N-54°-E	長方形	5.45×4.98	10~22	平坦	全周	-	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏・甕・甗)	古墳時代後期(6世紀初~前)
12	C3r3	N-7°-E	長方形	6.74×6.61	30~45	平坦	一部	4	1	-	1	炉1	3	自然	土師器(坏・甕・鉢)	古墳時代中期末(5世紀後葉) 焼失
13	C3r9	N-12°-W	方形	4.32×4.32	48~63	平坦	全周	4	-	-	1	竈1	-	自然	土師器(坏・甕)土製支脚	古墳時代後期(6世紀後葉) 焼失
14	C3i5	N-53°-E	長方形	2.64×2.24	7~13	平坦	-	-	-	-	-	炉1	-	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末(5世紀末葉)
15	C3i8	N-33°-W	長方形	6.82×5.18	20~25	平坦	ほぼ全周	-	1	1	1	炉1	2	人為	土師器(坏・甕)磁石 縄文土器 弥生土器	古墳時代中期末(5世紀末葉)
16	C4j1	N-57°-W	方形	6.05×5.63	25~40	平坦	全周	4	2	-	-	炉1	-	人為	土師器(坏・甕)須恵器(甗)石製磁石(白土)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末~6世紀初)
17	D4a3	N-27°-W	方形	2.18×1.97	3~10	平坦	-	-	-	-	-	炉1	-	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末~6世紀初)
18	D3a9	N-53°-E	方形	2.16×2.02	2~6	平坦	-	-	-	-	-	炉1	-	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末(5世紀後葉)
19	D3b8	N-44°-E	長方形	4.13×3.41	2~12	平坦	-	-	-	-	-	炉1	-	自然	土師器(坏・甕)山桃の種	古墳時代中期末(5世紀後葉)
20	D2c7	N-26°-W	長方形	5.96×4.47	25~30	平坦	全周	4	1	1	-	炉3	4	自然	土師器(坏・甕・ミニチュア)漆片骨 縄文土器片	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末~6世紀初)
21	D3e1	N-72°-W	長方形	5.99×4.31	35~40	平坦	一部	4	1	-	1	炉2	2	人為	土師器(坏・甕)須恵器(甗)磁石	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末)
22	B3e5	N-38°-E	長方形	5.00×3.52	40~50	平坦	全周	-	1	-	1	炉1	1	人為	土師器(坏・甕)須恵器(甗)磁石	古墳時代中期末(5世紀後葉)
25	D3i6	N-28°-W	方形	3.33×3.12	-	平坦	-	-	2	2	-	炉1	-	-	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末~6世紀初)
26	D3j5	N-20°-W	[方形]	[3.98×3.64]	13	平坦	-	-	3	-	-	炉1	-	人為	土師器(坏・甕)須恵器(甗)縄文土器	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末~6世紀初) 30号住居→26号住居
27	D3a3	N-67°-E	方形	3.80×3.63	15~20	平坦	-	-	1	1	-	炉1	-	人為	土師器(坏・甕・甗)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末)
28	D3j1	N-15°-W	方形	9.25×9.25	45~80	平坦	全周	7	2	-	1	炉2	13	人為	土師器(坏・甕)須恵器(甗)石製磁石 石製磁石(白土・備前石製品) 磨石原石	古墳時代中期末~後期初頭(6世紀初~前) 焼失

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設							覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈	間仕 切溝			
29	E3r7	N-78°-W	方 形	3.00×3.00	37~65	平坦	全周	4	—	—	1	電1	—	自然	土師器(坏・甕)	奈良時代(8世紀第1四半期)
30	D3t6	N-36°-W	[長方形]	[3.10×2.95]	12	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(甕)	古墳時代中期末(5世紀後葉)本跡→26号住
31	B3a3	N-6°-W	長方形	2.38×1.71	—	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末(5世紀後葉)
32	D2t5	N-33°-W	隅丸方形	2.50×2.50	—	平坦	—	—	—	—	—	—	—	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末(5世紀後葉)
34	E3b7	N-15°-W	不整形	2.32×2.08	40~45	平坦	—	3	—	—	—	—	—	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末(5世紀後葉)
37	E2c9	N-37°-W	長方形	3.42×2.51	15~28	平坦	—	—	1	1	—	—	—	人為	土師器(坏・高坏・甕)須惠器(甕)	古墳時代中期末(5世紀末葉)
38	E2a8	N-57°-W	長方形	3.65×3.23	20~30	平坦	ほぼ全周	4	1	1	1	—	—	人為	土師器(坏・甕)山桃の種縄文土器片	古墳時代中期末(5世紀後葉)焼失
39	E2r7	N-21°-W	長方形	6.90×5.90	35~40	平坦	全周	4	1	1	—	—	—	人為	土師器(坏・高坏・甕)須惠器(須惠器・甕)磁石・炭片	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末葉)焼失
40	E2c7	N-18°-W	方 形	3.26×3.26	14~20	平坦	—	—	1	—	1	—	—	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末葉)焼失
41	E2a6	N-8°-E	方 形	3.25×3.25	10~25	平坦	ほぼ全周	4	—	—	1	—	—	人為	土師器(坏・甕)鉄製品(刀子)	古墳時代中期末(5世紀後葉)
42	E2b4	N-7°-W	長方形	4.30×3.40	13~25	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末(5世紀末葉)41号土坑→本跡→6号整穴遺構
43	E2e4	N-25°-W	方 形	6.12×6.12	40~50	平坦	ほぼ全周	4	1	—	1	—	—	人為	土師器(坏・高坏・甕)須惠器(甕)石製模造品(勾玉・白土・有孔円板)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末葉)
44	E1g9	N-29°-W	方 形	7.82×7.82	27~38	平坦	ほぼ全周	4	1	—	1	—	—	人為	土師器(坏・高坏・甕)須惠器(甕)石製模造品(白土)炭化米・炭石	古墳時代中期末(5世紀後葉)焼失
46	E2t9	N-21°-W	方 形	7.40×7.40	20~40	平坦	ほぼ全周	4	1	6	1	—	—	人為	土師器(坏・高坏・甕)須惠器(甕)石製模造品(白土)炭化米・炭石	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末葉)
47	F2b9	N-22°-W	[方形]	[3.30×3.30]	—	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・高坏・甕)須惠器(甕)石製模造品(白土)炭化米・炭石	古墳時代中期末(5世紀後葉)焼失
48	F2c9	N-26°-W	方 形	7.84×7.36	30~38	平坦	ほぼ全周	4	1	—	1	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(坏・甕)石製模造品(白土)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末葉)焼失
49	F3e2	N-34°-W	長方形	3.40×2.40	6~12	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀後葉)焼失
50	F2h2	N-15°-W	長方形	6.87×5.08	15~30	平坦	一部	2	3	1	1	—	—	人為	土師器(坏・高坏・甕)須惠器(甕)石製模造品(白土)炭化米・炭石	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末葉)
51	F3d2	N-18°-W	長方形	2.80×2.56	15~20	平坦	—	—	2	4	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(高坏・甕)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末葉)
52	F2f9	N-1°-E	方 形	4.22×4.22	70~75	平坦	全周	4	—	—	1	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(坏・甕)	9世紀初頭
53	F3h1	N-25°-E	方 形	3.10×3.10	10~15	平坦	全周	2	—	—	—	—	—	人為	土師器(甕)	古墳時代中期末(5世紀後葉)
55	F2c6	N-5°-W	方 形	3.55×3.35	16~20	平坦	—	—	3	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(坏・甕)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末葉)
56	F2e4	N-20°-W	方 形	6.24×6.24	45~50	平坦	ほぼ全周	4	1	2	1	—	—	人為	土師器(坏・高坏・甕)須惠器(甕)石製模造品(白土)炭化米・炭石	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末葉)
58	F2j5	N-5°-W	方 形	3.53×3.53	46~60	平坦	全周	—	—	1	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末葉)焼失
59	F2i3	N-36°-W	方 形	3.62×3.37	35~50	平坦	一部	—	—	—	1	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(坏・甕)縄文土器	8世紀第4四半期 焼失
62	F2a6	N-25°-E	方 形	2.98×2.98	—	平坦	一部	—	—	—	1	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(坏・甕)縄文土器	8世紀第1四半期
63	F2g3	N-10°-E	[長方形]	[3.55×2.80]	—	平坦	—	2	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末(5世紀後葉)
64	F2h3	N-6°-E	[長方形]	[2.70×2.10]	—	平坦	—	—	1	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(坏身)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末葉)
65	F2j9	N-70°-W	方 形	3.46×3.33	10~18	平坦	—	—	—	—	—	—	—	自然	縄文土器	縄文時代前期前半
66	G2a5	N-46°-W	方 形	3.60×3.60	25~28	平坦	—	—	—	2	—	—	—	自然	縄文土器	縄文時代前期前半

表3 馬場遺跡竪穴遺構一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設							覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈	間仕 切溝			
1	D3t6	N-38°-W	長方形	3.42×2.51	58~65	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(坏蓋)石製模造品(白土)	古墳時代中期末(5世紀末葉)
2	D3g8	N-60°-E	長方形	3.32×2.69	35~47	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(坏蓋)	古墳時代中期末~後期初頭(5世紀末~6世紀初)
3	D2h5	N-50°-W	方 形	2.84×2.84	10~15	平坦	—	—	—	—	—	—	—	自然	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末 焼失
4	E3a8	N-11°-E	長方形	2.83×2.57	10~18	平坦	—	—	—	—	—	—	—	自然	土師器(甕)	古墳時代中期末
5	E3c3	N-32°-W	長方形	2.38×1.40	30~33	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(坏身)琥珀・玉 縄文土器片	古墳時代中期末
6	E2b4	N-7°-W	長方形	2.50×2.00	15~35	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末(5世紀末葉)41号土坑→22住→本跡
7	E3a5	N-10°-E	長方形	3.40×2.60	50~58	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(坏身)縄文土器片	古墳時代中期末(5世紀後葉)
8	F2h7	N-19°-W	不整形	3.75×3.75	75~80	平坦	—	—	—	2	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(甕)縄文土器片 石炭	古墳時代中期末(5世紀末葉)
9	F2h4	N-20°-W	長方形	3.65×3.00	20~25	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)須惠器(坏身)縄文土器片	古墳時代中期末(5世紀後葉)
10	F3e2	N-6°-W	方 形	2.50×2.50	20~25	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(坏・甕)	古墳時代中期末本跡→33号土坑焼失
11	E2i4	N-71°-E	隅丸方形	2.05×2.05	13	平坦	—	—	—	—	—	—	—	人為	土師器(甕)	古墳時代中期末末葉(5世紀末葉)

3 土坑

調査区全体から95基の土坑を確認した。ここでは、土坑の形状、規模、覆土の状態及び出土遺物等に特徴があるものについて文章で記載し、それ以外の土坑については一覧表に記載した。

第3号土坑 (第149図)

位置 調査区中央部, D3_j4区。

規模と平面形 径0.75mの円形。

壁 深さは27cmで、外傾して立ち上がる。

底面 平坦で、締まっている。

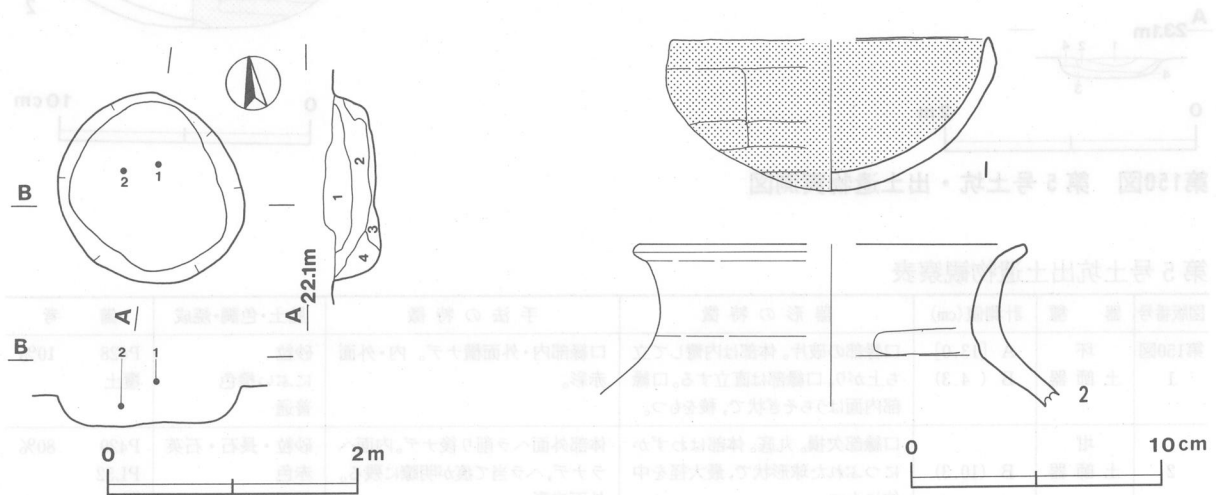
覆土 4層からなる自然堆積土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

遺物 本跡からは、縄文土器片3点、土師器甕の口縁部片1点、体部片39点、底部片1点、土師器杯の口縁部片1点、体部片4点が出土している。第149図1の土師器杯は中央部土層1から、2の土師器甕は中央部土層2から出土している。縄文土器片は混入したものである。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後半と思われる。



第149図 第3号土坑・出土遺物実測図

第3号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第149図 1	杯 土師器	A [12.8]	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内・外面赤彩。内・外面剝離。	砂粒 橙色 普通	P426 70% PL52 覆土
		B 6.1				
2	甕 土師器	A [15.8]	口縁部の破片。頸部はほぼ直立し、口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部内面ヘラナデ。	砂粒 にぶい黄橙色 普通	P427 30% 覆土
		B (6.5)				

第5号土坑 (第150図)

位置 調査区南部西側, F2₁区。

規模と平面形 径0.40mの円形。

壁 深さは15cmで, 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

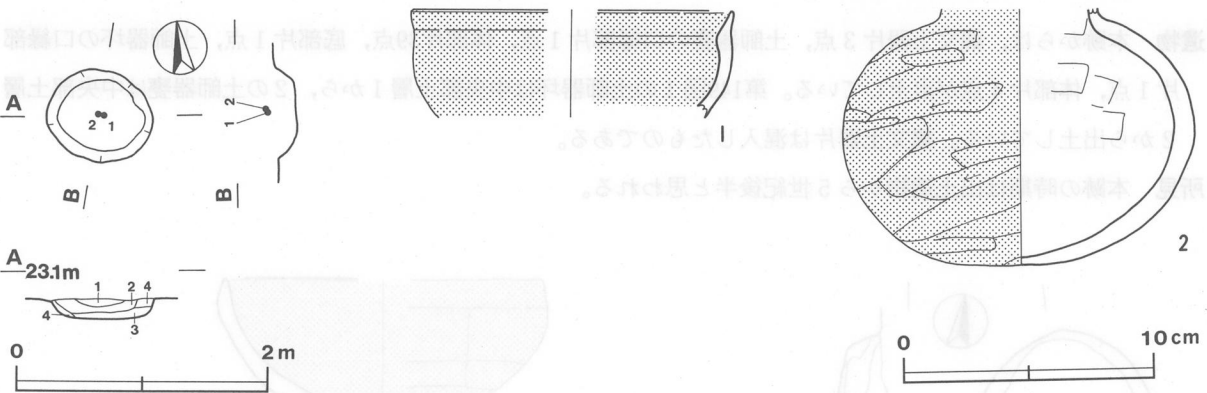
覆土 5層からなる。人為堆積土層である。

土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 明褐色 ローム中ブロック中量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量

遺物 本跡からは, 土師器甕の体部片7点, 土師器杯の口縁部片1点, 体部片3点, 口縁部を欠損した土師器
 埴1点が出土している。第150図1の土師器杯, 2の埴は中央部土層2から出土している。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後半と思われる。



第150図 第5号土坑・出土遺物実測図

第5号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第150図 1	杯 土師器	A [13.0] B (4.3)	口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は直立する。口縁部内面はうちそぎ状で, 稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい橙色 普通	P428 10% 覆土
2	埴 土師器	B (10.3)	口縁部欠損。丸底。体部はわずかにつぶれた球形状で, 最大径を中位にもつ。	体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ヘラナデ, ヘラ当て痕が明瞭に残る。外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色 普通	P429 80% PL52 覆土

第6号土坑 (第151図)

位置 調査区北部, D3₅区。

規模と平面形 径0.85mの円形。

壁 深さは28cmで, 外傾して立ち上がる。東側の壁には段がある。

底面 ほぼ平坦である。

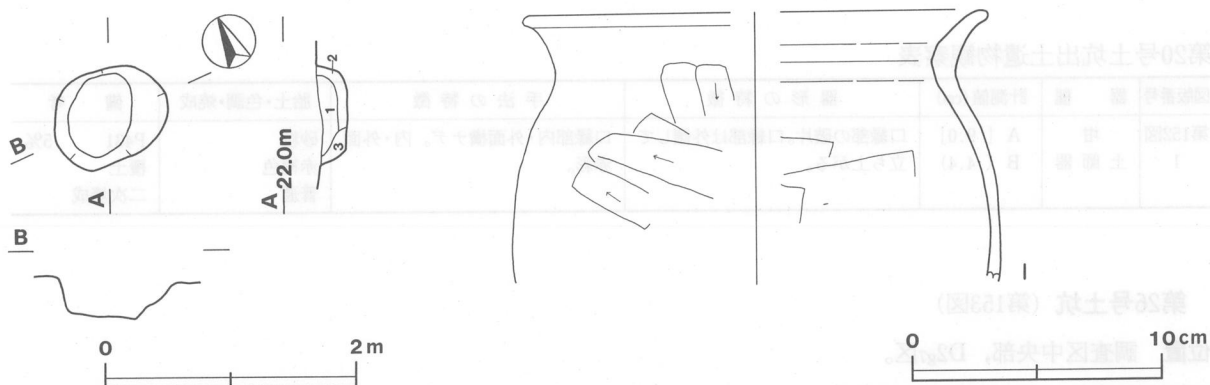
覆土 3層からなる。自然堆積土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量

遺物 本跡からは、縄文土器片 8 点、土師器甕の口縁部片 3 点、体部片 39 点、土師器環の口縁部片 10 点、体部片 13 点が出土している。第 151 図 1 の土師器甕は覆土上層からの出土である。縄文土器片は混入である。

所見 本跡の時期は出土遺物から 5 世紀後半と思われる。



第 151 図 第 6 号土坑・出土遺物実測図

第 6 号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 151 図 1	甕 土師器	A [18.3] B (10.9)	口縁部の破片。体部は丸みをおびて立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P430 10% 覆土

第 20 号土坑 (第 152 図)

位置 調査区北部中央, C3d8 区。

規模と平面形 一辺が 0.75m の方形。

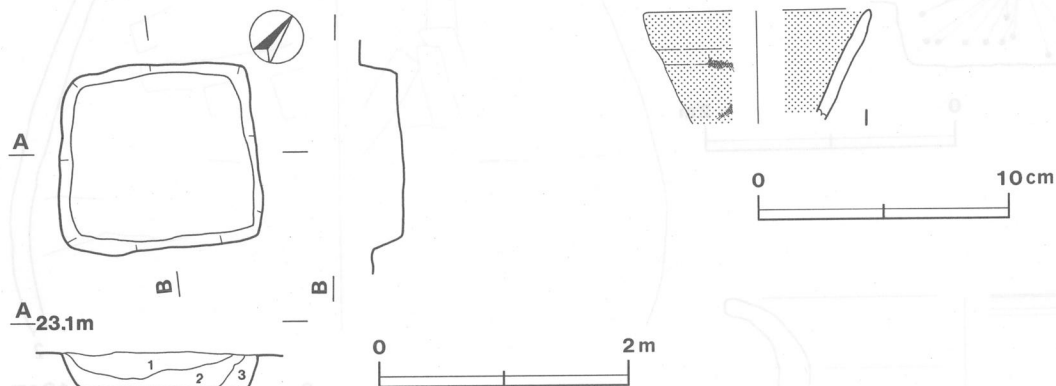
壁 深さは 36cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦で、締まっている。

覆土 3 層からなる。自然堆積土層である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子・炭化粒子少量



第 152 図 第 20 号土坑・出土遺物実測図

遺物 本跡からは、土師器甕の口縁部片1点、体部片40点、底部片1点、土師器坏の口縁部片5点、体部片30点、土師器埴の口縁部片1点が出土している。ほとんどの遺物は土層1からの出土である。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後半と思われる。

第20号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第152図 1	埴 土師器	A [9.0] B (4.4)	口縁部の破片。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P431 5% 覆土 二次焼成

第26号土坑 (第153図)

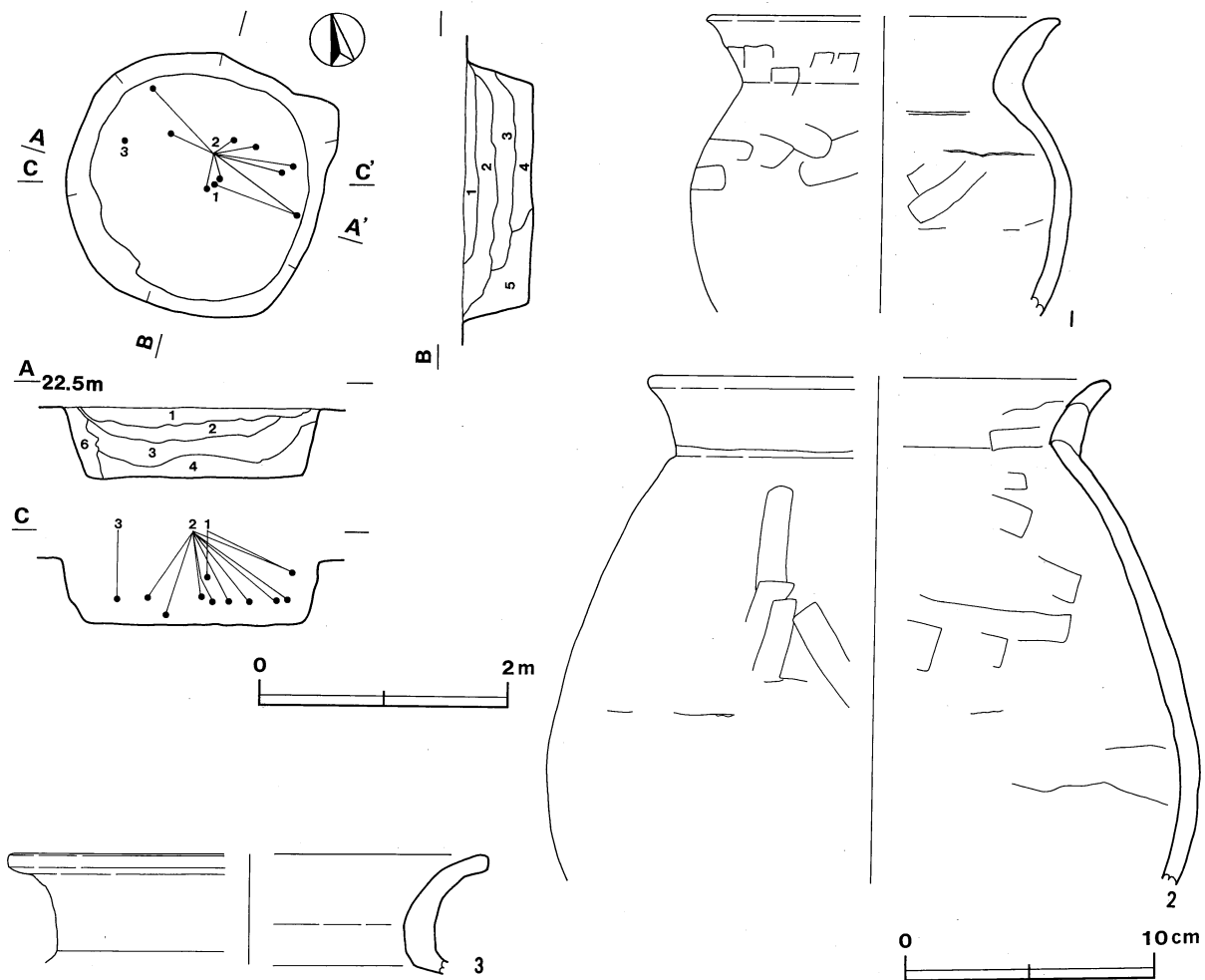
位置 調査区中央部, D2g7区。

規模と平面形 径2.03mのほぼ円形。

壁 深さは52cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 6層からなる。自然堆積土層である。



第153図 第26号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子多量, 炭化物・ローム中・小ブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子多量 |

遺物 本跡からは、土師器甕の口縁部片1点、体部片173点、土師器坏の口縁部片3点、体部片3点、土師器壺1点が出土している。ほとんどの遺物は土層2・3からの出土である。第153図1の壺は、中央部出土のものと南西壁側出土のものが接合したものである。2の甕は離れた位置から出土したものが接合している。3の甕は北西側から出土している。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後半と思われる。

第26号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図 1	壺 土師器	A [14.3] B (12.0)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部・体部外面へら削り。体部内面へらナデ。	砂粒 明黄褐色 普通	P433 35% PL52 覆土 二次焼成
2	甕 土師器	A [17.9] B (20.9)	体部上半から口縁部の破片。体部はなだらかな丸みをもって立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ。内面へらナデ。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P434 30% PL53 覆土
3	甕 土師器	A [19.2] B (4.8)	口縁部片。頸部はほぼ直立し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい黄褐色 普通	P435 10% 覆土

第34号土坑 (第154図)

位置 調査区南部東側, F3b6区。

規模と平面形 径0.84mの円形

壁 深さは30cmで、外傾して立ち上がる。

底面 凹凸がある。

覆土 4層からなる。

土層解説

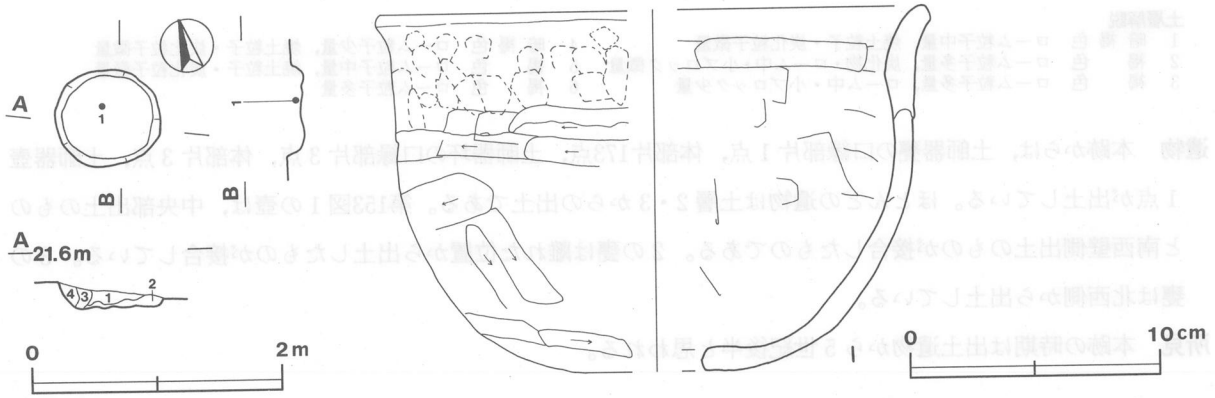
- | | |
|---------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 明褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 4 にぶい褐色 | ローム粒子多量 |

遺物 本跡からは、第154図1の土師器甕が中央部の底面から出土している。出土遺物は1の甕一点のみで、他には全くない。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後半と思われる。

第34号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第154図 1	甕 土師器	A [21.8] B 14.5	単孔式。体部は球形状で、丸みをもっている。口縁部は短く外反する。	口縁部直下内・外面横ナデ。口縁部外面指頭押圧。体部・底部外面へら削り。	砂粒 にぶい橙色 普通	P442 35% PL53 覆土



第154図 第34号土坑・出土遺物実測図

第39号土坑 (第155図)

位置 調査区中央部東側, D3c9区。

規模と平面形 長軸0.94m, 短軸0.69mの隅丸長方形。

長軸方向 N-37°-E

壁 深さは46cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

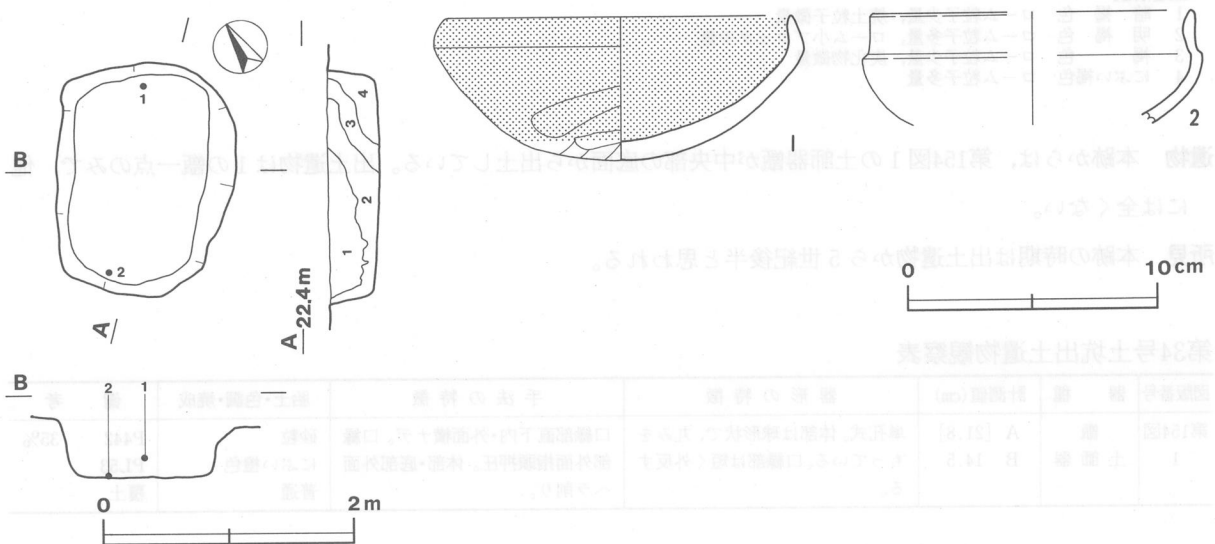
覆土 4層からなる。人為堆積土層である。

土層解説

- | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 炭化粒子・ローム大・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量 |

遺物 本跡からは, 土師器甕の口縁部片3点, 体部片59点, 土師器杯の口縁部片1点, 体部片6点が出土している。第155図1の杯は北東壁際土層2から出土している。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後半と思われる。



第155図 第39号土坑・出土遺物実測図

第39号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第155図 1	坏 土師器	A [13.8] B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤色、底部橙色 普通	P443 80% 覆土
2	坏 土師器	A [13.0] B (4.5)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・雲母 赤褐色 普通	P444 10% 覆土

第41号土坑(第156図)

位置 調査区南部西側, E2c5区。

重複関係 本跡は、第42号住居跡に掘り込まれており、本跡の方が古い。

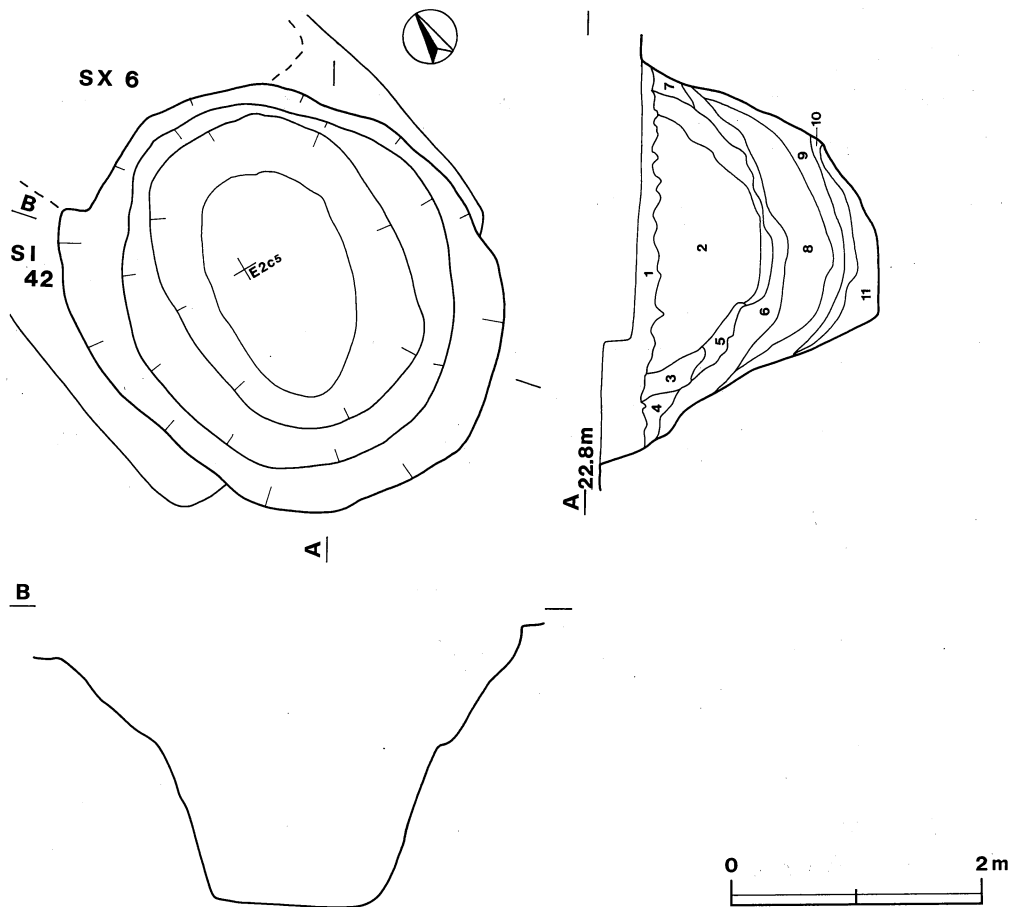
規模と平面形 長径3.70m, 短径3.20mの楕円形。

長径方向 N-14°-W

壁 深さは225cmで、外傾して立ち上がり、二段掘り込みである。

底面 平坦である。

覆土 11層からなる。人為堆積土層である。



第156図 第41号土坑実測図

土層解説

1	褐色	色	ローム小ブロック多量	6	黄褐色	色	ローム小ブロック中量
2	黒褐色	色	ローム粒子中量	7	黄褐色	色	炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
3	暗褐色	色	焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量	8	黄褐色	色	ローム小ブロック少量
4	褐色	色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	9	黄褐色	色	ローム中ブロック少量
5	にぶい黄褐色	色	ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量	10	暗褐色	色	ローム小ブロック少量
				11	褐色	色	ローム中ブロック中量

遺物 出土していない。

所見 本跡は、遺物が出土していないので時期は確定できないが、本跡を埋め戻した後に第42号住居跡を構築していることから5世紀後半以前の遺構である。形態からみると、井戸状遺構の可能性も考えられる。

第44号土坑 (第157図)

位置 調査区中央部, D3g7区。

規模と平面形 長径1.71m, 短径1.56mの楕円形。

長径方向 N-26°-W

壁 深さは38cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

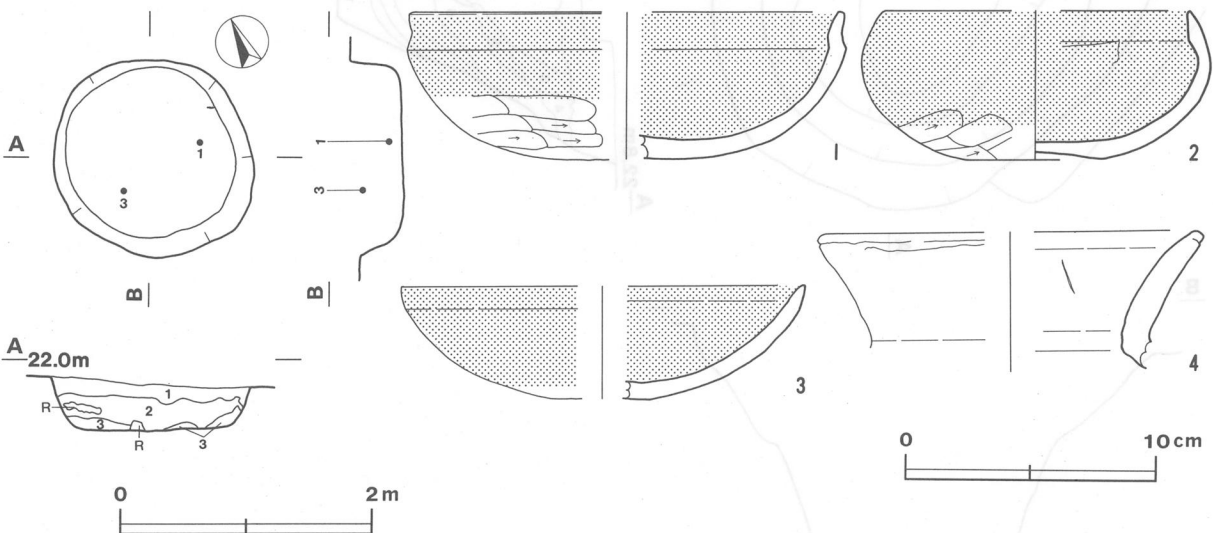
覆土 3層からなる。人為堆積土層である。

土層解説

1	暗褐色	色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
2	暗褐色	色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
3	褐色	色	ローム粒子中量, ローム中・小ブロック微量

遺物 第157図1・3の土師器甕は覆土中からの出土である。この他に、土師器甕の口縁部片2点, 体部片78点, 土師器環の口縁部片5点, 体部片6点が出土している。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後半と思われる。



第157図 第44号土坑・出土遺物実測図

第44号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 1	坏 土師器	A [17.2] B (5.9)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は短く内傾した後直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤色、底部橙色 普通	P446 40% PL53 覆土
2	坏 土師器	A [12.2] B 6.0 C 5.7	凹んだ底部から、体部は内彎して立ち上がる。口縁部は内傾する。口縁部内面はうちそぎ状で、稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面剝離。内・外面赤彩。	砂粒・白色微粒 赤褐色、底部褐色 普通	P447 40% 覆土
3	坏 土師器	A [16.2] B (4.5)	平底気味の底部から、体部は大きく開いて立ち上がり、全体的に扁平。口唇部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内面剝離。内・外面赤彩。	砂粒・長石 赤褐色 普通	P448 25% 覆土
4	甕 土師器	A [15.3] B (5.5)	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 にぶい橙色 普通	P449 3% 覆土

第50号土坑 (第158図)

位置 調査区中央部, D3h5区。

規模と平面形 径1.49mの円形。

壁 深さは42cmで、垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

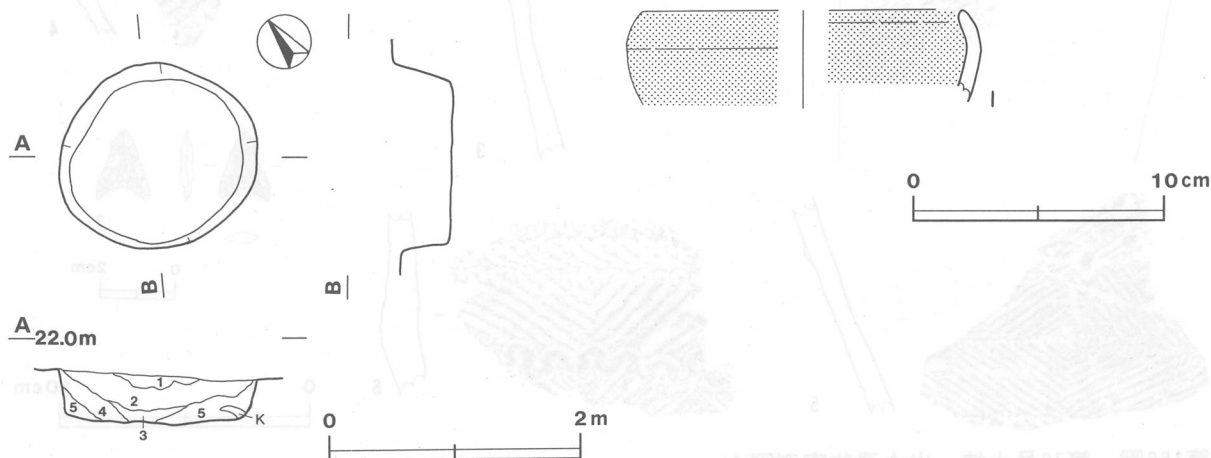
覆土 5層からなる。自然堆積土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 本跡からは、土師器甕の口縁部片1点、体部片53点、土師器坏の口縁部片7点、体部片23点、縄文土器片3点が出土している。ほとんどの遺物は覆土中層から下層にかけての出土である。縄文土器片は混入である。第158図1の坏は覆土中層からの出土である。

所見 本跡の時期は出土遺物から5世紀後半と思われる。



第158図 第50号土坑・出土遺物実測図

第50号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第158図 1	坏 土師器	A [13.0] B (3.8)	口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P442 35% 覆土

第76号土坑 (第159図)

位置 調査区南部中央, F2i8区。

規模と平面形 径1.14mの円形。

壁 深さ25cmで、垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 6層からなる。

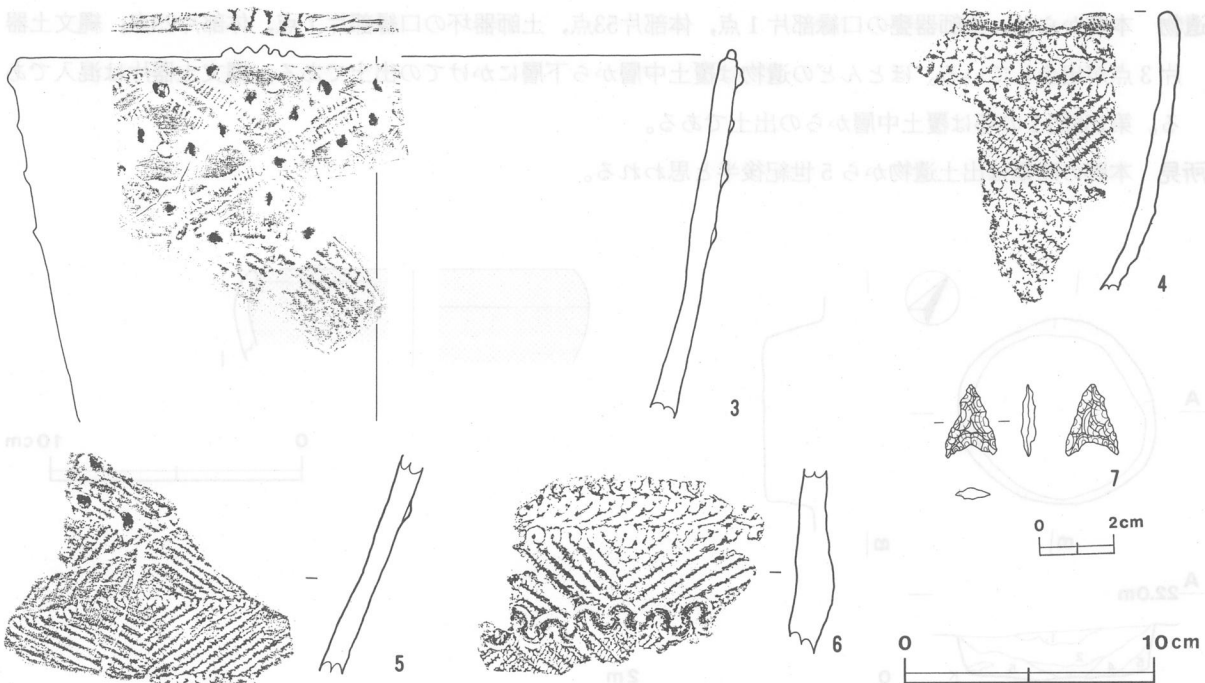
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子・ローム中ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量
- 4 褐色 ローム中ブロック多量
- 5 褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム中ブロック少量

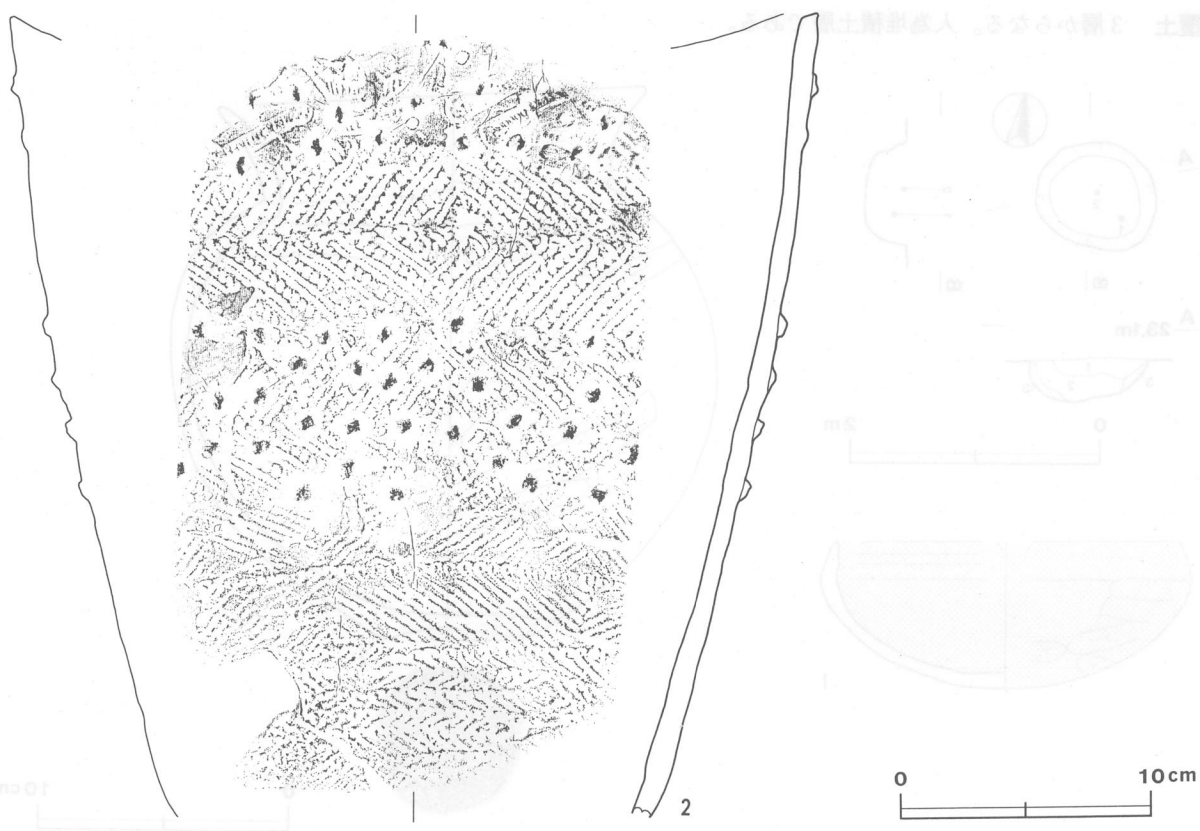
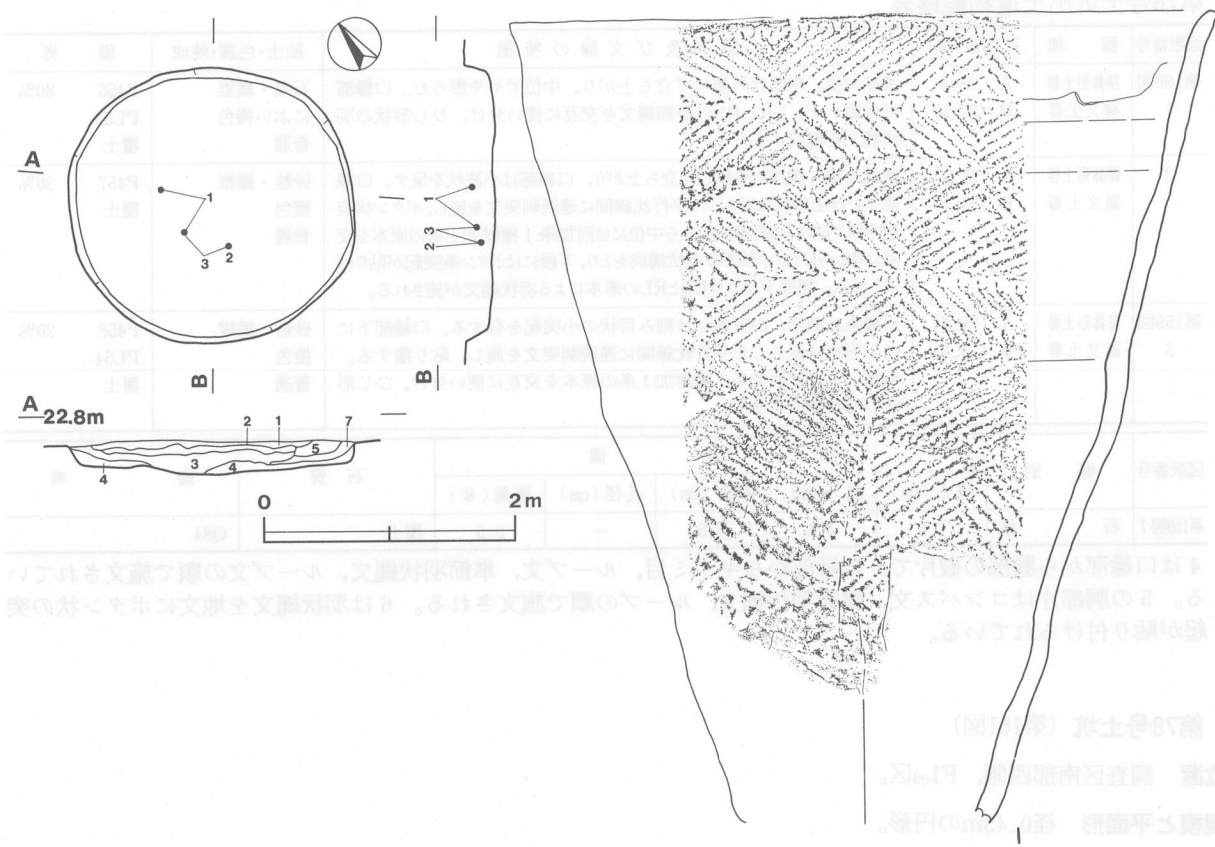
遺物 第159・160図1の縄文土器の深鉢は、上から押し潰されたような状態で本跡の中央部から出土している。

2, 3の深鉢も本跡中央部からの出土である。この他に、1~3と同一個体になると思われる体部片130点、底部片2点が覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は出土遺物から縄文時代前期と思われる。



第159図 第76号土坑・出土遺物実測図(1)



第160図 第76号土坑・出土遺物実測図(2)

第76号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図 1	深鉢形土器 縄文土器	A 28.4	底部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、中位でやや膨らむ。口縁部は指頭ナデ。LRとRLの単節縄文を交互に使い分け、ひし形状の羽状縄文を構成する。	石英・繊維にぶい褐色普通	P456 80% PL53 覆土
		B (32.5)			
2	深鉢形土器 縄文土器	A [32.2]	底部欠損。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は小波状を呈す。口縁部下には山形状に巡らした平行沈線間に連続刺突文を施し、ボタン状突起を貼り付ける。胴部上位から中位には附加条1種附加1条の原本を交互に使い分けひし形条の羽状構成をとり、下段にはボタン条突起が貼り付けられる。胴部下位にはLRとRLの原本による羽状縄文が施される。	砂粒・繊維 橙色 普通	P457 30% 覆土
		B (31.5)			
第159図 3	深鉢形土器 縄文土器	A [28.6]	口縁部の破片。口唇部には刻み目状の小突起を有する。口縁部下には山形状に巡らした平行沈線間に連続刺突文を施し、貼り瘤する。胴部上位には附加条1種附加1条の原本を交互に使い分け、ひし形状の羽状構成をとる。	砂粒・繊維 橙色 普通	P458 20% PL54 覆土
		B (14.5)			

図版番号	種別	計測値					石質	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第159図7	石 鏃	1.9	1.4	0.5	—	0.5	覆土	Q84

4は口縁部から胴部の破片で、口唇部からキザミ目、ループ文、単節羽状縄文、ループ文の順で施文されている。5の胴部片はコンパス文、単節羽状縄文、ループの順で施文される。6は羽状縄文を地文にボタン状の突起が貼り付けられている。

第78号土坑 (第161図)

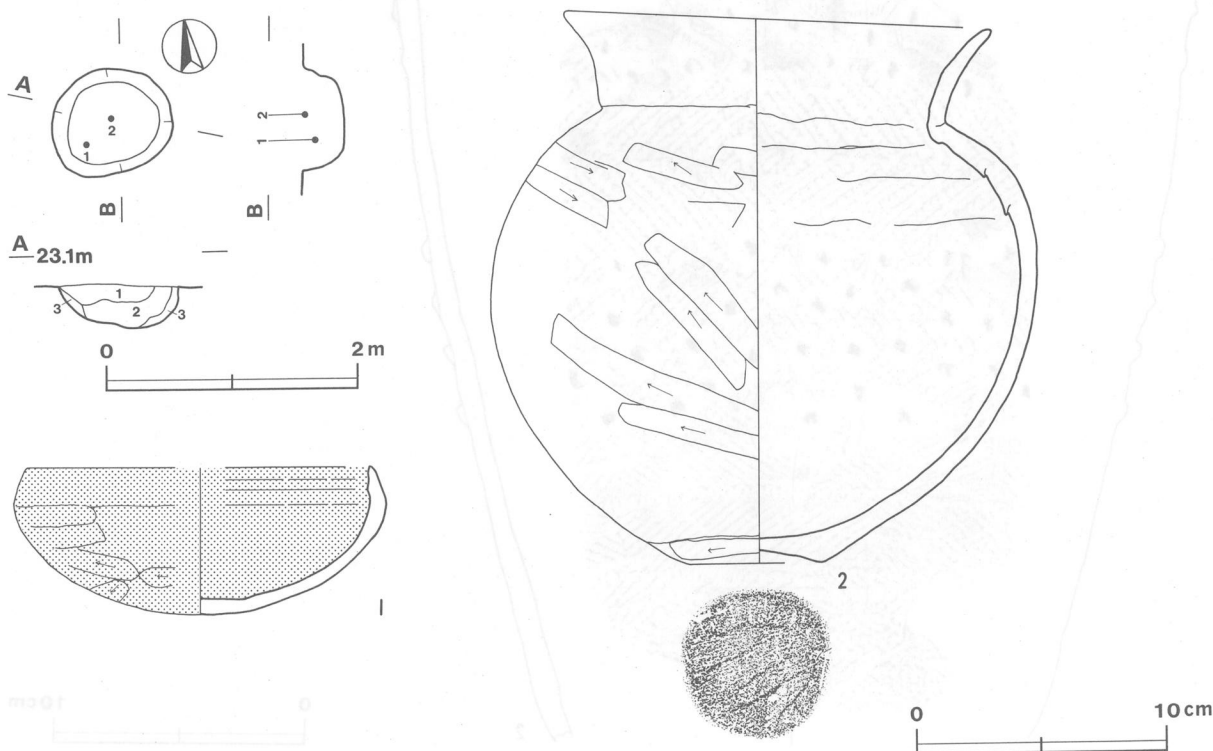
位置 調査区南部西側, F1e0区。

規模と平面形 径0.43mの円形。

壁 深さ33cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層からなる。人為堆積土層である。



第161図 第78号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量 3 褐色 ローム中ブロック多量, ローム小ブロック少量
 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量

遺物 第161図1の土師器坏は本跡南西部, 2の土師器甕は本跡中央部の土層2から出土している。2はほぼ完形に近く, 斜位の状態で出土している。

所見 遺物の出土状態からみて, 本跡は人為的埋め戻しの過程で遺物投棄が行われたようである。時期は出土遺物から5世紀後半と思われる。

第78号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第161図 1	坏 土師器	A 13.8 B 5.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は内傾する。口縁部内面に弱い稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り後ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P459 60% PL53 覆土
2	甕 土師器	A 17.0 B 22.2 C 5.4	平底で中央部が凹む。体部は球形状で, 口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。内面粘土の継ぎ目を残す。	砂粒・スコリア にぶい褐色 普通	P460 90% PL54 覆土, 外面煤付着

第84号土坑 (第162図)

位置 調査区中央部, F1j7区。

規模と平面形 長径1.70m, 短径1.37mの楕円形。

長径方向 N-30°-E

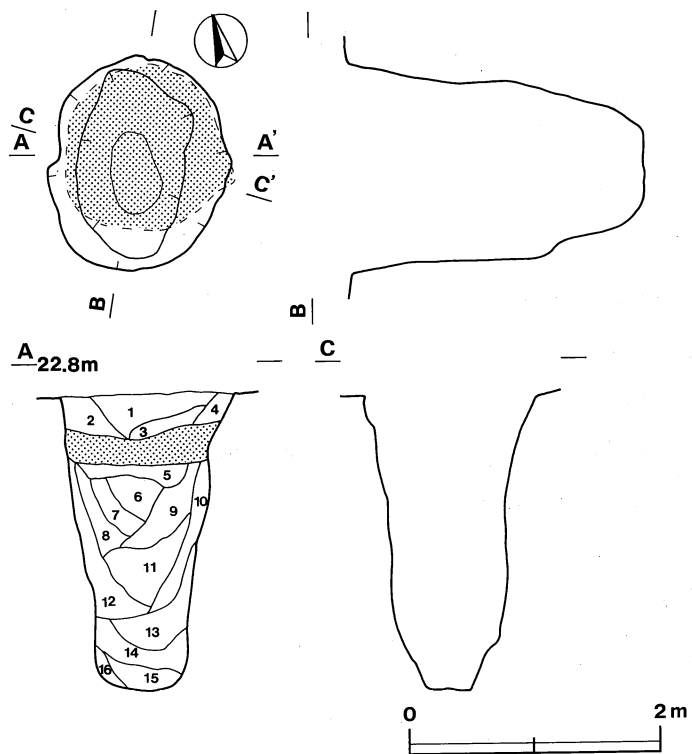
壁 深さ235cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 16層からなる人為堆積土層である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
 3 にぶい褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
 4 明赤褐色 焼土小ブロック・ローム中ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子微量
 5 赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子多量
 6 明赤褐色 焼土大・中ブロック多量
 7 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック中量
 8 にぶい褐色 ローム大ブロック多量
 9 褐色 焼土中ブロック・ローム小ブロック少量
 10 黄褐色 ローム小ブロック中量
 11 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
 12 褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量
 13 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量
 14 褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量, 炭化粒子少量
 15 暗褐色 炭化粒子多量, ローム小ブロック中量
 16 黄褐色 ローム小ブロック少量



第162図 第84号土坑実測図

遺物 出土していない。

所見 本跡は, 遺物の出土もなく, 時期も性格も不明である。深さや形態からみると, 井戸状の遺構の可能性も考えられる。

第93号土坑 (第163図)

位置 調査区南端部, G2a3区。

規模と平面形 長径1.73m, 短径0.79mの不整長楕円形。

長径方向 N-17°-E

壁 深さ31cmで, 外傾して立ち上がる。

底面 起伏があり, 凹凸している。

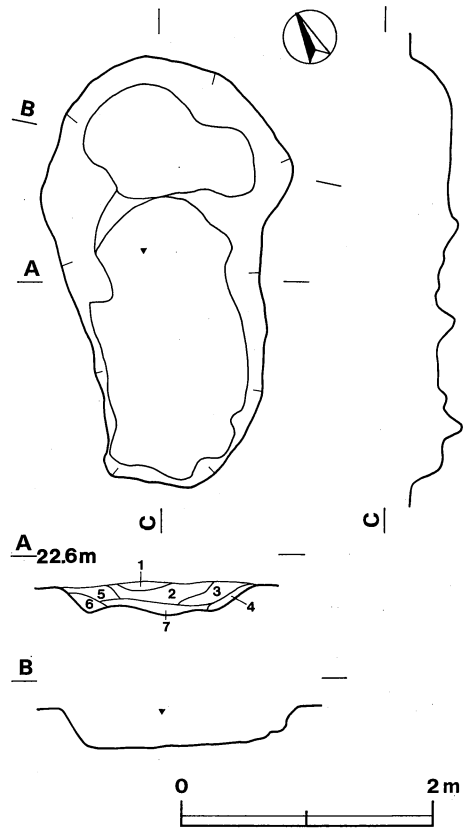
覆土 6層からなる。人為堆積土層である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 | 明褐色 | ローム中ブロック多量, 炭化物・炭化粒子少量 |
| 4 | 明褐色 | ローム大ブロック多量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム中・小ブロック・粒子中量, 炭化物少量 |
| 6 | 褐色 | ローム大・中ブロック中量, 炭化物少量 |

遺物 本跡の中央部の土層2から馬歯が出土している。土器類は出土していない。

所見 遺構の性格, 時期は不明である。



第163図 第93号土坑実測図

第95号土坑 (第164図)

位置 調査区南部西端, E1g9区。

重複関係 本跡は, 第44号住居跡を掘り込んでおり, 本跡の方が新しい。

規模と平面形 長径1.82m, 短径1.03mの楕円形。

長径方向 N-34°-W

壁 壁面は確認できなかった。

底面 皿状で, 起伏がある。

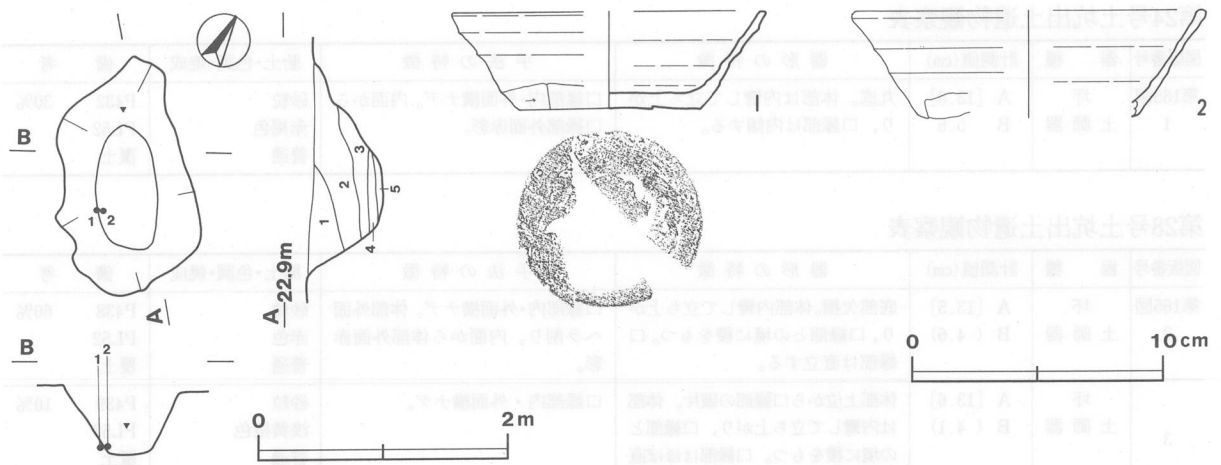
覆土 5層からなる。人為堆積土層である。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | 炭化物・炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量 |
| 4 | 明褐色 | ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量, ローム大ブロック微量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック少量 |

遺物 第165図1の須恵器杯は本跡中央部の底面から出土している。この他に, 須恵器杯の口縁部片9点, 体部片8点, 底部片4点と, 本跡北西部の底面上10cmのところから馬歯が出土している。

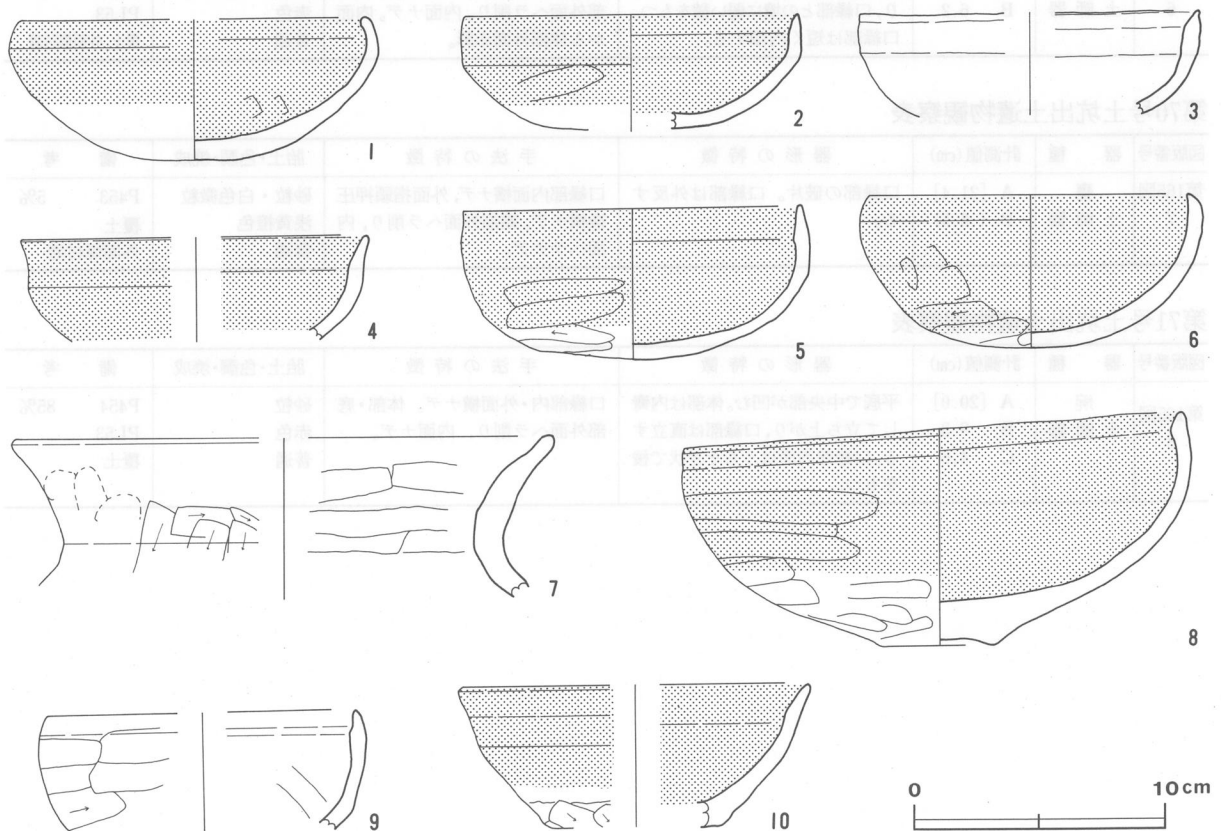
所見 本跡の時期は出土遺物から8世紀末と思われる。



第164図 第95号土坑・出土遺物実測図

第95号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第164図 1	坏 須恵器	A [13.8]	平底。体部は外に直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちへら削り。底部外面回転へら切り後雑なナデ。	長石・雲母 黄橙色 普通	P462 40%
		B 3.9				PL54
		C 7.2				覆土
2	坏 須恵器	A [13.8] B (4.3)	底部欠損。体部は外に直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちへら削り。	長石・白色微粒 灰色 普通	P463 10% PL54 覆土



第165図 土坑出土遺物実測図

第24号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 1	坏 土師器	A [13.8] B 5.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P432 30% PL52 覆土

第28号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 2	坏 土師器	A [13.5] B (4.6)	底部欠損。体部内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P438 60% PL52 覆土
3	坏 土師器	A [13.6] B (4.1)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 浅黄橙色 普通	P439 10% PL53 覆土
4	坏 土師器	A [13.8] B (4.1)	口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤褐色 普通	P440 10% 覆土

第29号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 5	坏 土師器	A 13.6 B 6.1	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面はうちそぎ状で、稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤色、底部浅黄橙色 普通	P441 70% PL53 覆土

第46号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 6	坏 土師器	A 12.8 B 6.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り。内面ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒・白色微粒 赤色 普通	P450 95% PL53 覆土、外面煤付着

第70号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 7	甕 土師器	A [21.4] B (6.5)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ、外面指頭押圧後横ナデ。頸部外面へラ削り、内面へラナデ。	砂粒・白色微粒 浅黄橙色 普通	P453 5% 覆土 外面煤付着

第71号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 8	碗 土師器	A [20.0] B 9.3 C 4.6	平底で中央部が凹む。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面はうちそぎ状で稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り、内面ナデ。	砂粒 赤色 普通	P454 85% PL53 覆土

第81号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 9	坏 土師器	A [12.5] B (4.0)	口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。内・外面赤彩。	砂粒 にぶい褐色 普通	P461 10% 覆土

第86号土坑出土遺物観察表

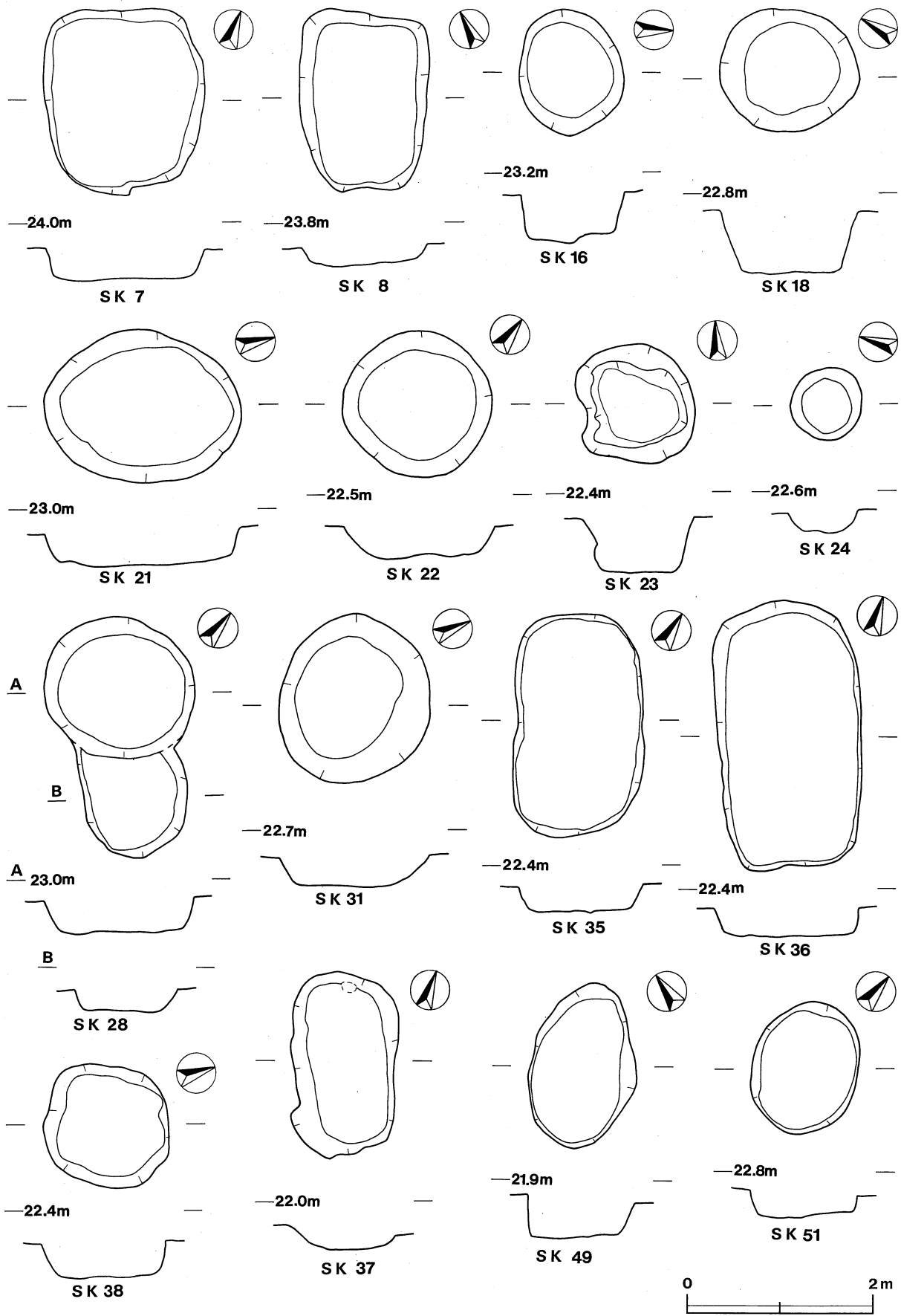
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第165図 10	碗 土師器	A [13.8] B 5.9 C [6.0]	平底で分厚い。体部は内彎して立ち上がり、中位に稜をもつ。	口縁部は外傾する。口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。内面から体部外面赤彩。	砂粒 赤褐色 普通	P455 25% PL53 覆土

表3 馬場遺跡土坑一覧表

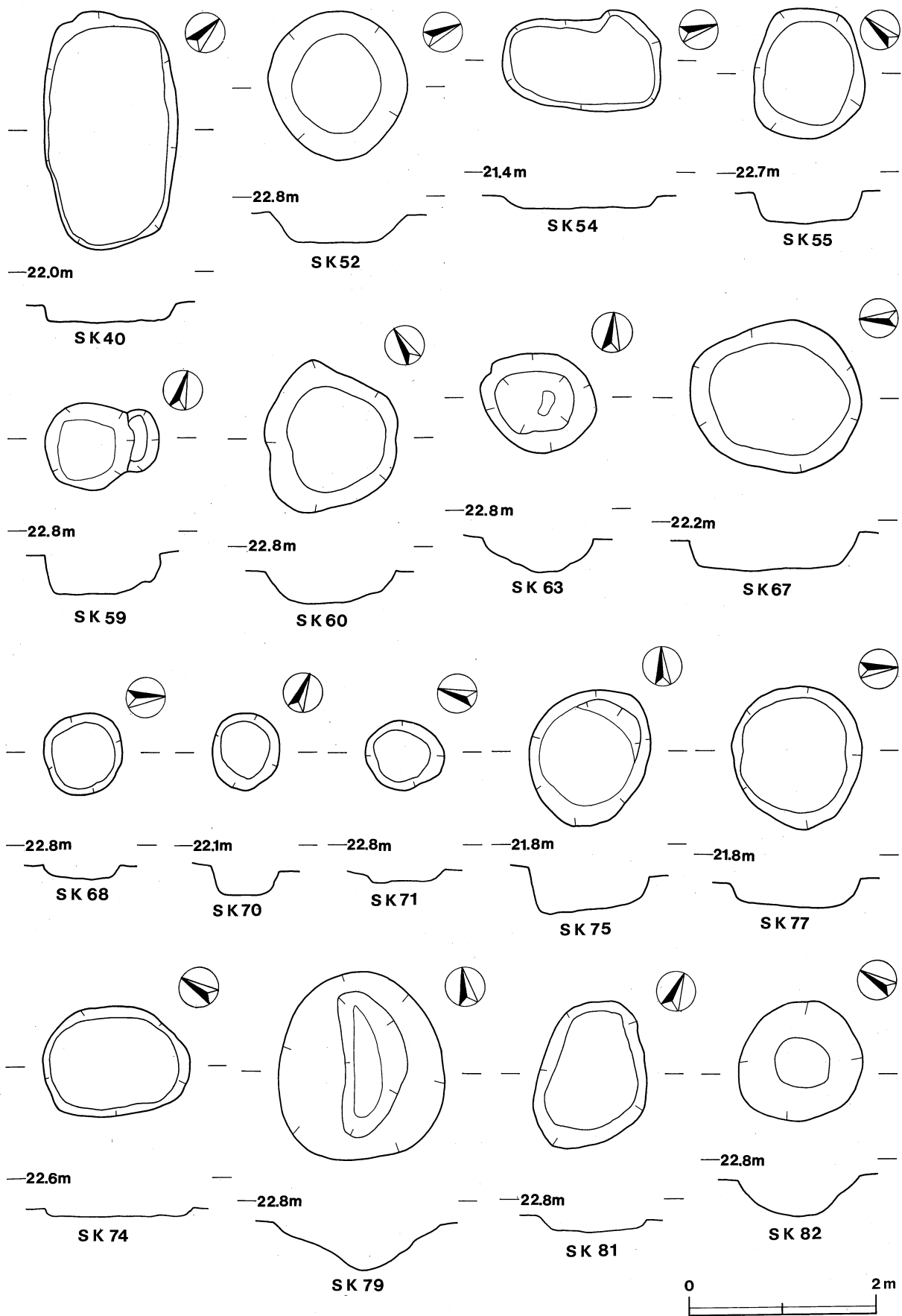
土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	B4 _{b1}	N-69°-W	楕円形	1.96×1.56	9	緩傾	平坦	自然	土師器坏片20点・甕片5点	
2	B3 _{a0}	N-15°-W	楕円形	1.70×1.52	62	外傾	平坦	人為	土師器坏片7点・甕片4点	
3	D3 ₄	N-40°-W	円形	0.78×0.71	27	外傾	皿状	自然	土師器坏片5点・甕片40点、縄文土器片4点	
4	D2 _{c2}	N-42°-W	不整形	1.90×0.62	82	垂直	平坦	人為	土師器甕片4点	
5	F2 _{f1}	N-38°-W	円形	0.41×0.31	15	緩傾	平坦	人為	土師器坏1点・埴1点、土師器坏片3点、甕片7点	
6	D3 ₅	N-58°-W	円形	0.88×0.83	28	緩傾	平坦	自然	土師器甕1点、土師器坏片23点・甕片42点、縄文土器片8点	
7	B3 _{c4}	N-23°-W	隅丸長方形	1.90×1.72	60	外傾	平坦	自然	土師器坏片8点・甕片5点	
8	B3 _{c1}	N-2°-W	不整長方形	1.05×0.77	20	緩傾	凹凸	人為		
9	B2 _{e0}	N-17°-E	楕円形	0.84×0.31	16	緩傾	皿状	自然		
10	B2 _{f7}	N-10°-E	不整形	0.52×0.46	38	緩傾	皿状	人為		
11	A2 ₃	N-34°-E	楕円形	0.50×0.40	5	緩傾	凹凸	自然		
12	C4 _{h1}	N-52°-W	不整楕円形	1.23×1.17	36	外傾	皿状	人為		
13	B3 _{f5}	N-55°-W	隅丸長方形	1.77×1.32	37	外傾	凹凸	自然		
14	C3 _{a1}	N-56°-W	楕円形	0.87×0.82	11	緩傾	平坦	人為		
15	D2 _{c1}	N-7°-E	楕円形	1.82×1.05	108	外傾	凹凸	人為	土師器坏片21点・甕片2点	
16	C2 _{b9}	N-78°-E	円形	0.68×0.55	53	外傾	凹凸	人為		
17	C2 _{b0}	N-65°-E	円形	0.59×0.54	25	緩傾	皿状	自然		
18	C2 _{e9}	N-30°-W	楕円形	0.75×0.67	68	外傾	皿状	人為		
19	E2 _{d5}	N-8°-W	不整楕円形	0.52×0.40	49	垂直	平坦	人為		
20	C3 _{d8}	N-50°-E	方形	0.79×0.74	36	外傾	平坦	自然	土師器埴1点、土師器坏片35点・甕片42点	
21	C3 _{e7}	N-12°-E	楕円形	1.06×0.61	40	外傾	平坦	人為	土師器坏片29点・甕片29点	
22	C2 ₃₈	N-47°-E	楕円形	0.81×0.79	37	外傾	平坦	人為	土師器坏片19点・甕片88点	
23	C2 _{h7}	N-49°-W	不整円形	0.68×0.62	60	緩傾	平坦	人為	土師器坏片7点	
24	C2 _{f1}	N-47°-W	円形	0.40×0.38	22	外傾	皿状	自然	土師器坏1点、土師器坏片7点・甕片4点	
25	D2 _{g5}	N-23°-W	円形	0.35×0.34	48	外傾	皿状	人為		
26	D2 _{g7}	N-30°-E	隅丸方形	2.06×2.03	52	外傾	平坦	人為	土師器壺1点・甕2点、土師器坏片6点・甕片177点	
28	F2 _{g9}	N-46°-W	楕円形	1.31×0.52	34	外傾	平坦	人為	土師器坏3点、土師器坏片13点・甕2点、縄文土器片1点	
29	D2 ₃₅	N-7°-E	楕円形	0.79×[0.70]	14	緩傾	平坦	自然	土師器坏1点、土師器甕片7点	
30	D2 ₁₇	N-65°-E	円形	0.41×0.39	30	外傾	凹凸	自然		
31	E3 _{d1}	N-47°-W	楕円形	0.89×0.82	32	外傾	平坦	人為	土師器坏片10点・甕片14点、縄文土器片1点	
32	D3 _{f2}	N-37°-W	円形	0.46×0.43	28	外傾	皿状	自然		
33	C2 _{e6}	N-20°-W	楕円形	0.88×0.41	60	外傾	皿状	自然		
34	F3 _{b6}	N-38°-W	円形	0.84×0.84	30	緩傾	平坦	人為	土師器甕1点	

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
35	D3cs	N-32°-W	不整楕円形	1.20×0.67	28	外傾	平坦	自然	土師器坏片 4点	
36	D3d7	N-27°-W	隅丸長方形	2.58×1.52	32	外傾	平坦	人為	土師器坏片26点・甕片105点	
37	D4b2	N-4°-E	隅丸長方形	1.93×1.12	20	緩傾	平坦	自然		
38	D4b1	N-70°-E	円 形	0.74×0.69	39	外傾	平坦	人為	土師器坏片12点・甕片19点	
39	D3cs	N-37°-E	隅丸長方形	0.94×0.72	46	外傾	平坦	人為	土師器坏片 2点, 土師器坏片 7点・甕片62点	
40	D3eo	N-43°-W	隅丸長方形	1.29×0.71	20	緩傾	平坦	人為	土師器坏片10点・甕片45点	
41	E2cs	N-14°-W	楕 円 形	3.70×3.20	225	外傾	皿状	人為		
42	D3gs	N-7°-E	不整楕円形	0.72×0.57	12	緩傾	皿状	自然		
43	E2fe	N-0°	楕 円 形	0.72×0.69	15	外傾	皿状	自然		
44	D3g7	N-26°-W	楕 円 形	1.71×1.56	38	外傾	平坦	人為	土師器坏片3点・甕片1点, 土師器坏片11点・甕片80点	
45	E2ie	N-10°-W	楕 円 形	0.54×0.50	52	外傾	凹凸	人為	土師器甕片 1点	
46	D4b1	N-42°-E	楕 円 形	1.16×0.79	14	緩傾	凹凸	自然	土師器坏片 1点, 土師器甕片 1点	
47	D3gs	N-55°-E	楕 円 形	0.88×0.72	28	緩傾	平坦	人為	土師器甕片 2点	
48	D3h7	N-56°-E	楕 円 形	0.40×0.30	33	外傾	皿状	自然	土師器坏片 3点・甕片 1点	
49	D3he	N-43°-E	楕 円 形	0.90×0.55	45	垂直	平坦	人為	土師器坏片40点・甕片39点	
50	D3hs	N-33°-W	楕 円 形	1.52×1.47	42	外傾	平坦	自然	土師器坏片1点, 土師器坏片30点・甕片54点, 縄文土器片 3点	
51	E2d7	N-42°-W	楕 円 形	0.72×0.57	30	外傾	平坦	自然	土師器坏片 2点・甕片 1点	
52	E2d7	N-60°-W	円 形	0.80×0.70	35	緩傾	平坦	人為	土師器坏片 2点・甕片 2点, 縄文土器片 7点	
53	D3i7	N-41°-E	楕 円 形	0.83×0.75	35	緩傾	平坦	自然		
54	D3is	N-21°-E	不 整 形	0.86×0.47	13	緩傾	平坦	人為	土師器甕片 4点	
55	G2a2	N-52°-E	隅丸長方形	1.40×1.18	33	外傾	平坦	人為	土師器坏片 6点・甕片13点	
57	F2a7	N-23°-E	楕 円 形	1.12×0.98	16	外傾	平坦	人為	土師器甕片16点	
58	F2c4	N-25°-E	楕 円 形	0.47×0.40	21	緩傾	平坦	人為		
59	E2fo	N-79°-E	不 整 形	0.60×0.46	43	外傾	平坦	人為	土師器甕片 7点	
60	E2eo	N-13°-E	不整楕円形	1.60×1.44	37	緩傾	皿状	自然	土師器甕片13点	
61	E3i7	N-43°-W	円 形	0.51×0.50	18	緩傾	皿状	人為	土師器坏片 2点	
62	E3e1	N-76°-E	楕 円 形	1.12×0.83	33	外傾	平坦	自然		
63	D3ao	N-80°-W	不整楕円形	0.64×0.54	35	緩傾	皿状	人為	土師器坏片 6点・甕片48点	
64	F2e9	N-40°-W	円 形	0.38×0.34	14	緩傾	平坦	自然	土師器坏平坦 1点・甕片 6点, 縄文土器片 1点	
65	E3j2	N-20°-W	円 形	0.40×0.37	15	緩傾	平坦	自然	土師器坏片 4点・甕片16点, 縄文土器片 1点	
66	E2do	N-5°-W	円 形	0.42×0.36	32	外傾	平坦	自然		
67	F3gs	N-21°-E	不整円形	0.93×0.82	40	緩傾	平坦	自然	土師器甕片 2点	
68	F2e9	N-51°-W	円 形	0.46×0.42	16	緩傾	平坦	自然	土師器甕片 1点	
69	E3a1	N-0°	不整円形	1.90×1.87	40	緩傾	皿状	人為	土師器甕片 1点	
70	E3a4	N-17°-W	楕 円 形	0.84×0.72	25	緩傾	皿状	人為	土師器甕片 1点	
71	F2is	N-13°-W	不整円形	0.42×0.37	14	緩傾	平坦	自然	土師器鉢 1点, 土師器坏片 9点・甕片14点	
72	D3ie	N-9°-W	楕 円 形	0.56×0.45	9	緩傾	皿状	人為	土師器甕片 2点	
73	E3as	N-30°-W	円 形	0.39×0.35	25	外傾	平坦	人為		
74	F2go	N-31°-W	楕 円 形	0.77×0.59	10	緩傾	平坦	人為		
75	E3ae	N-32°-E	不整円形	0.77×0.63	52	外傾	平坦	人為	土師器甕片25点	
76	F2is	N-42°-W	円 形	1.18×1.11	25	垂直	平坦	自然	縄文土器 3点, 土師器片136点	
77	E3i7	N-77°-E	円 形	0.77×0.68	32	緩傾	平坦	人為	土師器坏片 7点・甕片30点	
78	F1eo	N-59°-E	円 形	0.78×0.43	33	外傾	皿状	人為	土師器坏片 1点・甕片 1点	
79	E1ao	N-3°-E	楕 円 形	2.00×1.76	50	緩傾	皿状	自然		
80	F2ae	N-10°-E	楕 円 形	0.78×0.72	34	緩傾	皿状	自然		
81	F2a1	N-23°-W	楕 円 形	1.52×1.10	15	緩傾	平坦	人為	土師器坏片 1点	

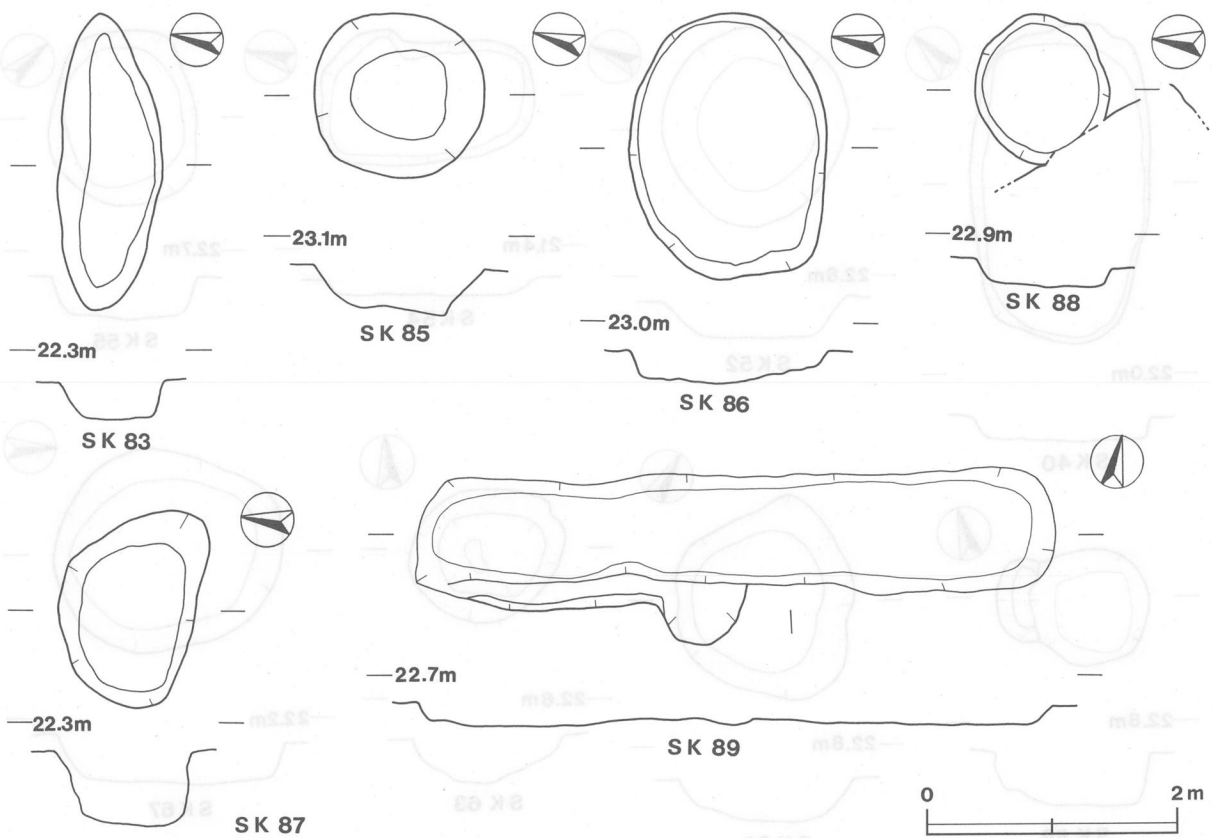
土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
82	E2 _{b1}	N-68°-W	円 形	0.68×0.62	44	緩傾	皿状	人為		
83	E2 _{a1}	N-74°-E	不 整 形	1.20×0.40	32	緩傾	平坦	自然	土師器甕片34点	
84	F1 _{j7}	N-30°-E	楕 円 形	1.70×1.37	235	外傾	平坦	人為		井戸か？
85	F1 _{d9}	N-37°-E	円 形	0.70×0.68	37	緩傾	皿状	人為		
86	F2 _{e2}	N-55°-E	楕 円 形	1.06×0.81	25	緩傾	皿状	人為		
87	F3 _{a4}	N-66°-W	楕 円 形	0.81×0.56	60	外傾	平坦	人為		
88	F2 _{i4}	N-62°-E	円 形	1.17×1.10	23	外傾	平坦	自然	土師器坏片7点・甕片22点	
89	G2 _{a6}	N-81°-E	楕 円 形	2.56×0.43	20	外傾	平坦	自然		
90	F2 _{b5}	N-3°-E	円 形	0.45×0.31	32	外傾	皿状	人為		
91	F2 _{b4}	N-27°-E	円 形	0.46×0.45	11	緩傾	平坦	人為		
92	F3 _{e3}	N-10°-W	円 形	0.44×0.40	27	緩傾	平坦	人為		
93	G2 _{a3}	N-17°-E	不 整 形	1.73×0.79	31	緩傾	凹凸	人為	馬歯	
94	F2 _{b5}	N-39°-W	不 整 形	0.55×0.44	11	外傾	平坦	人為		
95	E1 _{g9}	N-34°-W	不整楕円形	1.82×1.03	46	緩傾	凹凸	人為	須恵器坏2点, 須恵器坏片21点, 馬歯	44号住→本跡



第166图 土坑实测图(1)



第167图 土坑実測図(2)



第168図 土坑実測図(3)

4 炭焼窯跡

当遺跡から、炭焼窯跡1基を確認した。

第1号炭焼窯跡 (第169図)

位置 調査区中央部西端, D1j0区。

規模と平面形 全長2.82m, 最大幅2.14m

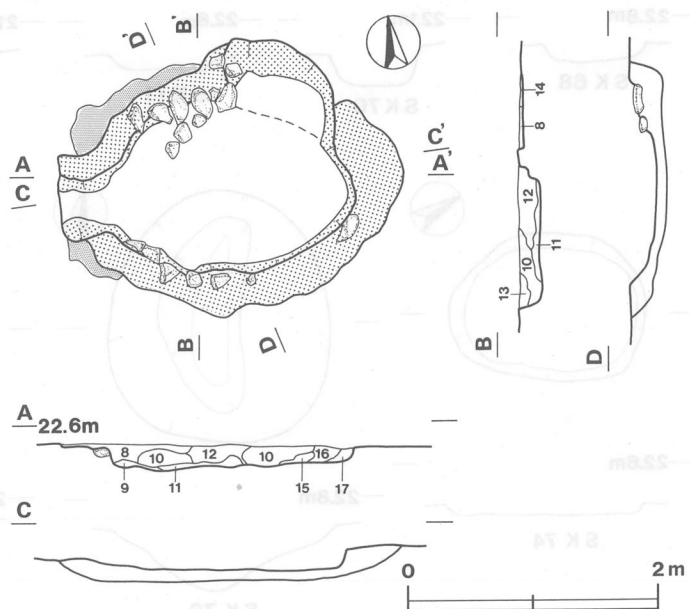
の楕円形である。断面は「U」字形である。

主軸方向 N-90°-E

壁 深さは15~20cmで、外傾して立ち上がる。約20cmの厚さで粘土を張り、壁面の一部は礫によって補強されている。壁面は熱を受け硬化している。

炭化室 底面はほぼ平坦で、焚口部付近はわずかに高くなる。窯底は、熱を受けて約10cmの厚さまで赤変硬化している。

焚口部 幅20cm, 長さ30cmの細い溝状である。



第169図 第1号炭焼窯跡実測図

煙道部 奥壁中央部に位置し、ほぼ垂直に立ち上がる。

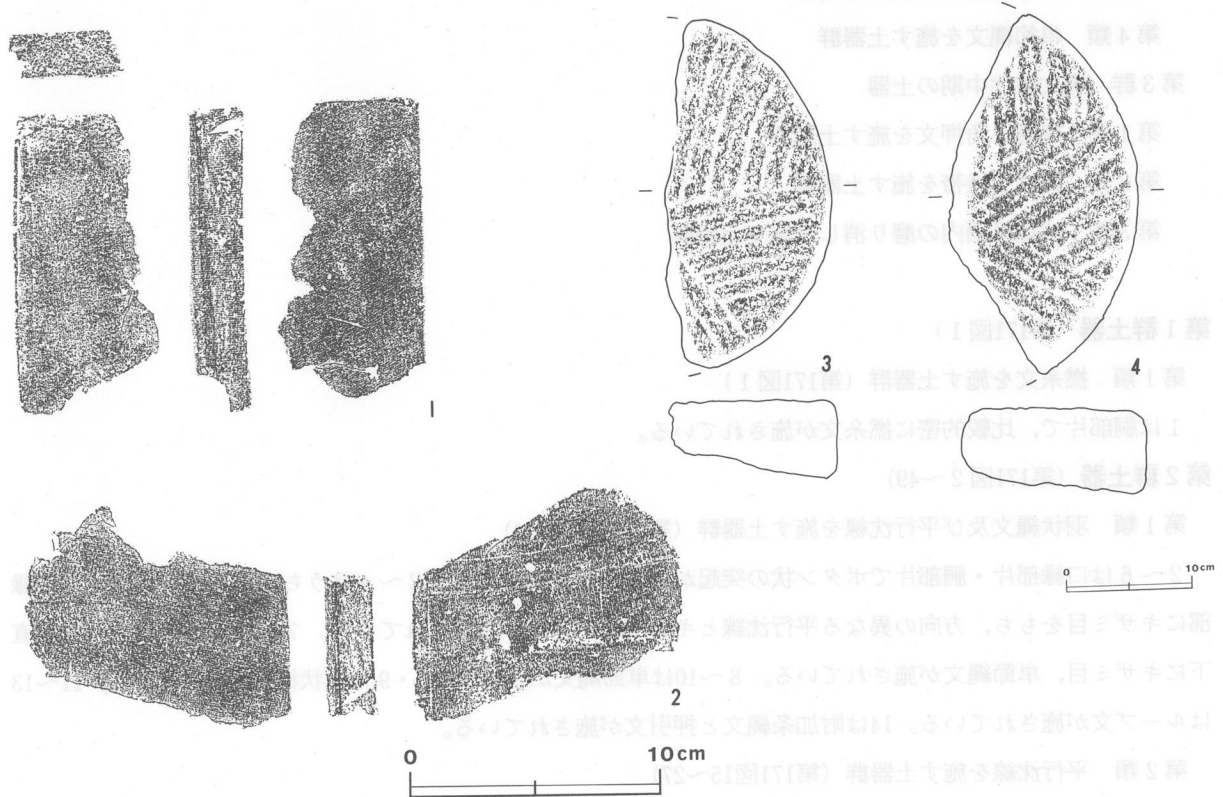
覆土 10層からなる。全体的に焼土ブロック、炭化物を含む赤褐色土が堆積しており、天井部の崩落による堆積と思われる。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 明赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子微量 | 6 明赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 赤褐色 | 焼土粒子多量, 炭化粒子微量 | 7 明赤褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量, 焼けた礫を含む。 | 8 暗赤褐色 | 炭化物中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化物少量, 炭化粒子微量 | 9 赤褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 焼けた礫を含む。 |
| 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物少量, 炭化粒子微量 | 10 赤褐色 | 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |

遺物 本跡からは、瓦片が出土している。天井部の崩落土と共に出土していることから、この瓦片は天井部の補強材として使われていたものと思われる。

所見 本跡の焚口部の前庭部は長径1.50m, 短径1.20mの範囲で硬化面が見られることや壁の硬化状況から、使用頻度は高かったと思われる。時期は遺構の形態から、近世以降と考えられる。



第170図 第1号炭焼窯跡出土遺物実測図

第1号炭焼窯跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第170図1	平瓦	(12.5)	(6.8)	2.0	185.3	天井崩落土内	T1 PL54 凸面にはなれ砂痕
2	平瓦	(11.7)	(9.4)	2.2	180.9	天井崩落土内	T2 PL54 凸面にはなれ砂痕
3	敷石	28.2	(13.2)	6.2	3539.7		Q87 石臼の転用
4	敷石	28.6	(15.4)	7.3	4372.5		Q88 石臼の転用

5 遺構外出土遺物

当遺跡の古墳時代、奈良・平安時代の遺構に混入して出土した縄文土器や石器、試掘時のグリット調査、遺構確認中に出土した遺物を本項では拓影図、実測図及び一覧表で掲載する。

(1) 縄文土器

当遺跡から出土した遺物は縄文時代前期が主体であるが、早期・中期の土器片も少量出土している。これらの土器については、以下の基準を用いて分類した。

第1群 縄文時代早期の土器

第1類 撚糸文を施す土器群

第2群 縄文時代前期の土器

第1類 羽状縄文及び平行沈線を施す土器群

第2類 平行沈線を施す土器群

第3類 貝殻腹縁文を施す土器群

第4類 単節縄文を施す土器群

第3群 縄文時代中期の土器

第1類 隆線と角押文を施す土器群

第2類 縄文と隆帯を施す土器群

第3類 沈線区画内の磨り消しを施す土器群

第1群土器 (第171図1)

第1類 撚糸文を施す土器群 (第171図1)

1は胴部片で、比較的密に撚糸文が施されている。

第2群土器 (第171図2～49)

第1類 羽状縄文及び平行沈線を施す土器群 (第171図2～14)

2～6は口縁部片・胴部片でボタン状の突起が貼り付けられている。2～4はうちそぎ状の口唇部で、口縁部にキザミ目を持ち、方向の異なる平行沈線とキザミ目で文様が構成されている。7は口縁部片で、口縁部直下にキザミ目、単節縄文が施されている。8～10は単節縄文が施され、8・9は羽状構成をとっている。11～13はループ文が施されている。14は附加条縄文と押引文が施されている。

第2類 平行沈線を施す土器群 (第171図15～27)

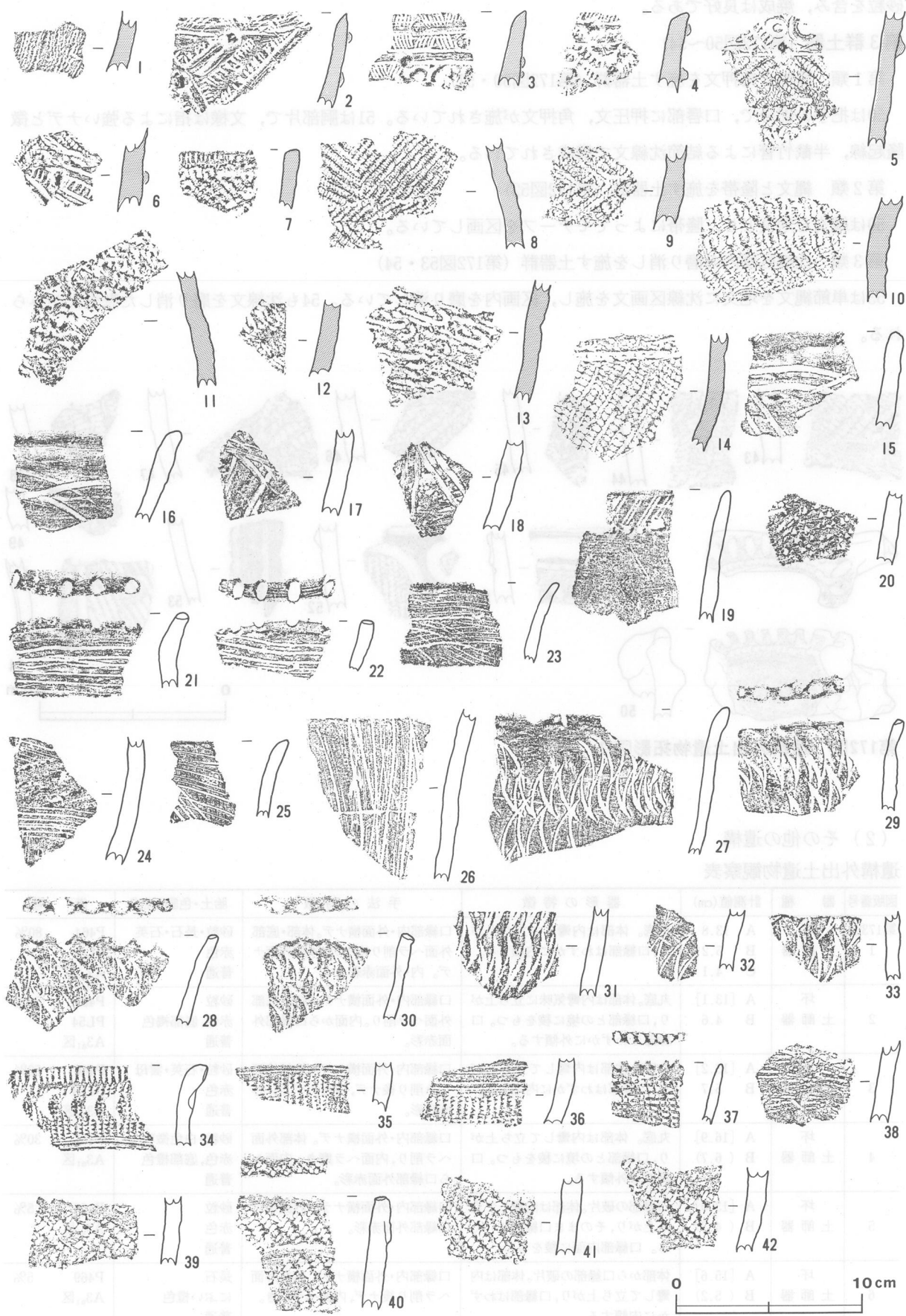
15～18の口縁部片・胴部片には半截竹管による沈線文、19の口縁部片には口縁部直下に斜位のキザミ目、20の胴部片には刺突文、21・22の口縁部片は平行沈線が施され、口唇部には棒状工具で押圧されている。23～25の口縁部片・胴部片は多方向の沈線が施されている。26の胴部片は縦方向に沈線が施されている。

第3類 貝殻腹縁文を施す土器群 (第171図27～38)

27～33は貝殻波状文が施され、28～30の口唇部は棒状工具により押圧されている。34は口縁部直下に縦位のキザミ目、腹縁圧痕文が施されている。35・36は胴部片で、34と同一固体と思われる。37の口縁部片は口唇部に棒状工具による押圧、口縁部に押引文が施されている。38は腹縁圧痕文が施された胴部片である。

第4類 単節縄文を施す土器群 (第171・172図39～49)

39～49は単節縄文が施されており、40は折り返し口縁で、口唇部に単節縄文が施されている。胎土に長石・



第171图 遺構外出土遺物拓影图(1)

砂粒を含み、焼成は良好である。

第3群土器 (第172図50~54)

第1類 隆線と角押文を施す土器群 (第172図50・51)

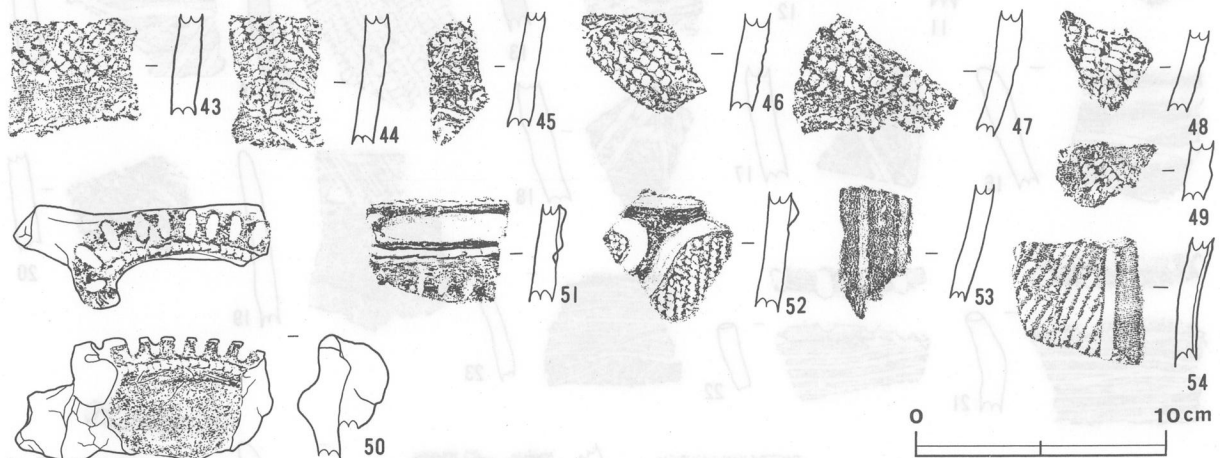
50は把手の部分で、口唇部に押圧文、角押文が施されている。51は胴部片で、文様は指による強いナデと微隆起線、半截竹管による結節沈線文で構成されている。

第2類 縄文と隆帯を施す土器群 (第172図52)

50は縄文を地文とし、隆帯によってモチーフを区画している。

第3類 沈線区画内の磨り消しを施す土器群 (第172図53・54)

53は単節縄文を地文に沈線区画文を施し、区画内を磨り消している。54も沈線文を磨り消した懸垂文がみられる。

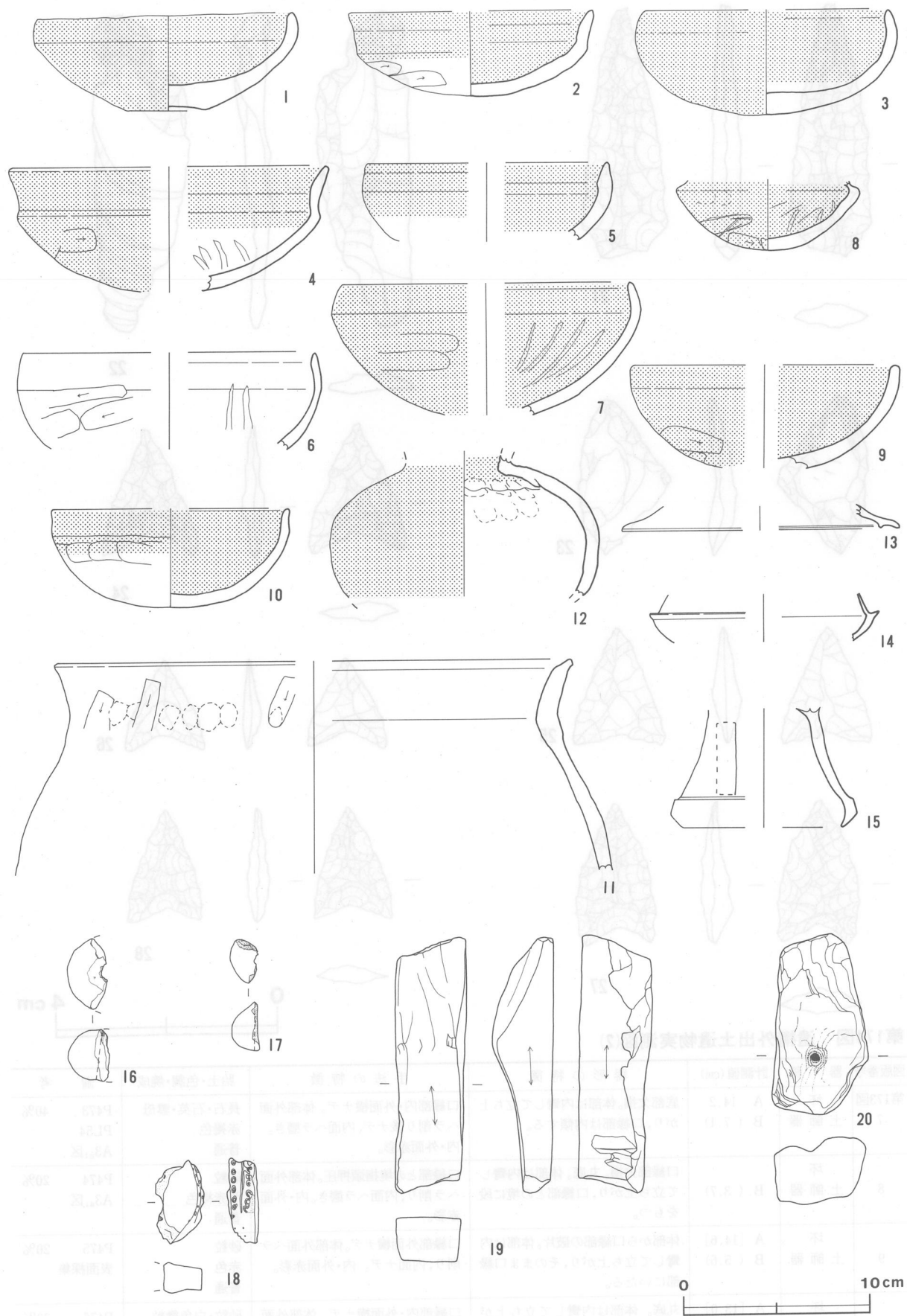


第172図 遺構外出土遺物拓影图(2)

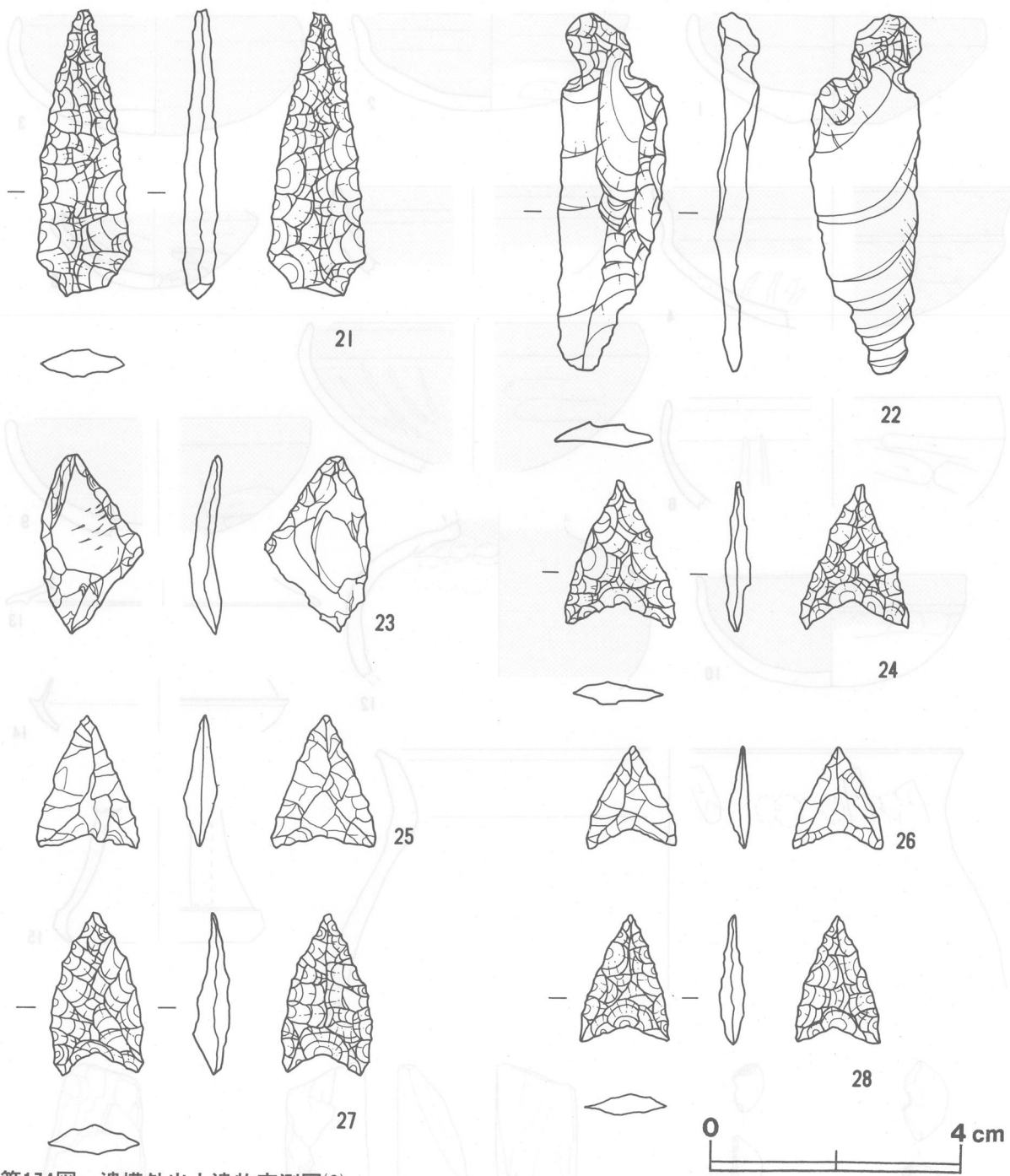
(2) その他の遺構

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 1	坏 土師器	A 13.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り後ナデ。体部外面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・長石・石英 赤色 普通	P464 80% PL54 A3 _{a1} 区
		B 5.2				
		C 4.1				
2	坏 土師器	A [13.1]	丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へら削り。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒 赤色、底部褐色 普通	P465 50% PL54 A3 _{a1} 区
		B 4.6				
3	坏 土師器	A [13.2]	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ、内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒・石英・雲母 赤色 普通	P466 50% PL54 A3 _{a1} 区
		B 5.7				
4	坏 土師器	A [16.9]	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り、内面へら磨き。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒・白色微粒 赤色、底部橙色 普通	P467 30% A3 _{a1} 区
		B (6.7)				
5	坏 土師器	A [13.0]	口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部内・外面横ナデ。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P468 5% A3 _{a1} 区
		B (4.2)				
6	坏 土師器	A [15.6]	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へら削り後ナデ、内面へら磨き。	長石 にぶい橙色 普通	P469 5% A3 _{a1} 区
		B (5.2)				



第173図 遺構外出土遺物実測図(1)



第174図 遺構外出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 7	坏 土師器	A 14.2 B (7.1)	底部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P473 40% PL54 A3a1区
8	坏 土師器	B (3.7)	口縁部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に段をもつ。	口縁部との境指頭押圧。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。内・外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P474 20% A3a1区
9	坏 土師器	A [14.6] B (5.6)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、そのまま口縁部にいたる。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面赤彩。	砂粒 赤色 普通	P475 20% 表面採集
10	坏 土師器	A [13.0] B (5.3)	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜をもつ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面剝離。内面から口縁部外面赤彩。	砂粒・白色微粒 橙色 普通	P476 30% Z3a1区

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 11	甕 土師器	A [27.9] B (11.4)	体部上位から口縁部の破片。体部はわずかに内彎して立ち上がる。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面指頭押圧後ヘラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・白色微粒にぶい黄橙色普通	P472 10% A3a1区
12	埴 土師器	B (7.6)	底部・口縁部欠損。体部は内彎して立ち上がる。体部上位に最大径をもち、肩が張る。	体部外面ナデ。頸部に粘土接合痕、内面指頭押圧。頸部内面から体部外面赤彩。	砂粒・長石赤褐色普通	PL471 60% PL54 Z3a1区
13	蓋 須恵器	A [15.0] B (3.0)	口縁部の破片。内面にかえりが付く。	口縁部内・外面クロコナデ。	雲母・白色微粒灰黄色普通	P327 10% 表面採集
14	坏身 須恵器	B (2.6)	体部から受部の破片。体部は内彎して立ち上がり、受部にいたる。受部は上外方に伸び、端部はシャープである。口縁部は内傾する。	内面クロコナデ。体部外面回転ヘラ削り。	長石灰色良好	P480 5% PL54 表面採集
15	高坏 須恵器	B (6.4) D [8.6]	脚部の破片。脚部は「ハ」の字状に緩やかに外反する。脚部端部は「く」の字状に内側に屈曲する。長方形の三方透かしをもつ。	外面クロコナデ。内面自然釉。	長石灰色良好	P479 5% 表面採集

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第173図16	土玉	3.8	—	2.9	0.8	18.7	表面採集	DP 9 PL54 破片
17	土玉	2.7	—	1.6	—	5.9	表面採集	DP10 PL54 破片
18	土製片状耳飾り	[3.0]	[1.7]	1.1	—	4.9	第48号住居跡覆土	DP 6 PL54 破片
19	砥石	13.9	3.9	2.5	—	210.3	表面採集	Q92 PL56 凝灰岩
20	凹み石	9.8	5.2	3.5	—	252.9	表面採集	Q93 雲母片岩
第174図21	有舌尖頭器	4.6	1.5	0.7	—	3.4	表面採集	Q90 PL57 頁岩
22	石匙	1.7	5.7	0.8	—	4.1	表面採集	Q71 PL57 頁岩
23	削器	2.8	1.7	0.6	—	1.7	表面採集	Q 2 PL57 頁岩
24	石鏃	2.4	1.8	0.5	—	0.9	第48号住居跡覆土	Q56 PL57 チャート
25	石鏃	2.1	1.7	0.5	—	0.8	第17号住居跡覆土	Q21 PL57 頁岩
26	石鏃	1.6	1.4	0.4	—	0.4	第21号住居跡覆土	Q24 PL57 チャート
27	石鏃	2.1	1.4	0.4	—	0.7	第58号住居跡覆土	Q82 PL57 チャート
28	石鏃	2.6	1.6	0.6	—	1.4	表面採集	Q89 PL57 チャート

第4節 まとめ

今回の調査で確認した遺構は、竪穴住居跡55軒、竪穴遺構11軒、土坑94基である。馬場遺跡の主体となる時期は古墳時代中期末から後期であり、竪穴住居跡50軒、竪穴遺構11軒がこれにあたる。その他は縄文時代前期前半に属する住居跡2軒、土坑1基、奈良・平安時代（8世紀前半）の住居跡4軒である。

馬場遺跡の主体となる古墳時代中期末から古墳時代後期の住居跡形態は多様性があり、特に、小型住居跡には通常の居住を目的とした住居とは考えにくいものがあった。そこで、ここではこれらの小型住居跡と竪穴遺構について、古墳時代中期末から後期の集落変遷と土器様相にふれてまとめとする。

1 小型住居跡と竪穴遺構について

当遺跡の竪穴住居跡及び竪穴遺構は、支柱穴・出入りロピット・貯蔵穴・炉・間仕切溝等の内部施設を有する通常の大・中型住居跡（Aタイプ）、床面積が10㎡前後の小型住居跡のうち、わずかに火を受けた程度の痕跡を残す炉を付設するだけで居住を目的とするには躊躇するもの（Bタイプ）、床面積に対して大型で複数の貯蔵穴をもつもの（Cタイプ）、そして内部施設を全くもたない竪穴遺構（Dタイプ）がみられる。

B～Dタイプの住居跡や竪穴遺構から出土する遺物の大部分は破片ではあるが、土師器甕や甑である。これらには煤が付着しているものも多い。Bタイプのように炉があまり使用されていない状態を示しているにもかかわらず煤が付着しているということは、Aタイプの住居で煮炊きをして、Bタイプの住居を倉庫的役割としていたことを連想させる。あるいは、Bタイプの住居でも炉の使用頻度が高くブロック状に硬化している場合は、竈屋の建物として使用していた可能性も考えられる。⁽¹⁾Cタイプについては床面積の半分以上を貯蔵穴が占めていることと炉をもたないということ、Dタイプはすべての遺構で床面の硬化が全くみられないうえに内部施設がないということから、居住目的ではなく倉庫的機能の建物と考えたい。

以上のことから、Aタイプの住居跡とB・C・Dタイプの住居跡及び竪穴遺構は一単位の構成として存在していたものとして、集落の変遷を検討した。

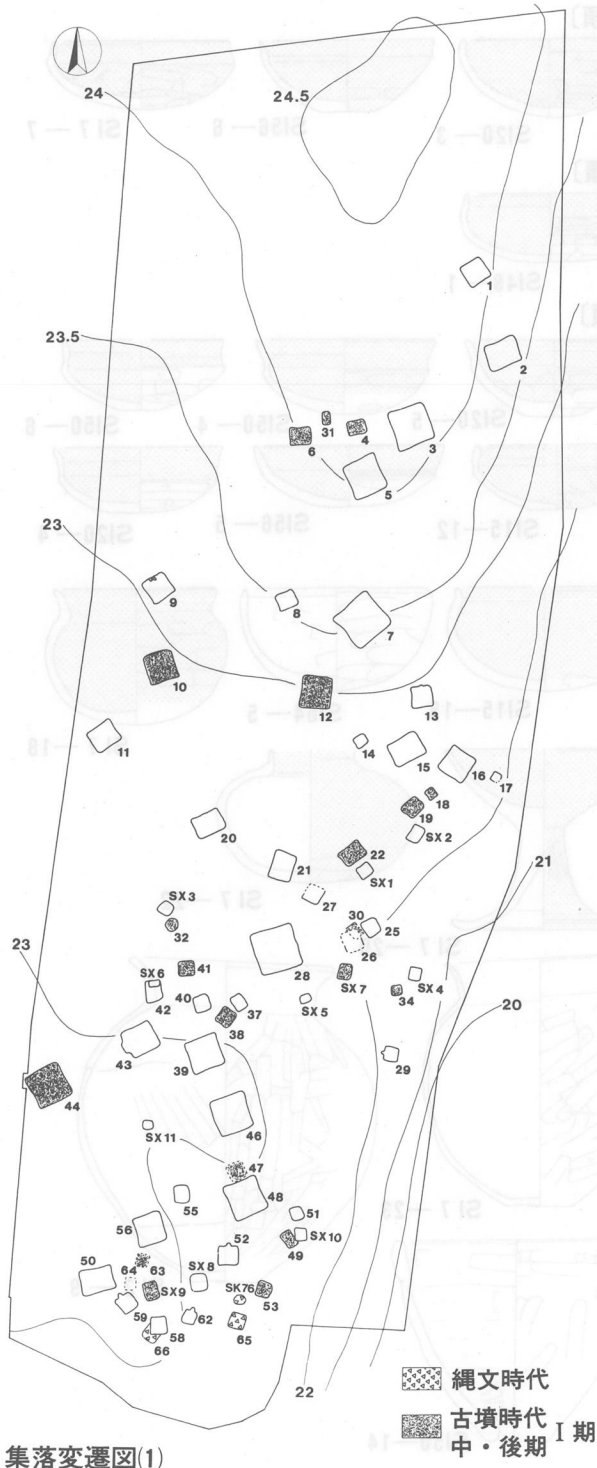
2 「古墳時代中期末から後期」の集落と出土遺物

当該期に属する竪穴住居跡50軒、竪穴遺構11軒のうち、竪穴住居跡49軒、竪穴遺構11軒からはいわゆる「和泉式期」から「鬼高式期」の過渡期の様相を呈する土師器やTK216型式、TK208型式、TK23型式、TK47型式を中心とする須恵器⁽²⁾が出土しており、5世紀後葉から6世紀初頭の時期にあてはめることができる。これに続く遺構は、1、2型式の時間経過が考えられる第13号住居跡1軒である。これらを住居跡の形態や土師器の形態変化等から5期（I～V期）に細分することができる。なお、第3・5・7・11号竪穴遺構は出土遺物が極少量のため時期区分が困難なため細分から除いた。

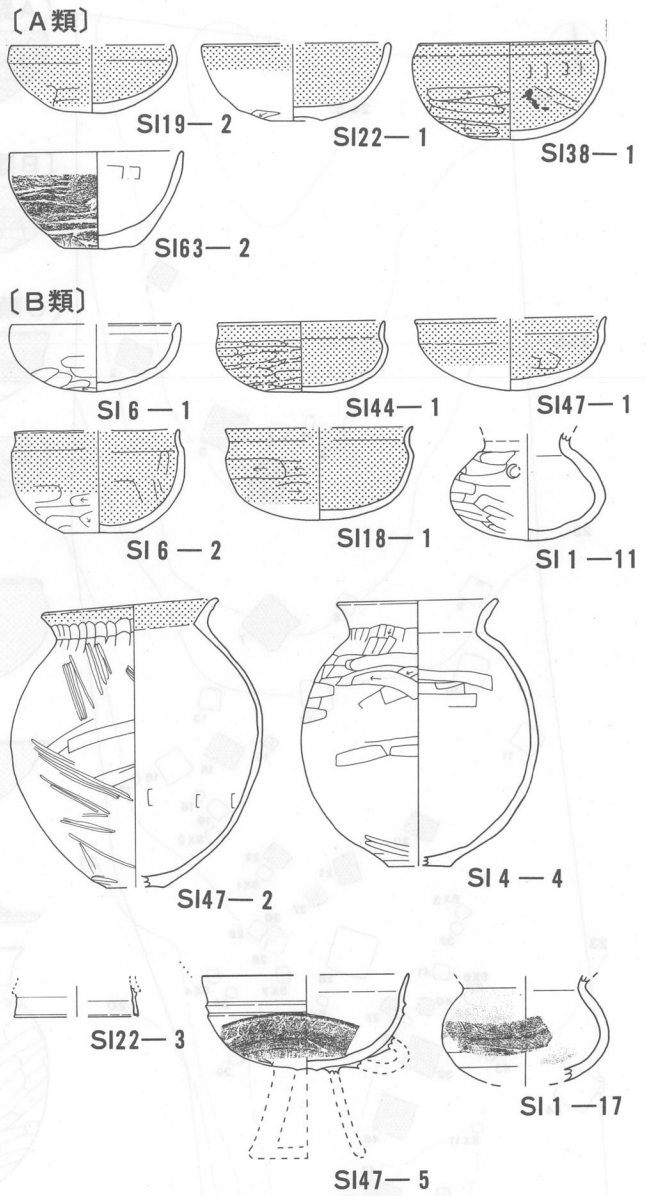
I 期

本期の遺構は第4、6、10、12、18、19、22、30、31、32、34、38、41、44、47、49、53及び63号住居跡と第7、9号竪穴遺構の20軒が挙げられる。

床面積が50㎡を超える第44号住居跡や、35～45㎡の第10・12号住居跡は、いわゆる大型住居跡であり、標高23mの台地上にN-7～29°-Wの主軸方向を示し、1軒一単位の構成で存在する。これらの住居には、支柱穴・出入りロピット・貯蔵穴・炉・間仕切溝などの内部施設が存在するAタイプである。



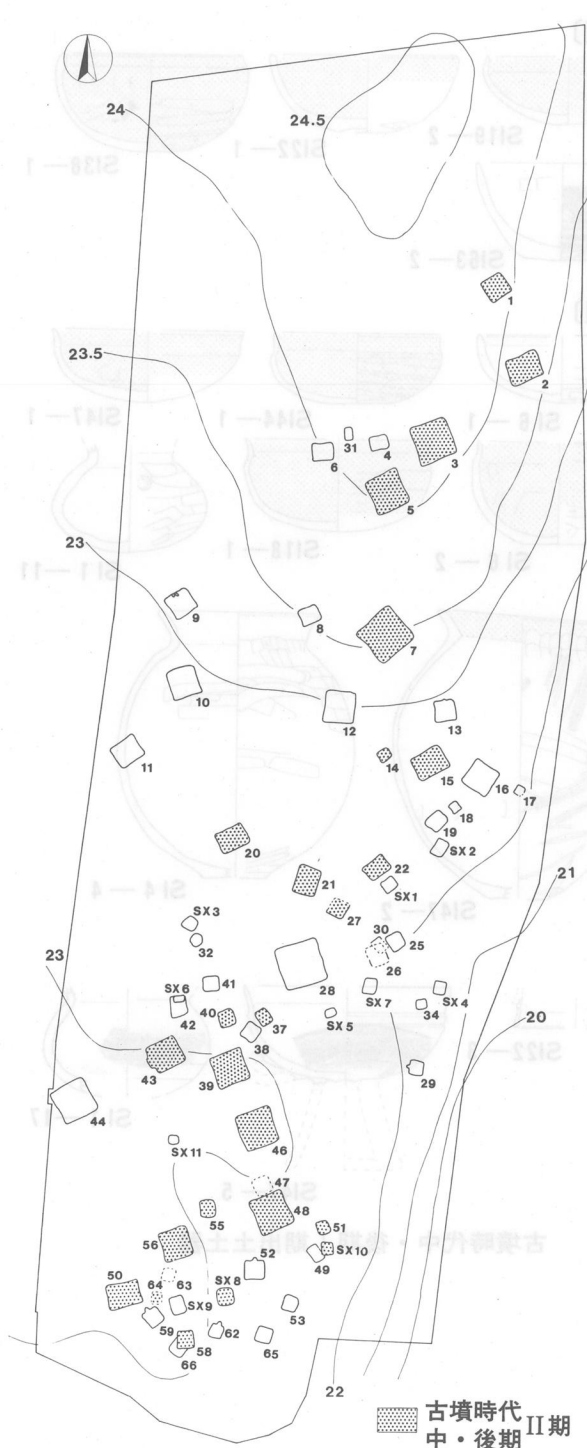
集落変遷図(1)



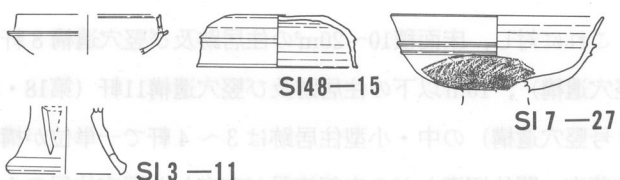
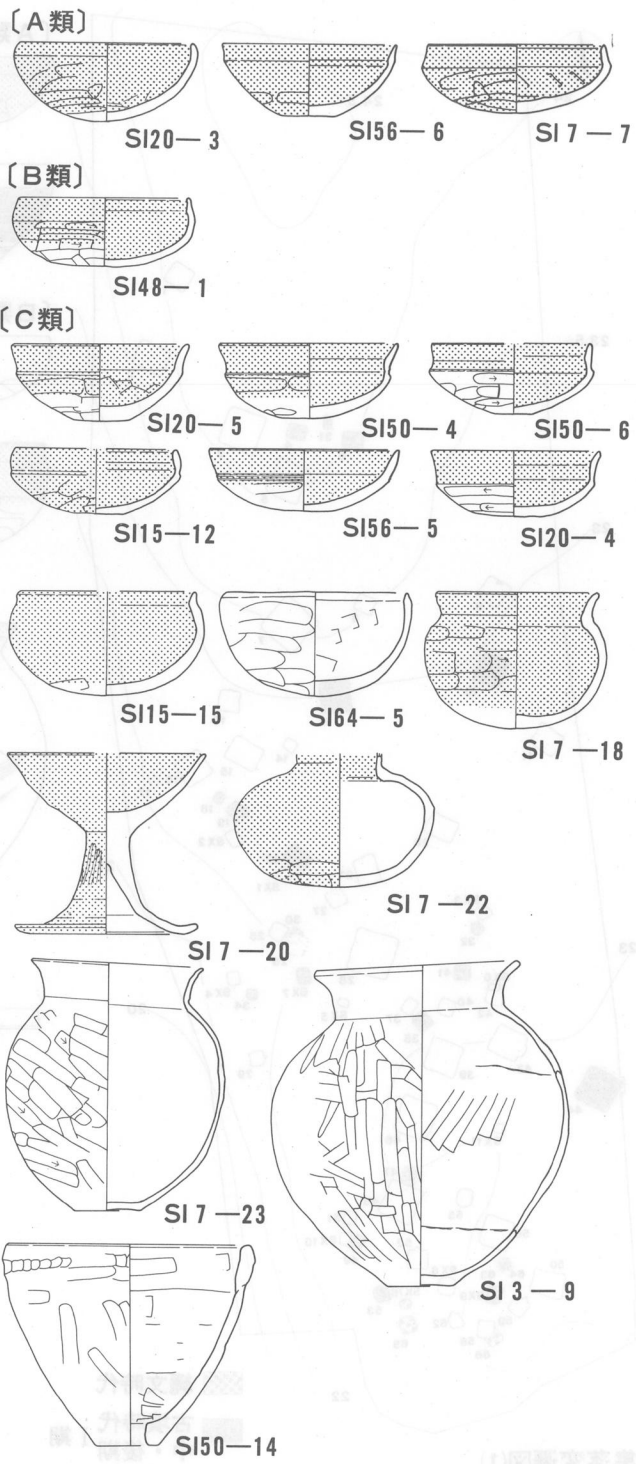
古墳時代中・後期Ⅰ期出土土器

これに対し、床面積10~20㎡の住居跡及び竪穴遺構8軒（第4・6・19・17・38・41・47号住居跡，第9号竪穴遺構），10㎡以下の住居跡及び竪穴遺構11軒（第18・30・31・32・34・49・53・63号住居跡，第3・4・9号竪穴遺構）の中・小型住居跡は3~4軒で一単位が構成される。3~4軒のうち1軒は通常の炉・柱穴・貯蔵穴・間仕切溝などの内部施設が存在した竪穴住居のAタイプに属するが，他の2~3軒はわずかに火を受けた程度の痕跡を残す炉を付設するだけのBタイプ，もしくはDタイプである。

これらの遺構から出土する土器は，土師器の坏・碗・高坏・甕・甌，須恵器の坏蓋及び無蓋高坏である。土師器の坏・類は口縁部が直立またはわずかに内傾するもの（A類），口縁部が短く外反し断面が三角形で内面



集落変遷図(2)



古墳時代中・後期II期出土土器

に稜を有するもの（B類）で構成され、A類には丸底と平底がある。本期のほとんどの坏・類は赤彩されている。土師器の甕は平底で突出気味であり、体部は球形状で口縁部は外反する。頸部から体部はへら削りがされ、なかには体部下位にへら磨きを残すものもみられる。これらは和泉式土器の伝統をひく土器群である。須恵器は陶邑編年TK216・208型式併行のものが出土しており、本期は5世紀後葉の時期をあてはめることができる。

II期

本期の遺構は第1, 2, 3, 5, 7, 14, 15, 20, 21, 27, 37, 39, 40, 43, 46, 48, 50, 51, 55, 56, 58及び64号住居跡と第1, 8, 11号竪穴遺構の25軒である。

床面積が50㎡を超える大型住居跡5軒（第3・5・7・46・48号住居跡）、35～50㎡の住居跡5軒（第15・39・43・50・56号住居跡）、20～35㎡の住居跡4軒（第1・2・20・21号住居跡）、10～20㎡の住居跡及び竪穴遺構5軒（第27・40・55・58号住居跡、第8号竪穴遺構）、10㎡以下の小型住居跡及び竪穴遺構6軒（第14・37・51・64号住居跡、第1・10号竪穴遺構）である。本期はI期に比べると大型の住居が増え、規模・形態ともにさまざまな様相を呈する住居跡、竪穴遺構が出現する。中・大型住居は複数の炉、貯蔵穴、間仕切溝、出入り口施設を有しておりAタイプである。規模が10㎡以下の小型住居及び竪穴遺構には中・大型住居にみられる内部施設は全く見られず、住居としたもののなかにはI期と同様に火を受けた程度の痕跡を残す炉を付設するだけで住居を目的と判断するには躊躇するBタイプのものが多い。また、床面積10㎡前後で小型住居跡として扱ったもののなかには炉・ピットなどの内部施設を有さず、床面積の割合に対して大型で複数の貯蔵穴をもつ第51, 55号住居跡のようなCタイプが出現する。これらさまざまな住居跡形態がみられる本期は、「中・大型住居跡+小型住居跡（炉の痕跡を残すもの）」、あるいは「中・大型住居跡+竪穴遺構または、複数の貯蔵穴をもつもの」の単位で構成される。

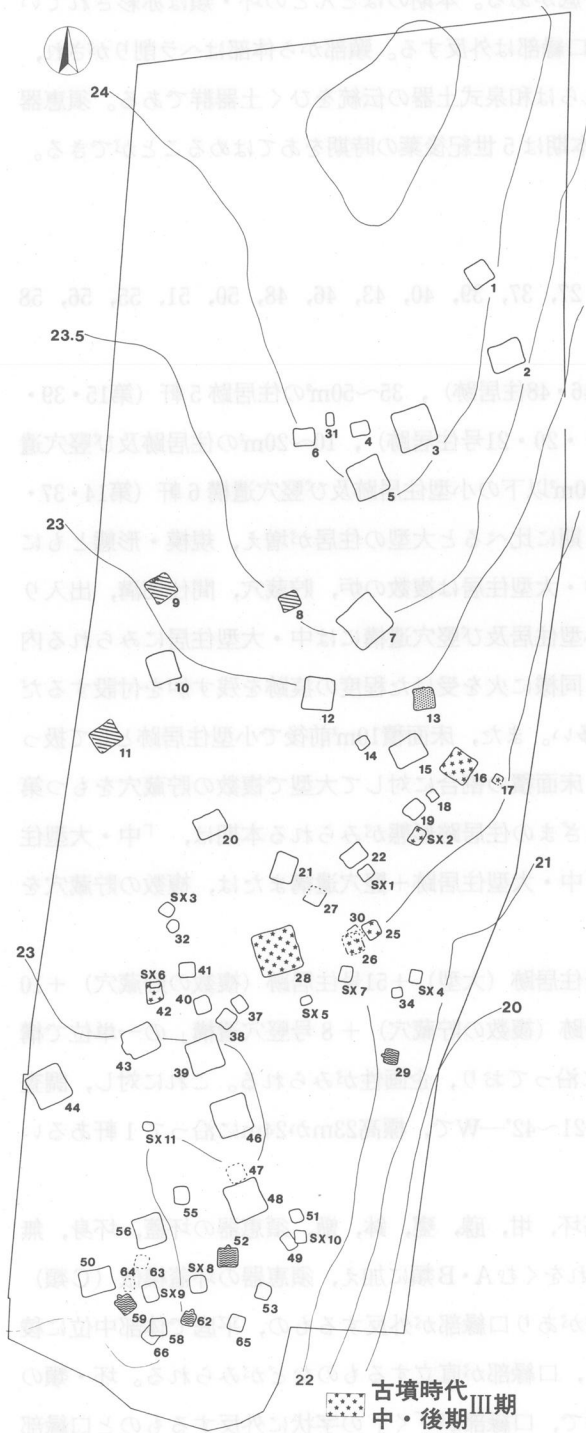
特に調査区南部ではこの様相が顕著にあらわれ、「48号住居跡（大型）+51号住居跡（複数の貯蔵穴）+10号竪穴遺構」の一単位、「50号住居跡（大型）+55号住居跡（複数の貯蔵穴）+8号竪穴遺構」の一単位で構成される。これらの主軸はN—5～26°—Wで、標高23mに沿っており、企画性がみられる。これに対し、調査区北部の住居跡は中・大型住居跡がほとんどで、主軸N—21～42°—Wで、標高23mか24mに沿って1軒あるいは2軒一単位で構成される。

これらの遺構から出土する土器は、土師器の坏、碗、高坏、埴、躰、甕、鉢、甑、須恵器の坏蓋、坏身、無蓋高坏、及び甕である。土師器坏はI期以来和泉式期の流れをくむA・B類に加え、須恵器の坏蓋模倣（C類）が出現する。C類はバラティに富み、丸底で体部中位に稜があり口縁部が外反するもの、平底で体部中位に稜があり口縁部が外反するもの、平底で体部中位に稜があり、口縁部が直立するものなどがみられる。坏・類のほとんどが赤彩されている。土師器甕はI期以来の球胴形で、口縁部が「く」の字状に外反するものと口縁部が直立して「コ」の字状に外反するものがある。須恵器はTK208～23期併行のものが出土しており、本期は5世紀末葉の時期をあてはめることができる。

III期

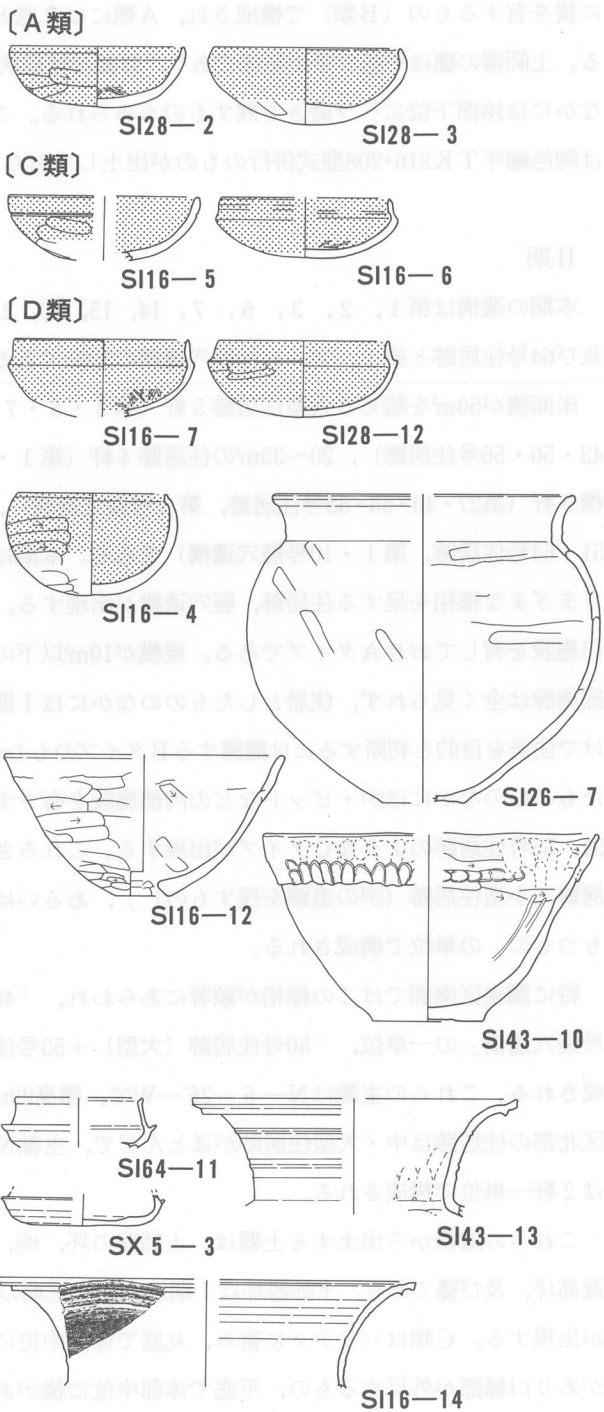
本期の遺構は第16, 17, 25, 26, 28, 42号住居跡と第2号竪穴遺構の7軒で、集落は調査区中央部の標高23mの台地上に3～4軒一単位で形成される。

集落形態はII期の流れを組んでおり、「16号住居跡（中型）+17号住居跡（炉の痕跡を残すもの）+2号竪穴遺構」、「28号住居跡（大型）+25・26号住居跡（複数の貯蔵跡）」の単位構成である。



集落変遷図(3)

- 古墳時代III期中・後期
- IV期
- V期
- 奈良・平安時代



古墳時代中・後期III期出土土器

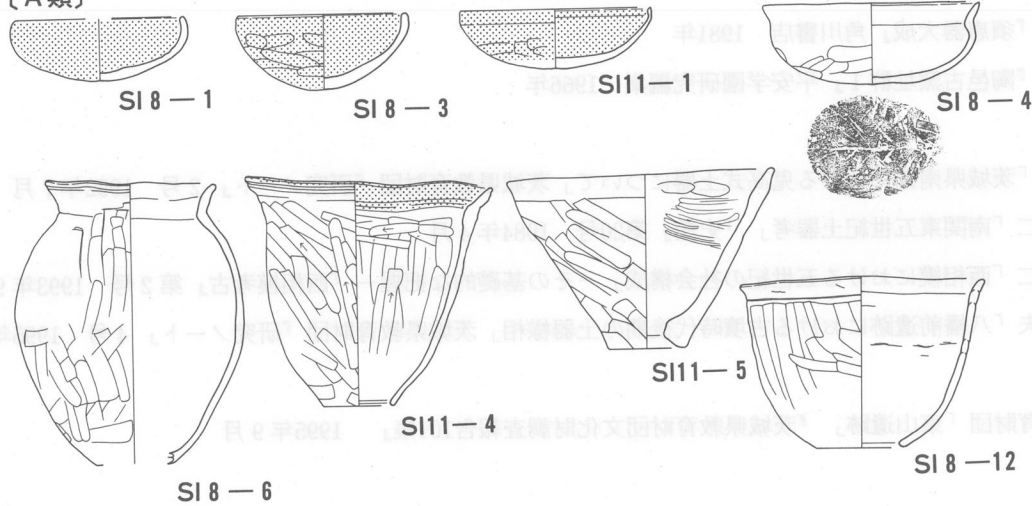
これらの遺構から出土する土器は土師器坏，碗，甕，甗及び須恵器坏身，甕である。土師器坏はA・B・C類は器高が低くなる。新たに須恵器坏身模倣坏（D類）が加わる。坏・碗類のほとんどが赤彩されている。土師器甕は口縁部が直立して「コ」の字状に外反し，体部径と口縁部径の差が小さいものである。甗は鉢形である。須恵器はTK23～47期併行のものが出土しており，本期は5世紀末葉から6世紀初頭の時期をあてはめることができる。

IV期

本期の遺構は第8, 9, 及び11号住居跡の3軒で, 調査区中央部東寄りに形成される。本期に初めて竈をもつ住居跡が出現するが, 第9号住居跡の1軒のみで定着していない。竈は壁外への掘り込みはなく袖部も大きい。

これらの遺構から出土する土器は土師器の坏, 碗, 甕及び甑である。坏は, A類はさらに器高が減じ偏平となるものと大型のものがある。甕は体部が長胴化し, 甑は砲弾型が出現する。時期は砲弾型の甑が出土することや竈をもつということから本期は6世紀初頭から前葉の時期をあてはめることができる。

[A類]



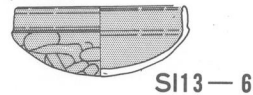
古墳時代中・後期II期出土土器

V期

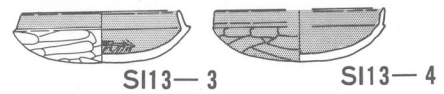
本期の遺構は, 竈をもつ第13号住居跡1軒である。前段階から本期の間には凡そ20~40年の空白期間がある。V期の土師器はC類の須恵器坏蓋模倣坏とD類の須恵器坏身模倣坏, 偏平で口縁部が内傾するE類である。C, D類は器高を減じ偏平となり黒色処理がされる。

以上のように, 集落はI期の5世紀後葉に出現し, I・II期を通じて盛栄し, VI・V期に衰退し再び舌状台地縁辺部に奈良・平安時代(8世紀前半)の第29号住居跡等が出現するまで断絶する。I期には大型住居跡が3軒, II期には10軒, III期には1軒であり, 第28, 43, 46, 48, 56号住居跡からは須恵器をはじめ石製模造品が出土しており, 特に, 第28, 56号住居跡では石製模造品の原石加工施設を窺わせるような原石も出土している。これらの大型住居跡は集落の中心的役割を果たしていたものと考えられる。

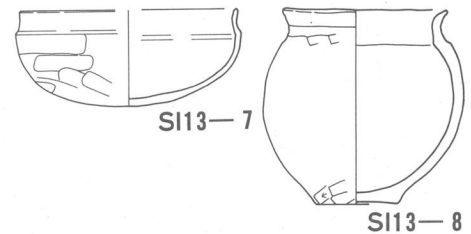
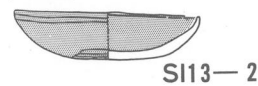
[C類]



[D類]



[E類]



古墳時代中・後期V期出土土器

なお、当遺跡の生産基盤は南東側の谷津と台地北部の空白地帯が考えられる。また、近接する東山遺跡は谷津を挟んだ台地上に立地し、同時期に同様な推移をしており、相互に何等かの関連が予測できる。

注

(1)茨城県教育財団「東山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告101集』

報告者の松浦氏は、「Bタイプの住居跡からは甕等が多く出土していることから、火の使用を目的とする建物、たとえば竈屋の建物であったことも考えられる」と述べている。

(2)田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981年

田辺昭三『陶邑古窯址群 I』平安学園研究編集 1966年

参考文献

- ・樫村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」茨城県教育財団『研究ノート』2号 1992年7月
- ・比田井克仁「南関東五世紀土器考」『史館』第20号 1984年4月
- ・比田井克仁「西相模における五世紀の社会構成」－その基礎的な把握－『西相模考古』第2号 1993年9月
- ・吹野富美夫「八幡前遺跡における古墳時代後期の土器様相」茨城県教育財団『研究ノート』4号 1995年6月
- ・茨城県教育財団「東山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告101集』 1995年9月

第4章 行人田遺跡

第1節 遺跡の概要

行人田遺跡は、牛久市北西部の小野川左岸から北東方向に入り込む支谷によって挟まれた標高16～21mの舌状台地上に位置し、平安時代を中心とする縄文時代、古墳時代及び近世の複合遺跡である。現状は山林で、面積は6,270㎡である。当遺跡の北東部200mには馬場遺跡がある。

今回の調査によって、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、平安時代の竪穴住居跡5軒を確認した。そのうち、平安時代の住居跡1軒は、粘土採掘のための土坑24基に掘り込まれている。他の遺構としては、土坑31基、溝10条、近世の水田遺構1か所を確認した。

遺物は、遺物収納箱(60×40×20cm)に20箱出土している。縄文時代の出土遺物は、早期から前期の縄文土器片、石鏃、ナイフ型石器、有舌尖頭器、搔器及び削器等である。古墳時代の出土遺物は、土師器の坏、甕、器台及び土製勾玉である。平安時代の遺物は、須恵器の坏、蓋、甕、甌、土師器の甕及び灰釉陶器等である。

第2節 基本層序

調査区内の北西部台地上(B1b9区)にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った。(第175図)

第1層 厚さ30cmの耕作土で、焼土粒子及びローム粒子を少量含む締まりの弱い褐色土である。

第2層 厚さ10～20cmのハードロームへの漸移層で、炭化物・焼土粒子及びローム小ブロックを含む明褐色土である。

第3層 厚さ20cmの明褐色のハードローム層で、炭化粒子を少量含んでいる。

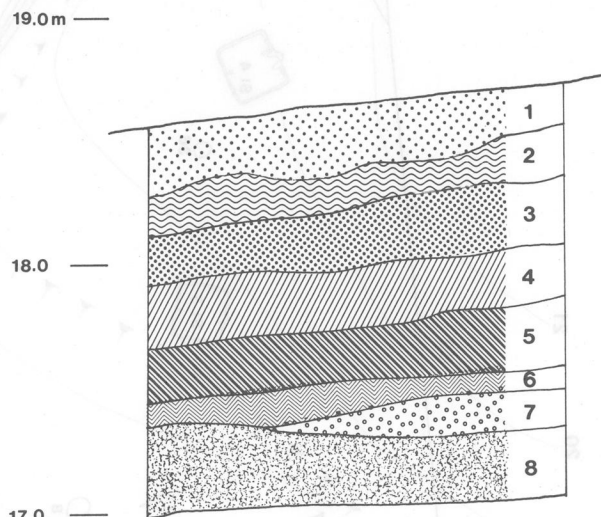
第4層 厚さ30cmの褐色のハードローム層で、粘性と締まりが強く、粘土粒子を少量含んでいる。

第5層 厚さ20cmの黄褐色の鉄分まじりの粘土層で、極少量のローム粒子を含んでいる。

第6層 厚さ10cmの黄褐色粘土層で、砂粒を中量含んでいる。

第7層 厚さ15cmの浅黄色の砂質層で、粘土粒子を多量に含んでいる。

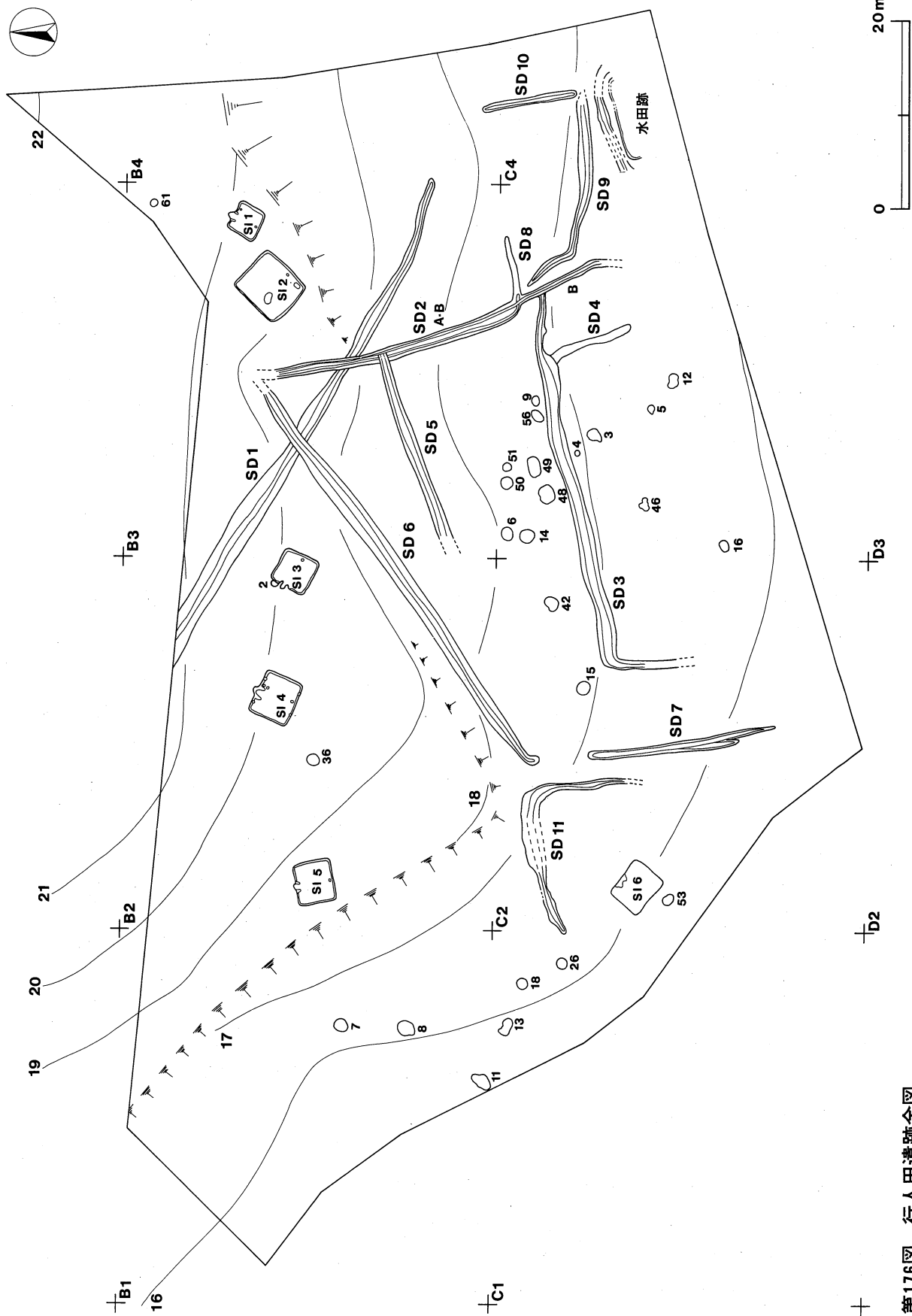
第8層 厚さ30cmの鉄分を含んだ砂質層で、白色粘土小ブロックを中量含んでいる。



第175図 行人田遺跡基本土層図

調査区域は、南西に向かい緩やかに下る傾斜地であるため、ソフトローム層が流失している部分が見られた。竪穴住居跡は、第1層下面で確認でき、第4層まで掘り込んで構築している。

当遺跡の立地する台地は、表土から80cm程で粘土層になり、これは、常総粘土層と思われる。



第176図 行人田遺跡全図

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

今回の調査では、古墳時代の竪穴住居跡1軒、平安時代の竪穴住居跡5軒を確認した。以下、確認した6軒の竪穴住居跡とそこから出土した遺物について記載する。

(1) 古墳時代の住居跡

第2号住居跡 (第177図)

位置 調査区北西部, B3a8区。

規模と平面形 長軸6.03m, 短軸5.37mの長方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は10~45cmで, 垂直に立ち上がる。南コーナーから南西壁の一部は, 耕作による攪乱を受けている。

壁溝 北東壁, 南東壁の一部の壁下を巡っている。上幅7~20cm, 深さ5cmで, 断面は「U」字形である。

床 ほぼ平坦である。北東部はよく踏み固められているが, 南西部は木の根の攪乱により残存状態が悪い。

ピット 南東壁際中央部に位置し, 径22cmの円形で, 深さ12cmの出入り口施設に伴うピットである。

貯蔵穴 南コーナーに位置し, 長軸0.65m, 短軸0.58mの長方形で, 深さ20cm, 断面は箱形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量

炉 南西部に位置し, 長径110cm, 短径30cmの不整長楕円形の地床炉である。炉床は火熱を受け, 厚さ7cm程赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土小ブロック少量

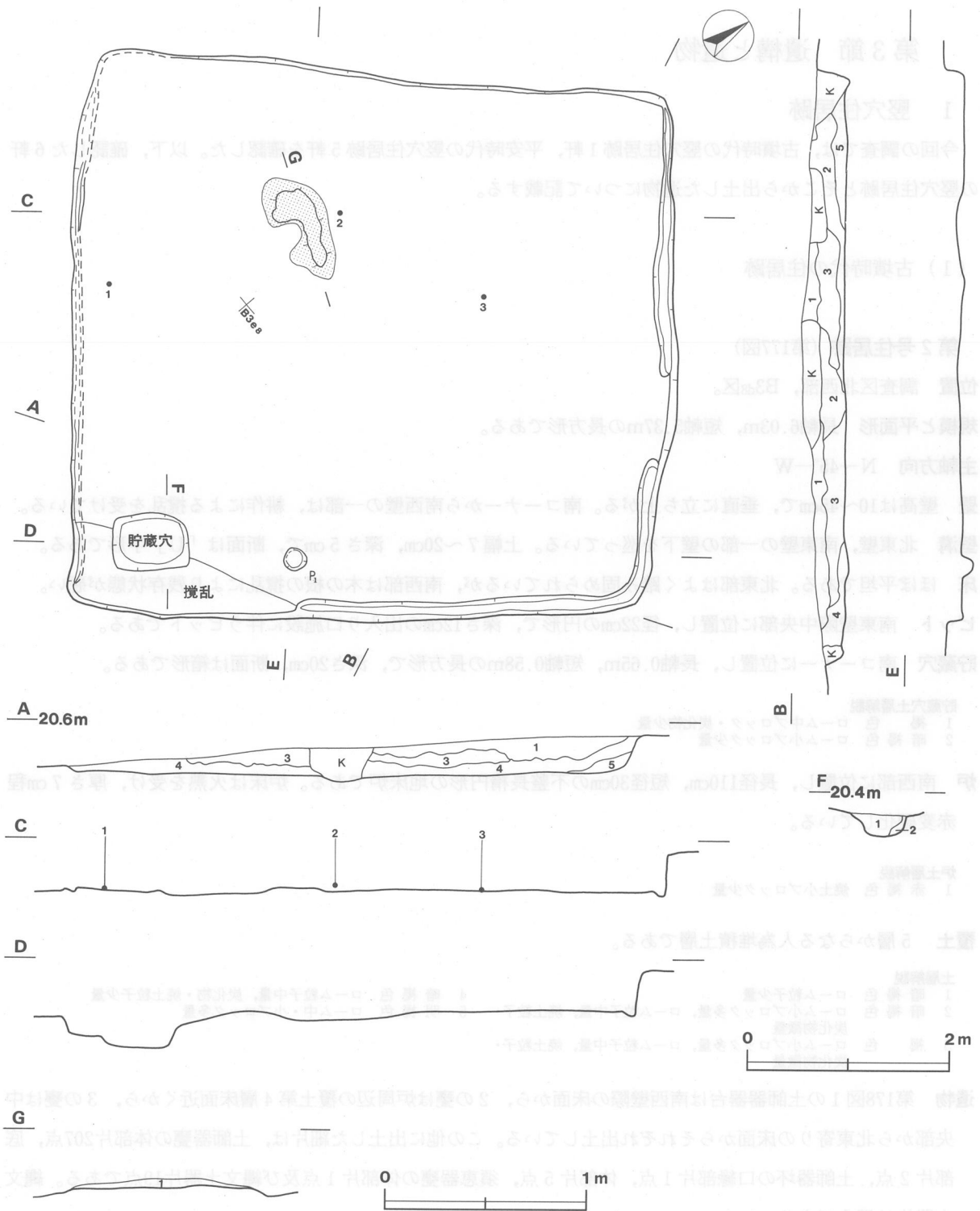
覆土 5層からなる人為堆積土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量 | 5 明褐色 | ローム中・小ブロック多量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物微量 | | |

遺物 第178図1の土師器器台は南西壁際の床面から, 2の甕は炉周辺の覆土第4層床面近くから, 3の甕は中央部から北東寄りの床面からそれぞれ出土している。この他に出土した細片は, 土師器甕の体部片207点, 底部片2点, 土師器杯の口縁部片1点, 体部片5点, 須恵器甕の体部片1点及び縄文土器片19点である。縄文土器片は混入である。

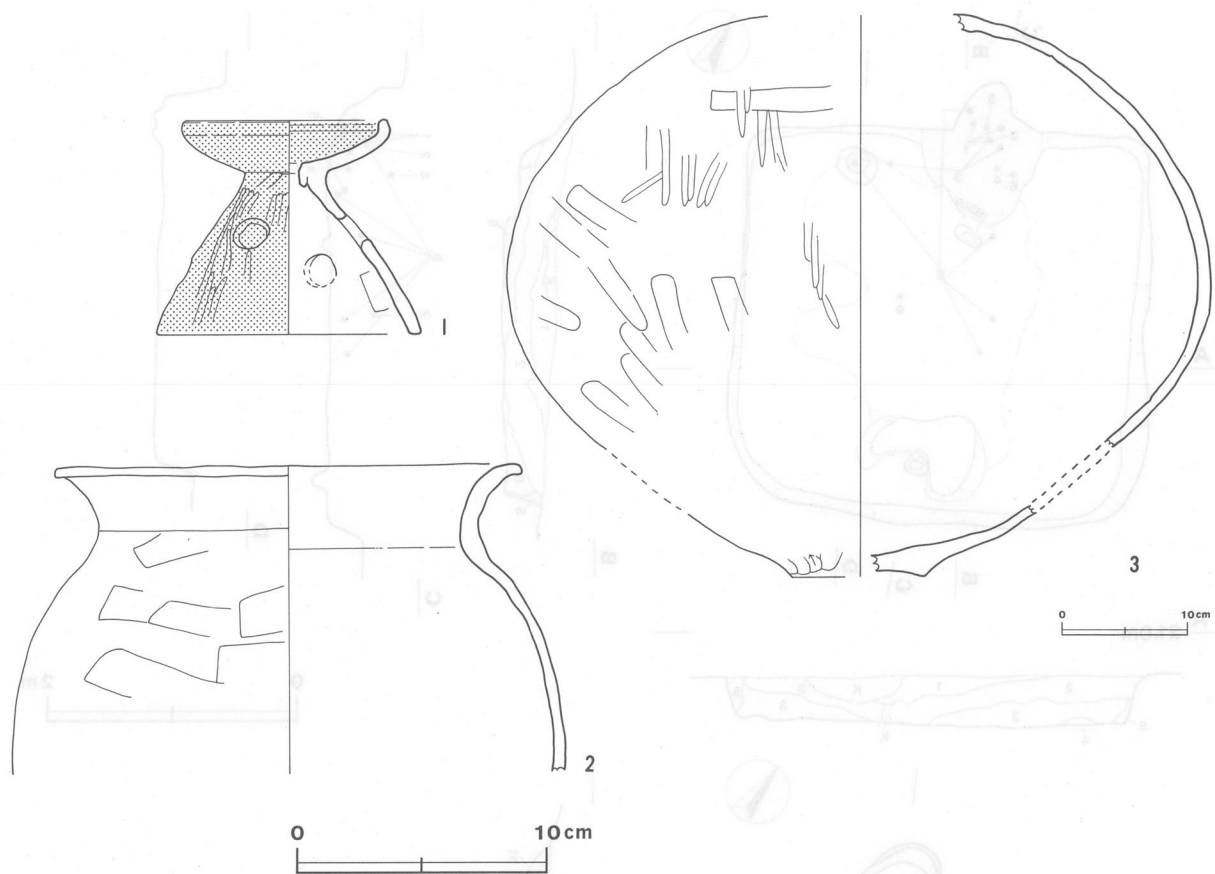
所見 本跡の時期は出土遺物から古墳時代前期と思われる。



第177図 第2号住居跡実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 1	器台 土師器	A 8.2 B 8.6 D 10.6	脚部は「ハ」の字状に開き、器受部は内彎して立ち上がる。器受部端部上方に突出する。脚部に6か所穿孔。	脚部外面へラ磨き。脚部内面へラ削り。器受部内面から脚部外面赤彩。	砂粒 明赤褐色 普通	P9 80% PL65 床面
2	甕 土師器	A 18.8 B (12.3)	体部上位から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。器壁は薄手。	口縁部内・外面・体部内面ハケ目調整。体部外面へラ削り。	長石 にぶい橙色 普通	P10 20% 覆土下層



第178図 第2号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 3	甕 土師器	B [30.0] C [3.1]	口縁部欠損。平底。体部は球形状で、中位に最大径をもつ。	体部外面へラ削り後へラ磨き。内面ハケ目調整。	長石にふい橙色普通	P11 30% PL65 床面

(2) 平安時代の住居跡

第1号住居跡 (第179図)

位置 調査区北西部, B3a0区。

規模と平面形 長軸3.28m, 短軸3.16mのほぼ方形である。

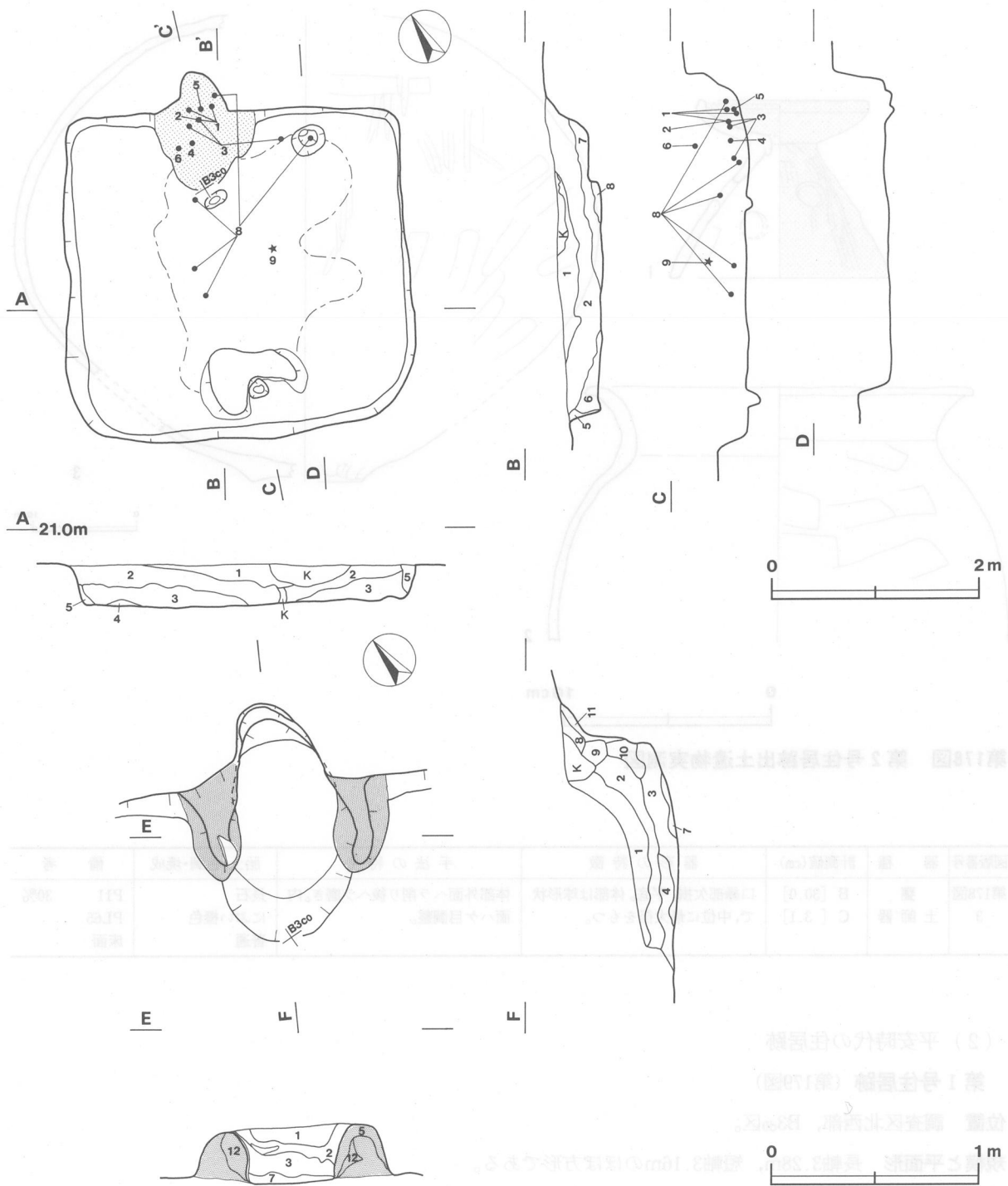
主軸方向 N-31°-E

壁 壁高26~50cmで, 垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 南東壁際中央部から25cm内側に位置し, 径20cmの円形で, 深さ13cmの出入り口施設に伴うピットである。

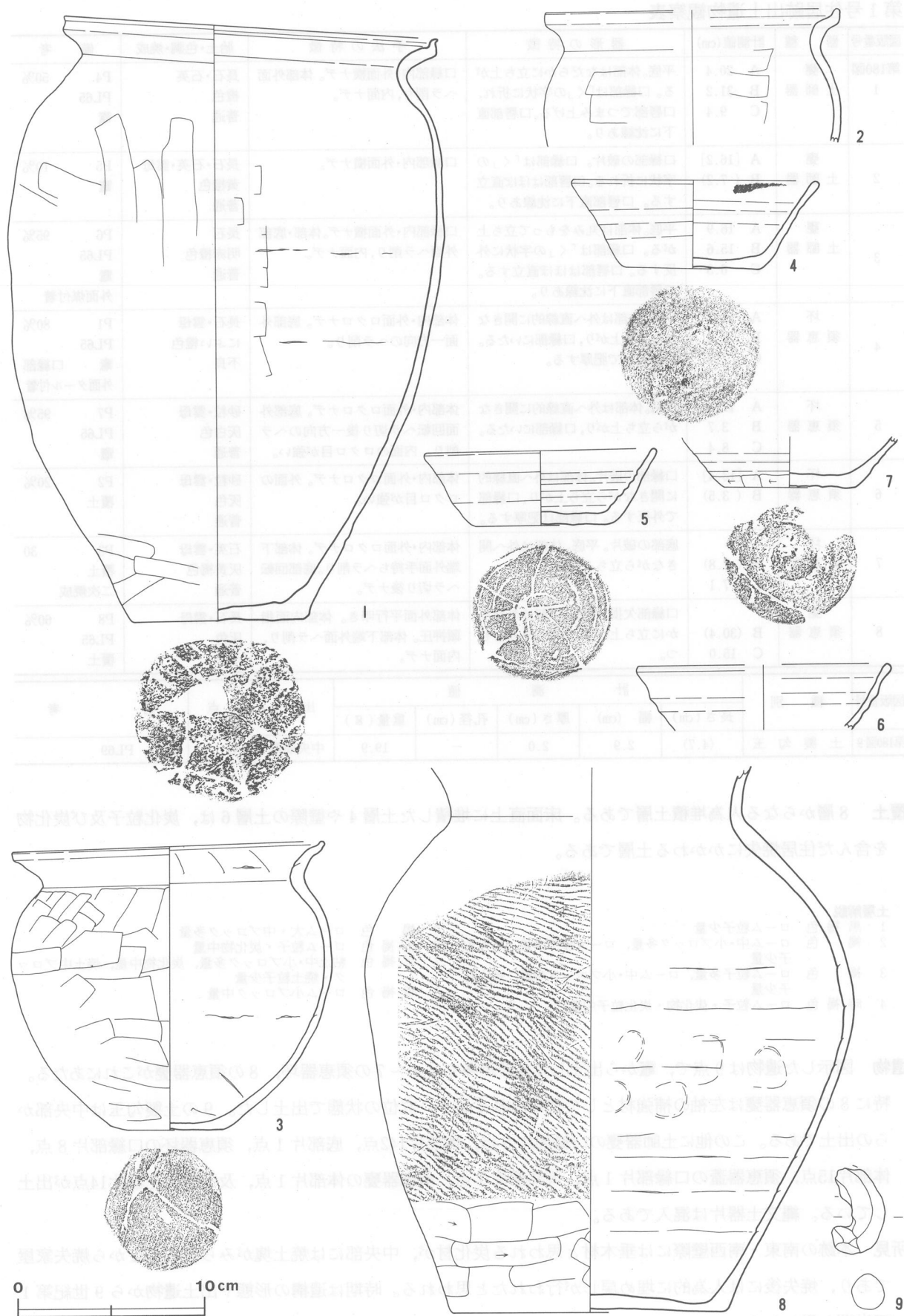
竈 北東壁中央部より西寄りに付設され, 煙道から焚口部まで94cm, 両袖幅40cm, 壁外への掘り込みは40cmである。袖は芯材に白色粘土を用い, その周りには褐色土に砂粒を混ぜて構築している。左袖には補強材として, 須恵器甕体部が使用されている。火床面は床面と一致し平坦である。煙道の平面形は「U」字形で, ほぼ垂直に立ち上がる。



第179図 第1号住居跡実測図

竈土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------|--------|------------------|
| 1 黄褐色 | 炭化物多量, 焼土粒子少量 | 7 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | 焼土粒子・炭化粒子中量, 焼土小ブロック少量 | 8 明褐色 | 炭化物中量, 焼土中ブロック少量 |
| 3 明褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 9 褐色 | 炭化物中量, 焼土粒子少量 |
| 4 褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子少量 | 10 明褐色 | 炭化物少量 |
| 5 暗褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 | 11 赤褐色 | 焼土小ブロック中量 |
| 6 黄褐色 | 焼土粒子微量 | | |



第180図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第180図 1	甕 土師器	A 20.4 B 31.2 C 9.4	平底。体部はなだらかに立ち上がる。口縁部は「く」の字状に折れ、口唇部でつまみ上げる。口唇部直下に沈線あり。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P4 50% PL65 甕
2	甕 土師器	A [16.2] B (7.2)	口縁部の破片。口縁部は「く」の字状に折れる。口唇部はほぼ直立する。口唇部直下に沈線あり。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 黄橙色 普通	P5 10% 甕
3	甕 土師器	A 16.9 B 15.6 C 6.3	平底。体部は丸みをもって立ち上がる。口縁部は「く」の字状に外反する。口唇部はほぼ直立する。口唇部直下に沈線あり。	口縁部内・外面横ナデ。体部・底部外面へラ削り、内面ナデ。	長石 明赤橙色 普通	P6 95% PL65 甕 外面煤付着
4	坏 須恵器	A 13.1 B 4.8 C 7.6	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部で肥厚する。	体部内・外面クロナデ。底部外面一方のへラ削り。	長石・雲母 にぶい橙色 不良	P1 80% PL65 甕 口縁部 外面タール付着
5	坏 須恵器	A 12.3 B 3.7 C 8.4	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。	体部内・外面クロナデ。底部外面回転へラ切り後一方のへラ削り。内面のクロクロ目が強い。	砂粒・雲母 灰白色 普通	P7 95% PL65 甕
6	坏 須恵器	A [13.4] B (3.5)	口縁部の破片。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部で外反する。口縁部は肥厚する。	体部内・外面クロナデ。外面のクロクロ目が強い。	砂粒・雲母 灰色 普通	P2 20% 覆土
7	坏 須恵器	B (2.8) C 7.1	底部の破片。平底。体部は外へ開きながら立ち上がる。	体部内・外面クロナデ。体部下端外面手持ちへラ削り。底部回転へラ切り後ナデ。	石英・雲母 灰黄褐色 普通	P3 30% 覆土 二次焼成
8	甕 須恵器	B (30.4) C 15.0	口縁部欠損。平底。体部はなだらかに立ち上がり、中位で丸みをもつ。	体部外面平行叩き。体部内面指頭押圧。体部下端外面へラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 灰色 不良	P8 60% PL65 覆土

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第180図9	土製勾玉	(4.7)	2.9	2.0	—	19.9	中央部覆土上層	DP1 PL69

覆土 8層からなる人為堆積土層である。床面直上に堆積した土層4や壁際の土層6は、炭化粒子及び炭化物を含んだ住居焼失にかかわる土層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 褐色 | ローム大・中ブロック多量 |
| 2 褐色 | ローム中・小ブロック多量、ローム粒子中量、焼土粒子少量 | 6 暗褐色 | ローム粒子・炭化物中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子多量、ローム中・小ブロック中量、焼土粒子少量 | 7 灰褐色 | 粘土中・小ブロック多量、炭化物中量、焼土中ブロック・焼土粒子少量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子・炭化物・炭化粒子中量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック中量 |

遺物 図示した遺物は9点で、甕から出土したものが多く、4～7の須恵器坏、8の須恵器甕がこれにあたる。特に8の須恵器甕は左袖の補強材として使用されており、立位の状態で出土した。9の土製勾玉は中央部からの出土である。この他に土師器甕の口縁部片5点、体部片142点、底部片1点、須恵器坏の口縁部片8点、体部片15点、須恵器蓋の口縁部片1点、天井部片1点、須恵器甕の体部片1点、及び縄文土器片14点が出土している。縄文土器片は混入である。

所見 本跡の南東・南西壁際には垂木材と思われる炭化材が、中央部には焼土塊がみられることから焼失家屋であり、焼失後には人為的に埋め戻しが行われたと思われる。時期は遺構の形態や出土遺物から9世紀第1四半期と思われる。

第3号住居跡 (第181図)

位置 調査区北部中央, B2e0区。

重複関係 本跡の竈煙道部北半分を第2号土坑に掘り込まれており, 本跡の方が古い。

規模と平面形 一辺が4.20mの方形である。

主軸方向 N-66°-W

壁 壁高35~65cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 東壁を除く全ての壁下を巡る。上幅10~20cm, 深さ5cmで, 断面は「U」字形である。

床 出入口施設に伴うピットの周囲から竈焚口部にかけての部分踏み固められている。

ピット 東壁中央部から約40cm東寄りに1か所。長径30cm, 短径15cmの楕円形, 深さ32cmの出入口施設に伴うピットである。

土層解説

- | | | |
|---|-------|--------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 | 明褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 3 | 明褐色 | ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 4 | 褐色 | ローム中ブロック多量, 焼土粒子微量 |

竈 西壁中央部に付設されている。壁際の袖が一部遺残しているだけで残存状況はあまり良くない。煙道から焚口部まで75cm, 両袖最大幅40cm, 壁外への掘り込みは35cmである。火床及び燃焼部は5~10cmの厚さに焼けており, 長期間使用されたものと思われる。煙道の平面形は「U」字形で, 下半部は約30度, 上半部は60cm程の傾きで立ち上がる。

竈土層解説

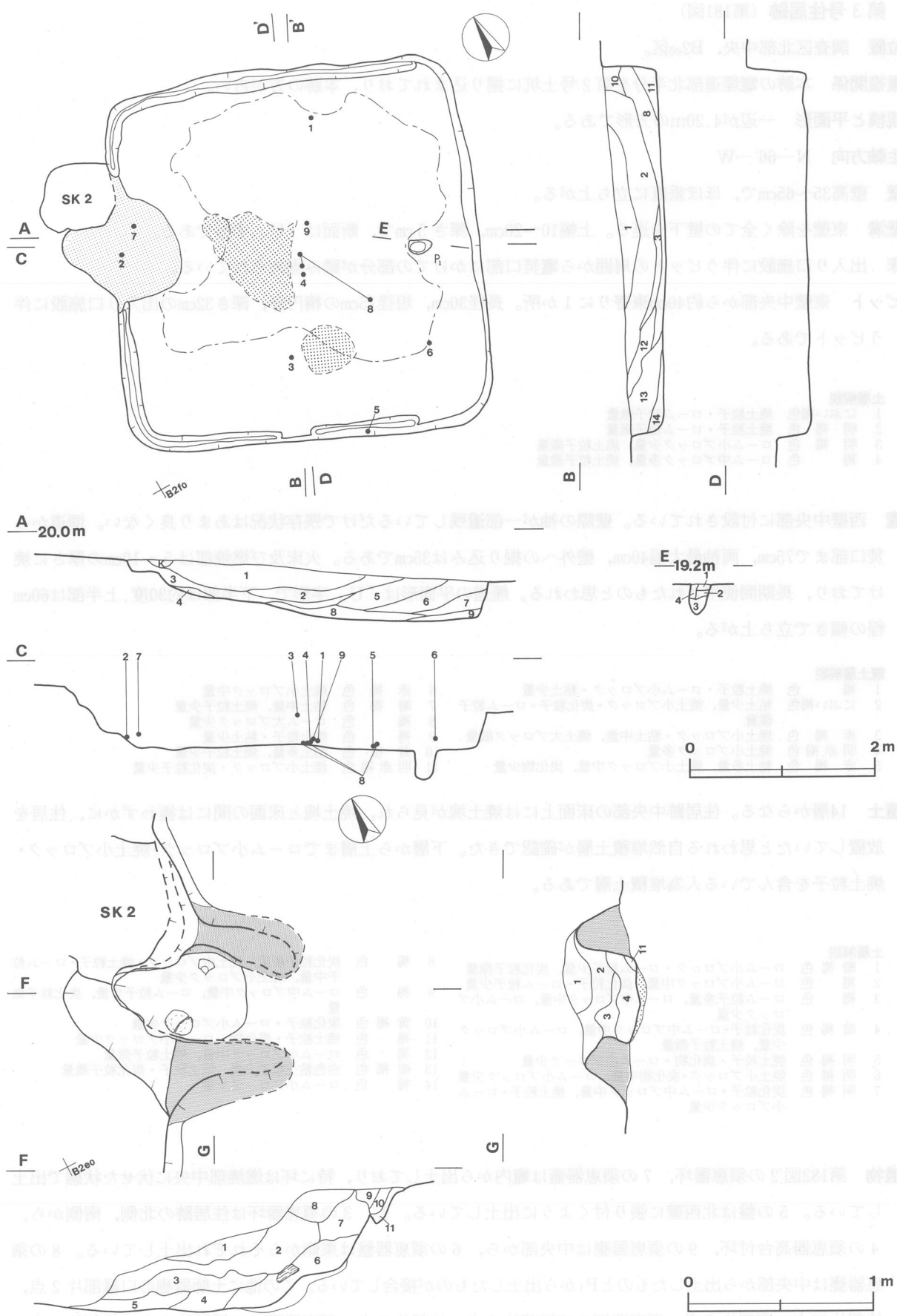
- | | | | | | |
|---|-------|----------------------------|----|------|----------------|
| 1 | 褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック・粘土少量 | 6 | 赤褐色 | 焼土小ブロック中量 |
| 2 | にぶい褐色 | 粘土少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量 | 7 | 暗褐色 | 粘土中量, 焼土粒子少量 |
| 3 | 赤褐色 | 焼土小ブロック・粘土中量, 焼土大ブロック微量 | 8 | 褐色 | ローム大ブロック少量 |
| 4 | 明赤褐色 | 焼土小ブロック多量 | 9 | 褐色 | 焼土粒子・粘土少量 |
| 5 | 赤褐色 | 粘土多量, 焼土小ブロック中量, 炭化物少量 | 10 | 黄橙色 | 粘土多量, 焼土粒子少量 |
| | | | 11 | 明赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子少量 |

覆土 14層からなる。住居跡中央部の床面上には焼土塊が見られ, 焼土塊と床面の間には極わずかに, 住居を放置していたと思われる自然堆積土層が確認できた。下層から上層までローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子を含んでいる人為堆積土層である。

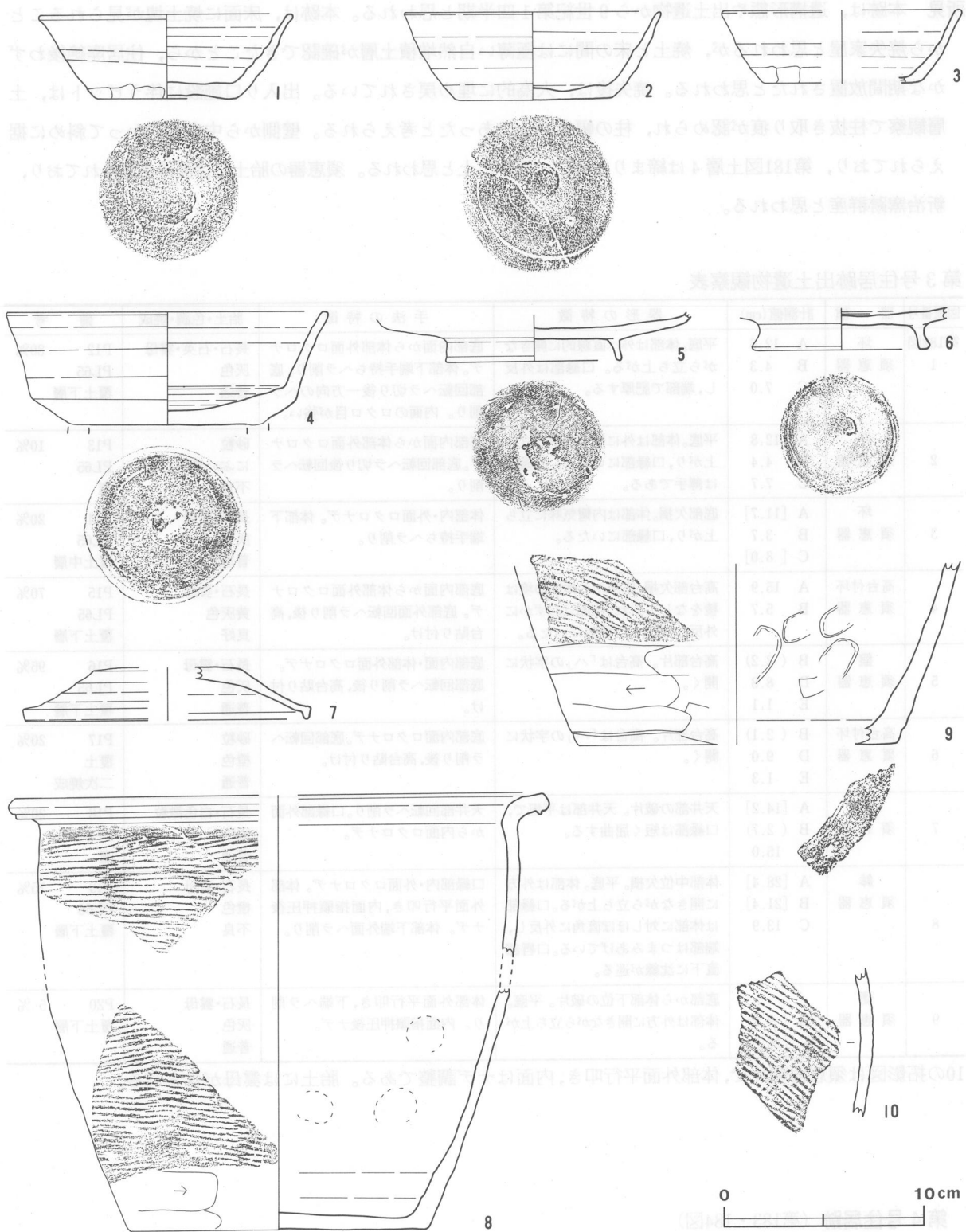
土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-------------------------------------|----|-----|---|
| 1 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 | 褐色 | 炭化粒子多量, 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量 |
| 2 | 褐色 | ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | 9 | 褐色 | ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量 | 10 | 黄褐色 | 炭化粒子・ローム小ブロック少量 |
| 4 | 暗褐色 | 炭化粒子・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 11 | 褐色 | 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量 |
| 5 | 明褐色 | 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量 | 12 | 褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 6 | 明褐色 | 焼土小ブロック・炭化物中量, ローム小ブロック少量 | 13 | 暗褐色 | 白色粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 | 明褐色 | 炭化粒子・ローム中ブロック中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量 | 14 | 褐色 | ローム小ブロック少量 |

遺物 第182図2の須恵器坏, 7の須恵器蓋は竈内から出土しており, 特に坏は燃焼部中央に伏せた状態で出土している。5の盤は北西壁に張り付くように出土している。1, 3の須恵器坏は住居跡の北側, 南側から, 4の須恵器高台付坏, 9の須恵器甕は中央部から, 6の須恵器盤は東側からそれぞれ出土している。8の須恵器甕は中央部から出土したものとP1から出土したものが接合している。この他に土師器甕の口縁部片2点, 体部片58点, 底部片2点, 須恵器坏の口縁部片2点, 体部片3点, 須恵器甕の口縁部片1点, 体部片4点, 縄文土器片11点が出土している。縄文土器片は混入である。



第181図 第3号住居跡実測図



第182図 第3号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は、遺構形態や出土遺物から9世紀第1四半期と思われる。本跡は、床面に焼土塊が見られることから焼失家屋と思われるが、焼土と床の間には極薄い自然堆積土層が確認できたことから、住居廃絶後わずかな期間放置されたと思われる。焼失後は、人為的に埋め戻されている。出入り口施設に伴うピットは、土層観察で柱抜き取り痕が認められ、柱の幅は15cmであったと考えられる。壁側から中央に向かって斜めに据えられており、第181図土層4は締まりがあり、埋めた土と思われる。須恵器の胎土には雲母が含まれており、新治窯跡群産と思われる。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第182図 1	坏 須恵器	A 12.6 B 4.3 C 7.0	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部で肥厚する。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後一方向のヘラ削り。内面のロクロ目が強い。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P12 80% PL65 覆土下層
2	坏 須恵器	A 12.8 B 4.4 C 7.7	平底。体部は外に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部は薄手である。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り。	砂粒 にぶい黄橙色 不良	P13 10% PL65 竈
3	坏 須恵器	A [11.7] B 3.7 C [8.0]	底部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部にいたる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。	長石・雲母 灰色 普通	P14 20% PL65 覆土中層
4	高台付坏 須恵器	A 15.9 B 5.7	高台部欠損。底部から体部の境は稜をなして折れ、体部はわずかに外反しながら口縁部にいたる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・雲母 黄灰色 良好	P15 70% PL65 覆土下層
5	盤 須恵器	B (2.2) D 8.8 E 1.1	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部内面・体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・雲母 灰色 普通	P16 95% PL65 覆土下層
6	高台付坏 須恵器	B (2.1) D 9.0 E 1.3	高台部片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部内面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒 橙色 普通	P17 20% 覆土 二次焼成
7	蓋 須恵器	A [14.2] B (2.7) C 15.0	天井部の破片。天井部は平坦で、口縁部は短く屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部外面から内面ロクロナデ。	長石・白色微粒 灰色 普通	P18 20% PL66 竈
8	鉢 須恵器	A [28.4] B [21.4] C 13.9	体部中位欠損。平底。体部は外方に開きながら立ち上がる。口縁部は体部に対しほぼ直角に外反し、端部はつまみあげている。口唇部直下に沈線が巡る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き、内面指頭押圧後ナデ。体部下端外面ヘラ削り。	長石・雲母 橙色 不良	P19 15% PL66 覆土下層
9	甕 須恵器	B (9.1) C [16.0]	底部から体部下位の破片。平底。体部は外方に開きながら立ち上がる。	体部外面平行叩き、下端ヘラ削り。内面指頭押圧後ナデ。	長石・雲母 灰色 普通	P20 5% 覆土下層

10の拓影図は須恵器甕片で、体部外面平行叩き、内面はナデ調整である。胎土には雲母が含まれる。

第4号住居跡 (第183・184図)

位置 調査区北部中央, B2_{er}区。

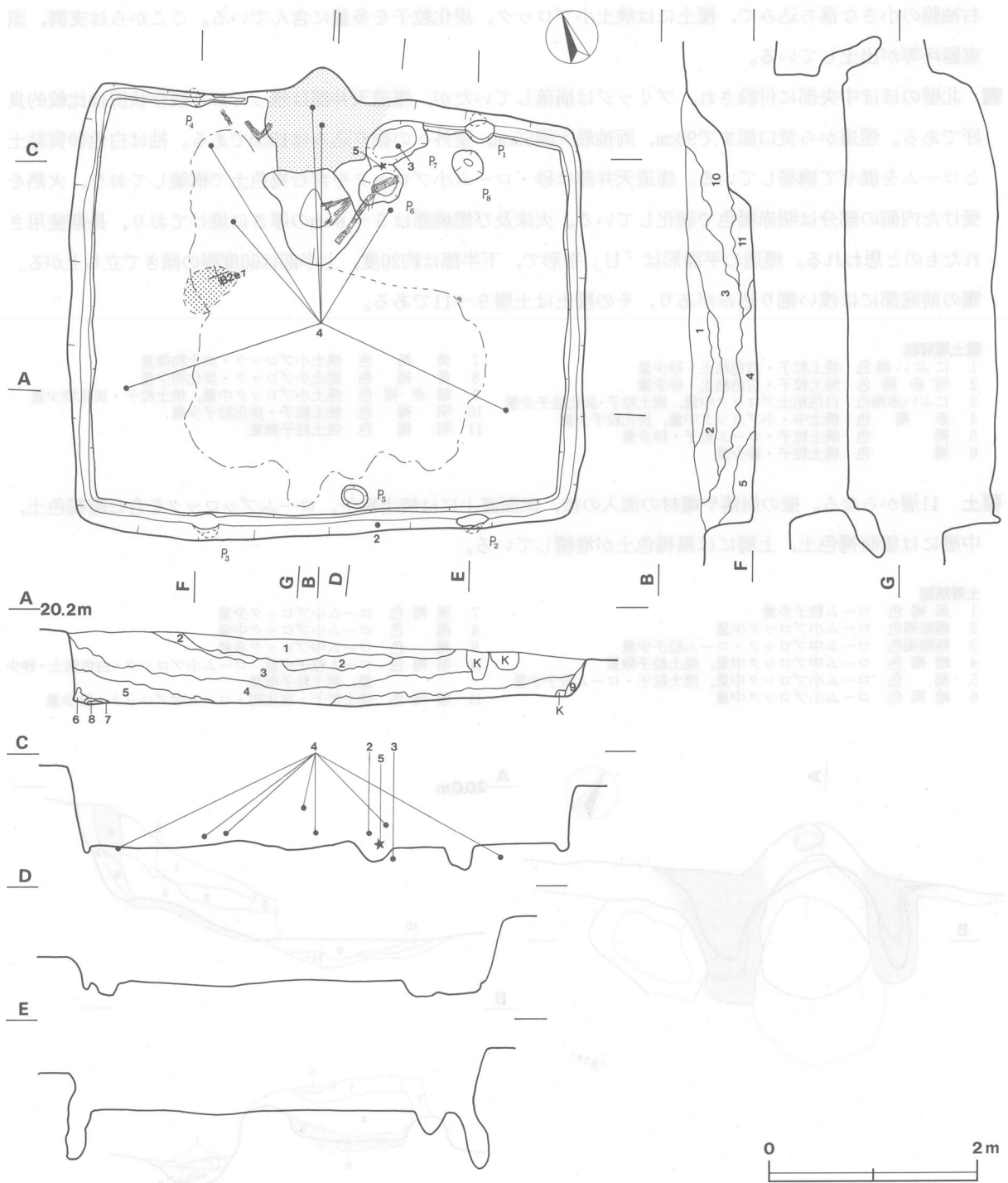
規模と平面形 長軸5.0m, 短軸4.38mの長方形である。

主軸方向 N-21°-E

壁 壁高50~85cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周する。上幅10~15cm, 深さ5~10cmで、断面は「U」字形である。

床 中央部が踏み固められている。



第183図 第4号住居跡実測図

ピット 8か所 (P₁~P₈)。P₁は径20cmの円形、深さ55cmである。P₂は長径30cm、短径10cmの楕円形で、深さは47cmである。P₃は長径25cm、短径15cmの楕円形で、深さは45cmである。P₄は長径18cm、短径10cmの楕円形で、深さは40cmである。P₁・P₄は北壁にそれぞれ105度・120度の角度で、P₂・P₃は南壁に110度・150度の角度で斜めに掘り込まれている壁柱穴である。P₅は南壁から15cm北側に位置する長径25cm、短径20cmの楕円形、深さ13cmの出入口施設に伴うピットである。P₆は長径40cm・短径35cmの不整形で、深さは17cm、P₈は径30cmの円形で、深さ20cm、いずれも性格は不明である。P₇は長径60cm、短径40cmの楕円形で、深さ25cmの竈

右袖脇の小さな落ち込みで、覆土には焼土小ブロック、炭化粒子を多量に含んでいる。ここからは支脚、須恵器坏等が出土している。

竈 北壁のほぼ中央部に付設され、ブリッジは崩落していたが、煙道天井部は残っており残存状況は比較的良好である。煙道から焚口部まで90cm、両袖最大幅55cm、壁外への掘り込みは15cmである。袖は白色砂質粘土とロームを混ぜて構築している。煙道天井部は砂・ローム小ブロックを含む褐色土で構築しており、火熱を受けた内側の部分は明赤褐色で硬化している。火床及び燃焼部は5～8cmの厚さに焼けており、長期使用されたものと思われる。煙道の平面形は「U」字形で、下半部は約20度、上半部は60度程の傾きで立ち上がる。竈の前庭部には浅い掘り込みがあり、その覆土は土層9～11である。

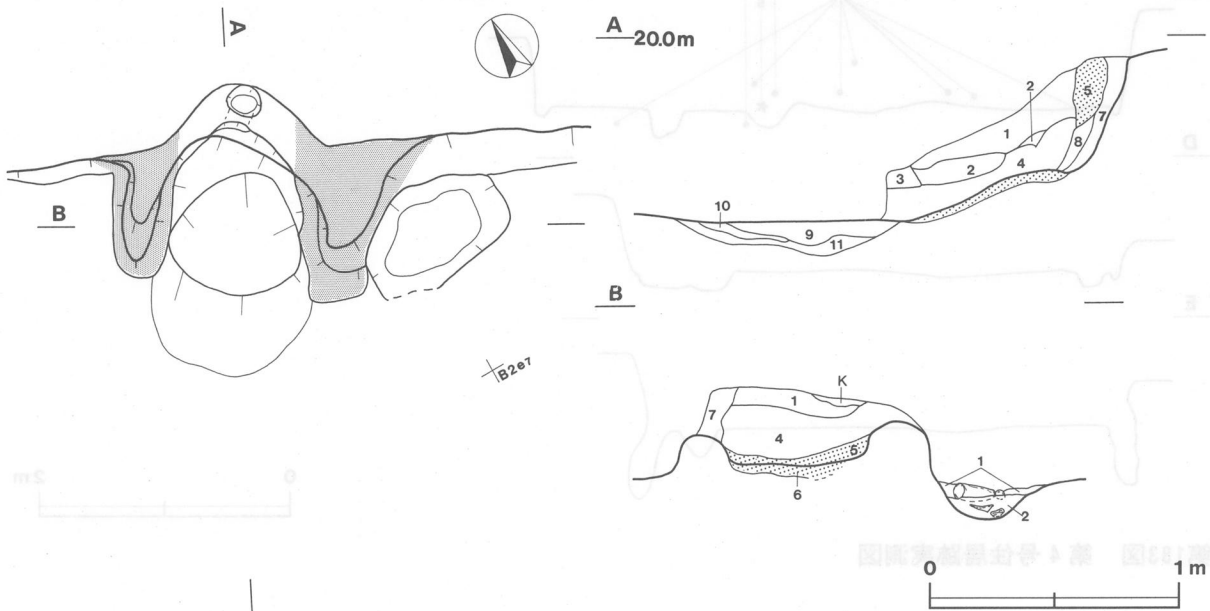
竈土層解説

- | | | | | | |
|---|--------|------------------------|----|------|----------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 焼土粒子・白色粘土・砂少量 | 7 | 黄褐色 | 焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 2 | 明赤褐色 | 焼土粒子・白色粘土・砂少量 | 8 | 黄褐色 | 焼土小ブロック・炭化物少量 |
| 3 | にぶい赤褐色 | 白色粘土ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 | 暗赤褐色 | 焼土小ブロック中量、焼土粒子・炭化物少量 |
| 4 | 赤褐色 | 焼土中・小ブロック中量、炭化粒子少量 | 10 | 明褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 5 | 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子・砂少量 | 11 | 明褐色 | 焼土粒子微量 |
| 6 | 褐色 | 焼土粒子・砂少量 | | | |

覆土 11層からなる。壁の崩落や竈材の流入の後、床面直上には焼土粒子、ロームブロックを含む暗褐色土、中層には極暗褐色土、上層には黒褐色土が堆積している。

土層解説

- | | | | | | |
|---|------|-------------------------|----|-----|----------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子多量 | 7 | 黒褐色 | ローム小ブロック少量 |
| 2 | 極暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 8 | 褐色 | ローム小ブロック中量 |
| 3 | 極暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 9 | 褐色 | ローム中ブロック多量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム中ブロック中量、焼土粒子微量 | 10 | 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・白色粘土・砂少量、焼土粒子微量 |
| 5 | 褐色 | ローム小ブロック中量、焼土粒子・ローム粒子少量 | 11 | 暗褐色 | 焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック・砂少量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム小ブロック中量 | | | |

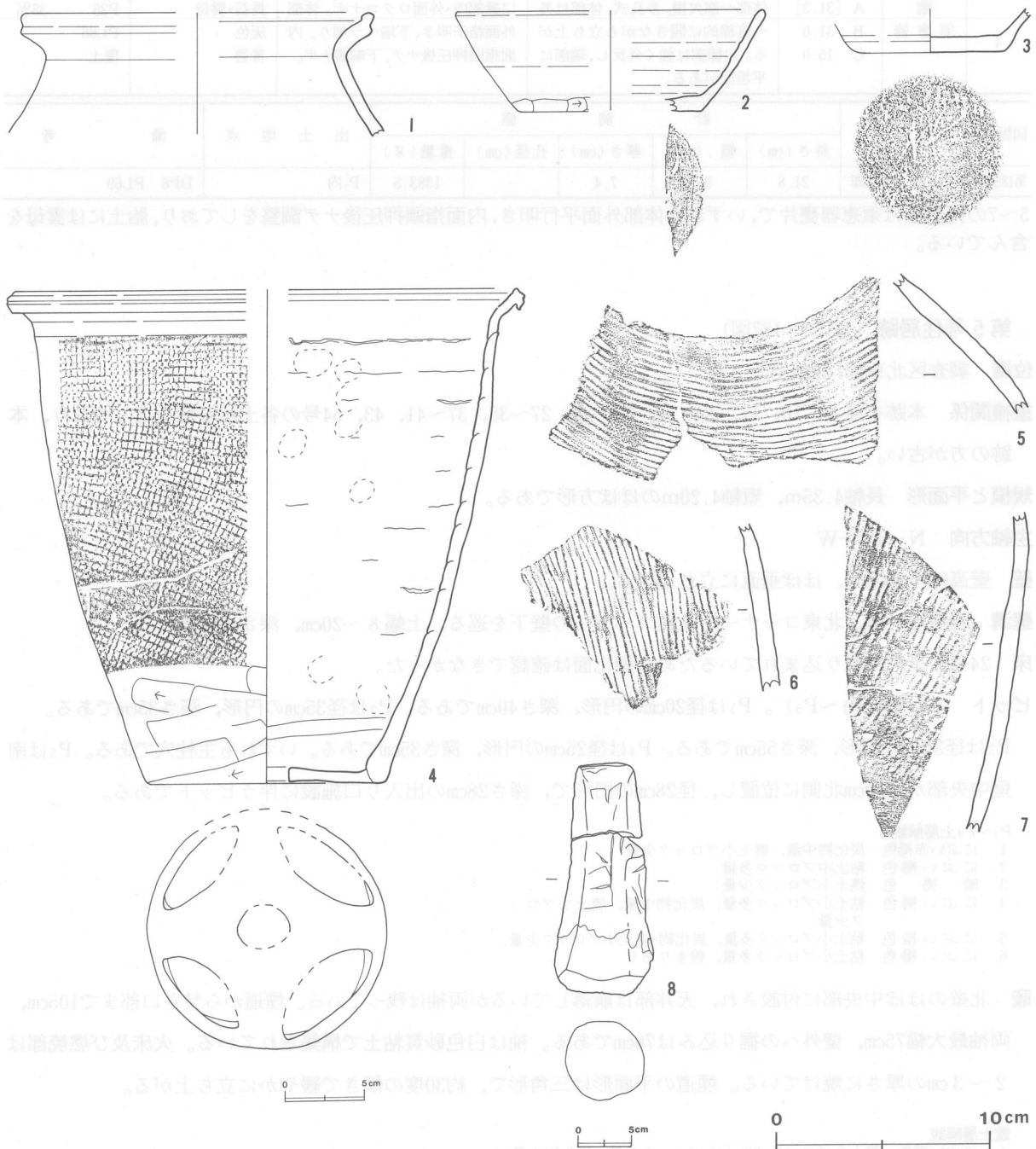


第184図 第4号住居跡竈実測図

遺物 第185図2の須恵器坏は南壁際P₅周辺の覆土下層から、3の須恵器坏は竈右袖脇のP₇内から出土している。4の須恵器甕は竈内・竈周辺部・住居跡南側等、離れた場所から出土したものが接合している。5の支脚はP₇から出土している。北側には垂木材と思われる炭化材が床面直上にみられる。この他に土師器甕の口縁部片4点、体部片143点、底部片2点、須恵器坏の口縁部片5点、体部片3点、須恵器甕の口縁部片1点

及び体部片24点が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から9世紀第1四半期と思われる。本跡は、床面に焼土塊や炭化材が見られ、焼失家屋である。焼土の上面から遺物が出土していることや離れた位置のものが接合していることから、家屋焼失後遺物投棄が行われたものと思われる。竈の構築材は白色砂質粘土を使用しているが、この粘土と第5号住居跡内の粘土採掘土坑群から採掘した粘土は類似している。



第185図 第4号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第185図 1	甕 土師器	A [16.6] B (5.3)	口縁部の破片。口縁部は「く」の字状に折れ、口唇部でつまみあげる。口唇部直下に沈線が巡る。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P21 5% 覆土
2	坏 須恵器	A [14.3] B 4.7 C [8.6]	平底。体部は外へまっすぐに開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下 端手持ちヘラ削り。底部外面一方向のヘラ削り。外面火襷。	長石・雲母 灰色 普通	P22 25% PL66 覆土上層
3	坏 須恵器	B (2.1) C 7.0	底部から体部下端の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	底部内面から外面ロクロナデ。底部外面一方向のヘラ削り。	長石・雲母 灰色 普通	P23 25% P ₇ 内
4	甗 須恵器	A [31.3] B 31.0 C 15.0	体部一部欠損。多孔式。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は強く外反し、端部に平坦面がある。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部 外面格子叩き、下端ヘラ削り。内 面指頭押圧後ナデ、下端横ナデ。	長石・雲母 灰色 普通	P25 35% PL66 覆土

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第185図8	土製支脚	21.8	9.3	7.4	—	1383.5	P ₇ 内	DP6 PL69

5～7の拓影図は須恵器甕片で、いずれも体部外面平行叩き、内面指頭押圧後ナデ調整をしており、胎土には雲母を含んでいる。

第5号住居跡 (第186・187図)

位置 調査区北東部、B2f2区。

重複関係 本跡を第1, 10, 17, 20, 21, 23～25, 27～35, 37～41, 43, 54号の各土坑が掘り込んでおり、本跡の方が古い。

規模と平面形 長軸4.35m、短軸4.20mのほぼ方形である。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高50～65cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 東壁の一部、北東コーナー、北西コーナーの壁下を巡る。上幅8～20cm、深さ4cmである。

床 24基の土坑に掘り込まれているため、硬化面は確認できなかった。

ピット 5か所 (P₁～P₅)。P₁は径20cmの円形、深さ40cmである。P₂は径35cmの円形、深さ35cmである。

P₃は径33cmの円形、深さ55cmである。P₄は径25cmの円形、深さ35cmである。いずれも支柱穴である。P₅は南壁中央部から10cm北側に位置し、径28cmの円形で、深さ28cmの出入り口施設に伴うピットである。

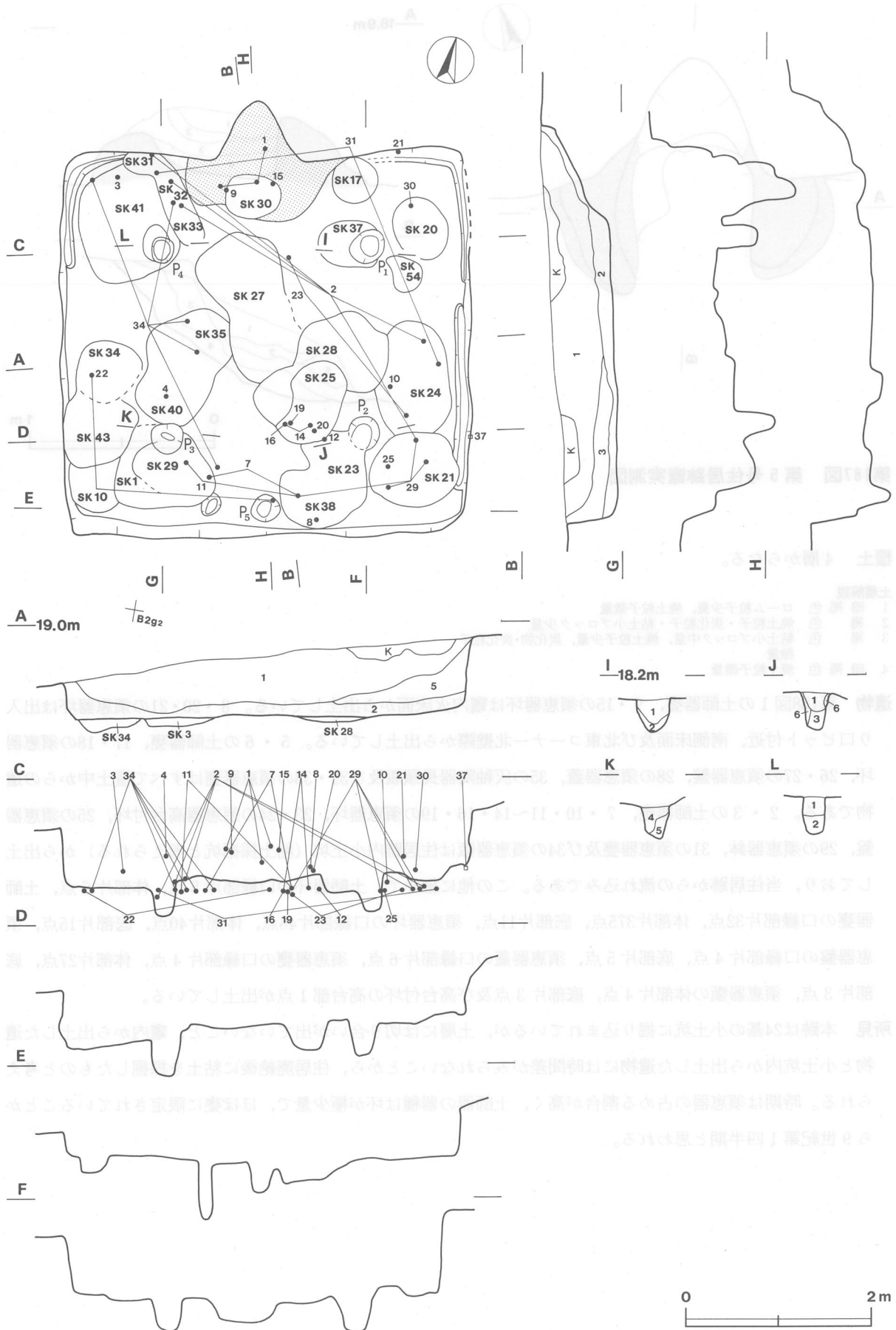
P₁～P₄土層解説

- 1 にぶい赤褐色 炭化物中量、焼土小ブロック少量
- 2 にぶい褐色 粘土中ブロック多量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック少量
- 4 にぶい褐色 粘土小ブロック多量、炭化物中量、焼土小ブロック少量
- 5 にぶい橙色 粘土小ブロック多量、炭化物・焼土小ブロック少量
- 6 にぶい褐色 粘土小ブロック多量、締まりあり

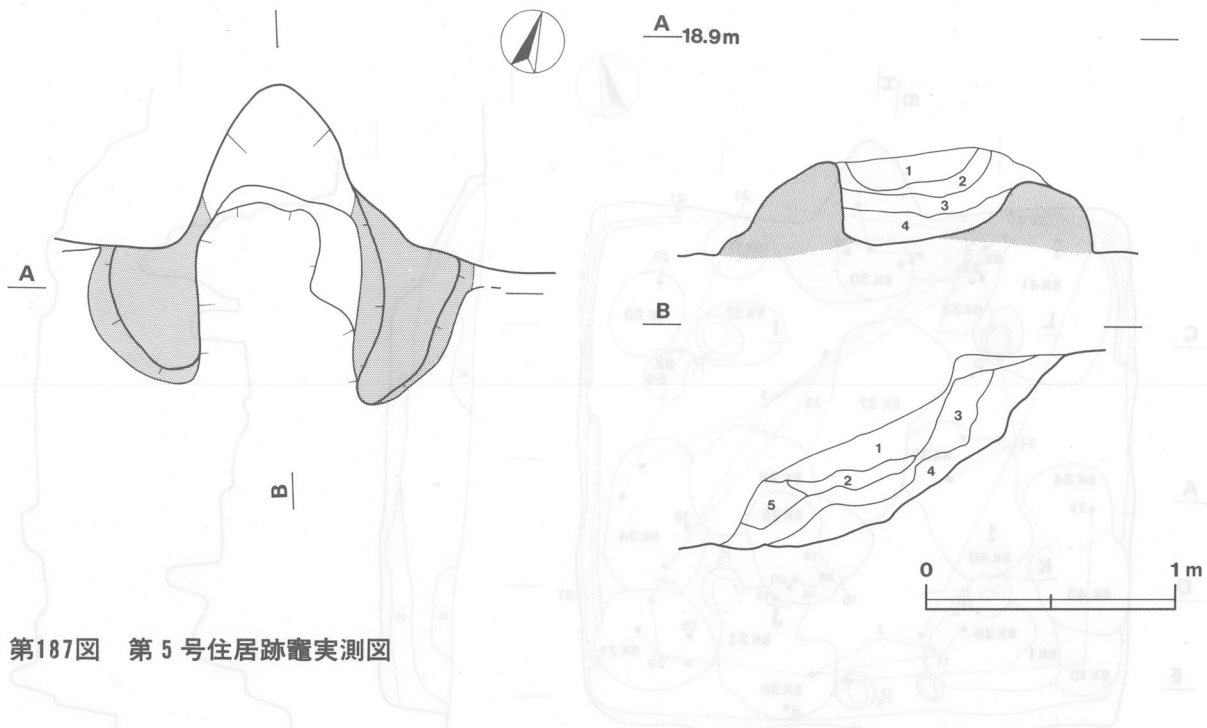
竈 北壁のほぼ中央部に付設され、天井部は崩落しているが両袖は残っている。煙道から焚き口部まで105cm、両袖最大幅75cm、壁外への掘り込みは70cmである。袖は白色砂質粘土で構築されている。火床及び燃焼部は2～3cmの厚さに焼けている。煙道の平面形は三角形で、約30度の傾きで緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 にぶい褐色 焼土小ブロック・粘土小ブロック多量、炭化物少量
- 2 褐色 粘土小ブロック多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子少量
- 3 赤褐色 焼土大・中・小ブロック中量
- 4 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量
- 5 にぶい褐色 粘土大ブロック多量、焼土小ブロック少量



第186図 第5号住居跡実測図



第187図 第5号住居跡竈実測図

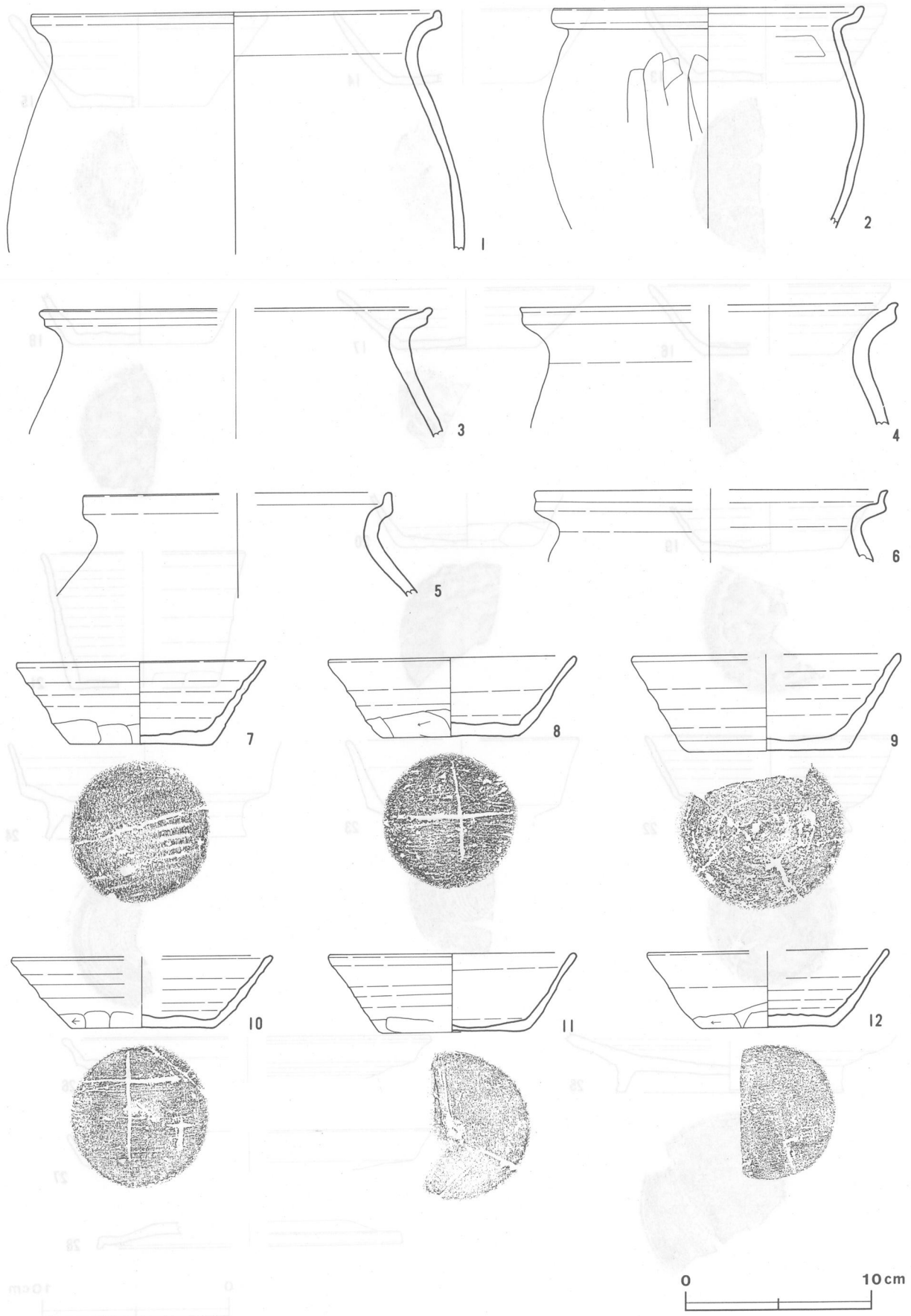
覆土 4層からなる。

土層解説

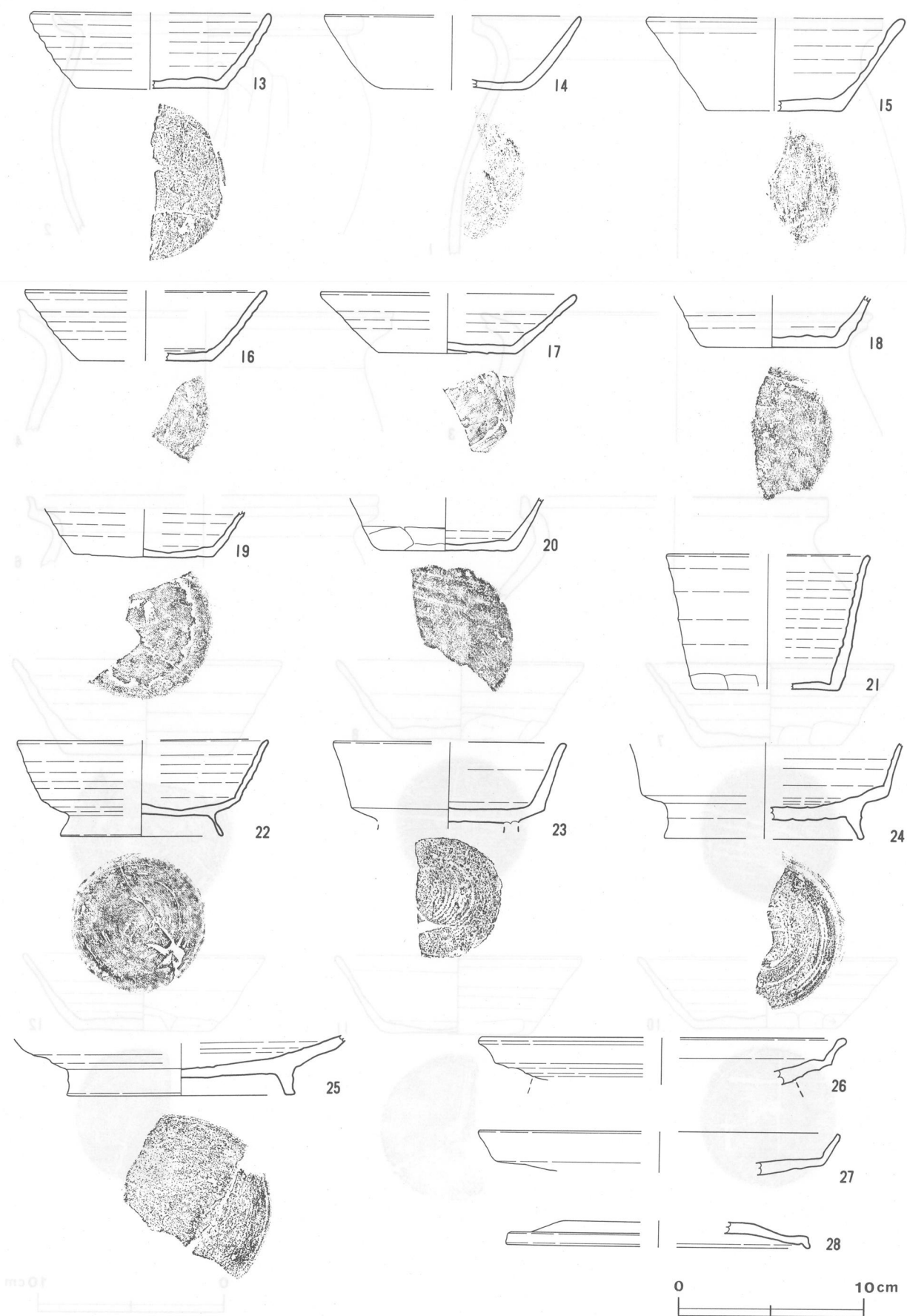
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック少量
- 3 褐色 粘土小ブロック中量, 焼土粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子微量

遺物 第188図1の土師器甕, 9・15の須恵器坏は竈内火床面から出土している。8・20・21の須恵器坏は入り口ピット付近, 南側床面及び北東コーナー北壁際から出土している。5・6の土師器甕, 17・18の須恵器坏, 26・27の須恵器盤, 28の須恵器蓋, 35の灰釉陶器長頸瓶及び32・33の須恵器甕はすべて覆土中からの遺物である。2・3の土師器甕, 7・10・11~14・16・19の須恵器坏, 23・24の須恵器高台付坏, 25の須恵器盤, 29の須恵器鉢, 31の須恵器甕及び34の須恵器甗は住居跡内小土坑(粘土採掘坑と考えられる)から出土しており, 当住居跡からの流れ込みである。この他に細片で, 土師器坏の口縁部片5点, 体部片6点, 土師器甕の口縁部片32点, 体部片375点, 底部片11点, 須恵器坏の口縁部片48点, 体部片40点, 底部片15点, 須恵器盤の口縁部片4点, 底部片5点, 須恵器蓋の口縁部片6点, 須恵器甕の口縁部片4点, 体部片27点, 底部片3点, 須恵器甗の体部片4点, 底部片3点及び高台付坏の高台部1点が出土している。

所見 本跡は24基の小土坑に掘り込まれているが, 土層には切り合いが出ていないこと, 竈内から出土した遺物と小土坑内から出土した遺物には時間差がみられないことから, 住居廃絶後に粘土を採掘したものと考えられる。時期は須恵器の占める割合が高く, 土師器の器種は坏が極少量で, ほぼ甕に限定されていることから9世紀第1四半期と思われる。

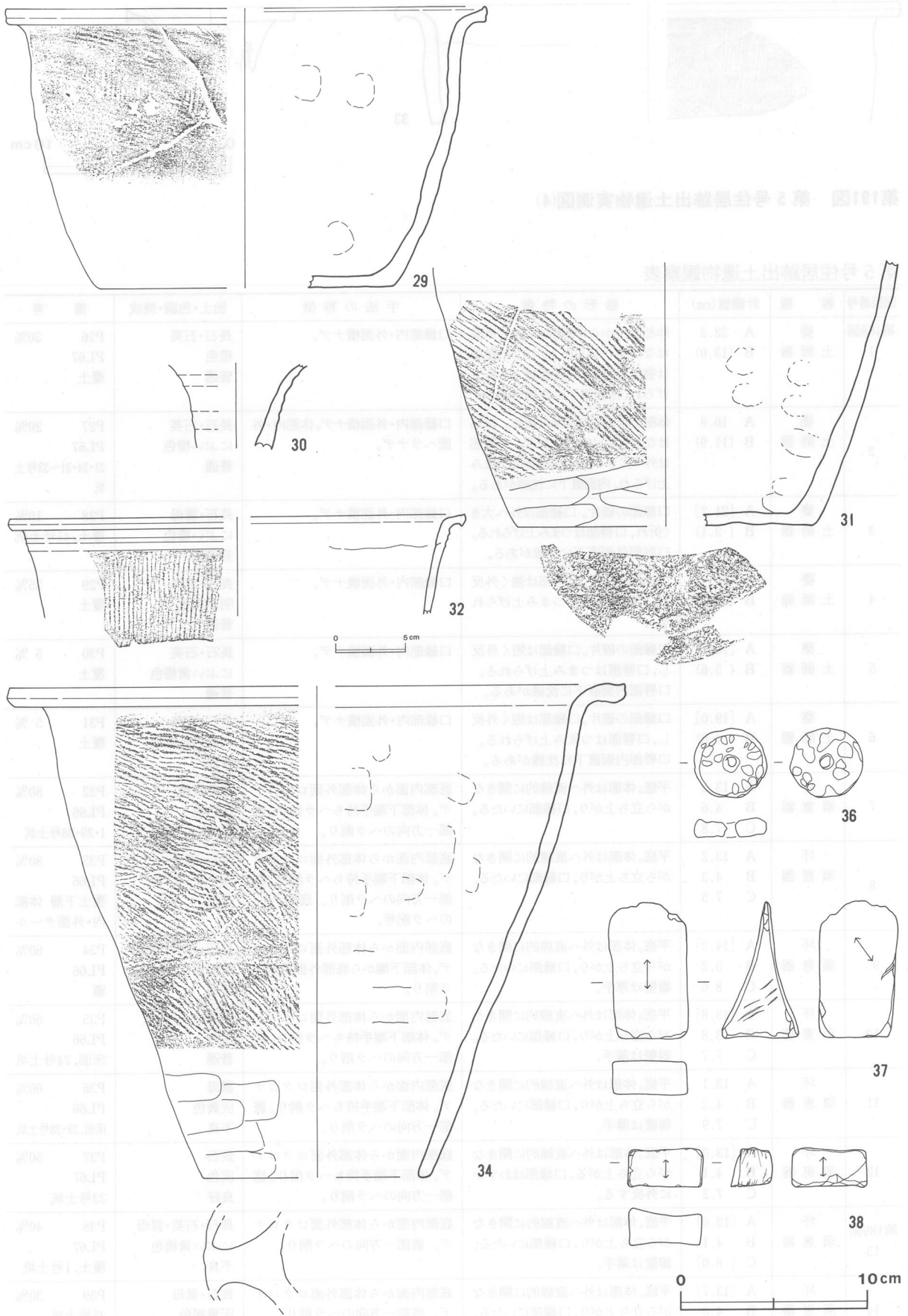


第188图 第5号住居跡出土遺物実測図(1)

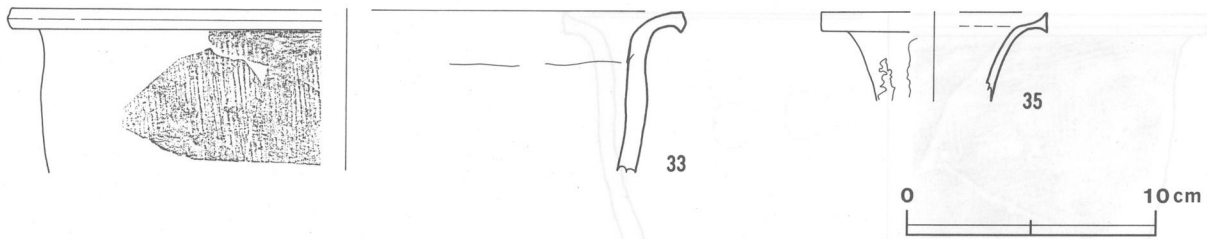


第189图 第5号住居跡出土遺物実測図(2)

中国歴史博物館出土品番号：第 189 号



第190図 第5号住居跡出土遺物実測図(3)



第191図 第5号住居跡出土遺物実測図(4)

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考				
第188図 1	甕 土師器	A 22.2	体部上位から口縁部の破片。体部はなだらかに立ち上がる。口縁部は強く外反し、口唇部はつまみ上げられ、内面直下に沈線がある。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P26 30% PL67 覆土				
		B (13.0)								
		A 16.8					体部上位から口縁部の破片。体部はなだらかに立ち上がる。口縁部は外へ大きく折れ、口唇部はつまみ上げられ、内面直下に沈線がある。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P27 20% PL67 21・24・31~33号土坑
		B (11.9)								
		A [21.2]								
B (2.1)										
4	甕 土師器	A [20.4]	口縁部の破片。口唇部は強く外反し、口唇部は短くつまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P29 35% 覆土				
		B (6.4)								
5	甕 土師器	A [16.7]	口縁部の破片。口縁部は短く外反し、口唇部はつまみ上げられる。口唇部内面直下に沈線がある。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P30 5% 覆土				
		B (5.6)								
6	甕 土師器	A [19.0]	口縁部の破片。口縁部は短く外反し、口唇部はつまみ上げられる。口唇部内面直下に沈線がある。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P31 5% 覆土				
		B (4.0)								
7	坏 須恵器	A 13.3	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	白色微粒 灰白色 普通	P32 80% PL66 1・29・38号土坑				
		B 4.6								
		C 7.8								
8	坏 須恵器	A 13.2	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。底部「+」のヘラ記号。	長石・雲母 灰オリープ色 普通	P33 80% PL66 覆土下層 体部内・外面タール				
		B 4.3								
		C 7.5								
9	坏 須恵器	A [14.2]	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。器壁は厚手。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端から底部外面回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P34 60% PL66 竈				
		B 5.2								
		C 8.6								
10	坏 須恵器	A [13.8]	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。器壁は薄手。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	白色粒子・雲母 灰色 普通	P35 60% PL66 床面, 24号土坑				
		B 3.8								
		C 7.7								
11	坏 須恵器	A 13.1	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。器壁は薄手。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	雲母 灰黄色 不良	P36 60% PL66 床面, 29・38号土坑				
		B 4.2								
		C 7.9								
12	坏 須恵器	A [13.0]	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向のヘラ削り。	長石 灰色 良好	P37 50% PL67 23号土坑				
		B 4.1								
		C 7.2								
第189図 13	坏 須恵器	A [12.6]	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。器壁は薄手。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 不良	P38 40% PL67 覆土, 1号土坑				
		B 4.1								
		C [8.0]								
14	坏 須恵器	A [13.7] B 4.0 C [8.2]	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部一方向のヘラ削り。	長石・雲母 灰黄褐色 不良	P39 30% 25号土坑				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第189図 15	坏 須恵器	A [13.7]	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。口縁端部でわずかに肥厚する。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部外面摩滅。	長石・雲母 褐灰色 不良	P40 10% PL67 甑
		B 5.0				
		C [7.4]				
16	坏 須恵器	A [13.0]	平底。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。器壁は薄手。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部外面摩滅。	長石・雲母 灰白色 不良	P41 10% 25号土坑
		B 3.7				
		C [7.2]				
17	坏 須恵器	A [13.6]	平底。体部は外へ大きく開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後雑な手持ちヘラ削り。	白色微粒 黄灰色 良好	P42 10% 覆土
		B 3.3				
		C 7.4				
18	坏 須恵器	B (2.8)	底部から体部下端の破片。平底。体部は外へ開きながら立ち上がる。	底部内面、体部内・外面ロクロナデ。底部外面一方向のヘラ削り。	長石 灰色 普通	P43 10% 覆土下層
		C 7.5				
19	坏 須恵器	B (2.6)	底部から体部下端の破片。平底で内面は凹む。体部は外へ開きながら立ち上がる。	底部内面、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後一方向のヘラ削り。	長石・雲母 灰色 普通	P44 30% PL67 覆土中層, 25号土坑
		C 7.6				
20	坏 須恵器	B (2.9)	底部から体部下端の破片。平底で内面は凹み、中心部で薄くなる。体部は外へ開きながら立ち上がる。	底部内面、体部内・外面ロクロナデ。底部外面一方向のヘラ削り。	長石・雲母 灰白色 普通	P45 20% PL67 覆土下層
		C 7.2				
21	坏 須恵器	A [10.8]	平底。体部はほぼ直線的に立ち上がり、口縁部にいたる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端、底部外面手持ちヘラ削り。体部内面のロクロ目が強い。	長石・白色微粒 暗灰色 良好	P46 40% PL67 覆土中層
		B 7.4				
		C [7.8]				
22	高台付坏 須恵器	A [13.5]	底部から体部の境は稜をなして折れ、体部は外へ開きながら立ち上がる。高台は「ハ」の字状に開く。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	石英・雲母 灰黄色 良好	P47 60% PL67 床面, 34号土坑
		B 5.2				
		D 8.8				
		E 1.2				
23	高台付坏 須恵器	A [12.6]	高台部欠損。底部から体部の境は稜をなして折れ、体部はわずかに外へ開いて立ち上がり、口縁部にいたる。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ削り後、高台貼り付け。底部中央に同心円状の圧痕。	長石・石英 灰色 良好	P48 40% PL67 床面, 24号土坑
		B (4.3)				
24	高台付坏 須恵器	B (5.2)	口縁部欠損。底部から体部の境は稜をなして折れ、体部はわずかに外へ開いて立ち上がり、口縁部にいたる。高台は「ハ」の字状に開く。	底部内面から体部外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・白色微粒 黄灰色 普通	P49 30% PL67 覆土中層
		D [10.8]				
		E 1.9				
25	盤 須恵器	B (3.2)	口縁部欠損。平らな底部から体部はなだらかに立ち上がる。高台は直線的に開く。	底部内面・体部外面ロクロナデ。底部外面回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・雲母 黄灰色 普通	P50 40% PL67 21号土坑
		D 12.3				
		E 1.4				
26	盤 須恵器	A [19.4]	口縁の破片。なだらかな体部から口縁部は外反する。	体部内面から体部外面ロクロナデ。	白色微粒 灰白色 普通	P52 5% P ₆ 内
		B (2.5)				
27	盤 須恵器	A [19.4]	口縁部の破片。なだらかな体部から口縁部は屈曲して立ち上がる。	体部内面から体部外面ロクロナデ。	砂粒 灰色 普通	P53 5% 覆土中層
		B (2.3)				
28	蓋 須恵器	A [16.2]	天井部から口縁部の破片。天井部は平坦で、口縁部は短く屈曲する。	天井部回転ヘラ削り。口縁部外面から内面ロクロナデ。	砂粒・雲母 灰オリーブ色 普通	P54 10% PL67 覆土上層
		B (1.4)				
第190図 29	鉢 須恵器	A [25.8]	平底。体部は外方に開きながら立ち上がる。口縁部は体部に対しほぼ直角に外反し、端部はつまみあげている。口唇部直下に沈線が巡る。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き、内面指頭押圧。	雲母 にぶい橙色 不良	P55 30% PL67 覆土中層 21・38号土坑
		B 15.0				
		C [16.0]				
30	長頸瓶 須恵器	B (4.6)	頸部の破片。頸部は外反しながら立ち上がる。	頸部内・外面ロクロナデ。	雲母 にぶい黄橙色	P57 5% PL68 覆土下層
31	甕 須恵器	B (14.2)	底部から体部下端の破片。平底。体部は外へまっすぐに開きながら立ち上がる。	体部外面平行叩き、内面指頭押圧後ナデ。体部外面下端ヘラ削り。	長石・雲母 灰色 普通	P58 30% PL67 覆土下層 24・28・31号土坑
		C [16.0]				
32	甕 須恵器	A [33.0]	口縁部の破片。体部はわずかに外方に開いて立ち上がる。口縁部は体部に対しほぼ直角に外反し、口唇部は上下に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き、内面指頭押圧後ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P59 5% 覆土中層
		B (7.1)				

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第191図 33	甕 須恵器	A [27.2] B (6.5)	口縁部の破片。体部は垂直に立ち上がる。口縁部は体部に対しほぼ直角に外反し、口唇部は上下に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き、内面ナデ。	白色微粒 灰色 普通	P60 5 % PL67 覆土中層
第190図 34	甌 須恵器	A [33.3] B 26.5 C [12.3]	多孔式。体部は外へ直線的に開きながら立ち上がる。口縁部は体部に対しほぼ直角に外反しする。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部外面平行叩き、内面指頭押圧ナデ。体部外面下端ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P61 40% PL68 覆土下層, 20・24・29・32・35・41号土坑
第191図 35	長頸瓶 灰釉陶器	A [9.0] B (3.6)	口縁部の破片。口縁部は外反して立ち上がり、端部は平坦面をつくる。	口縁部内・外面ロクロナデ。	緻密 オリーブ褐色 良好	P56 5 % 覆土下層 二次焼成 井ヶ谷78号窯式

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第190図36	土製紡錘車	3.8	3.9	1.0	0.5	14.6	28号土坑内	DP2 PL69

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第190図37	砥 石	7.3	4.2	4.1	110.6	凝灰岩	北東コーナー床面	Q2 PL69
38	砥 石	4.1	2.1	2.0	23.2	凝灰岩	南西部下層	Q3 PL69

第6号住居跡 (第192図)

位置 調査区南西部, C2a2区。

規模と平面形 長軸 [4.50] m, 短軸 [3.80] mの長方形と推定される。

主軸方向 N-45°-E

壁 耕作による攪乱のため残存していない。

床 攪乱により遺存状態が悪い。竈焚き口部と思われる手前的一部分については踏み固められているのが確認できた。

竈 天井部, 燃焼部及び袖部のすべてが壊され残存していない。床面の硬化状況や範囲, 竈崩落焼土塊の状況等から, 北東壁の北側寄りに付設されていたものと思われる。燃焼部と考える部分の竈崩落焼土を取り除くと, 炭化物・焼土ブロック混じりの暗褐色土が堆積しており, これが燃焼部内の覆土であると思われる。

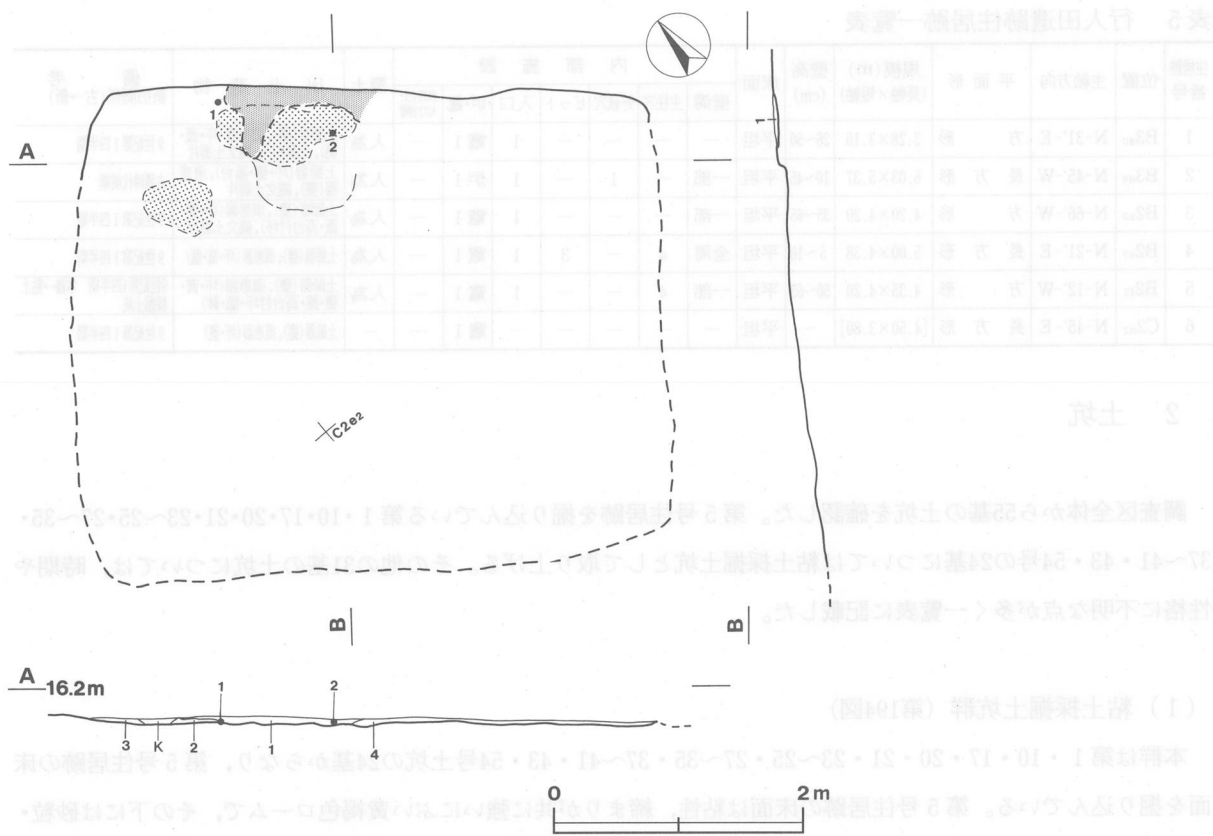
覆土 4層からなる。南西側は削平されている。

土層解説

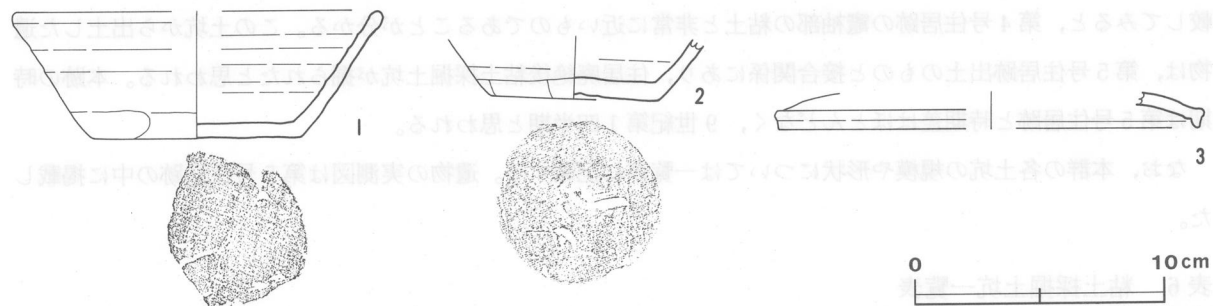
- 1 暗赤褐色 焼土中ブロック多量, 炭化物中量, 炭化粒子・粘土中ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量
- 3 黄褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量

遺物 図示した遺物は3点で, すべて竈周辺の床面からの出土である。この他に土師器甕の口縁部片2点, 体部片27点, 須恵器杯の体部片4点及び須恵器甕の口縁部片1点が出土している。

所見 本跡は, 耕作による攪乱のため壁や床面の範囲を明確に確認できなかったため, 竈の残存部と床面の硬化状況から規模と平面形を推定した。時期は出土遺物から9世紀第1四半期と思われる。



第192図 第6号住居跡実測図



第193図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第193図 1	坏 須恵器	A [14.5] B 5.1 C 8.5	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反し、肥厚する。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部外面一方向のヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P62 20% 床面
2	坏 須恵器	B (2.5) C 6.8	底部から体部下端の破片。平底。体部は外方に立ち上がる。	底部・体部内面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部外面不定方向の手持ちヘラ削り。	長石・砂粒 灰色 普通	P63 20% 床面
3	蓋 須恵器	A [16.9] B (1.5)	口縁部の破片。ゆるやかに口縁部にいたり、端部は下方に屈曲する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	長石 灰白色 普通	P64 3% PL68 床面

表5 行人田遺跡住居跡一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)	
							壁溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口	炉・竈				間仕切溝
1	B3 ₄₀	N-31°-E	方形	3.28×3.16	26~50	平坦	—	—	—	—	1	竈1	—	人為	土師器(甕), 須惠器(坏・蓋・甕), 土製勾玉, 縄文土器片	9世紀第1四半期
2	B3 ₄₈	N-45°-W	長方形	6.03×5.37	10~45	平坦	一部	—	1	—	1	炉1	—	人為	土師器(坏・甕・器台), 須惠器(甕), 縄文土器片	古墳時代前期
3	B2 ₆₀	N-66°-W	方形	4.20×4.20	35~65	平坦	一部	—	—	—	1	竈1	—	人為	土師器(甕), 須惠器(坏・甕・蓋・高台付坏), 縄文土器片	9世紀第1四半期
4	B2 ₆₇	N-21°-E	長方形	5.00×4.38	5~10	平坦	全周	4	—	3	1	竈1	—	人為	土師器(甕), 須惠器(坏・甕)	9世紀第1四半期
5	B2 ₇₂	N-12°-W	方形	4.35×4.20	50~65	平坦	一部	4	—	—	1	竈1	—	人為	土師器(甕), 須惠器(坏・蓋・甕・高台付坏・甕・鉢)	9世紀第1四半期 本跡→粘土採掘土坑
6	C2 ₄₂	N-45°-E	長方形	[4.50×3.80]	—	平坦	—	—	—	—	—	竈1	—	—	土師器(甕), 須惠器(坏・甕)	9世紀第1四半期

2 土坑

調査区全体から55基の土坑を確認した。第5号住居跡を掘り込んでいる第1・10・17・20・21・23~25・27~35・37~41・43・54号の24基については粘土採掘土坑として取り上げる。その他の31基の土坑については、時期や性格に不明な点が多く一覧表に記載した。

(1) 粘土採掘土坑群 (第194図)

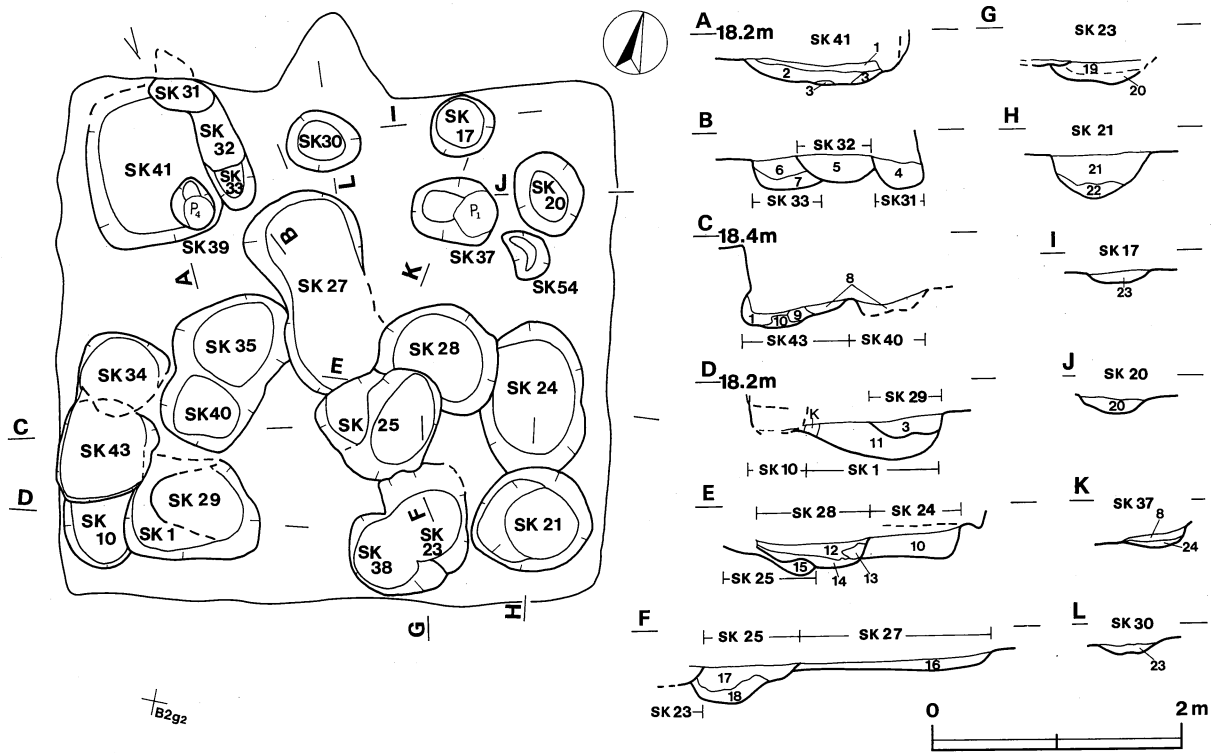
本群は第1・10・17・20・21・23~25・27~35・37~41・43・54号土坑の24基からなり、第5号住居跡の床面を掘り込んでいる。第5号住居跡の床面は粘性、締まりが共に強いにぶい黄褐色ロームで、その下には砂粒・黒色粒子を含む白色粘土の層が堆積しており、全ての土坑はこの層の最下部までを掘り込んでいることから、粘土の採掘を目的とした土坑と考えられる。この白色粘土と当遺跡の竪穴住居跡の竈構築に使われた粘土を比較してみると、第4号住居跡の竈袖部の粘土と非常に近いものであることが分かる。この土坑から出土した遺物は、第5号住居跡出土のものと同接関係にあり、住居廃絶後粘土採掘土坑が掘られたと思われる。本跡の時期は第5号住居跡と時期差はほとんどなく、9世紀第1四半期と思われる。

なお、本群の各土坑の規模や形状については一覧表に記載する。遺物の実測図は第5号住居跡の中に掲載した。

表6 粘土採掘土坑一覧表

土坑番号	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	出土遺物
			長径×短径(m)	深さ(cm)			
1	N-10°-W	楕円形	[1.25×0.80]	33	緩傾	皿状	須惠器坏片1点, 土師器甕片3点
10	N-51°-W	(楕円形)	[0.80×0.55]	20	緩傾	凹凸	
17	N-25°-E	ほぼ円形	0.50×0.40	9	緩傾	皿状	土師器甕片12点
20	N-23°-W	楕円形	0.80×0.56	10	緩傾	皿状	第190図34須惠器甕, 土師器甕片3点
21	N-80°-E	楕円形	0.98×0.84	35	緩傾	皿状	第188図2土師器甕, 25須惠器盤, 30須惠器鉢, 土師器甕1点
23	N-49°-W	楕円形	[0.90×0.50]	15	緩傾	皿状	第188図12須惠器坏, 土師器甕片1点
24	N-13°-W	楕円形	1.28×0.84	25	垂直	平坦	第188図10須惠器坏, 23須惠器高台付坏, 33須惠器甕, 36須惠器甕
25	N-75°-E	楕円形	0.95×0.85	30	緩傾	皿状	第189図14・16・19須惠器坏
27	N-24°-W	楕円形	[1.60×0.93]	10	緩傾	平坦	土師器甕片14点
28	N-53°-W	楕円形	0.95×0.70	20	外傾	凹凸	第190図31須惠器甕, 土師器甕片3点, 須惠器坏片・盤片・甕片各1点
29	N-77°-W	不整形	[0.80×0.80]	15	外傾	凹凸	第190図34須惠器甕, 土師器甕片1点
30	N-85°-E	円形	0.59×0.50	5	外傾	凹凸	

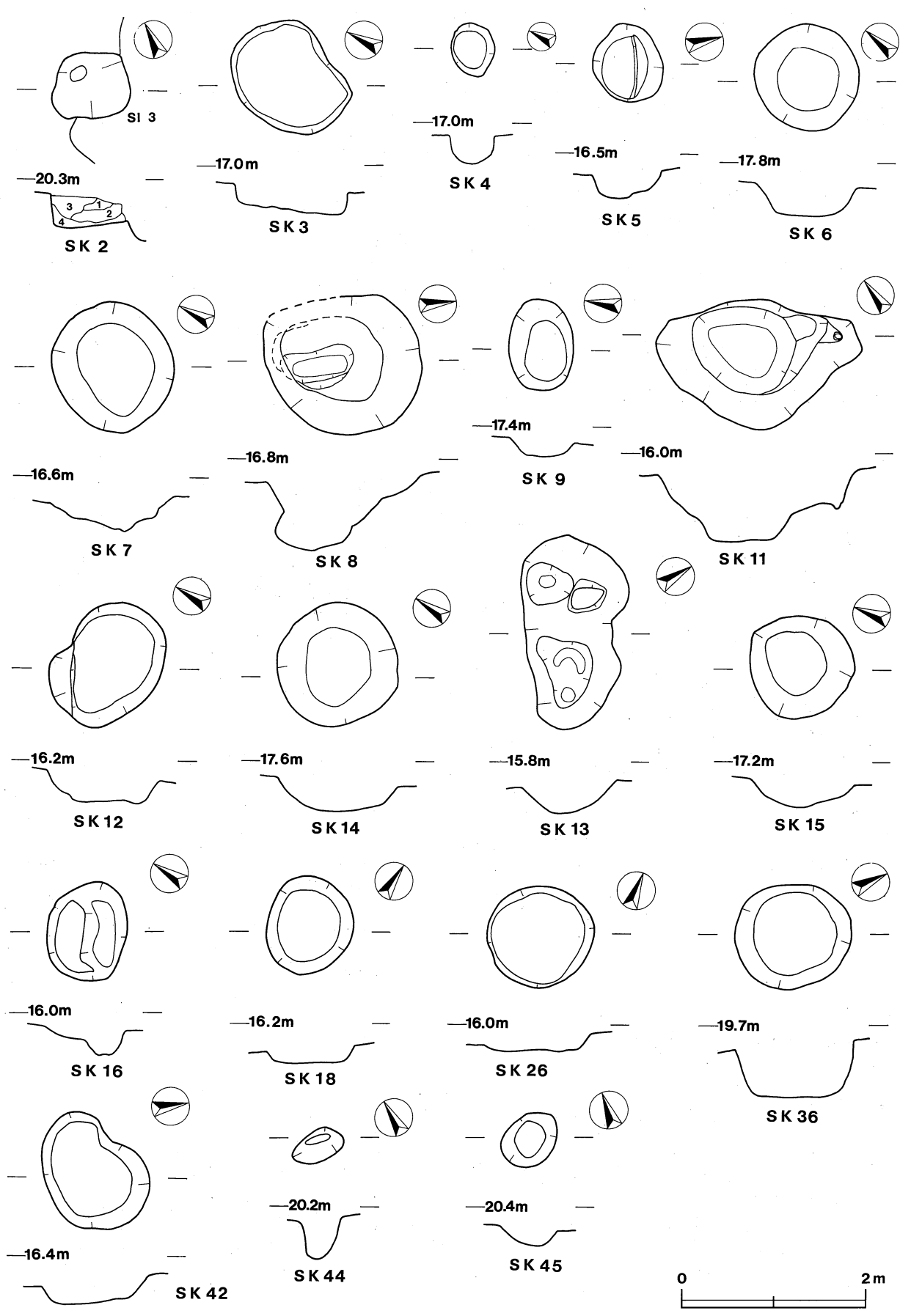
土坑番号	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	出土遺物
			長径×短径(m)	深さ(cm)			
31	N-26°-W	楕円形	0.54×0.40	25	垂直	平坦	第190図31須恵器甕
32	N-26°-W	楕円形	0.59×0.30	22	緩傾	皿状	第190図34須恵器甕
33	N-26°-W	楕円形	0.60×0.32	25	外傾	平坦	
34	N-74°-E	円形	[0.72×0.68]	60	外傾	凹凸	第189図22須恵器高台付坏
35	N-52°-E	不整形円形	[0.92×0.84]	70	外傾	皿状	第190図34須恵器甕
37	N-11°-W	楕円形	0.68×0.51	10	緩傾	皿状	土師器甕片5点
38	N-48°-W	楕円形	0.65×0.50	15	緩傾	皿状	第190図29須恵器鉢, 土師器甕片2点
39	N-29°-W	楕円形	0.40×0.30	12	緩傾	皿状	
40	N-67°-E	不整形方形	[0.64×0.60]	10	外傾	凹凸	
41	N-26°-W	長方形	[1.25×1.00]	17	外傾	皿状	第190図34須恵器甕, 土師器甕片7点, 須恵器坏片2点
43	N-42°-E	ほぼ円形	0.82×0.75	12	緩傾	凹凸	
54	N-26°-W	不整形楕円形	0.42×0.30	10	緩傾	皿状	



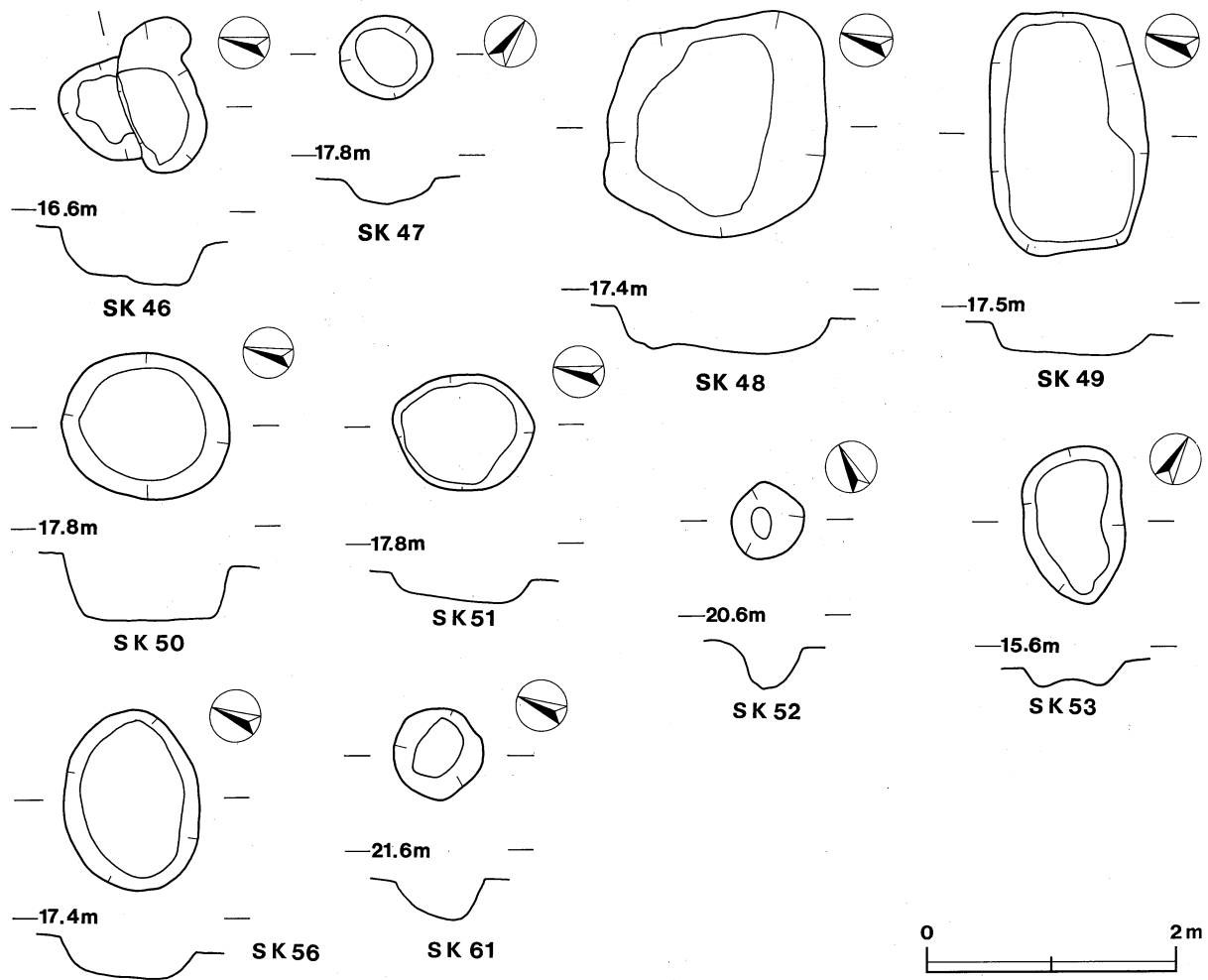
第194図 粘土採掘土坑群実測図

粘土採掘土層解説

- | | | | | | |
|----|--------|------------------------|----|--------|------------------------|
| 1 | にぶい褐色 | 粘土中ブロック多量, 焼土小ブロック中量 | 13 | にぶい黄褐色 | 砂粒・粘土粒多量 |
| 2 | にぶい褐色 | 粘土中ブロック中量, 暗褐色土ブロック少量 | 14 | 黒褐色 | 炭化物多量 |
| 3 | 暗褐色 | 粘土粒子少量 | 15 | 暗褐色 | 焼土小中ブロック・砂まじり, 粘土多量 |
| 4 | にぶい黄褐色 | 焼土小ブロック・砂まじり粘土小ブロック少量 | 16 | 暗褐色 | 砂粒まじり粘土粒子・焼土小ブロック少量 |
| 5 | にぶい黄褐色 | 焼土小・中ブロック少量, 砂粒多量しまりなし | 17 | 暗褐色 | 砂粒まじり粘土粒子多量 |
| 6 | にぶい黄褐色 | 砂粒多量, 焼土小・中ブロック少量しまりあり | 18 | 褐色 | 砂粒, 粘土粒多量 |
| 7 | 暗褐色 | 砂まじり粘土小ブロック多量 | 19 | 暗褐色 | 粘土粒子多量, 粘土小ブロック少量 |
| 8 | にぶい黄褐色 | 焼土小・大ブロック, 粘土中・大ブロック少量 | 20 | 暗褐色 | 粘土粒子・焼土粒子中量 |
| 9 | にぶい黄褐色 | 粘土大ブロック多量 | 21 | 暗褐色 | 粘土粒子・粘土ブロック多量, 炭化物粒子少量 |
| 10 | にぶい黄褐色 | 粘土小・大ブロック多量 | 22 | 暗褐色 | 粘土中ブロック中量, ローム中ブロック少量 |
| 11 | にぶい黄褐色 | 粘土中ブロック少量 | 23 | 暗赤褐色 | 焼土小・中ブロック中量, 炭化物・砂粒少量 |
| 12 | 暗褐色 | 焼土小ブロック・炭化物少量 | 24 | 暗褐色 | 砂粒・炭化物中量, 粘土小ブロック少量 |



第195图 土坑实测图(1)



第196図 土坑実測図(2)

(2) その他の土坑 (第195・196図)

表7 土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
2	B2e0	N-86°-W	ほぼ円形	0.44×0.38	34	垂直	平坦	人為		3号住より新
3	C3c4	N-51°-E	不整楕円形	1.25×1.05	23	外傾	平坦	自然	縄文土器片 3点, 土師器甕片 4点	
4	C3c3	N-64°-W	円形	0.52×0.50	32	垂直	皿状	人為	土師器甕片 4点	
5	C3e4	N-53°-E	楕円形	0.83×0.72	38	緩傾	平坦	自然	縄文土器片 5点, 土師器甕片 1点, 須恵器坏片 1点	
6	C3a1	N-0°	円形	1.14×1.14	34	外傾	平坦	人為	石鏃 1点	
7	B1g8	N-64°-E	楕円形	1.70×1.30	45	緩傾	凹凸	自然		
8	B1h8	N-62°-E	楕円形	1.80×1.60	80	緩傾	凹凸	自然	縄文土器片 2点	
9	C3a5	N-72°-E	楕円形	1.00×0.72	18	緩傾	平坦	自然	縄文土器片 5点	
11	B1i8	N-41°-E	不整楕円形	2.23×1.43	75	緩傾	凹凸	人為		
12	C3e5	N-80°-E	不整楕円形	1.45×1.00	35	緩傾	皿状	自然	縄文土器片 2点	
13	C1a8	N-56°-W	不整長楕円形	1.07×0.48	38	緩傾	皿状	人為		
14	C3a1	N-82°-E	円形	1.40×1.35	35	垂直	皿状	自然	縄文土器片 7点	

土坑 番号	位 置	長径方向	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
15	C2c7	N-0°	不整円形	1.20×1.10	30	垂直	皿状	自然	磨石1点	
16	C3d1	N-76°-E	楕円形	1.10×0.85	32	緩傾	凹凸	自然		
18	C1a9	N-28°-W	楕円形	1.10×0.85	15	緩傾	平坦	自然		
26	C1b0	N-74°-E	円形	1.10×1.10	15	緩傾	平坦	人為		
36	B2f5	N-30°-E	円形	0.64×0.58	64	垂直	平坦	人為	縄文土器片5点,土師器甕片1点	
42	C2b9	N-61°-E	不整楕円形	1.38×0.80	25	外傾	平坦	自然	縄文土器片5点,土師器甕片1点	
44	B3c1	N-80°-W	楕円形	0.50×0.30	41	垂直	凹凸	人為	縄文土器片12点,土師器甕片3点	
45	B2a0	N-67°-E	楕円形	0.70×0.50	20	外傾	皿状	人為	土師器甕片1点	
46	C3d2	N-73°-E	不定形	1.17×1.07	35	緩傾	平坦	人為	縄文土器片4点	
47	C2j1	N-75°-W	円形	0.69×0.66	22	緩傾	皿状	人為		
48	C3b2	N-17°-W	不整円形	1.75×1.68	33	外傾	平坦	人為	縄文土器片8点,土師器坏片1点	
49	C3a3	N-57°-E	不整楕円形	2.00×1.28	22	外傾	平坦	自然	尖頭器1点,縄文土器片6点,土師器甕片1点,須恵器坏片1点	
50	C3a2	N-5°-W	楕円形	1.38×1.19	50	外傾	平坦	人為	縄文土器片12点	
51	C3a3	N-11°-W	楕円形	1.15×0.95	20	緩傾	皿状	人為	縄文土器片6点	
52	B3c1	N-22°-E	ほぼ円形	0.62×0.57	30	外傾	皿状	人為	土師器甕片2点,土師器坏片2点,縄文土器片3点	
53	C2e1	N-40°-W	不整楕円形	0.62×0.40	18	緩傾	凹凸	自然	縄文土器片1点	
56	C3b4	N-74°-E	楕円形	1.45×1.10	25	外傾	平坦	人為	縄文土器片3点	
61	B3a0	N-47°-W	円形	0.75×0.70	30	外傾	皿状	人為	土師器甕片3点	

3 溝

当遺跡からは12条の溝を確認した。第1号溝を除く溝は、時期を決定できるような出土遺物もなく、構築時期や性格については不明な点が多い。溝の形状や覆土から比較的新しい時期の溝と思われる。特に、第6・7・10・11号溝は地境になっており、根きり溝と考えられるので記載は省略する。以下、確認した溝と出土遺物について記載する。

第1号溝 (第197図)

位置 調査区東部B4i0区～北部中央D2b8区。

重複関係 本跡は第2・6号溝に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と形状 長さ61.68mで、上幅50～280cm、下幅30～60cm、深さ20～80cmである。断面は深いところでは「V」字形、浅いところでは皿状である。

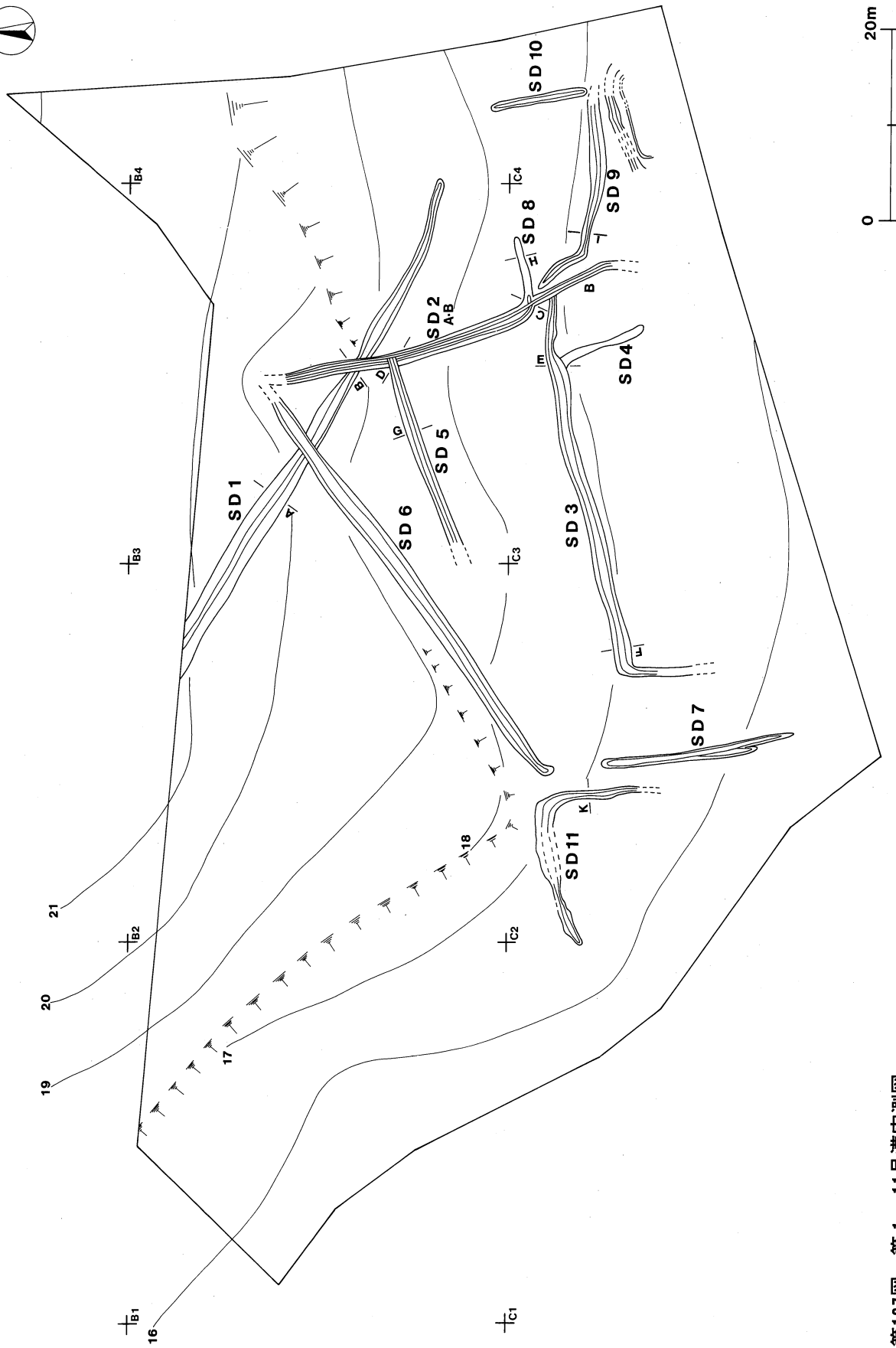
方向 B4i0区から北西方向(N-68°-W)に直線的に延び、さらに調査区域外に続く。

覆土 4層からなる。自然堆積土層である。(第198図A, Bの土層1～4)

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック多量, 炭化粒子少量

遺物 遺物はすべて覆土中からの出土である。図示したもの他に、縄文土器片62点,土師器甕の口縁部片12点,体部片409点,底部片4点,須恵器坏の口縁部片6点,体部片10点,底部片7点,須恵器甕の口縁部片1点,体部片24点,底部片2点,須恵器盤の底部片2点,須恵器高台付坏の底部片1点,磁器片3点が出土



第197图 第1~11号溝美測区

している。

所見 本跡の時期は出土遺物から9世紀第1四半期頃の溝と思われる。

第2 A・B号溝 (第197図)

位置 調査区南東部C3c8区～北部中央B3e5区。

重複関係 第2 A号溝は第2 B・5・8号溝より古い。

規模と形状 第2 A号溝は長さ25.4mで、上幅40～50cm、下幅20～30cm、深さは50～60cmである。断面は逆台形である。第2 B号溝は長さ36.4mで、上幅40～70cm、下幅20～40cm、深さは25～50cmである。断面は「U」字形である。

方向 C3c8区から北西方向(N-23°-W)に直線的に延びる。第2 A号溝はB3e5区からC3a8区まで、第2 B号溝はB3e5区からC3c8区まで延び、北西部はさらに調査区域外へ続く。

覆土 12層からなる。第2 A・B号溝の両方ともにロームブロックを含んでいる。(第198図B, C, Dの土層5～9・14～16は第2号A溝, 10～12・17は第2号B溝)

土層解説

5	褐色	ローム大ブロック中量	11	褐色	ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量
6	褐色	炭化物・炭化粒子・ローム大・小ブロック少量, 焼土粒子微量	12	褐色	ローム小ブロック中量
7	にぶい褐色	ローム大ブロック多量, ローム粒子少量, 炭化物微量	14	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量
8	褐色	ローム大ブロック多量	15	褐色	ローム大ブロック中量
9	黄褐色	ローム大ブロック多量	16	にぶい褐色	ローム中・小ブロック中量, 炭化粒子微量
10	にぶい褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子微量	17	褐色	ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量

遺物 第2 A号溝からは第199図14の鉢, 15の播鉢が出土している。この他には混入したと思われる土師器片, 須恵器片が出土している。第2 B号溝からは土師器片, 須恵器片に混じってガラス片が出土している。

所見 本跡は遺構確認時には1条の溝と考えたが, 掘り込みを開始すると西側のAと東側のBに分けることが確認できた。A号溝の覆土はロームブロックを多く含むことから人為堆積と思われる。2つの溝は時期をずらして構築されたものと思われ, 時期は出土遺物からA号溝は18世紀後半以降, B号溝はA号溝よりさらに新しい時期の溝である。

第3号溝 (第197図)

位置 調査区南東部C3b8区～南部中央C2e8区。

重複関係 本跡は第2 B号溝より古く, 第4号溝より新しい。

規模と平面形 長さ48mで, 上幅60～200cm, 下幅30～80cm, 深さ20～40cmである。断面は皿状である。

方向 C3b8区から西方向に直線的に延び, C2a8区でほぼ直角に曲がり南に延びる。

覆土 5層からなる。自然堆積土層である。(第198図E, Fの土層1～5)

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック中量
2	暗褐色	ローム中・小ブロック多量
3	暗褐色	炭化物少量
4	褐色	ローム粒子少量
5	暗褐色	ローム大ブロック少量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡の時期及び性格については不明である。

第4号溝 (第197・198図)

位置 調査区南東部C3d7区～C3b6区。

重複関係 本跡は第3号溝より古い。

規模と平面形 長さ8.8mで、上幅58～84cm、下幅30～60cm、深さ約20cmである。断面は皿状である。

方向 C3d7区から北方向 (N-15°-E) に直線的に延びる。

覆土 暗褐色土1層だけでローム小ブロックを中量、ローム粒子を少量含む。(第198図E土層6)

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡の時期及び性格については不明である。

第5号溝 (第197・198図)

位置 調査区東部中央B3h6区～中央部C2b4区。

重複関係 本跡は第2B号溝より古く、第2A号溝より新しい。

規模と形状 長さ22.8mで、上幅25～80cm、下幅7～40cm、深さ28～50cmである。断面は逆台形である。

方向 B3h6区から西方向 (N-70°-E) に直線的に延びる。

覆土 4層からなる。人為堆積土層である。(第198図D, G土層18～21)

土層解説

18	暗褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
19	褐色	ローム粒子多量, 炭化物・ローム中・小ブロック微量
20	褐色	ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量
21	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 本跡からは、中世陶器片が5点、土師器片、須恵器片が出土している。

所見 本跡の時期は、重複関係や出土遺物から近世以降と思われる。

第8号溝 (第197・198図)

位置 調査区北部中央C3a8区。

重複関係 本跡は第2A号溝より新しい。

規模と平面形 長さ6.6mで、上幅50～80cm、下幅20cm、深さ25cmである。断面は皿状である。

方向 C3a8区から東方向 (N-79°-E) に直線的に延びる。

覆土 2層からなる。(第198図C土層13, J土層1)

土層解説

13	褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
1	褐色	ローム小ブロック中量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡の時期及び性格については不明である。

第9号溝 (第197・198図)

位置 調査区北部中央C3a8区～南西部C4c3区。

規模と平面形 長さ22.1mで、上幅80～180cm、下幅30～70cm、深さ35～56cmである。断面は浅いところは皿状、深いところは逆台形である。

方向 C3a8区から南東方向 (N-50°-W) に延び、C3c9区で屈曲し、東方向 (N-37°-W) に延び、水田とほぼ平行する。

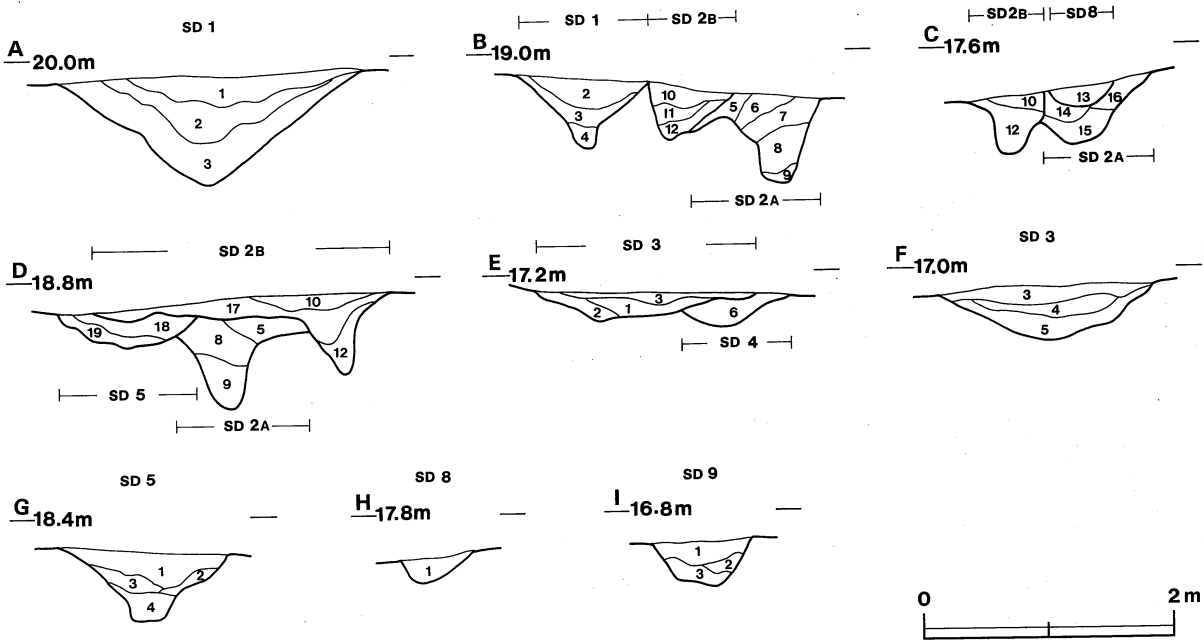
覆土 3層からなる。(第198図土層Hの1~3)

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック少量

遺物 磁器が出土している。

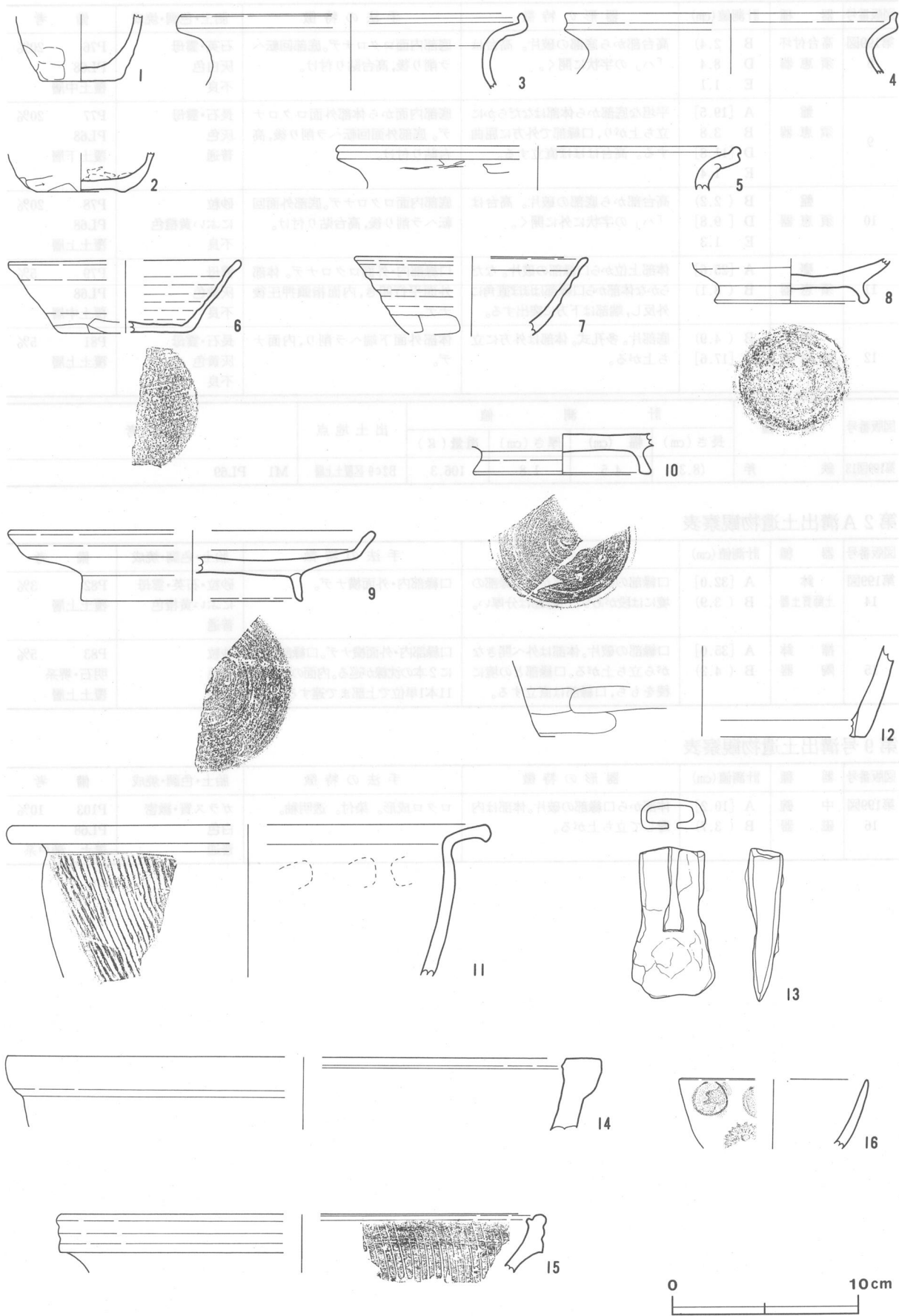
所見 本跡の時期は水田跡と同時期で, 近世と思われる。



第198図 溝土層実測図

第1号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第199図 1	手捏土器 土師器	B (3.6)	平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面ナデ。外面指頭押圧。	砂粒極少量 黄橙色 普通	P72 40%
		C 4.3				PL68 覆土
2	手捏土器 土師器	B (2.1)	平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部・体部内面指頭押圧。底部・体部外面指頭押圧後ヘラ削り。	砂粒極少量 黄橙色 普通	P73 30%
		C 4.8				覆土
3	甕 土師器	A [18.4]	口縁部の破片。口縁部は強く外反し口唇部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P68 3%
		B (3.9)				覆土
4	甕 土師器	A [17.8]	口縁部の破片。口縁部は強く外反し口唇部は上方につまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ。	長石 赤褐色 良好	P69 3%
		B (2.8)				覆土上層
5	甕 土師器	A [21.5]	口縁部の破片。口縁部は強く外反し口唇部は外上方につまみ上げられる。口唇部外面に沈線が巡る。	口縁部ヘラナデ後横ナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P70 3%
		B (2.3)				覆土上層
6	坏 須恵器	A [12.4]	平底。体部は外へ開きながら立ち上がり, 口縁部は外反する。	底部内面から体部外面ロクロナデ。体部外面下端手持ちヘラ削り。底部外面一方向のヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P74 25%
		B 3.9				覆土 中層
		C [7.0]				
7	坏 須恵器	A [12.4]	底部欠損。体部は外へ開いて立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。外面のロクロ目が強い。	長石 灰色 普通	P75 20%
		B (4.2)				PL68 覆土上層



第199図 第1・2・9号溝出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第199図 8	高台付坏 須恵器	B (2.4) D 8.4 E 1.1	高台部から底部の破片。高台は「ハ」の字状に開く。	底部内面クロロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	石英・雲母 灰白色 不良	P76 20% PL68 覆土中層
9	盤 須恵器	A [19.5] B 3.8 D [11.8] E 1.4	平坦な底部から体部はなだらかに立ち上がり、口縁部で外方に屈曲する。高台はほぼ直立する。	底部内面から体部外面クロロナデ。底部外面回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	長石・雲母 灰色 普通	P77 20% PL68 覆土下層
10	盤 須恵器	B (2.2) D [9.8] E 1.3	高台部から底部の破片。高台は「ハ」の字状に外に開く。	底部内面クロロナデ。底部外面回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	砂粒 にぶい黄橙色 不良	P78 20% PL68 覆土上層
11	甕 須恵器	A [25.6] B (8.1)	体部上位から口縁部の破片。なだらかな体部から口縁部はほぼ直角に外反し、端部は下方に突出する。	口縁部内・外面クロロナデ。体部外面平行叩き、内面指頭押圧後ナデ。	雲母 灰黄色 不良	P79 5% PL68 覆土中層
12	甌 須恵器	B (4.9) C [17.6]	底部片。多孔式。体部は外方に立ち上がる。	体部外面下端ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 灰黄色 不良	P81 5% 覆土上層

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第199図13	鉄 斧	(8.3)	4.5	1.8	106.3	B2c9 区覆土上層	M1 PL69

第2 A 溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第199図 14	鉢 土師質土器	A [32.0] B (3.9)	口縁部の破片。体部から口縁部の境には段があり、口縁部は分厚い。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P82 3% 覆土上層
15	播鉢 陶器	A [35.0] B (4.2)	口縁部の破片。体部は外へ開きながら立ち上がる。口縁部との境に稜をもち、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面に2本の沈線が巡る。内面の播目は11本1単位で上部まで達する。	砂粒 橙色 普通	P83 5% 明石・堺系 覆土上層

第9号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第199図 16	中碗 磁器	A [10.2] B (3.7)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。染付。透明釉。	ガラス質・緻密 白色 普通	P103 10% PL68 覆土 瀬戸系

4 水田跡 (第200図)

当遺跡から水田跡を台地の縁辺部で確認した。確認した水田跡は畦畔によって区画された水田と水路から構成されている。遺構は調査区域外の南側に向かって広がっているため、部分的な確認であった。

(1) 遺構状況

調査区南東端部のC4_{ds}区の土層3層上面で畦畔を2条確認した。確認した水田の広がり東西8.6m、南北1.28mで、面積は約11m²である。

(2) 耕作土

土層3が耕作土にあたり、黒褐色の泥炭質粘土層である。厚さは15～20cmで、層下部は鉄分を帯状に含み、橙色がかっている。

(3) 畦畔

確認した畦畔は2条で、耕作土を盛り上げて作られている。畦畔1は、N-70°-Eの方向でほぼ直線的に延びる。規模は上幅60～110cm、下幅100～146cm、高さ8～15cm、確認した長さは9mで、ほぼ等高線に沿って延びている。東端の土層図Dでは第9層が畦畔に相当すると思われ、水路も確認されているので、畦畔は、さらに5.6m西に延びると考えられる。畦畔2は、畦畔1と直交し、南西方向に延びると思われる。(土層図E)。耕作土上面からの比高差は10cmである。この畦畔は水路に沿いほぼ直線的に走行している。

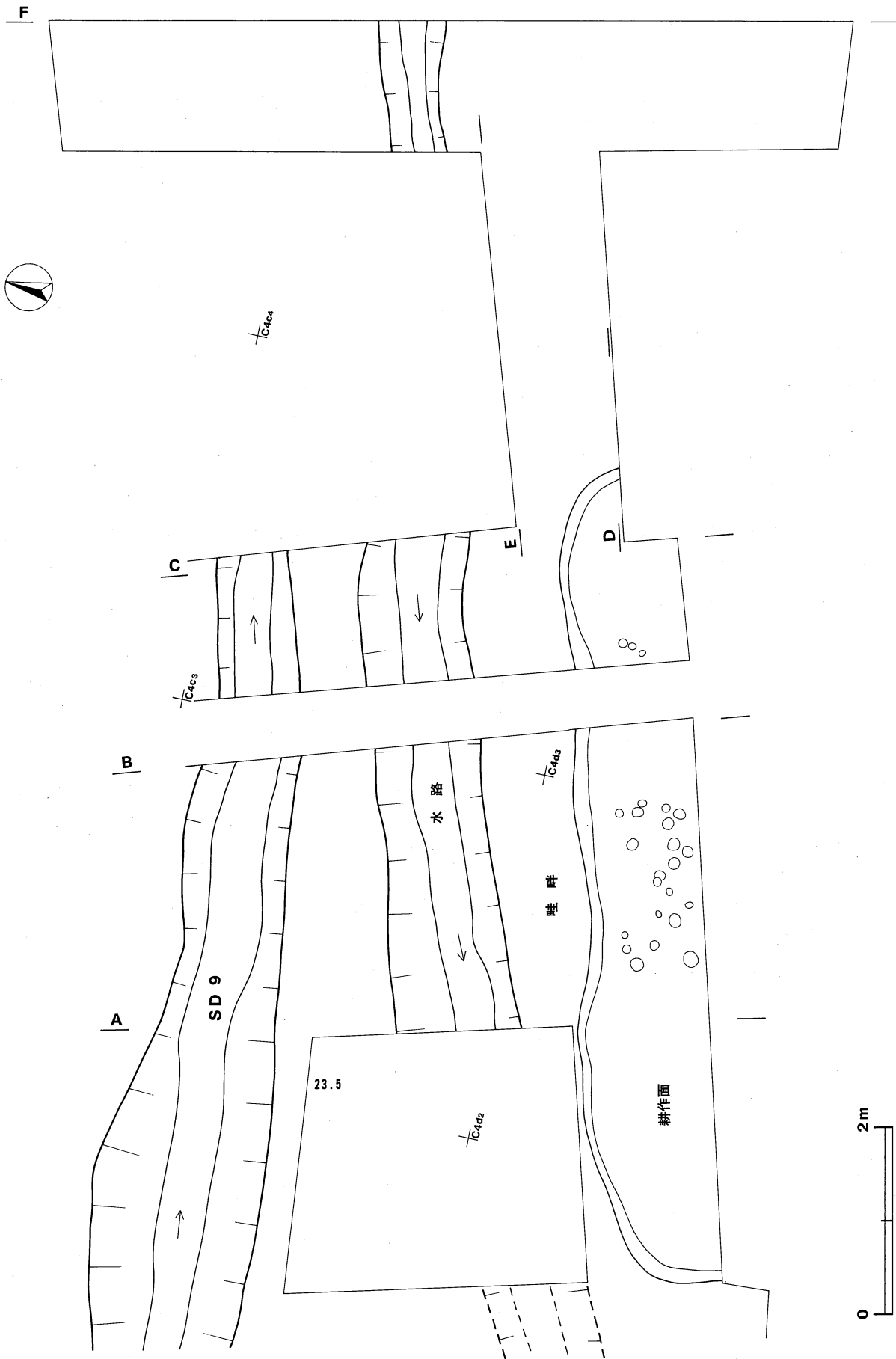
(4) 水路

畦畔1と平行して1本を確認した。規模は上幅100～130cm、下幅40～50cm、耕作面からの深さは最大で30cmである。

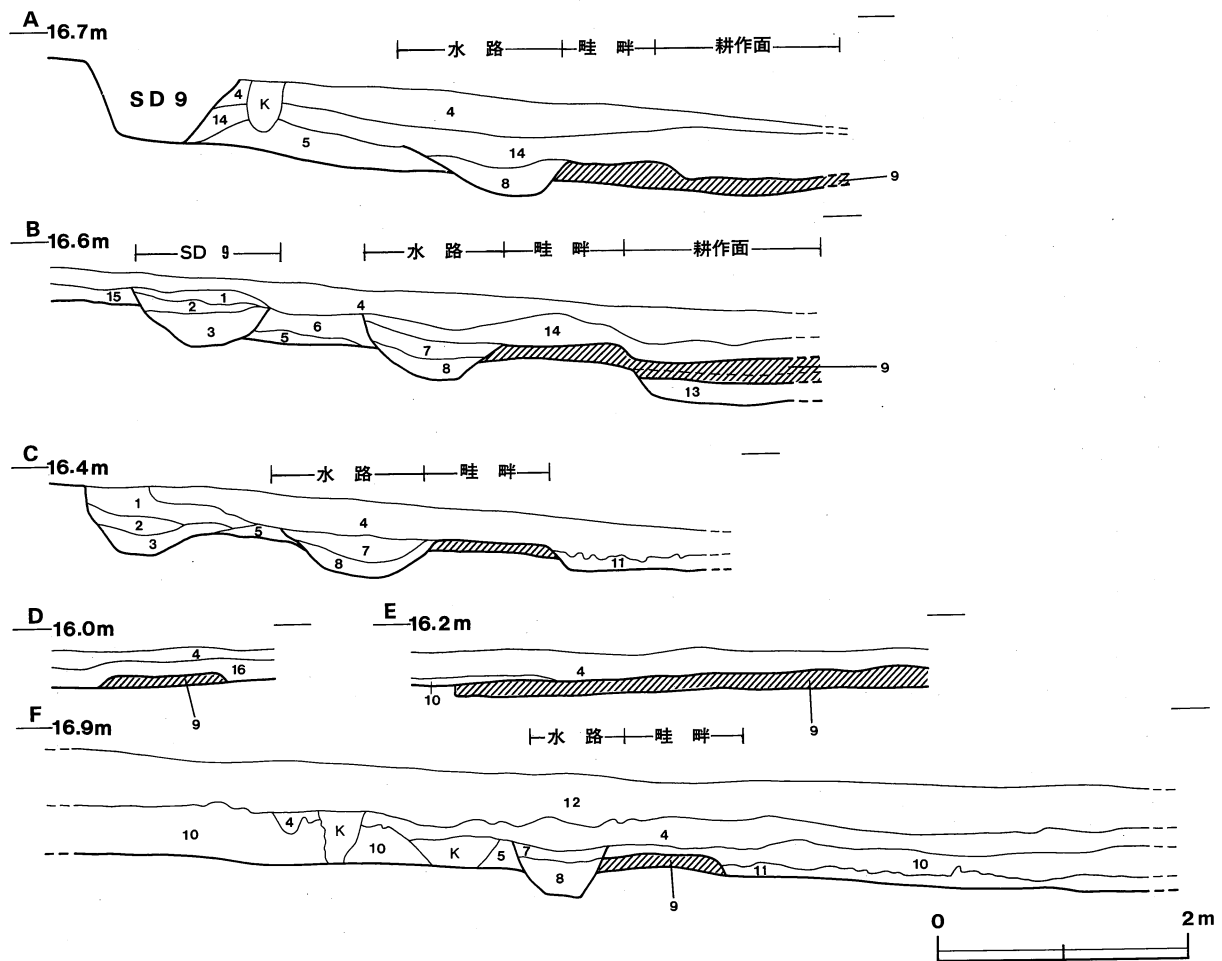
(5) 所見

畦畔によって区画された水田を確認したのは1区画のみであり、それも1部分にすぎず、平面形を復元することはできなかった。この水田の東西方向の1辺が8.6mであることは確認できたことから、1辺が8.6mの方形あるいは長方形か台形の水田を想定することができる。畦畔2が畦畔1と直交し南東に向かって走ることから、この東側も水田区画が広がっていたものと思われる。水田からは鉄分沈着が多い10cm程の円形の苗株痕と思われるものを変則的に多数確認した。

遺物は少なく、瀬戸系の陶器片が3点出土している。時期は近世と思われる。



第200図 水田跡実測図



第201図 水田跡土層実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|----------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 鉄分微量(畦畔), 鉄分多量, 鉄分沈着で橙色かかる, 締まりが強くカチカチ(耕作面) |
| 2 褐色 | ローム小ブロック微量 | 10 褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック少量 | 11 極暗褐色 | 鉄分多量 |
| 4 褐色 | 焼土粒子・炭化物少量 | 12 褐色 | 炭化物・ローム小ブロック微量 |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子微量 | 13 暗褐色 | 鉄分微量 |
| 6 褐色 | 炭化物少量 | 14 暗褐色 | 炭化物微量 |
| 7 褐色 | ローム小ブロック中量 | 15 にぶい褐色 | ローム中ブロック微量 |
| 8 暗褐色 | 鉄分少量 | 16 暗褐色 | 鉄分少量 |

5 遺構外出土遺物

当遺跡の古墳時代, 平安時代及び近世の遺構に混入して出土した縄文土器や石器, 試掘時のグリット調査, 遺構確認中に出土した遺物は, 拓影図, 実測図及び一覧表で掲載する。

(1) 縄文土器

当遺跡から出土した縄文時代の遺物は縄文時代前期が主体であるが, 縄文時代早・中期の土器片も少量出土している。土器については, 以下の基準を用いて分類する。

第1群 縄文時代早期の土器

第1類 沈線文を施す土器群

第2類 貝殻条痕文を施す土器群

第2群 縄文時代前期の土器

第1類 羽状縄文及び平行沈線を施す土器群

第2類 貝殻腹縁沈線文を施す土器群

第3類 縄文原体圧痕文が施されている土器群

第3群 縄文中期の土器

第1類 隆線と角押文が施される土器

第2類 沈線区画内の磨り消しが施される土器

第1群土器 (第202図1～12)

第1類 沈線文を施す土器群 (第202図1～4)

1～3は太沈線が, 4は比較的細めの沈線がそれぞれ横位に施されている。

第2類 貝殻条痕文を施す土器群 (第202図5～12)

5・6は尖底土器である。7～12は胴部片で, 7・9は外面横位, 8・11は内・外面斜位, 10は外面横位・内面斜位, 12は内・外面横位の条痕文がそれぞれ施されている。

第2群土器 (第202・203図13～72)

第1類 羽状縄文及び平行沈線を施す土器群 (第202・203図13～61)

13～20の口縁部片と26・27の胴部片は沈線区画とキザミ目により文様が構成され, ボタン状の突起が貼り付けられている。13は縄文が地文となっている。14～18は口縁直下にキザミ目がある。21～25は口縁部直下から単節縄文が施されている。21は羽状縄文とループ文, 24は口縁部にキザミ目が施されている。25は補修孔が穿れている。28～34はコンパス文が施されている。35～47は単節縄文で, 羽状構成をとる。48～56はループ文が施され, 56はループ文の下に平行沈線とキザミ目を施している。57の口縁部片と58・59のは胴部片には, 附加条の縄文が施されている。60の胴部片, 61の底部片には単節縄文が施されている。

第2類 貝殻沈線文系土器 (第203図62～71)

62は平行沈線と連続刺突文, 63は口唇部にキザミ目, 貝殻波状文が施されている。64は撚糸文が地文である。65・66・71は貝殻腹縁圧痕, 67は多方向の沈線, 68・69・71は細沈線が施されている。

第3類 縄文原体圧痕文が施されている土器 (第203図72)

72は口唇部に沿って縄文原体圧痕文, 口縁部・胴部には単節縄文が施されている。

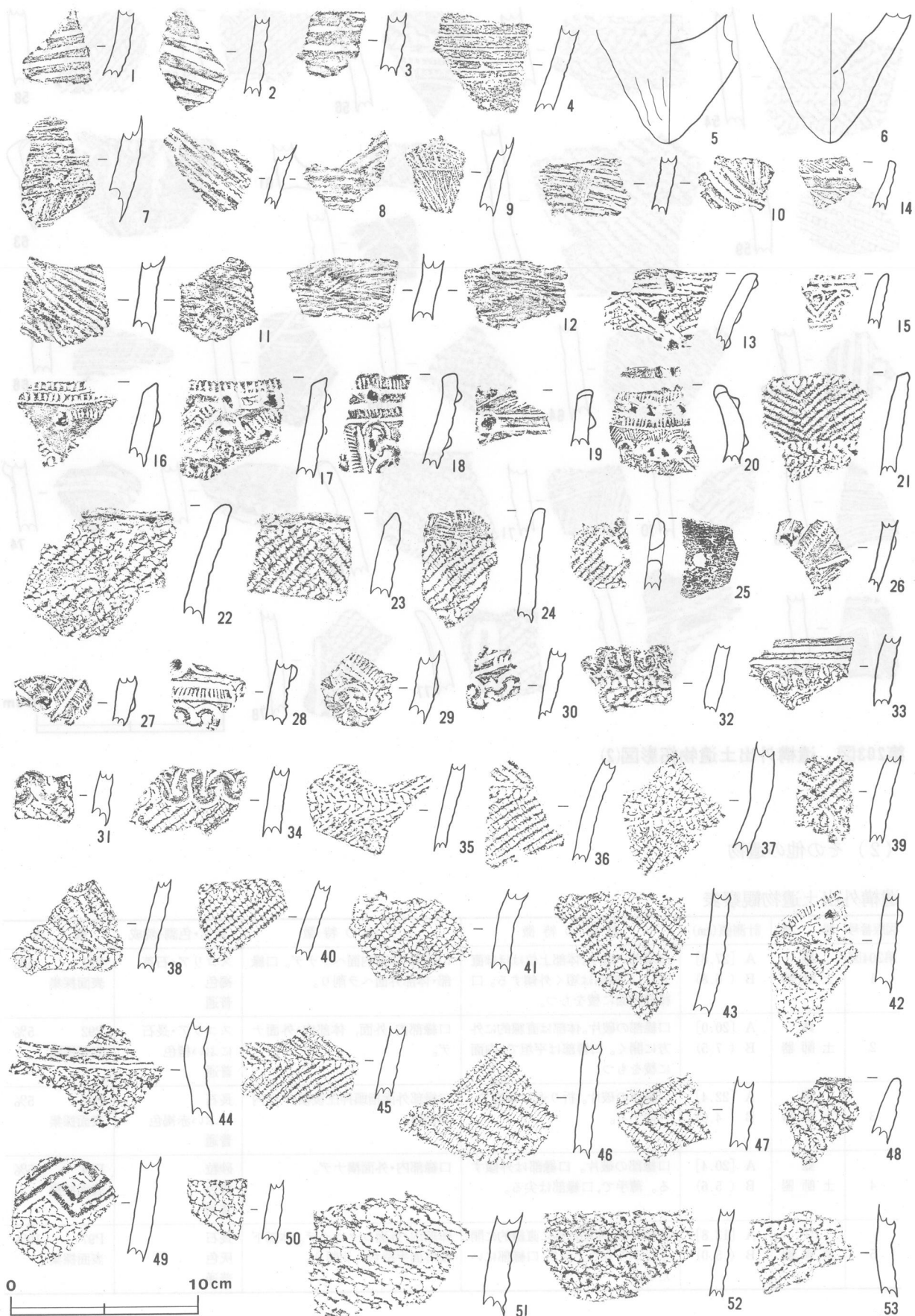
第3群土器 (第203図73～78)

第1類 隆線と角押文が施されている土器 (第203図73～76)

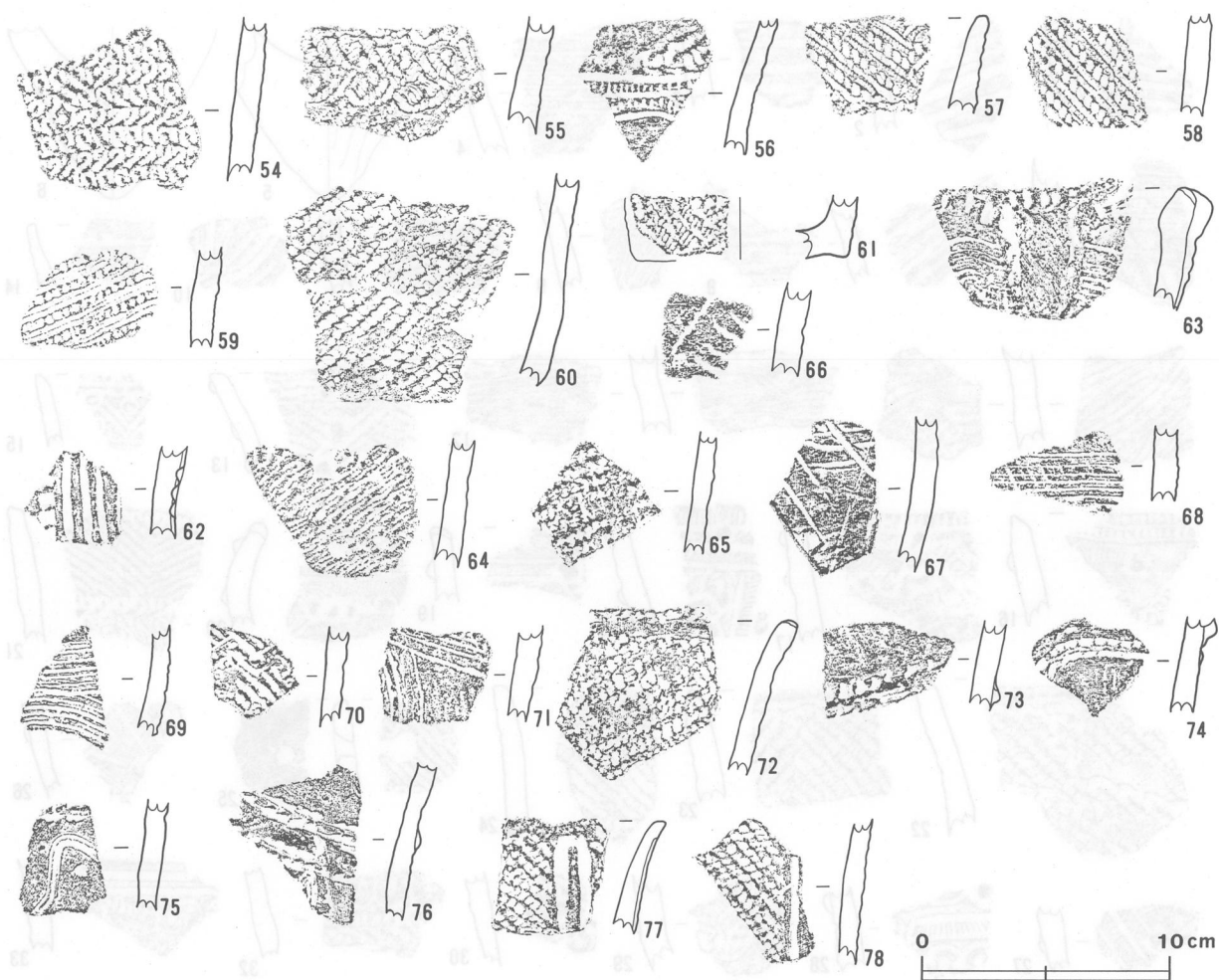
73・74・76は微隆起線と半截竹管による角押文で, 75は沈線文と角押文で文様が構成されている。

第2類 沈線区画内の磨り消しが施されている土器 (77・78)

77・78は単節縄文を地文とし, 沈線によってモチーフを区画し, 区画内を磨り消している。



第202图 遺構外出土遺物拓影图(1)

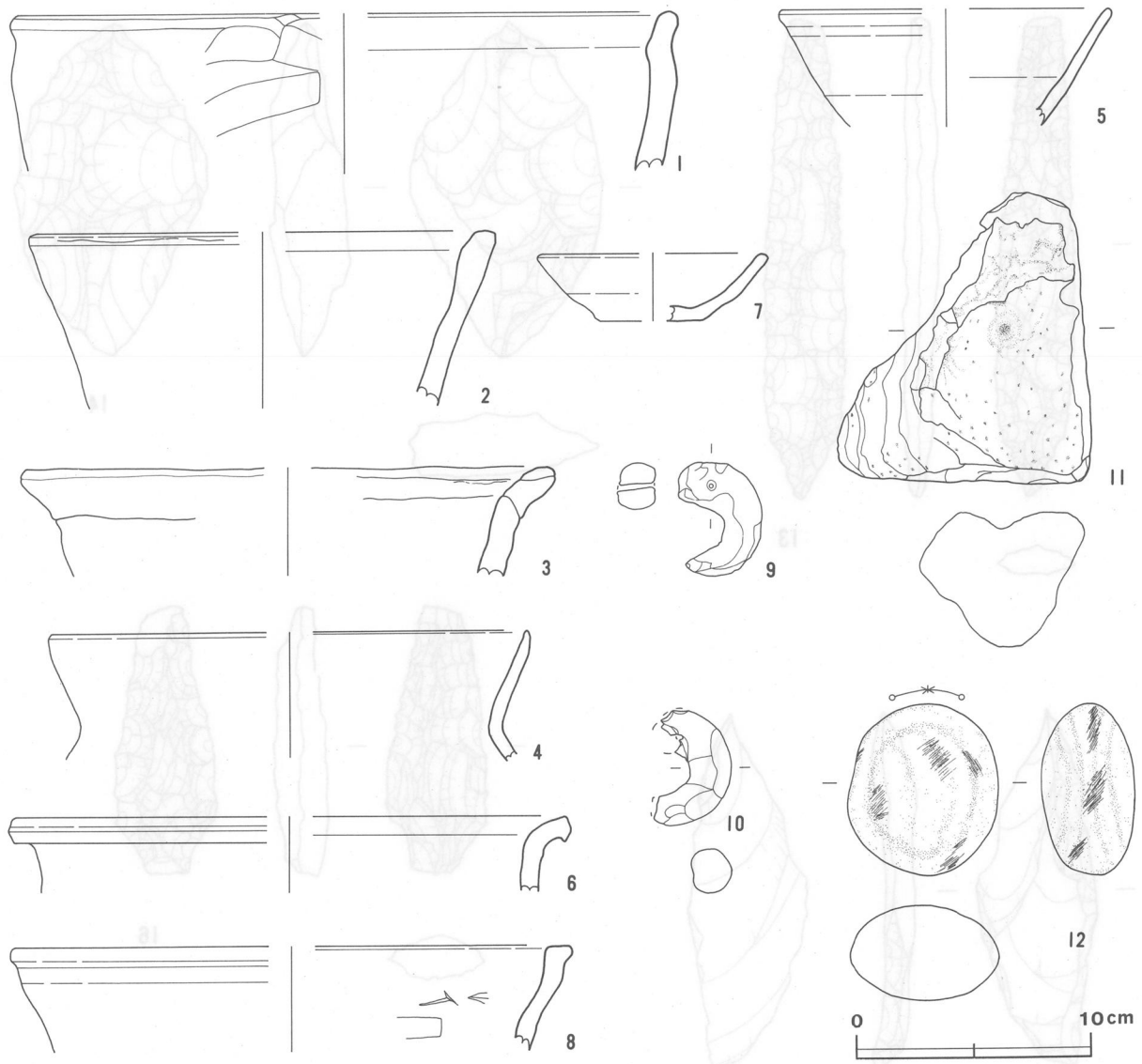


第203図 遺構外出土遺物拓影図(2)

(2) その他の遺物

遺構外出土遺物観察表

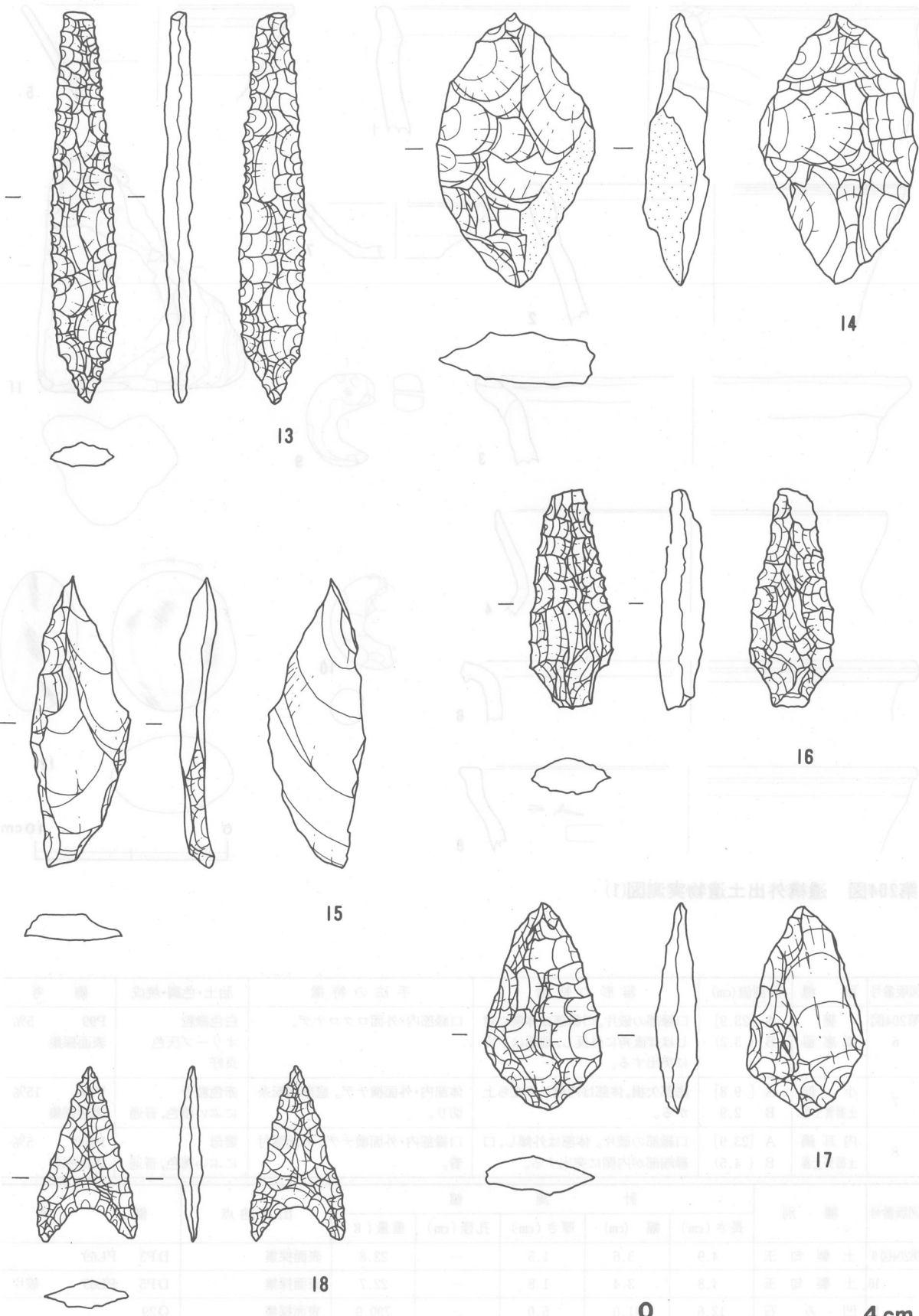
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第204図 1	甕 土師器	A [27.8] B (6.8)	口縁部の破片。体部上位はほぼ直立し、口縁部は短く外傾する。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部・体部内面ヘラナデ。口縁部・体部外面ヘラ削り。	スコリア・石英 褐色 普通	P91 5% 表面採集
2	鉢 土師器	A [20.0] B (7.5)	口縁部の破片。体部は直線的に外方に開く。口唇部は平坦で、内面に稜をもつ。	口縁部内・外面、体部内・外面ナデ。	スコリア・長石 にぶい橙色 普通	P92 5% 表面採集
3	甕 土師器	A [22.4] B (4.6)	口縁部の破片。折り返し口縁で、外傾する。	口縁部外面指頭押圧後横ナデ。内面剝離。	長石 にぶい赤褐色 普通	P93 5% 表面採集
4	壺 土師器	A [20.4] B (5.6)	口縁部の破片。口縁部は外傾する。薄手で、口縁部は尖る。	口縁部内・外面横ナデ。	砂粒 橙色 普通	P94 5% 表面採集
5	坏 須恵器	A [13.8] B (5.0)	底部欠損。体部は外に直線的に開きながら立ち上がり、口縁部にいたる。	体部内・外面クロナデ。体部下端外面手持ちヘラ削り。	長石 灰色 普通	P97 10% 表面採集



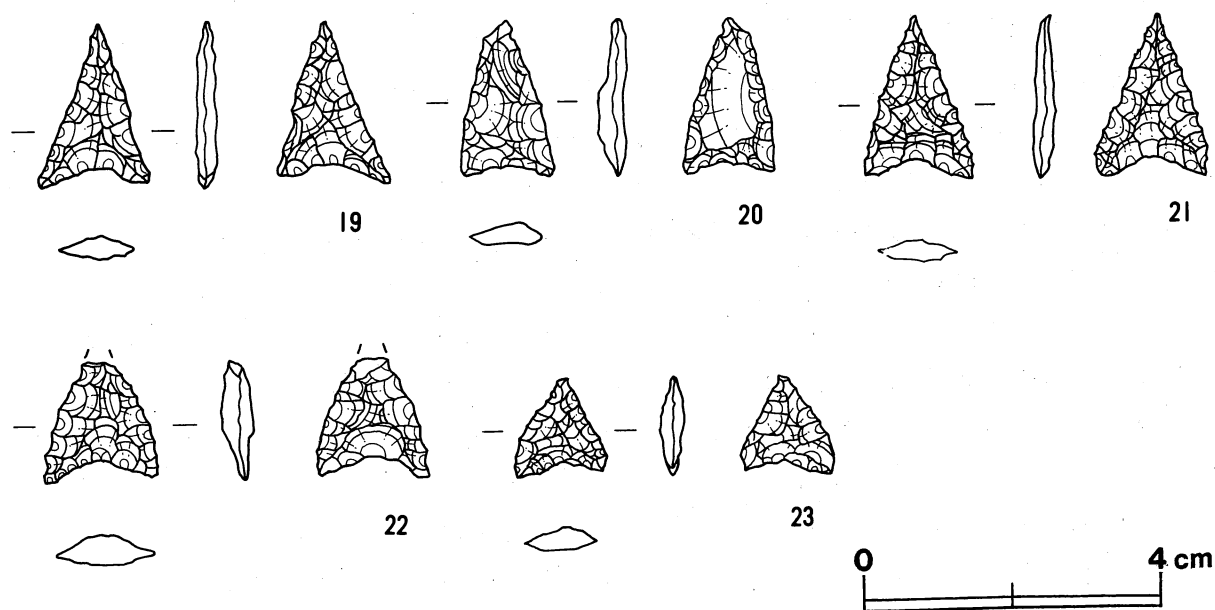
第204図 遺構外出土遺物実測図(1)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第204図 6	甕 須恵器	A [23.9] B (3.2)	口縁部の破片。口縁部は体部に対しほぼ直角に外反し、端部は下方に突出する。	口縁部内・外面ロクロナデ。	白色微粒 オリーブ灰色 良好	P99 5% 表面採集
7	小皿 土師質土器	A [9.8] B 2.9	底部欠損。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	赤色粒子 にぶい橙色, 普通	P101 15% 表面採集
8	内耳鍋 土師質土器	A [23.9] B (4.5)	口縁部の破片。体部は外傾し、口縁端部が内側に突出する。	口縁部内・外面横ナデ。外面煤付着。	雲母 にぶい褐色, 普通	P102 5% 表面採集

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第204図9	土製 勾玉	4.9	3.6	1.5	—	23.8	表面採集	DP3 PL69
10	土製 勾玉	4.8	3.4	1.8	—	22.7	表面採集	DP5 PL69 破片
11	凹み石	12.6	11.0	6.0	—	790.9	表面採集	Q29
12	磨石	7.3	6.5	4.1	—	272.9	表面採集	Q5
第205図13	有舌尖頭器	6.8	1.2	0.4	—	4.1	表面採集	Q11 PL69 安山岩



第205図 遺構外出土遺物実測図(2)



第206図 遺構外出土遺物実測図(3)

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第205図14	尖頭器	4.8	2.7	1.0	—	13.1	表面採集	Q15 安山岩
15	ナイフ形石器	5.1	1.8	0.6	—	4.8	表面採集	Q17 PL69 頁岩
16	有舌尖頭器	3.8	1.4	0.6	—	4.1	表面採集	Q13 PL69 安山岩
17	尖頭器	3.7	2.1	0.6	—	4.7	表面採集	Q14 PL69 安山岩
18	石鏃	3.1	1.8	0.6	—	1.2	第3号住居跡覆土	Q1 PL69 頁岩
第206図19	石鏃	2.3	1.5	0.3	—	0.6	第3号溝覆土	Q10 PL69 黒曜石
20	石鏃	2.1	1.3	0.4	—	0.7	第1号溝覆土	Q7 PL69 黒曜石
21	石鏃	2.2	1.5	0.3	—	0.6	表面採集	Q23 PL69 頁岩
22	石鏃	1.6	1.6	0.4	—	0.9	第6号土坑覆土	Q4 PL69 チャート
23	石鏃	1.3	1.3	0.4	—	0.4	表面採集	Q8 PL69 チャート

第4節 まとめ

今回の調査で確認した遺構は、竪穴住居跡6軒、土坑31基、粘土採掘土坑24基、溝12条、近世の水田跡1か所である。竪穴住居跡6軒のうち1軒が古墳時代前期の住居跡である。この後住居は一時途絶えるが、平安時代に入り台地の斜面部に集落が営まれる。特に、5号住居跡は廃絶後に粘土採掘のための土坑が床面のいたるところに掘られている。これは竈構築のための袖芯材に用いるためのものと思われる。当遺跡のほかの4軒の住居跡は5号住居跡と同時期であることから、この後にはおそらく北部台地平坦面に集落が継続し、ここで竈構築のために粘土が使用されたものと考えられる。以下、平安時代の遺物についてふれてまとめとする。

平安時代の住居跡は5軒（第1, 3, 4, 5, 6号住居跡）で、器種構成は土師器の甕、須恵器の坏、高台付坏、盤、蓋、甕、甑、鉢、長頸瓶及び灰釉陶器の長頸瓶である。供膳土器は須恵器の坏、高台付坏及び盤に限られており、土師器は出土していない。

土師器甕は体部はなだらかに立ち上がり、口縁部は「く」の字状に折れ、口唇部は外上方につまみ上げられている。体部外面はヘラ削り調整がされている。須恵器甕は体部中位で丸みをもち、体部外面は平行叩き、体部下端はヘラ削り調整がされている。須恵器鉢は外に直線的に開いた体部で、口縁部は体部に対しほぼ直角に外反し、端部を上方につまみ上げるものと下方につまみだすものがある。器高の高いものと浅いものの2タイプがあり、体部外面は平行叩き、下端部はヘラ削り調整である。須恵器甑は多孔式で、体部から口縁部は鉢とほぼ同様な形態である。体部外面は平行叩きのものと格子叩きのものがある。盤・高台付坏は大・小の2種類があり、高台はいずれも「ハ」の字状に開く。蓋は天井部が平坦でほぼ直線的に口縁部に至り、端部は短く屈曲する。坏は計測値からⅢ類に分類できる。Ⅰ類は口径12cm前後、高さ3.7cm、底径8.5cm前後である。底径指数68前後、器高指数31前後で、口径に対し底径の比率が大きく器高が低いものである。体部は直線的に開き、底部調整は回転ヘラ削りと一方向のヘラ削りの二種類に分けられる。Ⅱ類は口径13～13.8cm、器高3.3～4.0cm、底径7.2～8.2cm、口径指数55～60、器高指数24～29で、Ⅰ類よりも口径に対し底径の比率は小さくなり、器高もさらに低くなる。体部はわずかに外反しながら立ち上がり、体部下端を手持ちヘラ削り、底部外面一方向のヘラ削りを施し、底部に回転ヘラ切り痕を残すものもある。Ⅲ類は口径12.6～14.2cm、器高4.1～5.2cm、底径7.0～8.6cm、口径指数54～58.6、器高指数31.5～36.6で、口径に対し底径の比率が小さく、器高が高いものである。体部下端には手持ちヘラ削り、底部は一方向のヘラ削り調整がされている。特異なものとしてコップ型坏、井ヶ谷78号窯跡の灰釉陶器長頸瓶がみられる。

当遺跡の平安時代の住居跡の時期は、須恵器の出土量が土師器の出土量を凌駕していること、供膳土器は須恵器に限られること、計測値の単一化が認められること等から9世紀第1四半期頃に位置付けられる。なお、須恵器は、胎土に雲母を含むことや格子目叩きが見られることから大部分が新治窯跡群から生産されたものと思われる。

付 章

馬場遺跡・行人田遺跡出土の炭化材・炭化種子同定報告について

牛久北部地区から出土した炭化材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

1. はじめに

牛久北部地区では、東山遺跡の古墳時代の焼失住居から出土した、構築材と考えられる炭化材の樹種同定が行われ、コナラ属コナラ亜属クヌギ節が確認されている。同様の結果は、周辺の高崎貝塚ヤツノ上遺跡等でも確認されており、古墳時代にクヌギ節が広く利用されていたことが指摘されている。しかし、牛久北部地区周辺において、これまでに同定された資料数では住居構築材の木材利用を把握するには十分とはいえず、同時期の住居跡の構築材の比較や時代が異なる住居跡の構築材樹種構成の比較検討等は課題として残されている。

本報告では、牛久北部地区の東山遺跡・馬場遺跡・行人田遺跡の各遺跡から出土した古墳時代と平安時代の住居構築材の樹種を明らかにし、その用材選択に関する検討を行う。また、東山遺跡および馬場遺跡から出土した種実の種類を明らかにし、植物食などに関する資料を得る。

1. 炭化材の樹種

(1) 試料

試料は、東山遺跡の65号住居跡（古墳時代中期）、馬場遺跡の13号住居跡（古墳時代後期）・16号・26号・43号住居跡（古墳時代中期）・59号住居跡（平安時代）、行人田遺跡の1号住居跡および4号住居跡（平安時代）から出土した炭化材15点（試料番号1～15）である。各試料の詳細については、樹種同定結果とともに表1に記した。

(2) 方法

木口（横断面）・柱目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

(3) 結果

炭化材は、コナラ属コナラ亜属クヌギ節またはコナラ属コナラ亜属コナラ節のいずれかに同定された（表1）。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

- コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris* sp.) ブナ科
環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。
- コナラ属コナラ亜属コナラ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus* sp.) ブナ科
環孔材で孔圏部は1～2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

(4) 考察

古墳時代の住居構築材は、東山遺跡・馬場遺跡ともにクヌギ節であった。この結果は、東山遺跡の12号住居跡および47号住居跡（古墳時代後期初頭）で前に行った樹種同定結果と調和的である。同様の結果は、岩井市

表1 牛久北部地区から出土した炭化材の樹種

番号	遺跡名	遺構・試料名	時代・時期	用途	樹種
1	東山遺跡	65号住居跡No.12	古墳時代中期	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
2	東山遺跡	65号住居跡No.13	古墳時代中期	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
3	馬場遺跡	13号住居跡No.1 (北西隅出土)	古墳時代後期	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
4	馬場遺跡	13号住居跡No.2	古墳時代後期	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
5	馬場遺跡	16号住居跡No.115 (南隅出土)	古墳時代中期	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
6	馬場遺跡	26号住居跡貯蔵穴No.1	古墳時代中期		コナラ属コナラ亜属クヌギ節
7	馬場遺跡	43号住居跡 (南西隅出土)	古墳時代中期	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
8	馬場遺跡	59号住居跡No.2 (東南隅出土)	平安時代	住居構築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
9	馬場遺跡	59号住居跡No.3	平安時代	住居構築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
10	馬場遺跡	59号住居跡No.4	平安時代	住居構築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
11	馬場遺跡	59号住居跡No.5	平安時代	住居構築材	コナラ属コナラ亜属コナラ節
12	行人田遺跡	1号住居跡No.1 (東壁寄り出土)	平安時代	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
13	行人田遺跡	2号住居跡No.2 (北西隅出土)	平安時代	住居構築材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
14	行人田遺跡	4号住居跡 (カマド前面)	平安時代		コナラ属コナラ亜属クヌギ節
15	行人田遺跡	4号住居跡 (カマド袖上部)	平安時代		コナラ属コナラ亜属クヌギ節

高崎貝塚および北前遺跡においても確認することができる。また、近接する中久喜遺跡やヤツノ上遺跡では、クヌギ節の他にコナラ節も確認されている。これらの結果から、本地域周辺では、古墳時代にクヌギ節が構築材に多用され、時にはコナラ節も使用されていたことが推定される。この傾向は、関東地方中央部の台地上に位置する遺跡では、古墳時代にクヌギ節・コナラ節が多いという指摘（高橋・植木，1994）とも調和的である。

平安時代の住居跡では、馬場遺跡の59号住居跡から出土した炭化材が全点コナラ節であるのに対し、行人田遺跡の1号住居跡および4号住居跡から出土した炭化材は全点クヌギ節であった。これらの結果から、平安時代も基本的には古墳時代と同様の用材選択が行われていたと推定される。遺跡間で樹種が異なる背景には、台地の東側と西側やそれぞれの木材採集地で植生が異なっていた可能性があるが、周辺地域での古植生に関する調査が不十分なために現時点では不明である。

今後は、1軒の住居跡や時代時期の異なる住居跡から出土した炭化材について可能な限り同定し、資料が蓄積された上で用材選択についてさらに詳しく検討していくことができると考えられる。

2. 種実の種類

(1)試料

東山遺跡・馬場遺跡とも、古墳時代中期の住居跡内から検出された炭化種実遺体である。東山遺跡は試料番号1, 2, 馬場遺跡は試料番号3, 4, 5ならびにSI-46である。

(2)方法

双眼実体顕微鏡下で、その形態的特徴から種類を同定する。

(3)結果

試料番号1, 4はモモ、試料番号2, 3はコナラ属、試料番号5はイネに同定された。以下に形態的特徴について記す。

●コナラ属コナラ亜属 (*Quercus* sp.) ブナ科

子葉の破片が検出された。半球状で大きさは1~1.5 cm程度。表面に浅いしわが見られる。

●モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核が検出された。褐色、核の形は楕円形でやや扁平である。大きさは1.5 cm程度。基部には丸く大きな臍点

がありへこむ。先端部はやや尖る。片方の側面に縫合線が発達する。表面は、不規則な線状のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

●イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

炭化した胚乳が検出された。大きさは4 mm程度。胚が位置する部分は欠如し大きく窪んでいる。表面には縦に平行な隆起構造が数本認められる。

(4)考察

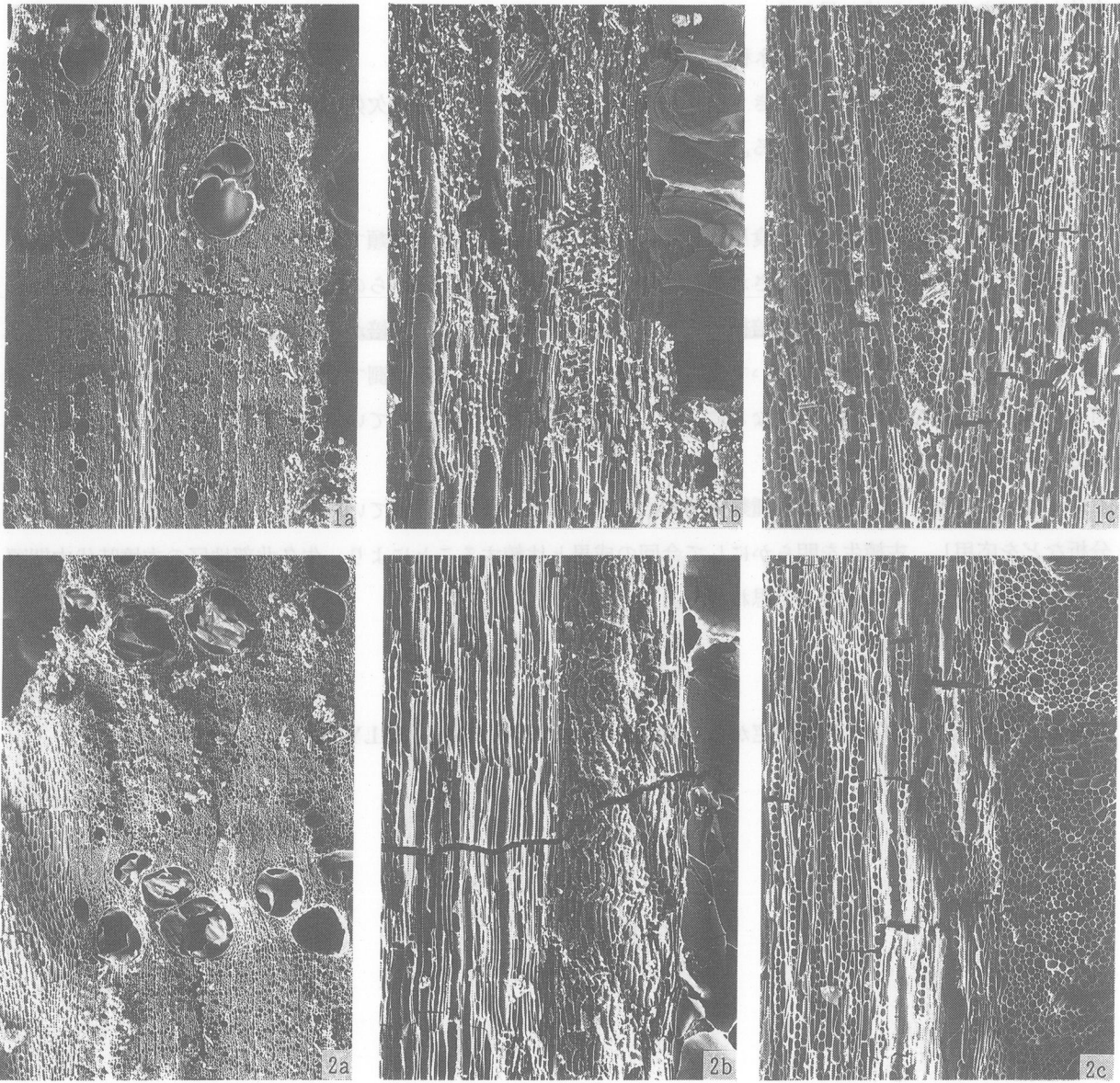
今回検出された種類はいずれも食用として古くから利用されてきた種類である。このうち、モモとイネは食用のために渡来した種類であるとされる。これらは、古墳時代の遺跡からの出土例も多く、広く利用されていたと考えられる。モモやイネは栽培植物であることから当時周辺での栽培が示唆される。とくにイネが検出されたことは、周辺地域の低地において当時稲作が行われていたことが予測できる。コナラ属については、土浦市上高津貝塚近隣の花粉分析結果などにより、周囲の山野に多く生育していたと考えられることから、当時容易に入手可能であったと思われる。

いずれにしても、今回得られた種類は周辺に生育、あるいは栽培されていたものと考えられる。今後、花粉分析などを応用し、古植生を明らかにして今回の成果と比較することにより、牛久北部地区の古墳時代中期頃の植生の景観がうかがえるものと思われる。

<引用文献>

高橋敦・植木真吾 (1994) 樹種同定からみた住居構築材の用材選択. *PALYNO*, 2, p.5-18.

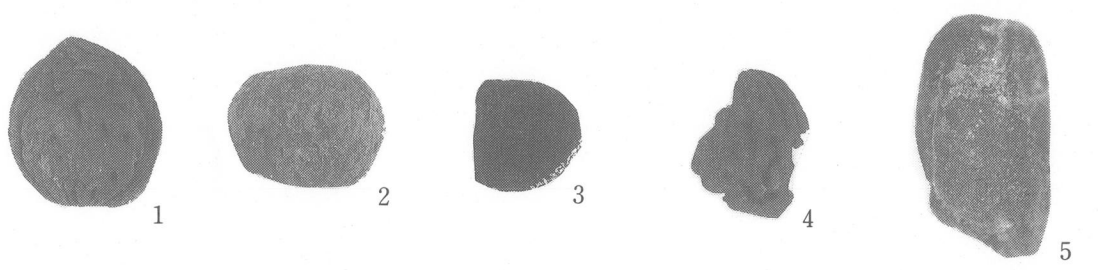
図版1 牛久北部地区・炭化材



1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (行人田遺跡：試料番号15)
 2. コナラ属コナラ亜属 (馬場遺跡：試料番号3)
 a : 木口, b : 柁目, c : 板目

200 μ m : a
 200 μ m : b, c

図版2 牛久北部地区・種実



1. モモ (東山遺跡, 試料番号1)
 2. コナラ属 (東山遺跡, 試料番号2)
 3. コナラ属 (馬場遺跡, 試料番号3)
 4. モモ (馬場遺跡, 試料番号2)
 5. イネ (馬場遺跡, SI-46)

1cm (1-4)
 2mm (5)